

GL

取扱説明書

Mercedes-Benz

マーク

この取扱説明書では、以下のマークを使用しています。

⚠ 警告

警告項目は、お客様ご自身やお車に同乗の方々の健康や生命をおびやかすような危険への注意を喚起するものです。

環境に関する注意

環境に関する注意は、環境を意識した行動や廃棄についての情報を提供しています。

! 車両の損傷につながる危険を喚起する、機材の損傷に関する注意です。

i このマークは、お客様の助けになるような、便利な操作方法や詳細情報を示しています。

▶ このマークは、お客様に従っていただきたい操作を示しています。

▶ 連続しているマークは、いくつかのステップがある操作を示しています。

(▷ ページ) このマークは、項目についての詳細情報がある場所を示しています。

▷▷ このマークは次のページに続く警告または操作を示しています。

画面設定 この表記は、マルチファンクションディスプレイ/COMANDディスプレイのメッセージを示しています。

車両のソフトウェア部品は © 2005 The FreeType Project http://www.freetype.org の著作権により保護されています。 All rights reserved.

メルセデス・ベンツ車をお買い上げいただきありがとうございます。

運転される前に、この取扱説明書をお読みいただき、特に安全面と警告事項についてのご理解を深めてください。お客様ご自身と同乗の方々を危険から守り、お車を最大限に楽しんでいただくことができます。

お客様の車両の装備や名称は、オプションや仕様により異なる場合があります。

この取扱説明書のイラストは、主に左ハンドル車のものを使用しています。右ハンドル車では、車両の部品の配置や位置、そして操作方法が異なる場合がありますので、ご注意ください。

取扱説明書では、100 km/h以上の速度での性能に関するデータや車両の状態が記載されています。ただし、公道を走行するときは、常にその場所で適用される法定速度または制限速度を遵守してください。

メルセデス・ベンツ社は、車両を最先端にするために、絶えず改良を行なっています。

そのため、デザイン、装備などが予告なく変更されることがあり、この取扱説明書に含まれる記述やイラストと異なる場合があります。

以下のものは、車両の一部ですので、常に車両に搭載してください。

- 取扱説明書
- 整備手帳
- 補足版

車両を売却される場合は、必ず次の所有者にすべての書類をご譲渡ください。

Daimler AG の技術文献チームは、お客様が安全で快適な運転をされることを切に望んでおります。

メルセデス・ベンツ日本株式会社

HLI0000000716

さくいん 4
概要 21
各部の名称 25
安全装備 37
開閉 77
シート、ステアリング、ミラー .. 103
ライト、フロントワイパー 121
エアコンディショナー 139
走行装備 155
ディスプレイ 251
装備および機能 329
メンテナンスおよび手入れ 347
万一のとき 365
ホイールおよびタイヤ 387
サービスデータ 407

あ

アクティブカーブシステム
機能/注意.....212
ディスプレイメッセージ.....299
アクティブドライビングアシスタンスパッケージ.....232
アクティブブラインドスポットアシスト
機能/注意.....233
設定/解除(マルチファンクションディスプレイ).....264
ディスプレイメッセージ.....304
トレーラーのけん引.....236
アクティブライトシステム.....127
アクティブレーンキーピングアシスト
機能/注意.....237
ディスプレイメッセージ.....303
トレーラーのけん引.....239
アシストプラス
注意.....354
特別な点検が必要なとき.....355
メンテナンスインジケーターのリセット.....355
メンテナンスメッセージ.....354
メンテナンスメッセージの非表示.....355
メンテナンスメッセージの表示 355
アシストメニュー(マルチファンクションディスプレイ).....263
アダプティブハイビームアシスト
機能/注意.....128
作動/解除(マルチファンクションディスプレイ).....267
ディスプレイメッセージ.....295
アダプティブブレーキ.....71
アダプティブブレーキアシスト
機能/注意.....66
ディスプレイメッセージ.....287
アダプティブブレーキライト.....67
アテンションアシスト
機能/注意.....224
設定/解除.....264
ディスプレイメッセージ.....298
アプローチ/デパーチャアングル....188
荒地の走行
参照 オフロード走行
安全
子供を乗せるとき.....50
安全装備
チャイルドセーフティシート.....50
アンビエントライト
カラーの設定(マルチファンクションディスプレイ).....268
照度を設定する(マルチファンクションディスプレイ).....268
イージーエグジット機能
機能/注意事項.....115
クラッシュセンサー連動.....116
イージーエントリー機能
機能/注意事項.....115
作動/解除.....270
イグニッションロック
参照 キーの位置
イモビライザー.....73
インテリジェントライトシステム
オン/オフ.....267
概要.....127
ディスプレイメッセージ.....294
ロービームヘッドライトの左側/右側通行の設定.....267
ウィンタータイヤ
ウィンタータイヤ.....390
速度制限(マルチファンクションディスプレイ).....269
ウインドウ
清掃.....358
デフロスター.....149
参照 サイドウインドウ
ウインドウウォッシャー
注意.....415
補給.....352
ウインドウウォッシャー液
参照 ウインドウウォッシャー
ウインドウバッグ
機能.....44
ディスプレイメッセージ.....290
ウォッシャー液
ディスプレイメッセージ.....310
ウッドトリム(清掃の説明).....362
運転席
概要.....26
運転席ドア
参照 ドア

運転のヒント
一般.....180
オートマチックトランスミッション.....170
下り坂の傾斜.....181
障害物の上の走行.....188
砂地の走行.....187
スノーチェーン.....391
タイヤの轍.....187
ディストロニックプラス.....205
冬季の走行.....184
凍結した路面.....184
凍結防止剤等が撒かれた路面でのブレーキ性能の制限.....182
慣らし運転について注意事項....156
濡れた路面の走行.....182
燃料.....181
ハイドロプレーニング現象.....182
ブレーキ.....181
エアコンディショナー
ウインドウの曇りを取る.....150
エアコンディショナーの使用についての注意.....142
エアコンディショナーのモード設定(送風).....147
オートエアコンディショナー(2ゾーン).....141
オートエアコンディショナー(3ゾーン)の使用に関する注意事項.....145
オートエアコンディショナー(3ゾーン).....143
オン/オフ.....145
温度の設定.....147
システムの概要.....140
重要な安全上の注意.....140
送風口の選択.....148
送風口の調整.....152
送風量の調整.....149
追加後席エアコンディショナー(3ゾーン)付きオートエアコンディショナー(3ゾーン).....144
独立温度設定機能の設定/解除..149
内気循環モードの作動/解除.....151
表示灯.....146
フロントウインドウの霜を取る 149
余熱ヒーターベンチレーションのオン/オフ.....151
リア操作パネル.....143
リア操作パネル (追加後席エアコンディショナー付きオートエアコンディショナー(3ゾーン)144
リアデフォッガーの作動/解除..150
リアデフォッガーの不具合.....151
ACモード.....146
ACモードの不具合.....146
AUTOモード.....146
エアコンディショナーシステム
参照 エアコンディショナー
エアバッグ
ウインドウバッグ.....44
格納場所.....42
サイドバッグ.....43
作動.....39
重要な安全上の注意点.....40
ニーバッグ.....43
フロントエアバッグ(運転席、助手席).....42
エマージェンシーキー
運転席ドアの解錠.....87
機能/注意.....80
車両の施錠.....88
エンジン
エンジン番号.....410
オーバーヒート.....352
キーレスゴースイッチ操作によるエンジン始動.....159
警告灯(エンジン診断).....324
けん引始動(車両).....383
作動不良.....165
始動時のトラブル.....165
ジャンプスタート.....377
停止.....178
ディスプレイメッセージ.....295
ECOスタートストップ機能.....161
エンジンオイル
エンジンオイル量の点検.....349
オイルグレードについての注意414
温度(マルチファンクションディスプレイ).....272
充填容量.....414
定期交換.....351
ディスプレイメッセージ.....297
添加剤.....414
粘度.....414
補給.....350

油量および消費についての注意 349
レベルゲージを使用してオイル量を点検する.....349
エンジン自動始動(ECOスタートストップ機能).....163
エンジン自動停止(ECOスタートストップ機能).....163
エンジンの始動
キー操作.....159
エンジンの電子制御部品
故障(誤作動).....165
オーディオシステム
参照 別冊取扱説明書
オーディオメニュー(マルチファンクションディスプレイ).....260
オートマチックトランスミッション
アイドリング(ECOスタート/ストップ機能).....168
アクセルペダルのポジション....170
運転のヒント.....170
エマージェンシーモード.....174
エンジンの始動.....159
オートマチック走行モード.....171
概要.....166
ギアシフト操作.....169
キックダウン.....170
シフトポジション.....169
シフトポジション表示.....167
シフトレンジ.....171
ステアリングパドルシフト.....171
走行モード選択スイッチ.....170
走行モード表示.....167
ダイレクトセレクトレバー.....167
ディスプレイメッセージ.....308
ドライブポジション(ECOスタート/ストップ機能).....168
ドライブポジションの選択.....169
トラブル(不具合).....174
ニュートラルの選択.....168
パーキングポジションの自動選択.....168
パーキングポジションPの選択. 167
発進.....160
マニュアルギアシフト.....172
リバースギアの選択.....168
オートマチックトランスミッションのエマージェンシーモード.....174
オートマチックヘッドライトモード122
オートライト
ディスプレイメッセージ.....294
参照 ライト
オーバーヘッドコントロールユニット.....34
オイル
参照 エンジンオイル
応急用スペアタイヤ
サービスデータ.....406
収納場所.....404
重要な安全上の注意.....403
取り外し.....404
留意点.....404
オドメーター
参照 トリップメーター
オフロードシステム
オフロードプログラム(オン&オフロードパッケージ装備車). .244
オフロードプログラム(オン&オフロードパッケージ非装備車)244
オフロード4ETS.....69
オフロードABS.....63
オフロードESP®.....70
LOW RANGE オフロードギア 246
4MATIC.....241
DSR.....242
オフロード走行
一般的な注意.....185
重要な安全上の注意.....184
走行後のチェックリスト.....186
走行前のチェックリスト.....186
登坂走行.....188
オフロードプログラム(オン&オフロードパッケージ装備車)
オフロードプログラム1.....245
オフロードプログラム2.....245
機能/注意.....244
COMANDディスプレイの表示 249
オフロードプログラム(オン&オフロードパッケージ非装備車)
機能/注意.....244
オフロードライト.....128
オン&オフロードメニュー(マルチファンクションディスプレイ)....272
温度
エンジンオイル(マルチファンクションディスプレイ).....272
外気温度.....254

設定(エアコン).....147
冷却水.....253
冷却水(マルチファンクション ディスプレイ).....272
オンロードプログラム
機能/注意.....239
スノープログラム.....241
AUTOプログラム.....239
SPORTプログラム.....240

か

外気温度計.....254
解錠
車内から(セントラルロッキングスイッチ).....86
非常時の解錠.....87
懐中電灯.....366
カップホルダー
温度制御式.....339
重要な安全上の注意.....338
センターコンソール.....339
リア.....340
3列目シート.....340
可変スピードリミッター
可変機能.....194
可変機能の解除.....195
可変機能の作動.....194
機能/注意.....193
現在の速度を記憶する.....194
重要な安全上の注意.....193
選択.....194
参照 スピードリミッター
LIM表示灯.....194
環境保護
全体的な注意事項.....21
冠水路の走行
オンロード.....182, 183
寒冷時の走行
スノーチェーン.....391
滑りやすい路面.....184
全体的な注意事項.....390
寒冷時の取り扱い
概要.....390
キー
位置(エンジンスイッチ).....157
エマージェンシーキー.....80
エンジンの始動.....159
概要.....78
コンビニエンスオープニング機能.....93
コンビニエンスクロージング機能.....94
重要な安全上の注意.....78
設定変更.....80
セントラルロックによる施錠/開錠.....78
ディスプレイメッセージ.....311
電池交換.....82
電池点検.....82
不具合(異常).....84
紛失.....84
キーの位置
キー.....157
キーレスゴースイッチ.....158
キーレスゴー
解錠.....79
コンビニエンスクロージング機能.....95
スタート/ストップボタン.....158
施錠.....79
キーレスゴースイッチ
エンジン始動.....159
ディスプレイメッセージ.....311
キックダウン
運転のヒント.....170
マニュアルギアシフト.....173
救急セット.....367
給油
給油のしかた.....176
重要な安全上の注意.....174
燃料計.....28
参照 燃料
AMG車についての注意.....412
緊急時点灯機能.....132
クルーズコントロール
解除.....192
機能/注意.....190
クルーズコントロールレバー.....191
現在の速度を記憶および維持する.....191
作動.....191
作動条件.....191
重要な安全上の注意.....190
選択.....191
走行装備.....190

ディスプレイメッセージ.....306
LIM表示灯.....191
クロージングサポーター.....87
グローブボックス.....331
警告灯/表示灯
エンジン診断.....324
各部の名称.....29, 312
シートベルト.....314
車間距離警告.....327
助手席エアバッグオフ.....51
ディストロニックプラス.....327
燃料タンク.....324
ブレーキ.....315
冷却水.....324
ABS.....317
ESP®.....320
ESP®オフ.....321
LIM(可変スピードリミッター)..194
LIM(クルーズコントロール).....191
LIM(ディストロニックプラス)..197
SRS.....323
計測(レースタイマー).....273
携帯電話
周波数.....409
トランスミッションの出力(最大).....409
取り付け.....409
メニュー(マルチファンクションディスプレイ).....261
警報システム(ATA)を解除する.....73
けん引
けん引フックの取り付け.....381
けん引フックの取り外し.....382
重要な安全上の注意.....380
フロントおよびリアが接地した状態で.....382
けん引始動
エンジンエマージェンシースタート.....383
重要な安全上の注意.....380
けん引防止機能.....74
コートフック.....336
コーナリングライト
機能/注意.....127
コーナリングライト機能
ディスプレイメッセージ.....291
高圧式スプレーガンの使用.....357
故障
参照 パンクしたタイヤ
参照 けん引
故障メッセージ
参照 ディスプレイメッセージ
故障メッセージを表示させる
参照 ディスプレイメッセージ
子供
乗員保護装置.....50
乗せるとき.....50
小物入れ
アームレスト(下).....331
カップホルダー.....338
グローブボックス.....331
重要な安全上の注意.....330
センターコンソール.....332
センターコンソール(リア).....332
メガネホルダー.....332
ラゲッジネット.....332
コリジョンプリベンションアシスト.65
コンビニエンスオープニング機能.....93
コンビニエンスクロージング機能.....94
コンビネーションスイッチ.....125
コンフォートヘッドレスト.....107

さ

サービスデータ
応急用スペアタイヤ.....406
タイヤ/ホイール.....400
容量.....411
サービスプロダクト
燃料.....411
ブレーキ液.....414
サイドウインドウ
開閉.....92
概要.....92
コンビニエンスオープニング機能.....93
コンビニエンスクロージング機能.....94
重要な安全上の注意.....92
ヒンジ式サイドウインドウ.....93
不具合(異常).....96
リセット.....95
サイドトリムパネルの開閉.....135
サイドバッグ.....43

サイドランプ
オン / オフの切り替え.....124
サイドランプ(電球の交換).....134
サスペンション
モードセットアップ画面(マルチファンクションディスプレイ)273
サスペンションの制御
AMG RIDE CONTROL スポーツサスペンション.....215
サマータイヤ.....390
山間地域の走行
アプローチ/デパーチャアングル188
下り坂走行.....189
最大登板能力.....189
坂の頂上.....189
サンバイザー.....340
シート
運転席のシートポジション.....104
エグジットポジション(3列目シート).....111
エントリーポジション(3列目シート).....110
概要.....105
シートヒーターのトラブル.....113
シートヒーターを使用する.....113
シートベンチレーターの使用....114
シートベンチレーターのトラブル.....114
シートを起こす / 倒す(3列目シート).....109
重要な安全上の注意.....105
調整(電動式).....106
表面の手入れ.....363
ヘッドレストの調整.....106
メモリー機能(設定の記憶).....119
リアベンチシートを倒す/起こす333
2列目シートを手動で前方に倒す.....110
2列目シートを電動で前方に倒す.....112
シートベルト
運転席および助手席シートベルト.....47
解除.....47
警告灯.....314
警告灯(機能).....48
シートベルト調整の作動/停止(マルチファンクションディスプレイ).....271
シートベルトテンショナー.....48
重要な安全上の注意点.....45
高さ調整.....47
着用.....46
手入れ.....363
ベルトフォースリミッター.....48
シートベルトテンショナー
機能.....48
作動.....39
時刻
参照 別冊の取扱説明書
事故のとき.....49
室内センサー.....75
始動(エンジン).....159
シフトインジケーター(マルチファンクションディスプレイ).....272
シフトポジション表示.....167
シフトポジション表示(DIRECT SELECTレバー).....167
車外ライト
参照 ライト
車間距離警告機能
機能/注意.....65
警告灯.....327
作動/解除.....263
車間距離警告信号(警告灯).....327
車間ディスプレイ(マルチファンクションディスプレイ).....263
車高(ディスプレイメッセージ).....298
遮光フィルム.....344
車載工具.....367
車台番号
参照 VIN
ジャッキ
収納場所.....367
使用方法.....397
車内ライト
消灯遅延機能(マルチファンクションディスプレイ).....269
車両
運搬.....382
解錠(キー).....78
各種の設定.....265
けん引.....380
ジャッキアップ.....397

ジャッキダウン.....400
車両が動き出さないよう固定する.....396
車両データ.....416
施錠(キー).....78
装備.....22
駐車.....180
データ取得.....23
ディスプレイメッセージ.....308
電子制御部品.....408
発進.....160
非常時の解錠.....87
非常時の施錠.....88
車両データ.....416
車両を運搬する.....382
ジャンプスタート(エンジン).....377
周波数
携帯電話.....409
無線機.....409
乗員安全
子供を乗せるとき.....50
重要な安全上の注意点.....38
消灯遅延機能
車外ライト(マルチファンクションディスプレイ).....268
車内ライト.....269
助手席エアバッグオフ表示灯.....51
診断機の接続部.....22
ステアコントロール.....73
ステアリング
安全のために.....114
スイッチ(マルチファンクションディスプレイ).....254
スイッチの概要.....30
清掃.....362
調整(手動).....114
調整(電動).....115
ステアリング(ディスプレイメッセージ).....310
ステアリングホイール
ステアリングホイールヒーター 115
パドルシフト.....171
メモリー機能(シート位置の記憶).....119
ステアリングホイールヒーター
作動/解除.....115
不具合(誤作動).....115
ストップウォッチ(レースタイマー)273
スノーチェーン
スノー走行モード.....241
注意.....391
スピードメーター
セグメント表示.....254
デジタル.....258
表示単位の設定.....265
メーターパネル内.....28
参照 メーターパネル
スピードリミッター
スノータイヤ.....196
ディスプレイメッセージ.....306
スライディングルーフ
開閉.....97
重要な安全上の注意.....96
不具合(誤作動).....101
リセット.....98
レインクロージング機能.....98
参照 パノラミックスライディングルーフ
清掃
ドアミラー方向指示灯.....359
製品情報.....21
施錠
参照 セントラルロッキングシステム
施錠(ドア)
車内から(セントラルロッキングスイッチ).....86
非常時の施錠.....88
施錠確認シグナル音(マルチファンクションディスプレイ).....270
設定
初期化(マルチファンクションディスプレイ).....271
マルチファンクションディスプレイ.....265
設定変更(キー).....80
セットアップ画面(マルチファンクションディスプレイ).....273
セレクターレバー
清掃.....362
センサー(日常の手入れ).....360
洗車(手入れ).....356
センターコンソール
下部.....32
上部.....31

セントラルロッキングシステム
車速感応ドアロック(マルチファンクションディスプレイ). .269
施錠/解錠(キー使用).....78
セントラルロック
参照 セントラルロッキングシステム
走行安全装備
アダプティブブレーキ.....71
アダプティブブレーキアシスト...66
アダプティブブレーキライト.....67
エレクトロニックブレーキフォースディストリビューション.....70
概要.....61
コリジョンプリベンションアシスト.....65
車間距離警告機能.....65
重要な安全上の注意点.....62
ステアコントロール.....73
4ETS(エレクトロニック・トラクション・サポート).....68
ABS(アンチロック・ブレーキング・システム).....62
BAS(ブレーキアシスト).....63
BASプラス(ブレーキアシストプラス).....63
ESP®(エレクトロニック・スタビリティ・プログラム).....67
PRE-SAFE® ブレーキ.....71
走行距離記録.....257
走行時の注意
オフロード走行.....185
冠水路の走行(オフロード).....183
冠水路の走行(オンロード).....182
登坂走行.....188
走行時の注意点
濡れた路面.....181
走行装備
アクティブカーブシステム.....212
アクティブドライビングアシスタンスパッケージ.....232
アクティブブラインドスポットアシスト.....232
アクティブレーンキーピングアシスト.....236
アテンションアシスト.....224
オンロードプログラム.....239
可変スピードリミッター.....193
クルーズコントロール.....190
ディストロニックプラス.....196
ディスプレイメッセージ.....298
パークトロニック.....216
ブラインドスポットアシスト....228
ホールド機能.....210
レーンキーピングアシスト.....231
レベルコントロール(オン&オフロードパッケージ装備車).....206
レベルコントロール(AIRマティックサスペンションパッケージ装備車).....213
360° カメラ.....219
ADS.....212
AIRマティックサスペンションパッケージ.....212
AMG RIDE CONTROLスポーツサスペンション.....215
走行補助、横風.....70
走行モード
オートマチック.....171
オフロードプログラム(オン&オフロードパッケージ装備車). .244
オフロードプログラム(オン&オフロードパッケージ非装備車)244
セットアップ画面(マルチファンクションディスプレイ).....273
表示(ダイレクトセレクトレバー).....167
マニュアル.....172
走行モード選択スイッチ.....170
操作システム
参照 マルチファンクションディスプレイ
送風.....147
送風口
グローブボックス.....153
サイド送風口の調整.....153
重要な安全上の注意.....152
送風の設定.....152
中央送風口の調整.....152
リア.....153
送風口の設定.....148
送風量の設定.....149
速度制限の設定
参照 可変スピードリミッター
速度の制御
参照 クルーズコントロール

た

タイヤ
ウィンタータイヤ.....390
応急用スペアタイヤ.....403
回転方向.....395
交換.....395
重要な安全上の注意.....388
新品のホイールの取り付け.....399
タイヤサイズ(データ).....400
タイヤの交換.....395
タイヤの取り付け.....396
タイヤの取り外し.....399
タイヤのトレッド.....389
耐用年数.....390
ディスプレイメッセージ.....307
点検.....389
保管.....395
参照 パンクしたタイヤ
MOExtendedタイヤ.....390
タイヤ空気圧
指定.....392
達している(タイヤフィット).....372
達しない(タイヤフィット).....371
ディスプレイメッセージ.....307
タイヤ空気圧警告システム
再起動.....394
重要な安全上の注意.....393
タイヤの取り付け
ジャッキアップ.....397
ジャッキダウン.....400
車両が動き出さないよう固定する.....396
ホイールの装着.....399
ホイールの取り外し.....399
タイヤフィット.....370
ダイレクトセレクトレバー
参照 オートマチックトランスミッション
タコメーター.....254
ダッシュボード
参照 メーターパネル
チャイルドセーフティシート
自動検知.....51
純正.....58
助手席に装着.....51
適切な位置.....56
テザーアンカー.....54
トラブル(故障).....56
ISOFIX.....53
チャイルドプルーフロック
重要な安全上の注意.....60
リアサイドウインドウ.....61
リアドア.....61
駐車
重要な安全上の注意.....177
助手席側ドアミラーの位置.....118
参照 駐車
参照 パークトロニック
データ
参照 サービスデータ
テールゲート
開度の設定.....91
開閉(車外から).....89
開閉(車外から自動).....89
開閉(車内から自動).....90
重要な安全上の注意.....88
ディスプレイメッセージ.....309
電動クロージング.....87
非常時の解錠.....91
開いたときの寸法.....416
テールランプ
ディスプレイメッセージ.....292
停止表示板.....366
ディストロニックプラス
運転のヒント.....205
解除.....203
機能/注意.....196
クルーズコントロールレバー.....197
警告灯.....327
作動.....198
作動条件.....198
指定最低距離の設定.....202
重要な安全上の注意.....196
選択する.....197
ディスプレイメッセージ.....304
マルチファンクションディスプレイの表示.....204
ディスプレイメッセージ
アシストプラス.....354
安全装備.....277
エンジン.....295
キー.....311
キーレスゴー.....311
車両.....308
全体的な注意事項.....276

走行装備.....298
タイヤ.....307
非表示(マルチファンクション ディスプレイ).....276
呼び出し(マルチファンクション ディスプレイ).....276
ランプ.....290
デイタイムドライビングライト
機能/注意.....122
ディスプレイメッセージ.....294
点灯/消灯(マルチファンクション ディスプレイ).....266
ディファレンシャルロック(ディスプレイメッセージ).....300
手入れ
ウインドウ.....358
ウッドトリム.....362
カーペット.....363
ギア/セレクターレバー.....362
高圧式スプレーガン.....357
シート表皮.....363
シートベルト.....363
自動洗車機.....356
車外ライト.....359
車内.....361
ステアリング.....362
センサー.....360
洗車.....357
注意.....355
ディスプレイ.....361
塗装面.....357
トリム部品.....362
トレーラーけん引ヒッチ.....360
ナイトビューアシストプラス....361
プラスチックトリム.....362
ホイール.....358
マットペイント.....358
マフラー.....360
ルーフライニング.....363
ワイパーブレード.....359
360°カメラ.....360
テザーアンカー.....54
デジタルスピードメーター.....258
テレビ
操作(マルチファンクション ディスプレイ).....261
参照 別冊の取扱説明書
添加剤(エンジンオイル).....414
電球
参照 電球の交換
電球の交換
カバー(フロントホイールアーチ)の取り外し/取り付け.....133
サイドランプ.....134
重要な安全上の注意.....132
電球の種類の概要.....133
パーキングランプ(フロント).....134
ハイビームヘッドライト.....134
ブレーキランプ.....135
ロービームヘッドライト.....134
電源ソケット
センターコンソール.....343
全体的な注意.....343
ラゲッジルーム.....344
リア.....343
電子制御部品
注意.....408
電池(キー)
交換.....82
重要な安全上の注意.....81
点検.....82
電動ブラインド
パノラミックスライディングルーフ.....99
リアサイドウインドウ.....341
電話
着信を受ける.....262
通話の拒否/終了.....262
ディスプレイメッセージ.....310
電話帳からの番号.....262
メニュー(マルチファンクション ディスプレイ).....261
リダイアル.....262
ドア
オートマチックロッキング(マルチファンクションディスプレイ).....269
概要.....85
クロージングサポーター.....87
車速感応ドアロック(スイッチ)....87
重要な安全上の注意.....85
セントラルロックによる施錠/開錠(キー使用).....78
操作パネル.....35
ディスプレイメッセージ.....309
非常時の解錠.....87

非常時の施錠.....88
開く(車内から).....86
ドアミラー
格納/展開(自動).....117
格納/展開(電動).....117
施錠時の格納(マルチファンクションディスプレイ).....271
外側に曲げられたとき.....118
調整.....116
防眩(自動).....118
メモリー機能(設定の記憶).....119
リセット.....117
リバースポジションの記憶.....118
ドアロック
車速感応.....87
盗難防止警報システム
けん引防止機能.....74
車内センサー.....75
盗難防止システム
イモビライザー.....73
ATA(盗難防止警報システム).....73
読書灯.....130
塗装面(日常の手入れ).....357
トランク
参照 テールゲート
トランスミッション
参照 オートマチックトランスミッション
トリップコンピューター (マルチファンクションディスプレイ).....257
トリップメーター
初期化(マルチファンクションディスプレイ).....258
呼び出し.....257
トリム部品(清掃の説明).....362
トレーラーカップリング
参照 トレーラーのけん引
トレーラーのけん引
アクティブブラインドスポットアシスト.....236
アクティブレーンキーピングアシスト.....239
トレーラーけん引ヒッチの清掃 360
ブラインドスポットアシスト....230
ESP®(エレクトロニック・スタビリティ・プログラム).....70

な

内気循環モードの作動および解除..151
ナイトビューアシストプラス
作動 / 停止.....226
清掃.....361
不具合(故障).....228
ナビゲーション
メニュー(マルチファンクションディスプレイ).....258
参照 別冊の取扱説明書
慣らし運転.....156
ニーバッグ.....43
荷物固定用リング.....335
荷物の積み方.....330
燃費(マルチファンクションディスプレイ).....257
燃料
運転のヒント.....181
給油.....174
グレード(ガソリン).....412
重要な安全上の注意.....411
消費に関する情報.....413
走行可能距離の表示.....258
タンク容量/予備燃料.....412
添加剤.....413
燃料計.....28
燃料消費の表示.....258
平均燃費.....257
問題があるとき.....177
AMG車.....412
燃料および油脂
安全に関する重要な注意.....411
ウォッシャー液.....415
エンジンオイル.....414
冷却水(エンジン).....415
燃料キャップ
参照 燃料給油口
燃料給油口
施錠/解錠.....176
燃料容量
燃料計.....28
燃料残量
警告灯.....324
走行可能距離の呼び出し(マルチファンクションディスプレイ)258
ディスプレイメッセージ.....298

燃料タンク
不具合.....177
容量.....412

は

パーキング
パーキングブレーキ.....179
パーキングブレーキ
警告灯.....323
ディスプレイメッセージ.....281
パーキングブレーキ.....179
パーキングヘルプ
参照 ドアミラー
参照 パークトロニック
パーキングランプ
ディスプレイメッセージ.....293
電球の交換.....134
点灯/消灯.....125
パークトロニック
インジケーター.....217
解除/作動.....218
機能/注意.....216
重要な安全上の注意.....216
センサーの感知範囲.....217
走行装備.....216
不具合(故障).....219
ハイウェイモード.....128
灰皿.....341
ハイドロプレーニング現象.....182
ハイビームヘッドライト
アダプティブハイビームアシストのオン/オフを切り替える..129
ディスプレイメッセージ.....292
電球の交換.....134
点灯/消灯.....125
バッグフック.....335
バックランプ(ディスプレイメッセージ).....293
発進(オートマチックトランスミッション).....160
バッテリー(車両)
概要.....373
ジャンプスタート.....377
充電.....375
重要な安全上の注意事項.....373
ディスプレイメッセージ.....297
電圧.....417
容量.....417
パドルシフト.....171
バニティミラー(サンバイザー内)..340
パノラミックスライディングルーフ
開閉.....98
重要な安全上の注意.....96
電動ブラインドの開閉.....99
不具合(故障).....101
リセット.....99
レインクローズ機能.....99
パワーウインドウ
参照 サイドウインドウ
パンク
MOExtendedタイヤ.....369
パンクしたタイヤ
車両の準備.....368
タイヤフィット.....370
ビークルプレート.....410
ヒーター
参照 エアコンディショナー
非常時の解錠
運転席ドア.....87
車両.....87
テールゲート.....91
非常時の車両の施錠.....88
非常点滅灯.....126
ビデオ
DVDの操作.....261
ヒューズ
エンジンルーム内のヒューズボックス.....384
交換の前に.....383
重要な安全上の注意.....383
ダッシュボードのヒューズボックス.....384
配置表.....383
リアシート下のヒューズボックス.....385
表示灯
参照 警告灯/表示灯
表示灯と警告灯
燃料残量.....324
ヒルスタートアシスト.....160
フォグランプ(強化機能).....128
フューエルリザーブ
参照 燃料

冬用
スノー走行モード.....241
ブラインドスポットアシスト
機能/注意.....228
作動 / 解除.....264
ディスプレイメッセージ.....304
トレーラーのけん引.....230
参照 アクティブブラインドスポットアシスト
プラスチックトリム(清掃の説明)..362
ブレーキ
アダプティブブレーキアシスト...66
運転のヒント.....181
強化ブレーキシステム.....182
警告灯.....315
重要な安全上の注意.....181
ディスプレイメッセージ.....277
パーキングブレーキ.....179
ブレーキ液(注意).....414
ABS.....62
BAS.....63
BASプラス(ブレーキアシストプラス).....63
ブレーキ液
注意.....414
ディスプレイメッセージ.....286
ブレーキ液量.....353
ブレーキランプ
アダプティブ.....67
ディスプレイメッセージ.....292
電球の交換.....135
フロアマット.....344
フロントウインドウ
赤外線反射.....344
フロントワイパー
不具合.....138
分割可倒式シート.....333
ヘッドライト
ウォッシャー(注記).....415
ウォッシャーシステム(機能).....127
ウォッシャーの補給.....352
くもり.....130
参照 オートマチックヘッドライトモード
ヘッドライト常時点灯モード
参照 デイタイムドライビングライト
ヘッドレスト
コンフォート.....107
調整.....106
調整(機械的).....106
調整(電動式).....107
調整(リア).....107
取り外し/取り付け(リア).....108
ベルトフォースリミッター(作動).....39
ホールド機能
機能/注意.....210
ディスプレイメッセージ.....302
ホイール
概要.....388
交換/ローテーション.....395
締め付けトルク.....400
重要な安全上の注意.....388
清掃.....358
清掃 (警告の注意).....395
タイヤの交換.....395
点検.....389
ホイールサイズ/タイヤサイズ..400
保管.....395
ホイールボルトの締め付けトルク..400
方向指示灯
ディスプレイメッセージ.....291
点灯/消灯.....125
ボンネット
ディスプレイメッセージ.....309
閉じる.....349
開く.....348

ま

マットペイント(日常の手入れ).....358
マフラー(手入れ).....360
マルチファンクションステアリング
概要.....30
マルチファンクションステアリングホイール
マルチファンクションディスプレイの操作.....254
マルチファンクションディスプレイ
アシストメニュー.....263
安全に関する重要事項.....252
オーディオメニュー.....260
オン&オフロードメニュー.....272
機能/注意.....256
基本画面.....257
コンフォートサブメニュー.....270
サブメーター.....266

車両サブメニュー.....269
設定初期化サブメニュー.....271
設定メニュー.....265
操作.....254
ディストロニックプラス.....204
テレビの操作.....261
点検メッセージの表示.....355
トリップメニュー.....257
ナビゲーションメニュー.....258
ビデオDVDの操作.....261
メーターパネルサブメニュー....265
メッセージの記憶.....276
メニューの概要.....257
メンテナンスメニュー.....265
ライトサブメニュー.....266
レースタイマー.....273
AMGメニュー.....272
TELメニュー.....261
ミラー
参照 ルームミラー
参照 ドアミラー
参照 バニティミラー（サンバイザー内）
無線機
周波数.....409
トランスミッションの出力(最大).....409
取り付け.....409
無線制御式機器(装備).....344
メーターパネル
各部の名称.....28, 253
警告灯/表示灯.....29, 312
メーターパネル照明.....253
メガネホルダー.....332
メッセージ
参照 ディスプレイメッセージ
メッセージの記憶(マルチファンクションディスプレイ).....276
メモリーカード(オーディオ).....260
メモリー機能.....119
メルセデス・ベンツ指定サービス工場.....23
メルセデス・ベンツ純正部品.....408
メンテナンスメニュー(マルチファンクションディスプレイ).....265

や

横風制御機能.....70
余熱ヒーターベンチレーション(エアコンディショナー).....151
予備(燃料タンク)
参照 燃料

ら

ライセンスランプ(ディスプレイメッセージ).....292
ライター.....342
ライト
アダプティブハイビームアシストのオン/オフ.....267
アンビエントライトのカラーの設定(マルチファンクションディスプレイ).....268
アンビエントライトの照度を設定する(マルチファンクションディスプレイ).....268
インテリジェントライトシステムのオン/オフ.....267
オフロードライト.....128
車外ライト消灯遅延機能の作動/解除(マルチファンクションディスプレイ).....268
車内ライト消灯遅延機能の作動/解除.....269
デイタイムドライビングライトの点灯/消灯(マルチファンクションディスプレイ).....266
ヘッドライトのパッシング.....126
方向指示灯.....125
ロケイターライティングのオン/オフの切り替え(マルチファンクションディスプレイ).....268
参照 ルームライト
参照 電球の交換
ラゲッジネット.....332
ラゲッジルーム.....330
ラゲッジルームカバー
機能/注意.....336
ラゲッジルームの拡大
重要な安全上の注意.....333
ラゲッジルームのフロア
収納スペース.....337
開く/閉じる.....337

ラジオ
放送局の選択.....260
参照 別冊の取扱説明書
ラップタイム(レースタイマー).....273
ランバーサポート
シート上での調整.....112
ランプ
アクティブライトシステム.....127
コーナリングライト.....127
車幅灯.....124
パーキングランプ.....125
ハイウェイモード.....128
ハイビームヘッドライト.....125
非常点滅灯.....126
フォグランプ(強化機能).....128
ヘッドライトのオートモード....122
ランプスイッチ.....122
リアフォグランプ.....124
ロービームヘッドライト.....123
参照 警告灯/表示灯
ランプセンサー(ディスプレイメッセージ).....294
リア
送風口の調整.....153
リアコンパートメント
エグジット/エントリーポジション(3列目シート).....110
リアシート
調整.....108
ディスプレイメッセージ.....309
リアデフォッガー
機能のオン/オフ.....150
トラブル(故障).....151
リアフォグライト
点灯/消灯.....124
リアフォグランプ
ディスプレイメッセージ.....293
リアベンチシートを倒す/起こす....333
リアワイパー
オン/オフの切り替え.....136
ワイパーブレードの交換.....137
ルート(ナビゲーション)
参照 ルート案内（ナビゲーション）
ルート案内(ナビゲーション).....258
ルーフの重量(最大).....417
ルーフライニングとカーペット(清掃の説明).....363
ルーフラック.....338
ルームミラー
防眩(自動).....118
防眩(手動).....116
ルームライト
アンビエントライトのカラーの設定(マルチファンクションディスプレイ).....268
アンビエントライトの照度を設定する(マルチファンクションディスプレイ).....268
概要.....130
緊急時点灯機能.....132
読書灯.....130
参照 ルームライト
ルームランプ
自動点灯.....131
手動点灯.....131
レースタイマー(マルチファンクションディスプレイ).....273
レーダーセンサー
概要.....418
レーダーセンサーシステム
オン/オフ.....270
ディスプレイメッセージ.....302
レーンキーピングアシスト
機能 / 情報.....231
設定/解除(マルチファンクションディスプレイ).....265
設定 / 解除.....265
ディスプレイメッセージ.....303
参照 アクティブレーンキーピングアシスト
冷却水(エンジン)
温度(マルチファンクションディスプレイ).....272
温度計.....253
警告灯.....324
重要な安全上の注意.....415
定期交換.....352
ディスプレイメッセージ.....295
補給.....351
量の点検.....351
冷房
参照 エアコンディショナー
レインクローズ機能
スライディングルーフ.....98
パノラミックスライディングルーフ.....99

レベルコントロール(オン&オフロードパッケージ装備車)
機能/注意.....206
基本設定.....207
重要な安全上の注意.....206
レベルコントロール(ディスプレイメッセージ).....299
レベルコントロール(AIRマティックサスペンションパッケージ装備車)
機能/注意.....213
基本設定.....213
重要な安全上の注意.....213
ロービームヘッドライト
ディスプレイメッセージ.....291
電球の交換.....134
点灯/消灯.....123
左側/右側通行の設定.....267
ローレンジ
オフロードギア.....246
ディスプレイメッセージ.....301
ロケイターライティング(マルチファンクションディスプレイ).....268

わ

ワイパー
リアワイパー.....136
ワイパーの操作.....135
ワイパーブレードの交換.....137
ワイパーブレード
交換.....137
交換(フロントウインドウ).....137
交換(リアウインドウ).....137
重要な安全上の注意.....137
清掃.....359
輪止め.....396

英字

4ETS(エレクトロニック・トラクション・システム).....68
4MATIC (フルタイム4輪駆動).....241
12Vソケット
参照 電源ソケット
360° カメラ
機能/注意.....219
清掃.....360
ABS(アンチロック・ブレーキング・システム)
機能/注意.....62
警告灯.....317
重要な安全上の注意.....62
ディスプレイメッセージ.....277
ACモードのオン/オフ.....146
ADS(アダプティブダンピングシステム)
機能/注意.....212
AIRマティックサスペンションパッケージ
機能/注意.....212
レベルコントロール.....213
ADS(アダプティブ・ダンピング・システム).....212
AMGメニュー(マルチファンクションディスプレイ).....272
AMG RIDE CONTROLスポーツサスペンション.....215
ATA(盗難防止警報システム)
機能.....73
警報の解除.....73
作動/解除.....73
BAS(ブレーキアシスト).....63
BASプラス(ブレーキアシストプラス).....63
CDプレーヤー/CDチェンジャー(マルチファンクションディスプレイ).....260
COMANDシステム
オン&オフロードメニュー.....249
参照 別冊の取扱説明書
COMANDディスプレイ
清掃.....361
DSR(ダウンヒル・スピード・レギュレーション)
ディスプレイメッセージ.....301
DSR(ダウンヒルスピードレギュレーション)
機能/注意.....242
DVDオーディオ
操作(マルチファンクションディスプレイ).....260
DVDビデオ
操作(マルチファンクションディスプレイ).....261

EBD(エレクトロニックブレーキフォースディストリビューション)
機能/注意.....70
ディスプレイメッセージ.....281
ECOスタートストップ機能
一般的な注意.....161
作動/解除.....162
ESP®(エレクトロニック・スタビリティ・プログラム)
機能/注意.....67
警告灯.....320
作動/解除.....69
重要な安全上の注意.....67
ディスプレイメッセージ.....277
トレーラー.....70
4ETS.....68
AMGメニュー(マルチファンクションディスプレイ).....273
ISOFIX 対応チャイルドセーフティシート.....53
LIM表示灯
可変スピードリミッター.....194
クルーズコントロール.....191
ディストロニックプラス.....197
LOW RANGEオフロードギア.....246
M+Sタイヤ.....390
MOExtendedタイヤ.....369
MP3
操作.....260
参照 別冊の取扱説明書
PRE-SAFE®
機能の仕方.....44
PRE-SAFE®システム
ディスプレイメッセージ.....286
PRE-SAFE® ブレーキ
機能/注意.....71
警告灯.....327
設定/解除.....264
ディスプレイメッセージ.....288
SRS(乗員保護補助装置)
警告灯.....323
警告灯(機能).....39
ディスプレイメッセージ.....289
まえがき.....39
VIN.....410

環境保護

全体的な注意事項

環境保護に関する注意

Daimler AGは、包括的な環境保護の一つとして対策を明確にしています。

それは、地球上で少しずつ使われ、自然と人間双方の要求に注意を促す、我々の存在の源となる自然資源のためです。

環境的に配慮のある方法で車両を操作することも、環境を保護する一助になります。

燃費やエンジン回転、トランスミッション、ブレーキ、タイヤの摩耗具合は、以下の要因に左右されます。

- お客様の車両の操作状況
- お客様の個人的な運転スタイル

お客様は、いずれの要因にも影響を及ぼしています。 以下のことにご留意ください。

操作状況

- 消費燃料が増えますので、短距離の走行は避けてください。
- タイヤの空気圧が常に適正であることを確認してください。
- 不要な重量物は積載しないでください。
- 車両の燃費に注意してください。
- 必要でない場合は、ルーフラックを取り外してください。
- 定期的な車両の整備は、環境保護に貢献します。 整備の間隔を守ってください。
- 点検整備は、必ずメルセデス・ベンツ指定サービス工場に依頼してください。

個人的な運転スタイル

- エンジンを始動する際は、アクセルペダルを踏まないでください。
- 車両を停止したままのエンジン暖機は行なわないでください。
- 注意して運転し、前方の車両との適切な距離を保持してください。
- 頻繁な、または急な加速は避けてください。
- 適切なタイミングでギアを変え、それぞれのギアの使用は、エンジン最高回転数の⅔までにとどめてください。
- 渋滞している時は、エンジンを停止してください。

製品情報

メルセデス・ベンツでは、車種ごとに承認されたメルセデス・ベンツ純正部品や交換部品、アクセサリーのご使用をお勧めしています。

メルセデス・ベンツでは、純正部品や変換部品、アクセサリーに対して、それらの信頼性や安全性、適合性が明確に車両に適しているかをテストしています。 メルセデス・ベンツでは、継続的に市場調査を行なっていますが、純正でない部品の使用を認めていません。 したがって、これらのメルセデス・ベンツ車への使用については、メルセデス・ベンツは責任は負いかねます。 独自に、または公的に承認されている部品であっても同様です。 承認されていない部品を使用すると、車両の操作安全性に影響を与えることがあります。

したがって、メルセデス・ベンツでは、車種ごとに承認されたメルセデス・ベンツ純正部品や交換部品、アクセサリーのご使用をお勧めしています。

メルセデス・ベンツ純正部品、承認された交換部品やアクセサリーはメルセデス・ベンツ指定サービス工場で入手できます。 ここでは、許可された技術的改造についての助言を受けたり、部品を専門的に装着することができます。

取扱説明書

全体的な注意事項

最初に車をご使用になる前に、本取扱説明書をお読みになり、車両についての理解を深めてください。

お客様ご自身の安全とより長い期間車両をご使用いただくために、本説明書の指示と警告に関する項目に従ってください。 それらに従わないと、車両を損傷したり、けがをするおそれがあります。

車両の装備

車両の標準およびオプション装備については、別添のさくいんをご覧ください。

装備や操作について不明点があるときは、メルセデス・ベンツ指定サービス工場にお問い合わせください。

取扱説明書および整備手帳は重要な書類ですので、必ず車内に保管してください。

使用に関する安全

重要な安全上の注意

⚠ 警告

車両へのあらゆる作業、特に安全や安全に関連したシステムに関する作業は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で行なってください。

⚠ 警告

いくつかの安全システムはエンジンがかかっているときにのみ機能します。そのため、走行しているときはエンジンを停止しないでください。車両の安全システムが適切に機能しなくなり、その結果、想定したようにお客様や他の方を保護できなくなります。さらに、車両のコントロールを失い、事故の原因になる危険性があります。

⚠ 警告

不適切に行なわれた作業、またはカバー内のケーブルの再配線などの車両への変更は、車両の安全システムが適切に作動しなくなる原因になります。そして、安全システムは、想定したようにお客様や他の方を保護しなくなります。さらに、車両のコントロールを失い、事故の原因になる危険性があります。

装着や改造など、車両へのあらゆる作業や変更は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で行なってください。

⚠ 警告

電気装備やそのソフトウェアへの作業が不適切に行なわれたときは、これらの装備が作動しなくなるおそれがあります。電気装備は、インタフェースを通じてネットワークされています。電気装備の変更は、改造を施していないシステムの誤作動の原因になります。これらの誤作動は、車両の安全な操作、さらにお客様自身の安全を著しく損なうおそれがあります。

電気構成部品へのあらゆる作業や改造は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で行なってください。

オンボードダイアグノシスインターフェース

⚠ 警告

装備を診断機の接続部に接続すると、車両システムの操作に影響を与える場合があります。 これは走行中の車両の操作安全性に影響を及ぼすおそれがあります。事故の危険性があります。

いかなる装備品も診断機の接続部に接続しないでください。

⚠ 警告

診断機の接続部に接続されている装備品やケーブルをゆるめると、ペダル付近の空間の邪魔になることがあります。 急ブレーキ時や急加速時に、装備品やケーブ

ルがブレーキペダルやアクセルペダルに引っかかるおそれがあり危険です。 ペダルの動作に影響をあたえるおそれがあります。 事故の危険性があります。
運転者の足元に装備品やケーブルを装着しないでください。

! エンジンが停止しているときに診断機の接続部の装備品を使用すると、スターターバッテリーが放電することがあります。

診断機の接続部は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で診断機器のみを接続するように想定されています。
診断機器を診断機の接続部に接続すると、例えば排出ガスモニター情報のリセットにつながります。 これにより、次回の主要な点検の際の排出ガス試験の要件に適合しなくなることにつながります。

日常点検および点検整備

お客様自身の責任において日常点検と定期検査を行なうことが法律で定められています。 それぞれの検査手順についての詳細情報は、整備手帳をご覧ください。

オートマチックトランスミッションの使用

全体的な注意事項

適切にご使用いただくために、オートマチックトランスミッションを使用する前に、特徴や操作に関連する事項についての理解を深めてください。
"走行および駐車"の指示もご覧ください。 (▷ 166 ページ).

オートマチックトランスミッションの特徴

クリープ現象

エンジンがかかっていてトランスミッションがトランスミッションポジション **D** または **R** のときは、駆動輪に動力が伝達されています。 その結果、アクセルペダルを踏んでいなくても、車両が動き出します。

メルセデス・ベンツ指定サービス工場

メルセデス・ベンツ指定サービス工場は、車両に必要なあらゆる作業の実施に適した、必要とされる専門的な知識や工具、資格を有しています。このことは特に安全性に関する作業に当てはまります。
整備手帳にある注意に従ってください。
以下の作業については、必ずメルセデス・ベンツ指定サービス工場に依頼してください。

- 安全性に関する作業
- 整備やメンテナンス作業
- 修理作業
- 改造、装着、交換
- 電子部品の作業

メルセデス・ベンツはメルセデス・ベンツ指定サービス工場をご利用いただくことをお勧めします。

車両に記憶されているデータ

故障データ

車両操作で重要となる部品には、故障データメモリーが標準で装備されています。 特定の走行状況(エアバックの作動またはESP®の介入など)で車両の部品がどのように反応したかを記録するデータ保存機器もあります。

これらのデータは以下のことにのみ使用されます。

- 故障や不具合の改良の支援
- メルセデス・ベンツが車両の機能の改良および開発を行なう場合の支援

データを使用して、車両の行動をたどることはできません。

お客様の車両がメルセデス・ベンツ指定サービス工場で整備を受けた場合は、この技術情報が故障メモリーから読み出されます。 この作業は、特別な診断コンピューターを使用して、メルセデス・ベンツ指定サービス工場の認定された整備士により行なわれます。

故障が解決されると、その情報はメモリーから消去され、その他のメモリーデータは、絶えず上書きされます。

データを保存する他の機器

装備状況に応じて、お客様の車両にはコミュニケーションやエンターテインメントシステム(ナビゲーション機器や電話システムなど)が装備されています。 お客様は、これらの機器を操作する上で必要となるデータの保存や編集を行なうことができます。

操作(データの消去など)についての詳細情報については、別冊の取扱説明書をご覧ください。

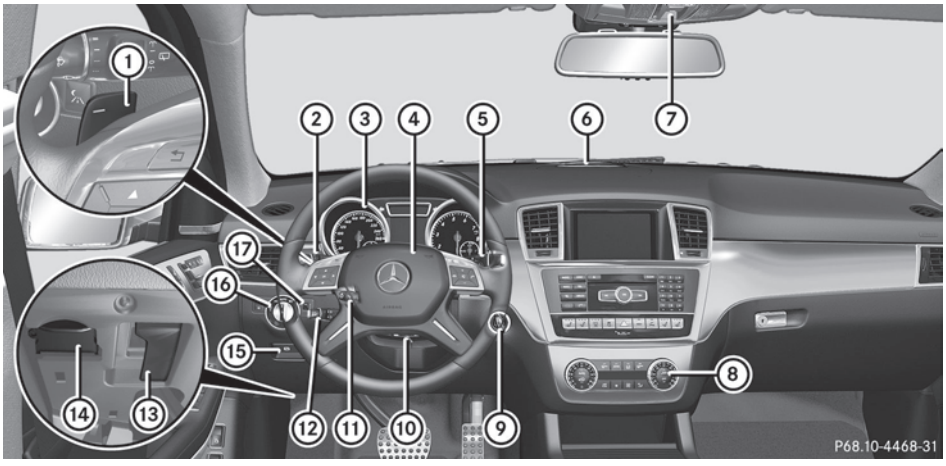
全体的な注意事項

⚠ 警告

ライターを車内に放置しないでください。 気温が高くなると、車内の温度が急激に上昇することがあります。 これによりライターが爆発し、車両に引火するおそれがあります。

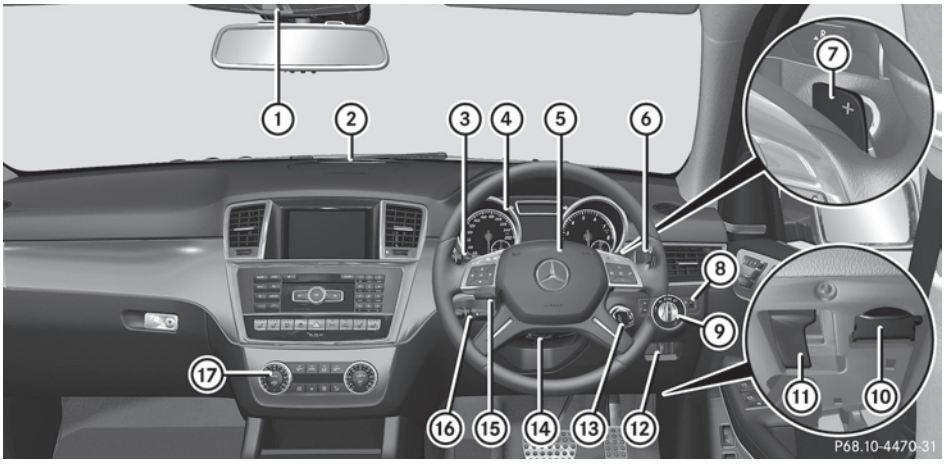
運転席 26
メーターパネル 28
マルチファンクションステアリング 30
センターコンソール 31
ルーフオペレーティングユニット . 34
ドア操作パネル 35

運転席



	機能	ページ
①	ステアリングパドルシフト	171
②	コンビネーションスイッチ	125
③	メーターパネル	28
④	ホーン	
⑤	DIRECT SELECTレバー	167
⑥	パークトロニック警告表示	216
⑦	オーバーヘッド操作パネル	34
⑧	エアコンディショナーシステム	140
⑨	エンジンスイッチ キーレスゴースイッチ	157 158

	機能	ページ
⑩	手動調整式ステアリングの調整	114
⑪	電動調整式ステアリングの調整 ステアリングヒーター	114 115
⑫	クルーズコントロールレバー	191
⑬	ボンネットを開く	348
⑭	オンボードダイアグノシスインターフェース	22
⑮	パーキングブレーキ	179
⑯	ランプスイッチ	122
⑰	ナイトビューアシストプラス	226

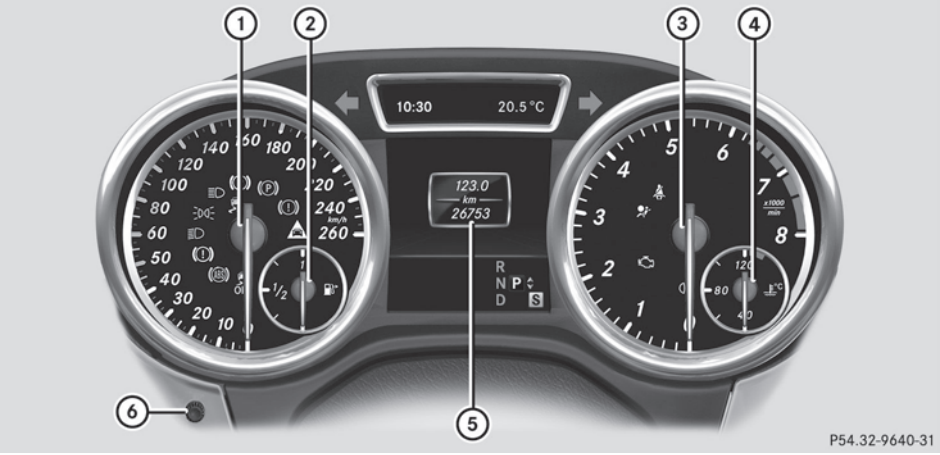


	機能	ページ
①	オーバーヘッド操作パネル	34
②	パークトロニック警告表示	216
③	コンビネーションスイッチ	125
④	メーターパネル	28
⑤	ホーン	
⑥	DIRECT SELECTレバー	167
⑦	ステアリングパドルシフト	171
⑧	ナイトビューアシストプラス	226
⑨	ランプスイッチ	122

	機能	ページ
⑩	オンボードダイアグノシスインターフェース	22
⑪	ボンネットを開く	348
⑫	パーキングブレーキ	179
⑬	エンジンスイッチ キーレスゴースイッチ	157 158
⑭	手動調整式ステアリングの調整	114
⑮	電動調整式ステアリングの調整 ステアリングヒーター	114 115
⑯	クルーズコントロールレバー	191
⑰	エアコンディショナーシステム	140

メーターパネル

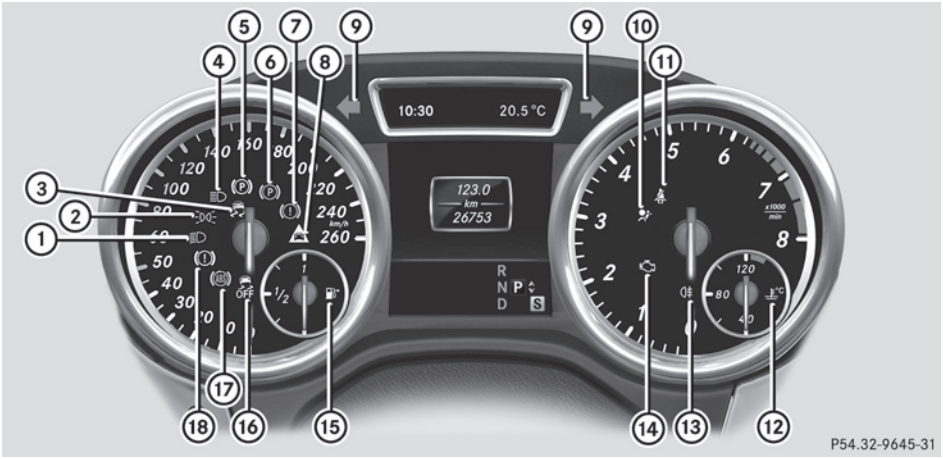
ディスプレイおよび操作



	機能	ページ
①	セグメント付きスピードメーター	254
②	燃料計	
③	タコメーター	254

	機能	ページ
④	冷却水温度計	253
⑤	マルチファンクションディスプレイ	256
⑥	メーターパネル照明	253

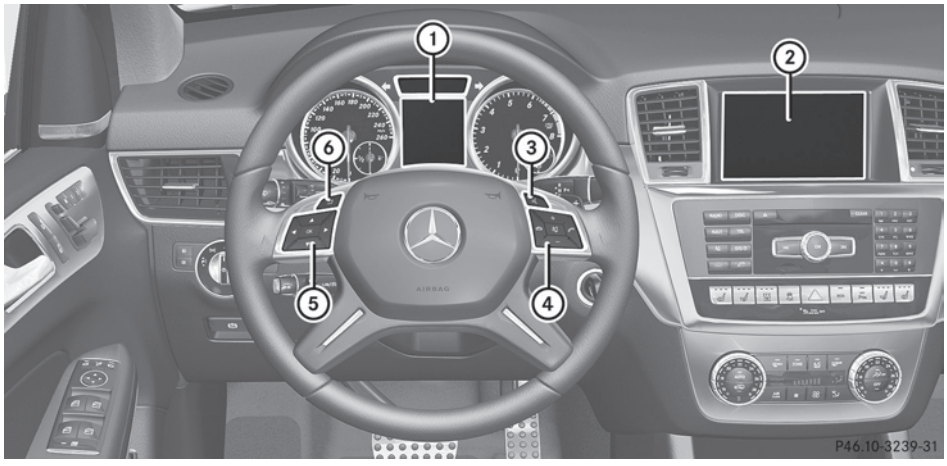
警告灯および表示灯



	機能	ページ
①	ヘッドライト表示灯	123
②	サイドランプ表示灯	124
③	ESP®表示灯	320
④	ハイビーム表示灯	125
⑤	パーキングブレーキ警告灯（赤色）	323
⑥	ブレーキ表示灯（黄色）	323
⑦	ブレーキ警告灯（黄色）	315
⑧	車間距離警告灯	327
⑨	方向指示灯	125

	機能	ページ
⑩	SRS警告灯	323
⑪	シートベルト警告灯	314
⑫	冷却水警告灯	324
⑬	リアフォグランプ表示灯	124
⑭	エンジン警告灯	324
⑮	燃料残量警告灯	324
⑯	ESP® オフ表示灯	320
⑰	ABS警告灯	317
⑱	ブレーキ警告灯（赤色）	315

マルチファンクションステアリング

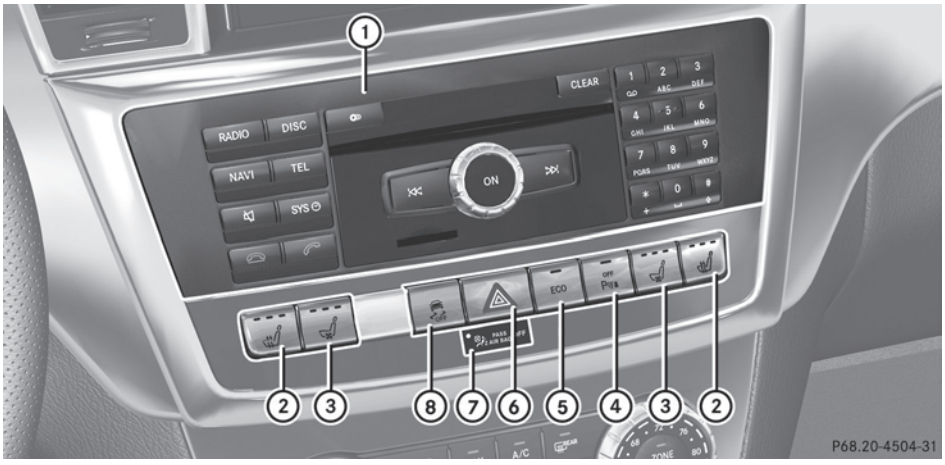


	機能	ページ
①	マルチファンクションディスプレイ	256
②	COMANDディスプレイ、別冊取扱説明書をご覧ください	
③	音声認識のオン：別冊取扱説明書をご覧ください	
④	通話を拒否する、または終了する 電話帳/発信履歴を終了する 発信する、または受ける リダイアルメモリーに切り替える 音量の調整 ミュート	261

	機能	ページ
⑤	◀ ▶ メニューを選択する ▲ ▼ サブメニューの選択またはリストのスクロール OK 選択の確定 ディスプレイメッセージを非表示にする	254 254 254 276
⑥	前の画面に戻る 音声認識のオフ、別冊取扱説明書をご覧ください	254

センターコンソール

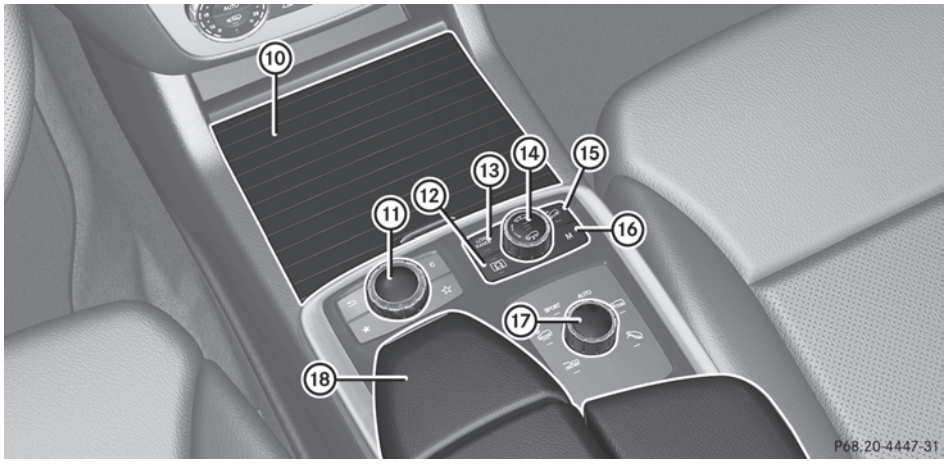
センターコンソール、上部



	機能	ページ
①	COMANDシステム、別冊の取扱説明書をご覧ください。	
②	シートヒーター	113
③	シートベンチレーター	114
④	パークトロニック	216

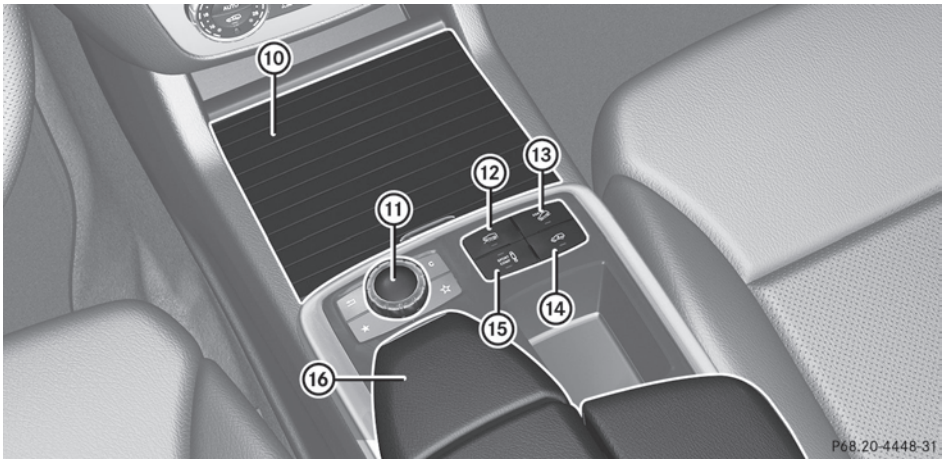
	機能	ページ
⑤	ECOスタート/ストップ機能	161
⑥	非常点滅灯	126
⑦	助手席エアバッグオフ表示灯	51
⑧	ESP®表示灯	67

センターコンソール、下部



ℹ オン&オフロードメニュー装備車

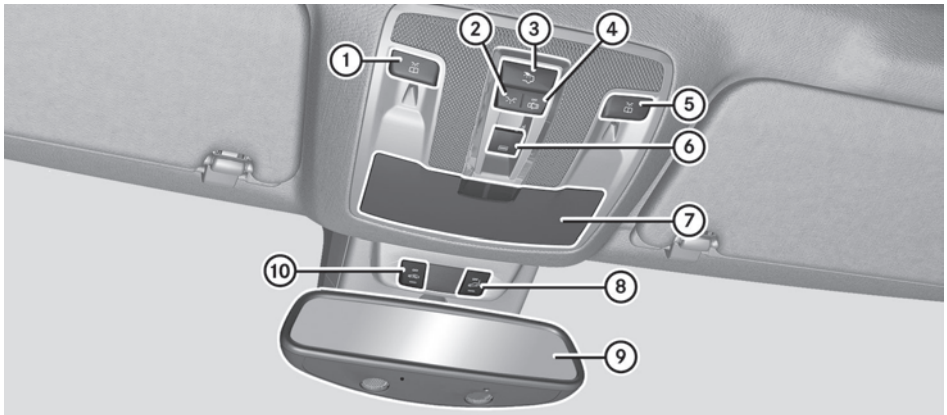
	機能	ページ
⑩	小物入れ カップホルダー 灰皿 ライター 電源ソケット	332 338 341 342 343
⑪	COMANDコントローラー、別冊の取扱説明書をご覧ください。	
⑫	オン&オフロードメニュースイッチ	249
⑬	LOW RANGE LOW RANGEオフロードギア	246
⑭	レベルコントロール	206
⑮	DSR（ダウンヒル・スピード・レギュレーション）	242
⑯	M マニュアルギアシフト	172
⑰	オンロードプログラム用セレクターダイヤル オフロードプログラム用セレクターダイヤル	239 244
⑱	小物入れ	331



ⓘ オン&オフロードメニュー非装備車およびAMG車

	機能	ページ
⑩	小物入れ カップホルダー 灰皿 ライター 電源ソケット	332 338 341 342 343
⑪	COMANDコントローラー、別冊の取扱説明書をご覧ください。	
⑫	オフロードプログラムの選択 走行モード選択（AMG車）	244 170
⑬	DSR（ダウンヒル・スピード・レギュレーション）	242
⑭	レベルコントロール	213
⑮	アダプティブダンピングシステム AMG RIDE CONTROL調整（AMG車）	212 215
⑯	小物入れ	331

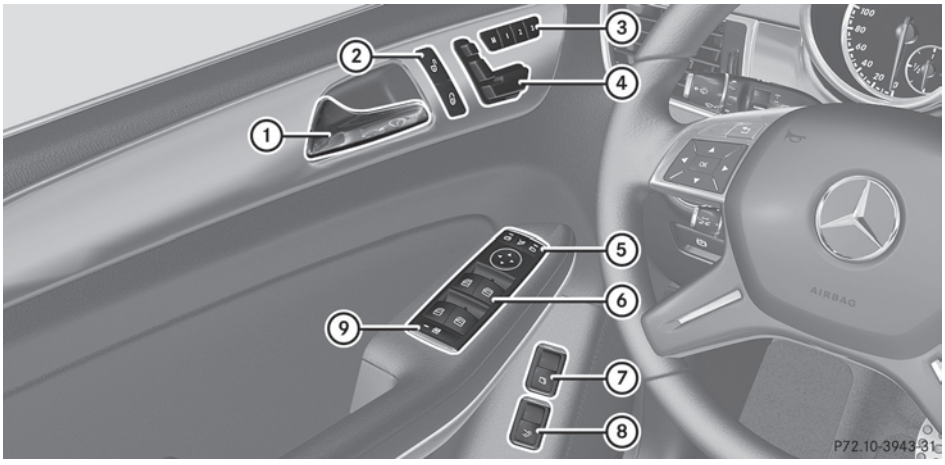
ルーフオペレーティングユニット



	機能	ページ
①	左側読書灯点灯/消灯の切り替え	130
②	フロントルームライト点灯/消灯の切り替え	131
③	リアルームライト点灯/消灯の切り替え	131
④	フロントルームライト消灯/ルームライト自動コントロールのオフ	131
⑤	右側読書灯点灯/消灯の切り替え	130

	機能	ページ
⑥	スライディングルーフの開閉	97
	電動ブラインド付きパノラミックスライディングルーフの開閉	98
⑦	メガネケース	332
⑧	けん引防止機能の解除	74
⑨	ルームミラー	116
⑩	室内センサーの解除	75

ドア操作パネル



	機能	ページ
①	ドアレバー	86
②	車両の施錠/解錠	86
③	M 1 2 3 シート、ドアミラーおよびステアリングの設定の保存（メモリー機能）	119
④	シートの調整	105
⑤	ドアミラーの電動調整および格納/展開	116

	機能	ページ
⑥	サイドウインドウの開閉	92
⑦	ヒンジ式パワーサイドウインドウの開閉	93
⑧	テールゲートの開閉	90
⑨	後席のサイドウインドウのチャイルドプルーフロック機能の設定/解除	61

役に立つ情報 38
乗員安全装備 38
子供を乗せるとき 50
走行安全システム 61
盗難防止システム 73

役に立つ情報

ⓘ この取扱説明書は発行時点で利用可能な、車両のすべてのモデルやシリーズ、オプション装備を記載しています。国別仕様の違いがあることもあります。お客様の車両には記載されている全ての機能が装備されていないことがあることにご留意ください。これは安全に関するシステムや機能の場合もあります。

ⓘ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で情報をご覧ください。(▷ 23 ページ)

乗員安全装備

重要な安全上の注意

⚠ 警告

整備作業が適切に行なわれていない場合は、車両の走行安全性が損なわれるおそれがあります。 その結果、車両のコントロールを失い、事故を起こす原因になります。また、安全装備が本来の機能を発揮しなくなり、運転者や同乗者を保護することができなくなるおそれがあります。

点検整備や修理などは、必ずメルセデス・ベンツ指定サービス工場に依頼してください。

⚠ 警告

乗員保護装置の以下の構成部品を改造したり、不適切な作業を行なわないでください。正常に作動しなくなったり誤作動し、傷害を負うおそれがあります。

- シートベルトとベルトアンカー、シートベルトテンショナー、ベルトフォースリミッター、エアバッグを含む乗員保護装置
- 配線
- 車載ネットワークで接続された電子制御部品

不適切な作業を行なうと、衝突の際に車両の減速度がシステムを作動させるのに十分な高いレベルに達しても、エアバッグやシートベルトテンショナーが正常に作動しなくなったり、誤作動するおそれがあります。 決して乗員保護装置を改造しないでください。

また、決して車の電子制御部品やソフトウェアを改造しないでください。

シートベルトやSRS（乗員保護補助装置）は相互に補完し、連動して作動する乗員保護装置です。(▷ 39 ページ) これらは、想定される事故の状況において、乗員が負傷する危険性を軽減して安全性を高めます。 ただし、シートベルトとエアバッグは、物が外部から車内に入り込んだときの衝撃から乗員を保護する効果はありません。

乗員保護装置の機能を十分に発揮させるため、以下の点に注意してください。

- シートやヘッドレストは正しい位置に調整してください。 (▷ 104 ページ)
- シートベルトを正しく着用してください。 (▷ 46 ページ)
- エアバッグが膨らむのを妨げる障害物などがないことを確認してください。 (▷ 40 ページ)
- ステアリングを正しい位置に調整してください。 (▷ 104 ページ)
- 乗員保護装置を改造しないでください。

エアバッグは、シートベルトを着用した乗員の保護機能を高めます。 そのため、エアバッグはシートベルトの効果を補助する乗員保護装置で、シートベルトの代わりになるものではありません。 車両にエアバッグが装備されていても、乗員全員が常に正しくシートベルトを着用する必要があります。 エアバッグは、あらゆる種類の事故で作動するわけではありません。 たとえば、エアバッグの作動が正しく着用したシートベルトの保護効果を高めると判断されない場合、エアバッグは作動しません。

エアバッグの作動はシートベルトを正しく着用している場合にのみ、高められた保護を提供することができます。シートベルトは第一に、エアバッグとの最適な位置に車両の乗員を保つ補助になります。 第二に、正面衝突などの際に、シートベルトは衝撃を受けた方向に車両の乗員が投げ出されることを防ぐことができます。

SRS(乗員保護補助装置)

概要

SRSは、以下のシステムで構成されています。

- SRS 警告灯
- エアバッグ
- クラッシュセンサー付きエアバッグコントロールユニット
- フロントシートベルト用および後席の外側シートベルト用シートベルトテンショナー
- ベルトフォースリミッター

SRSは、事故の際に乗員が車室内の部品にぶつかる危険性を低減します。 また事故の際に乗員が受ける衝撃を緩和させます。

SRS警告灯

⚠ 警告

SRSに異常が発生すると、各システムが偶発的に作動したり、減速度が大きい事故が起きても正常に作動しなくなるおそれがあります。

以下のときは、異常が発生しています。

- エンジンスイッチをオンにしてもSRS警告灯 が点灯しないとき
- エンジンを始動して数秒間経過してもSRS警告灯 が消灯しないとき
- エンジンをかけた状態でSRS警告灯 が再び点灯するとき

このような場合は、ただちにメルセデス・ベンツ指定サービス工場でSRSの点検を受けてください。

SRSの機能は、エンジンスイッチをオンにしたときやエンジンの作動中に定期的に診断されています。 そのため、異常が発生するとただちに検出することができます。

メーターパネルのSRS警告灯 は、イグニッションをオンにすると点灯します。 エンジンが始動した後、数秒以内に消灯します。

シートベルトテンショナー、ベルトフォースリミッター、エアバッグの作動

衝突の初期段階で、エアバッグコントロールユニットは、以下のような車両の減速度または加速度に関する重要な物理的データを判断します。

- 衝撃の作用した時間
- 方向
- 衝撃の強さ

これらのデータを判断して、エアバッグコントロールユニットは衝突の初期段階でシートベルトテンショナーを事前に作動させます。

車両の縦方向の減速度または加速度がさらに大きくなると、フロントエアバッグも作動します。

車両には、衝撃の大きさに応じて展開力を2 段階に制御するデュアルステージ式フロントエアバッグが装備されています。 エアバッグコントロールユニット

は、衝突の際に車両の減速度または加速度を判断します。 第1 段階では、フロントエアバッグは乗員の負傷を防ぐのに最適なガス圧で膨らみます。 数ミリ秒以内に第2 段階の作動基準値に達すると、フロントエアバッグは最大限に膨らみます。

シートベルトテンショナーとエアバッグの作動基準値は、車両の減速度または加速度に応じて適切に設定されます。 このプロセスは事前に実行されます。 作動決定プロセスは、衝突の初期段階で早い時期に行なわれる必要があります。

車両の減速度や加速度、衝撃の方向は、基本的に以下の要素によって決まります。

- 衝突時の衝撃エネルギーの分散度
- 衝撃の角度
- 車体の変形状態
- 車両と衝突した物体の特性

衝突の発生後に検知される要素は、エアバッグの作動条件とは必ずしも一致しません。また、エアバッグを展開させる基準とはなりません。

衝突時にボンネットやフェンダーなど車体が著しく変形していながら、エアバッグが作動しない場合があります。 変形しやすい衝撃吸収部品のみが衝突の影響を受け、エアバッグを作動させるのに十分な減速度に達していない場合です。 反対に、車体の変形状態が軽度であってもエアバッグが作動することがあります。 縦方向のボディメンバーなど高剛性の部品が衝撃を受けたため車両の減速度が十分高いレベルに達した場合などです。

ⓘ フロントのシートベルトテンショナーは、フロントシートのシートベルトのプレートが正しくバックルに差し込まれている場合のみ作動させることができます。

ⓘ 事故の際に、すべてのエアバッグが作動するわけではありません。 各エアバッグシステムは、それぞれ個別に作動します。

エアバッグシステムの作動条件は、事故の大きさ（特に車両の減速度または加速度）および以下のような事故の形態に基づいて決まります。

- 正面衝突
- 側面衝突
- 横転や転覆

エアバッグ

重要な安全上の注意

⚠ 警告

エアバッグは補助的な乗員保護装置で、シートベルトの代わりになるものではありません。

エアバッグの作動により重大なけがをしたり死亡したりする危険性を軽減するため、以下の注意事項をお守りください。

- 妊娠中の女性も含めて、乗員全員が常にシートベルトを正しく着用し、バックレストをできるだけ垂直にしてシートに深く腰かけてください。 ヘッドレストは、中央部が目の高さになるように調整してください。
- 身長約150 cm未満あるいは12 歳未満の子供は、適切なチャイルドセーフティシートに乗せて身体を固定してください。
- 乗員全員がシート位置を正しく調整し、エアバッグとの間隔をできるだけ確保してください。 運転席シートの位置は、安全運転を妨げないように調整してください。 運転者の胸と運転席エアバッグの距離をできるだけ確保してください。
- 助手席シートはできるだけ後方に移動してください。 特に、助手席にチャイルドセーフティシートを装着して子供

を乗せるときは助手席シートを後方に移動することが大切です。

- サイドバッグやウインドウバッグが膨らむウインドウ周辺には頭部を寄りかけないでください。特に、お子様にはご注意ください。
- 助手席シートエアバッグの機能が解除されている場合を除いて、後ろ向きのチャイルドセーフティシートを助手席に設置しないでください。 チャイルドセーフティシート検知システム装備車の助手席に、センサー付き純正チャイルドセーフティシートを装着する場合は、助手席エアバッグが解除されます。 助手席エアバッグオフ表示灯 [図] が点灯し続けます。

  助手席にチャイルドセーフティシート検知システムが装備されていない場合や、後ろ向きに装着するタイプのチャイルドセーフティシートは、必ず後席に装着してください。 やむを得ず助手席に前向きのチャイルドセーフティシートを装着する場合は、助手席シートをもっとも後ろの位置に調整してください。
- 衣服のポケットに重い物やとがった物を入れないでください。
- 特に走行中は、運転席・助手席フロントエアバッグの格納部にもたれかかったりしないでください。
- ダッシュボードの上に足をのせないでください。
- ステアリングは必ず外側を握ってください。 それにより、エアバッグを十分に膨らませることができます。 ステアリングの内側を握った状態でエアバッグが作動すると、運転者がけがをするおそれがあります。
- ドアに寄りかからないでください。
- エアバッグ作動範囲と乗員の間にペットや荷物を置かないでください。
- バックレストとドアの間に物を置かないでください。
- アシストグリップやコートフックに、コートハンガーなどのかたい物をかけないでください。
- ドアにカップホルダーなどのアクセサリーを取り付けないでください。

エアバッグは瞬時に作動する必要があるため、エアバッグの作動によりけがをする危険性を排除することは不可能です。

⚠ 警告

エアバッグを確実に機能させるため、以下のエアバッグ格納部には、バッジ、ステッカーなどを取り付けないでください。

- ステアリングパッド部
- ステアリング下部のニーバッグ格納部
- 助手席フロントエアバッグカバー
- シートバックレストの外側

⚠ 警告

エアバッグが作動すると、少量の白煙が発生することがあります。 この白煙を吸い込むと、ぜんそくや肺疾患のある方は一時的に呼吸障害を起こすおそれがあります。

呼吸障害を防止するため、安全を確認のうえただちに車外に出てください。 または、ウインドウを開いて新鮮な空気を車内に取り込んでください。 この白煙は、人体への影響はありません。また、火災の心配はありません。

⚠ 警告

エアバッグが作動した直後は、エアバッグの構成部品が熱くなっています。 やけどの原因となりますので、エアバッグの構成部品には触れないでください。

作動したエアバッグは、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で交換してください。 交換しないと、次に事故が起こった際にエアバッグで乗員を保護できません。

衝突の際にエアバッグが作動すると、乗員の身体の移動を抑えて拘束します。

エアバッグが作動するときに、作動音が聞こえ、空中に少量の白煙が発生するこ

とがあります。 作動音は、ごくまれに聴力に影響を与えることがあります。 放出される白煙は人体への影響はありません。 SRS警告灯 が点灯します。

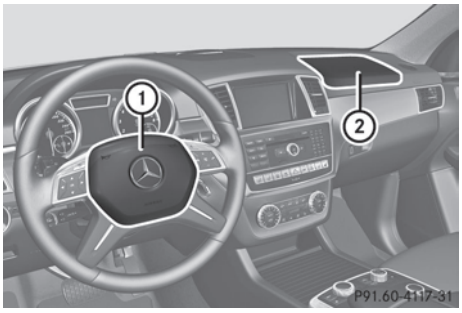
エアバッグの格納場所には、エアバッグのマークが付いています。

取り付け位置

エアバッグ	格納場所
運転席エアバッグ	ステアリングパッド部
助手席エアバッグ	グローブボックス上部のダッシュボード部
運転席ニーバッグ	ステアリングコラム下部の運転席パネル
サイドバッグ	運転席と助手席、および2列目シートの外側シートのシートバックレスト外側
ウインドウバッグ	Aピラー側方からCピラーのルーフフレーム

フロントエアバッグ

! 助手席シートには重い物を置かないでください。 助手席シートに乗員が座っているとシステムが誤って判断する原因になり、衝突の際に助手席エアバッグが作動するおそれがあります。作動したエアバッグは新品と交換してください。



運転席エアバッグ ① はステアリング正面で膨らみ、助手席エアバッグ ② はグローブボックスの正面と上部で膨らみます。

フロントエアバッグは、運転者と乗員の頭部や胸部を保護する効果を高めます。

ヘッドバッグは以下のときに作動します。

- 衝突の初期段階で、車両の縦方向に一定以上の高い加速度または減速度を検知したとき
- エアバッグの作動が、シートベルトの乗員保護機能を高めるとシステムが判断したとき
- シートベルト着用の有無に応じて作動します。
- 車内の他のエアバッグの作動に関係なく作動します。

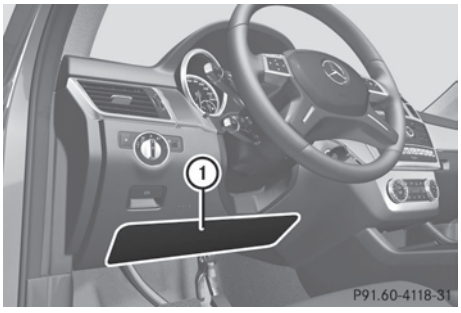
車両が横転または転覆したときは、フロントエアバッグは通常作動しません。 システムが車両の縦方向に一定以上の減速度を検知したときに、フロントエアバッグは作動します。

助手席シートチャイルドセーフティシート自動検知装備車両： 助手席エアバッグは、助手席に乗車しているとシステムが判断した場合にのみ作動します。センターコンソールの助手席エアバッグオフ表示灯 は点灯しません(▷ 51 ページ)。

チャイルドセーフティシートが助手席シートに装着されている場合、以下のときはセンターコンソールの助手席エアバッグオフ表示灯 [] は点灯しません。

- チャイルドセーフティシート自動検知用トランスポンダーを内蔵していないチャイルドセーフティシートが装着されているとき、または
- チャイルドセーフティシート自動検知用トランスポンダーを内蔵しているチャイルドセーフティシートが正しく装着されていないとき

運転席ニーバッグ



運転席ニーバッグ ① はステアリングコラムの下で展開します。運転席ニーバッグは常に運転席フロントエアバッグと一緒に展開します。運転席ニーバッグは、正面衝突の際に特定の規定値を超えるとフロントエアバッグと一緒に作動するように設計されています。運転席ニーバッグは、シートベルトを正しい位置で着用することで最適に作動します。

運転席ニーバッグは、運転者の以下のような傷害を軽減して乗員保護効果を高めます。

- 膝のけが
- 大腿部のけが
- 下肢のけが

サイドバッグ

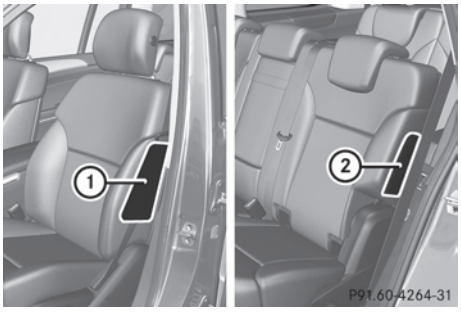
⚠ 警告

シートカバーを装着するときは、安全のため必ずメルセデス・ベンツ車に適合する純正のシートカバーを使用することをお勧めします。

シートカバーには、サイドバッグ専用の裂けた縫い目が必要です。専用の縫い目がないと、事故のときにサイドバッグが適切に作動しなくなり、本来の保護効果を発揮することができません。 適切なシートカバーは、メルセデス・ベンツ指定サービス工場でお求めください。

⚠ 警告

エアバッグを制御するセンサーがドアの内部にあります。 そのため、ドアやドアトリムにスピーカーを追加装備したり改造したりしないでください。 ドアが損傷すると、サイドバッグの作動に悪影響を与えるおそれがあります。



フロントSRSサイドバッグ ① および2列目シートのSRSサイドバッグ ② はシートバックレスト側面で膨らみます。作動すると、サイドバッグは車両の衝撃が発生した側の乗員の胸部および前席では骨盤に補助で保護を行います。 ただし、以下は保護しません。

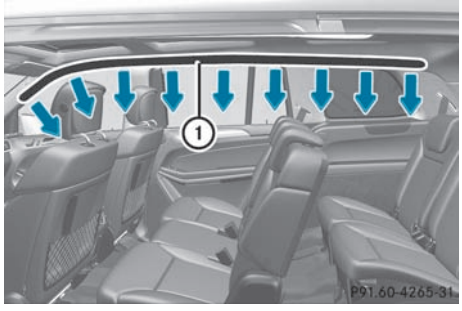
- 頭部
- 頸部
- 腕

サイドバッグは以下の条件で作動します。

- 衝撃を受けた側
- 側面衝突などの初期段階で、車両の横方向の加速度または減速度が高くなったとき
- シートベルトの着用に関係なく作動します。
- フロントエアバッグの作動に連動しません。
- シートベルトテンショナーの作動に連動しません。

車両が横転または転覆した場合、サイドバッグは通常は作動しません。 システムが車両の横方向の高い減速度または加速度を検知するか、または車両が横転し、サイドバッグの作動がシートベルトによるものに補助で保護を行なうことができるとシステムが決定した場合は、サイドバッグは作動します。

ウインドウバッグ



ウインドウバッグ ① は、車両の衝撃が発生した側の乗員の胸部や腕ではなく、頭部の保護レベルを高めます。

ウインドウバッグはルーフフレーム側面に内蔵され、フロントドア（Aピラー）からリアサイドウインドウ（D ピラー）にわたる範囲で作動します。

ウインドウバッグ は以下の条件で作動します。

- 側面衝突などの初期段階で、車両の横方向の加速度または減速度が高くなったとき
- 衝撃を受けた側
- 車両が横転または転覆した際に、ヘッドバッグの作動がシートベルトによる乗員保護効果を高めることができるとシステムが判断したときは、運転席側と助手席側の両方で作動します。
- シートベルトの着用に関係なく作動します。
- 助手席乗員の有無に関わらず作動します。
- フロントエアバッグの作動に連動しません。

PRE-SAFE®(乗員保護装置)

⚠ 警告

シートの位置を調整するときは、乗員が挟まれてけがをしないように注意してください。

! シートの前後位置を調整するときは、足元やシート後方に物がないことを確認してください。 シートや物を損傷するおそれがあります。

PRE-SAFE® は車が危険な状態にあることを察知して、乗員保護に備えるための機能を提供します。

PRE-SAFE® は以下のときに作動します。

- 緊急ブレーキの状況などでBASが作動した場合
- ディストロニック・プラス装備車でBASプラスが強力に介入した場合

- ディストロニック・プラス装備車で、レーダーセンサーが特定の状況で差し迫った衝突の危険を検知したとき
- 物理的限界を超えて車両が著しくアンダーステアやオーバーステアになった場合など、危機的な走行状況で

PRE-SAFE® は感知した危険な状態に応じて、以下のように作動します。

- フロントシートベルトを引き込み、シートベルトの張力を高めます。
- メモリー機能付き車両：助手席シートが好ましくない位置にある場合は調整されます。
- マルチコントロールシートバック装備車：バックレストのサイドサポートの空気圧が増加します。
- 車が横滑りすると、スライディングルーフ / パノラミックスライディングルーフおよびサイドウインドウが少し開いた状態まで閉じます。

事故が起こることなく車が危険な状態から脱したときは、PRE-SAFE® がシートベルトの張力を緩めます。 マルチコントロールシートバック装備車では、サイドサポートの空気圧が再び低下します。 PRE-SAFE® により変更されたすべての設定が元に戻ります。

シートベルトの張力が緩まないとき

▶ 停車中に、バックレスト角度やシートの前後位置を少し動かします。
シートベルトの張力が緩み、ロック機構が解除されます。

シートベルトの調整やPRE-SAFE® に内蔵されたコンビニエンス機能に関するさらなる情報は、"シートベルトの調整" (▷ 47 ページ) にあります。

シートベルト

重要な安全上の注意

⚠ 警告

シートベルトを正しく着用していなかったり、シートベルトがバックルに確実に差し込まれていないと、シートベルトの本来の保護機能が十分に発揮されません。 事故のとき、状況によっては乗員が致命的なけがをするおそれがあります。

妊娠中の女性も含めて、乗員全員が常にシートベルトを正しく着用し、バックレストをできるだけ垂直にしてシートに深く腰かけてください。ヘッドレストは、中央部が目の高さになるように調整してください。

- シートベルトは身体に密着させ、ねじれのないように着用してください。 コートなどの厚手の衣類は着用しないでください。 肩ベルトは肩の中央にかけてください。絶対に首や脇の下には通さないでください。また、シートベルトを引き上げて上半身に密着させてください。 腰ベルトは、腹部を避けて腰骨のできるだけ低い位置にかけてください。 必要であれば、ベルトを少し押し下げた後、再び引き戻してたるみを取ってください。
- とがった物やこわれやすい物にベルトストラップをかけないでください。これは特に、メガネ、ペン、鍵などが衣類の中、または表面にあるときがそうです。事故の際にシートベルトが損傷して裂け、運転者や他の乗員がけがをするおそれがあります。
- 各シートベルトは必ず1 人の乗員が使用します。 絶対に子供を膝の上に座らせて走行しないでください。 急な進路変更時やブレーキ時、衝突時に子供を保護することができなくなります。 その結果、子供と他の乗員が致命的なけがをするおそれがあります。
- 身長約 150 cm 未満の乗員は、シートベルトを正しく着用することができません。 そのため身長約 150 cm 未

▷▷

満の乗員は、体格に応じた専用の乗員保護装置を使用してください。

- 身長約 150 cm 未満または12歳未満の子供は、シートベルトを正しく着用することができません。 そのため、適切なシートの適切なチャイルドセーフティシートに常に固定してください。 さらなる情報は、本取扱説明書安全装備の章にある"子供を乗せるとき"をご覧ください。 チャイルドセーフティシートを装着するときは、メーカーの装着指示に従ってください。
- 乗員が着用しているシートベルトで荷物などを固定しないでください。

⚠ 警告

バックレストをできるだけ垂直に近い位置にしないと、シートベルトの保護機能が十分に発揮できません。 衝突の際に、乗員が致命的なけがをするおそれがあります。

走行する前に、シートが正しい位置に調整され、バックレストがほぼ垂直になっていることを確認してください。

⚠ 警告

汚れたり損傷しているシートベルトや、改造されたシートベルト、事故で衝撃を受けたシートベルトは、本来の保護機能を発揮することができません。 事故のとき、状況によっては乗員が致命的なけがをするおそれがあります。

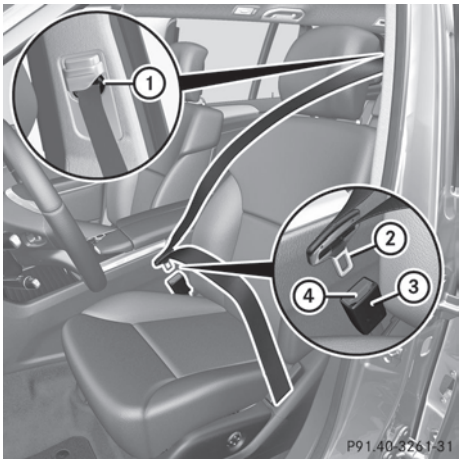
シートベルトに汚れや損傷がないか定期的にチェックしてください。

損傷したシートベルトや事故で衝撃を受けたシートベルトはメルセデス・ベンツ指定サービス工場で交換してください。

安全のため、必ず車両に適合するメルセデス・ベンツ純正のシートベルトを使用してください。

シートベルトは、衝突の際に乗員の身体の移動を最も効果的に抑えることができる拘束装置です。 乗員を拘束することにより、乗員が車内の部品にぶつかるのを防ぎます。

シートベルトの着用



- ▶ シートを調整し、バックレストをできるだけ垂直に近い位置にします。 (▷ 104 ページ)
- ▶ シートベルトをベルトアンカー ① からゆっくり引き出します。
- ▶ ベルトにねじれがないように、シートベルトの肩の部分を肩の中央にかけ、腰の部分を腰の位置にかけます。
- ▶ プレート ② をバックル ③ に差し込みます。
  シートベルトの自動調整機能：必要に応じて、フロントシートベルトが乗員の上半身に密着するように自動的に調整します。 (▷ 47 ページ)
- ▶ 必要であれば、シートベルトの高さを適切に調整します。 (▷ 47 ページ)
- ▶ 必要であれば、肩ベルトを上方に引いて、シートベルトを身体に密着させます。

解除スイッチ ④ でのシートベルトの解除に関するさらなる情報は、"シートベルトの解除"(▷ 47 ページ)をご覧ください。

シートベルトの調整

シートベルト調整は、運転席および助手席シートベルトが乗員の上半身に密着するように、自動的にシートベルトを調整します。

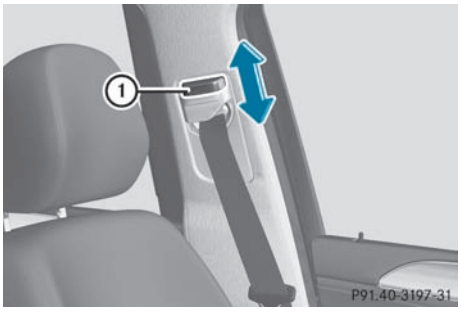
以下のときは、シートベルトを少し引き込みます。

- シートベルトのプレートをバックルに差し込んだ後、イグニッション位置を **2** にしたとき
- イグニッション位置を **2** にした後、シートベルトのプレートをバックルに差し込んだとき

シートベルト調整は、乗員とシートベルトの間にたるみがあることを検知すると、自動的に乗員の上半身に密着するよう調整します。 調整中は、シートベルトを強く保持しないでください。 シートベルト調整は、マルチファンクションディスプレイで選択/解除できます。 (▷ 271 ページ)

シートベルト調整は、PRE-SAFE®コンビニエンス機能の一部です。 PRE-SAFE®に関するさらなる情報は"PRE-SAFE® (予見的乗員保護システム)" (▷ 44 ページ) にあります。

シートベルトの高さ調整

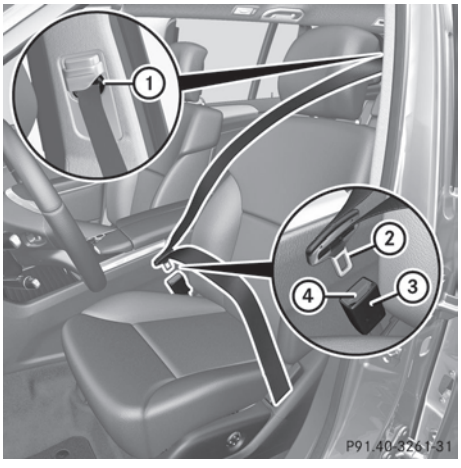


フロントシートのシートベルトの高さを調整することができます。シートベルトの上部が肩の中央にかかるような高さにベルトを調整します。

- **上げる：** ベルトアンカーをそのまま引き上げます。
  ベルトアンカーはお好みの位置に調整できます。
- **下げる：** ベルトアンカーのリリース ① を押して保持します。
- そのままベルトアンカーを下にスライドさせます。
- ベルトアンカーのリリース ① をはなし、ベルトアンカーがロックされていることを確認します。

シートベルトの解除

! シートベルトが完全に巻き取られていることを確認してください。 ベルトが完全に収納されていないと、シートベルトやプレートがドアに挟まれたりシート機構に引っかかることがあります。 その結果、ドアやドアトリムパネル、シートベルトを損傷するおそれがあります。 損傷したシートベルトは保護機能を果たすことができなくなるため、必ず新品と交換してください。メルセデス・ベンツ指定サービス工場にご相談ください。



① ベルトアンカー

② ベルト先端

③ バックル

④ 解除スイッチ

▶ 解除スイッチ ④ を押して、ベルト先端 ② をベルトアンカー ① の方向に戻します。

運転席および助手席のシートベルト着用警告

メーターパネルのシートベルト警告灯 [icon] は、乗員にシートベルトの着用を促します。 警告灯は点灯し続けるか点滅します。 また、警告音が鳴る場合もあります。

運転者と助手席乗員がシートベルトを着用すると、シートベルト警告灯 [icon] が消灯し、警告音が鳴り止みます。

特定の国のみ：運転者と助手席乗員がシートベルトを着用しているかどうかに関わらず、エンジン始動後にシートベルト警告灯 [icon] が約6 秒間点灯します。

運転者と助手席乗員がシートベルトを着用すると、警告灯が消灯します。

ⓘ [icon] に関するさらなる情報は、"メーターパネルの警告灯と表示灯、シートベルト" (▷ 314 ページ) をご覧ください。

シートベルトテンショナー、ベルトフォースリミッター

⚠ 警告

シートベルトテンショナーは一度作動すると、保護機能がなくなり再使用できません。 したがって、作動したシートベルトテンショナーはメルセデス・ベンツ指定サービス工場で新品と交換してください。

シートベルトテンショナーを廃棄するときは、廃棄規則をお守りください。 この規則について詳しくは、メルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

❗ 助手席に乗車していない場合は、助手席シートベルトのプレートをバックルに差し込まないでください。 衝突の際にシートベルトテンショナーが作動することがあります。

▶ 火薬式シートベルトテンショナーが作動していないことを確認するために、事故の後は必ずシートベルトを点検してください。
シートベルトテンショナーが作動していた場合は、それらを交換しなければなりません。

以下のシートのシートベルトにはシートベルトテンショナーおよびベルトフォースリミッターがあります。

- 運転席および助手席シート
- 2列目外側のシート
- 3列目のシート

シートベルトテンショナーは、衝突時にシートベルトを瞬時に巻き上げ、乗員の身体に密着させる働きをします。

ただし、シートベルトテンショナーは、適切でないシート位置や正しく着用していないシートベルトを補正することはできません。

シートベルトテンショナーは、乗員の上体をバックレストに引き寄せるためのものではありません。

ベルトフォースリミッター付きシートベルトでは、ベルトフォースリミッターが作動して衝突時に巻き上げたベルトの拘束力を緩め、乗員の身体を加わる負担を軽減します。

フロントシートのベルトフォースリミッターは、減速力の一部となるフロントエアバッグと同期しています。その結果、乗員にかかる力はより広い範囲に分散されます。

シートベルトテンショナーは、次のような場合に作動します。

- エンジンスイッチがオンになっているとき
- 乗員保護装置が正常に作動しているとき。"SRS警告灯" (▷ 39 ページ)を参照してください。

2列目外側のシートと3列目のシートのシートベルトテンショナーはシートベルトの着用状況とは別に作動します。

シートベルトテンショナーは、事故の形態や大きさに応じて次のような場合に作動します。

- 正面衝突または追突の際に、衝突の初期段階で車両の縦方向の減速度または加速度が急激に大きくなった場合
- 側面衝突の際に、衝撃を受けた反対側で車両の横方向の加速度または減速度が急激に大きくなった場合
- 車両が横転または転覆した状況で、シートベルトテンショナーが保護機能を高めるとシステムが判断した場合

エアバッグが作動するときに、作動音が聞こえ、空中に少量の白煙が発生することがあります。 作動音は、ごくまれに聴力に影響を与えることがあります。 放出される白煙は人体への影響はありません。 SRS警告灯 が点灯します。

事故のとき

事故のとき

▶ 周囲の道路や交通状況に注意しながら、すみやかに安全な場所に停車してください。
▶ 非常点滅灯を点滅させます。
▶ パーキングブレーキをかけます。
▶ 周囲の安全を確認して、乗員は車から降りてください。
▶ 危険な場所に誰も近づかないようにしてください。 フェンスなどで区切った安全な場所に乗員を避難させてください。
▶ 適切な場所に停止表示板を置いてください。

自動車道路や高速道路では、後続の交通に警告するため、停止表示板を使用することが法律で義務付けられています。

車が動かなくなったとき

▶ シフトポジションを **N** にします。
▶ パーキングブレーキを解除します。
▶ 安全な場所まで車を押して移動してください。
必要な場合は、同乗者か付近の人に救援を求めてください。

オートマチックトランスミッションをシフトポジション **N** にできない場合、運転者と乗員は危険な範囲からただちに離れてください。

ⓘ エンジンスイッチをオンにし車輪が回転し始めると、車が自動的に施錠されます。 そのため、車を押すときやダイナモメーターで性能をテストするときなどは、車外に閉め出されるおそれがあります。

ⓘ 踏切内で車が動けなくなったときは、ただちに踏切の非常ボタンを押してください。 緊急を要する場合は、非常信号用具も使用してください。

子供を乗せるとき

チャイルドセーフティシート

重要な安全上の注意

⚠ 警告

急な進路変更時やブレーキ時、衝突時などに子供が致命的なけがをするのを防ぐため、以下の点に注意してください。

- 身長が約1.50m未満および12 歳以下の子供は常に、車両の適切なシートに装着した特別のチャイルドセーフティシートで固定しなければなりません。シートベルトは子供向けに設計されていないため、これは必要なことです。
- 助手席の後ろ向きのチャイルドセーフティシートに子供を固定して走行しないでください。例外：助手席シートにチャイルドセーフティシート自動検知が装備されている車両でチャイルドセーフティシート自動検知用のトランスポンダー付きチャイルドセーフティシートに子供が固定されている場合
- 助手席に前向きのチャイルドセーフティシートを固定する場合は、助手席シートをできるだけ後方に動かしてください。
- 絶対に子供を膝の上に座らせて走行しないでください。 急な進路変更時や急ブレーキ時、衝突時に発生する力により、子供を保護することができなくなります。 子供が車内の部品に激しくぶつけられ、致命的なけがをするおそれがあります。

⚠ 警告

チャイルドセーフティシートに固定してあっても、保護者のいない子供を車両に残さないでください。 子供が車両の各部に触れてけがをするおそれがあります。また、車内が高温または低温になった状態では、命に関わります。

チャイルドセーフティシートは直射日光に当てないでください。 チャイルドセーフティシートの各部が高温になり、子供が火傷をするおそれがあります。

子供が誤ってドアを開くと、子供や周囲の人がけがをするおそれがあります。 子供が車外に出てけがをしたり、通りかかった車にはねられ致命的なけがをするおそれがあります。

ホールド機能に関する注意事項をご覧ください。これは同じキーワードで見つけられます。

⚠ 警告

荷物が固定されていなかったり適切な位置に置かれていないと、以下のような場合に子供や他の乗員がけがをする危険性が高くなります。

- 事故のとき
- 急ブレーキ時
- 急な進路変更時

車内に重い荷物やかたい荷物を積むときは、確実に固定してください。 詳しくは、さくいんにある"荷物を積むときの注意点"をご覧ください。

子供が乗車して走行するときは、メルセデス・ベンツ車のために推奨されたチャイルドセーフティシートを使用して子供を固定してください。チャイルドセーフティシートは、子供の年齢、重量および体格に適していなくてはなりません。チャイルドセーフティシートはできれば適切な後席に装着してください。 走行中は、子供が固定されていることを確認してください。

チャイルドセーフティシートは、一覧表に案内された製品のご使用をお勧めします。(▷ 58 ページ) 適切なチャイルドセーフティシートについて、詳しくはメルセデス・ベンツ指定サービス工場にご相談ください。

ⓘ チャイルドセーフティシートを清掃するときは、メルセデス・ベンツ純正のカーケア用品のご使用をお勧めします。詳しくは、メルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

チャイルドセーフティシート(助手席)

⚠ 警告

助手席フロントエアバッグの機能が解除されていないときは、以下のように対処してください。

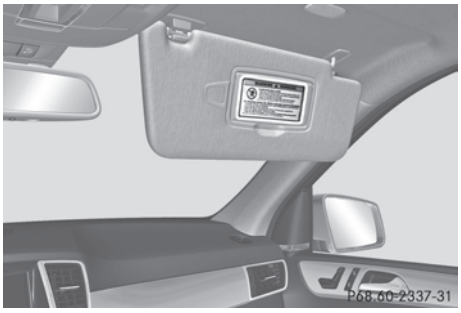
- 助手席エアバッグの展開により、助手席シートのチャイルドセーフティシートに固定されている子供が重大な、または致命的なけがをするおそれがあります。展開したときに子供が助手席エアバッグのすぐそばにいる場合は、特に危険です。
- 後ろ向きで装着するタイプのチャイルドセーフティシートを助手席に装着して、子供を乗せないでください。 後ろ向きのチャイルドセーフティシートは、必ず適切なリアシートに装着してください。
- 前向きのチャイルドセーフティシートを助手席に装着して子供を乗せるときは、必ず助手席シートをできるだけ後方に下げてください。

次のような場合、助手席フロントエアバッグの機能は解除されません。

- 助手席シートにチャイルドセーフティシートセンサーが装備されていない車両
- 助手席シートにチャイルドセーフティシート自動検知が装備されている車両で、チャイルドセーフティシート自動検知用トランスポンダー付きチャイルドセーフティシートが助手席シートに装着されていない場合
- 助手席シートにチャイルドセーフティシート自動検知が装着されている車両で、助手席エアバッグオフ表示灯 が点灯しない場合

このような危険に注意を促すため、ダッシュボードと助手席側サンバイザーの両側に警告ステッカーが貼られています。

純正のチャイルドセーフティシートについては、メルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。



助手席側サンバイザーに貼付されている警告ステッカー



後ろ向きで装着するタイプのチャイルドセーフティシートの警告マーク

前方に装着されているエアバッグで保護されているシートで、後ろ向きのチャイルドセーフティシートを使用しないでください。

チャイルドセーフティシートセンサー(助手席)

⚠ 警告

チャイルドセーフティシートを装着していても助手席エアバッグオフ表示灯 が点灯しないときは、助手席エアバッグの機能は解除されていません。 助手席エアバッグが作動した場合、子供が致命的なけがをするおそれがあります。

▷▷

以下のように対処してください。

- 後ろ向きのチャイルドセーフティシートは助手席に装着しないでください。
- 後ろ向きのチャイルドセーフティシートは適切なリアシートに装着してください。

または

- 助手席には必ず前向きのチャイルドセーフティシートを装着し、助手席シートを最後部に移動してください。
- メルセデス・ベンツ指定サービス工場でチャイルドセーフティシートセンサーの点検を受けてください。

助手席のチャイルドセーフティシートセンサーが正しく機能し、通信を行なうことができるように、チャイルドセーフティシートの下にクッションなどを置かないでください。 チャイルドセーフティシートの底面全体がシートクッションに接触するようにしてください。 チャイルドセーフティシートが適切に装着されていないと、事故の際に保護機能を発揮することができなくなり、傷害を受けるおそれがあります。

⚠ 警告

助手席シートには、以下のような電子機器を置かないでください。

- 電源の入ったノートパソコン
- 携帯電話
- ICカードや磁気カード

電子機器からの信号がチャイルドセーフティシート自動検知センサーシステムへの干渉の原因になることがあります。 システムの故障につながります。 チャイルドセーフティシート自動検知用のトランスポンダーがチャイルドセーフティシートに装着されていなくても、助手席エアバッグオフ表示灯 [ ] が点灯する原因になることがあります。 事故の間に助手席エアバッグが作動しなくなります。 エンジンスイッチのキーを2の位置にまわしたときに、SRS警告灯 [ ] が点灯したり、助手席エアバッグオフ表示灯 [ ] が少しの間点灯しなくなる可能性もあります。



車両の助手席にチャイルドセーフティシート自動検知がない場合は、特別なステッカーによって示されます。 ステッカーは、助手席側のダッシュボード側面に貼られています。 助手席ドアを開くと、このステッカーが見えます。

助手席シートにチャイルドセーフティシート自動検知のない車両：エンジンスイッチのキーを2の位置にまわすと、助手席エアバッグオフ表示灯 [ ] が少しの間点灯します。しかし、機能はなく、助手席シートにチャイルドセーフティシート自動検知が装備されていることは示していません。



チャイルドセーフティシート用の助手席シートセンサーシステムは、チャイルドセーフティシート自動検知用のトランスポンダー付きの特別なメルセデス・ベンツのチャイルドセーフティシートが装着されているかどうかを検知します。 この

ような場合、助手席エアバッグオフ表示灯 [ ]① が点灯します。 助手席エアバッグが作動しなくなります。

ℹ チャイルドセーフティシートセンサーにより助手席フロントエアバッグの機能が解除されている場合でも、助手席側の以下の装置は通常どおりに作動します。

- サイドバッグ
- ウインドウバッグ
- シートベルトテンショナー

リアシート用ISO-FIX対応チャイルドセーフティシート固定装置

⚠ 警告

ISOFIX 対応チャイルドセーフティシート固定装置により固定されているチャイルドセーフティシートは、体重約22 kg以上の子供には十分な保護機能を発揮することができません。 そのため、体重約22 kg以上の子供は、ISOFIX 対応チャイルドセーフティシート固定装置で固定されたチャイルドセーフティシートで固定しないでください。 同様に子供の体重が 22 kg以上の場合は、チャイルドセーフティシートを車両のシートベルトで固定します。さらに、チャイルドセーフティシートを装着するときは、メーカーの取扱説明書およびチャイルドセーフティシートの正しい使用方法の説明を遵守してください。

⚠ 警告

チャイルドセーフティシートは、車両の適切なシートに正しく装着されていないと、保護機能を発揮することができません。 事故、急ブレーキまたは突然の進路変更のときに、子供を保護することができなくなります。子供が重大な、または致命的なけがをするおそれがあります。 このため、チャイルドセーフティシートを装着するときは、メーカーの取扱説明書およびチャイルドセーフティシートの正しい使用方法の説明を遵守してください。

安全上の理由で、チャイルドセーフティシートを外側のリアシートに装着するときは、メルセデス・ベンツ車のために特別にテストおよび承認されたISO-FIX 対応チャイルドセーフティシート固定装置付きのチャイルドセーフティシートのみを使用してください。

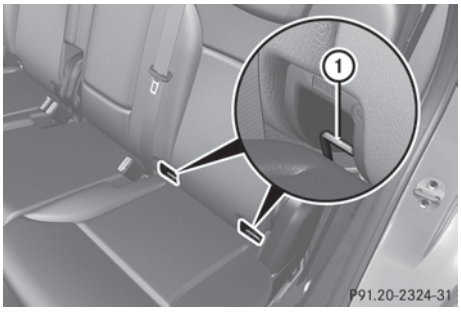
正しく装着されていないと、チャイルドセーフティシートが外れ、子供と他の乗員が致命的なけがをするおそれがあります。 チャイルドセーフティシートを装着したら、左右の固定リングに確実に固定されているか必ず確認してください。

チャイルドセーフティシートが想定されるようにその保護機能を発揮できることを確認するためには、2列目の外側シートのバックレストが直立の位置になければなりません。

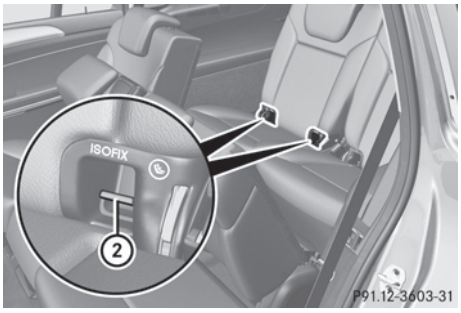
⚠ 警告

チャイルドセーフティシートや固定装置が事故で損傷したり強い負荷を受けた場合は、保護機能が得られなくなるおそれがあります。 その結果、衝突時、急ブレーキ時、急な進路変更時に、この装置で固定された子供が致命的なけがをするおそれがあります。

そのため、事故で損傷したり強い負荷を受けたチャイルドセーフティシートや固定装置は、ただちにメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。



2列目外側シートの固定リング



3列目シートの固定リング

2つのISO-FIX対応チャイルドセーフティシート用固定リング ① および ② は左と右にあります。

- 2列目外側シートのリアシートバックレストの上
- 3列目シートのバックレストの上

ISO-FIX対応チャイルドセーフティシートを2列目に装着する前に

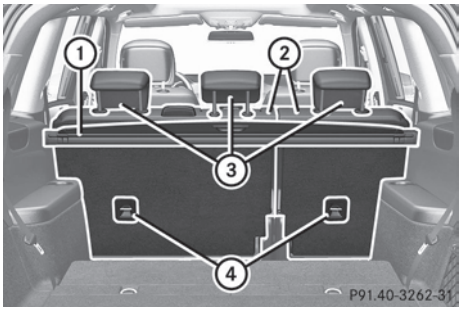
▶ 2列目リアシートのバックレストを直立の位置に動かします(▷ 108 ページ)。

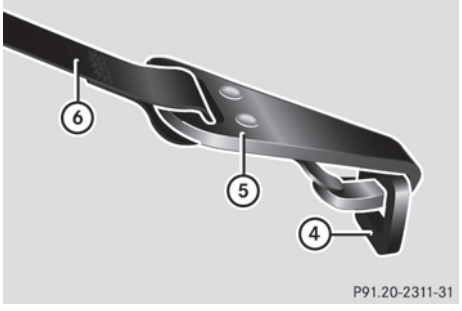
▶ ISO-FIX対応チャイルドセーフティシート固定装置を取り付けます。

ISO-FIX対応チャイルドセーフティシート固定装置を装着するときは、製品に付属の取扱説明書の指示に従ってください。

テザーアンカー

テザーアンカー





テザーアンカーは、ISO-FIX対応チャイルドセーフティシートとリアシートを接続するための補助的な固定装置です。 この装置は、傷害の危険性をさらに低減します。

2列目シートのテザーアンカーは、両方の外側リアシートのバックレストの背面にあります。3列目シートでは、ラゲッジルームフロアにある固定用リングを使用します。

▶ ヘッドレスト ③ を上方に動かします。

▶ テザーアンカーを使用して、ISO-FIX対応チャイルドセーフティシートを装着します。 装着時はチャイルドセーフティシートに付属の取扱説明書の指示に従ってください。

▶ ヘッドレスト ③ の下の2本のヘッドレストのバーの間にテザーアンカーベルト⑥ を通します。

- ラゲッジルームカバー ① とリアシートバックレスト ②の間でテザーアンカーベルト ⑥ を下方へ通します。
- テザーアンカーベルト ⑥ のテザーアンカーフック ⑤ をテザーアンカー ④ に掛けます。
  以下のことを確認してください。
  - 示すように、テザーアンカーフック ⑤ がテザーアンカー ④ に掛かっていること
  - テザーアンカーベルト ⑥ がねじれていないこと
  - ラゲッジルームカバーが装着されている場合は、テザーアンカーベルト ⑥ がリアシートバックレスト ② とラゲッジルームカバー ① の間を通っていること
  - セーフティネットが装着されている場合は、テザーアンカーベルト ⑥ がリアシートバックレスト ② とセーフティネットの間を通っていること
- テザーアンカーベルト ⑥ をピンと張ります。 そうするときは、メーカーの装着指示に従ってください。
- 必要であれば、ヘッドレスト ③ を再度下方に少し動かします。 (▷ 107 ページ) テザーアンカーベルト ⑥ の正しい取り回しが妨げられていないことを確認してください。

チャイルドセーフティシートセンサーのトラブル

トラブル	考えられる原因および影響 ▶ 解決方法
センターコンソールの助手席エアバッグオフ表示灯が点灯する。	助手席シートに、チャイルドセーフティシートセンサー用トランスポンダーを内蔵するメルセデス・ベンツ純正チャイルドセーフティシートが装着されている。 そのため、助手席エアバッグの機能が解除されている。
センターコンソールの助手席エアバッグオフ表示灯が点灯する。 または イグニッションをオンにすると警告灯 が点灯し、助手席エアバッグオフ表示灯 が短い間点灯しない。	⚠ 警告 助手席シートにチャイルドセーフティシートが装着されていない。 チャイルドセーフティシートセンサーが故障している。 けがをするおそれがあります。 ▶ 助手席シートの座面に以下のような電子機器が置いてあるときは取り除いてください。 • ノートパソコン • 携帯電話 • ICカードや磁気カード 助手席エアバッグオフ表示灯が点灯したままのとき ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

チャイルドセーフティシートの適切な装着位置

▶ チャイルドセーフティシートを助手席シートに装着している場合は、助手席シートを最も後ろの位置にしてください。

▶ チャイルドセーフティシートを2列目リアシートに装着している場合は、2列目リアシートのバックレストを直立位置に動かしてください。

下表の記号説明

X このカテゴリー（適応体重）の子供には適切でないシート

U この重量カテゴリーでの使用が承認されている、"ユニバーサル"カテゴリーのチャイルドセーフティシートに適合

L 推奨されているようなチャイルドセーフティシートに適合。以下の"推奨チャイルドセーフティシート"表 (▷ 58 ページ) をご覧ください。

助手席シート

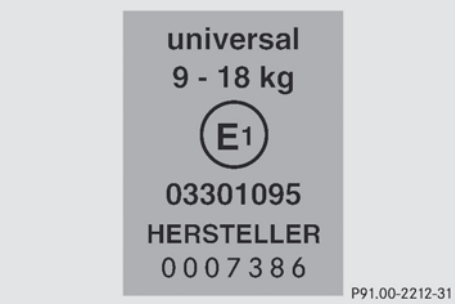
カテゴリー（適応体重）	助手席エアバッグは解除されません。	助手席エアバッグの機能は解除されている
カテゴリー（適応体重） 0：10 kg 以下	X	U
カテゴリー（適応体重） 0+：13 kg 以下	X	U
グループ I：9～18 kg	L	U
カテゴリー（適応体重） II：15 ～ 25 kg	L	L
グループ III：22～36 kg	L	L

助手席シートにチャイルドセーフティシート自動検知のある車両： 助手席エアバッグが作動しないときは、チャイルドセーフティシート自動検知用トランスポンダー付き"ユニバーサル" カテゴリーのチャイルドセーフティシートを装着しなければなりません。助手席エアバッグオフ表示灯 [☒₂] が点灯していなければなりません。

リアシート

カテゴリー（適応体重）	3列目シート、左と右	センター部
カテゴリー（適応体重） 0：10 kg 以下	U	X
カテゴリー（適応体重） 0+：13 kg 以下	U	X
カテゴリー（適応体重） I：9 ～ 18 kg	U	L
カテゴリー（適応体重） II：15 ～ 25 kg	U	L
グループ III：22～36 kg	U	L

"ユニバーサル" のチャイルドセーフティシートは、オレンジ色の認証ラベルが目印です。



例：純正チャイルドセーフティシートの認証ラベル

ISO-FIX対応チャイルドセーフティシートを装着するための後席の適合性

下表の記号説明

X　この体重やサイズのカテゴリーでISO-FIX対応チャイルドセーフティシートに適さないISO-FIXのポジション

IUF　この重量カテゴリーでの使用を承認されている"ユニバーサル"カテゴリーに属するISO-FIX対応チャイルドセーフティシートに適合

IL　ISO-FIX対応チャイルドセーフティシートに適切。下表"推奨チャイルドセーフティシート" (▷ 58 ページ) をご覧ください。

幼児用ベッドカテゴリー（適応体重）

サイズ等級	装着器具タイプ	左右リアシート
F	ISO/L1	X
G	ISO/L2	X

カテゴリー（適応体重） 0： 約10 kg以下、生後6 カ月位まで

サイズ等級	装着器具タイプ	左右リアシート
E	ISO/R1	IL

カテゴリー（適応体重） 0+： 約13 kg以下、生後15 カ月位まで

サイズ等級	装着器具タイプ	左右リアシート
E	ISO/R1	IL
D	ISO/R2	IL
C	ISO/R3	IL

カテゴリー（適応体重） I： 約9 ～ 18 kg、9 カ月 ～ 4 歳位

サイズ等級	装着器具タイプ	左右リアシート
D	ISO/R2	IL
C	ISO/R3	IL
B	ISO/F2	IUF
B1	ISO/F2X	IUF
A	ISO/F3	IUF

純正チャイルドセーフティシート

チャイルドセーフティシート検知システム用トランスポンダーを内蔵しないチャイルドセーフティシートが助手席シートに装着されている場合。

▶ 助手席シートを最高位および最後方の位置に動かします。

カテゴリー（適応体重）0： 約10 kg以下、生後6 カ月位まで

メーカー	Britax Römer
タイプ	ベビーセーフプラス
認証番号 (E1 ...)	03 301146 04 301146

注文番号 (A 000 ...)	970 10 00
チャイルドセーフティシート検知システム	対応

カテゴリー（適応体重） 0+： 約13 kg 以下、生後15 カ月位まで

メーカー	Britax Römer
タイプ	ベビーセーフプラス
認証番号 (E1 ...)	03 301146 04 301146
注文番号 (A 000 ...)	970 10 00
チャイルドセーフティシート検知システム	対応

カテゴリー（適応体重） I： 約9 ～ 18 kg、9 カ月 ～ 4 歳位

メーカー	Britax Römer	Britax Römer
タイプ	デュオプラス	デュオプラス
認証番号 (E1 ...)	03 301133 04 301133	03 301133 04 301133
注文番号 (A 000 ...)	970 11 00	970 16 00
チャイルドセーフティシート検知システム	対応	非対応

カテゴリー（適応体重） II/III： 約15～ 36 kg、4～ 12 歳位

メーカー	Britax Römer	Britax Römer
タイプ	キッド	キッド
認証番号 (E1 ...)	03 301148 04 301148	03 301148 04 301148
注文番号 (A 000 ...)	970 12 00	970 17 00
チャイルドセーフティシート検知システム	対応	非対応

推奨 "ユニバーサル" ISO-FIX対応チャイルドセーフティシート：

幼児用ベッドカテゴリー（適応体重）

サイズ等級	F、G
メーカー	–
タイプ	–
認証番号 (E1 ...)	–
注文番号	–
チャイルドセーフティシート検知システム	–

カテゴリー（適応体重） 0： 10 kg 以下

サイズ等級	E
メーカー	–
タイプ	–

認証番号 (E1 ...)	–
注文番号	–
チャイルドセーフティシート検知システム	–

カテゴリー（適応体重） 0+： 13 kg 以下

サイズ等級	E	D, C
メーカー	Britax Römer	–
タイプ	ベビーセーフ ISO-FIX プラス	–
認証番号 (E1 ...)	04 301146	–
注文番号	B6 6 86 8224	–
チャイルドセーフティシート検知システム	非対応	–

カテゴリー（適応体重） I： 9 ～ 18 kg

サイズ等級	D、C、B、A
メーカー	–
タイプ	–
認証番号 (E1 ...)	–
注文番号	–
チャイルドセーフティシート検知システム	–

サイズ等級	B1
メーカー	Britax Römer
タイプ	デュオプラス
認証番号 (E1 ...)	03 301133 04 301133
注文番号	A000 970 11 00
チャイルドセーフティシート検知システム	対応

チャイルドプルーフロック

重要な安全上の注意

⚠ 警告

子供が同乗しているときは、リアドアとリアウインドウのチャイルドプルーフロックを設定してください。 走行中に子供がドアやサイドウインドウを開き、子供や他の乗員がけがをするおそれがあります。

⚠ 警告

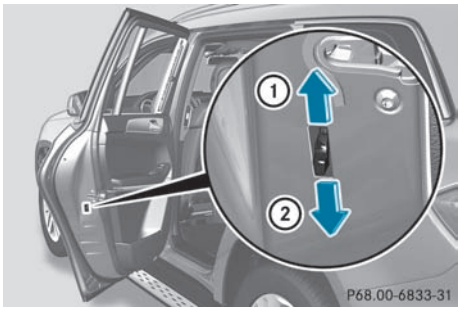
チャイルドセーフティシートに子供を乗せている場合でも、子供だけを車内に残して車から離れないでください。 子供が車両の各部に触れてけがをするおそれがあります。 また、長時間高温や低温にさらされると、命に関わります。

チャイルドセーフティシートは直射日光に当てないでください。 チャイルドセーフティシートの各部が高温になり、子供が火傷をするおそれがあります。

子供が誤ってドアを開くと、子供や周囲の人がけがをするおそれがあります。 子供が車外に出てけがをしたり、通りかかった車にはねられ重傷を負うおそれがあります。

また、ホールド機能に関する注意事項を守ってください。 この情報については、さくいんをご覧ください。

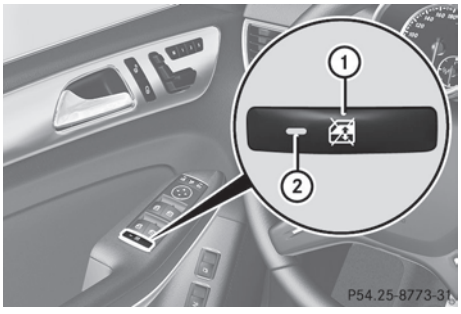
リアドアのチャイルドプルーフロック



リアドアのチャイルドプルーフロックを使用して、各ドアを個別にロックできます。 チャイルドプルーフロックを設定すると、車内のドアレバーを引いてもリアドアが開かなくなります。 車が解錠されているときは、車外のドアハンドルを操作してドアを開くことができます。

- ▶ **作動させる：** チャイルドプルーフロックレバーを矢印の方向 ② に下方に押します。
- ▶ チャイルドプルーフロックが正常に設定されていることを確認します。
- ▶ **解除する：** チャイルドプルーフロックレバーを矢印の方向 ① に上方に押します。

リアサイドウインドウのチャイルドプルーフロック



- ▶ **作動/解除する：** スイッチ ① を押します。
  表示灯 ② が点灯する場合は、リアサイドウインドウの操作はできません。運転席ドアのスイッチを使用してのみ、操作が可能です。 表示灯 ② が消灯している場合は、後席のスイッチを使用しての操作が可能です。

走行安全システム

走行安全装備の概要

この章では、以下の走行安全装備に関する情報を記載しています。

- ABS(**A**nti-lock **B**raking **S**ystem)（アンチロック・ブレーキング・システム）(▷ 62 ページ)
- BAS(**B**rake **A**ssist **S**ystem) （ブレーキアシスト）(▷ 63 ページ)
- BASプラス（**B**rake **A**ssist **S**ystem PLUS）（ブレーキアシストプラス）(▷ 63 ページ)
- コリジョンプリベンションアシスト (▷ 65 ページ)
- アダプティブブレーキライト(▷ 67 ページ)
- ESP®(**E**lectronic **S**tability **P**rogram)（エレクトロニック・スタ

ビリティ・プログラム）(▷ 67 ページ)
- EBD （ **E**lectronic **B**rake-force **D**istribution）(エレクトロニック・ブレーキパワー・ディストリビューション）(▷ 70 ページ)
- アダプティブブレーキ(▷ 71 ページ)
- PRE-SAFE® ブレーキ (▷ 71 ページ)
- ステアコントロール(▷ 73 ページ)

重要な安全上の注意

運転スタイルを合わせなかったり、注意が散漫になると、走行安全装備は事故の危険性を低減できないだけでなく、物理的法則を超えることもできません。 走行安全装備は、運転を補助するために設計された支援のみを行なうシステムです。 先行車両との距離や車両の速度、適切なブレーキ操作の責任は運転者にあります。 常に実際の道路や天候状況に適するように運転スタイルを合わせ、先行車との安全な距離を保ってください。 注意して運転してください。

ⓘ 記載している走行安全装備は、タイヤと路面が十分に接触しているときにのみ、最大限の効果を発揮することができます。 タイヤや推奨されるタイヤの残り溝の最小深さなどの注意事項に特に注意してください(▷ 388 ページ)。

冬の走行状況では、必ずウィンタータイヤ (M+S tyres) を、必要であればスノーチェーンを使用してください。 このようにすることで、本章に記載されている走行安全装備の効果を十分に発揮させることができます。

ABS(アンチロック・ブレーキング・システム)

重要な安全上の注意

ⓘ "重要な安全上の注意"に従ってください。 (▷ 62 ページ)

⚠ 警告

ABSに異常があるときは、ブレーキ時に車輪がロックすることがあります。 ステアリングでの操縦性およびブレーキ性能が著しく損なわれることがあります。 さらに、他の走行安全装備が解除されます。 横滑りや事故の危険が高まります。

注意して運転してください。 ただちにメルセデス・ベンツ指定サービス工場でABSの点検をしてください。

ABSが故障しているときは、走行安全装備をふくめた他のシステムも作動しません。 ABS警告灯 (▷ 315 ページ) とメーターパネル (▷ 277 ページ)に表示されるディスプレイメッセージに関する情報を遵守してください。

ABSは、ブレーキ圧をコントロールすることで、ブレーキ時の車輪のロックを防ぐ装置です。 そのため、ブレーキをかけながら、ステアリング操作を続けることができます。

ABSは路面の状況に関わらず、走行速度が 8 km/h を超えると作動可能になります。 滑りやすい路面では、軽くブレーキペダルを踏み込んだだけでもABSは作動します。

イグニッションがオンのときに、メーターパネルの黄のABS警告灯 [ABS] は点灯します。 エンジンがかかっているときは消灯します。

ブレーキ警告灯

- **ABSが作動したとき：** 必要なだけ、そのままブレーキペダルを踏み続けてください。
- **強い制動力が必要なとき：** ブレーキペダルをいっぱいに踏み込んでください。

ブレーキ時にABSが作動すると、ブレーキペダルが小刻みに振動することがあります。

ブレーキペダルの小刻みな振動は、危険な路面状況を知らせる信号であり、運転者に慎重な運転を促す機能を果たします。

オフロードABS

オフロードの地形に特に適したABSシステムは、オフロードプログラムが作動すると自動的に作動します。

- オン&オフロードパッケージ非装備車 (▷ 244 ページ)
- オン&オフロード パッケージ装備車 (▷ 244 ページ)

30 km/h以下の速度では、前輪はブレーキ中に周期的にロックします。 オフロードを走行しているときは、作動中の土を掘る作用により制動距離が減少します。これは操舵能力を制限します。

BAS(ブレーキアシスト)

ⓘ "重要な安全上の注意"に従ってください。 (▷ 62 ページ)

⚠ 警告

BASが故障している場合は、緊急ブレーキの状況での制動距離が長くなります。事故の危険性があります。

緊急ブレーキの状況では、ブレーキペダルを思いっきり踏んでください。ABSが車輪のロックを防ぎます。

BASは、緊急ブレーキ状態で作動します。 ブレーキペダルを素早く踏み込むと、BASが自動的に制動力を高めて制動距離を短縮します。

ブレーキペダルから足を放すと、ブレーキは通常の作動状態に戻ります。 BASの機能が解除されます。

BASプラス(ブレーキアシストプラス)

ⓘ "重要な安全上の注意"に従ってください。 (▷ 62 ページ)

BASプラスは、ディストロニックプラス装備車にのみ採用されています。

BASプラスは、約 7 km/h 以上の速度で走行中に危険な状態になると、最大限の制動力を発揮できるよう備えるブレーキの補助装置で、レーダーセンサー技術を利用して交通状況を認識します。

レーダーセンサーシステムを利用して、BASプラスは車両の進路にある障害物を長時間に渡り感知することができます。

約 70 km/h 以下の速度で走行中は、BASプラスは停車中または駐車中の車両など、固定障害物も感知できます。

前面衝突を避けるため、BASプラスは以下の状況で必要な制動力を算出します。

- 障害物に接近したとき
- BASプラスが衝突の危険を感知したとき

約 30 km/h 以上の速度で走行中のとき： ブレーキペダルを素早く踏み込むと、BASプラスは走行状況に応じてブレーキ圧を最適な値に高めます。

約 30 km/h 以下の速度で走行中のとき： ブレーキを踏むと、BASプラスが作動します。 ブレーキ操作のアシストは、できる限り最後の瞬間に発揮されます。

BASプラスが特に強力な制動力を要求する場合は、PRE-SAFE®（予防的な乗員保護システム）が同時に作動します。

▶ 緊急ブレーキ状態から脱するまで、ブレーキペダルをしっかりと踏み続けてください。
ABSが車輪のロックを防ぎます。

BASプラスは以下の状況では解除され、ブレーキは通常通り作動します。

- ブレーキペダルから足を離したとき
- 追突が起きる危険な事態から脱したとき
- 車両前方に障害物が感知されないとき

DSR (▷ 242 ページ)を作動させると、BASプラス（ブレーキアシストプラス）も作動しません。

以下の車両の場合、レーダーセンサーシステムは電波望遠鏡施設の周辺で自動的にスイッチがオフになります。

- COMANDおよびナビゲーション装備車
- オーディオ20およびBecker® MAP PILOT装備車

  Becker® MAP PILOTを接続します。別冊の取扱説明書をご覧ください。

以下の車両は、電波望遠鏡施設の周辺部では、マルチファンクションディスプレイを使用してレーダーセンサーシステムのスイッチをオフにする必要があります。

- COMANDおよびナビゲーション装備車
- オーディオ20およびBecker® MAP PILOT非装備車
- オーストラリア仕様車

マルチファンクションディスプレイを使用したレーダーセンサーシステムのオフに関する詳細は、(▷ 270 ページ)をご覧ください。

BASプラス（ブレーキアシストプラス）の効果を発揮させるには、レーダーセンサーシステムを以下にする必要があります。

- オンにする(▷ 270 ページ)
- 作動させる (▷ 288 ページ)

レーダーセンサーシステムが誤作動すると、BASプラスは使用できません。 その場合もブレーキシステムは使用でき、ブレーキの倍力装置およびBASは十分に機能します。

⚠ 警告

BASプラスは、障害物や複雑な交通状況を明確に認識できるとは限りません。 そのような場合、BASプラスは作動しません。 事故の危険性があります。

常に周囲の交通状況に注意して運転し、ブレーキをかける準備をしてください。

特に以下の場合は、障害物の感知が困難になります。

- センサーに異物が付着しているとき、またはセンサーが何かでおおわれているとき
- 降雪時
- 他のレーダー送信機による干渉
- 立体駐車場などで、強いレーダー反射が起こりやすいとき
- 先行車がオートバイのように車幅が狭い車両のとき
- 先行車が別の車線を走行しているとき

⚠ 警告

BASプラスは、以下のものには反応しません。

- 歩行者や動物
- 対向車
- 交差する交通
- カーブを走行するとき

そのため、BASプラスはすべての危険な状況では作動しない場合があります。 事故の危険性があります。
常に周囲の交通状況に注意して運転し、ブレーキをかける準備をしてください。

車両のフロント部分が損傷した場合は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場でレーダーセンサーの設定と作動状態の点検を受けてください。 低速走行時の衝突事故で車両前部に目に見える損傷がない場合でも、同様に点検を受けてください。

コリジョンプリベンションアシスト

全体的な注意事項

コリジョンプリベンションアシストは以下に記載するアダプティブブレーキアシストおよび距離警告機能で構成されています。

車間距離警告機能

重要な安全上の注意

ⓘ "重要な安全上の注意"に従ってください。 (▷ 62 ページ)

⚠ 警告

車間距離警告機能は、以下のものには反応しません。

- 歩行者や動物
- 対向車
- 交差する交通
- カーブを走行するとき

そのため、車間距離警告機能はすべての危険な状況で警告を行うとは限りません。 事故の危険性があります。
常に周囲の交通状況に注意して運転し、ブレーキをかける準備をしてください。

車間距離警告機能は、障害物や複雑な交通状況を明確に認識できるとは限りません。

そのような場合は、車間距離警告は以下のような警告を発する可能性があります。

- 不必要な警告を行う
- 警告を行わない

常に周囲の交通状況に注意して運転し、車間距離警告機能だけに頼ることはしないでください。

機能

▶ **設定する/解除する：** 車間距離警告機能の設定/解除は、マルチファンクションディスプレイで行なってください。 (▷ 263 ページ)

車間距離警告機能を設定すると、ホールド機能を選択していなければマルチファンクションディスプレイに マークが表示されます。 (▷ 210 ページ) アクティブパーキングアシスト装備車は、シフトポジションが **P** あるいは、約 35 km/h 以上の速度で走行すると、 表示灯が表示されます。

車間距離警告機能は、先行車と衝突する危険性を最小限に抑え、または衝突による被害を低減するよう運転者を支援するシステムです。 車間距離警告機能が衝突の危険性があると感知した場合、音とディスプレイで警告を行います。 車間距離警告機能は、運転者の操作なしで衝突を回避することはできません。

車間距離警告機能は、速度が約30 km/h以上あるいは以下の場合に警告を発します。

- 数秒間の運転している速度に対して、先行車との車間距離が短すぎる場合 メーターパネルの 車間距離警告灯が点灯します。
- 車両が先行車に急速に接近する場合 断続的な警告音が鳴り、メーターパネルの 車間距離警告灯が点灯します。

▶ 先行車との距離を広げるためにただちにブレーキを効かせてください。

または

▶ 安全確認のうえ、危険回避の操作を行なってください。

走行中に車間距離警告機能の効果を発揮させるには、機能をマルチファンクションディスプレイでオンにして作動させる必要があります(▷ 263 ページ)。

システムの性質上、特に複雑な運転状況ではシステムが不必要な警告を表示することがあります。

レーダーセンサーシステムを利用して、車間距離警告機能は車両の進路にある障害物を長時間に渡り感知することができます。

約 70 km/h 以下の速度で走行中は、車間距離警告機能は停車中または駐車中の車両など、固定障害物も感知できます。

障害物に接近すると、車間距離警告機能は衝突の危険を感知して音とディスプレイで運転者に警告を行ないます。

特に以下の場合は、障害物の感知が困難になります。

- センサーに異物が付着しているとき、またはセンサーが何かでおおわれているとき
- 降雪時
- 他のレーダー送信機による干渉
- 立体駐車場などで、強いレーダー反射が起こりやすいとき
- 先行車がオートバイのように車幅が狭い車両のとき
- 先行車が別の車線を走行しているとき

車両のフロント部分が損傷した場合は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場でレーダーセンサーの設定と作動状態の点検を受けてください。 低速走行時の衝突事故で車両前部に目に見える損傷がない場合でも、同様に点検を受けてください。

アダプティブブレーキアシスト

"重要な安全上の注意"に従ってください。 (▷ 62 ページ)

⚠ 警告

アダプティブブレーキアシストは、障害物や複雑な交通状況を明確に認識できるとは限りません。 その場合、アダプティブブレーキアシストは作動しない場合があります。 事故の危険性があります。

常に周囲の交通状況に注意して運転し、ブレーキをかける準備をしてください。

⚠ 警告

アダプティブブレーキアシストは、以下のものには反応しません。

- 歩行者や動物
- 対向車
- 交差する交通
- 静止している障害物
- カーブを走行するとき

その結果、アダプティブブレーキアシストはすべての危険な状況では作動しない場合があります。 事故の危険性があります。

常に周囲の交通状況に注意して運転し、ブレーキをかける準備をしてください。

アダプティブブレーキアシストは、約 30 km/h以上の速度で走行中に危険な状態になると作動し、レーダーセンサーシステムを利用して走行状況を認識します。

アダプティブブレーキアシストを利用して、車間距離警告灯は車両の進路にある障害物を長時間に渡り感知することができます。

車両が障害物に接近しアダプティブブレーキアシストが衝突の危険を感知すると、アダプティブブレーキアシストは先行車との衝突を避けるのに必要な制動力を算出します。 ブレーキを最大限かけると、アダプティブブレーキアシストは交

通状況に最適なレベルに制動力を効かせます。

▶ 緊急ブレーキ状態から脱するまで、ブレーキペダルをしっかりと踏み続けてください。
ABSが車輪のロックを防ぎます。

ブレーキは、以下の場合再度通常に作動します。

- ブレーキペダルから足を離したとき
- 追突が起きる危険な事態から脱したとき
- 車両前方に障害物が感知されないとき

アダプティブブレーキアシストが作動しない状態になっているとき

アダプティブブレーキアシストが特に強力な制動力を要求する場合は、PRE-SAFE®（予防的な乗員保護システム）が同時に作動します。

走行速度最大約250 km/hまで、アダプティブブレーキアシストは、一定期間に少なくとも1回感知している動いているものを感知することができます。 アダプティブブレーキアシストは固定障害物を感知しません。

レーダーセンサーシステムの異常によりアダプティブブレーキアシストが作動しないときでも、ブレーキの倍力装置とBASは十分に機能し、ブレーキは通常通り作動します。

特に以下の場合は、障害物の感知が困難になります。

- センサーに異物が付着しているとき、またはセンサーが何かでおおわれているとき
- 降雪時
- 他のレーダー送信機による干渉
- 立体駐車場などで、強いレーダー反射が起こりやすいとき
- 先行車がオートバイのように車幅が狭い車両のとき
- 先行車が別の車線を走行しているとき

車両のフロント部分が損傷した場合は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場でレーダーセンサーの設定と作動状態の点検を受けてください。 低速走行時の衝突事故で車両前部に目に見える損傷がない場合でも、同様に点検を受けてください。

アダプティブブレーキライト

約 70 km/h 以上の速度で走行中に急ブレーキをかけると、ブレーキランプを点滅して停止した後に、非常点滅灯が自動で点灯します。 再びブレーキをかけると、ブレーキランプが点灯し続けます。 非常点滅灯は、走行速度が約 10 km/h 以上になると自動的に消灯します。 非常点滅灯スイッチ (▷ 126 ページ) を押して、消灯させることもできます。

ESP®(エレクトロニック・スタビリティ・プログラム)

重要な安全上の注意

ℹ "重要な安全上の注意"に従ってください。 (▷ 62 ページ)

⚠ 警告

ESP®が故障している場合は、ESP®は車両を安定させることはできません。さらに、他の走行安全装備はオフになります。これにより、横滑りや事故の危険性が高くなります。

注意して運転してください。 メルセデス・ベンツ指定サービス工場でESP®の点検を受けてください。

❗ ブレーキダイナモメーターでは最大10秒間のみ車両を操作してください。イグニッションをオフにしてください。

ESP® によるブレーキの適用により、ブレーキシステムを損傷することがあります。

! 機能テストや性能テストを行なうには、必ず2 軸式ダイナモメーターを使用してください。 このようなダイナモメーターで車両を作動させる前に、メルセデス・ベンツ指定サービス工場にご相談ください。 お守りいただかないと、駆動装置やブレーキシステムを損傷するおそれがあります。

エンジンがかかっているときにメーターパネルの警告灯 [OFF] が点灯し続ける場合は、ESP® の機能が解除されています。

警告灯 [ESP] および警告灯 [OFF] が点灯し続ける場合は、故障によりESP® は作動していません。

警告灯 (▷ 320 ページ) とメーターパネル (▷ 277 ページ)に表示されるディスプレイメッセージに関する情報を遵守してください。

ESP® は、車の走行ラインが運転者の望む進行方向から外れていると判断すると、1 本以上のタイヤにブレーキをかけ、車の走行姿勢を安定させます。 また、エンジン出力を調整して、物理的限界内で運転者の意志に沿った方向に車の向きを保つように作動します。 ESP® は、濡れた路面や滑りやすい路面での発進操作をアシストします。 また、ESP® はブレーキ時の車の姿勢も安定させることができます。

ESP® が作動すると、メーターパネルの ESP® 警告灯 [ESP] が点滅します。

ESP® が作動する場合

- ▶ どのような状況でもESP® を解除しないでください。
- ▶ 発進するときは、アクセルペダルを必要な分だけ踏んでください。
- ▶ 実際の道路や天候の状況に適するように運転スタイルを合わせてください。

以下のときは、故障 / 警告メッセージがマルチファンクションディスプレイに表示されます。

- エンジンをかけた状態で、立体駐車場のターンテーブルで車を回転させたとき
- 立体駐車場の狭くて長いらせん状のアプローチを走行しているとき

以下のような警告灯 / 表示灯も点灯することがあります。

- ESP® 表示灯 [ESP]
- ESP® オフ警告灯 [OFF]
- ABS警告灯 [ABS]

- ▶ 道路や交通状況に注意しながら、車両を停止します。
- ▶ エンジンを停止します。
- ▶ イグニッションをオフにします。
- ▶ エンジンを再始動してください。
  しばらくすると、メッセージが消え、警告灯 / 表示灯が消灯します。 消灯しない場合は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で原因を調査してください。

i 必ず指定サイズのタイヤを使用してください。 指定サイズのタイヤを装着した場合のみ、ESP® は正しく機能します。

4ETS(エレクトロニック・トラクション・システム)

トラクションコントロールはESP®の機能の一部です。

トラクションコントロールは、駆動輪が空転したときに、駆動輪に個別にブレーキを利かせます。 これにより、片側が滑りやすい路面などの滑りやすい路面での発進や加速を可能にします。さらに、車輪または駆動力のある車輪にさらなる走行トルクが伝達されます。

ESP®の機能を解除しても、トラクションコントロールは作動させます。

適切な走行状況で、オフロードプログラムを作動します。

- オン&オフロードパッケージ非装備車 (▷ 244 ページ)
- オン&オフロードパッケージ装備車 (▷ 244 ページ)

オフロード4ETS(エレクトロニック・トラクション・システム)

オフロードの地形に特に適した4ETSシステムは、オフロードプログラムが作動すると自動的に作動します。

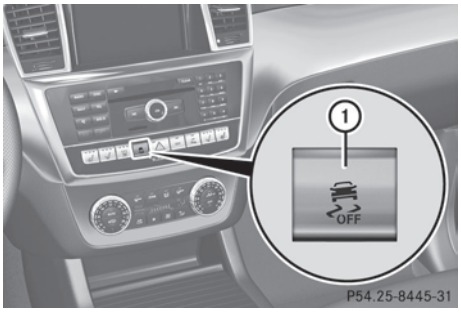
- オン&オフロードパッケージ非装備車 (▷ 244 ページ)
- オン&オフロード パッケージ装備車 (▷ 244 ページ)

ESP®の作動および解除

⚠ 警告

ESP®を解除すると、ESP® は車両を安定させなくなります。横滑りや事故の危険が高まります。

以下に記載された状況でのみESP® を解除してください。



- **オフにする：** スイッチ ① を押します。
  メーターパネルのESP® オフ表示灯 [OFF] が点灯します。
- **オンにする：** スイッチ ① を押します。
  メーターパネルの [OFF] ESP®オフ表示灯が消灯します。

エンジンを始動すると、ESP®は自動的に待機状態になります。

ECOスタート/ストップ機能は、車両が停止すると、自動的にエンジンをオフにします。 再び発進しようとすると、自動的にエンジンが始動します。 ESP®は、直前の設定状態に維持されます。 たとえば、エンジンを停止する前に ESP®が解除されていたときは、エンジンを再始動してもESP® は解除された状態のままになります。

ESP® を解除しているとき1 本以上の車輪が空転し始めると、メーターパネルのESP® 表示灯 [ESP] が点滅します。 このような状況では、ESP® は車の走行姿勢を安定させることができなくなります。

以下のような状況では、ESP® の機能を解除したほうが走行しやすい場合があります。

- スノーチェーンを装着しているとき
- 深い雪の上を走行するとき
- 砂地や砂利道を走行するとき

ESP®を解除したとき

- ESP®は作動せず、走行安全性を高めることはできなくなります。
- トラクションコントロールは引き続き作動します。
- ブレーキを踏むと、ESP®は自動的に作動します。
- エンジントルクの制御は行なわれなくなり、駆動輪が空転することがあります。 車輪が空転した場合は、エンジンの出力制御により駆動力の確保が行われます。

オフロードESP®

オフロードの地形に特に適したESP®システムは、オフロードプログラムが作動すると自動的に作動します。

- オン&オフロードパッケージ非装備車 (▷ 244 ページ)
- オン&オフロードパッケージ装備車 (▷ 244 ページ)

オーバーステアリングまたはアンダーステアリングがある場合は、オフロードESP®は遅れて作動し、これにより駆動力が高まります。

ESP®トレーラースタビライゼーション

⚠ 警告

道路および天候の状況が悪い場合は、トレーラースタビライゼーションは車両/トレーラーの連結が急に逸脱することを防ぐことはできません。重心の高いトレーラーは、ESP®がこれを検知する前に横転することがあります。事故の危険性があります。

常に路面や天候の状況に合わせて慎重に運転してください。

車両/トレーラー連結が急に傾き始めた場合は、ブレーキをしっかりと踏むことのみにより車両/トレーラー連結を安定させることができます。

このような状況では、車両/トレーラー連結が急に傾き始めた場合は、ESP®は運転者を補助しそれを検知することができます。ESP®は車両/トレーラー連結が安定するまで、ブレーキを利かせ、エンジン出力を制限することにより、車両を減速させます。

トレーラースタビライゼーションは約60 km/h以上の速度で作動します。

故障のためにESP®が解除されるか、または使用できなくなると、トレーラースタビライゼーションは作動しません。

クロスウインドアシスト

強い横風は、車両が直進進路から外れる原因になることがあります。 ESP® に内蔵されている横風走行補助機能は、これらの効果を著しく減少させます。

車両に影響する横風の方向および強さに従って、 ESP®が自動的に作動します。

直線路、またはゆるやかなカーブを走行しているときは、安定ブレーキの作動によって、車両は安全に保たれます。

横風走行補助は、車両速度が80 km/h以上になると作動します。

ESP®が解除されている、または不具合のために作動できない場合は、横風走行補助は作動しません。

EBD(エレクトロニック・ブレーキパワー・ディストリビューション)

ℹ "重要な安全上の注意"に従ってください。 (▷ 62 ページ)

⚠ 警告

EBDが故障した場合には、急ブレーキ時などには後輪がロックすることがあります。 これにより、横滑りして事故が起きる危険性が高くなります。

操縦性の変化に応じて慎重に運転してください。 メルセデス・ベンツ指定サービス工場でブレーキシステムの点検を受けてください。

表示灯/警告灯に関する情報 (▷ 317 ページ) およびディスプレイメッセージ (▷ 281 ページ) を確認してください。

EBDは、後輪のブレーキ圧を監視してコントロールし、ブレーキ時の走行安全性を高めます。

アダプティブブレーキ

アダプティブブレーキは、ブレーキ時の安全性を高めるとともに、さらに快適なブレーキ操作を可能にします。 最大の制動力を確保するのに加えて、アダプティブブレーキはホールド機能 (▷ 210 ページ) およびヒルスタートアシスト機能 (▷ 160 ページ) も備えています。

PRE-SAFE®ブレーキ

ⓘ "重要な安全上の注意"に従ってください。 (▷ 62 ページ)

PRE-SAFE® ブレーキは、ディストロニックプラス装備車のみで使用できます。

PRE-SAFE® ブレーキは、先行車と衝突する危険性を最小限に抑え、または衝突による被害を低減するよう運転者を支援するシステムです。 PRE-SAFE® ブレーキが衝突の危険を感知すると、音とディスプレイで警告を行なうとともに、自動でブレーキを作動させます。 PRE-SAFE® ブレーキは、運転者の操作なしで衝突を回避することはできません。

この機能は、以下の場合に警告を発します。

- 約 30 km/h 以上の速度で走行中、数秒間に渡り先行車との車間距離が十分に確保されなかったとき
  メーターパネルの 車間距離警告灯が点灯します。
- 約 7 km/h 以上の速度で走行中、先行車に急速に接近したとき
  断続的な警告音が鳴り、メーターパネルの 車間距離警告灯が点灯します。

▶ 先行車との距離を広げるためにただちにブレーキを効かせてください。

または

▶ 安全確認のうえ、危険回避の操作を行なってください。

走行速度が約 7 km/h 以上で運転者と乗員がシートベルトを着用している場合は、PRE-SAFE® ブレーキは最高約 200 km/h の速度から自動的にブレーキをかけることができます。

システムの性質上、特に複雑な運転状況では PRE-SAFE®ブレーキが不必要な警告や介入を行なうことがあります。

以下の場合、PRE-SAFE®ブレーキ介入をいつでも解除することができます。

- アクセルペダルをさらに踏み込む
- キックダウンを作動させる
- ブレーキペダルから足を放す

PRE-SAFE®ブレーキによるブレーキ操作は、以下の状況では自動的に解除されます。

- 障害物を回避する運転操作を行なっているとき
- 追突が起きる危険な事態から脱したとき
- 車両前方に障害物が感知されなくなったとき

DSR (▷ 242 ページ) を使用している場合、PRE-SAFE®ブレーキも解除されます。

レーダーセンサーシステムを利用して、PRE-SAFE® ブレーキは車両の前方にある障害物を長時間に渡り感知することができます。

約 70 km/h以下の速度で走行中は、PRE-SAFE®ブレーキは停車中または駐車中の車両など、固定障害物も感知できます。

障害物に接近すると、PRE-SAFE®ブレーキは衝突の危険を感知して音とディスプレイで運転者に警告を行ないます。運転者がブレーキ操作や危険回避の運転操作を行わなかったときは、システムが自動的に緩やかなブレーキをかけ、警告を行ないます。 衝突の危険が高まると、PRE-SAFE®（予防的な乗員保護システム）が機能を発揮します (▷ 44 ページ)。

約 30 km/h 以上の速度で走行中、衝突の危険があるにも関わらず運転者がブレーキ操作や危険回避のための運転操作を行なわなかった場合、または強く加速した場合は、自動緊急ブレーキのレベルまで自動的にブレーキが作動します。 自動緊急ブレーキは、危険回避できない状況から事故に至る直前の瞬間に作動します。

⚠ 警告

衝突の危険を感知すると、PRE-SAFE® ブレーキはまず部分的にブレーキをかけて車両を制動します。 ご自身でブレーキをかけないと衝突するおそれがあります。 自動緊急ブレーキにより衝突を防ぐことはできません。 事故の危険性があります。

必ずご自身でブレーキをかけ、危険回避の運転操作を行なってください。

⚠ 警告

PRE-SAFE® ブレーキは、障害物や複雑な交通状況を明確に認識できるとは限りません。

その場合、PRE-SAFE® ブレーキは以下のように作動することがあります。

- 不必要な警告を行ない、車両にブレーキをかける
- 警告を行なわなくなる、または作動しなくなる

事故の危険性があります。

PRE-SAFE® ブレーキが警告を行なったときは、必ず交通状況に十分注意を払いながら、ブレーキをかける準備をしてください。 危険な状態を脱したら、通常の運転スタイルに戻してください。

特に以下の場合は、障害物の感知が困難になります。

- センサーに異物が付着しているとき、またはセンサーが何かでおおわれているとき
- 降雪時
- 他のレーダー送信機による干渉
- 立体駐車場などで、強いレーダー反射が起こりやすいとき
- 先行車がオートバイのように車幅が狭い車両のとき
- 先行車が別の車線を走行しているとき

⚠ 警告

PRE-SAFE® ブレーキは、以下のものには反応しません。

- 歩行者や動物
- 対向車
- 交差する交通
- カーブを走行するとき

この結果、すべての危険な状況では、PRE-SAFE® ブレーキは警告や作動を行なわない場合があります。 事故の危険性があります。

常に周囲の交通状況に注意して運転し、ブレーキをかける準備をしてください。

先行車との車間距離を十分に維持して衝突を防ぐには、適切にブレーキ操作を行なう必要があります。

- **設定する/解除する：** PRE-SAFE® ブレーキの設定/解除は、マルチファンクションディスプレイで行なってください。 (▷ 264 ページ)
  シフトポジションがP あるいは、約35 km/h以上の速度で走行すると、表示灯が表示されます。

走行中にPRE-SAFE®ブレーキが運転者を支援する機能を発揮させるには、レーダーセンサーシステムをオンにして (▷ 270 ページ) 作動させる必要があります。

車両のフロント部分が損傷した場合は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場でレーダーセンサーの設定と作動状態の点検を受けてください。 低速走行時の衝突事故で車両前部に目に見える損傷がない場合でも、同様に点検を受けてください。

ステアコントロール

"重要な安全上の注意"に従ってください。 (▷ 62 ページ)

ステアコントロールは、車両の走行姿勢を安定させるのに必要な向きの操舵力をステアリングに伝達し、運転者が適切な回避操作が行なえるようステアリング操作をアシストする機能です。

このステアリング補助機能は、特に以下のような状況で作動します。

- ブレーキ時に、右側または左側の前後車輪が濡れた路面または滑りやすい路面にあるとき
- 車が横滑りをし始めたとき

ESP® に不具合があるときは、ステアコントロールからの操舵補助は受けられません。 しかし、パワーステアリングは作動し続けます。

盗難防止システム

イモビライザー

- **キー操作で待機状態にする：** エンジンスイッチからキーを抜きます。
- **キーレスゴー操作で待機状態にする：** イグニッションをオフにして、運転席ドアを開きます。
- **解除する：** エンジンをかけます。

イモビライザーは、正規のキー以外ではエンジンを始動させない盗難防止装置です。

車両から離れるときは、必ずキーを携帯して車両を施錠してください。有効なキーが車内に残されていると、誰でもエンジンを始動することができます。

イモビライザーは、エンジンを始動すると解除されます。

ATA(盗難防止警報システム)



- **待機状態にする：** キーまたはキーレスゴー操作で車を施錠します。
  表示灯 ① が点滅します。 盗難防止警報システムが約15 秒後に待機状態になります。

▶ **キーでオフにする：** キーを使用して車両を解錠します。

または

▶ エンジンスイッチにキーを差し込みます。

▶ **キーレスゴーでオフにする：** キーレスゴーを使用して車両を解錠します。

または

▶ ダッシュボードのキーレスゴースイッチを押します。 キーは車内にある必要があります。

システムが待機状態にあるときに以下の部分を開くと、サイレンが鳴り、非常点滅灯が点滅します。

- ドア
- 車(エマージェンシーキーによる解錠)
- テールゲート
- ボンネット

▶ **キーを操作して警報を停止する：** キーの [🔓] または [🔒] ボタンを押します。
警報が停止します。

または

▶ エンジンスイッチにキーを差し込みます。
警報が停止します。

▶ **キーレスゴー操作で警報を停止させる：** 車外のドアハンドルを握ります。
キーは車外にある必要があります。
警報が停止します。

または

▶ ダッシュボードのキーレスゴースイッチを押します。 キーは車内にある必要があります。
警報が停止します。

開いたドアをすぐに閉じても、警報は解除されません。

けん引防止機能

機能

けん引防止機能が待機状態のときに車両の傾きを感知すると、サイレンが鳴り非常点滅灯が点滅します。 たとえば、ジャッキアップなどにより車両の片側が持ち上げられたときに警報が作動します。

設定

▶ 以下のことを確認してください。
- ドアが閉じていること
- テールゲートが閉じていること

この場合のみ、けん引防止機能が待機状態になります。

▶ キーまたはキーレスゴー操作で車を施錠します。
約60 秒後にけん引防止機能が待機状態になります。

解除スイッチ

▶ **キーでオフにする：** キーを使用して車両を解錠します。

または

▶ エンジンスイッチにキーを差し込みます。
けん引防止機能は自動的に解除されます。

▶ **キーレスゴーでオフにする：** キーレスゴーを使用して車両を解錠します。

または

▶ ダッシュボードのキーレスゴースイッチを押します。 キーは車内にある必要があります。
けん引防止機能は自動的に解除されます。

解除スイッチ



▶ エンジンスイッチからキーを抜きます。
▶ スイッチ ① を押します。
表示灯 ② が短く点灯します。
▶ キーまたはキーレスゴー操作で車を施錠します。
けん引防止機能が解除されます。

けん引防止機能は、以下の操作が行なわれると再び作動します。

- 車両を再度解錠し、
- ドアを再度開いて閉じ、
- 車両を再度施錠する

誤作動を防止するため、以下のような状況で車を施錠する場合は、けん引防止機能を解除してください。

- 運搬されるとき
- 例えばフェリーや車両運搬車に積載されるとき
- 立体駐車場などのターンテーブルに駐車するとき

室内センサー

機能

室内センサーを待機状態にしたときは、車内で物体の動きを感知すると、サイレンが鳴り、非常点滅灯が点滅します。 たとえば、車内に人が侵入したときなどに警報が作動します。

設定

▶ 以下のことを確認してください。
- サイドウインドウが閉じていること
- ベンチレーションウインドウが閉じていること
- スライディングルーフ/パノラミックスライディングルーフが閉じていること
- ルームミラーやルーフトリムのグリップハンドルにマスコットなどの掛かっている物がないこと

以上のことは、警報の誤作動を防ぎます。
▶ 以下のことを確認してください。
- スライディングルーフ/パノラミックスライディングルーフが閉じていること
- ドアが閉じていること
- テールゲートが閉じていること

この場合のみ、室内センサーは待機状態になります。
▶ キーまたはキーレスゴー操作で車を施錠します。
室内センサーが約30 秒後に待機状態になります。

解除スイッチ

▶ **キーでオフにする：** キーを使用して車両を解錠します。

または

▶ エンジンスイッチにキーを差し込みます。
室内センサーが自動的に解除されます。
▶ **キーレスゴーでオフにする：** キーレスゴーを使用して車両を解錠します。

または

▶ ダッシュボードのキーレスゴースイッチを押します。 キーは車内にある必要があります。
室内センサーが自動的に解除されます。

解除スイッチ



▶ エンジンスイッチからキーを抜きます。
▶ スイッチ ① を押します。
表示灯 ② が短く点滅します。
▶ キーまたはキーレスゴー操作で車を施錠します。
室内センサーが解除されます。

室内センサーは以下のときまで解除されたままになります。

- 車両を再度解錠し、
- ドアを再度開いて閉じ、
- 車両を再度施錠する

誤作動を防止するため、以下のような状況で車を施錠する場合は、室内センサーを解除してください。

- 車内に人や動物が残ったままであるとき
- サイドウインドウが開いたままであるとき
- ベンチレーションウインドウが開いたままであるとき
- スライディングルーフ/パノラミックスライディングルーフが開いたままであるとき

役に立つ情報 78
キー 78
ドア 85
ラゲッジルーム 88
サイドウインドウ 92
スライディングルーフ 96

役に立つ情報

ⓘ この取扱説明書は発行時点で利用可能な、車両のすべてのモデルやシリーズ、オプション装備を記載しています。国別仕様の違いがあることもあります。お客様の車両には記載されている全ての機能が装備されていないことがあることにご留意ください。これは安全に関するシステムや機能の場合もあります。

ⓘ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で情報をご覧ください。(▷ 23 ページ)

キー

重要な安全上の注意

⚠ 警告

子供だけを残して車から離れないでください。

- 施錠されていても、車内からドアが開くおそれがあります。
- 車内に残されたキーでエンジンが始動するおそれがあります。
- パーキングブレーキが解除されるおそれがあります。

子供だけでなく、周りの人も傷害を負うおそれがあります。 子供だけを車内に残さないでください。 ごく短時間でも、車から離れるときは必ずキーを携帯してください。

⚠ 警告

キーに重い物や大きなキーホルダーを付けていると、キーホルダー自体の重みでキーがまわったり、ステアリングに引っかかるおそれがあります。 そのため、エンジンが突然停止するおそれがあります。 また、ステアリング操作ができなくなり、事故を起こすおそれがあります。 エンジンスイッチに差し込むキーには、重い物や大きなキーホルダーなどを付けないでください。

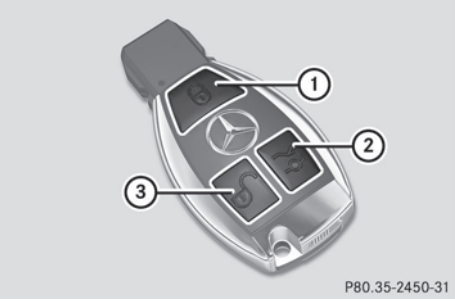
- 以下にはキーを近付けないでください。
  - 携帯電話や別のリモコンキーなどの電子機器
  - 硬貨や金属フィルムなどの金属類
  - 金属ケースなどの金属物

  キーが正常に機能しなくなるおそれがあります。

温度制御カップホルダーにキーレスゴーキーを保管しないでください。 さもなければ、キーレスゴーキーが検知されません。

強い電磁波を発生する物の近くにキーを保管しないでください。 電磁波の影響で、リモコン機能が正常に機能しなくなるおそれがあります。

キーの機能



① 施錠ボタン
② テールゲートの開閉
③ 解錠ボタン

▶ **すべてを解錠する：** 解錠ボタンを押します。

解錠操作をした後、約40 秒以内にドアなどを開けないと、以下の状態になります。

- 車を再び施錠する
- 盗難防止警報システムが再び待機状態になります。

▶ **すべてを施錠する：** [🔒] ボタンを押します。

キーで以下のすべての施錠/解錠操作ができます。

- ドア
- テールゲート
- 燃料給油口

解錠操作を行なうと、方向指示灯が1 回点滅します。 施錠操作を行なうと、3 回点滅します。

また、施錠時に確認音が鳴るアンサーバック機能を設定することもできます。アンサーバック機能の設定と解除は、マルチファンクションディスプレイで行ないます。 (▷ 270 ページ)

マルチファンクションディスプレイでロケイターライティング機能を設定しておくと、周囲が暗いときに車外ランプを点灯させることができます。(▷ 268 ページ)

キーレスゴー

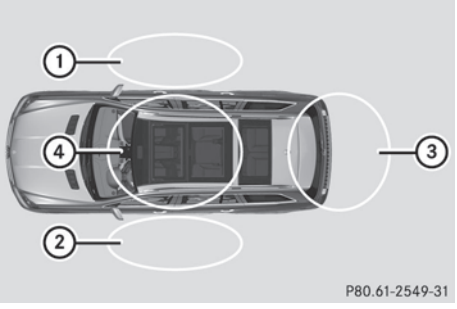
重要な安全上の注意

⚠ 警告

埋め込み型心臓ペースメーカー、埋め込み型除細動器等の医療用電子機器を使用されている方は、 車両に装備されているキーレスゴーアンテナから約22 cm以内に近づかないようにしてください。

キーレスゴー操作を行なうときは、キーとアンテナの間で電波が送受信されています。 この電波が、埋め込み型心臓ペースメーカーおよび埋め込み型除細動器の作動に影響を与えるおそれがあります。

医療用電子機器を使用されている方は、医師や医療用電子機器メーカーにキーレスゴーの電波の影響を確認してください。



キーレスゴーアンテナの検知範囲

① 右側外部アンテナの検知範囲

② 左側外部アンテナの検知範囲

③ リアアンテナの検知範囲

④ 車室内アンテナの検知範囲

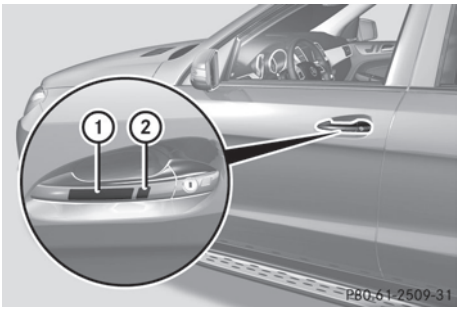
キーが車内にあれば、携帯していない乗員でもエンジンを始動することができますので、注意してください。

セントラルロックシステムでの施錠/解錠

キーレスゴーを使用して、始動、車の施錠または解錠ができます。 このためには、必要なのはキーを携帯することのみです。 車外のドアハンドルのセンサーの表面に触れると、キーレスゴーにより車両とキーの間で無線通信が確立します。エンジン始動時および走行中は、定期的な無線通信の確立により、キーレスゴーは車内に有効なキーがあるかどうかも確認します。

キーレスゴー機能と従来のキーの機能を組み合わせることができます。 たとえば、キーレスゴー操作で車を解錠し、キーの [🔒] ボタンで施錠することができます。

キーレスゴーで施錠/解錠するときは、キーと目標のドアのドアハンドルとの距離は約1 m 以内である必要があります。



- **車を解錠する：** ドアハンドルの内側に触れます。
- **車を施錠する：** ドアハンドルの施錠操作部 ① に触れます。
- **コンビニエンスクロージング機能：** 凹部のセンサー表面 ② に一定時間触れます。

コンビニエンスクロージング機能に関するさらなる情報 (▷ 94 ページ)

テールゲートのハンドルを引くと、車両のラゲッジルームのみが解錠されます。

ロックシステムの設定変更

ロックシステムの設定を変更することができます。 これは車両が解錠されているときは運転席のドアと燃料給油口のみが解錠されることを意味します。1人で頻繁に乗る場合は、この設定が便利です。

- **設定を変更する：**バッテリーチェックランプが2 回点滅するまで、約6 秒間 🔓 および 🔒 スイッチを同時に押して保持します。(▷ 82 ページ)

ℹ 車両の信号範囲内でロックシステムの設定を変更したときは、 🔒 または 🔓 スイッチを押すと、以下になります。

- 車の施錠
- 車の解錠

キーは以下のように作動します。

- **運転席ドアを解錠する：** 🔓 ボタンを1回押します。
- **すべてを解錠する：** 🔓 ボタンを2 回押します。
- **すべてを施錠する：** 🔒 ボタンを押します。

キーレスゴー機能は以下のように切り替わります。

- **運転席ドアを解錠する：** 運転席ドアのドアハンドルの内側面に触れます。
- **すべてを解錠する：** 助手席ドアまたはリアドアのドアハンドルの内側面に触れます。
- **すべてを施錠する：** 1つのドアハンドルの外側にあるセンサー表面に触れます(▷ 79 ページ)。
- **工場出荷時の設定に戻す：** バッテリーチェックランプが2 回点滅するまで、約6秒間 🔓 および 🔒 スイッチを同時に押して保持します。(▷ 82 ページ)

エマージェンシーキー

全体的な注意事項

キーで車を施錠または解錠できなくなったときは、エマージェンシーキーを使用してください。

エマージェンシーキーで運転席ドアを解錠して開くと、盗難防止警報システムが作動します。 (▷ 73 ページ)

以下のいずれかの方法で、盗難防止警報システムを解除します。

- **キーを操作して警報を停止する：** キーの [🔓] または [🔒] ボタンを押します。

または

- エンジンスイッチにキーを差し込みます。

または

- **キーレスゴーで警報を停止する：** エンジンスイッチを押します。 キーは車内にある必要があります。

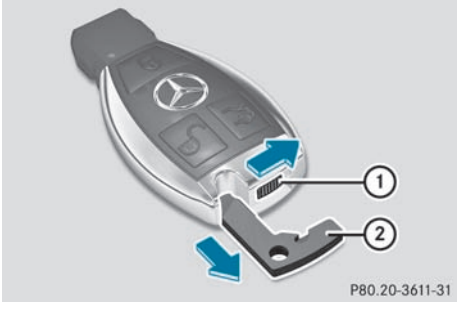
または

- キーレスゴーで車を施錠/解錠します。 キーは車外にある必要があります。

エマージェンシーキーで車を解錠しても、燃料給油口は自動的に解錠されません。

- **燃料給油口を解錠する：** エンジンスイッチにキーを差し込みます。

エマージェンシーキーの取り外し



① ストッパー

② エマージェンシーキー

- ストッパー ① を矢印の方向に押しながら、エマージェンシーキー ② をキーから矢印の方向に抜きます。

キーの電池

重要な安全上の注意

⚠ 警告

電池には毒性および腐食性を持つ物質が含まれています。 子供の手の届かないところに保管してください。

誤って電池を飲み込んでしまったときは、直ちに医師の診断を受けてください。

環境保護に関する注意



電池には環境汚染物質が含まれています。 電池を家庭用ゴミとして廃棄することは法律で禁じられています。 使用済みの電池は個別に回収し、環境に適合するリサイクル方法で処分してください。



電池は環境に配慮した方法で廃棄してください。 使用済みの電池は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場にお持ちいただくか、ボタン電池専用の回収箱に廃棄してください。

バッテリーの交換は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で行なうことをお勧めします。

電池点検



▶ 🔒 または 🔓 ボタンを押します。
キーの表示灯 ① が軽く点灯すれば、電池は正常です。
キーの表示灯 ① が点滅しない場合は、電池が消耗しています。
▶ 電池を交換します。 (▷ 82 ページ)

ⓘ 信号の到達範囲内でキーの電池を点検したときは、 🔒 または 🔓 ボタンを押すと、以下の作動をします。

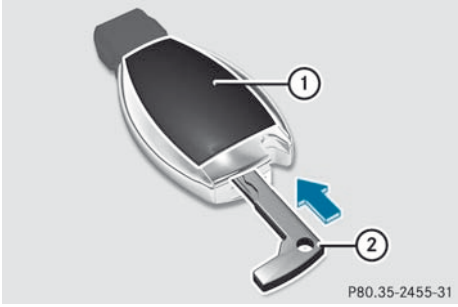
- 車の施錠
- 車の解錠

ⓘ 電池はメルセデス・ベンツ指定サービス工場でお求めいただけます。

電池交換

CR2025 3 Vの電池が必要です。

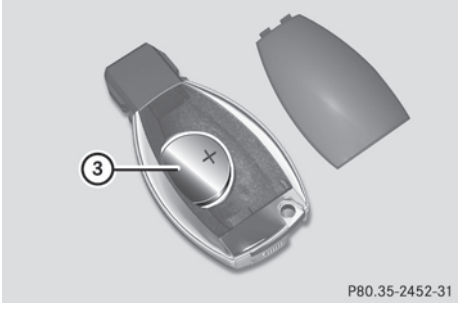
▶ キーからエマージェンシーキーを取り外します (▷ 80 ページ)。



① 電池収納部カバー

② エマージェンシーキー

▶ エマージェンシーキー ② を図の位置に差し込み、電池収納部カバー ① が浮き上がるまで矢印の方向に押します。 このとき、指で電池収納部カバー ① を押さえないようにしてください。
▶ 電池収納部カバー ① を取り外します。



③ バッテリー

▶ キーを裏返して手の平に載せ、電池 ③ が外れるまでキーを軽くたたきます。
▶ 電池のプラス（+）面を上にして、新しい電池を取り付けます。 このとき、毛羽立ちのない布で電池を持つようにしてください。
▶ 電池の表面に糸くず、脂分、汚れが付着していないことを確認してください。

- ▶ 電池収納部カバー ① の前側にある凸部をキーに差し込んでから、カバーを押して閉じます。
- ▶ ② エマージェンシーキーをキーに収納します。
- ▶ キーのすべてのボタンが正常に機能することを確認します。

キーの不具合

トラブル	考えられる原因および影響 ▶ 解決方法
キーで車を施錠/解錠できない。	キーの電池が消耗している。 ▶ リモコン機能で再度車両の施錠/解錠を行なってください。 キーの先端部を至近距離から運転席ドアのハンドルに向け、 または スイッチを押します。 それでも施錠/解錠できないとき ▶ キーの電池 (▷ 82 ページ) を点検し、必要であれば交換してください。(▷ 82 ページ) ▶ エマージェンシーキーで車を施錠 (▷ 87 ページ) または解錠 (▷ 88 ページ) してください。
	キーが故障している。 ▶ エマージェンシーキーで車を施錠 (▷ 87 ページ) または解錠 (▷ 88 ページ) してください。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場でキーの点検を受けてください。
キーレスゴー操作で施錠/解錠できない。	強い電波などの干渉を受けている。 ▶ リモコン機能で車を施錠/解錠してください。 キーの先端部を至近距離から運転席ドアのドアハンドルに向け、 または スイッチを押します。
	キーレスゴーが故障している。 ▶ リモコン機能で車を施錠/解錠してください。 キーの先端部を至近距離から運転席ドアのドアハンドルに向け、 または スイッチを押します。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場でキーレスゴーの点検を受けてください。 それでも施錠/解錠できないとき ▶ キーの電池 (▷ 82 ページ) を点検し、必要であれば交換してください。(▷ 82 ページ) ▶ エマージェンシーキーで車を施錠 (▷ 87 ページ) または解錠 (▷ 88 ページ) してください。

トラブル	考えられる原因および影響 ▶ 解決方法
キーを紛失した。	▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で、紛失したキーを無効にしてください。 ▶ ただちに自動車保険会社へキー紛失の事実を報告してください。 ▶ 必要であれば、キーシリンダーも交換してください。
エマージェンシーキーを紛失した。	▶ ただちに自動車保険会社へキー紛失の事実を報告してください。 ▶ 必要であれば、キーシリンダーも交換してください。
キーによるエンジン始動ができない。	バッテリーの電圧が低下している ▶ シートヒーター、ルームライトなどの必ず必要としない電気装備を停止してから、再度エンジン始動操作を行なってください。 それでも施錠/解錠できないとき ▶ スターターバッテリーを点検し、必要であれば交換してください。 (▷ 375 ページ) または ▶ ジャンプスタートを行なってください。 (▷ 377 ページ) または ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場にご連絡ください。
キーレスゴーによるエンジン始動ができない。 キーが車内にある。	ドアが開いている。 そのため、キーが感知されにくくなっている。 ▶ ドアを閉じてから、再度始動操作を行なってください。
	強い電波などの干渉を受けている。 ▶ エンジンスイッチにキーを差し込んで、始動操作を行なってください。

ドア

重要な安全上の注意

⚠ 警告

子供だけを残して車から離れないでください。

- 施錠されていても、車内からドアが開くおそれがあります。
- 車内に残されたキーでエンジンが始動するおそれがあります。
- パーキングブレーキが解除されるおそれがあります。

子供だけでなく、周りの人も傷害を負うおそれがあります。 子供だけを車内に残

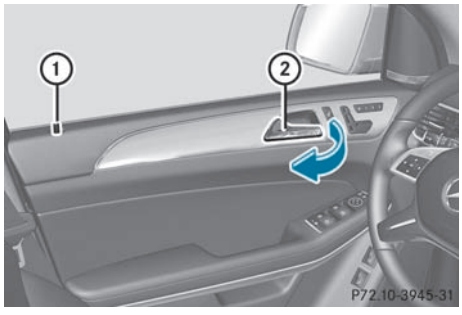
▷▷

さないでください。 ごく短時間でも、車から離れるときは必ずキーを携帯してください。

車内からドアを解錠して開く

車が施錠されているときも、車内からドアを開くことができます。 チャイルドプルーフロックによって固定されていない場合のみに、車内からリアドアを開くことができます(▷ 61 ページ)。

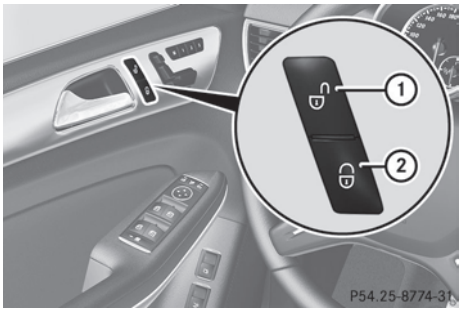
車両がキーまたはキーレスゴーで施錠されている場合は、内側からドアを開くと盗難防止警報システムが作動します。警報を停止してください。 (▷ 73 ページ)



▶ ドアハンドル ②を矢印の方向に引きます。
ドアが施錠されているときは、ロックノブ ① が上がります。 ドアが解錠され、開くことができます。

車内からのリモートコントロールセントラルロック

車内から車両を集中して施錠または解錠できます。 スイッチは両方のフロントドアにあります。



① 解錠

② 施錠

▶ **解錠する：** 解錠スイッチ ① を押します。

▶ **施錠する：** 施錠スイッチ ② を押します。
助手席ドアが閉じているときは、車両が施錠されます。

ただし燃料給油フラップは施錠または解錠されません。

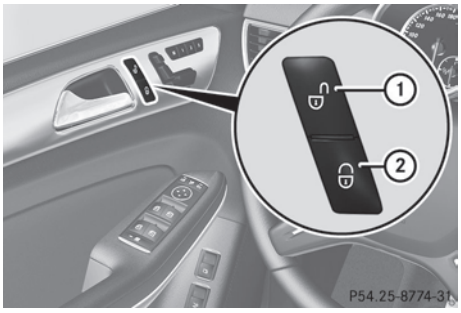
キーまたはキーレスゴー操作で車両が施錠されているときは、車内からドアロックスイッチで解錠することはできません。

車内から施錠されたフロントドアを開くことができます。

セントラルロックのロックスイッチを使用して車両が施錠がされている、または自動的に施錠されていて、内側からドアが開かれた場合

- あらかじめ完全に解錠されていた場合は、車両は完全に解錠されます。
- 運転席ドアのみがあらかじめ解錠されていた場合は、内側から開いたドアのみが解錠されます。

車速感応ドアロック



① 解除

② 設定

▶ **解除する**： 確認音が鳴るまで解除スイッチ ① を約5 秒間押し続けます。

▶ **設定する**： 確認音が鳴るまで設定スイッチ ② を約5 秒間押し続けます。

ⓘ スイッチを押しても確認音が鳴らない場合、その設定はすでに行なわれています。

エンジンスイッチをオンにし車輪が回転し始めると、車が自動的に施錠されます。

そのため、以下では閉め出されるおそれがあります。

- 車を押すとき
- けん引されるとき
- ダイナモメーターで車両をテストするとき

車速感応ドアロックは、マルチファンクションディスプレイでも設定 / 解除できます。 (▷ 269 ページ)

クロージングサポーター

⚠ 警告

ドアおよびテールゲートを閉じるときは挟まれるおそれのある人がいないことを確認してください。

挟まれる危険性がある場合は、内側または外側のドアハンドルを引くか、テールゲートのハンドルを引いてください。

ロック機構を改造してクロージングサポーターを作動させないでください。 けがをするおそれがあります。

⚠ 警告

ドアおよびテールゲートが常に完全に閉じていることを確認してください。走行中にドアまたはテールゲートが開いて、お客様や他の方が危険になります。

クロージングサポーターは、部分的のみに閉じている場合でも、ドアおよびテールゲートを自動的にロックに引き込むことができます。

▶ **クロージングサポーター(ドア)**： 最初にロックに止まる位置までドアを押します。
クロージングサポーターがドアを確実に閉じます。

▶ **クロージングサポーター(テールゲート)**：テールゲートを軽く押して閉じます。
クロージングサポーターはテールゲートを引いて完全に閉じます。

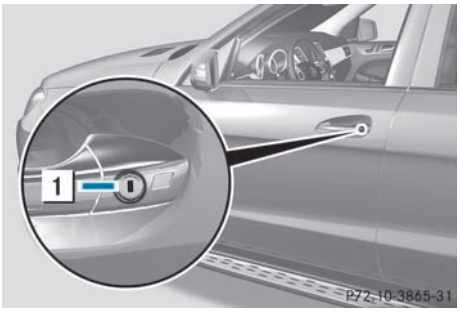
運転席ドアの解錠(エマージェンシーキー)

キーで車を解錠できなくなったときは、エマージェンシーキーを使用します。

エマージェンシーキーで運転席ドアを解錠して開くと、盗難防止警報システムが作動します。 (▷ 73 ページ)

▶ キーからエマージェンシーキーを取り外します。 (▷ 80 ページ)

▶ エマージェンシーキーを運転席ドアのキーシリンダーに確実に差し込みます。



1 解錠

▶ エマージェンシーキーを 1 の位置まで反時計回りにまわします。
運転席ドアが解錠されます。

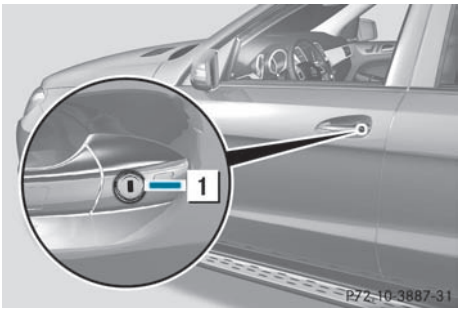
ℹ 右ハンドル車の場合は、エマージェンシーキーを時計回りにまわします。

▶ エマージェンシーキーを元の位置に戻して、抜き取ります。
▶ エマージェンシーキーをキーに収納します。

車両の施錠(エマージェンシーキー)

キーで車を施錠できなくなったときは、エマージェンシーキーを使用します。

▶ 運転席側のドアを開きます。
▶ 助手席ドア、リアドア、テールゲートを閉じます。
▶ ロックスイッチ (▷ 86 ページ)を押します。
▶ 助手席ドアとリアドアのロックノブがまだ見えていることを確認します。 必要であれば、ロックノブを手動で押し下げます(▷ 86 ページ)。
▶ 運転席ドアを閉じます。
▶ キーからエマージェンシーキーを取り外します (▷ 80 ページ)。
▶ エマージェンシーキーを運転席ドアのキーシリンダーに確実に差し込みます。



1 施錠

▶ エマージェンシーキーを 1 の位置まで時計回りにまわします。

ℹ 右ハンドル車は、エマージェンシーキーを反時計回りにまわします。

▶ エマージェンシーキーを元の位置に戻して、抜き取ります。
▶ ドアとテールゲートが施錠されていることを確認します。
▶ エマージェンシーキーをキーに収納します。

ℹ 上記の方法で車を施錠した場合、燃料給油口は施錠されません。 盗難防止警報システムは機能しません。

ラゲッジルーム

重要な安全上の注意

⚠ 警告

エンジンをかけてトランクリッドが開いていると、排気ガスが車内に侵入するおそれがあります。 これは有害です。そのため、エンジンがかかっているときは、常にテールゲートが閉じていることを確認してください。

❗ テールゲートは、上方や後方に大きく開きます。 そのため、テールゲートを開くときは、上方や後方に十分なスペースがあることを確認してください。

ⓘ テールゲートが開いたときの寸法 (▷ 416 ページ)

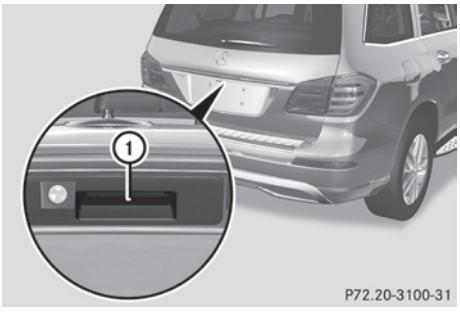
ラゲッジルーム内にキーを置き忘れないようにしてください。 車外に閉め出されるおそれがあります。

以下のことができます。

- 外側からテールゲートを手動で閉じる
- 外側からテールゲートを自動で開閉する
- 内側からテールゲートを自動で開閉する
- テールゲートの開く角度を設定する。
- エマージェンシーリリースで内側からテールゲートを解錠する

車外からの開閉

開く



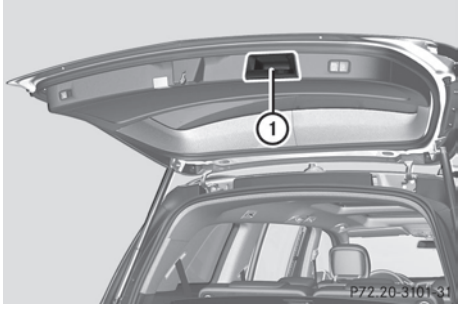
▶ キーの [🔓] ボタンを押します。

▶ ハンドル ① を引いて、放します。
テールゲートは自動的に開きます。

閉じる

⚠ 警告

テールゲートを閉じるときは、身体や物を挟まないように十分注意してください。



▶ 凹部 ① を使用してテールゲートを引き下げます。

▶ テールゲートのロックがかみ合います。

▶ 必要であればキーの [🔒] ボタンか、キーレスゴーで車両を施錠します。

ⓘ ラゲッジルーム内にキーレスゴーキーが検知されると、テールゲートは施錠されません。

車外からの自動開閉

重要な安全上の注意

⚠ 警告

テールゲートの開閉動作を監視し、周囲に人がいないことを確認してください。開閉操作を停止するには、テールゲートのトランククローザースイッチを押すか、テールゲートの外側にあるハンドルを引いてください。

❗ テールゲートは、上方や後方に大きく開きます。 そのため、テールゲートを開くときは、上方や後方に十分なスペースがあることを確認してください。

ⓘ テールゲートが開いたときの寸法 (▷ 416 ページ)

テールゲートを自動的に開く

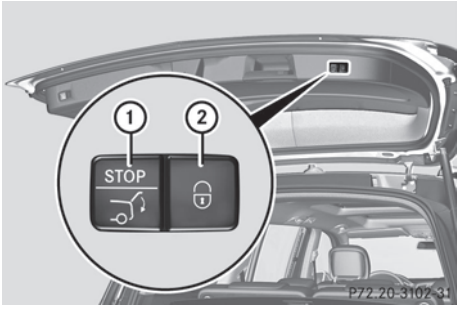
リモコンを操作するか、テールゲートハンドルを引くと、テールゲートが自動で開きます。

▶ テールゲートが開くまで、キーの ボタンを押して保持します。

または

▶ テールゲートが解錠されているときは、テールゲートハンドルを引き、すぐに手を放します。

テールゲートを自動的に閉じる



クローズおよびロックスイッチ（例：キーレスゴー装備車）

① トランククローザースイッチ

② ロックスイッチ

▶ **閉じる：** テールゲートのクローズスイッチ ① を押します。

または

▶ テールゲートが閉じるまで、キーの ボタンを押して保持します。

キーレスゴー装備車：テールゲートを同時に閉じて施錠することができます。

▶ テールゲートのロックスイッチ ② を押します。
キーレスゴーキーが車外で検知されると、テールゲートが閉じて施錠されます。 すべてのドアが閉じており、キーがテールゲートの周辺にあることが必要です。

ⓘ エンジンスイッチにキーが差し込まれていると、テールゲートの開閉を行なうことができません。

テールゲートが閉じている最中に障害物などとの接触を検知すると、操作が中断され、テールゲートは再度開きます。

ⓘ ラゲッジルーム内にキーレスゴーキーが検知されると、テールゲートは施錠されません。

車内からの自動開閉

重要な安全上の注意

⚠ **警告**

テールゲートの開閉動作を監視し、挟まれている人がいないことを確認してください。開閉動作を中止するには、運転席からテールゲートのリモート操作スイッチを再度押すか、引きます。

❗ テールゲートは、上方や後方に大きく開きます。 そのため、テールゲートを開くときは、上方や後方に十分なスペースがあることを確認してください。

ⓘ テールゲートが開いたときの寸法 (▷ 416 ページ)

開閉



車両が停止していて解錠されているときは、運転席からテールゲートを開閉できます。

- **開く**：テールゲートが開くまで、テールゲートのリモート操作スイッチ ① を引きます。
- **閉じる**：エンジンスイッチのキーを**1** または **2** の位置にまわします。
- テールゲートが閉じるまで、テールゲートのリモート操作スイッチ① を押します。

ⓘ テールゲートが閉じている間に物に接触すると、閉じる動作が中断され、テールゲートは再度開きます。

テールゲートの開く角度の設定

重要な安全上の注意

❗ 開度を設定するときは、テールゲートを全開するのに十分なスペースがあることを確認してください。 テールゲートが損傷する原因になります。 開度の設定は屋外で行なうことをお勧めします。

設定スイッチ

テールゲートの開口角度を制限することができます。 開口範囲の上半分で、停止する前の約 10 cm まで可能です。
これは、例えばテールゲート上に十分なスペースがない場合に役立ちます。

- **テールゲートを開く**： テールゲートのハンドルを引きます。
- **開く操作を希望位置で停止させる**： テールゲート内のクローズスイッチ (▷ 89 ページ) を押すか、テールゲート外側のハンドルを再度引きます。
- **位置を記憶させる**： テールゲート内のクローズスイッチを押して、短い確認音が1回鳴るまで保持します。
開口角度リミッターが作動します。
テールゲートを開いたときは、保存した位置で停止します。

解除スイッチ

- テールゲート内のクローズスイッチ (▷ 89 ページ) を押して、短い確認音が2回鳴るまで保持します。

テールゲートの緊急時の解錠

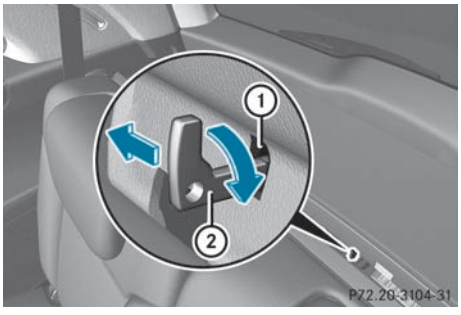
重要な安全上の注意

❗ テールゲートは、上方や後方に大きく開きます。 そのため、テールゲートを開くときは、上方や後方に十分なスペースがあることを確認してください。

ⓘ テールゲートを開いたときの寸法 (▷ 416 ページ)。

テールゲートを車外から開くことができないときは、テールゲートの内側にあるエマージェンシーリリースを使用してください。

開く



- キーからエマージェンシーキーを取り外します (▷ 80 ページ) 。
- エマージェンシーキー ② をトリム ① の開口部に差し込みます。
- エマージェンシーキー ② を時計回りに約 90° 度まわします。
- エマージェンシーキー ② を矢印の方向に押して、テールゲートを開きます。

サイドウインドウ

重要な安全上の注意

⚠ 警告

サイドウインドウを開くときは、身体などがサイドウインドウとドアフレームの間に挟まれないように注意してください。 また、サイドウインドウが開いているときにサイドウインドウに触れたり、身体を寄りかけないでください。 サイドウインドウとドアフレームの間に身体が引き込まれて、けがをするおそれがあります。 挟まれそうになったときは、ただちにスイッチを指から放すか、またはスイッチを引き上げて、サイドウインドウを上昇させてください。

⚠ 警告

サイドウインドウを閉じるときは、身体などを挟まないように注意してください。 挟まれそうになったときは、ただちにスイッチを指から放すか、再びスイッチを押し上げて、サイドウインドウを開いてください。

⚠ 警告

思わぬけがの原因となりますので、子供にサイドウインドウを操作をさせないでください。

決して子供だけを車内に残して車から離れないでください。 車から離れるときは、短時間であっても必ずキーをお持ちください。

⚠ 警告

子供がチャイルドセーフティシートに着座している場合でも、子供だけを車内に残して車両から離れないでください。 子供が以下のような傷害を負うおそれがあります。

- 運転装置など車両の各部に触れて重傷や致命的な傷害を受けるおそれがあります。
- 車内が高温または低温になると、命に関わるおそれがあります。

子供がドアを開くと、以下のような危険性があります。

- 周囲の人に重傷や致命的なけがを負わせるおそれがあります。
- 子供が車外に出てけがをしたり、通行車にはねられ重傷または致命的な傷害を受けるおそれがあります。

子供を乗せるときは、リアドアやリアドアウインドウのチャイルドプルーフロックを使用してください。 走行中に子供がドアやサイドウインドウを開くと、事故やけがの原因になります。

⚠ 警告

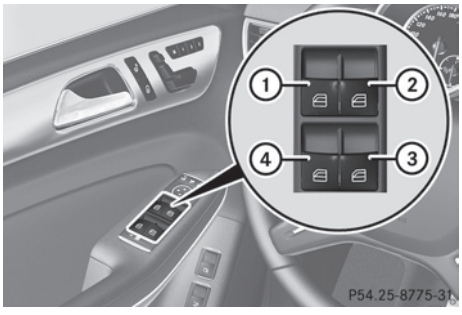
吸盤にはレンズと同じ効果があり、熱を集中させます。 その結果、車両に引火するおそれがあります。

そのため、吸盤の付いた物をウインドウに取り付けないでください。

サイドウインドウの開閉

運転席ドアには、すべてのサイドウインドウのスイッチがあります。 サイドウインドウのスイッチは、各ドアにもあります。

運転席ドアのスイッチ操作が優先されます。



① 左フロント
② 右フロント
③ 右リア
④ 左リア

▶ イグニッション位置を 1 または 2 にします。
▶ **開く**： スイッチを軽く押します。
▶ **閉じる**： スイッチを軽く引きます。

ⓘ スイッチをいっぱいまで押すと、自動で開閉します。 再度スイッチを押すと、自動で開閉している電動ブラインドが停止します。

ⓘ エンジンを停止するか、エンジンスイッチからキーを抜いてからも、サイドウインドウを開閉できます。 エンジン停止してから約5 分間、または運転席 / 助手席ドアを開くまでサイドウインドウを開閉できます。

ⓘ サイドウインドウのチャイルドプルーフロック機能が作動しているときは、サイドウインドウは後ろからは操作できません (▷ 61 ページ)。

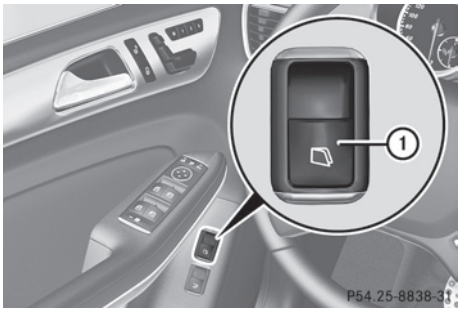
ベンチレーションウインドウの開閉

重要な安全上の注意

⚠ 警告
ヒンジ式サイドウインドウを閉じるときは、挟まれている人がいないことを確認してください。挟まれそうな危険性が誰かにあるときは、スイッチを指から放すか、再びスイッチを押し上げて、サイドウインドウを開いてください。

開閉

ヒンジ式サイドウインドウは運転席シートから電動で操作されます。



▶ イグニッション位置を 1 か 2 にします。
▶ **完全に開く**： スイッチ ① を押して放します。
▶ **完全に閉じる**：スイッチ ① を引いて放します。
▶ **閉じる動作を中止する**：スイッチ ① を再度押します。
両方のヒンジ式サイドウインドウが完全に開きます。

ⓘ 閉じているときにヒンジ式サイドウインドウが遮られると、閉じる動作は中断し、ヒンジ式サイドウインドウは再度完全に開きます。

コンビニエンスオープニング機能

全体的な注意事項

走行を始める前に車両を換気できます。このために、以下の機能を同時に実行するためにキーが使用されます。

- 車両を解錠する
- サイドウインドウを開く
- ヒンジ式サイドウインドウを開く
- スライディングルーフまたはパノラミックスライディングルーフおよび電動ブラインドを開く
- 運転席シートのシートベンチレーターをオンにする

ⓘ コンビニエンスオープニング機能は、リモコン操作でのみ行なうことができます。 キーは運転席ドアのドアハンドル付近で操作してください。

コンビニエンスオープニング機能

- ▶ キーの先端部を運転席ドアのドアハンドルに向けます。
- ▶ サイドウインドウおよびスライディングルーフまたはパノラミックスライディングルーフが希望の位置になるまで [🔓] スイッチを押して保持します。
  パノラミックスライディングルーフの電動ブラインドが閉じているときは、電動ブラインドが先に開きます。
- ▶ パノラミックスライディングルーフが希望の位置になるまで、再度 [🔓] スイッチを押して保持します。
- ▶ **コンビニエンスオープニングを中断する：** [🔓] スイッチを放します。

コンビニエンスクロージング機能

重要な安全上の注意

⚠ 警告

コンビニエンスクロージング機能で各部を閉じるときは、身体や物が挟まれないように注意してください。 身体などが挟まれそうになったときは、以下の操作を行なってください。

リモコン操作

- [🔒] スイッチから指を放します。
- [🔓] スイッチを押し続けて、サイドウインドウとスライディングルーフまたはパノラミックスライディングルーフを開いてください。

キーレスゴー操作

- ドアハンドルのコンビニエンスクロージング操作部から指を放します。
- すぐにドアハンドルを引き続けてください。
  サイドウインドウとスライディングルーフまたはパノラミックスライディングルーフが開きます。

車を施錠すると、車外から以下の各部を同時に閉じることができます。

- サイドウインドウ
- ヒンジ式サイドウインドウ
- スライディングルーフまたはパノラミックスライディングルーフ

パノラミックスライディングルーフ装備車の場合は、引き続き電動ブラインドも閉じます。

キー操作

キーは運転席ドアのドアハンドル付近で操作してください。

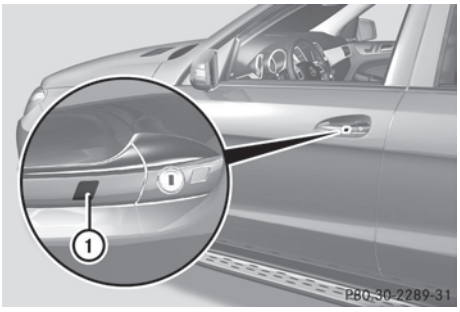
- ▶ キーの先端部を運転席ドアのドアハンドルに向けます。
- ▶ サイドウインドウとスライディングルーフまたはパノラミックスライディングルーフが完全に閉じるまで、[🔒] スイッチを押して保持します。
- ▶ すべてのサイドウインドウとスライディングルーフまたはパノラミックスライディングルーフが閉じていることを確認してください。

パノラミックスライディングルーフ装備車

- ▶ パノラミックスライディングルーフの電動ブラインドが閉じるまで、[🔒] スイッチを再度押して保持します。
- ▶ **コンビニエンスクロージングを中断する：** [🔒] スイッチを放します。

キーレスゴー操作での作動

キーレスゴーキーは車外にある必要があります。 すべてのドアが閉じている必要があります。



- サイドウインドウとスライディングルーフまたはパノラミックスライディングルーフが完全に閉じるまで、凹部のセンサー表面 ① に触れます。

ⓘ コンビニエンスクロージング操作部 ① のみに触れるようにしてください。

- すべてのサイドウインドウとスライディングルーフまたはパノラミックスライディングルーフが閉じていることを確認してください。

パノラミックスライディングルーフ装備車

- パノラミックスライディングルーフの電動ブラインドが閉じるまで、凹部のセンサー表面 ① に再度触れます。
- **コンビニエンスクロージング機能を中断する：** ドアハンドルのコンビニエンスクロージング操作部 ① から指を放します。

サイドウインドウのリセット

サイドウインドウが完全に閉じないときは、リセットしてください。

- すべてのドアを閉じます。
- イグニッション位置を 1 または 2 にします。
- ドア操作パネルのスイッチを引き続けて、サイドウインドウを全閉します。 (▷ 92 ページ)
- さらに数秒間スイッチを引いたまま保持します。

サイドウインドウが再度少し下降したら、以下の操作を行なってください。

- ただちにドア操作パネルのスイッチを引き続けて、サイドウインドウを全閉します。 (▷ 92 ページ)
- さらに数秒間スイッチを引いたまま保持します。
- スイッチを解除した後サイドウインドウが閉じたままになれば、サイドウインドウのリセットが正しく行なわれています。 そうでない場合は、再度リセット操作を行なってください。

サイドウインドウの不具合

⚠ 警告

挟み込み防止機能が作動しない状態で、またはより強い力でサイドウインドウが閉じると、重傷または致命的な傷害を受けるおそれがあります。 サイドウインドウを閉じるときは、身体などを挟まないように注意してください。

トラブル	考えられる原因および影響 ▶ 解決方法
ガイドレールなどに落ち葉などの障害物が挟まっているため、サイドウインドウが全閉しない。	▶ 障害物を取り除いてください。 ▶ サイドウインドウを閉じます。
サイドウインドウが全閉しないが、原因がわからない。	サイドウインドウを閉じているとき、ウインドウが障害物を検知して停止し、その位置から少し下降した場合は、以下の操作を行なってください。 ▶ その状態からただちに再度スイッチを引き続けて、サイドウインドウを閉じます。 サイドウインドウは、より強い力で閉じます。 サイドウインドウを閉じているときに、ウインドウが再度障害物を検知して停止し、その位置から少し下降した場合は、以下の操作を行なってください。 ▶ その状態からただちに再度スイッチを引き続けて、サイドウインドウを閉じます。 サイドウインドウは挟み込み防止機能が作動しない状態で閉じます。

スライディングルーフ

重要な安全上の注意

⚠ 警告

スライディングルーフを開閉するときは、挟まれている人がいないことを確認してください。

挟まれる危険性がある場合は、ただちにスイッチから手を放してください。 自動操作中は、いずれかの方向にスイッチを軽く押してスライディングルーフを停止してください。

⚠ 警告

パノラミックスライディングルーフのガラスは、事故のときに割れるおそれがあります。 シートベルトを着用していないと、車が横転したときにスライディングルーフの開口部から車外に放り出されて、致命的なけがをするおそれがあります。 確実にシートベルトを着用してください。

⚠ 警告

思わぬけがの原因となりますので、子供にはスライディングルーフの操作をさせないでください。

決して子供だけを車内に残して車から離れないでください。 車から離れるときは、短時間であっても必ずキーをお持ちください。

! パノラミックスライディングルーフに雪や氷が付着した状態で操作しないでください。 スライディングルーフが故障する原因になります。

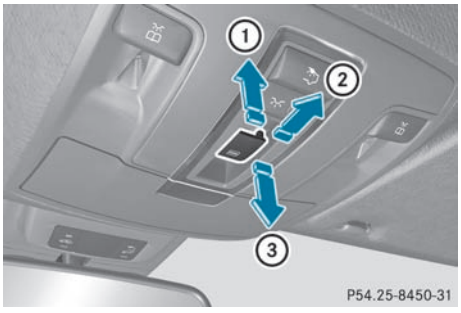
スライディングルーフの開口部から物を出さないようにしてください。 スライディングルーフのシール部が損傷するおそれがあります。

i スライディングルーフが開いているときは、通常の風切り音に加えて反響音が発生する可能性があります。 これらは、車内のわずかな圧力変動が原因です。 スライディングルーフの位置を変更するか、またはサイドウインドウを開いてください。ノイズが減るか、またはなくなります。

車両によっては、スライディングルーフまたはパノラミックスライディングルーフが装備されています。 この項目では、"スライディングルーフ"という言葉は、スライディングルーフの両方の種類に言及しています。

スライディングルーフの操作

開閉



ルーフオペレーティングユニット
① チルトアップ
② 開く
③ 閉じる/チルトダウン

▶ イグニッション位置を 1 または 2 にします。

▶ [▭] スイッチを対応する方向へ押すか、または引きます。

i [▭] スイッチを抵抗があるところを越えて押すと、自動開閉動作が対応する方向で開始されます。 再度押すと、自動操作を停止できます。

サンシェードは、スライディングルーフと連動して自動的に開きます。 サンシェードは、スライディングルーフがチルトアップしているか、閉じているときに手動で開閉できます。

i エンジンを停止するか、エンジンスイッチからキーを抜いてからも、スライディングルーフを開閉できます。 エンジン停止してから約5 分間、または運転席/助手席ドアを開くまでサイドウインドウを開閉できます。

レインクローズ機能

エンジンスイッチのキーが 0 の位置にあるか、またはそれが抜かれている場合は、スライディングルーフは自動的に閉じます。

- 雨が降り始めたとき
- 外気温度が極端に高い、または低いとき
- 約6 時間が経過したとき
- バッテリー電圧が低下したとき

車内を換気するため、スライディングルーフの後部がチルトアップした状態に保たれます。

ⓘ レインクローズ機能でスライディングルーフが閉じている間に遮られると、再度少し開きます。そして、レインクローズ機能が解除されます。

以下のときは、スライディングルーフは閉じません。

- スライディングルーフをチルトアップしているとき
- 障害になる物が挟まっているとき
- レインセンサーに雨滴がかからないとき（車が橋の下やカーポートに入っているときなど）

リセット

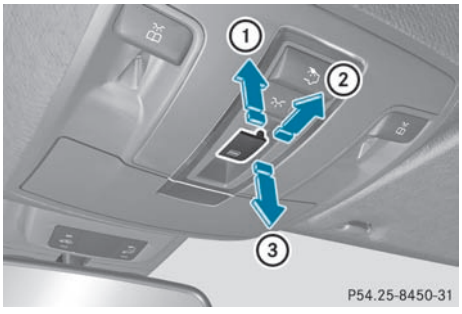
❗ リセット操作を行なっても、まだスライディングルーフが開閉しないときは、メルセデス・ベンツ指定サービス工場にご連絡ください。

スライディングルーフがスムーズに作動しないときは、リセットを行なってください。

▶ イグニッション位置を 1 または 2 にします。
▶ スライディングルーフの後部をいっぱいまでチルトアップします。 (▷ 97 ページ)
▶ [▭] スイッチをそのまま数秒間押し続けます。
▶ スライディングルーフが再度全開閉できることを確認します(▷ 97 ページ)。
▶ そうでない場合は、再度リセット操作を行なってください。

パノラミックスライディングルーフの操作

開閉



ルーフオペレーティングユニット
① チルトアップ
② 開く
③ 閉じる/チルトダウン

パノラミックスライディングルーフは、電動ブラインド が開いているときにのみ操作することができます(▷ 99 ページ)。

▶ イグニッション位置を 1 または 2 にします。
▶ [▭] スイッチを対応する方向へ押すか、または引きます。

ⓘ [▭] スイッチを抵抗があるところを越えて押すと、自動開閉動作が対応する方向で開始されます。再度を押すと、自動動作を停止できます。

スライディングルーフが閉じているときのみ、自動で開く機能を使用できます。

レインクローズ機能

エンジンスイッチのキーが 0 の位置にある場合、またはそれが抜かれている場合は、パノラミックスライディングルーフが自動的に閉じます。

- 雨が降り始めたとき
- 外気温度が極端に高い、または低いとき
- 約6 時間が経過したとき
- バッテリー電圧が低下したとき

車内を換気するため、スライディングルーフはチルトアップした状態で維持されます。

ⓘ レインクローズ機能でパノラミックスライディングルーフが閉じている途中で遮られると、再度少し開きます。そして、レインクローズ機能が解除されます。

以下のときは、パノラミックスライディングルーフは閉じません。

- スライディングルーフをチルトアップしているとき
- 障害になる物が挟まっているとき
- レインセンサーに雨滴がかからないとき（車が橋の下やカーポートに入っているときなど）

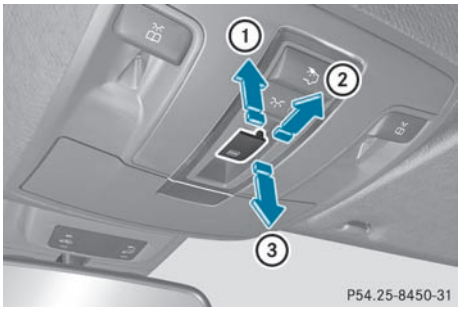
パノラミックスライディングルーフ用電動ブラインドの操作

重要な安全上の注意

⚠ 警告
電動ブラインドを開閉するときは、身体などが挟まれないように注意してください。

電動ブラインドは日差しから車内を守ります。 2 枚の電動ブラインドは、パノラミックスライディングルーフが閉じている状態で開閉することができます。

電動ブラインドの開閉



ルーフオペレーティングユニット
① 開く
② 開く
③ 閉じる

▶ イグニッション位置を 1 または 2 にします。
▶ [▭] スイッチを対応する方向へ押すか、または引きます。

ⓘ [▭] スイッチを抵抗があるところを越えて押すと、対応する方向で自動開閉動作が開始されます。再度押すと、自動操作を停止できます。

パノラミックスライディングルーフおよび電動ブラインドのリセット

❗ パノラミックスライディングルーフや電動ブラインドが全閉できない、またはリセットできない場合は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場にご連絡ください。

パノラミックスライディングルーフや電動ブラインドがスムーズに作動しないときは、パノラミックスライディングルーフや電動ブラインドをリセットしてください。

▶ イグニッション位置を 1 または 2 にします。
▶ パノラミックスライディングルーフが完全に閉じるまで、[▭] スイッチを矢

印 ③ の方向に抵抗があるところまで繰り返し引きます。

- ▶ [▭] スイッチを引いたまま数秒間保持します。
- ▶ 電動ブラインドが完全に閉じるまで、[▭] スイッチを矢印 ③ の方向に抵抗があるところまで繰り返して引きます。
- ▶ [▭] スイッチを引いたまま数秒間保持します。
- ▶ パノラミックスライディングルーフ (▷ 98 ページ) と電動ブラインド (▷ 99 ページ) が自動で開閉することを確認します。
- ▶ そうでない場合は、再度リセット操作を行なってください。

スライディングルーフの不具合

⚠ 警告

スライディングルーフがより強い力で閉じたり、挟み込み防止機能が作動しない場合は、重傷または致命的な傷害を受けるおそれがあります。 スライディングルーフを閉じるときは、身体などを挟まないように注意してください。

車両には、スライディングルーフまたはパノラミックスライディングルーフが装備されています。 この項目では、"スライディングルーフ"という言葉は、スライディングルーフの両方の種類に言及しています。

トラブル	考えられる原因および影響 ▶ 解決方法
スライディングルーフを閉じることができず、原因が分からない。	スライディングルーフが閉じているときに挟み込みの抵抗を検知したため停止し、その位置から少し開いた場合は、以下の操作を行なってください。 ▶ スライディングルーフがブロックされたらただちに、スライディングルーフが閉じるまでオーバーヘッドコンソールの [▭] スイッチを抵抗があるところまで引き下げて保持します。 スライディングルーフは、より強い力で閉じます。 スライディングルーフが再度挟み込みの抵抗を検知したため停止し、その位置から少し開いた場合は、以下の操作を行なってください。 ▶ スライディングルーフがブロックされたらただちに、スライディングルーフが閉じるまでオーバーヘッドコンソールの [▭] スイッチを抵抗があるところまで引き下げて保持します。 挟み込み防止機能が作動しない状態でスライディングルーフが閉じます。

役に立つ情報 104
運転席のシートポジション 104
シート 105
ステアリング 114
ミラー 116
メモリー機能 119

役に立つ情報

ⓘ この取扱説明書は発行時点で利用可能な、車両のすべてのモデルやシリーズ、オプション装備を記載しています。国別仕様の違いがあることもあります。お客様の車両には記載されている全ての機能が装備されていないことがあることにご留意ください。これは安全に関するシステムや機能の場合もあります。

ⓘ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で情報をご覧ください。(▷ 23 ページ)

運転席のシートポジション



▶ シート調整に関する安全上のガイドラインを守ってください。(▷ 105 ページ)

▶ シート ③ が正しく調整されていることを確認してください。

電動シートの調整(▷ 106 ページ)

シートを調整するときの留意点

- 運転席エアバッグからできるだけ離れている。
- 通常の垂直位置で着座している。
- シートベルトをきちんと装着できる。
- バックレストはほぼ垂直の位置になるように調整する。
- 大腿部が軽く支えられるようにシートの角度を調整する。
- ペダルをきちんと踏み込める。

▶ ヘッドレストが適切に調整されていることを確認してください。

ヘッドレストの中央が目の高さに調整され、後頭部がヘッドレストに支えられていることを確認してください。

▶ ステアリング調整に関する安全上のガイドラインを守ってください。(▷ 114 ページ)

▶ ステアリング ① が正しく調整されていることを確認してください。

ステアリングの調整（手動式）(▷ 114 ページ)

ステアリングの調整（電動式）(▷ 115 ページ)

ステアリングを調整するときの留意点

- ステアリングを握ったときに、腕に適度な余裕がある。
- 足を自由に動かせる。
- メーターパネル内のすべてのディスプレイが確認できる。

▶ シートベルトに関する安全上のガイドラインを守ってください。(▷ 45 ページ)

▶ シートベルト ② が適切に (▷ 46 ページ) 着用できていることを確認してください。

シートベルトは、以下のように着用してください。

- 身体に密着させる
- 肩を通るベルトが肩の中央にかかっている
- 腰を通るベルトが腰骨の低い位置にかかっている

- ▶ 走行する前に、ルームミラーとドアミラーを道路と交通状況がよく見える角度に調整してください。(▷ 116 ページ)
- ▶ **メモリー機能装備車:**メモリー機能を使用してシート、ステアリング、ドアミラーの設定を保存します。 (▷ 119 ページ)

シート

重要な安全上の注意

⚠ 警告

シートは、キーを抜いても位置の調整ができます。そのため、子供だけを車内に残して車両から離れないでください。シートを調整することで身体を挟まれるおそれがあります。

⚠ 警告

走行中は運転席シートを調整しないでください。運転に集中できなくなったり、シートが動いて車両のコントロールを失うことがあります。その結果、事故を起こすおそれがあります。

⚠ 警告

シートの高さは慎重に調整しないと、挟み込んで負傷するおそれがあります。 とくに子供は、電動シート調整スイッチを誤って押してしまい、挟み込まれるおそれがあります。

注意：

- シートを動かしている間は、シート調整システムのレバー部品の下に手を入れないでください。
- 車内の子供が機械部分の下に手を入れないようにしてください。

⚠ 警告

シートを調整するときは、挟み込みがないことを確認してください。

エアバッグに関する注意事項をご覧ください。

子供は安全に乗車させてください。"子供を乗せるとき"をご覧ください。

⚠ 警告

ヘッドレストの中央が目の高さにあり、後頭部が支えられていることを確認してください。頭部がヘッドレストによって正しく支えられていないと、事故のとき、首に重大な負傷をするおそれがあります。ヘッドレストが装着されていないときや正しく調整されていないときは、決して走行しないでください。

⚠ 警告

シートベルトはバックレストがほぼ垂直で、乗員がまっすぐに座っているときのみ、想定された保護の効果を発揮することができます。シートの位置はシートベルトが正しく装着できるようにしてください。バックレストをできるだけ垂直に調整してください。バックレストを後方に寝かせた状態で絶対に走行しないでください。事故のとき、または急ブレーキ時などに重大な、または致命的なけがをするおそれがあります。

! シートとシートヒーターの損傷を防ぐため、以下の点に注意してください。

- シートに液体をこぼさないでください。 シートに液体をこぼしたときは、すみやかに乾燥させてください。
- シートカバーが濡れたときは、シートヒーターを使用しないでください。シートを乾燥させるためにシートヒーターを使用しないでください。
- シートカバーを清掃してください。"日常の手入れ"をご覧ください。
- シートの上に重い物を載せないでください。 また、シートクッションの上にナイフやくぎ、工具などの鋭利な物を置かないでください。 シートはできる

だけ人を乗せるためだけに使用してください。

- シートヒーターの使用中は、ブランケットやコート、バッグ、シートカバー、チャイルドセーフティシート、補助シートなどにより、シートを覆わないでください。

! シートの前後位置を調整するときは、足元やシート後方に物がないことを確認してください。シートや物を損傷するおそれがあります。

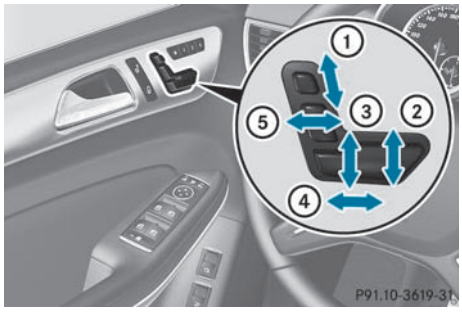
i ヘッドレストはフロントシートから取り外すことはできません。ただし、リアコンパートメントのヘッドレストは取り外せます。(▷ 108 ページ)

詳しくは、メルセデス・ベンツ指定サービス工場にご連絡ください。

i その他の関連テーマ：

- ラゲッジルームの拡大（リアシートを倒す）(▷ 333 ページ)

パワーシートの調整



① ヘッドレストの高さ
② バックレストの角度
③ シートの前後位置
④ シートクッションの角度
⑤ シートの高さ

i メモリー機能付パワーシート装備車両：PRE-SAFE®が作動すると、助手席シートが不適切な位置にある場合は、助手席シートを適正な位置に調整します。

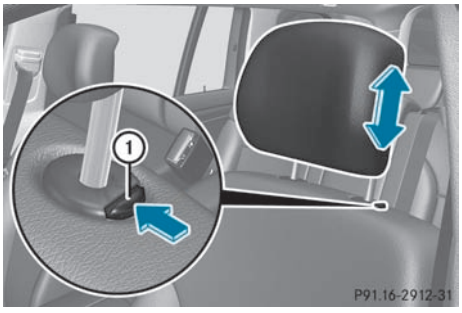
i シート位置はメモリー機能 (▷ 119 ページ) で記憶させることができます。

i メモリー機能付パワーシート装備車：シートの前後位置を調整すると、ヘッドレストも自動的に上下します。

ヘッドレストの調整

ヘッドレストの手動調整

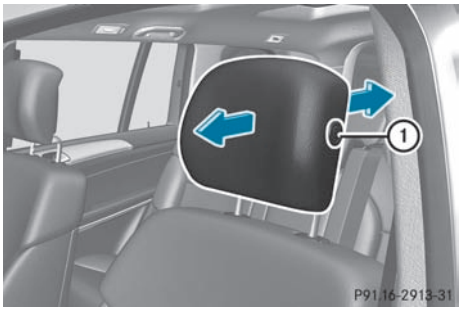
ヘッドレストの高さ調整



▶ **高くする：** ヘッドレストを引き上げます。

▶ **低くする：** リリースキャッチ ① を矢印方向に押し、ヘッドレストを希望の位置に押し下げます。

ヘッドレストの前後位置の調整



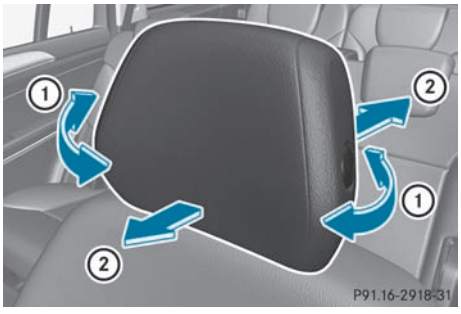
この機能を使用して、ヘッドレストと後頭部間の距離を調整できます。

- **前方に動かす：** ヘッドレストをかみ合うまで前方に矢印方向に引きます。
  調節がいくつかあります。
- **後方に動かす：** ロック解除スイッチ ① を押したままヘッドレストを後方に押します。
- ヘッドレストが希望の位置にきたら、スイッチを放し、ヘッドレストが正しくかみ合っていることを確認します。

ヘッドレストの電動調整

- **ヘッドレストの高さ調整：** シート調整スイッチ(▷ 106 ページ)を矢印の方向に操作して調整します。

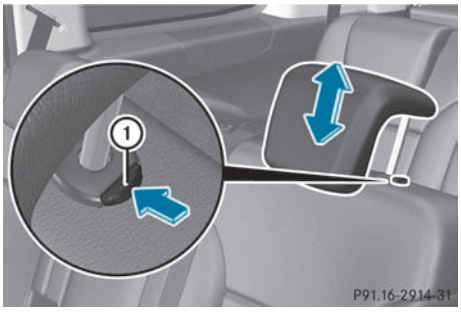
コンフォートヘッドレストの調整



- **ヘッドレストのサイドサポートの調整：** 好みの位置になるまで、右側および左側のサイドサポート ① を動かします。
- **ヘッドレストの前後位置の調整：** ヘッドレストを矢印 ② の方向に動かします。

リアシートのヘッドレスト

リアシートヘッドレストの高さの調整



- ヘッドレストが完全に下がったら、リリースキャッチ ① を押します。
- **高くする：** ヘッドレストを引き上げます。
- **低くする：** ロック解除スイッチ ① を押しながら、ヘッドレストを押し下げます。

リアシートヘッドレストの角度の調整



ヘッドレストの角度を調整して、できるだけ頭部に密着させます。

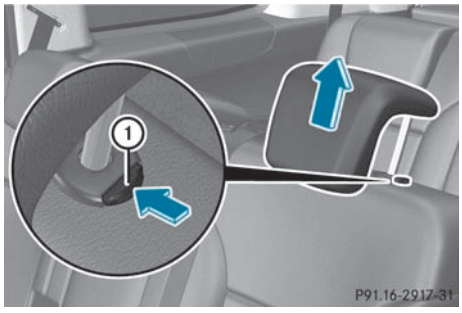
左右のヘッドレストのみ調整できます。

- 両手を使用して、ヘッドレストの両側をつかみます。
- ヘッドレストの下端を前方または後方に希望の位置まで引きます。

リアヘッドレストの脱着

⚠ 警告

リアシートに乗車するときは必ずヘッドレストを取り付けてください。 これにより、事故のときに乗員が重大なけがをする危険性を低くします。



- ▶ **取り外す：** ヘッドレストをできる限りいっぱいまで引き上げます。
- ▶ ロック解除スイッチ ① を押しながら、ヘッドレストを取り付け穴から引き抜きます。
- ▶ **取り付ける：** 切り欠きのある方の支柱が前方向かって左側になるようにして、ヘッドレストを取り付け穴に差し込みます。
- ▶ ロックされるまで、ヘッドレストを押し下げます。

リアシート(2列目および3列目シート)

重要な安全上の注意

⚠ 警告

シートおよびバックレストが固定されていない場合は、例えば急ブレーキまたは事故の際に前方に倒れることがあります。

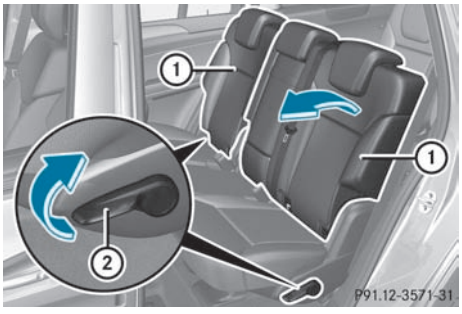
- これにより、固定されていないシートまたはバックレストにより車両の乗員がシートベルトに押し付けられることがあります。シートベルトが意図した保護レベルを提供できなくなり、けがの原因になるおそれがあります。
- チャイルドセーフティシートが固定されない、または正しい位置になくなり、要求された機能を実行できなくなります。
- ラゲッジルームの物および荷物がバックレストに拘束されないことがあります。

けがをするおそれが高まります。

以下のときはシートおよびバックレストが記載されているように固定されていることを常に確認してください。

- イージーエントリー/エグジット機能付きシートに乗員を乗せて走行する前
- シートを調整した後
- イージーエントリー/エグジット機能を使用した後
- ラゲッジルームの拡大で前方に倒した後

バックレストの角度調整(2列目シート)



2列目シートのバックレスト角度を調整することができます。 10個の調節位置があります。

- ▶ 左または右リリースレバー ② を、バックレスト ① が完全に解除されるまで上方の矢印方向に引きます。
- ▶ バックレスト ① を前方の矢印方向に引いて、かみ合わせます。
- ▶ バックレストがかみ合ったことを確認するために、バックレスト ① にしっかりと持たれます。

シートを起こす/倒す(3列目シート)

全体的な注意事項

! ラゲッジルームの倒したシートの上に何も載っていないことを確認してください。 ラゲッジルームは3列目シートを起こす際に空の状態でなければなりません。 さもないとラゲッジルーム内のシートまたは荷物が損傷するおそれがあります。

倒す前に3列目シートに何も載っていない状態で、妨害するものがないことを確認してください。

3列目シートは2個の電動折りたたみ式独立シートから構成され、ラゲッジルームの中に下げることができます。

シートが正しく位置にロックされていない場合は、マルチファンクションディスプレイにディスプレイメッセージ 3列目シート、右側 ロックされていません が表示されます。

左側または右側シートを起こす / 倒すためのスイッチには、進行方向に向かって左側に**L**、進行方向に向かって右側に**R**が付けられています。

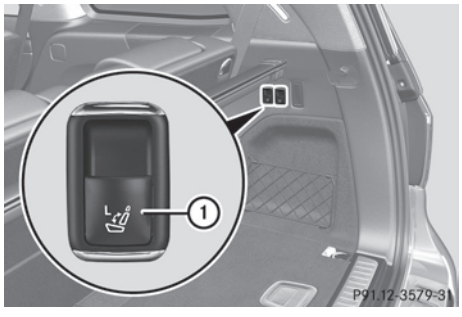
後席に前方/後方に倒す



例 : **R** スイッチ

- ▶ **下に倒す：** 2列目シートの右側外側シートを前方に倒します(▷ 110 ページ)。
- ▶ スイッチ ① を短く引きます。
  シートを起こします。
- ▶ **自動動作を停止する：** スイッチ ① を再度短く引きます。
- ▶ **シートを倒す：** スイッチ ① を短く押します。
  シートが倒れます。
- ▶ **自動折りたたみを停止する：** スイッチ ① を再度軽く押します。

ラゲッジルームを下/上に倒す



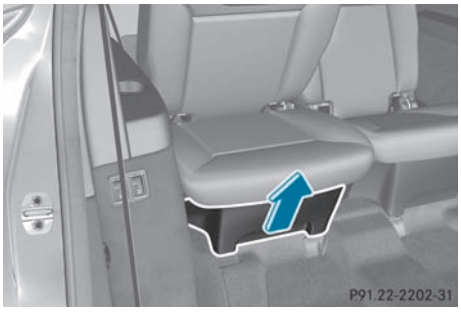
例 : **L** スイッチ

- ▶ **下に倒す：** 2列目シートの右側外側シートを前方に倒します(▷ 110 ページ)。
- ▶ スイッチ ① を軽く押します。
  シートを起こします。

- ▶ **自動折りたたみを停止する：** スイッチ ① を再度軽く押します。
- ▶ **下に倒す：** スイッチ ① を軽く引きます。
  シートが倒れます。
- ▶ **自動折りたたみを停止する：** スイッチ ① を再度軽く引きます。

取外し式パネル(3列目シート)

! シートの下に物が置いてある場合、シートを完全に起こしたり、倒したりすることができなくなります。 シートが損傷するおそれがあります。
必ずパネルを完全に取り付けた状態で走行してください。



3列目シートの下に物を落としたときは、シートの下に手を伸ばせるようにパネルを取り外すことができます。

- ▶ **開く：** 対応するシートを下または上に倒します (▷ 109 ページ)。
- ▶ シートを途中まで起こした、あるいは倒したら、すぐにスイッチを短く押して自動動作を停止します。
- ▶ パネルのリセスをつかみます。
- ▶ パネルを矢印方向に引いて、取り外します。
- ▶ **閉じる：** 対応するシートを上または下に倒します(▷ 109 ページ)。
- ▶ シートを途中まで起こした、あるいは倒したら、すぐにスイッチを短く押して自動動作を停止します。
- ▶ ガイドピンを使用してパネルを取り付けます。
- ▶ パネルをかみ合うまで下方に押します。
- ▶ シートを完全に起こしたり、倒したりして、パネルが正しく取り付けられているか確認します。

2列目シートを手動で倒す

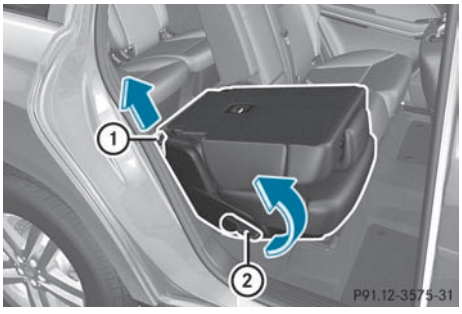
全体的な注意事項

2列目の外側の左および右のシートは、3列目シートに乗る、または降りるために前方に倒すことができます。

i その他の関連テーマ：

- ラゲッジルームの拡大（2列目シートを前方に倒す）(▷ 333 ページ)
- 3列目シートを前方/後ろに倒す (▷ 109 ページ)

エントリーポジション



イージーエントリー/エグジット機能の解除ハンドルは、2列目シートの各外側シートの後ろの入り口側にあります。

- ヘッドレストを最も低い位置に動かします(▷ 107 ページ)。
- リリースハンドル ② を矢印方向に抵抗が感じられるところまで引いて、その位置で保持します。
  バックレストが前方に倒れます。

シートを完全に倒すには2つの方法があります。

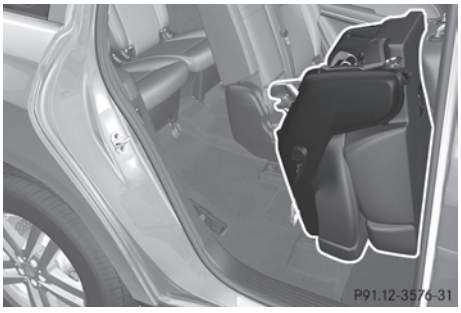
- リリースハンドル ② を矢印方向に抵抗が感じられるところまで再度引いて、その位置で保持します。

または

- ストラップ ① を矢印方向に引いて、そのポジションで保持します。
- シートを前方に倒れるまで持ち上げます。

ⓘ メモリー機能装備車：

フロントシートを少し前方に動かします。



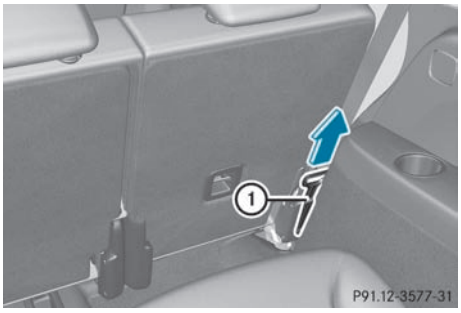
エントリーポジション

エグジットポジション

⚠ 警告

シートバックレストを前方に倒すときにケガをしないように、足をできるだけ遠くにおいてシートが前に倒れるときにシートに触れないようにします。

リアドアを開き、降車するときに事故または危険な状況が発生するのを防ぐために、常に交通状況にご注意ください。



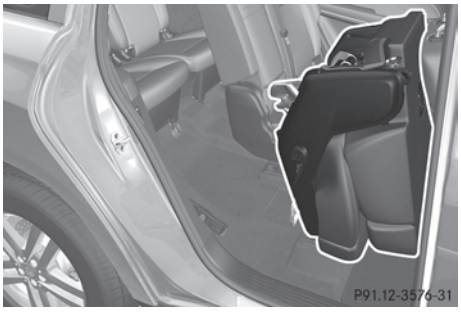
3列目シートから降車する場合、以下のように右側シートを倒します。

イージーエントリー/エグジット機能の解除ループは、2列目の各外側シートの後ろの底面にあります。

- ストラップ ① を矢印方向に引いて、このポジションで保持します。
  バックレストが前方に倒れます。
- ストラップ ① を再度矢印方向に引いて、このポジションで保持します。
- シートを前方に倒れるまで持ち上げます。

ⓘ メモリー機能装備車：

フロントシートを少し前方に動かします。



エグジットポジション

ⓘ メモリー機能装備車：

フロントシートを保存された位置に戻すには、メモリースイッチを使用してプログラムされたシート設定を呼び出します。

両側シートを通常の位置に戻す（2列目シート）

- ▶ **シートをロックする：** シートをかみ合うまで起こします。
- ▶ バックレストをかみ合うまで起こします。
- ▶ バックレストにしっかりともたれて確実にかみ合わせます。

2列目シートを電動で倒す

全体的な注意事項

2列目の外側の左および右のシートは3列目シートに乗る、または降りるために電動で倒すことができます。

2列目シートの外側のシートの少なくとも1つが乗/降位置にあるときは、マルチファンクションディスプレイにディスプレイメッセージ 2列目シート、右側 ロックされていません が表示されます。

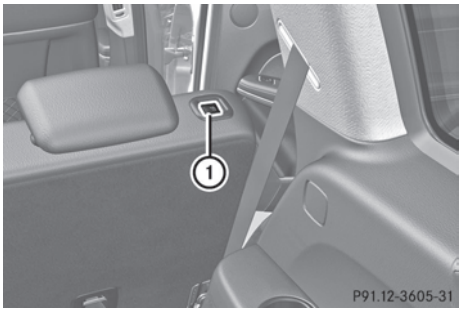
このシートとバックレストをかみ合うまで起こすと、ディスプレイメッセージが消えます。

ℹ その他の関連テーマ：

- ラゲッジルームの拡大（2列目シートを前方に倒す）(▷ 333 ページ)
- 3列目シートを前方/後ろに倒す (▷ 109 ページ)

シートを倒す

車両が停止し、リアドアが開いている場合、シートを電動で倒すことができます。



▶ スイッチ ① を押します。

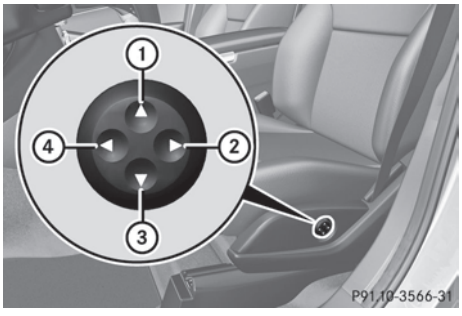
ヘッドレストが格納され、バックレストが前方に倒れ、シートが前方に倒れます。

シートを最初の位置に手動で戻すことができます。(▷ 110 ページ)

マルチコントロールシートバックの調整

COMANDシステムを使用して、マルチコントロールシートバックを設定できます。 別冊のCOMANDシステムの取扱説明書をご覧ください。

電動ランバーサポートの調整



① バックレストのサポート位置を上げる
② バックレストのサポートを弱くする

③ バックレストのサポート位置を下げる
④ バックレストのサポートを強くする

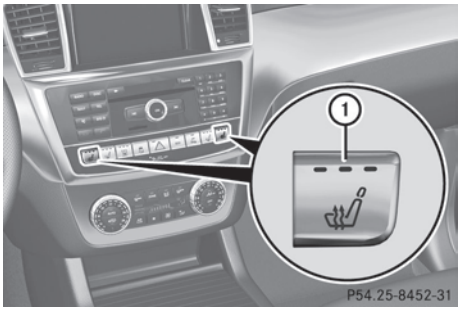
ランバー（腰部）を最適にサポートできるように、フロントシートのバックレストの形状を調整できます。

シートヒーターの使用

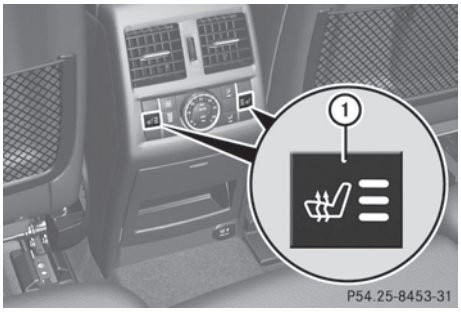
オン/オフの切り替え

⚠ 警告

シートヒーターを連続して使用すると、シートが異常に過熱するおそれがあります。高温により、温度変化を感知できにくい乗員や、異常な高温にも対処できない乗員の健康に悪影響を与えたり、低温火傷を起こすおそれがあります。 したがって、シートヒーターを連続して使用しないでください。



運転席シートと助手席シートのスイッチ



リアシート

スイッチの3 つの赤い表示灯は、選択したレベルを表します。

約8 分後にレベル **3**（強）から **2**（中）へ自動的に切り替わります。

約10 分後にレベル **2**（中）から **1**（弱）へ自動的に切り替わります。

レベル **1** に設定した約 35 分後に、システムは自動的に停止します。

- イグニッション位置を **1** か **2** にします。
- **オンにする**：好みのヒーターレベルになるまで、スイッチ① を繰り返し押します。
- **オフにする**：表示灯が消灯するまで、シートベンチレータースイッチ ① を繰り返し押します。

ⓘ バッテリー電圧が低くなると、シートヒーターが停止することがあります。

シートヒーターが作動しないとき

シートヒーターが短時間で停止したり、作動しない。 多くの電気装備を使用しているため、バッテリー電圧が低くなっています。

- リアデフォッガーやルームライトなど、必要のない電気装備をオフにしてください。

シートベンチレーターのオン/オフ

機能のオン/オフ



スイッチの3つの青い表示灯は、選択したレベルを表します。

- ▶ イグニッション位置を 1 か 2 にします。
- ▶ **オンにする：** 好みのレベルになるまで、シートベンチレータースイッチ ① を繰り返し押します。
- ▶ **オフにする：**表示灯が消灯するまで、シートベンチレータースイッチ ① を繰り返し押します。

ⓘ バッテリー電圧が低くなると、シートベンチレーターが停止することがあります。

ⓘ コンビニエンスオープニング機能で、サイドウインドウやスライディングルーフを開くことができます。 (▷ 93 ページ)
運転席のシートベンチレーターは強のレベルで自動的に作動します。

シートベンチレーターが作動しないとき

シートベンチレーターが短時間で停止したり、作動しない。 多くの電気装備を使用しているため、バッテリー電圧が低くなっています。

- ▶ リアデフォッガーやルームライトなど、必要のない電気装備をオフにしてください。

ステアリング

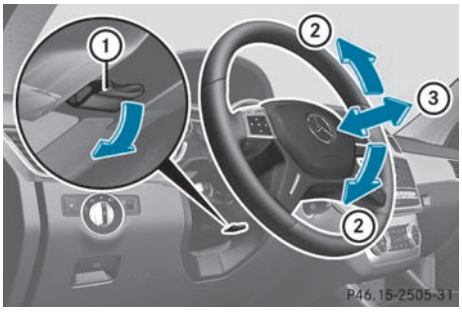
重要な安全上の注意

⚠ 警告

走行中はステアリングを調整しないでください。 走行中のステアリング調整あるいはステアリング調整機能がロックされていない状態での運転は、車両のコントロールを失う原因になるおそれがあります

電動ステアリング調整機能はどのような時でも作動します。 したがって、車内に、あるいはロックされていない車両に近づける状態で決して子供だけを残さないでください。 子供を車両に近づける状態にしたまま目を離すと、事故や重大なケガを引き起こすおそれがあります。

手動調整式ステアリングの調整

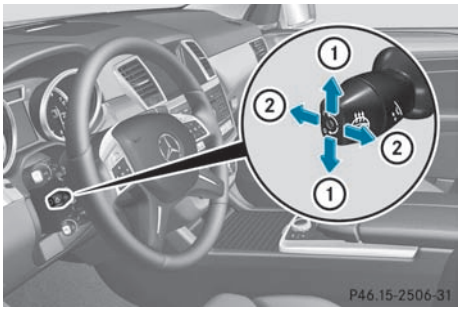


① リリースレバー
② ステアリングの上下位置の調整
③ ステアリングの前後位置の調整

- ▶ リリースレバー ① を下方へ完全に押し下げます。
  ステアリングはロック解除されます。
- ▶ ステアリングを希望のポジションに調整します。

▶ リリースレバー ① を上方へ完全に押し上げます。
ステアリングがロックされます。
▶ ステアリングがロックされているか確認してください。 ステアリングを上下方向に押す、または前後方向に動かして確認します。

電動調整式ステアリングの調整



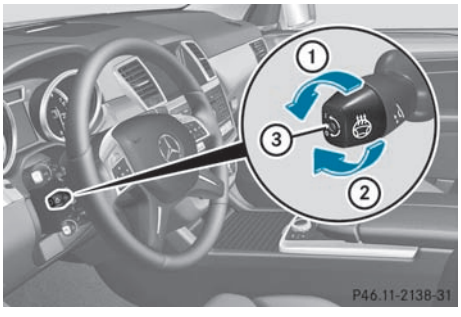
① ステアリングの上下位置の調整
② ステアリングの前後位置の調整

ℹ その他の関連テーマ：

- イージーエントリー機能 (▷ 115 ページ)
- メモリーの設定 (▷ 119 ページ)

ステアリングヒーター

機能のオン/オフ



▶ イグニッション位置を 2 にします。
▶ **オン/オフの切り替え：** レバーを矢印 ① または ② の方向にまわします。
表示灯 ③ が点灯または消灯します。

キーレスゴー非装備車：エンジンスイッチからキーを抜くと、ステアリングヒーターはオフになります。

キーレスゴー装備車：エンジンスイッチをオフにして運転席ドアを開くと、ステアリングヒーターはオフになります。

ステアリングヒーターが作動しないとき

ステアリングヒーターが自動的にオフになるか、オンにすることができなくなります。 多くの電気装備を使用しているため、バッテリー電圧が低くなっています。

▶ リアデフォッガーやルームライトなど、必要のない電気装備をオフにしてください。

イージーエントリー機能

重要な安全上の注意

⚠ 警告

イージーエントリーの作動中は、身体が挟まれないことを確認してください。

もし挟まれそうになったときは、設定操作を中止してください。 操作を中止するには

- ステアリング調整スイッチを押します。
- メモリー機能スイッチの1つを短時間押します。

ステアリングは、ただちに動作を止めます。

メモリー機能がスタートして、ステアリングとシートが動き出すので、メモリー機能スイッチを押したままにしないでください。

▷▷

子供だけを車内に残さないでください。車両が施錠されていても、誤って車内からドアを開いたり運転装置に触れるとイージーエントリー機能が作動し、身体が挟まれるおそれがあります。

イージーエントリー機能は、運転席への乗り降りを容易にする機能です。

イージーエントリー機能は、マルチファンクションディスプレイ (▷ 270 ページ) で設定/解除できます。

イージーエントリー機能が作動しているときのステアリングの位置

次のいずれかの操作をすると、ステアリングが上方に移動します。

- エンジンスイッチからキーを抜き取ったとき
- 運転席ドアを開き、キーレスゴースイッチを 1 にしたとき
- 運転席ドアを開き、エンジンスイッチに差し込んだキーの位置を 0 か 1 にしたとき

ⓘ ステアリングが上方で停止している状態では作動しません。

走行中のステアリングの位置

ステアリングは、次のいずれかの操作をすると元の位置に戻ります。

- 運転席ドアを閉める
- エンジンスイッチにキーを差し込む

または

- キーレスゴー装備車両は、キーレスゴースイッチを押す

エンジンスイッチにキーを差し込んで運転席ドアを閉じると、ステアリングは自動的に元の位置に戻ります。

前回のステアリングの位置は、イグニッションをオフにしたとき、あるいはメモリー機能で設定を保存したときに記憶されたものです。(▷ 119 ページ)

クラッシュセンサー連動式イージーエグジット機能

事故などのときに、クラッシュセンサー連動式イージーエグジット機能が作動し、運転席ドアを開いたときにステアリングが上方に動きます。 イージーエグジット機能は、イグニッション位置にかかわらず作動します。 これにより、車両の外への脱出や乗員の救出を容易にします。

クラッシュセンサー連動式イージーエグジット機能は、マルチファンクションディスプレイでイージーエントリー機能を設定しているときにのみ作動します。(▷ 270 ページ)

ミラー

ルームミラー



▶ **防眩モードにする**：防眩モード切り替えスイッチ ① を前方または後方に操作します。

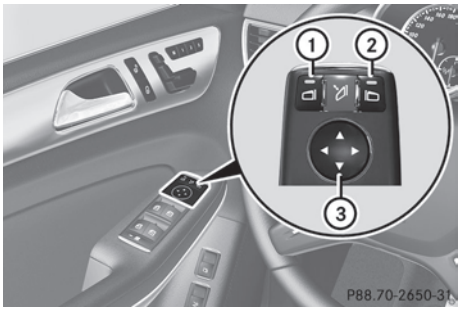
ドアミラー

ドアミラーの調整

⚠ 警告

ドアミラーに写る像は実際よりも小さく見えます。実際には、ドアミラーで見るよりも近くにあります。車線変更時などは、後方の車両との距離感を見誤り、事

故の原因になります。そのため、肩ごしに直接斜め後方を見て、実際の距離を確認してください。

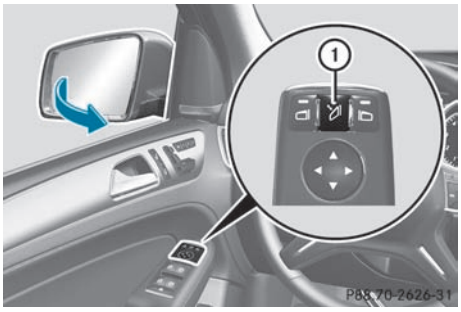


- ▶ イグニッション位置を 1 か 2 にします。
- ▶ 左側ドアミラースイッチ ① または右側ドアラースイッチ ② を押します。
  選択したスイッチの表示灯が赤色に点灯します。
  しばらく何も操作を行わないと表示灯は消灯します。 ドアミラー選択スイッチの表示灯が点灯しているときに、ドアミラー調整スイッチ ③ を操作すると、ドアミラーの角度を調整できます。
- ▶ 調整スイッチ ③ を上下方向、左右方向に押して、ドアミラーを正しい位置に調整します。 交通状況にご注意ください。

より広い視野を確保するため、ドアミラーの外側部分は凸面になっています。

外気温度が低く、リアデフォッガーを使用しているときは、ドアミラーは自動的に温められます。

ドアミラーの格納/展開(自動)



- ▶ イグニッション位置を 1 か 2 にします。
- ▶ ドアミラー格納/展開スイッチ ① を短く押します。
  ドアミラーが格納/展開します。

ⓘ ドアミラーは走行中は必ず完全に展開しているようにしてください。 ドアミラーが振動することがあります。

ドアミラーの設定

バッテリーが接続を外されたり、完全に放電した場合は、ドアミラーをリセットしなければなりません。 さもないと、マルチファンクションディスプレイで"施錠時のドアミラー格納"機能を選択しているときにドアミラーは格納されません。 (▷ 271 ページ)

- ▶ イグニッション位置を 1の位置にします。
- ▶ ドアミラー格納/展開スイッチ ① を短く押します。

ドアミラーを自動で格納/展開する

マルチファンクションディスプレイで"施錠時のドアミラー格納"機能が作動している場合(▷ 271 ページ)

- 車両の外側から施錠すると、ドアミラーも併せて格納されます。
- 車両を解錠し、運転席ドアまたは助手席ドアを開くと、ドアミラーは自動的に展開します。

ドアミラーが外側に曲げられたとき

ドアミラーが無理に外側に曲げられたときは、以下の操作を行なってください。

- ▶ **手動格納式ドアミラー装備車：** 手動で元の位置に戻してください。
- ▶ **電動格納式ドアミラー装備車：** かみ合う音が聞こえ、ミラーが正しい位置に固定されるまで、ミラーを倒すためのスイッチ ①(▷ 117 ページ) を押して保持します。
  ミラーの筐体が再度固定され、通常通りドアミラーを調整できます。(▷ 116 ページ)

自動防眩ルームミラー＆ドアミラー(運転席側)

⚠ 警告

車内に高く積み上げた荷物などによってルームミラーのセンサーに後続車のヘッドライトが当たらないときは、自動防眩機能が作動しないことがあります。

後続車のライトによって視界が失われることがあり、 それにより運転に集中できず、事故を起こすおそれがあります。

以下の条件が同時に満たされると、ルームミラーと運転席側のドアミラーは自動的に自動防眩モードになります。

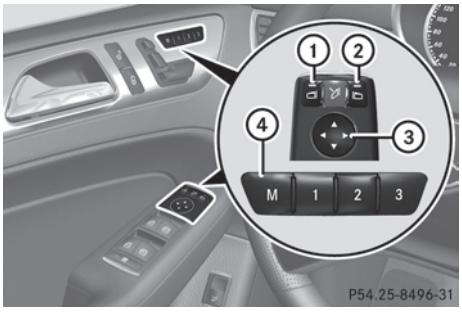
- イグニッションがオン
- 後続車のライトがルームミラーのセンサーに当たる

シフトポジションがリバースのとき、またはルームライトが点灯しているときは、自動防眩機能は解除されます。

助手席側ドアミラーの駐車時の位置

リバースポジションの設定と記憶

リバースギアの使用



① 運転席側ドアミラースイッチ

② 助手席側ドアミラースイッチ

③ 調整スイッチ

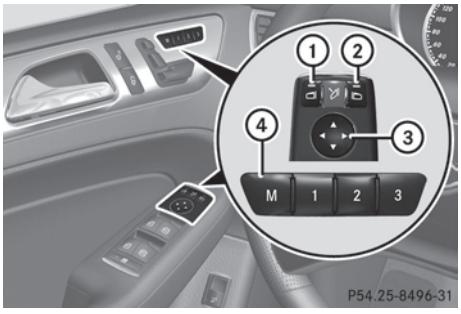
④ メモリースイッチ **M**

シフトポジションをリバースにしたとき、すみやかに後輪が見えるように助手席側ドアミラーを設定できます。 その位置を記憶させることができます。

- ▶ 停車していることを確認し、イグニッション位置を **2** にします。
- ▶ 助手席側ドアミラー選択スイッチ ② を押します。
- ▶ リバースギアに入れます。
  助手席側ドアミラーの角度が、あらかじめ記憶させていた角度になります。
- ▶ ドアミラー調整スイッチ ③ を使用して、後退時に後方を確認しやすい角度に助手席側ドアミラーを調整します。
  リバースポジションが記憶されます。

ⓘ シフトポジションをリバースから他の位置にすると、助手席側ドアミラーは元の角度に戻ります。

メモリースイッチの使用

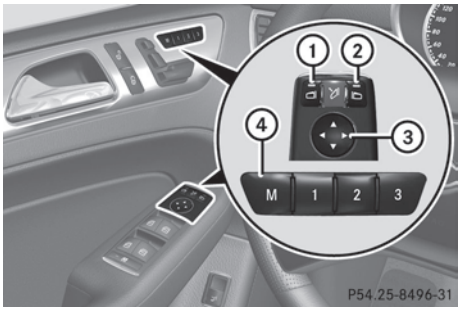


① 運転席側ドアミラースイッチ
② 助手席側ドアミラースイッチ
③ 調整スイッチ
④ メモリースイッチ M

シフトポジションをリバースにしたとき、すみやかに後輪が見えるように助手席側ドアミラーを設定できます。 この設定は、メモリースイッチM ④を使用して保存することができます。

▶ イグニッション位置を 2 にします。
▶ 助手席側ドアミラーが作動したら、調整スイッチ ③を使ってドアミラーを調整します。 ドアミラーでリアホイールと歩道が見えている必要があります。
▶ メモリースイッチ M ④ を押し、約 3 秒以内にドアミラー調整スイッチ ③ をいずれかの方向に押します。
このとき助手席側ドアミラーが動かなければ、そのときの角度がリバースポジションとして記憶されます。
▶ 助手席側ドアミラーが動いたときは最初からやり直してください。

記憶したリバースポジションを呼びだす



① 運転席側ドアミラースイッチ
② 助手席側ドアミラースイッチ
③ 調整スイッチ
④ メモリースイッチ M

▶ イグニッション位置を 2 にします。
▶ スイッチ ②を使って助手席側ドアミラーを調整します。
▶ リバースギアに入れます。
助手席側ドアミラーの角度が記憶されたリバースポジションになります。

助手席側ドアミラーは次のいずれかのときに元の角度に戻ります。

- 速度が 15 km/h を越えたときにすぐ
- 運転席側ドアミラー選択スイッチ ① を押したとき

メモリー機能

メモリーの設定

⚠ 警告

車両が停車しているときは運転席側のメモリー機能のみを使用してください。 ステアリングやシートが動いて、運転に集中できず、事故を起こすおそれがあります。

⚠ 警告

メモリー機能は、エンジン・スイッチからキーを抜いた後でも使用できます。 決して子供だけを車内に残して車から離れないでください。 子供がスイッチを操作すると、シートやステアリングが動きだし、身体を挟まれるおそれがあります。

メモリー機能では、例えば3人の異なる運転者のために3つの位置を記憶させることができます。

以下の項目がひとつの設定として記憶されます。

- シートとバックレスト、ヘッドレストの位置
- 運転席側：ステアリングの位置
- 運転席側：運転席および助手席側のドアミラーの角度



▶ シート (▷ 106 ページ) を調整します。

▶ 運転席側は、ステアリング (▷ 115 ページ) とドアミラー (▷ 116 ページ) を調整します。

▶ メモリースイッチ **M** を押し、約3秒以内にポジションスイッチ **1**、**2** または **3** のいずれかを押します。
選択したポジションスイッチにそのときの位置が記憶されます。 メモリーの設定が完了すると確認音が鳴ります。

記憶した位置を呼び出す

▶ 記憶したシート位置とステアリングの位置、ドアミラーの角度になるまで、呼び出したいポジションスイッチ **1** か **2** か **3** のいずれかを押し続けます。

ℹ ポジションスイッチを放すと、ただちに設定手順が中断します。

役に立つ情報 122
ライト 122
ルームライト 130
電球の交換 132
フロントワイパー 135

役に立つ情報

ⓘ この取扱説明書は発行時点で利用可能な、車両のすべてのモデルやシリーズ、オプション装備を記載しています。国別仕様の違いがあることもあります。お客様の車両には記載されている全ての機能が装備されていないことがあることにご留意ください。これは安全に関するシステムや機能の場合もあります。

ⓘ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で情報をご覧ください。(▷ 23 ページ)

ライト

重要な安全上の注意

昼間にライトを点灯せずに走行したい場合は、マルチファンクションディスプレイで"デイタイムドライビングライト"の設定をオフにしてください (▷ 266 ページ)。

ライトの設定

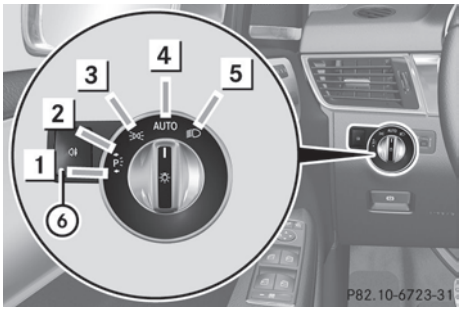
設定方法

ライトは以下を操作して設定できます。

- ライトスイッチ
- コンビネーションスイッチ (▷ 125 ページ)
- マルチファンクションディスプレイ (▷ 266 ページ)

ライトスイッチ

操作



1 ←P≤ 左側パーキングランプ

2 P≤→ 右側パーキングランプ

3 車幅灯、ライセンスプレートおよびメーターパネル照明

4 AUTO ヘッドライトのオートモード（ライトセンサーによる制御）

5 ロービーム/ハイビームヘッドライト

⑥ リアフォグランプ

車から離れるときに警告音が鳴る場合は、ライトを消し忘れている可能性があります。

▶ ライトスイッチを AUTO にまわします。

車外ライト（サイドランプ/パーキングライト以外）は、以下の操作を行なうと自動的に消灯します。

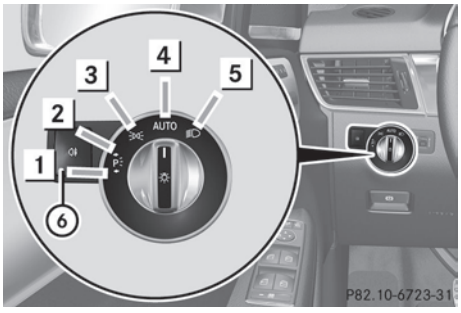
- エンジンスイッチからキーを抜き取ったとき
- キーを 0 の位置にして運転席ドアを開いたとき

ヘッドライトのオートモード

⚠ 警告

ライトスイッチが AUTO にセットされていても、霧がかかる、雪が降っている、あるいは視界が良くない場合には、ロービーム ヘッドライトは自動的には点灯しません。 お客様や他の方々に危険がおよ

ぶおそれがあります。 そのような場合には、ライトスイッチを [≡D] にまわします。
オートマチックヘッドライトモード機能は補助のみを行ないます。 ライトの点灯/消灯に関する責任は常に運転者にあります。



[1] [←P≡] 左側パーキングランプ
[2] [P≡→] 右側パーキングランプ
[3] [≡DOC≡] 車幅灯、ライセンスプレートおよびメーターパネル照明
[4] [AUTO] ヘッドライトのオートモード（ライトセンサーによる制御）
[5] [≡D] ロービーム/ハイビームヘッドライト
⑥ [0⇕] リアフォグランプ

通常は、ライトスイッチを [AUTO] に設定することをお勧めします。 ライト設定は、周囲の明るさに応じて以下のように自動的に選択されます（例外：霧、雪、霧雨などの天候による視界不良）。

- エンジンスイッチを 1 の位置にしたとき：周囲の明るさに応じて車幅灯が自動的に点灯または消灯します。
- エンジンがかかっているとき：マルチファンクションディスプレイでデイタイムドライビングライト機能を作動させているときは、デイタイムライトまたはロービームヘッドライトおよび車幅灯が周囲の明るさに応じて自動的に点灯または消灯します。

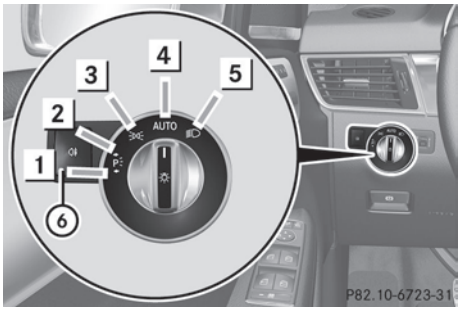
▶ **ヘッドライトのオートモードをオンにする：** ライトスイッチを [AUTO] にまわします。

ロービームヘッドライトを点灯させると、メーターパネルの [≡D] 表示灯が点灯します。

ヘッドライト

⚠ 警告

ライトスイッチが [AUTO] にセットされていても、霧がかかる、雪が降っている、あるいは視界が良くない場合には、ロービーム ヘッドライトは自動的には点灯しません。 お客様や他の方々に危険がおよぶおそれがあります。 そのような場合には、ライトスイッチを [≡D] にまわします。
オートマチックヘッドライトモード機能は補助のみを行ないます。 ライトの点灯/消灯に関する責任は常に運転者にあります。

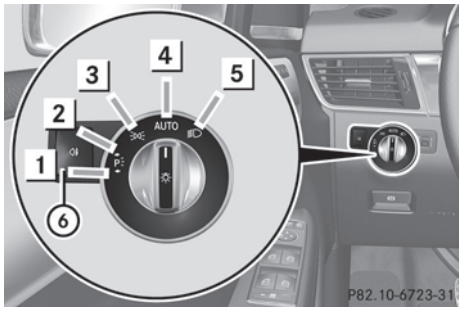


[1] [←P≡] 左側パーキングランプ
[2] [P≡→] 右側パーキングランプ
[3] [≡DOC≡] 車幅灯、ライセンスプレートおよびメーターパネル照明
[4] [AUTO] ヘッドライトのオートモード（ライトセンサーによる制御）
[5] [≡D] ロービーム/ハイビームヘッドライト
⑥ [0⇕] リアフォグランプ

ライトセンサーが暗いことを検知しない場合も、キーをエンジンスイッチに挿入し、ライトスイッチが ≡D ポジションにセットされている場合は、車幅灯およびロービームヘッドライトが点灯します。この機能は降雨や霧がかかっている場合には特に便利です。

- **ロービームヘッドライトを点灯する：** エンジンスイッチを 2 の位置にするか、エンジンを始動します。
- ライトスイッチを ≡D にまわします。メーターパネルの緑色の表示灯 ≡D が点灯します。

リアフォグランプ



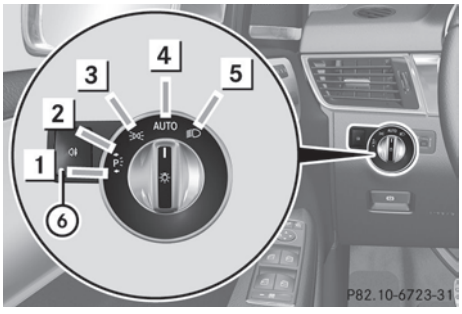
1 ←P≡ 左側パーキングランプ
2 P≡→ 右側パーキングランプ
3 ≡DC 車幅灯、ライセンスプレートおよびメーターパネル照明
4 AUTO ヘッドライトのオートモード（ライトセンサーによる制御）
5 ≡D ロービーム/ハイビームヘッドライト
⑥ 0⇕ リアフォグランプ

リアフォグランプは濃霧の際に後方を走行する車両がお客様の車両を確認しやすくします。 リアフォグランプの使用に関する各国別の法規にご注意ください。

- **リアフォグランプを点灯する：** エンジンスイッチを 2 の位置にするか、エンジンを始動します。
- ライトスイッチを ≡D または AUTO にまわします。
- 0⇕ スイッチを押す。メーターパネルの黄色の表示灯 0⇕ が点灯します。
- **リアフォグランプを消灯する：** 0⇕ スイッチを押します。メーターパネルの黄色の表示灯 0⇕ が消灯します。

車幅灯

! バッテリーが過放電すると、次回のエンジン始動を可能にするために、車幅灯またはパーキングランプが自動的に消灯します。法的基準にしたがって車両を安全で十分な明るさのところに常に駐車してください。車幅灯 ≡DC を何時間も連続してご使用にならないでください。可能であれば、P≡→ 右側または ←P≡ 左側パーキングランプを点灯してください。

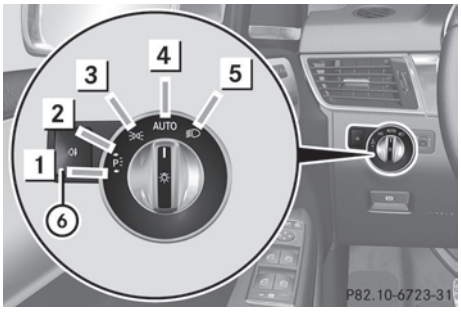


1 ←P≡ 左側パーキングランプ
2 P≡→ 右側パーキングランプ
3 ≡DC 車幅灯、ライセンスプレートおよびメーターパネル照明
4 AUTO ヘッドライトのオートモード（ライトセンサーによる制御）

5 ロービーム/ハイビームヘッドライト
⑥ リアフォグランプ

▶ **点灯する：** ライトスイッチを にまわします。
メーターパネルの緑色の表示灯 が点灯します。

パーキングランプ



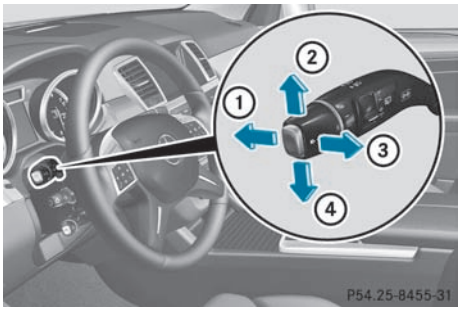
1 左側パーキングランプ
2 右側パーキングランプ
3 車幅灯、ライセンスプレートおよびメーターパネル照明
4 AUTO ヘッドライトのオートモード（ライトセンサーによる制御）
5 ロービーム/ハイビームヘッドライト
⑥ リアフォグランプ

パーキングランプを点灯させると、車両の対応する横側が点灯します。

▶ **パーキングライトを点灯する：** キーがイグニッションに差し込まれていないか、または 0 の位置にあります。
▶ ライトスイッチを （車両の左側）または （車両の右側）にまわします。

コンビネーションスイッチ

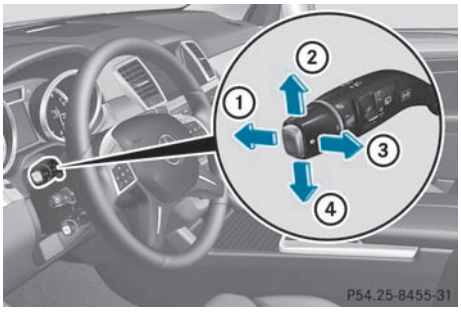
方向指示灯



① ハイビームヘッドライト
② 右側の方向指示灯
③ パッシングライト
④ 左側の方向指示灯

▶ **短時間点滅させる：** コンビネーションスイッチを矢印 ② または④の方向に軽く押します。
対応する方向指示灯が3 回点滅します。
▶ **点滅させる：** コンビネーションスイッチを矢印 ② または ④の方向に押します。

ハイビームヘッドライト



① ハイビームヘッドライト
② 右側の方向指示灯

③ パッシングライト

④ 左側の方向指示灯

▶ **ハイビームヘッドライトを点灯する：** エンジンスイッチのキーを 2 の位置にするか、エンジンを始動します。

▶ ライトスイッチを [≡D] または [AUTO] にまわします。

▶ コンビネーションスイッチを手応えのあるところを越えて矢印 ① の方向に押します。

[AUTO] の位置のとき、ハイビームヘッドライトは、周囲が暗くエンジンがかかっているときにのみ点灯します。

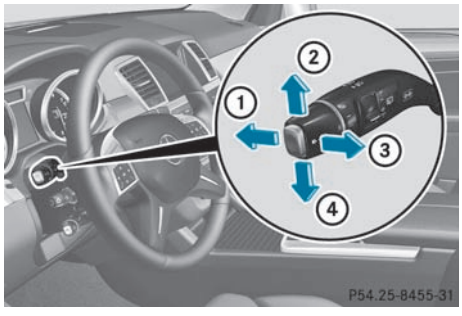
ハイビームヘッドライトを点灯させると、メーターパネルの青色の [≡D] 表示灯が点灯します。

▶ **ハイビームヘッドライトを消灯する：** コンビネーションスイッチを通常の位置に戻します。

メーターパネルの青色の [≡D] 表示灯が消灯します。

ⓘ アダプティブハイビームアシスト装備車：アダプティブハイビームアシストが作動しているとき、これがハイビームヘッドライトの作動をコントロールします。 (▷ 128 ページ)

パッシングライト



① ハイビームヘッドライト

② 右側の方向指示灯

③ パッシングライト

④ 左側の方向指示灯

▶ **作動させる：** エンジンスイッチのキーを 1 または 2 の位置にするか、エンジンを始動します。

▶ コンビネーションスイッチを矢印 ③ の方向に引きます。

非常点滅灯



▶ **非常点滅灯の点灯：** スイッチ ①を押します。

すべての方向指示灯が点滅します。 このときにコンビネーションスイッチを使用して方向指示灯を作動させたときは、車両の対応する側の方向指示灯のみが点滅します。

▶ **非常点滅灯の消灯：** スイッチ ①を再度押します。

非常点滅灯は、以下のときに自動的に点滅します。

- エアバッグが作動したとき
- 約70 km/h 以上の速度から車両が急減速して停止したとき

急ブレーキを効かせた後に車両が再度約 10 km/h 以上の速度に達すると、非常点滅灯は自動的に消灯します。

ⓘ 非常点滅灯は、イグニッションがオフのときも点滅させることができます。

ヘッドライトウォッシャー

ライトが点灯していてエンジンがかかっているときは、フロントウインドウウォッシャーを約5 回操作すると、ヘッドライトが自動的に清掃されます。(▷ 135 ページ) エンジンを停止すると、ヘッドライトウォッシャーはリセットされ、回数は0に戻ります。

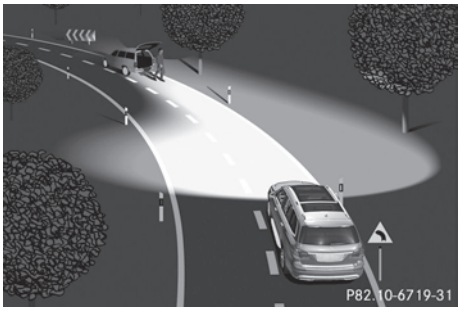
インテリジェントライトシステム

全体的な注意事項

インテリジェントライトシステムは、実際の走行や天候状況に合わせてヘッドライトを自動的に調整するシステムです。車両速度や天候状況などに応じて路面の照射を向上させる最新機能を提供します。 システムには、アクティブライトシステムやコーナリングライト、ハイウェイモード、フォグランプ強化機能が含まれます。 システムは周囲が暗いときのみ作動します。

マルチファンクションディスプレイを使用して"インテリジェントライトシステム"を作動させたり解除したりできます(▷ 267 ページ)。

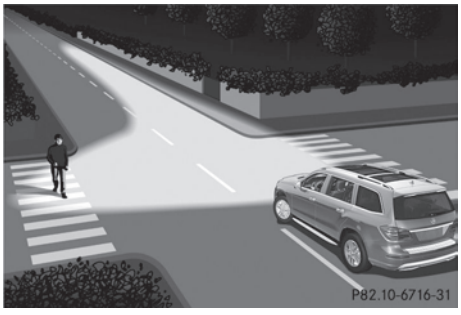
アクティブライトシステム



アクティブライトシステムは、前輪のステアリングの動きに合わせて、ヘッドライトを動かすシステムです。 このようにして、走行中は対応する範囲が照射されたままになります。 歩行者、サイクリスト、動物などを認識できます。

以下のときに作動します： ヘッドライトが点灯しているとき。

コーナリングライト



コーナリングライトは、曲がる方向の広い角度にわたる路面の照射を向上させ、急カーブなどでのより良い視界を可能にします。 ヘッドライトがロービームで点灯しているときにのみ作動します。

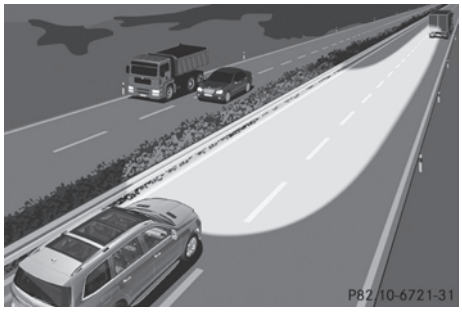
以下のときに作動します。

- 走行速度が約40 km/h以下で、方向指示灯が作動しているかステアリングをまわしたとき
- 走行速度が約40 km/hから70 km/hの間で、ステアリングをまわしたとき

以下のときに停止します。走行速度が約40 km/h以上のとき、方向指示灯を停止したとき、またはステアリングを直進位置に戻したとき。

コーナリングライトは短時間点灯したままになりますが、約3 分後に自動的に消灯します。

ハイウェイモード



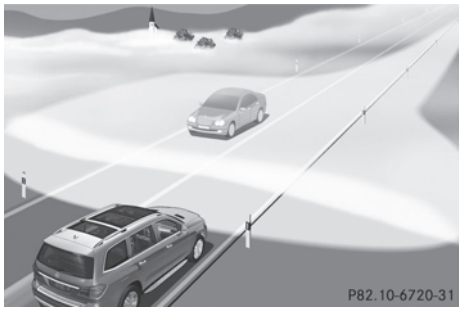
ハイウェイモードは、ヘッドライトの範囲を広げます。

作動：約 110 km/h 以上の速度で走行し、約 1000 m の区間で大きなステアリング操作をしていない場合、あるいは約 130 km/h 以上の速度で走行している場合。

この情報はライト機能にのみ適用されます。 必ず法定速度および制限速度を遵守してください。

以下のときに解除されます：作動後に、80 km/h 以下の速度で走行したとき。

フォグランプ強化機能



フォグランプ強化機能は運転者の眩しさを軽減し、道路の端の照射を向上させます。

以下のときにオン：70 km/h 以下の速度で走行していてリアフォグランプを点灯したとき

以下のときにオフ：走行速度が約 100 km/h以上、または作動後にリアフォグランプを消灯したとき

この情報はライト機能にのみ適用されます。 必ず法定速度および制限速度を遵守してください。

オフロードライト

オフロードライトは、オフロード走行中にロービームヘッドライトから左右対称で、広い幅でさらに明るい光が照射されることにより被写体/障害物をすばやく認識する手助けをします。

以下のときに点灯： 約 50 km/h 以下の速度で走行中にオフロードプログラムセレクターダイヤルがポジション 1 または 2 のとき

以下のときに消灯： 約 50 km/h 以上の速度で走行しているとき

オフロードライトが点灯しているとき、コーナリングライト機能は常に作動、アクティブライト機能は作動停止、ヘッドライト光軸コントロールは静止モードにセットされています。

アダプティブハイビームアシスト

重要な安全上の注意

⚠ 警告

アダプティブハイビームアシストは、運転を支援する機能です。運転者は視界や道路状況に応じて、ヘッドライトの下向き/上向きを手動で調整してください。

以下のときは、システムの作動に影響を与えたり、システムが作動しないことがあります。

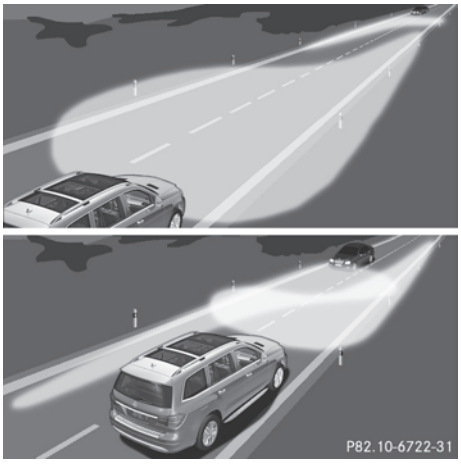
- 雪、雨、霧、時雨などで視界が悪いとき
- フロントウインドウの照度センサー付近が汚れていたり、曇っているとき、またはステッカーなどが貼られているとき

以下のような場合は、歩行者や自転車を検知できなくなるおそれがあります。

- 歩行者など道路使用者がライトを持っていないとき
- 自転車にライトが装着されていても、ライトが暗いとき
- ガードレールの後ろにいるなど、道路使用者のライトがさえぎられて検知できないとき
- まれなケースとして、ライトを持っている道路使用者の検知が遅れたり、まったく検知されないとき

ヘッドライトが自動的に切り替わらない場合や、車両の前を人が横切ったり車両に近づいてくるときに不意に切り替わる場合があります。

このような場合は、事故につながったり、乗員がけがをするおそれがあります。常に道路状況を確認しながら、必要であればライトを手動で下向きにしてください。

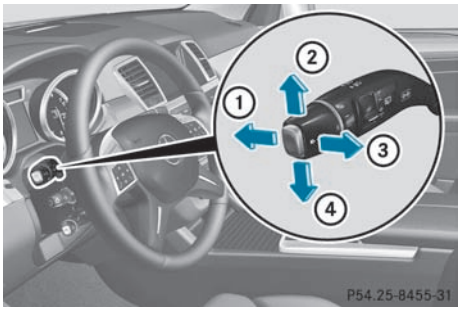


この機能を利用すると、ヘッドライトを自動的にハイビームとロービームに切り替えるよう設定できます。 システムは、反対方向を接近してくる、または自車の前方を走行しているライトを点灯した車両を検知して、ヘッドライトをハイビームからロービームに切り替えます。

このシステムは、他車との距離に応じてロービームヘッドライトの範囲を自動的に調整します。 他車を検知しなくなると、ハイビームヘッドライトを再度作動させます。

システムの光学センサーは、フロントウインドウ後ろのルーフオペレーティングユニット付近にあります。

アダプティブハイビームアシストのオン/オフの切り替え



① ハイビームヘッドライト
② 右側の方向指示灯
③ パッシングライト
④ 左側の方向指示灯

▶ **作動させる：** マルチファンクションディスプレイでアダプティブハイビームアシストを設定します。 (▷ 267 ページ)

▶ ライトスイッチを AUTO にまわします。

▶ コンビネーションスイッチを手応えのあるところを越えて矢印 ① の方向に押します(▷ 125 ページ)。
周囲が暗く、ライトセンサーがロービームヘッドライトを作動させたときは、マルチファンクションディスプレイの表示灯 が点灯します。

45 km/h以上で走行しているとき
ヘッドライトの範囲は、他車や他の道路使用者との距離に応じて、自動的に設定されます。

55 km/h 以上で走行していて、他の道路使用者を検知しないとき

自動的にハイビームヘッドライトが点灯します。 メーターパネルの [≡D] 表示灯も点灯します。

45 km/h 以下で走行しているか、または他の道路使用者を検知しているか、または道路が十分に照らされているとき

自動的にハイビームヘッドライトが消灯します。 メーターパネルの [≡D] 表示灯が消灯します。 マルチファンクションディスプレイの表示灯 [≡A] は点灯したままになります。

▶ **解除する：** コンビネーションスイッチを通常の位置に戻します。
メーターパネルの [≡A] 表示灯が消灯します。

ヘッドライト内側の曇り

外気の湿度が高いときは、ヘッドライト内面が曇ることがあります。

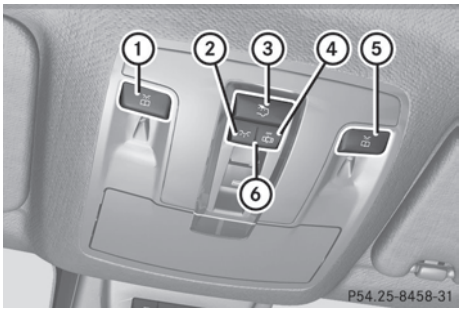
▶ ライトを点灯して走行します。
走行の長さおよび天候状態（湿度と温度）により、曇り具合は低下します。

曇り具合が低下しないとき

▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場でヘッドライトの点検を受けてください。

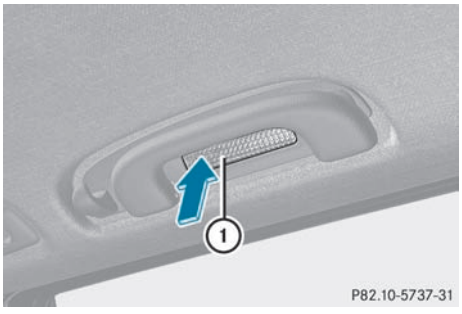
ルームライト

ルームライトの概要



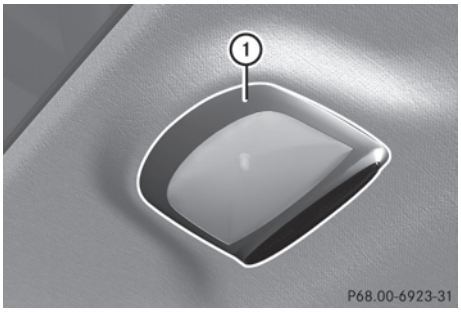
ルーフオペレーティングユニット

① [左側フロント読書灯点灯/消灯の切り替え
② [フロントルームライト点灯
③ [リアルームライト点灯/消灯の切り替え
④ [フロントルームライト消灯/ルームライト自動コントロールのオフ
⑤ [右側フロント読書灯点灯/消灯の切り替え
⑥ ルームライト/ルームライト自動コントロールオンの切り替え



リアルーフオペレーティングユニット（2列目シート）

① 読書灯スイッチ



リアルーフオペレーティングユニット（3列目シート）
① 読書灯

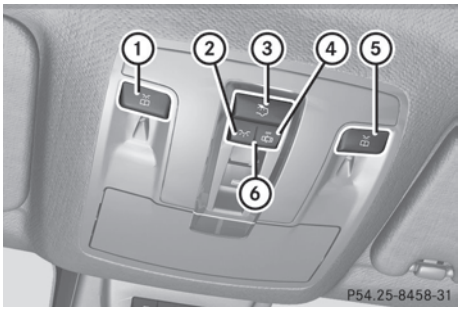
ルームライトの操作

全体的な注意事項

車両のバッテリーあがりを防止するため、エンジンスイッチのキーが 2 の位置以外のときは、ルームライトの機能は一定時間後に自動的に解除されます。

アンビエントライトの色と明るさは、マルチファンクションディスプレイを使用して設定できます。(▷ 268 ページ)

ルームライトの自動点灯



ルーフオペレーティングユニット
① 左側フロント読書灯点灯/消灯の切り替え
② フロントルームライト点灯
③ リアルームライト点灯/消灯の切り替え
④ フロントルームライト消灯/ルームライト自動コントロールのオフ
⑤ 右側フロント読書灯点灯/消灯の切り替え
⑥ ルームライト/ルームライト自動コントロールオンの切り替え

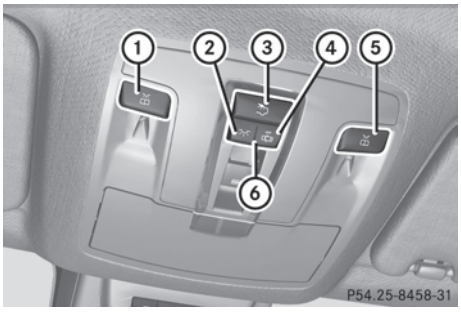
▶ **点灯する：** スイッチを中央位置 ⑥ に設定します。
▶ **消灯する：** スイッチを の位置に設定します。

以下のときにルームライトが自動的に点灯します。

- 車を解錠したとき
- ドアを開いたとき
- エンジンスイッチからキーを抜き取ったとき

エンジンスイッチからキーを抜くと、ルームライトが少しの間点灯します。この遅延消灯は、マルチファンクションディスプレイを使用して作動できます (▷ 269 ページ)。

ルームライトの手動点灯



ルーフオペレーティングユニット
① 左側フロント読書灯点灯/消灯の切り替え
② フロントルームライト点灯
③ リアルームライト点灯/消灯の切り替え

④ フロントルームライト消灯/ルームライト自動コントロールのオフ
⑤ 右側フロント読書灯点灯/消灯の切り替え
⑥ ルームライト/ルームライト自動コントロールオンの切り替え

▶ **フロントルームライトを点灯する：** スイッチを の位置に設定します。
▶ **ルームライトを消灯する：** スイッチを の位置に、またはドアが閉じている場合は中央位置に設定します。
▶ **リアルームライトを点灯/消灯する：** スイッチを押します。
▶ **読書灯を点灯/消灯する：** スイッチを押します。

緊急時点灯機能

車両が事故に巻き込まれたときに、ルームライトが自動的に点灯します。

▶ **緊急時点灯機能をオフにする：** 非常点滅灯スイッチを押します。

または

▶ キーを使用して、車両を施錠してから解錠します。

電球の交換

重要な安全上の注意

キセノンライト

⚠ 危険

キセノンバルブには高電圧が発生しています。 キセノンバルブの電気端子に触れると、感電して、重大な傷害または致命傷を負うおそれがあります。 そのため、キセノンバルブのカバーを取り外さないでください。

キセノンバルブはご自身で交換せず、資格のある工場で交換してください。

キセノンバルブが装備されているときは、以下のように確認することができます。エンジンを始動したときに、キセノンバルブからの光軸が上から下に動き、元に戻ります。 この動きを確認するには、エンジンを始動する前にヘッドライトを点灯させなければなりません。

バルブやライトは、車両の安全性の重要な装備です。 そのため、これらの機能が適切であることを常に確認してください。 ヘッドライトの設定は、定期的に点検してください。

その他の電球の取り扱い

⚠ 警告

電球とライトは非常に熱くなります。そのため、これらの交換を行なう前に冷ましてください。 触れると火傷をするおそれがあります。

電球は子供の手の届かないところに保管してください。 電球を壊すなどして、子供がけがをするおそれがあります。

落下した電球を使用しないでください。電球が破裂してけがをすることがあります。

ハロゲンバルブには圧力がかかっているため、特に高温になっているときは交換するときに破裂するおそれがあります。交換するときは保護メガネや手袋を着用してください。

キセノンバルブ以外にも交換できない電球があります。 ここに挙げられてる電球のみを交換してください (▷ 133 ページ)。 お客様自身で交換できない電球については、メルセデス・ベンツ指定サービス工場に作業を依頼してください。

電球の交換をする際に補助が必要なときは、メルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

新しい電球のガラス管には素手で触れないようにしてください。 少しの汚れでもガラス表面で溶けて、電球の寿命が短く

なります。 電球を取り付けるときは常に、柔らかい布を使用するか、バルブ底部にのみ触れるようにしてください。

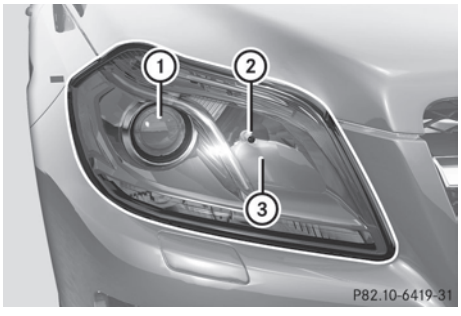
適切な種類の電球のみを使用してください。

新しい電球も点灯しない場合は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場にご相談ください。

電球やライトは、車両の安全性の重要な装備です。 そのため、これらの機能が適切であることを常に確認してください。 ヘッドライトの設定は、定期的に点検してください。

電球の交換および種類の概要

以下の電球を交換できます。 電球の種類の詳細は凡例をご覧ください。

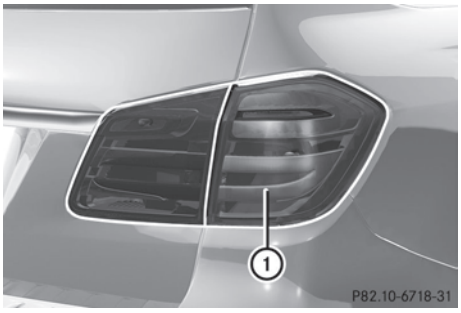


ハロゲンヘッドライト

① ロービームヘッドライト：H7 55 W

② ハイビームヘッドライト：H7 55 W

③ 車幅灯/パーキングランプ：W 5 W BV



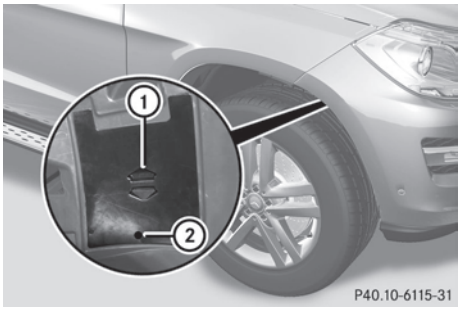
テールランプ

① ブレーキランプ: P 21 W-L

フロントライトの電球交換

フロントホイールアーチカバーの取り付けおよび取り外し

フロントの電球を交換する前に、前輪のハウジングからカバーを取り外してください。



▶ **取り外し：** ライトスイッチをオフにします。

▶ 前輪を内側にまわします。

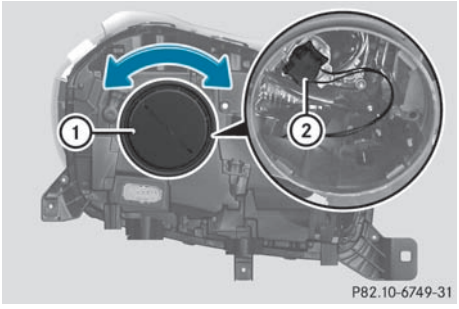
▶ 適切なツールを使用して、固定用ピン ② を取り外します。

▶ カバー ① を上にずらし、取外します。

▶ **取り付け：** カバー ① を再び差し込み、かみ合うまで下にずらします。

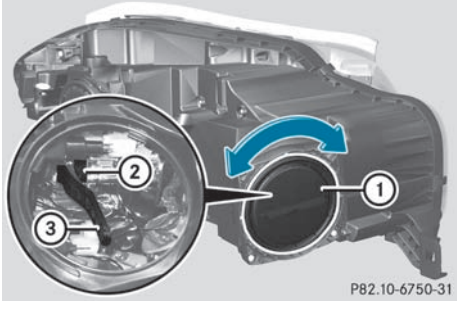
▶ 固定用ピン ② を差し込みます。

ロービームヘッドライト(ハロゲンヘッドライト)



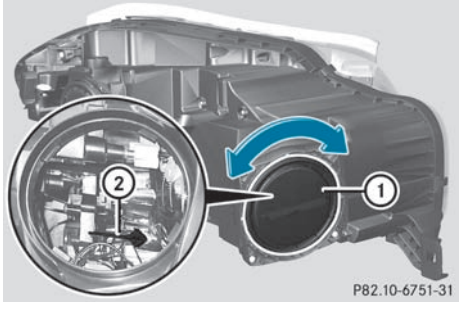
- フロントホイールアーチのカバーを取り外します。(▷ 133 ページ)
- ハウジングカバー ① を反時計回りにまわして引き出します。
- ソケット ② を反時計回りにまわして引き抜きます。
- ソケット ②から電球を抜き取ります。
- 新しい電球をソケット ②に差し込みます。
- ソケット ② をランプに差し込み、時計回りにまわします。
- ハウジングカバー ① の位置を合わせ、時計回りにまわしてロックさせます。
- フロントホイールアーチのカバーを取り付けます。(▷ 133 ページ)

ハイビームヘッドライト(ハロゲンヘッドライト)



- ライトを消灯します。
- ボンネットを開きます。
- ハウジングカバー ① を反時計回りにまわして引き出します。
- レバー ③ を上方に引き、ソケット ② を取り外します。
- ソケット ②から電球を取り外します。
- 新しい電球をソケット ②に差し込みます。
- 同時にソケット ② を押して、レバー ③ を下方に引きます。
- ハウジングカバー ① の位置を合わせ、時計回りにまわしてロックさせます。

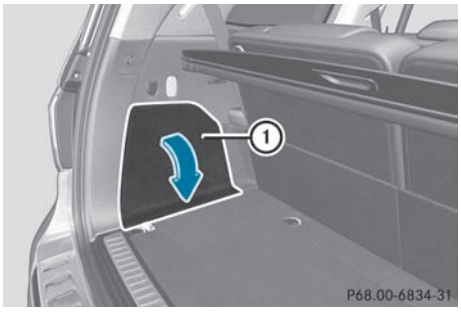
車幅灯およびパーキングランプ(ハロゲンヘッドライト)



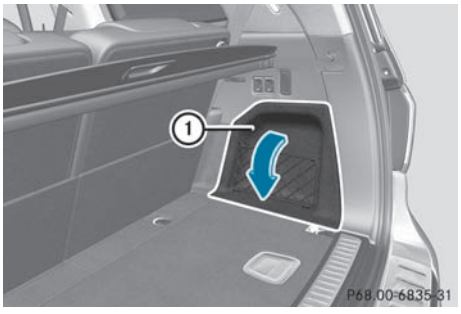
- ライトを消灯します。
- ボンネットを開きます。
- ハウジングカバー ① を反時計回りにまわして引き出します。
- ソケット ② を引き抜きます。
- ソケット ② から電球を取り外します。
- 新しい電球をソケット ② に差し込みます。
- ソケット ② を差し込みます。
- ハウジングカバー ① の位置を合わせ、時計回りにまわしてロックさせます。

リアライトの電球交換

メンテナンスフラップの開閉



左側のメンテナンスフラップ

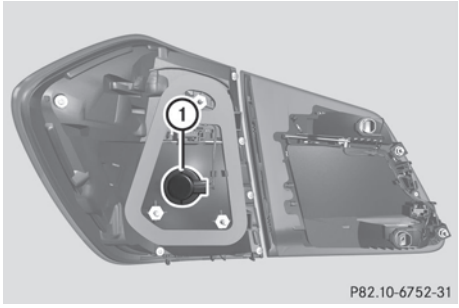


右側のメンテナンスフラップ

ブレーキ・ランプの電球を交換する前に、ラゲッジルーム内のメンテナンスフラップを開く必要があります。

- **開く：**メンテナンスフラップ ① の上部を解除し、ドライバーなどを使用して下方の矢印方向に下げます。
- 右側：先に救急セットを取り除き、ラゲッジネットを下方に引きます。
- **閉じる：** メンテナンスフラップ ① を再びはめます。

ブレーキランプ



- ライトを消灯します。
- ラゲッジルームを開きます。
- メンテナンスフラップを開きます。(▷ 135 ページ)
- ソケット ① を反時計回りにまわして取り外します。
- ソケット ① から電球を抜き取ります。
- 新しい電球をソケット ①に差し込みます。
- ソケット ① をランプに差し込み、時計回りにまわします。
- メインテナンスフラップを閉めます。(▷ 135 ページ)

フロントワイパー

フロントワイパーのオン/オフ

⚠ 警告

ワイパーブレードが劣化すると、ウインドウの水滴を十分に拭き取ることができません。視界を妨げて周囲の交通状況を把握できず、事故の原因になります。ワイパーブレードは春季と秋季に 1 回ずつ交換してください。

! ウインドウが乾いているときは、ワイパーを使用しないでください。ワイパーブレードを損傷するおそれがあります。 また、ウインドウに付着したほこり

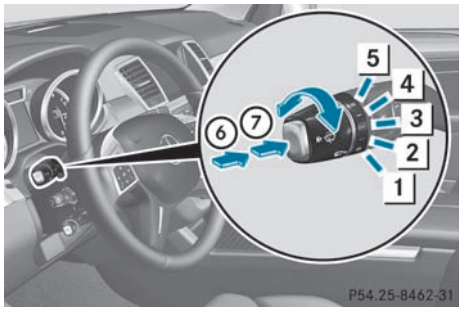
などでウインドウの表面に傷が付くおそれがあります。

乾燥した気候条件でフロントワイパーをオンにする必要がある場合は、必ずウォッシャー液を噴射しながら操作してください。

! 車両を自動洗車機で洗車した後にワイパーを使用しても油膜が残るときは、ウインドウに付着したワックスや洗浄液などが原因と考えられます。ウインドウをウォッシャー液で洗浄してください。

! レインセンサーを使用した間欠ワイパーの場合、フロントウインドウが乾いているときにウインドウの汚れや光線の反射などでレインセンサーが誤作動をし、ワイパーが不意に作動するおそれがあります。ワイパーブレードを損傷したり、ウインドウに傷が付くおそれがあります。

このため、雨が降っていないときは必ずワイパースイッチを停止の位置にしてください。



コンビネーションスイッチ

1 0 ワイパー停止

2 ••• 低速間欠モード（レインセンサーは低感度に設定）

3 •••• 高速間欠モード（レインセンサーは高感度に設定）

4 — 低速作動モード

5 = 高速作動モード

⑥ 1回のワイパー作動

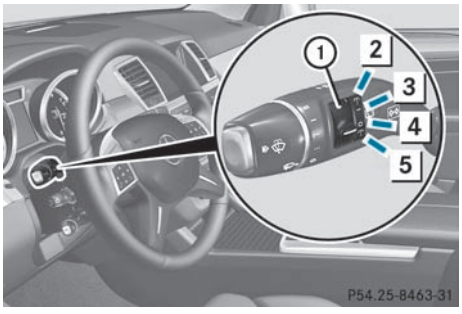
⑦ ウォッシャー液噴射の位置

▶ エンジンスイッチのキーを 1 または 2 の位置(▷ 157 ページ)にまわします。

▶ コンビネーションスイッチを作動の位置にします。

••• または •••• の位置では、雨滴量に応じてワイパーの作動が自動的に調整されます。 •••• の位置では、レインセンサーは ••• の位置よりも高感度となり、ワイパーはより短い間隔で作動します。

リアワイパーのオン/オフ



コンビネーションスイッチ

① リアワイパースイッチ

2 ウォッシャー液噴射の位置

3 I 間欠ワイパーの位置

4 O 間欠ワイパー停止の位置

5 ウォッシャー液噴射の位置

▶ エンジンスイッチのキーを 1 または 2 の位置にします(▷ 157 ページ)。

▶ コンビネーションスイッチのスイッチ ① を対応する位置にまわします。

リアワイパーが作動し、メーターパネル内にアイコンが表示されます。

ワイパーブレードの交換

重要な安全上の注意

⚠ 警告

ワイパースイッチを作動の位置のままにしていると、ワイパーアームが不意に作動してけがをするおそれがあります。

ワイパーブレードを交換するときは、必ずエンジンスイッチからキーを抜いてください。

! ワイパーアームを起こしているときは絶対にボンネットを開かないでください。

ワイパーブレードがない状態では絶対にワイパーアームをフロントウインドウまたはリアウインドウの元の位置に戻さないでください。

ワイパーブレードを交換するときは、ワイパーアームを確実に持って作業をしてください。 ワイパーブレードが取り付けられていない状態でワイパーアームから手を放すと、ウインドウに当たってウインドウを損傷するおそれがあります。

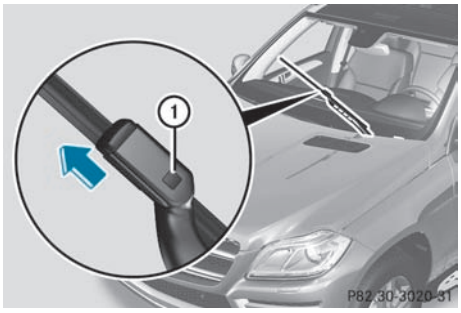
ワイパーブレードの交換は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で行なうことをお勧めします。

! ワイパーブレードの損傷を避けるため、ワイパーアーム以外には触れないようにしてください。

フロントワイパーブレードの交換

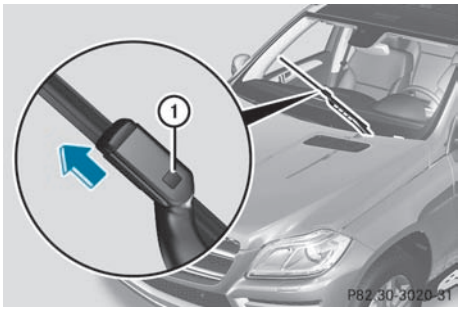
ワイパーブレードの取り外し

- ▶ エンジンスイッチからキーを抜きます。
- ▶ ワイパーアームをフロントウインドウから起こします。



- ▶ 解除ノブ ① をしっかりと押し、ワイパーブレードをワイパーアームから矢印の方向に引き上げます。

ワイパーブレードの取り付け



- ▶ 新しいワイパーブレードを、矢印と反対の方向にスライドさせて、ワイパーアームの固定部に差し込みます。
  ワイパーブレードを音が聞こえるまでかみ合わせます。
- ▶ ワイパーブレードが確実に固定されたことを確認します。
- ▶ ワイパーアームをウインドウの元の位置に戻します。

リアワイパーブレードの交換

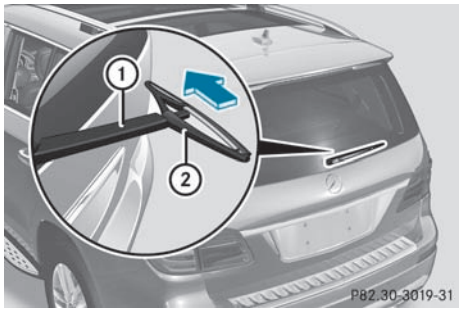
ワイパーブレードの取り外し

⚠ 警告

ワイパースイッチを作動の位置のままにしていると、ワイパーアームが不意に作動してけがをするおそれがあります。

▷▷

ワイパーブレードを交換するときは、必ずエンジンスイッチからキーを抜いてください。



- エンジンスイッチからキーを抜きます。
- 固定されるまでワイパーアーム ① をリアウインドウから起こします。
- ワイパーブレード ② を、ワイパーアーム ① に対して直角の位置にします。
- ワイパーアーム ① を持ち、解除されるまでワイパーブレード ② を矢印の方向に押します。
- ワイパーブレード ② を取り外します。

ワイパーブレードの取り付け

- 新しいワイパーブレード ② をワイパーアーム ① に合わせます。
- ワイパーアーム ① を持ち、固定されるまでワイパーブレード ② を矢印と反対の方向に押します。
- ワイパーブレード ② が正しく位置していることを確認します。
- ワイパーブレード ② をワイパーアーム ① と平行の位置にします。
- ワイパーアーム ① をリアウインドウの元の位置に戻します。

フロントワイパーの故障

ワイパーが正しく作動しない。

- 安全のため、エンジンスイッチからキーを抜いてください。

または

- エンジンスイッチを操作してエンジンを停止し、運転席ドアを開いてください。
- 障害物を取り除いてください。
- 再度、ワイパーを作動させてください。

ワイパーが作動しない。

ワイパーが誤作動する。

- コンビネーションスイッチの別のモードを選択してください。
- メルセデス・ベンツ指定サービス工場でワイパーの点検を受けてください。

役に立つ情報 140
エアコンディショナーシステムの概要 140
エアコンディショナーシステムの操作 145
送風口の調整 152

役に立つ情報

ⓘ この取扱説明書は発行時点で利用可能な、車両のすべてのモデルやシリーズ、オプション装備を記載しています。国別仕様の違いがあることもあります。お客様の車両には記載されている全ての機能が装備されていないことがあることにご留意ください。これは安全に関するシステムや機能の場合もあります。

ⓘ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で情報をご覧ください。(▷ 23 ページ)

エアコンディショナーシステムの概要

重要な安全上の注意

⚠ 警告

以下のページで推奨されている設定に注意してください。停止したままにすると、ウインドウがくもりやすくなります。視界が妨げられて周囲の交通状況を把握できず、事故の原因になります。

エアコンディショナーは温度と車内の湿度を調整して、空気中の汚染物質をフィルターにかけます。

エアコンディショナーは、エンジンが作動中の場合のみ使用可能です。 システムは、サイドウインドウおよびルーフが閉じている場合のみ、適切にます。

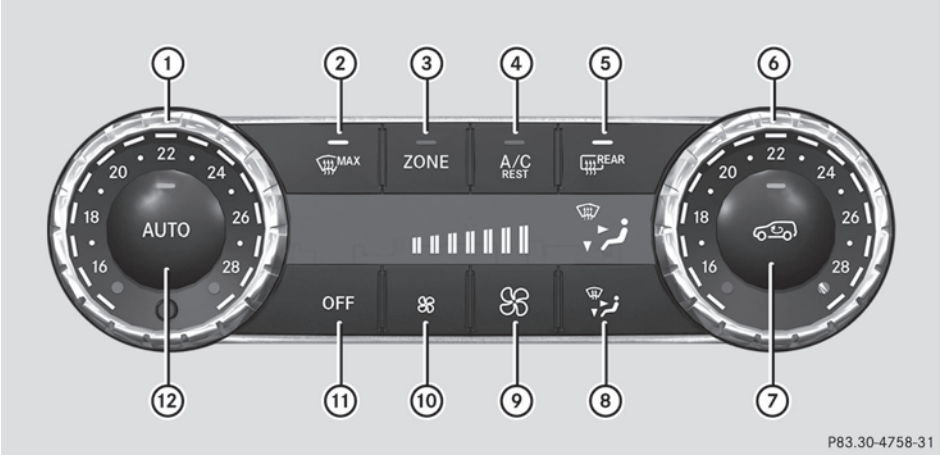
余熱ヒーターベンチレーションは、エンジン停止中のみ作動または停止することができます。(▷ 151 ページ)

ⓘ 暖かい気候の間は、例えば、コンビニエンスオープニング機能を使用して少しの間車両を換気します(▷ 93 ページ)。

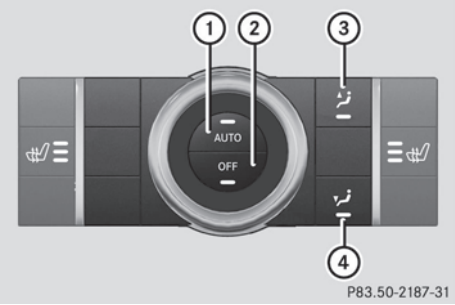
それにより、冷却処理が早くなり、より早く希望の車内温度に達します。

ⓘ 内蔵フィルターは、ほこりと花粉の大部分をろ過することができます。詰まったフィルターは車内に供給される空気の量を減らします。このため、整備手帳で規定されているフィルターの交換間隔を必ず遵守してください。重度の大気汚染のような環境の状況によるので、間隔は整備手帳に記述されているよりも短くなることがあります。

オートエアコンディショナー(2ゾーン)の操作パネル



① 温度設定コントローラー、左 (▷ 147 ページ)
② デフロスター機能のオン/オフの切り替え(▷ 149 ページ)
③ ZONE機能のオン/オフの切り替え(▷ 149 ページ)
④ ACモードの作動/解除(▷ 146 ページ) または余熱ヒーター機能の作動/解除(▷ 151 ページ)
⑤ リアデフォッガーのオン/オフの切り替え(▷ 150 ページ)
⑥ 温度設定コントローラー、右(▷ 147 ページ)
⑦ 内気循環モードの作動/解除(▷ 151 ページ)
⑧ 送風配分の設定(▷ 148 ページ)
⑨ 送風量を上げる(▷ 149 ページ)
⑩ 送風量を下げる(▷ 149 ページ)
⑪ エアコンディショナーのオン/オフの切り替え(▷ 145 ページ)
⑫ エアコンディショナーのAUTOモードへの設定(▷ 146 ページ)



後席操作パネルは、特別な装備のシートヒーターとの組み合わせのみ

① 後席エアコンディショナーの自動制御

② 後席エアコンディショナーのオン/オフの切り替え

③ 送風をリア送風口に向ける

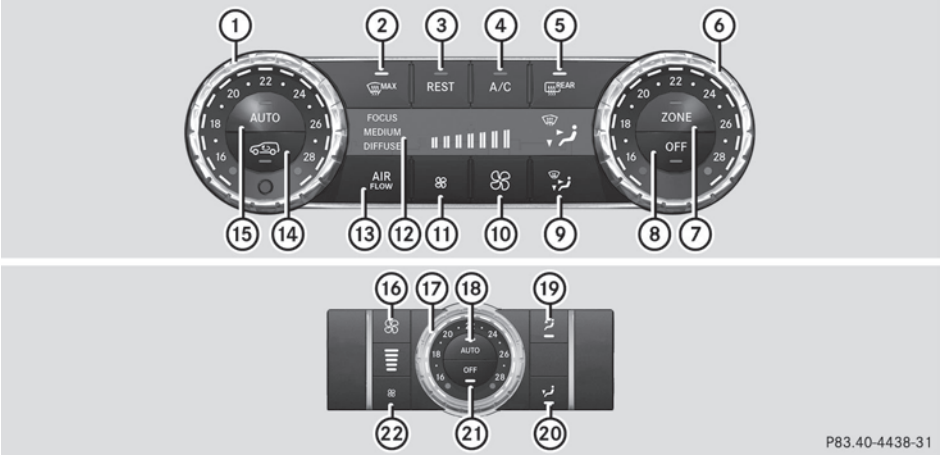
④ 送風を足元送風口に向ける

オートエアコンディショナー(3 ゾーン)の使用に関する注意事項

以下には、オートエアコンディショナー(2ゾーン)の最適な使用に関する注意事項と推奨が含まれています。

- AUTO および A/C REST スイッチ を押して、エアコンディショナーを作動させます。 AUTO および A/C REST スイッチの表示灯が点灯します。
- 温度を 22 ℃前後に設定します。
- フロントウインドウが再びクリアになるまで、短時間のみデフロスター機能を使用してください。
- 外気の不快な臭いがあるときやトンネル内のときに、短時間のみ内気循環モードを使用してください。 内気循環モードでは車内に新鮮な空気が取り込まれないので、ウインドウがくもることがあります。
- 独立温度設定機能を使い、助手席側の設定温度を個別に調整したり、運転席側の設定温度に連動させることができます。 ZONE スイッチの表示灯が消灯します。

オートエアコンディショナー(3 ゾーン)の操作パネル



フロント操作パネル

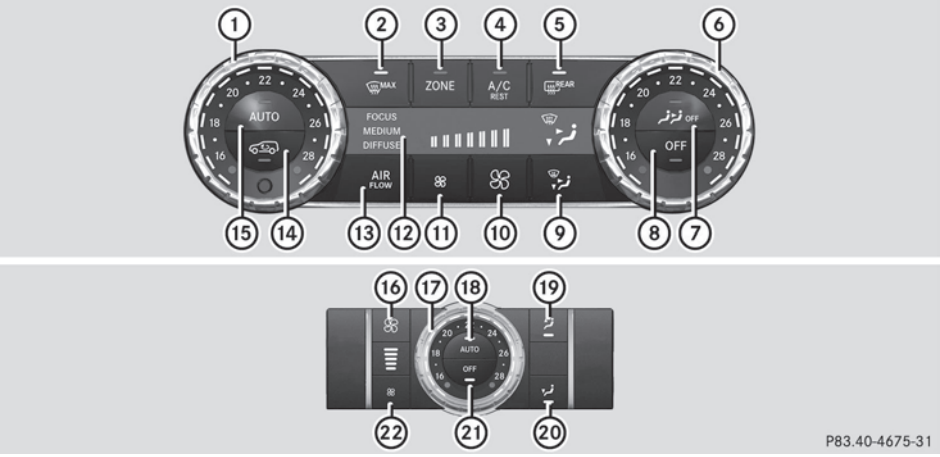
① 温度設定コントローラー、左 (▷ 147 ページ)
② デフロスター機能のオン/オフの切り替え(▷ 149 ページ)
③ 余熱ヒーター機能の作動/解除(▷ 151 ページ)
④ ACモードのオン/オフの切り替え(▷ 146 ページ)
⑤ リアデフォッガーのオン/オフの切り替え(▷ 150 ページ)
⑥ 温度設定コントローラー、右(▷ 147 ページ)
⑦ ZONE機能のオン/オフの切り替え(▷ 149 ページ)
⑧ エアコンディショナーのオン/オフの切り替え(▷ 145 ページ)
⑨ 送風配分の設定(▷ 148 ページ)
⑩ 送風量を上げる(▷ 149 ページ)
⑪ 送風量を下げる(▷ 149 ページ)
⑫ ディスプレイ
⑬ エアコンディショナーのモード設定(▷ 147 ページ)
⑭ 内気循環モードの作動/解除(▷ 151 ページ)
⑮ エアコンディショナーのAUTOモードへの設定(▷ 146 ページ)

リア操作パネル

⑯ 送風量を上げる(▷ 149 ページ)
⑰ 温度の設定(▷ 147 ページ)
⑱ 後席エアコンディショナーのAUTO制御(▷ 146 ページ)

⑲ 送風をリア送風口に向ける(▷ 148 ページ)
⑳ 送風を足元送風口に向ける(▷ 148 ページ)
㉑ 後席エアコンディショナーのオン/オフの切り替え(▷ 145 ページ)
㉒ 送風量を下げる(▷ 149 ページ)

後席補助エアコンディショナー(3ゾーン)付きオートエアコンディショナー(3ゾーン)の操作パネル



フロント操作パネル

① 左側の温度を設定する(▷ 147 ページ)
② デフロスターモード(▷ 149 ページ)
③ 独立温度設定機能を切り替える(▷ 149 ページ)
④ ACモードを切り替える (▷ 146 ページ) または余熱ヒーター機能を切り替える (▷ 151 ページ)
⑤ リアデフォッガーの作動と停止を切り替える (▷ 150 ページ)
⑥ 右側の温度を設定する(▷ 147 ページ)
⑦ 後席エアコンディショナーを切り替える
⑧ エアコンディショナーの作動と停止を切り替える (▷ 145 ページ)
⑨ 送風口を選択する (▷ 148 ページ)
⑩ 送風量を上げる(▷ 149 ページ)
⑪ 送風量を下げる(▷ 149 ページ)
⑫ ディスプレイ
⑬ エアコンディショナーのモードを設定する(▷ 147 ページ)

⑭ 内気循環モードに切り替える(▷ 151 ページ)
⑮ エアコンディショナー、AUTOモード (▷ 146 ページ)

リア操作パネル

⑯ 送風量を上げる(▷ 149 ページ)
⑰ 温度を設定する (▷ 147 ページ)
⑱ 後席エアコンディショナーをAUTOモードにする (▷ 146 ページ)
⑲ リア送風口から送風 (▷ 148 ページ)
⑳ 足元の送風口から送風 (▷ 148 ページ)
㉑ 後席エアコンディショナーの作動と停止を切り替える(▷ 145 ページ)
㉒ 送風量を下げる(▷ 149 ページ)

オートエアコンディショナー(3 ゾーン)の使用に関する情報

以下に、オートエアコンを最大限利用するための指示や推奨事項が記載されています。

- AUTO および A/C スイッチを使って、エアコンを作動させます。 AUTO および A/C スイッチの表示灯が点灯します。
- AUTOモードでは、AIR FLOW スイッチを使ってエアコンモードを設定する事もできます（FOCUS / MEDIUM / DIFFUSE)。 通常は、MEDIUMモードに設定することをお勧めします。
- 温度を 22 ℃前後に設定します。
- フロントウインドウが再びクリアになるまで、短時間のみデフロスター機能を使用してください。
- 外気の不快な臭いがあるときやトンネル内のときに、短時間のみ内気循環モードを使用してください。 内気循環モードでは車内に新鮮な空気が取り込まれないので、ウインドウがくもることがあります。
- 独立温度設定機能を使い、助手席側および後席の設定温度を個別に調整したり、運転席側の設定温度に連動させることができます。 ZONE スイッチの表示灯が消灯します。
- エンジンを停止した後に車内を暖房または換気したいときは、余熱ヒーターベンチレーションを使用します。 余熱ヒーターベンチレーションは、エンジン停止中のみ作動または停止することができます。

エアコンディショナーシステムの操作

エアコンディショナーのオン/オフ

使用上の注意

ⓘ エアコンディショナーを停止すると、送風と内気循環も解除されます。 この設定は短時間にとどめてください。 停止したままにすると、ウインドウがくもります。

ⓘ 通常は、AUTO スイッチを押して、エアコンディショナーを作動させます。(▷ 146 ページ)

後席では、AUTO および OFF スイッチを使用して、エアコンディショナーのオン/オフを切り替えることもできます。

機能のオン/オフ

- ▶ イグニッション位置を 2 にします。
- ▶ **オンにする：** AUTO スイッチを押します。
  AUTO スイッチの表示灯が点灯します。
  送風量と送風口の選択は、AUTOモードに設定されます。

または

- ▶ OFF スイッチを押す。
  OFF スイッチの表示灯が消灯します。
  以前の設定が再度有効になります。
- ▶ **オフにする：** OFF スイッチを押します。
  OFF スイッチの表示灯が点灯します。

ACモードのオン/オフ

使用上の注意

⚠ 警告

ACモードを解除すると、冷却(暑いとき)および除湿された空気が送風されなくなります。そのため、車内の湿気でウインドウが曇りやすくなり、視界不良により思わぬ事故につながるおそれがあります。

ACモードは、エンジンが作動しているときにのみ使用できます。 車内の空気は、選択された温度に応じて冷却・除湿されます。

冷房モードが作動していると、車両の下から凝結水が落ちることがあります。 これは正常なことで、誤作動の兆候ではありません。

ℹ 除湿機能付き冷却は冷媒R134aを使用しています。この冷媒はフロンガスを含まないので、オゾン層を破壊しません。

機能の作動および解除



A/C スイッチ(例)

- ▶ **作動させる：** A/C /A/C REST スイッチを押します。
  A/C /A/C REST スイッチの表示灯が点灯します。
- ▶ **解除する：** A/C /A/C REST スイッチを押します。
  A/C /A/C REST スイッチの表示灯が消灯します。除湿機能付き冷却には、遅れてオフになる機能があります。

ACモードの不具合

A/C スイッチを押すと、ボタンの表示灯が3 回点滅するか、消灯したままになります。 ACモードをオンにすることができなくなります。

- ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

エアコンディショナーをAUTOモードに設定する

使用上の注意

AUTOモードでは、自動的に一定の設定温度に保たれます。 送風温度、送風量、送風口の選択が自動的に制御されます。

AUTOモードおよびACモードを同時に選択すると、最適な空調が得られます。

好みでACモードを解除することもできます。

後席では、AUTO スイッチを使用して、リアエアコンディショナーをAUTOモードに切り替えることもできます。

機能の作動および解除



- イグニッション位置を 2 にします。
- 希望温度に設定します。
- **オンにする：** AUTO スイッチを押します。

  AUTO スイッチの表示灯が点灯します。

  送風口の組み合わせおよび送風量が自動的に調整されます。

ℹ オートエアコンディショナー：AUTOモードが作動しているときにエアコンディショナーモードを選択できます。(▷ 147 ページ)

- **手動で選択する：** スイッチを押します。

または

- または スイッチを押します。

  AUTO スイッチの表示灯が消灯します。

エアコンディショナーモードの設定

オートマチックモードでは、以下のエアコンディショナーモードを選択できます。

FOCUS	送風強でやや冷風の設定
MEDIUM	適度な送風で、標準設定
DIFFUSE	やや暖かく送風量は弱、通気少



AIR FLOW スイッチ (例)

- イグニッション位置を 2 にします。
- AUTO スイッチを押す。
- 希望のエアコンディショナーモードがディスプレイに表示されるまで、AIR FLOW スイッチを繰り返し押します。

温度の設定

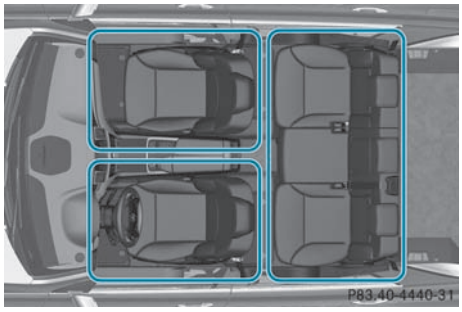
オートエアコンディショナー(2ゾーン)

設定温度を運転席側および助手席側で個別に調整できます。

- イグニッション位置を 2 にします。
- **上昇/下降させる：**温度設定コントローラー ① または ⑥ を時計回り、または反時計回りにまわします(▷ 141 ページ)。

  少しずつ設定温度を変更してください。 最初は 22 ℃前後に設定することをお勧めします。

オートエアコンディショナー(3ゾーン)



オートエアコンディショナー(3ゾーン)のゾーン

設定温度を運転席側、助手席側、後席で個別に調整できます。

- ▶ イグニッション位置を 2 にします。
- ▶ **フロントの温度を上昇/下降させる**：温度設定コントローラー ① および ⑥ を時計回り、または反時計回りにまわします(▷ 143 ページ)。

  少しずつ設定温度を変更してください。 最初は 22 ℃前後に設定することをお勧めします。
- ▶ **フロント操作パネルを使用して後席の温度を上昇/下降させる**： ZONE スイッチを押します。

  ZONE スイッチの表示灯が消灯します。
- ▶ 温度設定コントローラー ① を時計回り、または反時計回りにまわします(▷ 143 ページ)。

  少しずつ設定温度を変更してください。 最初は 22 ℃前後に設定することをお勧めします。

  運転席側の温度設定が、後席および助手席側に採用されます。
- ▶ **リア操作パネルを使用して後席の温度を上昇/下降させる**：リア操作パネルの温度設定コントローラー ⑰ を時計回り、または反時計回りにまわします(▷ 143 ページ)。

  少しずつ設定温度を変更してください。 最初は 22 ℃前後に設定することをお勧めします。

送風口の設定

送風口を選択する

フロント操作パネル

- 送風を中央送風口に向ける
- 足元に送風
- 送風を中央および足元送風口に向ける
- ウインドウのくもり取り
- 送風をくもり取りおよび中央送風口に向ける
- 足元に送風、ウインドウのくもり取り
- 送風をくもり取り、中央および足元送風口に向ける

リア操作パネル

- 送風を後席の中央およびサイド送風口に向ける
- 足元に送風

ⓘ リア操作パネルを使用して、両方の送風配分の位置を同時に作動させることもできます。このためには、両方の送風配分スイッチを押します。後席のすべての送風口から送風されます。

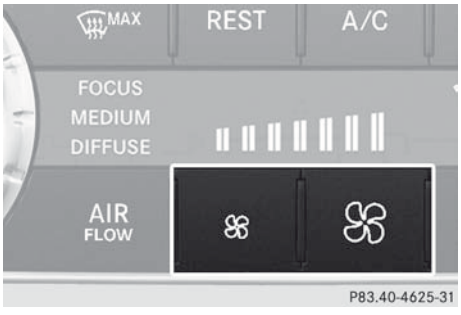
ⓘ 選択された送風口に関係なく、サイド送風口からは常に送風が行なわれます。 送風口開閉ダイヤルを停止するまで下側にまわすと、サイド送風口を閉じることができます。

調整



- ▶ イグニッション位置を 2 にします。
- ▶ 希望のマークがディスプレイに表示されるまで、 スイッチを繰り返し押します。

送風量の設定



- ▶ イグニッション位置を 2 にします。
- ▶ **増加する：** スイッチを押します。
- ▶ **減少する：** スイッチを押します。

ⓘ オートエアコンディショナー（3ゾーン）を使用して後席の送風量を独立して設定できます。

独立温度設定機能のオン/オフ



- ▶ **オンにする：** ZONE スイッチを押します。
  AUTOスイッチ ZONE の表示灯が点灯します。
  オートエアコンディショナー(2ゾーン)： 設定温度を運転席側および助手席側で個別に調整できます。
  オートエアコンディショナー(3ゾーン)： 設定温度を運転席側、助手席側および後席で個別に調整できます。
- ▶ **オフにする：** ZONE スイッチを押します。
  ZONE スイッチの表示灯が消灯します。
  オートエアコンディショナー(2ゾーン)： 運転席側および助手席側の設定温度を連動させて設定することができます。
  オートエアコンディショナー(3ゾーン)： 運転席側、助手席側および後席の設定温度を連動させて設定することができます。

ウインドウデフロスター

フロントウインドウに付着した霜や、またはフロントウインドウおよびサイドウインドウ内側の曇りを取る機能です。

再度フロントウインドウの曇りが取れたらすみやかに、"デフロスター" 機能をオフにしてください。

▶ イグニッション位置を 2 にします。
▶ **オンにする：** MAX スイッチを押します。
MAX スイッチの表示灯が点灯します。
エアコンディショナーが以下のように作動します。
- 高い送風量
- 高い温度
- フロントウインドウとフロントサイドウインドウを中心に送風されます。
- 内気循環モードが解除されます。

▶ **デフロスターモードを解除する：** 再度、MAX スイッチを押します。
MAX スイッチの表示灯が消灯します。
以前の設定が再度有効になります。 内気循環モードは解除されます。

または

▶ AUTO スイッチを押す。
MAX スイッチの表示灯が消灯します。
送風量と送風口の選択は、AUTOモードに設定されます。

または

▶ コントロール① または ⑥ を時計回り、または反時計回りにまわします (▷ 141 ページ) (オートエアコンディショナー (2ゾーン))、 (▷ 143 ページ) オートエアコンディショナー (3ゾーン))。

または

▶ または スイッチを押します。

デフロスターモード

フロントウインドウの内側が曇るとき

▶ 除湿機能付き冷却 A/C /A/C REST を作動させます。
▶ AUTOモード AUTO を作動させます。
▶ ウインドウの曇りが取れないときは、デフロスターモードに設定します。 (▷ 149 ページ)

ⓘ 上記の設定は、曇りが取れるまでの間にとどめてください。

フロントウインドウの外側が曇るとき

▶ または マークがディスプレイに表示されるまで、 スイッチを繰り返し押します。

ⓘ 上記の設定は、曇りが取れるまでの間にとどめてください。

リアデフォッガー

機能の作動および解除

⚠ **警告**
ウインドウに氷や雪が付着している場合は、運転前にまずそれらを取り除いてください。視界の妨げとなり、思わぬ事故につながるおそれがあります。



リアデフォッガーは大きな電力を消費します。 したがって、ウインドウのくもりが取れたら、すぐにオフにしてくださ

い。 オフにしない場合でも、数分後に自動的にオフになります。

バッテリーの電圧が低すぎると、リアデフォッガーが停止する場合があります。

▶ イグニッション位置を 2 にします。

▶ REAR スイッチを押す。

REAR スイッチの表示灯が点灯または消灯します。

リアデフォッガーの不具合

リアデフォッガーが短時間で停止したり、または作動させることができません。

▶ 読書灯やルームランプなど、必要のないライト類を消してください。
バッテリーが十分に充電されると、リアデフォッガーは再び自動的に作動します。

内気循環モードの作動および解除

⚠ 警告

内気循環モードへの切り替えは、外気温度が低い場合に短時間だけにしないと、ウインドウがくもって視界が悪くなり、危険です。視界を妨げて周囲の交通状況を把握できず、事故発生の原因になります。



不快なにおいが外から車両に入ってくる場合は、新鮮な空気の送風を解除することができます。 そして、すでに車内にある空気が循環されます。

内気循環モードの操作は、すべての操作パネルで共通です。

▶ イグニッション位置を 2 にします。

▶ **オンにする：** スイッチを押します。

スイッチの表示灯が点灯します。

ⓘ 空気の汚れがひどい状態（オートエアコンディショナー（3ゾーン）のみ）または外気温度が高い場合は、内気循環モードが自動的に作動します。 内気循環モードが自動的に作動した場合は、スイッチの表示灯は点灯しません。
約30 分後に外気が追加されます。

▶ **解除する：** 再度、 スイッチを押します。

スイッチの表示灯が消灯します。

ⓘ 内気循環モードが自動的に作動解除されます。

- 外気温度が約5 ℃以下のときは約5分後
- 除湿付き冷却が解除されている場合は約5分後
- ACモードがオンで約5 ℃ 以下の外気温度では約30 分後

余熱ヒーターベンチレーションのオン/オフ



エンジンを停止した後に約 30 分間まで、エンジンの余熱を利用して停止した車両を暖め続けることができます。 暖房時間は、車内で設定された温度によります。

▶ **作動させる：** REST/A/C REST スイッチを押します。
REST/A/C REST スイッチの表示灯が点灯します。

ⓘ 設定された送風量に関係なく、一定の少ない送風量に保たれます。

ⓘ 外気温度が高いときに余熱ヒーターベンチレーションを作動させると、換気のみが行なわれます。 このときは、中程度の送風量になります。

▶ **解除する：** REST/A/C REST スイッチを押します。
REST/A/C REST スイッチの表示灯が消灯します。

以下のときは、余熱ヒーターベンチレーションが自動的に停止します。

- 約30 分後
- イグニッションをオンにしたとき
- バッテリーの電圧が低下したとき
- 補助ヒーターが作動しているとき

送風口の調整

重要な安全上の注意

⚠ 警告

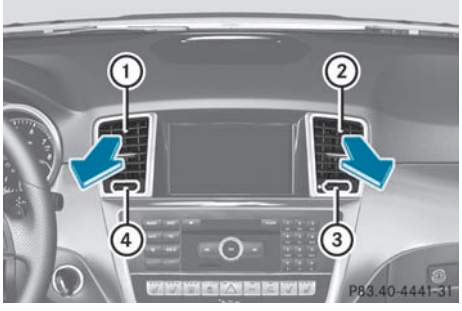
送風口から熱風あるいは冷風が吹き出すことがあります。そのため、送風口に身体の一部を近づけすぎると、火傷やしもやけなどを起こすおそれがあります。 送風口に身体を近づけすぎないように注意してください。 必要であれば、送風が直接身体に当たらないよう風向きを変えてください。

送風口から外気を直接車内に取り入れるため、以下の注意事項を守ってください。

- 助手席側のボンネットとエンジンルームの吸気口が氷や雪や木の葉などでふさがれないようにしてください。
- 送風口や車内の吸排気口をふさがないように注意してください。

ⓘ 効果的に換気を行なうには、送風口の向きを中央位置に調整することをお勧めします。

中央送風口の設定



① 中央送風口(左側)

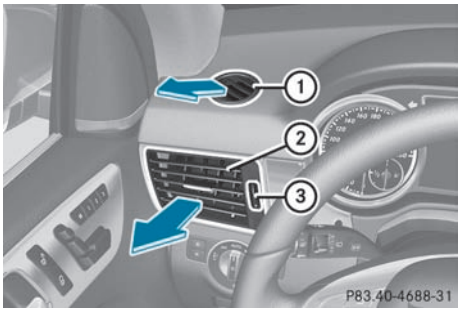
② 中央送風口(右側)

③ 中央送風口開閉ダイヤル(右側)

④ 中央送風口開閉ダイヤル(左側)

▶ **開閉する：** ダイヤル ③ および ④ を右または左にまわします。

サイド送風口の設定



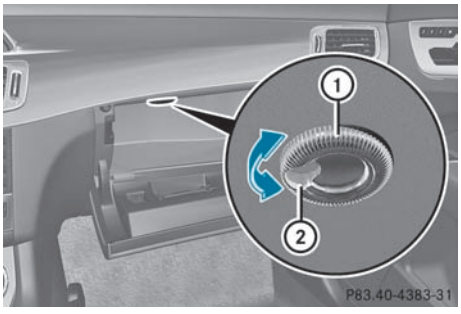
▶ **開閉する：** 開閉ダイヤル ③ を上下にまわします。

ⓘ サイド送風口 ② を閉じても、サイドウインドウ送風口 ① を完全に閉じることはできません。

グローブボックス送風口の調整

❗ 暖房中は、グローブボックスの送風口を閉じてください。

外気温度が高い時は、グローブボックス内の送風口を開いて、エアコンをACモード(冷房・除湿)に設定してください。グローブボックス内の熱の影響を受けやすい収納物が損傷するおそれがあります。



① 送風口開閉ダイヤル

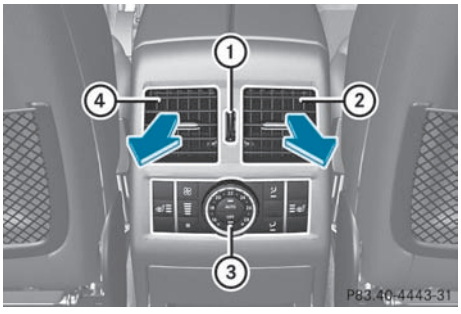
② 送風口

オートエアコンディショナーの作動中は、グローブボックス内に送風して収納物が高温になるのを防ぐことができます。 送風量はエアコンディショナーの設定に連動します。

▶ **開閉する：** ダイヤル ① を時計回り、または反時計回りにまわします。

リア送風口の設定

リア中央送風口の調整



リア操作パネル付き中央送風口(例)

① リア中央送風口開閉ダイヤル

② リア中央送風口(右側)

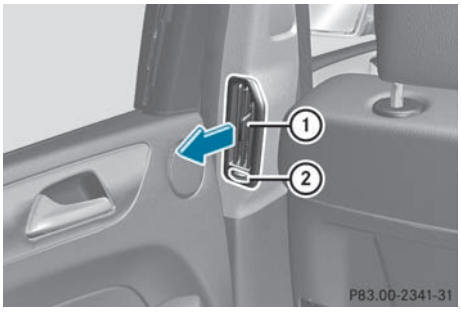
③ リア操作パネル

④ リア中央送風口(左側)

▶ **開閉する：** ダイヤル ① を上または下にまわします。

リアサイド送風口の調整

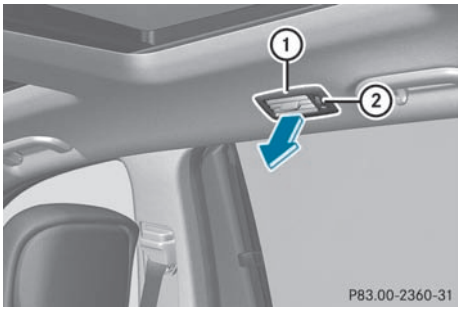
2列目シート



① リアサイド送風口

② リアサイド送風口開閉ダイヤル

▶ **開閉する**：ダイヤル② を左または右にまわします。



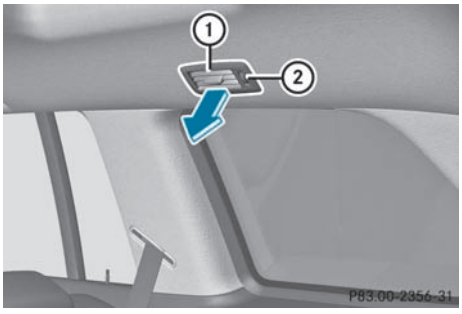
ルーフライニングのリアサイド送風口

① リアサイド送風口

② リアサイド送風口開閉ダイヤル

▶ **開閉する**：ダイヤル ② を上または下にまわします。

3列目シート



ルーフライニングのリアサイド送風口

① リアサイド送風口

② リアサイド送風口開閉ダイヤル

▶ **開閉する**：ダイヤル ② を上または下にまわします。

役に立つ情報 156
慣らし運転 156
走行 156
オートマチックトランスミッション 166
給油 174
駐車 177
運転のヒント 180
走行装備 190

役に立つ情報

ⓘ この取扱説明書は発行時点で利用可能な、車両のすべてのモデルやシリーズ、オプション装備を記載しています。国別仕様の違いがあることもあります。お客様の車両には記載されている全ての機能が装備されていないことがあることにご留意ください。これは安全に関するシステムや機能の場合もあります。

ⓘ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で情報をご覧ください。(▷ 23 ページ)

慣らし運転

重要な安全上の注意

交換された新しいブレーキパッド/ブレーキパッドおよびディスクは、数百キロメートルの走行後にのみ最適なブレーキ性能を発揮します。 ブレーキペダルにより大きな力をかけることにより、減少したブレーキ効果を補ってください。

最初の約1,500 km

最初に十分な注意を払ってエンジンを取り扱えば、その後、将来にわたって安定した性能を維持することができます。

- 最初の約1,500 kmは、さまざまな車両速度およびエンジン回転数で走行してください。
- アクセルをいっぱいに踏み込むなど、エンジンに大きな負担のかかる運転は避けてください。
- エンジン回転数がタコメーターのレッドゾーン(許容限度)の⅔を超えないように、適切にギアシフト操作しながら運転してください。
- エンジンブレーキをかけるためにマニュアルギアシフトでギアをシフトダウンしないでください。
- 走行中にアクセルペダルを限界以上にいっぱいまで踏み込むこと(キックダウン)は避けてください。
- 山間地を走行するときなど、ゆっくりと走行するときにのみ、ギアレンジ**3**、**2**または**1**に入れてください。

約1,500 km後は、最大荷重およびエンジン回転数まで車両を徐々に加速することができます。

AMG車の慣らし運転に関する注意事項

- 最初の約1,500 kmは、約140 km/h以上の速度で走行しないでください。
- 短時間のみ、エンジンがエンジン最大回転数4,500 rpm に達するようにしてください。
- 最初の1,500 kmは、主に走行モード**C**で車両を運転してください。

ⓘ エンジンや駆動系部品の交換を行なったときも、上記の注意事項を守って慣らし運転を行なってください。

走行

重要な安全上の注意

⚠ 警告

運転席の足元にあるものは、ペダルの動きを制限したり、踏んだペダルを妨げることがあります。車両の操作および道路の安全性がおびやかされます。 事故の危険性があります。

すべてのものが車内に正しく収納され、運転席の足元に入り込むことができないことを確認してください。ペダルとの十分な隙間を確保するために、記載されているようにフロアマットを確実に装着し

ます。固定していないフロアマットを使用しないでください。

⚠ 警告

以下のような適していない履物は、ペダルの正しい作動を妨げることがあります。

- 薄いソールの靴
- 高いヒールの靴
- スリッパ

事故の危険性があります。

適した履物を着用し、ペダルの正しい作動を確保します。

⚠ 警告

走行中にイグニッションをオフにすると、安全性に関連した機能が制限付きでしか使用できない、または全くできません。これにより、例えばパワーステアリングやブレーキの倍力装置に影響を与えることがあります。ステアリングやブレーキに非常に大きな力が必要になります。事故の危険性があります。

走行中はイグニッションをオフにしないでください。

⚠ 警告

走行時にパーキングブレーキが完全に解除されていない場合は、パーキングブレーキは以下のようになることがあります。

- オーバーヒートおよび火災の原因
- 車両にブレーキを効かせられなくなる

火災と事故の危険性があります。発進する前に、パーキングブレーキを完全に解除してください。

! 走行する前に、パーキングブレーキを確実に解除してください。 パーキングブレーキの加熱、誤作動や早期摩耗の原因となります。

! 素早く暖機運転します。 エンジンが暖まっていないときは、必要以上にエンジン回転数を上げないでください。

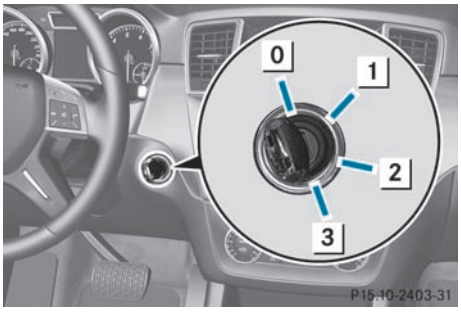
オートマチック車のシフト操作は、完全に停車して行なってください。

滑りやすい路面で発進するときは、駆動輪を空転させないように穏やかにアクセルペダルを操作してください。 駆動系部品が損傷するおそれがあります。

! **AMG 車：**エンジンオイル温度が約+20 ℃以下のときなどエンジンが暖まっていない場合は、エンジン保護のためにエンジン回転数が制限されることがあります。 エンジンを保護し、スムーズに作動させるため、エンジンが冷えているときはアクセルペダルを必要以上に踏み込まないでください。

キーの位置

キー



0 キーを差し込む/抜く位置

1 エンジン停止時にワイパーなどの電気装備が使用できる位置

2 イグニッション（すべての電気装備への電源供給）および運転するときの位置

3 エンジンを始動する

i キーがその車両のものでなくても、イグニッションロックに差し込んで回すことはできます。 しかし、イグニッションはオンになりません。 エンジンの始動はできません。

キーレスゴー

全体的な注意事項

- キーは、以下のものと一緒に持ち運ばないでください。
  - 携帯電話や別のリモコンキーなどの電子機器
  - 硬貨や金属フィルムなどの金属類
  - 金属ケースなどの金属物

  これによりキーレスゴー付きのキーの機能に影響を与えることがあります。

温度制御カップホルダー (▷ 339 ページ) にキーレスゴーキーを保管しないでください。 さもなければ、キーレスゴーキーが検知されません。

キーレスゴースイッチ装備車には、キーレスゴー機能が内蔵されたキーと脱着式のキーレスゴースイッチが付いています。

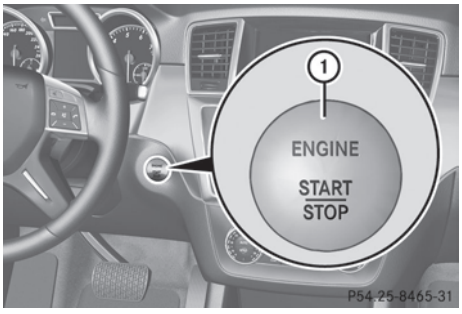
キーレスゴースイッチがエンジンスイッチに挿入されていて、キーレスゴー機能内蔵キーが車内になければなりません。

キーレスゴースイッチを押すたびに、イグニッション位置が切り替わります。 イグニッション位置の選択は、ブレーキペダルを踏んでいない状態で行ないます。

ブレーキペダルを踏んだ状態でキーレスゴースイッチを押すと、ただちにエンジンが始動します。

ⓘ 車両が動いている間にキーレスゴースイッチを約3 秒間押して保持すると、エンジンを停止することができます。 この機能は、ECOスタート / ストップ自動エンジン停止機能とは独立して作動します。

キーレスゴースイッチのキーの位置



電源供給をオンにする

▶ キーレスゴースイッチ ① がまだ押されていなければ、キーはイグニッションから取り外されていることに相当します。

▶ キーレスゴースイッチ ① を1 回押します。
電源供給がオンになります。 これで例えばワイパーなどの電気装備を作動させることができます。

ⓘ 電力供給は以下のときに再度オフになります。

- 運転席ドアが開かれて、そして
- キーレスゴースイッチ ① をこの位置で2 回押したとき

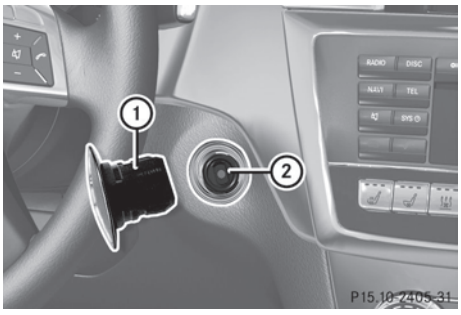
イグニッションをオンにする

▶ キーレスゴースイッチ ① を2 回押します。
イグニッションがオンになります。

ⓘ 電力供給は以下のときに再度オフになります。

- 運転席ドアが開かれて、そして
- キーレスゴースイッチ ① をこの位置で1 回押したとき

キーレスゴースイッチの取り外し



キーレスゴースイッチを取り外し、エンジンスイッチにキーを差し込んでまわすことにより、通常の方法でエンジンを始動することができます。

▶ エンジンスイッチ ② からキーレスゴースイッチ ① を取り外します。

ⓘ キーレスゴースイッチは、車から離れるときでもエンジンスイッチから取り外す必要はありません。

ⓘ トランスミッションがポジション P のときにのみ、キーレスゴーモードとキー操作の間で切り替えることができます。

ⓘ キーレスゴースイッチ ① をエンジンスイッチ ②に差し込むと、システムは認識に約2 秒間かかります。 その後、キーレスゴースイッチ ①を使用することができます。

エンジンを始動する

重要な安全上の注意

⚠ 警告

エンジンの燃焼は、一酸化炭素のような有毒な排気ガスを排出します。これらの排気ガスを吸い込むと中毒につながります。致命的なけがの危険性があります。従って、十分な換気がない閉じた空間でエンジンを作動させたままにしないでください。

⚠ 警告

動物または環境の影響によってもたらされた可燃物が熱くなっているエンジンの部品または排気システムに接触すると、発火するおそれがあります。火災のおそれがあります。

定期的な点検を行ない、エンジンルーム、または排気システムに可燃性の異物がないことを確認してください。

ⓘ 触媒は、冷間始動後、約 30 秒間、予熱されます。 この間、エンジンの音が変わることがあります。

オートマチックトランスミッション

▶ シフトポジションを P(▷ 167 ページ)にしてください。
マルチファンクションディスプレイのシフトポジション表示が P(▷ 167 ページ) を表示します。

ⓘ シフトポジションが N のときも、エンジンを始動することができます。

キーによるエンジンの始動

▶ エンジンスイッチ(▷ 157 ページ)のキーをポジション3にまわして、エンジンが始動したらすぐに放します。

キーレスゴースイッチ操作によるエンジンの始動

⚠ 警告

キーレスゴースイッチを使用して、簡単にエンジンを始動できます。 キーレスゴー操作により車が発進すると思わぬけがの原因となりますので、決して子供だけを車内に残さないでください。 ごく短時間でも、車から離れるときは必ずキーを携帯してください。

▶ ブレーキペダルをしっかりと踏みます。
▶ キーレスゴースイッチ (▷ 158 ページ) を1 回押します。
エンジンが始動します。

ⓘ エンジンスイッチにキーを差し込まなくても、キーレスゴースイッチを押すことでエンジンを始動できます。 キーレスゴーで操作を行なうには、車室内にキーがあり、エンジンスイッチにキーレスゴースイッチを差し込む必要があります。 エンジン始動のこのモードは、ECO スタート/ストップの自動エンジンスタート機能と独立して作動します。

発進

オートマチックトランスミッション

⚠ 警告
エンジン回転数がアイドリング回転数以上で、トランスミッションをポジション D または Rに入れると、車両は突然発進することがあります。事故の危険性があります。
トランスミッションをポジション D または Rに入れるときは、常にブレーキペダルをしっかりと踏み、同時に加速しないでください。

▶ ブレーキペダルをしっかりと踏みます。
▶ トランスミッションをポジションDまたはRにシフトします(▷ 166 ページ)。
▶ ブレーキペダルを徐々に戻します。
▶ アクセルペダルを注意しながら踏み、発進します。
電気式パーキングブレーキ(▷ 179 ページ) は自動的に解除されます。
メーターパネルの赤い Ⓟ 表示灯が消灯します。

ⓘ セレクターレバーをPから動かすためには、ブレーキペダルを踏む必要があります。 その後にのみ、パーキングロックが解除されます。 ブレーキペダルが踏まれていない場合は、 DIRECT SELECT(ダイレクトセレクト)レバーはまだ動かすことができますが、パーキングロックは固定されたままになります。

ⓘ 発進すると、車が自動的に施錠されます。 ドアのロックノブが下がります。
ドアは車内からいつでもロックを解除して開くことができます。
また、車速感応ドアロックを解除することもできます。 (▷ 269 ページ)

ⓘ エンジンが冷えているときは、より高いエンジン回転数でシフトアップが行なわれます。 これにより、排気ガスを浄化する触媒がより早く適正な作動温度に達します。

ヒルスタートアシスト

⚠ 警告
しばらくすると、ヒルスタートアシストは車両にブレーキを効かせなくなり、動き出すおそれがあります。 事故やけがの危険性があります。
従って、すばやくブレーキペダルからアクセルペダルに足を動かします。ヒルスタートアシストで車が停止しているときは、絶対に車から離れないでください。

▶ ブレーキペダルから足を放します。
車両はその後、約1 秒間停止します。
▶ 発進します。

ヒルスタートアシストは、坂道発進時に車が後退または前進するのを防ぎ、運転者の発進操作を補助します。 ブレーキペダルから足を放しても、ヒルスタートアシストが車を停止したまま保持します。そのため、車が動き出す前に、ブレーキペダルからアクセルペダルへ余裕を持って踏みかえることができます。

ただし、ヒルスタートアシストは以下のような状況では作動しません。

- 傾斜していない路面や下り坂で発進するとき
- シフトポジションを Nにしたとき
- 電気式パーキングブレーキを利かせているとき
- ESP®が故障しているとき

ECOスタート/ストップ機能

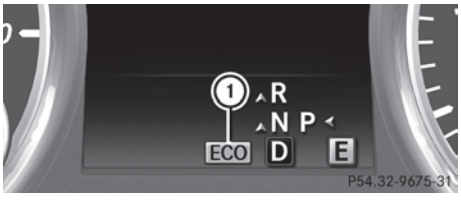
重要な安全上の注意

⚠ 警告

エンジンが自動的にオフになり、車両から出ると、エンジンは自動的に再始動します。車両が動き始めることがあります。 事故やけがの危険性があります。

車両から出たい場合は、必ずイグニッションをオフにし、動き出さないように車両を固定します。

全体的な注意事項



① ECOスタート/ストップ表示

ECOスタート/ストップ機能は、車両が停止すると、自動的にエンジンをオフにします。

再び発進しようとすると、自動的にエンジンが始動します。 その結果、ECOスタート/ストップ機能は、燃料消費および排出ガスを低減させます。

キーまたはキーレスゴースイッチを使ってエンジンをオンにするたびに、ECOスタート/ストップ機能が作動します。

AMG車：ECOスタート/ストップ機能は走行モード**C**でのみ使用できます。

マルチファンクションディスプレイに ECO マークが緑で表示されているときは、システムは操作可能です。

AMG車：マルチファンクションディスプレイのAMGメニューには、Stop/Start activeのメッセージが追加で表示されます。

自動エンジン停止のすべての条件が満たされていない場合は (▷ 163 ページ)、マルチファンクションディスプレイに ECO マークが黄で表示されます。

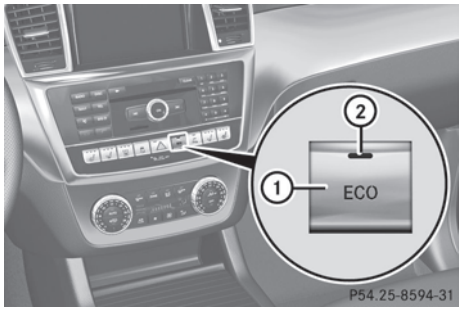
AMG車：マルチファンクションディスプレイのAMGメニューには、Stop/Start inactiveのメッセージが追加で表示されます。

ECOスタート/ストップ機能が手動で解除された場合(▷ 162 ページ)、または故障が原因でシステムが解除された場合は、ECO マークは表示されません。

AMG車：ディスプレイメッセージのStop/Start activeまたはStop/Start inactiveがマルチファンクションディスプレイのAMGメニューで消えます。

エンジンがオフで、ECO マークがマルチファンクションディスプレイに緑で表示される場合は、エンジンは自動的にオフになります。 しかし、すべての車両システムは作動したままになります。

ECOスタート/ストップ機能の作動および解除



ECOスイッチ

- **オフにする(AMG車を除く)**：スイッチ ①を押します。
  スイッチ①の表示灯②およびマルチファンクションディスプレイの ECO マークが消えます。
- **オンにする(AMG車を除く)**：スイッチ ①を押します。
  表示灯②が点灯します。 自動エンジン停止のすべての条件(▷ 163 ページ)が満たされている場合は、 ECO マークがマルチファンクションディスプレイに緑で表示されます。
  自動エンジン停止のすべての条件が満たされていない場合は(▷ 163 ページ)、マルチファンクションディスプレイに ECO マークが黄で表示されます。 その場合は、ECOスタート/ストップ機能は使用できません。
- **オフにする(AMG車)**： モード**C**で、スイッチ①を押します。

または

- 走行モード**S**または**M**に切り替えます(▷ 170 ページ)。
  スイッチ①の表示灯②およびマルチファンクションディスプレイの ECO マークが消えます。
  マルチファンクションディスプレイのAMGメニューのStop/Start active またはStop/Start inactiveというメッセージが消えます。
- **オンにする(AMG車)**： スイッチ ①を押します。
  表示灯②が点灯します。 走行モード**S**または**M**が作動している場合は、オートマチックトランスミッションは走行モード**C**に切り替わります。
  自動エンジン停止のすべての条件(▷ 163 ページ)が満たされている場合は、 ECO マークがマルチファンクションディスプレイに緑で表示されます。 さらに、マルチファンクションディスプレイのAMGメニューにStop/Start activeというメッセージが表示されます。
  自動エンジン停止のすべての条件(▷ 163 ページ) が満たされていない場合は、 ECO マークは表示されません。 その場合は、ECOスタート/ストップ機能は使用できません。 さらに、マルチファンクションディスプレイのAMGメニューにStop/Start inactiveというメッセージが表示されます。

ⓘ 表示灯②が消えている場合は、ECOスタート/ストップ機能は手動または誤作動により、作動解除されています。 車両が停止したときに、エンジンが自動的にオフになりません。

ⓘ キーまたはキーレスゴースイッチを使ってエンジンをオンにするたびに、ECOスタート/ストップ機能が作動します。

エンジン自動停止

ブレーキをかけたり、DまたはNで停車すると、ECOスタート/ストップ機能が自動的にエンジンをオフにします。

以下の場合は、ECOスタート/ストップ機能が作動可能で、マルチファンクションディスプレイにECOマークが緑で表示されます。

- ECOスイッチの表示灯が緑に点灯している
- いずれのオフロードプログラムも選択されていない
- 車両が停止しているとき
- 外気温度が快適な範囲内である
- エンジンが正常な作動温度である
- 車内の設定温度が到達している
- バッテリーが十分に充電されている
- エアコンディショナーシステムがオンのときに、フロントウインドウが曇っていないことをシステムが検知している
- ボンネットが閉じているとき
- 運転席のドアが閉じていて、運転席シートベルトが着用されている

自動エンジン停止のすべての条件が満たされていない場合は、ECOマークが黄で表示されます。

AMG車： マルチファンクションディスプレイのAMGメニューには、Stop/Start inactive のメッセージが追加で表示されます。

ℹ トランスミッションをRからDへシフトすると、ECOスタート/ストップ機能は再び使用可能になり、ECOマークがマルチファンクションディスプレイに緑色で表示されます。

ℹ **すべての車両(AMG車を除く)：** 自動エンジン停止は最大で4回連続して行なうことができます(最初の停止と、それに続く3回の停止)。4 回エンジンが自動的に始動した後は、マルチファンクションディスプレイにECOマークが黄で表示されます。 マルチファンクションディスプレイにECOマークが緑で表示されると、自動エンジン停止は再度可能です。

ℹ **AMG車：** エンジンを自動停止できる回数

ℹ 車両が停止していて、エンジンが自動的に停止した場合もホールド機能を作動させることができます。 その後は、自動停止期間の間はブレーキペダルを踏み続ける必要はありません。アクセルペダルを踏んだときはエンジンが自動的に始動し、ホールド機能のブレーキ作用は解除されます。 まずエンジンを始動させる必要があるので、アクセルペダルはゆっくり踏んでください。

ℹ 自動エンジン停止中は、エアコンディショナー制御システムは減少した容量でのみ作動します。 最大のエアコンディショナーの制御容量が必要な場合は、ECOスイッチを押すことにより、ECOスタート/ストップ機能を解除させることができます(▷ 162 ページ)。

自動エンジンスタート

エンジンは以下の場合自動的に始動します。

- ECOスイッチを押して、ECOスタート/ストップ機能をオフにした場合
- トランスミッションがポジションDまたはNにあるときや、ホールド機能が作動していないときにブレーキを解除した場合
- アクセルペダルを踏んだ場合
- リバースギアRに入れた場合
- トランスミッションをポジションPから動かした場合

- 走行モードSまたはMに切り替えた場合(AMG車)
- オフロードプログラムに切り替えた場合(AMG車以外)
- シートベルトを外す、または運転席のドアを開いた場合
- 車両が動き出した場合
- ブレーキシステムが要求した場合
- 車内の温度が設定範囲から外れた場合
- エアコンディショナーシステムがオンのときに、フロントウインドウの曇りをシステムが検知した場合
- バッテリーの充電状態が低すぎる場合

ⓘ トランスミッションをPにシフトしても、エンジンは始動しません。

エンジンの故障

トラブル	考えられる原因および影響 ▶ 解決方法
エンジンが始動しない。スターターモーターの音がする。	• エンジンの電子制御部品に異常がある。 • 燃料供給に異常がある。 ▶ エンジンを再始動する前に、メーターパネルの表示灯が消えるまで、イグニッション位置を**0**にするかキーレスゴースイッチを繰り返し押します。 ▶ 再びエンジンの始動を試みてください (▷ 159 ページ)。バッテリーあがりの原因となりますので、エンジン始動操作を長時間何度も行なわないでください。 何度始動を試みても、エンジンが始動しないとき ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場にご連絡ください。
エンジンが始動しない。スターターモーターの音がする。 燃料残量警告灯が点灯していて、燃料計の指針が**0**を示している。	燃料タンクが空になっている。 ▶ 燃料を給油してください。
エンジンが始動しない。スターターモーターの音がしない。	バッテリーがあがっているか充電されていないため、バッテリーの電圧が低くなっている。 ▶ ジャンプスタートを行なってください。 (▷ 377 ページ) ジャンプスタートを試みても、エンジンが始動しないとき ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場にご連絡ください。
	過度の負荷によりスターターモーターが過熱している。 ▶ スターターモーターが冷えるまで約2 分間待ってください。 ▶ 再度、始動操作を行なってください。 エンジンが始動しないとき ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場にご連絡ください。

トラブル	考えられる原因および影響 ▶ 解決方法
エンジンの回転が滑らかでなく、ミスファイアも起きている。	エンジンの電子制御部品またはエンジン制御システムの機械部品に異常がある。 ▶ アクセルペダルを踏みすぎないでください。触媒を損傷するおそれがあります。 ▶ ただちにメルセデス・ベンツ指定サービス工場で修理を行なってください。
冷却水温度の表示が120 ℃以上を示している 。冷却水警告灯も点灯し、警告音も鳴っている。	リザーブタンクの冷却水量がかなり不足している。冷却水の温度が高すぎて、エンジンが十分に冷却されていない。 ▶ すみやかに安全な場所に停車し、エンジンおよび冷却水を冷やしてください。 ▶ エンジンおよび冷却水が冷えてから冷却水量を点検してください。 (▷ 351 ページ) 必要であれば、冷却水補給時の注意事項を読んでから、冷却水を補給してください。
	冷却水量が正常なときは、ラジエターの冷却ファンが故障している可能性がある。冷却水の温度が高すぎて、エンジンが十分に冷却されていない。 ▶ 冷却水温度が約120 ℃以下のときは、最寄りのメルセデス・ベンツ指定サービス工場まで運転することができます。 ▶ 山道の走行などでエンジンに大きな負荷をかけたり、発進および停止を繰り返したりしないでください。

オートマチックトランスミッション

重要な安全上の注意

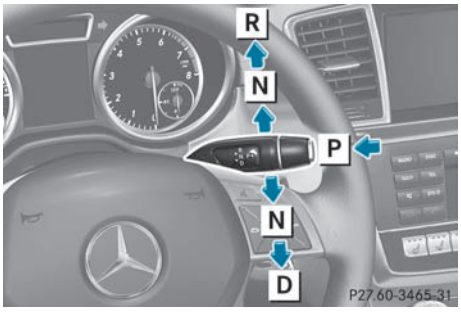
⚠ 警告

エンジン回転数がアイドリング回転数以上で、トランスミッションをポジション **D** または **R**に入れると、車両は突然発進することがあります。事故の危険性があります。

トランスミッションをポジション **D** または **R**に入れるときは、常にブレーキペダルをしっかりと踏み、同時に加速しないでください。

DIRECT SELECT(ダイレクトセレクト)レバー

シフトポジションの概要



P パーキングロック付きパーキングポジション
R リバースギア
N ニュートラル
D ドライブ

DIRECT SELECT(ダイレクトセレクト)レバーは、ステアリングの右側にあります。

ⓘ DIRECT SELECT(ダイレクトセレクト)レバーは常に元の位置に戻ります。選択されているシフトポジション**P**、**R**、**N**または**D**は、マルチファンクションディスプレイのシフトポジション表示 (▷ 167 ページ) に表示されます。

シフトポジションおよび走行モード表示

❗ マルチファンクションディスプレイのシフトポジション表示が作動していない場合は、慎重に発進し、希望のシフトポジションに入っているかどうかを点検してください。理想的には、シフトポジション **D** を、AMG車では走行モード **C** または **S** を選択してください。ギアレンジを制限しないでください。



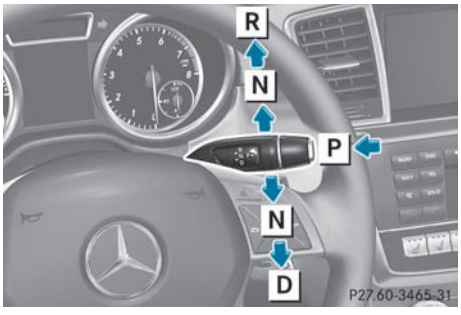
シフトポジションおよび走行モード表示
① シフトポジション表示
② 走行モード表示

現在のシフトポジションおよび走行モードがマルチファンクションディスプレイに表示されます。

ⓘ シフトポジション表示の矢印は、DIRECT SELECT(ダイレクトセレクト)レバーで選択できるシフトポジションおよびその方向を示しています。

パーキングポジションPの選択

❗ エンジン回転数が高すぎるときや走行中は、 **D** から**R**、**R** から**D** または直接 **P** にシフトしないでください。 オートマチックトランスミッションが損傷する原因になります。



P パーキングロック付きパーキングポジション
R リバースギア
N ニュートラル
D ドライブ

▶ DIRECT SELECT(ダイレクトセレクト)レバーを矢印の方向**P**に押します。

ⓘ オートマチックトランスミッションは以下の場合にパーキングポジション Pに自動的にシフトします。

- 車両がシフトポジションDまたはRで停止している間に、運転席ドアを開いた場合
- シフトポジションDまたはRでごく低速で走行している間に、ドアを開いた場合

ⓘ ブレーキペダルを踏み、DIRECT SELECT(ダイレクトセレクト)レバーを上または下に押した場合は、パーキングロックが解除されます。トランスミッションはニュートラルNに入っています。

パーキングポジションPからRまたはDに直接シフトするために：

- ブレーキペダルを踏み、そして
- DIRECT SELECT(ダイレクトセレクト)レバーを最初に抵抗がある位置を超えて上または下に押します。

パーキングポジションPの自動選択

以下の場合には、自動的にパーキングポジションPになります。

- キーを使用してエンジンをオフにし、キーを抜いた場合
- キーレスゴースイッチを使用してエンジンをオフにし、フロントドアの1つを開いた場合
- 停止して、以下の条件の少なくとも1つが満たされるまで、ホールド (▷ 210 ページ) またはディストロニックプラス (▷ 196 ページ) 機能が車両にブレーキを利かせます。
  - システムに故障がある
  - 車両が急な上り坂または下り坂の勾配にある。電気式パーキングブレーキも利きます。

リバースギアRの選択

❗ 必ず停車してから、シフトポジションを R にしてください。

▶ DIRECT SELECT(ダイレクトセレクト)レバーを上にいっぱいまで操作します。

ニュートラルN(ECOスタート/ストップ機能が作動した状態)

ECOスタート/ストップ機能は以下の場合に自動的にエンジンをオフにします。

- ニュートラルNに入っている間に停止するまで車両にブレーキを利かせ、そして
- ブレーキペダルを踏み続けます。

ECOスタート/ストップ機能の詳細については、(▷ 161 ページ) をご覧ください。

ニュートラルNの選択

▶ DIRECT SELECT(ダイレクトセレクト)レバーを上または下に軽く操作します。

ECOスタート/ストップ機能が作動した状態でのドライブポジションD

ECOスタート/ストップ機能は以下の場合に自動的にエンジンをオフにします。

- シフトポジションDに入っている間に停止するまで車両にブレーキを利かせ、そして
- ブレーキペダルを踏み続けます。

ECOスタート/ストップ機能の詳細については、(▷ 161 ページ) をご覧ください。

ドライブポジションDの選択

▶ DIRECT SELECT(ダイレクトセレクト)レバーを下にいっぱいまで操作します。

シフトポジション

P	**パーキングポジション** 停止中に車両が動き出すのを防止します。 車両が停止していない限り、トランスミッションをポジション P(▷ 177 ページ)に変速しないでください。 オートマチックトランスミッションは、以下のときに自動的に P にシフトします。 • エンジンスイッチからキーを抜いたとき • R または D のときにエンジンを停止し、フロントドアの一つを開いたとき
R	**リバースギア** シフトポジションを R にするには、必ず停車してから操作してください。
N	**ニュートラル** 走行中は、シフトポジションを N にしないでください。 オートマチックトランスミッションを損傷するおそれがあります。 エンジンから駆動輪に動力が伝達されません。 このポジションでブレーキを緩めると、押したりけん引してもらうことで車を移動できます。 ESP® が故障しているときや機能を解除している場合、凍結路などで横滑りする危険性があるときは、必ずシフトポジションを N にしてください。 リモコン操作かエンジンスイッチでエンジンを停止すると、シフトポジションが自動的に N になります。 ! ニュートラル N に入れたまま走行すると、駆動系部品が損傷する原因になります。
D	**ドライブ** オートマチックトランスミッションは車速に応じて自動変速します。 すべての前進ギアを使用できます。

ギアの変速

オートマチックトランスミッションは、シフトポジションが D のときに自動的に変速を行ないます。 ギアシフトは以下によって決定されます。

- ギアレンジの可能な制限
- 選択されている走行モード
- アクセルペダルの踏み込み量
- 走行速度

運転のヒント

アクセルペダルの位置

アクセルペダルの踏み加減に応じて、ギアが変速するタイミングが変化します。

- 軽く踏んだとき： シフトアップするタイミングが早くなります。
- 深く踏み込んだとき： シフトアップするタイミングが遅くなります。

キックダウン

最大の加速のためにキックダウンを使用します。

▶ アクセルペダルをいっぱいまで踏み込みます。
エンジン回転数に応じて、自動的に低速ギアに切り替わります。

▶ 希望の速度に達したら、アクセルペダルを戻します。
元のギアレンジに戻ります。

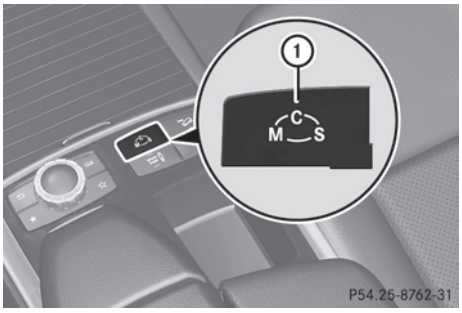
走行モード選択スイッチ

全体的な注意事項



オン&オフロードパッケージ装備車の走行モード選択スイッチ

▶ 走行モード選択スイッチ ① を押します。
マルチファンクションディスプレイに **M** の文字が表示されます。 マニュアル走行モード **M** が作動しています。



AMG車の走行モード選択スイッチ

▶ 走行モード選択スイッチ ① を押しながら、マルチファンクションディスプレイに希望の走行モードを表示させます。

走行モード選択スイッチで、お好みの走行特性に切り替えることができます。

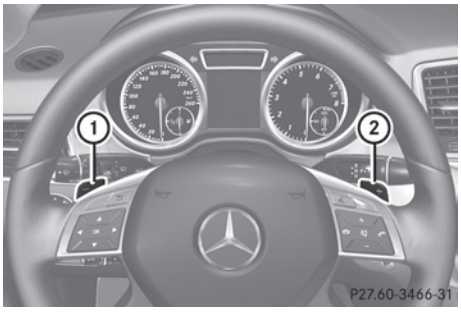
ℹ エンジンがオフのときは、走行モード **M** は保存されません。 この走行モードを使用したい場合は、エンジン始動後にそれを再度作動させる必要があります。

AMG車の走行モード

C 効率的な制御	快適性と経済性を重視した走行モード
S スポーツ	スポーティな走行に適したモード
M マニュアル	マニュアルギアシフト

ℹ 自動走行モードについての詳しい情報は、(▷ 171 ページ)をご覧ください。

パドルシフト



オートマチック走行モードでは、パドルシフト①および②(▷ 171 ページ)を使用してギアレンジの制限または制限の解除ができます。

マニュアル走行モードでは(▷ 172 ページ)、パドルシフト①および②を使用して手動でギアを変更することができます。

ⓘ シフトポジションが**D**のときのみ、ステアリングのパドルでギアシフトが可能となります。

自動走行モード選択(AMG車)

走行モード**C**は、以下の特性になります。

- 快適性を重視したエンジンおよびトランスミッション設定
- オートマチックトランスミッションのシフトアップが早目に行なわれるため、燃費の向上に貢献します。
- アクセルペダルをいっぱいまで踏み込まないときは、より穏やかに前進/後退ギアで発進します。
- 感度が向上します。滑りやすい路面などでの走行安全性が向上します。
- オートマチックトランスミッションがより早めにシフトアップします。その結果、車両はより低いエンジン回転数で走行し、車輪のスピンの可能性が減ります。

走行モード**S**を選択すると、以下の特性になります。

- スポーティーなエンジンおよびトランスミッションの設定
- 遅めにシフトアップが行なわれます。
- オートマチックトランスミッションのシフトポイントが遅めになるため、燃料消費量が増加する傾向があります。

シフトレンジ

概要

トランスミッションポジションが **D**のときは、ステアリングのギアシフトパドルを使用して、オートマチックトランスミッションのギアレンジの制限または制限の解除をすることができます (▷ 171 ページ)。

選択したギアレンジは、マルチファンクションディスプレイに表示されます。 変速は、選択したギアの範囲内で自動的に行なわれます。

走行状況

D	**1**～**7速**が自動的に選択されます。
6	**1**～**6速**が自動的に選択されます。
5	**1**～**5速**が自動的に選択されます。
4	**1**～**4速**が自動的に選択されます。
3	**1**～**3速**が自動的に選択されます。 エンジンブレーキを使用するため

2	1～2速の範囲で自動的に変速します。 エンジンブレーキは、下り坂や以下の場合に利用できます。 • 急な坂道 • 山道や坂道を走行しているとき • 過酷な状況
1	ギアは1速に固定されます。 非常に急な下り坂や長い下り坂などでエンジンブレーキを最大に効かせます。

ギアレンジの選択

▶ 左側パドルを引きます。
1段低いギアにシフトし、適切なギアレンジが選択されます。

ⓘ シフトダウン操作時にエンジンの許容回転数を超えそうな場合は、エンジンの損傷を防ぐため、シフトダウンが行なわれません。

ⓘ ギアレンジでのエンジンの許容回転数に達し、さらに加速を続けると、ギアレンジが制限されていてもオートマチックトランスミッションはシフトアップします。これによりエンジンをオーバーヒートから防ぎます。

ギアレンジの拡張

▶ 右側パドルを引きます。
ギアレンジが解除されます。

ギアレンジの制限の解除

▶ マルチファンクションディスプレイに再びDが表示されるまで、右側パドルを引いて保持します。
現在のギアレンジから直接Dにシフトされます。

または

▶ DIRECT SELECT(ダイレクトセレクト)レバーを使用して、トランスミッションをポジションDにシフトします。
現在のギアレンジから直接Dにシフトされます。

最適なギアレンジの選択

▶ 左側パドルを引いて保持します。
そのときの加速や減速に最も適したギアが選択されます。 そのために、1段かそれ以上低いギアが自動的に選択されます。

マニュアルギアシフト

マニュアルギアシフトの作動

マニュアル走行モードMでは、トランスミッションがDの位置の場合に、パドルシフトを使用してギアを変更することができます。現在の走行モードおよび入っているギアは、マルチファンクションディスプレイに表示されます。

▶ **AMG車：** マルチファンクションディスプレイにMが表示されるまで、モード選択スイッチ (▷ 170 ページ)を押します。

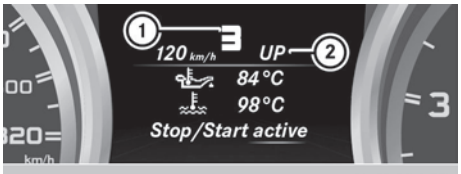
▶ **オン&オフロードパッケージ装備車：** モード選択スイッチ(▷ 170 ページ)を押します 。
マルチファンクションディスプレイにMの文字が表示されます。

シフトアップ(AMG車以外)

▶ 右側のステアリングのギアシフトパドル (▷ 171 ページ)を引きます。
1段高いギアにシフトします。

シフトアップ(AMG車)

! マニュアルギアシフト M では、現在のギアでのエンジン許容回転数に達しても、自動的にシフトアップしません。 エンジンの許容回転数に達すると、エンジンの過回転を防ぎエンジンを保護するため、燃料供給が停止します。 エンジン回転数が許容回転数を超えて、タコメーターのレッドゾーンに入らないように注意してください。 エンジンが損傷するおそれがあります。



① シフトインジケーター

② シフトアップインジケーター

エンジン回転数がレッドゾーンに達する前に、シフトアップインジケーターがマルチファンクションディスプレイに表示されます。

▶ スピードメーターのマルチファンクションディスプレイの色が赤色に変わり、ディスプレイメッセージUPが表示される場合は、ギアをシフトアップします。

シフトダウン

▶ 左側のステアリングのギアシフトパドル (▷ 171 ページ)を引きます。
1段低いギアにシフトします。

最大限まで加速

▶ トランスミッションが現在の速度に最適なギアを選択するまで、左側のパドルシフトを引きます。

i シフトダウンしないで減速または停止すると、オートマチックトランスミッションは自動的にシフトダウンします。

キックダウン

AMGを除く車種は、マニュアルギアシフトMを選択しているときにキックダウンを行なうことができます。

▶ アクセルペダルをいっぱいまで踏み込みます。
エンジン回転数に応じて、自動的に低速ギアに切り替わります。

▶ 希望の速度に達すると元にシフトアップします。

i **すべての車両(AMG車を除く)**：フルスロットルを加えると、エンジン最高回転数に達するとオートマチックトランスミッションは次のギアにシフトアップします。これによりエンジンを過回転から防ぎます。

i **AMG車**：マニュアルギアシフトMを選択しているときは、キックダウンをおこなうことはできません。

マニュアル走行モードの解除

▶ **AMG車**：マルチファンクションディスプレイに**C**または**S**が表示されるまで、モード選択スイッチ(▷ 170 ページ)を繰り返し押します。

▶ **オン&オフロードパッケージ装備車**：モード選択スイッチ(▷ 170 ページ)を押します 。
マルチファンクションディスプレイに**M**は表示されなくなります。

トランスミッションの問題

トラブル	考えられる原因および影響 ▶ 解決方法
トランスミッションが正しく変速しない。	トランスミッションオイルが減っている。 ▶ すぐにメルセデス・ベンツ指定サービス工場でトランスミッションの点検を受けてください。
加速性能が悪化している。 トランスミッションが変速しない。	トランスミッションに異常があり、エマージェンシーモードになっている。 **2速ギア** かリバースギアで走行できる場合があります。 ▶ 停車してください。 ▶ トランスミッションをポジション **P** にシフトします。 ▶ エンジンを停止します。 ▶ 約10秒以上待ってから、エンジンを再始動します。 ▶ トランスミッションをシフトポジション **D** または **R** にします。 シフトポジションを **D** にすると、 **2速ギア** になります。 シフトポジションを **R** にすると、リバースギアになります。 ▶ すぐにメルセデス・ベンツ指定サービス工場でトランスミッションの点検を受けてください。

給油

重要な安全上の注意

⚠ 警告

燃料は可燃性の高いものです。 燃料を不適切に扱った場合は、火災および爆発の危険性があります。

火気、裸火、火花の発生および喫煙は避けてください。給油の前にはエンジン、当てはまる場合は補助ヒーターを停止します。

⚠ 警告

燃料は健康に有毒で危険です。けがの危険性があります。

燃料は決して飲まないこと、また目や衣服に付着させないでください。燃料の気体を吸い込まないでください。燃料は子供から離してください。

お客様または他の方が燃料に触れた場合は、以下に従ってください。

- 石鹸および水道水を使用して、ただちに肌から燃料を洗い流してください。
- 燃料が目に入った場合は、ただちに清潔な水で十分にすすいでください。ただちに医師の診察を受けてください。
- 燃料を飲み込んだ場合は、ただちに医師の診察を受けてください。吐かせないでください。
- 燃料が付着した衣服はただちに替えてください。

⚠ 警告

静電気の蓄積により、火花の生成および気化燃料の発火につながるおそれがあります。火災および爆発の危険性があります。

燃料給油キャップを開くすぐ前に車体に触れてください。これにより蓄積される静電気をできるだけ放電します。

! ガソリンエンジン車両に給油するために軽油を使用しないでください。 誤って異なる燃料を給油した場合は、イグニッションをオンにしないでください。 さもないと、燃料が燃料システムに入ります。 少量の誤った燃料でも、燃料システムやエンジンの損傷につながるおそれがあります。 修理費用が高くなります。 メルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡して、燃料タンクや燃料系統から完全に抜き取ってください。

! 給油ノズルの自動停止後は、それ以上補給しないでください。燃料噴射システムを損傷するおそれがあります。

! 給油中に燃料を塗装面にこぼさないよう注意してください。 塗装面が損傷するおそれがあります。

! 燃料携行缶から燃料を補給するときは、フィルターを使用してください。 燃料携行缶に付着した微粒子によって、フューエルラインや燃料噴射システムの部品が詰まるおそれがあります。

燃料タンクに補充しすぎた場合は、燃料ポンプノズルを取り外したときに燃料が飛散するおそれがあります。

燃料および燃料のグレードについてのさらなる情報は、"燃料" (▷ 411 ページ) をご覧ください。

セルフ式のガソリンスタンド

セルフ式のガソリンスタンドで給油するときは必ず以下の点を守り、安全に十分注意して作業を行なってください。

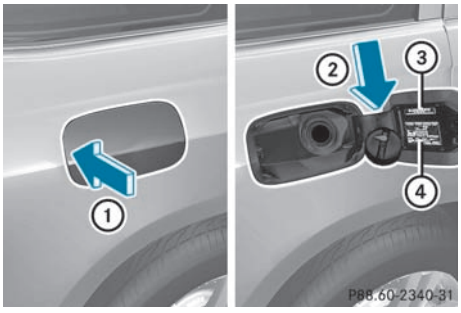
- 給油前に必ずエンジンを停止して、ドアやサイドウインドウなどを閉じてください。
- 燃料給油フラップを開くときから、一連の給油作業を必ずひとりで行なってください。

  給油作業を行なう人以外は燃料給油フラップに近づかないでください。
- 給油作業を行なう人は、身体の静電気を除去するため、給油前に車体などの金属に触れてください。

  身体に静電気を帯びていると、放電による火花で燃料に引火したり火傷をするおそれがあります。 火災のおそれがあります。
- 給油中は車内に戻らないでください。再び帯電することがあります。
- フューエルキャップの開閉は確実に行なってください。 火気を近づけないようにしてください。
- 給油ノズルは給油口の奥まで確実に差し込んでください。
- 給油が自動的に停止したら、それ以上は給油しないでください。 燃料があふれるおそれがあります。
- 給油の勢いを強くしないでゆっくりと給油してください。 燃料が吹きこぼれるおそれがあります。
- ガソリンスタンド内に掲示されている注意事項を遵守してください。

給油

燃料給油フラップの開閉



① 燃料給油口を開く
② キャップをはめる
③ 使用燃料表示
④ タイヤ空気圧ラベル

キーまたはキーレスゴーで車を施錠/解錠すると、燃料給油口も自動的に施錠/解錠されます。
燃料給油口は車両の右側後方にあります。
メーターパネル内には、給油口の位置を示す[⛽]が表示されています。 給油ノズルの横の矢印は、給油口の取り付け位置を示しています。

開く

- エンジンを停止します。
- エンジンスイッチからキーを抜きます。
- キーレスゴー：運転席ドアを開きます。
  イグニッション位置がOで、"キーを抜き取った"状態と同じになります。
  運転席ドアを再び閉じることができます。
- 燃料給油フラップ①の矢印の位置を押します。
  燃料給油フラップが開きます。
- 燃料給油口を反時計回りにまわして取り外します。
- 外したキャップを燃料給油フラップ②の裏側にあるホルダーにかけます。
- 給油ノズルを奥まで差し込み、給油を開始します。
- 給油ノズルが自動停止した時点で給油を停止してください。

ⓘ 給油ノズルの自動停止後は、それ以上補給しないでください。燃料があふれるおそれがあります。

閉じる

- キャップを給油口に合わせ、時計回りにいっぱいまでまわして確実に閉じます。
- 燃料給油口を閉じます。

ⓘ 車を施錠する前に燃料給油口を閉じてください。

燃料および燃料タンクの不具合

トラブル	考えられる原因および影響 ▶ 解決方法
燃料が漏れている。	燃料供給システムまたは燃料タンクに問題がある。 ⚠ 警告 爆発または火災の危険性 ▶ エンジンスイッチのキーを0の位置にまわし、ただちに抜いてください。(▷ 157 ページ). ▶ 状況を問わず、エンジンを始動しないでください。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場にご連絡ください。
燃料給油口が開かない。	燃料給油口が解錠されていない。 または キーの電池が消耗している。 ▶ 車を解錠してください。 (▷ 78 ページ) または ▶ エマージェンシーキーで車を解錠してください。 (▷ 80 ページ)
	燃料給油口の開閉機構に異常がある。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場にご連絡ください。

駐車

重要な安全上の注意

⚠ 警告

葉、草または小枝のような可燃性の素材が熱くなった排気システムの部品にさらされて長く接触すると、発火するおそれがあります。火災のおそれがあります。

可燃性の素材が熱い車両の部品に接触しないように車両を駐車します。乾燥した草原、または収穫した穀物畑に駐車しないように特に注意してください。

⚠ 警告

走行中にイグニッションをオフにすると、安全性に関連した機能が制限付きでしか使用できない、または全くできません。これにより、例えばパワーステアリングやブレーキの倍力装置に影響を与えることがあります。ステアリングやブレーキに非常に大きな力が必要になります。事故の危険性があります。

走行中はイグニッションをオフにしないでください。

⚠ 警告

保護者のいない状態で子供を車両に残すと、例えば以下のようにして動かし始めるおそれがあります。

- パーキングブレーキの解除
- オートマチックトランスミッションのパーキングポジション Pからのシフト
- エンジンの始動

彼らは車両装備を操作するおそれもあります。事故やけがの危険性があります。

▷▷

車両から離れるときは、必ずキーを携帯して車両を施錠してください。 子供だけを車内に残して車両から離れないでください。

! 動いている車両によって、車両の損傷、または駆動系の損傷につながるおそれがあります。

駐車時に車が不意に動き出さないように、以下の方法で車を確実に固定してください。

- 電気式パーキングブレーキを利かせる
- トランスミッションをポジション P にし、キーをエンジンスイッチから抜く
- 急な上り坂または下り坂勾配で、前輪を縁石のほうに向ける
- 急な上り坂または下り坂勾配で、空車の前軸を例えば輪止めなどで固定する
- 急な上り坂または下り坂勾配で、積載した車両の後軸を例えば輪止めなどでさらに固定する

エンジンの停止

重要な安全上の注意

⚠ 警告

エンジンをオフにすると、オートマチックトランスミッションはニュートラルポジション N に切り替わります。車両が動き出すおそれがあります。事故の危険性があります。

エンジンをオフにした後は、必ずパーキングポジション P に切り替えてください。 パーキングブレーキを効かせて、駐車した車両が動き出すのを防いでください。

キー操作

- ▶ パーキングブレーキを作動させてください。
- ▶ トランスミッションをポジションPにします。
- ▶ キーをまわしてイグニッションをポジションOにした後、キーを抜き取ります。
  イモビライザーが作動します。

ℹ トランスミッションがポジションRまたはDのときにエンジンをオフにすると、オートマチックトランスミッションは自動的にNにシフトします。

その後にフロントドアの1つを開くか、またはイグニッションからキーを抜くと、オートマチックトランスミッションはPにシフトします。

エンジンをオフにする前に、オートマチックトランスミッションをNにシフトすると、ドアを開いてもオートマチックトランスミッションはNのままになります。

キーレスゴー操作での作動

- ▶ パーキングブレーキを作動させてください。
- ▶ トランスミッションをポジションPにします。
- ▶ キーレスゴースイッチ (▷ 158 ページ)を押します。
  エンジンが停止し、メーターパネルのすべての表示灯が消えます。

ℹ キーレスゴースイッチを使用してエンジンをオフにすると、オートマチックトランスミッションは自動的にNにシフトします。その後にフロントドアの1つを開くと、オートマチックトランスミッションはPにシフトします。

ℹ 車両が動いている間にキーレスゴースイッチを約3 秒間押して保持すると、

エンジンを停止することができます。この機能は、ECOスタート/ストップの自動エンジン停止機能とは独立して作動します。

パーキングブレーキ

全体的な注意事項

⚠ 警告

保護者のいない状態で子供を車両に残すと、例えば以下のようにして動かし始めるおそれがあります。

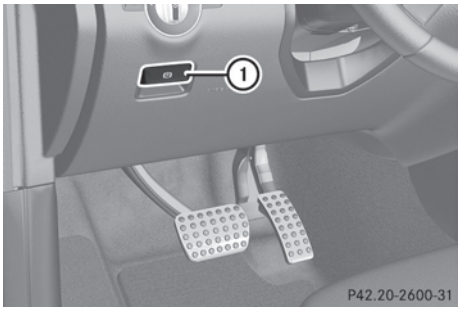
- パーキングブレーキの解除
- オートマチックトランスミッションのパーキングポジション **P**からのシフト
- エンジンの始動

彼らは車両装備を操作するおそれもあります。事故やけがの危険性があります。

車両から離れるときは、必ずキーを携帯して車両を施錠してください。子供だけを車内に残して車両から離れないでください。

ⓘ パーキングブレーキは、エンジンが停止すると定期的に機能チェックを行ないます。作動音が発生しますが問題ありません。

手動による作動および解除



▶ **作動させる**：ハンドルを押します①。

電気式パーキングブレーキを利かせているときは、メーターパネルの赤い表示灯Ⓟが点灯します。

ⓘ パーキングブレーキは、キーを抜いたときも作動します。

▶ **解除する**：ハンドル①を引きます。

メーターパネルの赤いⓅ表示灯が消灯します。

ⓘ パーキングブレーキを解除できるのは：

- エンジンスイッチのキーが**1**の位置のとき、あるいは
- スタート/ストップボタンを使ってイグニッションをオンにしたとき

自動作動

電気式パーキングブレーキが自動的に利きます。

- ディストロニックプラスにより車両が停止したとき、あるいは
- ホールド機能により車両が停止しているとき

さらに、最低でも以下の条件のうち1つが満たされる必要があります。

- エンジンを停止したとき
- 運転席の乗員がシートベルトを着用していない状態で、運転席ドアを開いたとき
- 車両が長時間停車している

メーターパネルの赤いⓅ表示灯が点灯します。

ⓘ 電気式パーキングブレーキは、エンジンがECOスタート/ストップ機能により停止すると、自動的には利きません。

自動解除

パーキングブレーキは、以下の条件がすべて満たされると自動解除されます。

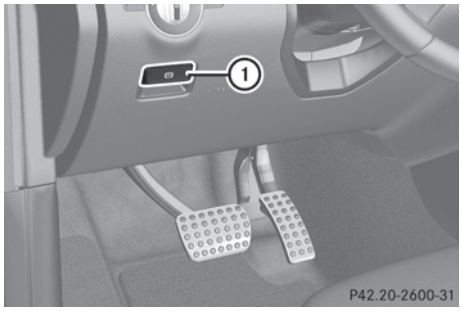
- エンジンがかかっているとき
- シフトポジションがDまたはRのとき
- シートベルトを着用したとき
- アクセルペダルを踏んだとき

シフトポジションがRのとき、トランクリッドは閉じている必要があります。

シートベルトが着用されていない場合は、自動的に電気式パーキングブレーキを解除するためには以下の条件が満たされていなければなりません。

- 運転席ドアを閉める
- トランスミッションをポジションPからシフトする、または以前に3 km/h以上で走行している

緊急ブレーキ



▶ 走行中、パーキングブレーキのハンドル①を押します。

パーキングブレーキを使って緊急時に車両にブレーキをかけることもできます。

ⓘ パーキングブレーキのハンドルが押されている間中、ブレーキがかけられます。パーキングブレーキのハンドルが押されている時間が長いほど、ブレーキフォースも大きくなります。

ブレーキの間：

- 警告音が鳴る
- パーキングブレーキ 解除してください というメッセージが表示される
- メーターパネルの赤い Ⓟ 表示灯が点滅する

停止するまで車両にブレーキを利かせると、電気式パーキングブレーキが利きます。

駐車

車を4 週間以上使用しないと、バッテリーが完全にあがって、損傷するおそれがあります。

▶ バッテリーの接続を外すか、細流充電器を接続してください。

ⓘ 充電器についてはメルセデス・ベンツ指定サービス工場にお問い合わせください。

車を6 週間以上使用しないと、車に不具合が発生するおそれがあります。

▶ 対応については、メルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

運転のヒント

全体的な注意事項

重要な安全上の注意

⚠ 警告

走行中にイグニッションをオフにすると、安全性に関連した機能が制限付きでしか使用できない、または全くできません。これにより、例えばパワーステアリングやブレーキの倍力装置に影響を与えることがあります。ステアリングやブレーキに非常に大きな力が必要になります。事故の危険性があります。

走行中はイグニッションをオフにしないでください。

無駄のない運転 – 燃料を節約する

燃料を節約するために以下のヒントに注意してください。

- タイヤは常に推奨タイヤ空気圧に充填されている必要があります。
- 必要のない荷物は取り出します。
- 必要でないときはルーフラックを取り外します。
- エンジンを低いエンジン回転数で暖機します。
- 頻繁な加速やブレーキは避けてください。
- 整備手帳またはメンテナンスインジケーター画面に記されたメンテナンスの時期を確認してください。 すべてのメンテナンス作業を受ける際にはDaimler AGの定めた規定に従ってください。

寒い気候、交通渋滞や起伏のある地形では、燃料消費量も増加します。

ブレーキ警告灯

重要な安全上の注意

⚠ 警告

エンジンのブレーキ効果を増やすために滑りやすい路面でシフトダウンすると、駆動輪がグリップを失うことがあります。これにより、横滑りや事故が起きる危険性が高くなります。

滑りやすい道路では、シフトダウンによるエンジンブレーキを効かせないでください。

下り坂の傾斜

ペダルに軽い圧力を一定にかけることにより、たとえばブレーキの摩擦の原因になるので、車両が動いている間はブレーキペダルを踏み続けないでください。これによりブレーキパッドが過度におよび早く摩耗します。

ⓘ クルーズコントロールまたは可変スピッドリミッターを設定したときも、同様の操作を行ないます。

エンジンブレーキを効かせることにより、少ないブレーキ操作で車両が加速するのを防ぐことができます。 その結果、ブレーキシステムへの負荷を軽減し、ブレーキが過熱して早く摩耗するのを防ぎます。

高負荷および低負荷

⚠ 警告

走行中にブレーキペダルの上に足を置くと、ブレーキシステムがオーバーヒートすることがあります。これにより制動距離が増加して、ブレーキシステムが故障する原因になるおそれもあります。事故の危険性があります。

ブレーキペダルをフットレストとして使用しないでください。ブレーキペダルとアクセルペダルを同時に踏まないでください。

❗ ブレーキペダルを常時踏むと、ブレーキパッドが極端に早く磨耗する結果になります。

ブレーキが高負荷にさらされている場合は、車両をすぐに停止しないでください。しばらくの間走行します。これにより送風を行ない、ブレーキをより早く冷やすことができます。

長時間、ブレーキをほぼ使用せずに走行した場合は、時々ブレーキの効きをテストしてください。 このテストを行なうには、高速の状態から強めにブレーキを踏み込みます。 この操作によりブレーキの制動力が向上します。

濡れた路面

激しい雨の中で、ブレーキを踏まずに長時間走行した後、初めてブレーキを踏んだときにブレーキの反応時間が遅れることがあります。 これは、洗車後または深

い水の中の走行後にも起こることがあります。

そして、ブレーキペダルをもっとしっかりと踏まなければなりません。前車との距離を十分に保ってください。

滑りやすい路面の走行後や洗車直後は、周囲の道路状況に注意しながら強めにブレーキを踏み込んでください。 この操作によりブレーキディスクを加熱して、より早く乾燥させ、腐食を防止することができます。

凍結防止剤等が撒かれた路面でのブレーキ性能の制限

塩分がある道路を走行している場合は、塩分の残留物の層がブレーキディスクやブレーキパッドにできることがあります。これにより、著しく制動距離が長くなることがあります。

- できるだけ塩分の残留物を取り除くために時々ブレーキを利かせます。そうしているときに他の道路利用者を危険にさらしていないことを確認してください。
- 走行開始と終了時にはブレーキペダルを慎重に踏んでください。
- 車両前方の距離をより大きく保ちます。

AMG強化ブレーキシステム

高性能ブレーキシステムは高荷重のために設計されています。 そのため、ブレーキ操作時に音が発生する場合があります。 これは以下の条件によります。

- 走行速度
- ブレーキペダルの踏力
- 気温や湿度などの外気環境

ブレーキパッド/ライニングまたはブレーキディスクのような個別のブレーキシステム部品の磨耗は、個人の運転スタイルおよび操作状況によって異なります。

このため、すべての状況で有効な走行距離(寿命)を記述することはできません。負荷の高い運転スタイルの場合は、摩耗度合いが早くなります。 詳しくは、メルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

交換された新しいブレーキパッド/ブレーキパッドおよびディスクは、数百キロメートルの走行後にのみ最適なブレーキ性能を発揮します。 ブレーキペダルにより大きな力をかけることにより、減少したブレーキ効果を補ってください。 慣らし期間の間は、常にこれに注意し、応じて走行やブレーキを合わせてください。

過度に負担があるブレーキは、応じたブレーキの高い摩耗につながります。 メーターパネルのブレーキ磨耗警告灯を遵守し、マルチファンクションディスプレイのブレーキ状況のメッセージに注意してください。定期的に高速で走行する場合は、ブレーキシステムを定期的に点検し、整備することが特に重要です。

濡れた路面の走行

ハイドロプレーニング現象

路面に特定の深さまで水がたまると、以下の状況でもハイドロプレーニング現象を起こしやすくなります。

- 低速で走行しているとき
- タイヤの溝が十分にあるとき

わだちなどの水のたまりやすい場所を避けて走行し、注意深くブレーキ操作を行なってください。

冠水路の走行

! 先行車や対向車も波を発生させていることに注意してください。 車が通ることにより、許容最大水深を超える可能性があります。

これらの注意事項は、どのような状況でも守ってください。 そうしないと、エンジン、電気装備およびトランスミッションを損傷するおそれがあります。

冠水路を走行するときは、以下の点に注意してください。

- 渡れる最大許容水深は車両装備によります。
- 歩くペースより速く走行しないでください。

オフロードを渡る

! 水深は、表に明記された値を超えてはなりません。渡れる深さは流水よりも少ないことに注意してください。

! どのような状況でも、水に入る前に加速しないでください。立った波は、水の浸入やエンジンまたは他の部品の損傷の原因になることがあります。

! 渡っている間は、車両のドアを開けないでください。さもなければ、水が車内に入って、車両の電子部品や車内の装備を損傷するおそれがあります。



表は、積載して走行する準備ができているときの渡れる深さ ① を示しています。

車両に積載していて走行する準備ができているときは、タンクがいっぱいで、すべての液類が補充されていて、運転者が車両にいます。

AIRマティックパッケージまたはオン&オフロードパッケージ装備車では、最大許容荷重までの荷重は渡る能力①には影響ありません。

	渡れる深さ
オン&オフロード パッケージ非装備車	
上昇レベル	50 cm
オン&オフロード パッケージ装備車	
オフロードレベル 3	60 cm
オフロードレベル 2	50 cm
オフロードレベル 1	50 cm

- 渡る前に、どれくらい水が深いかと、水域の特性を確かめます。
- 最も高くすることが可能な車高を選択します。
- ギアレンジを **1** または **2**に制限します。
- 高いエンジン回転数を避けます。
- 平坦な場所および一定の歩行ペースで水に入り、そして出ます。
- 水を通るときはゆっくりと一定の速度で走行します。
- 停止しないでください。
- 水が高い度合いの抵抗を与え、地面が滑りやすく、状況によっては不安定なことがあります。 したがって、水の中で発進するのは困難であり、危険です。
- 走行により、立った波が作られないことを確認してください。
- 渡った後は、タイヤトレッドの泥を清掃します。
- 渡った後はブレーキを利かせ、それらを乾燥させます。

寒冷時の走行

全体的な注意事項

⚠ 警告

エンジンのブレーキ効果を増やすために滑りやすい路面でシフトダウンすると、駆動輪がグリップを失うことがあります。これにより、横滑りや事故が起きる危険性が高くなります。

滑りやすい道路では、シフトダウンによるエンジンブレーキを効かせないでください。

⚠ 危険

マフラーが遮られ、適切な換気が可能でない場合は、一酸化炭素（CO）のような有毒ガスが車内に入り込んでくることがあります。車両が雪にはまった場合などがあてはまります。致命的なけがの危険性があります。

エンジンまたは補助ヒーターを作動させたままにする場合は、マフラーや車両周辺に雪がないことを確認してください。新鮮な空気の適切な供給を確保するために、風のほうを向いていない車両側のウインドウを開きます。

! リアウインドウの氷を落とすときに、リアウインドウ側のシーリングストリップとモールディングを損傷しないように注意してください。

冬季が始まるときに、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で車両に寒冷時対応を行なってください。

オン&オフロードパッケージ装備車両：
雪の中を、またはスノーチェーン付きで走行する場合は、センターコンソールのオフロードプログラム選択ダイヤルでスノープログラム (▷ 241 ページ) を選択します。

"冬季の使用" の注意事項を遵守してください (▷ 390 ページ)。

サマータイヤでの走行

"寒冷時の取り扱い" に記載されている注意事項を守ってください。 (▷ 390 ページ)

滑りやすい路面

⚠ 警告

エンジンのブレーキ効果を増やすために滑りやすい路面でシフトダウンすると、駆動輪がグリップを失うことがあります。これにより、横滑りや事故が起きる危険性が高くなります。

滑りやすい道路では、シフトダウンによるエンジンブレーキを効かせないでください。

車両がスリップしやすいとき、または低速走行中に停止できないときは、以下の指示に従ってください。

- シフトポジションを**N**にしてください。
- ステアリング操作を修正して、車両の操縦性を確保します。

i スノーチェーン装着時の走行について、詳しくは (▷ 391 ページ)をご覧ください。

滑りやすい路面では、特に慎重に走行してください。 急な加速、ハンドル、ブレーキ操作は避けてください。

オフロード走行

重要な安全上の注意

⚠ 警告

急な斜面で斜めに走行している、または斜面で走行しているときに曲がる場合は、車両が横に滑り、傾き、横転することがあります。事故の危険性があります。

急な斜面では常に落下線（直進での登りまたは下り）内を走行し、車両を旋回させないでください。

⚠ 警告

車高が高い場合は、車両の重心位置が上がります。これにより、上り坂または下り坂勾配で車両がより簡単に横転することがあります。事故の危険性があります。

最も低い可能な車高を選択します。

オフロード、砂、泥および水辺を走行するときに、例えばオイルが混ざったりすると、ブレーキに入り込むことがあります。これにより、ブレーキ性能は減少、またはブレーキ全体の故障、または磨耗や亀裂が増加することもあります。ブレーキ特性は、ブレーキに入り込んだ材質によって変化します。オフロード走行後にブレーキを清掃してください。ブレーキ性能の減少、または耳障りな音を検知した場合は、できるだけ早くブレーキシステムをメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検してください。変わったブレーキ特性に運転スタイルを合わせてください。

オフロード走行は、曲がるときに機械部品、またはシステムの故障につながるおそれがあるような車両の損傷の可能性を増やします。運転スタイルを地形の状態に適するように合わせてください。注意して運転してください。 車両の損傷はメルセデス・ベンツ指定サービス工場でただちに修理してください。

オフロードを走行しているときは、トランスミッションをポジション**N** に切り替えないでください。 サービスブレーキを使用して、ブレーキを利かせようとすると、車両のコントロールを失うことがあります。 勾配がとても急な場合は、リバースギアで後退します。

全体的な注意事項

環境に関する注意

環境保護は最も重要です。敬意を持って自然を扱ってください。禁止しているすべてのサインを遵守してください。

オフロードで車両を運転する前にこの項をお読みください。まず、よりゆるやかなオフロードの地形を走行して練習します。

以下の走行装備は、オフロード走行に特に適しています。

- オフロードプログラム(オン&オフロードパッケージ非装備車)(▷ 244 ページ)
- オフロードプログラム1および2(オン&オフロードパッケージ装備車両)(▷ 244 ページ)
- LOW RANGEオフロードギヤ(オン&オフロードパッケージ装備車両)(▷ 246 ページ)
- ディファレンシャルロック(オン&オフロードパッケージ装備車両)(▷ 245 ページ)
- オフロードABS(▷ 62 ページ)
- オフロード4ETS(▷ 68 ページ)
- オフロードESP®(▷ 70 ページ)
- AIRマティックパッケージ(車高)(▷ 212 ページ)
- DSR(ダウンヒル・スピード・レギュレーション)(▷ 242 ページ)

以下の注意事項を遵守してください。

- オフロード走行する前に車両を停止し、必要であれば、オフロードプログラム(▷ 244 ページ) を選択してください。
- オフロードの地形に適した車高を選択してください。 車両の損傷を防ぐために、常に十分な地面との間隔があることを確認してください。
- 積載物や荷物が安全に収納され、よく固定されていることを点検してください(▷ 335 ページ)。
- 下り坂勾配を走行するときは、常にエンジンを作動させ、ギアを入れてください。 DSRを作動させてください(▷ 242 ページ)。

- ゆっくりと一定に、必要であれば歩くペースで走行してください。
- 常に車輪が地面に接していることを確認してください。
- 視界が悪い未知のオフロードのルートでは特に気をつけて走行してください。 安全上の理由で、まず車両から降り、オフロードのルートを調べてください。
- 川や流れを渡る前に水深を点検してください。
- 岩、穴、木の切り株および轍のような障害物を見つけてください。
- 上り坂または下り坂勾配で曲がるとき、または勾配を横切って走行するときは注意してください。 さもないと、車両が横転することがあります。
- 走行中は、サイドウインドウおよびパノラミックスライディングルーフを常に閉じてください。
- 目印のルートまたは進路からそれないでください。

ⓘ 特別な全地形用タイヤの装着に関する情報は、いずれかのメルセデス・ベンツ指定サービス工場で得ることができます。

ⓘ オフロード走行時や急勾配の道路、滑りやすい路面などグリップが低い状況では、ホールド機能を使用しないでください。 このような路面では、HOLD機能で停車した状態を維持できません。

オフロード走行前のチェックリスト

- **エンジンオイルレベル**：エンジンオイルを点検し、必要であれば補充します。急な勾配を走行するときは、車両に適切にオイルを供給するようにオイルレベルが十分に高くなければなりません。
- **タイヤ交換工具キット**：ジャッキが作動することを点検し、車両に輪止め、頑丈なけん引ケーブルおよび折りたたみ式シャベルがあることを確認してください。
- **ホイールおよびタイヤ**：タイヤトレッドの深さおよびタイヤ空気圧を点検してください。
- 損傷を点検し、小さな石のような異物をホイールおよびタイヤから取り除きます。
- 紛失したバルブキャップを再度取り付けます。
- 変形または損傷したホイールを取り替えます。
- **ホイール**：変形または損傷したホイールは、タイヤ空気圧の損失につながり、タイヤビードが損傷するおそれがあります。オフロード走行前に、ホイールを点検し、必要であればそれらを交換して下さい。

オフロード走行後のチェックリスト

❗ オフロード走行後に車両の損傷を検知した場合は、車両をすぐにメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検してください。

- **オン&オフロードパッケージ装備車**：オンロードプログラムを作動させます(▷ 244 ページ)。
- **オン&オフロードパッケージ非装備車**： オンロードプログラムを解除します(▷ 244 ページ)。
- ローレンジオフロードギアを解除します(▷ 246 ページ)。
- DSRを解除します (▷ 242 ページ)。
- ハイウェイ/高速レベルのように道路状況に適したレベルまで再度車高を下げます。
- ヘッドライトおよびリアライトを清掃し、損傷を点検します。
- 前と後のライセンスプレートを清掃します。

- ▶ 水流でホイール/タイヤを清掃し、異物を取り除きます。
- ▶ 水流でホイール、ホイールアーチ、および車両の下側を清掃し、異物や損傷を点検します。
- ▶ 小枝や植物の他の一部が挟まっていないかどうか点検してください。 これらにより火災の危険性が増加し、燃料パイプ、ブレーキホース、またはアクスルジョイントおよびプロペラシャフトのラバーベローズが損傷するおそれがあります。
- ▶ 走行後は必ず、車台全体、ホイール、タイヤ、ブレーキ、車体構造、ステアリング、シャーシ、および排気システムの損傷を検査してください。
- ▶ 砂、泥、砂利、水または似たように汚れた状態で長期間走行した後は、ブレーキディスク、車輪、ブレーキパッド/ライニングおよびアクスルジョイントを点検し、清掃してください。
- ▶ オフロード走行後に強い振動を検知した場合は、車輪や駆動系の異物を点検し、必要であればそれらを取り除いてください。 異物は、バランスを妨げ、振動の原因になることがあります。

起伏のある地形の走行は、通常の道路を走行するよりも車両に大きな負担を与えます。 オフロード走行後は、車両を点検してください。 これにより、損傷をすぐに検知し、お客様や他の道路使用者の事故の危険性を減らすことができます。

砂地の走行

砂地を走行するときは、以下のルールを遵守してください。

- **オン&オフロードパッケージ装備車両：** オフロードプログラム1を選択します (▷ 244 ページ)。
- **オン&オフロードパッケージ非装備車両：** オフロードプログラムを選択します (▷ 244 ページ)。
- より高い車高を選択します。
- 地形に適したギアレンジを選択します。
- 回転の抵抗に打ち勝つためにすばやく走行します。 さもないと、車両の車輪が緩い地面にはまってしまうおそれがあります。
- 可能であれば、他の車両の軌跡を走行します。 以下のことを確認してください。
  - タイヤの轍があまり深くない
  - 砂が十分にかたい
  - 車両の地面との間隔が十分である

わだちや砂利道

! 轍があまり深くなく、車両に十分な間隔があることを点検してください。さもなければ、車両を損傷し、または底がつき、はまってしまうおそれがあります。

オフロードの地形、またはやわらかい砂利道の轍に沿って走行するときは、以下の方法を遵守してください。

- オフロードプログラムを作動させます (▷ 244 ページ)。
- **AIRマティックパッケージ装備車：** 上昇レベルを選択します。
- 高いエンジン回転数を避けます。
- ギアレンジを**1**に制限します。

- ゆっくり走行します。
- 轍がとても深いところでは、可能であれば片側のホイールを道路の中央部分に乗せた状態で走行します。

障害物を越える走行

❗ 障害物は車両のフロア、またはシャーシの部品を損傷するおそれがあります。大きな障害物の上を走行するときは、案内を乗員に依頼してください。いかなる車両の損傷は、常に事故の危険性を増加させます。

木の切り株、大きな石、その他の障害物を乗り越えるときは、以下のルールを遵守してください。

- オフロードプログラム (▷ 244 ページ) またはLOW RANGE オフロードギア (▷ 246 ページ) を選択します。
- 車高を上げます。
- エンジン回転数を上げないようにします。
- シフトレンジを 1 に限定します。
- きわめてゆっくり走行します。
- 障害物の中心をまっすぐに乗り越えます。

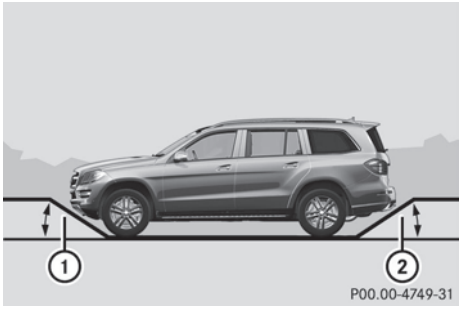
上り坂の走行

アプローチ/デパーチャーアングル

⚠ 警告

急な斜面で斜めに走行している、または斜面で走行しているときに曲がる場合は、車両が横に滑り、傾き、横転することがあります。事故の危険性があります。

急な斜面では常に落下線（直進での登りまたは下り）内を走行し、車両を旋回させないでください。



表は、積載して走行する準備ができているときのアプローチ/デパーチャアングル①および②を示しています。

AIRマティックパッケージまたはオン&オフロードパッケージ装備車では、最大許容荷重までの荷重はアプローチおよびデパーチャアングルに影響を与えません。

すべての車両(AMG車およびAMGボディスタイリング装備車を除く)

	①	②
オン&オフロード パッケージ非装備車		
ハイウェイレベル	25°	20°
上昇レベル	30°	25°
オン&オフロードパッケージ装備車		
ハイウェイレベル	25°	20°
オフロードレベル 1	28°	23°
オフロードレベル 2	30°	25°
オフロードレベル 3	33°	27°

AMGボディスタイリング装備車

	①	②
オン&オフロードパッケージ非装備車		
ハイウェイレベル	20°	20°
上昇レベル	24°	24°
オン&オフロードパッケージ装備車		
ハイウェイレベル	20°	20°
オフロードレベル 1	22°	22°
オフロードレベル 2	24°	24°
オフロードレベル 3	26°	26°

AMG車

	①	②
ハイウェイレベル(AMG RIDE CONTROLのスポーツモード)	19°	19°
上昇レベル	23°	22°

- 坂道や急な斜面を走行しているときは落下線に従ってください。
- 極端な上り坂や下り坂の勾配を走行する前に、オフロードプログラム (▷ 244 ページ) またはローレンジ オフロードギア (▷ 246 ページ)を選択してください。
- オフロード走行の警告に従ってください(▷ 184 ページ)。
- ゆっくり走行します。
- ゆるやかに加速し、車輪がグリップしていることを確認してください。
- 大きな走行抵抗がある砂や泥地を走行しているとき以外は、高いエンジン回転数は避けてください。
- 勾配に適したギアレンジを選択してください。
- 急な下り坂の勾配に立ち向かう前に、ギアレンジ **1**を選択してください。

オフロードを走行するときは、トランスミッションをポジション**N**にシフトしないでください。サービスブレーキを使用して車両にブレーキを利かせようとすると、車両のコントロールを失うことがあります。車両にとって勾配が非常に急な場合には、リバースギアで後退してください。

登坂能力

良い路面で、ローレンジオフロードギアが選択されているときに、最大の登板能力が使用できます。

急な上り坂で発進するときに前軸にかかる荷重が減少する場合は、前輪は空転する傾向があります。 4ETSはこれを認識し、応じて車輪にブレーキを利かせます。 後輪トルクが増加し、発進しやすくなります。

上り坂の走行

上り坂の勾配を走行しているときは、坂の頂上に到達する少し前にアクセルにかかる圧力を少し減らします。車両自体の勢いを使用して、頂上を越えて走行します。

この運転スタイルは以下のことを防ぎます。

- 車両が坂の頂上で地面から上がること
- 車両が逆側で急に下って走行すること

下り坂の走行

- ゆっくり走行してください。
- 急な斜面を斜めに下って走行しないでください。落下線内で操舵し、前輪が直進の状態で走行しないでください。

さもなければ、車両は横に滑り、傾き、横転することがあります。

- 急な下り坂の斜面に立ち向かう前に、ギアレンジ 1を選択します。
- DSRを作動させます。これが十分でない場合は、ゆっくりブレーキを利かせます。そうするときは、車両が落下線の方向を向いていることを確認してください。
- 長い下り坂が続いた後はブレーキが通常通り作動していることを点検してください。

ℹ オフロードプログラムまたはローレンジオフロードギアが選択されているときは、オフロードABSが作動します。

30 km/h以下の速度では、前輪はブレーキ中に周期的にロックします。作動中に発生した引っ掻き効果により、オフロード走行時は制動距離を減少させます。車輪がロックすると、車両の操舵性は大いに低下します。

走行装備

クルーズコントロール

重要な安全上の注意

⚠ 警告

滑りやすい路面では、シフトダウン操作による急激なエンジンブレーキを効かせないでください。 駆動輪がグリップを失い、車両がスリップするおそれがあります。

⚠ 警告

クルーズコントロールは道路や交通事情を考慮することはできません。

クルーズコントロールが作動していても常に交通状況に注意を払うようにしてください。

クルーズコントロールは運転中に運転者を補助するためだけに設計されたもので す。車両の速度に注意して、適切に減速する責任があります。

⚠ 警告

次のような場合にはクルーズコントロールを使用しないでください。

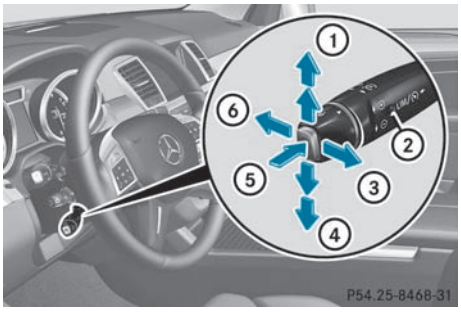
- 一定の速度を維持できないような道路や交通状況のとき（例、混雑してる交通やカーブしている道路）。 事故の原因になるおそれがあります。
- 滑りやすい路面。 ブレーキや加速により駆動輪が駆動力を失い、車両が滑るおそれがあります。
- 霧や激しい雨、雪のときなど、不十分な視界のとき。

全体的な注意事項

クルーズコントロールは走行速度を一定に維持するシステムです。 設定速度を超えないようにするために自動的にブレーキを効かせます。 長い急な下り坂で、特に車両に荷物を積載しているときやトレーラーをけん引しているときは、適時シフトレンジを1、2、3 にしてください。 そうすることにより、エンジンブレーキを効かせることができます。 その結果、ブレーキシステムへの負荷を軽減し、ブレーキが過熱して早く摩耗するのを防ぎます。

クルーズコントロールは、一定の走行速度を長時間維持するのに適している道路・交通状況で使用してください。 約30 km/h以上の任意の速度を設定できます。

クルーズコントロールレバー



① 速度を設定する/上げる
② LIM表示灯
③ 現在の速度/前回の設定速度に設定する
④ 速度を設定する/下げる
⑤ クルーズコントロールおよび可変スピードリミッターを切り替える
⑥ クルーズコントロールの解除

クルーズコントロールレバーでクルーズコントロールおよび可変スピードリミッターを操作できます。

▶ **可変スピードリミッターおよびクルーズコントロールを切り替える**：クルーズコントロールレバーを矢印の方向⑤に押します。

クルーズコントロールレバーのLIM表示灯②は現在選択されている機能を表示します。

- **LIM表示灯②が消灯**：クルーズコントロールが選択されています。
- **LIM表示灯②が点灯**：可変スピードリミッターが選択されています。

クルーズコントロールを作動させると、設定速度がマルチファンクションディスプレイに約5秒間表示されます。マルチファンクションディスプレイで、設定速度と最高速度のあいだのセグメントが点灯します。

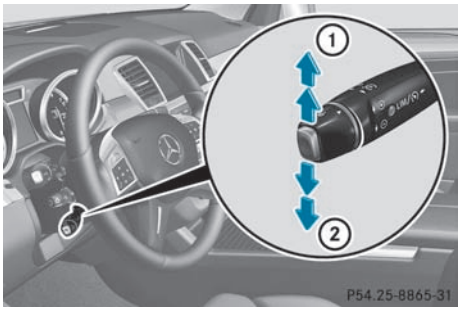
作動条件

クルーズコントロールを作動させるには、以下の条件をすべて満たしている必要があります。

- パーキングブレーキを解除している。
- 約30 km/h以上で走行している
- ESP®を使用しているが機能が介入していない。
- シフトポジションは**D**にしている。
- DSRは解除されている。
- オフロードプログラム2が解除されている(オン&オフロードパッケージ装備車)。
- クルーズコントロールの機能を設定している。(▷ 191 ページ)

速度の記憶、維持、呼び出し

速度を設定し維持する



▶ 希望の速度に加速します。
▶ クルーズコントロールレバーを上 ① または下 ② に軽く操作します。
▶ アクセルペダルから足を放してください。
クルーズコントロールが作動します。車両は自動的に設定速度を維持します。

約 30 km/h以上で走行しているときは、現在の速度に設定できます。

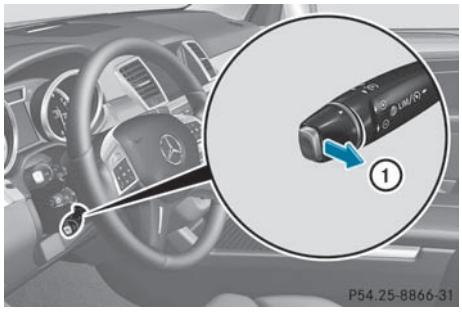
ⓘ クルーズコントロールは、急な上り坂では設定速度を維持できないことがあ

ります。 勾配が平らになると設定速度に戻ります。 急な下り坂では、クルーズコントロールが自動的にブレーキを効かせることにより設定速度を維持します。

速度を設定する、または呼び出す

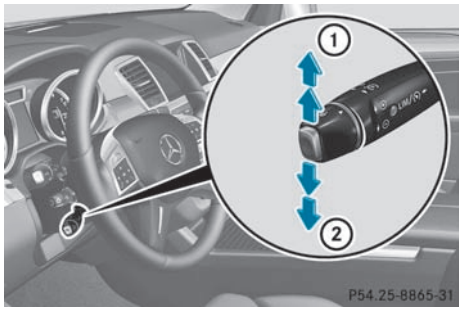
⚠ 警告

記憶されている速度への設定は、速度を記憶していて、現在の交通状況や走行状態に適しているときにのみ行なってください。不意に急加速や急減速し、事故を起こすおそれがあります。



- クルーズコントロールレバーを手前 ① に軽く引きます。
- アクセルペダルから足を放してください。
  初めてクルーズコントロールを作動させると、現在の速度を設定するか、前回の設定速度に車速を調整します。

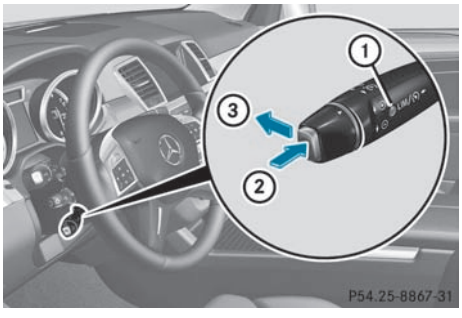
速度の設定



- 設定速度を上げるにはクルーズコントロールレバーを上 ① に、設定速度を下げるには下 ② に操作します。
- 希望の速度になるまでクルーズコントロールレバーを保持します。
- クルーズコントロールレバーから手を放します。
  新しい速度が設定されます。
- **1km/h単位での設定：** クルーズコントロールレバーを上 ① または下 ② に圧力点まで押します。
  前回の設定速度が約1km/h単位で増減します。
- **設定速度を10km/h単位で調整する：** クルーズコントロールレバーを上 ① または下 ② に圧力点を越えて軽く押します。
  前回の設定速度が約10km/h単位で増減します。

ⓘ クルーズコントロールは、アクセルペダルを踏んでも解除されません。 例えば、追い越しのために一時的にアクセルペダルを踏み込んだときは、追い越し後にクルーズコントロールは前回設定速度に車速を調整します。

クルーズコントロールの解除



クルーズコントロールを解除するにはいくつかの方法があります。

▶ クルーズコントロールレバーを前方③に軽く押します。

または

▶ ブレーキを効かせます。

または

▶ クルーズコントロールレバーを矢印②の方向に軽く押します。
可変スピードリミッターが選択されます。クルーズコントロールレバーのLIM表示灯①が点灯します。

以下のときはクルーズコントロールが自動的に解除されます。

- 電気式パーキングブレーキを利かせたとき
- 約30 km/h以下で走行したとき
- ESP®が作動したときやESP®の機能を解除したとき
- DSRを作動させたとき
- オン&オフロードパッケージ装備車でオフロードプログラム2を起動したとき
- 走行中にシフトポジションをNにしたとき

クルーズコントロールが解除されると警告音が鳴ります。マルチファンクションディスプレイにクルーズコントロール解除というメッセージが約５秒間表示されます。

ⓘ エンジンを停止すると、記憶されている前回の設定速度が消去されます。

可変スピードリミッター

重要な安全上の注意

⚠ 警告
ブレーキペダルの上に常に軽く足を置くなど、ブレーキを踏んだ状態で運転しないでください。 ブレーキシステムが過熱して、制動距離が長くなり、ブレーキが効かなくなるおそれがあります。

⚠ 警告
滑りやすい路面では、シフトダウン操作による急激なエンジンブレーキを効かせないでください。 駆動輪がグリップを失い、車両がスリップするおそれがあります。

⚠ 警告
可変スピードリミッターは運転を補助するために設計されたものです。車両の速度に注意して、適切に減速する責任があります。

⚠ 警告
運転者を交代する場合は、交代する運転者に記憶されている制限速度を伝えてください。
制限速度に設定された速度以上に加速する必要がない場合にのみ、可変スピードリミッターを使用してください。事故をおこすおそれがあります。
可変スピードリミッターを解除することによってのみ、記憶されている制限速度を超えて走行できます。
- クルーズコントロールレバーを使用してください。
- アクセルペダルをいっぱいまで踏み込んでください（キックダウン）。

ブレーキペダルを踏んで可変スピードリミッターを解除することはできません。

全体的な注意事項

設定された速度を超えないように可変スピードリミッターは自動的にブレーキを効かせます。 長い急な下り坂で、特に車両に荷物を積載しているときやトレーラーをけん引しているときは、適時シフトレンジを1、2、3 にしてください。そうすることにより、エンジンブレーキを効かせることができます。 これによ

り、ブレーキシステムへの負荷を軽減し、ブレーキが過熱して早く摩耗するのを防ぎます。 さらにブレーキが必要な場合は、踏み続けるのでなく繰り返しブレーキペダルを踏んでください。

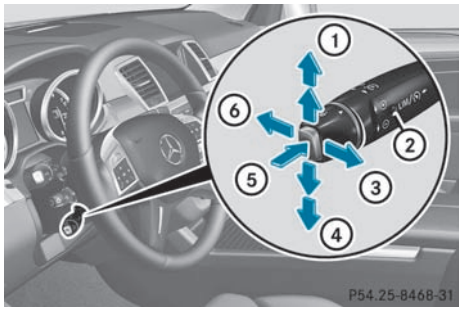
可変スピードリミッターまたはスノータイヤスピードリミッターを設定することができます。

- **可変**スピードリミッターは市街地などで速度制限するためのシステムです。
- **スノータイヤ**スピードリミッターは、ウィンタータイヤを装着して走行するときなど、長時間の速度制限ためのシステムです。 (▷ 196 ページ)

ⓘ スピードメーターに表示された速度は設定された制限速度と若干異なる場合があります。

可変スピードリミッター

クルーズコントロールレバー



① 速度を設定する/上げる
② LIM表示灯
③ 現在の速度/前回の設定速度に設定する
④ 速度を設定する/下げる
⑤ クルーズコントロール/ディストロニックプラスおよび可変スピードリミッターを切り替える
⑥ 可変スピードリミッターの解除

クルーズコントロールレバーで、クルーズコントロール/ディストロニックプラスおよび可変スピードリミッターを操作できます。

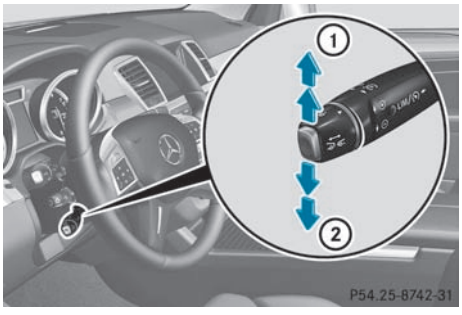
▶ **可変スピードリミッターおよびクルーズコントロール/ディストロニックプラスを切り替える**：クルーズコントロールレバーを矢印の方向⑤に押します。

クルーズコントロールレバーのLIM表示灯②は現在選択されている機能を表示します。

- **LIM表示灯②が消灯**：クルーズコントロールまたはディストロニックプラスが選択されています。
- **LIM表示灯②が点灯**：可変スピードリミッターが選択されています。

エンジンがかかっているときにクルーズコントロールレバーを操作して、約30km/h以上の任意の制限速度を設定できます。

現在の速度の記憶



エンジンがかかっているときにクルーズコントロールレバーを使用して、約30 km/h 以上のあらゆる速度に速度を制限できます。

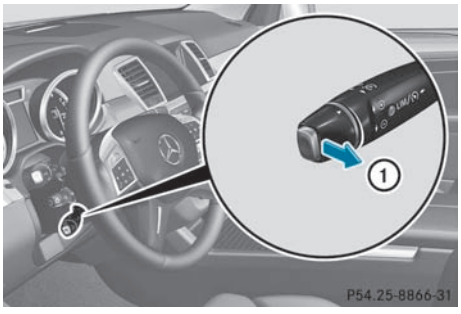
▶ クルーズコントロールレバーを上 ① または下 ②に軽く押します。
現在の速度が設定されマルチファンクションディスプレイに表示されます。

マルチファンクションディスプレイのスピードメーターで、設定速度から下のセグメントが点灯します。

現在の速度の記憶および最後に記憶した速度の呼び出し

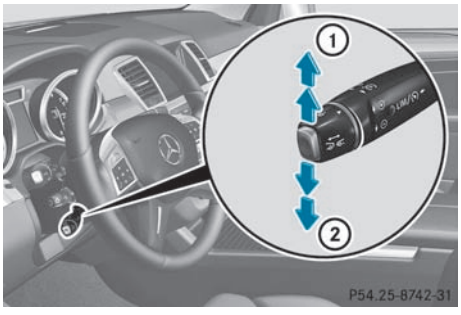
⚠ 警告

記憶されている速度への設定は、速度を記憶していて、現在の交通状況や走行状態に適しているときにのみ行なってください。急減速によって、事故を起こすおそれがあります。



▶ クルーズコントロールレバーを手前 ① に軽く引きます。

速度の設定



▶ **設定速度を約 10 km/h 単位で調整する**：設定速度を上げるにはクルーズコントロールレバーを上 ① に、設定速度を下げるにはレバーを下 ② に軽く操作します。

または

▶ 希望の速度になるまでクルーズコントロールレバーを保持します。 速度を上げるにはクルーズコントロールレバーを上 ① に、速度を下げるには下 ② に操作します。

▶ **設定速度を 1 km/h 単位で調整する**：高い速度には上方へ ①、低い速度には下方へ ② 、クルーズコントロールレバーを圧力点まで軽く押します。

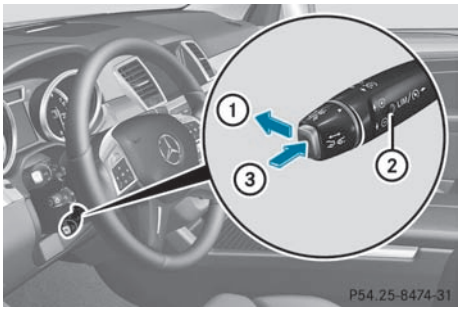
または

▶ 希望する速度になるまでクルーズコントロールレバーを保持します。 速度を上げるにはクルーズコントロールレバーを上 ① に、速度を下げるには下 ② に操作します。

可変スピードリミッターの解除

⚠ 警告

ブレーキペダルを踏んで可変スピードリミッターを解除することはできません。



可変スピードリミッターを解除するにはいくつかの方法があります。

▶ クルーズコントロールレバーを前方 ① に軽く押します。

または

▶ クルーズコントロールレバーを矢印の方向 ③ に軽く押します。

クルーズコントロールレバーのLIM表示灯②が消灯します。可変スピードリミッターは解除されます。

クルーズコントロールまたはディストロニックプラスが選択されます。

以下のときは可変スピードリミッターが自動的に解除されます。

- 現在の速度が保存した速度と約20 km/h以上異ならないときのみに、アクセルペダルを圧力点を越えて踏んだとき(キックダウン)。その場合は警告音が鳴ります。
- DSRを作動させたとき
- オフロードプログラム2を起動したとき(オン&オフロードパッケージ装備車)

ⓘ エンジンを停止すると、記憶されている前回の設定速度が消去されます。

スノータイヤスピードリミッター

マルチファンクションディスプレイを操作して、約160 km/h(例えばウィンタータイヤで走行するとき) から最高速度までの間の値に、常に速度を制限できます(▷ 269 ページ)。

設定速度に到達する少し前に、マルチファンクションディスプレイに速度が表示されます。

可変スピードリミッターを解除しても、スノータイヤスピードリミッターは作動したままになります。

アクセルペダルをいっぱいまで踏み込んでも（キックダウン)、設定された制限速度を超えることはできません。

ディストロニックプラス

重要な安全上の注意

⚠ 警告

滑りやすい路面では、シフトダウン操作による急激なエンジンブレーキを効かせないでください。 駆動輪がグリップを失い、車両がスリップするおそれがあります。

⚠ 警告

ディストロニックプラスは運転を補助するために設計されたものです。 運転者には、他の車両との距離、走行速度、適切なブレーキ操作に関するすべての責任があります。

ディストロニックプラスは特に以下のようなものには反応しません。

- 歩行者
- 駐停車している車両など、道路上の静止している障害物
- 対向車や横切る車両

ディストロニックプラスは、オートバイなど前方を走行している幅の狭い車両、または異なるラインを走行している車両を検知しないことがあります。ディストロニックプラスを作動させているときでも、交通状況には常に注意してください。適切に危険を認識することができず、事故の原因になったり、運転者や他の人がけがをするおそれがあります。

⚠ 警告

ディストロニックプラスは、走行速度により、最大4 m/s^2 の減速度でブレーキを効かせます。 これは車両の最大制動力の約40 % に相当します。 この制動力が不十分なときは、ブレーキの操作を行なってください。

ディストロニックプラスが先行車との衝突の危険性を検知すると、断続的な警告音が鳴ります。 さらに、メーターパネルの距離警告灯 [⚠] が点灯します。 衝突を避けるためにブレーキ操作を行なってください。

⚠ 警告

ディストロニックプラスが作動しているときは、車両にブレーキが効いています。そのため、車両を他の方法で動かす場合（例えば洗車機に入れる場合やけん引されるとき）にはディストロニックプラスを解除してください。

レーダーセンサーシステムは電波望遠鏡施設の近辺では自動的に停止します(▷ 418 ページ)。

ディストロニックプラスのアシスト機能を使用するには、レーダーセンサーシステムを起動し(▷ 270 ページ)、作動可能な状態にする必要があります。

全体的な注意事項

ディストロニックプラスは速度を制御し、検知された先行車との車間距離を自動的に維持するよう運転者を支援するシステムです。 ディストロニック・ラスは、設定された速度を超えないように自動的にブレーキを作動させます。

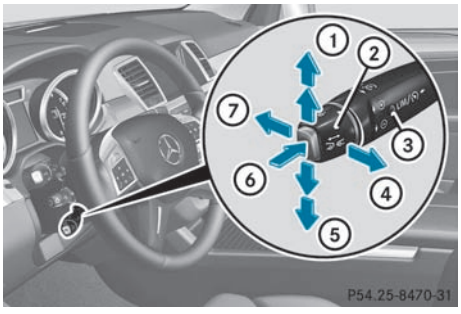
長い急な下り坂で、特に車両に荷物を積載しているときやトレーラーをけん引しているときは、適時シフトレンジを**1**、**2**、**3** にしてください。 そうすることにより、エンジンブレーキを効かせることができます。 その結果、ブレーキシステムへの負荷を軽減し、ブレーキが過熱して早く摩耗するのを防ぎます。

ディストロニックプラスが前方に速度の遅い車両を検知すると、事前に設定された先行車との距離を維持するため、車両にブレーキをかけて減速させます

先行車がいない場合、ディストロニックプラスは約30 km/h～200 km/hの速度範囲で、クルーズコントロールと同じように作動します。先行車がいる場合は、ディストロニックは約0 km/h～200 km/hの速度範囲で作動します。

急勾配の道路ではディストロニックプラスを使用しないでください。

クルーズコントロールレバー



① 速度を設定する/上げる
② 指定最小車間距離の設定
③ LIM表示灯
④ 現在の速度/前回の設定速度に設定する
⑤ 速度を設定する/下げる
⑥ ディストロニックプラスおよび可変スピードリミッターを切り替える
⑦ ディストロニックプラスの解除

クルーズコントロールレバーで、ディストロニックプラスおよび可変スピードリミッターを操作できます。

▶ **可変スピードリミッターおよびディストロニックプラスを切り替える**：ク

ルーズコントロールレバーを矢印の方向⑥に押します。

クルーズコントロールレバーのLIM表示灯③は現在選択されている機能を表示します。

- **LIM表示灯③が消灯**：ディストロニックプラスが選択されています。
- **LIM表示灯③が点灯**：可変スピードリミッターが選択されています。

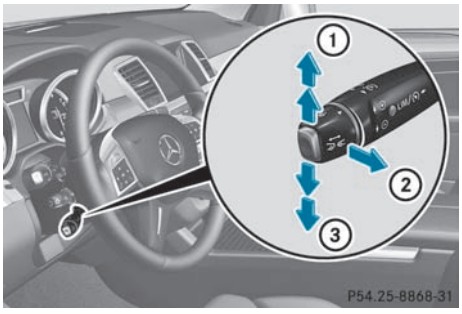
ディストロニックプラスの設定

作動条件

ディストロニックプラスを作動させるには、以下の条件を満たしている必要があります。

- エンジンがかかっている。ディストロニックプラスが作動可能になるまで約2分間走行する必要がある。
- パーキングブレーキを解除している。
- ESP®を使用しているが機能が介入していない。
- シフトポジションは**D**にしている。
- **P**から**D**にシフトするときに運転席ドアが閉じている、または運転者のシートベルトが装着されている。
- 助手席ドアおよびリアドアが閉じている。
- オフロードプログラム2が解除されている(オン&オフロードパッケージ装備車)。
- DSRは解除されている。
- 車両が横滑りしていない。
- ディストロニックプラスの機能が選択されている。(▷ 197 ページ)

走行中に作動させる



▶ クルーズコントロールレバーを軽く手前に引く② か、上①または下③ に操作します。
ディストロニックプラスが選択されます。

▶ 希望の速度になるまでクルーズコントロールレバーを上①にまたは下③ に繰り返し操作します。

▶ アクセルペダルから足を放してください。
設定速度を維持しながら、先行車の速度に応じて走行速度が自動的に調整されます。

先行車が検知されマルチファンクションディスプレイに表示された場合は、約30 km/h以下の速度で走行中でもディストロニックプラスを設定することができます。先行車が車線変更などにより検知されなくなり表示が消えると、ディストロニックプラスは解除されます。 の場合は警告音が鳴ります。

ⓘ アクセルペダルから完全に足を放していない場合は、マルチファンクションディスプレイにﾃﾞｨｽﾄﾛﾆｯｸﾌﾟﾗｽ 制御待機中というメッセージが表示されます。この場合、ゆっくり走行している先行車との設定車間距離は維持されなくなります。アクセルペダルの位置に応じた速度で走行します。

停止車両に向かって走行しているときの作動

- ▶ クルーズコントロールレバーを軽く手前に引く② か、上①または下③ に操作します。
  ディストロニックプラスが選択されます。
- ▶ 希望の速度になるまで、クルーズコントロールレバーを上①または下③に操作したまま保持します。

先行車が停止しているときは、自車も停車中の場合のみディストロニックプラスを作動させることができます。

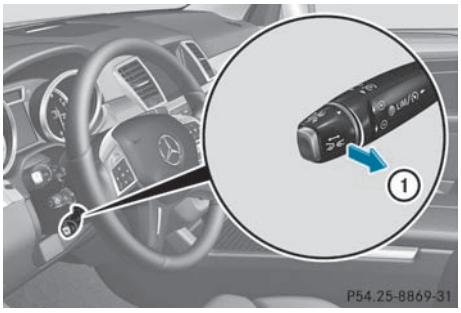
ⓘ 約30 km/h以下の速度では、先行車が検知されたときにのみディストロニックプラスを作動させることができます。そのためには、メーターパネルのディストロニックプラスの距離ディスプレイ表示を作動させる必要があります。(▷ 263 ページ)

ⓘ クルーズコントロールレバーを操作して希望の速度を設定したり、クルーズコントロールレバーのコントローラーを操作して指定最小車間距離を設定することができます。 (▷ 202 ページ)

現在または前回の速度に設定する

⚠ 警告

記憶されている速度への設定は、速度を記憶していて、現在の交通状況や走行状態に適しているときにのみ行なってください。不意に急加速や急減速し、事故を起こすおそれがあります。



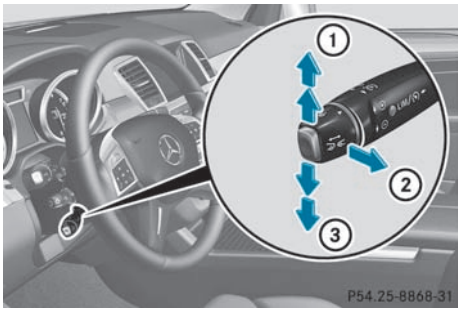
- ▶ クルーズコントロールレバーを手前①に軽く引きます。
- ▶ アクセルペダルから足を放してください。
  ディストロニック・プラスが作動します。 初めて作動させたときは、現在の速度に設定されます。 それ以外のときは、車両のクルーズ速度は前回の速度に設定されます。

ディストロニックプラス作動時の運転

発進および走行

⚠ 警告

ブレーキを踏んだとき、自車が停止していないときはディストロニックプラスは解除されます。この後は、ディストロニックプラスが車両にブレーキを効かせることはありません。そのような場合は、ブレーキのみで先行車との距離を調整してください。事故の原因になったり、運転者や他の人がけがをするおそれがあります。 運転者には、他の車両と車間距離、走行速度、適切なブレーキ操作に関するすべての責任があります。



▶ **先行車が発進した場合は、**ブレーキペダルから足を放します。
▶ クルーズコントロールレバーを軽く手前に引く② か、上①または下③ に操作します。

または

▶ 軽く加速します。
自車が発進して、速度を先行車の速度に合わせます。

先行車がいない場合は、ディストロニックプラスはクルーズコントロールと同じ方法で作動します。

先行車が減速したことをディストロニックプラスが検知すると、車両にブレーキを効かせます。このようにして選択された距離が維持されます。

より速く走行している先行車をディストロニックプラスが検知すると、走行速度が上がります。しかし、記憶した速度までのみ車両は加速します。

車線の変更

⚠ 警告

ディストロニックプラスとアクティブブラインドスポットアシストは運転を補助するためにのみ設計されたものです。

これらは、運転者の責任や注意を軽減させるものではありません。 運転者には、他の車両と車間距離、走行速度、適切なブレーキ操作に関するすべての責任があります。 常に交通状況や周囲に注意してください。 適切に危険を認識することができず、事故の原因になったり、運転者や他の人がけがをするおそれがあります。

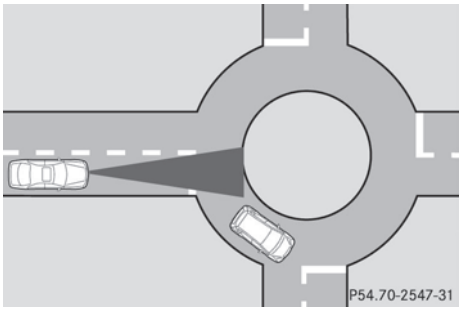
追い越し車線に移るときは、以下の条件でディストロニックプラスが運転者をサポートします。

- ディストロニックプラスが先行車との距離を維持しているとき
- 該当する方向指示灯を点滅させているとき
- ディストロニックプラスが衝突の危険を検知しないとき

これらの条件を満たした場合は、車両は加速します。車線変更に時間がかかりすぎたり、自車と先行車との距離が狭すぎるときは、加速は中断されます。

ⓘ 車線変更を行なうとき、ディストロニックプラスは左ハンドル車では左側の車線、右ハンドル車では右側の車線をモニターします

COMANDシステム装備車



例：ロータリー

ⓘ 以下の機能はすべての国で操作可能なわけではありません。

ディストロニックプラスは、特定の交通状況に適応できるようにナビゲーションシステムからの追加情報を利用します。車両に追従しているときに、ディストロニックプラスが作動していて、以下のような場合がこれにあたります。

- ロータリーに接近しているときや走行しているとき
- T字路に接近しているとき
- 高速道路の出口で分岐するとき

先行車が検知範囲から出てしまった場合でも、ディストロニックプラスは一時的にそのときの走行速度を維持し、加速はしません。これは、ナビゲーションシステムのそのときの地図データに基づいています。

以下のときは、そのときの速度が維持されます。

- ロータリー/T字路の前の約10秒、およびロータリー走行中の約1.5秒
- 高速道路出口に達する前の約12秒間、および高速道路出口の後約4秒間

その後、車両は指定した設定速度に戻るために加速します。

停止

⚠ 警告

ディストロニックプラスが作動しているときは車両から降りないでください。

ディストロニックプラスは同乗者によって、または車外から操作したり、作動または解除しないでください。

ディストロニックプラスは電気式パーキングブレーキの代わりになるものではありません。駐車するために使用しないでください。

以下のときには、ディストロニックプラスのブレーキ作用が中断し、車両が動き出すことがあります。

- クルーズコントロールレバーを使用してディストロニックプラスが解除されたとき
- 加速したとき
- システムに故障があるときやバッテリー故障などで電力供給が中断したとき
- エンジンルームの電気システムや、バッテリーまたはヒューズが改造されたとき
- バッテリーの接続を外したとき

車両から離れたり、駐車するときは、ディストロニックプラスを解除し、車両が動き出さないようにしてください。

先行車が停止したことをディストロニックプラスが検知すると、車両が停止するまでブレーキを効かせます。

一度車両が停止すると、停車したままになり、ブレーキを踏む必要はありません。

しばらくすると、パーキングブレーキによって車両が動かなくなり、サービスブレーキを軽減します。

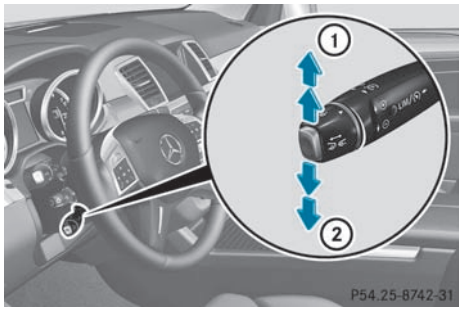
指定した最短距離によっては、自車は先行車後方の十分な距離があるところで停止することがあります。指定最短距離はクルーズコントロールレバーのコントローラーを使用して設定します。

ディストロニックプラスが作動していて以下のようなときにパーキングブレーキによって車両が動かなくなります。

- 運転席ドアを開いたときに運転席シートベルトが着用されていないとき
- ECOスタート/ストップ機能によりエンジンが自動的にオフになったのでない場合、エンジンがオフになっている
- システムに異常が発生したとき
- 電力供給が不十分なとき

急勾配の道路を走行しているときや異常が発生したときは、トランスミッションが自動的にPにシフトされることがあります。

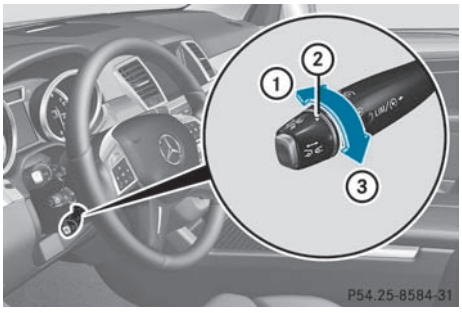
速度の設定



- 設定速度を上げるにはクルーズコントロールレバーを上①に、設定速度を下げるには下②に操作します。
- 希望の速度になるまでクルーズコントロールレバーを保持します。
- クルーズコントロールレバーから手を放します。
  新しい速度が設定されます。ディストロニックプラスが作動し、新しい設定速度に応じて車速を調整します。
- **設定速度を約1km/h単位で調整する：** クルーズコントロールレバーを上①または下②に軽く操作します。
  前回の設定速度が約1km/h単位で増減します。
- **設定速度を約10km/h単位で調整する：** クルーズコントロールレバーを上①または下②にいっぱいまで操作します。
  前回の設定速度が約10km/h単位で増減します。

ディストロニックプラスは、アクセルペダルを踏んでも解除されません。追い越すために一時的に加速したときは、追い越しが終了した後にディストロニックプラスは、前回の設定速度に車速を調整します。

指定の最小車間距離の設定

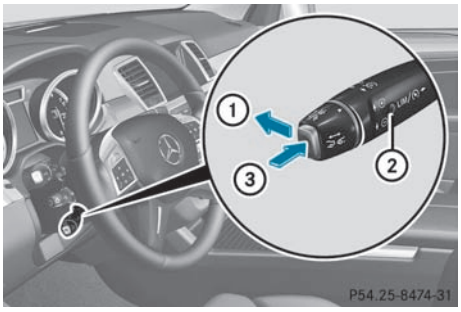


時間間隔を1秒 ～ 2秒の間で変えることにより、ディストロニック・プラスの指定最小車間距離を設定することができます。 この機能により、車両速度に応じてディストロニック・プラスが維持する先行車との最小車間距離を設定することができます。 マルチファンクションディスプレイでこの距離を確認することができます。 (▷ 204 ページ)

- **長くする：** コントローラー ② を ③ の方向にまわします。
  ディストロニック・プラスが維持する先行車との車間距離が長くなります。
- **短くする：** コントローラー ② を ① の方向にまわします。
  ディストロニック・プラスが維持する先行車との車間距離が短くなります。

先行車との安全車間距離が十分に確保されていることを確認してください。必要であれば、先行車との車間距離を調整してください。

ディストロニックプラスの解除



ディストロニック・プラスを解除するにはいくつかの方法があります。

▶ クルーズコントロールレバーを前方 ① に軽く押します。

または

▶ 停車中でない場合はブレーキを効かせます。

または

▶ クルーズコントロールレバーを矢印の方向 ③ に軽く押します。

可変スピードリミッターが選択されます。 クルーズコントロールレバーのLIM表示灯 ② が点灯します。

ディストロニック・プラスを解除すると、マルチファンクションディスプレイに約5秒間ディストロニックプラス オフというメッセージが表示されます。

ℹ エンジンを停止するまで、前回の設定速度に設定されます。

ℹ ディストロニック・プラスは、アクセルペダルを踏んでも解除されません。追い越すために一時的に加速したときは、追い越しが終了した後にディストロニックプラスは、前回の設定速度に調整します。

以下のときは、ディストロニックプラスが自動的に解除されます。

- パーキングブレーキを効かせたとき、または車両がパーキングブレーキで自動的に固定されたとき
- 約 25 km/h以下の速度で走行中で先行車がいないとき、または先行車が検知されなくなったとき
- ESP® が作動したときやESP®の 機能を解除したとき
- シフトポジションが **P**、**R**、**N** のいずれかのとき
- 車両が電波望遠鏡施設近辺にあるとき (▷ 418 ページ)
- レーダーセンサーシステムを停止したとき(▷ 270 ページ)
- 発進するためにクルーズコントロールレバーを手前に引き、助手席ドア、またはリアドアのどちらかが開いているとき
- DSRを作動させたとき
- 車両が横滑りしたとき

ディストロニックプラスが解除されると警告音が鳴ります。 マルチファンクションディスプレイにディストロニックプラス オフというメッセージが約5 秒間表示されます。

インストルメントクラスタの表示

スピードメーターの表示



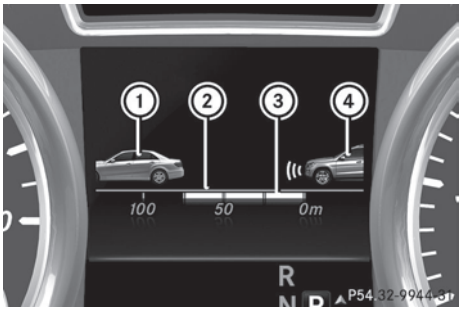
例：スピードメーターのディストロニックプラスのディスプレイ

ディストロニックプラスが作動しているとき、設定した速度範囲の1 個または2 個のセグメント②が点灯します。

ディストロニックプラスが先行車を検知すると、先行車の速度①と設定した速度③のあいだのセグメント②が点灯します。

ℹ 設計上の理由により、スピードメーターに表示された速度およびディストロニックプラスの設定速度には若干の誤差が生じることがあります。

ディストロニックプラス解除時のディスプレイ表示



ディストロニックプラス解除時の距離ディスプレイ表示

① 検知された先行車

② 距離インジケーター：先行車までの現在の距離

③ 先行車との指定最小車間距離(調整可能)

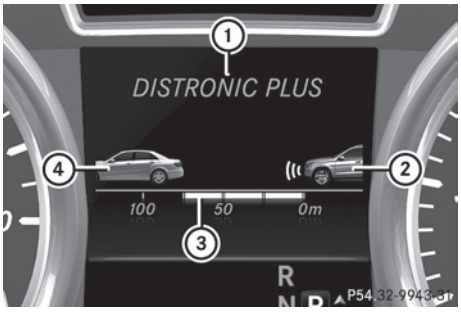
④ 自車

マルチファンクションディスプレイのアシスタンスメニュー (▷ 263 ページ) から、距離ディスプレイ表示を選択することができます。

▶ マルチファンクションディスプレイを操作して、車間ﾃﾞｨｽﾌﾟﾚｲ 機能を選択します。

マルチファンクションディスプレイのアシスタンスメニューで、PRE-SAFE®ブレーキを作動または解除することもできます (▷ 264 ページ)。

ディストロニックプラス作動時のディスプレイ表示



ディストロニックプラス作動時のマルチファンクションディスプレイの距離ディスプレイ表示

① ディストロニックプラス作動表示

② 自車

③ 先行車との指定最小車間距離(調整可能)

④ 検知された先行車

マルチファンクションディスプレイのアシスタンスメニュー (▷ 263 ページ) から、距離ディスプレイ表示を選択することができます。

▶ マルチファンクションディスプレイを操作して、車間ﾃﾞｨｽﾌﾟﾚｲ 機能を選択します。

ディストロニックプラスを作動させると、設定速度が約5秒間表示されます。

ディストロニックプラス使用時の運転のヒント

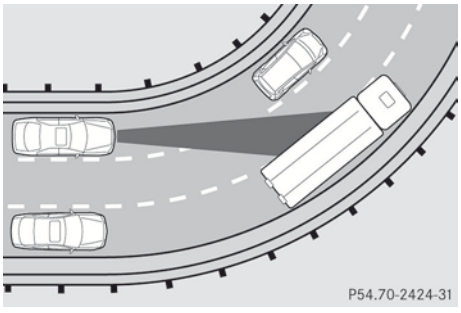
全体的な注意事項

以下の交通状況では特に注意して運転してください。

- カーブ走行時、カーブ進入/退出時
- 異なるラインを走行している車両
- 車線変更している他の車両
- 幅の狭い車両
- 障害物や停止車両
- 横切る車両

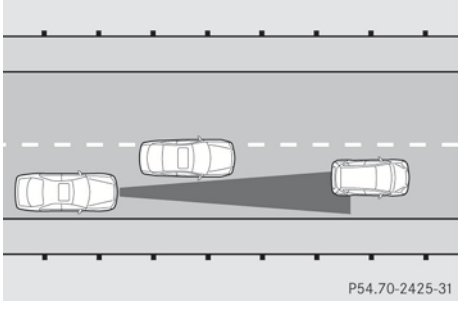
そのような状況では、必要に応じてブレーキを効かせてください。 ディストロニック・プラスが解除されます。

カーブ走行時、カーブ進入/退出時



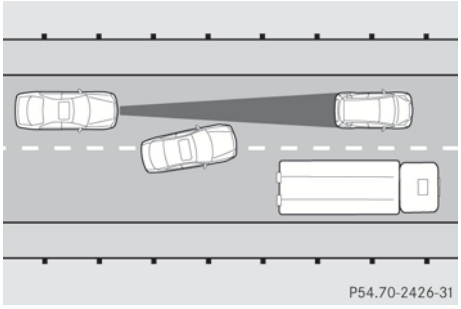
カーブではディストロニック・プラスの車両検知能力が制限されます。 車両に不意にブレーキがかかったり、ブレーキの作動が遅れることがあります。

異なるラインを走行している車両



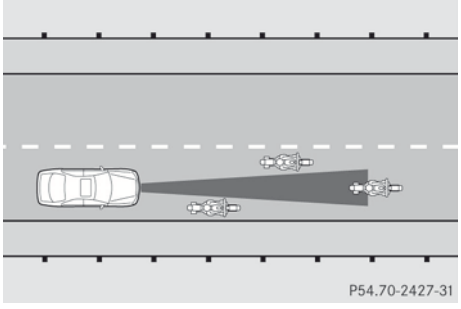
ディストロニック・プラスは異なるラインを走行している車両を検知しないことがあります。 先行車との距離は非常に短くなります。

車線変更している他の車両



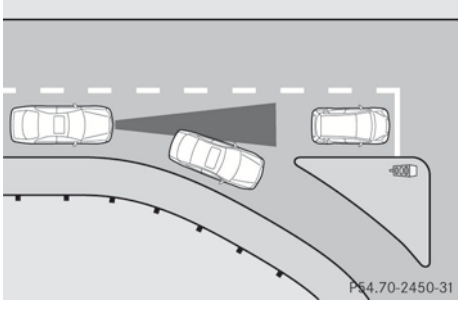
ディストロニック・プラスは割り込んでくる車両を検知しません。 この車両との距離は非常に短くなります。

幅の狭い車両



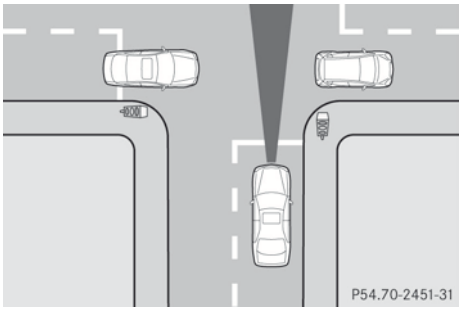
ディストロニック・プラスは道路端の幅の狭い車両を検知しないことがあります。 先行車との距離は非常に短くなります。

障害物や停止車両



ディストロニック・プラスは障害物や停止車両に対してブレーキを効かせないことがあります。 例えば、検知していた車両がカーブを曲がり、障害物や停止車両が現れたときは、ディストロニック・プラスはこれらに対してブレーキを効かせないことがあります。

横切る車両



ディストロニック・プラスは車線を横切る車両を誤って検知することがあります。 交差点の信号でディストロニック・プラスを作動させると、不意に車両が発進することがあります。

レベルコントロール(オン&オフロードパッケージ装備車)

重要な安全上の注意

⚠ 警告

車高レベルを変更するときは、ホイールハウスの近くや車の下に人がいないことを確認してください。 運転者や他の人に危険がおよぶおそれがあります。

⚠ 警告

常にできるだけ低い車高レベルを選択してください。 車高が高すぎると車両の重心が上方に移動します。 そのため車両が転倒する危険性があります。

車高に合わせて運転スタイルを調整してください。 スピードを出し過ぎるなど無謀な運転をすると、ESP® は事故の危険性を低減することはできません。 ESP® が適切に作動しても、走行安全性の確保には限界があります。

! 極めて険しい地形を走行するときは、適切なタイミングで車高レベルを上げてしてください。 十分な地上高が確保されているか確認してください。 そうでないと車体を損傷するおそれがあります。

レベルコントロールは、走行状態や路面状況に応じて車高を自動的に調整します。これにより、燃料消費率と走行安定性の向上を図ります。

車高調整は走行中に行なってください。これにより、選択した車高レベルに素早く変更することができます。

駐車中に外気温度が変化すると、車高レベルが変化したように見えることがあります。気温が下がると車高が下がり、気温が上がるにつれて車高も上がります。

車両を解錠するかドアを開くと、駐車している間に車両が荷重の不均衡を補正し始めます。ただし、長期間駐車した後などに大幅な車高調整を行なうには、エンジンをかける必要があります。安全のため、ドアが閉じているときのみ車高を下げることができます。 ドアが開くと、車高の下がる動作が中断されます。ドアを閉じると、車高調整が継続されます。

オフロード走行に関する情報は、(▷ 184 ページ) をご覧ください。

基本設定

車高調整レベルは、選択された基本設定によって異なります。

以下のいずれかを選択してください。

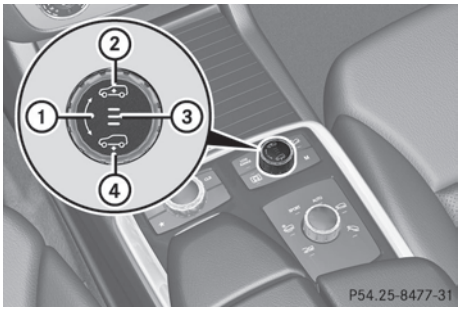
- ハイウェイ/高速レベル：通常の道路を走行するとき
- オフロードレベル 1：コントロールが容易なオフロードの状況で走行するとき
- オフロードレベル 2：通常のオフロードの状況で走行するとき
- オフロードレベル 3：極めて過酷なオフロードの状況から低速で脱出するとき

個々の車高レベルは、ハイウェイレベルと次のように異なります。

- ハイウェイレベル：約+/– 0 mm
- 高速レベル：約– 15 mm
- オフロードレベル 1：ハイウェイレベルより約30 mm高く
- オフロードレベル 2：ハイウェイレベルより約60 mm高く
- オフロードレベル 3：ハイウェイレベルより約90 mm高く

ハイウェイ/高速レベル

! 車高を下げるときは、十分な地上高が確保されていることを確認してください。 そうでないと、車体が地面に当たりアンダーボディを損傷するおそれがあります。



① 選択ダイヤル
② 車高アップ
③ 表示灯
④ 車高ダウン

▶ エンジンを始動してください。
▶ **選択ダイヤル①が押し込まれているとき：**選択ダイヤル①を軽く押します。
選択ダイヤル①が持ち上がります。

表示灯③が1つ以上点灯しているとき：

▶ 選択ダイヤル①を時計回り④にまわし、点灯しているすべての表示灯③を点滅させます。
車高がハイウェイレベルに下がります。2番目に低い車高レベルになると、表示灯の点滅が終わり消灯します。



調整中は、例えばマルチファンクションディスプレイに下降中というメッセージが表示されます。
マルチファンクションステアリングの⮌または OK スイッチを押すと、メッセージが消えます。ハイウェイレベルに達すると、すべての表示灯③が消えます。
約115 km/h以上の速度で走行するか、または約100 km/h～115 km/hの間の速度で約20 秒間走行した場合は、車両は自動的にハイウェイレベルを選択します。より高い速度で走行した場合は、車高はハイウェイレベルに下がります。

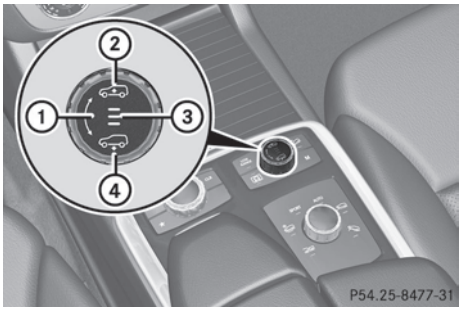
オフロードレベル

全体的な注意事項

⚠ 警告

オフロードレベル 3 は、公道での使用が認められていません。 オフロードレベル 3 では車両の重心が非常に高くなります。 そのため車両が転倒する危険性があります。

- 特に険しい地形でオフロード走行するときに限りオフロードレベル 3 を選択してください。
- 車両操縦性の変化に合わせて運転スタイルを調整してください。
- 約 20 km/hを超えないように走行してください。
- 急ハンドルを避けてください。
- ハンドリング特性の変化に注意してください。



オフロードレベルは必ず路面状況に合わせて選択してください。 そうしないと、燃料消費量が増加し車両操縦性が損なわれるおそれがあります。

▶ エンジンを始動してください。
▶ **選択ダイヤル①が押し込まれているとき：**選択ダイヤル①を軽く押します。
選択ダイヤル①が持ち上がります。

▶ **上げる**：選択ダイヤル①を時計回り②にまわします。
車高が上がります。

または

▶ **下げる**：選択ダイヤル①を反時計回り④にまわします。
車高が下がります。

希望のオフロードレベルを示す表示灯③が点滅します。

- オフロードレベル 1：下側の表示灯が点滅します。
- オフロードレベル 2：下側と中央の表示灯が点滅します。
- オフロードレベル 3：3つの表示灯がすべて点滅します。

選択されたオフロードレベルに車高が調整されます。設定したオフロードレベルに達すると、該当する表示灯が点滅を止め常時点灯します。

車高を上げる

調整中は、マルチファンクションディスプレイに車高があがりますというメッセージが表示されます。

車高がハイウェイレベルからオフロードレベル 1に上がります。

マルチファンクションステアリングホイールの⮌または OK スイッチを押すと、メッセージが消えます。

ⓘ オフロードレベル 2までは、マルチファンクションステアリングホイールの⮌または OK スイッチを押すとメッセージを非表示にすることができます。

オフロードレベル2に達すると、選択ダイヤルの下および中央の表示灯が点灯します。



オフロードレベル 2からオフロードレベル 3に調整が行なわれている間、マルチファンクションディスプレイに次のようなメッセージが表示されます。 車高があがります 最高速度 20 km/h

最高速度 20 km/h というメッセージにより、オフロードレベル 3に許容された最高速度に注意を促します。

オフロードレベル 3に達すると、例えば最高速度 20 km/hのようなメッセージがマルチファンクションディスプレイに白で表示されます。

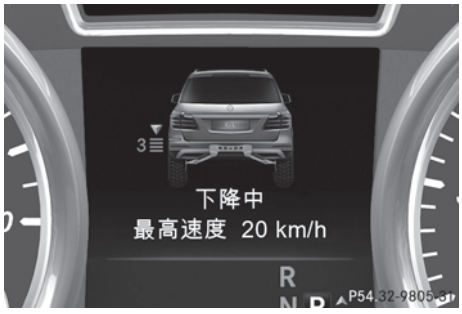
オフロードレベル 3で約20 km/h以上で走行した場合は、下降中 最高速度 20 km/hのようなメッセージがマルチファンクションディスプレイに赤で表示されます。

ⓘ これらのメッセージは消去できません。

警告音も鳴ります。 車高が下がり、オフロードレベル 3が解除されます。

さらに速度を上げると、マルチファンクションディスプレイに赤色のメッセージが表示され続けます。現在の速度に適した車高レベルに設定するまで、新たに設定されたレベルは表示されません。

車高を下げる



速度を維持するか、または下げると、車両が下がっている間にディスプレイに以下のようなメッセージが白で表示されます。下降中 最高速度 20 km/h

車高がオフロードレベル 2に下がります。

非常に高い速度で走行しているときにオフロードレベルを選択した場合は、マルチファンクションディスプレイに速度を落として運転というメッセージが表示されます。

以下のレベルを選択できます。

- 約100 km/h以下の速度ではオフロードレベル 1
- 約65 km/h以下の速度ではオフロードレベル 2
- 約20 km/h以下の速度ではオフロードレベル 3

約80 km/h以上で走行するか、または約65 km/h～80 km/hの間の速度で約20秒以上走行した場合は、オフロードレベル 2は解除されます。 車高がオフロードレベル 1に下がります。

マルチファンクションディスプレイに例えば下降中というメッセージが表示されます。

約115 km/h以上で走行するか、または約100 km/h～115 km/hの間の速度で約20 秒以上走行した場合は、オフロードレベル 1は解除されます。車両の速度および選択されたADSモード(▷ 212 ページ)に応じて、車両は自動的にハイウェイまたは高速レベルに下がります。

マルチファンクションディスプレイに例えば下降中というメッセージが表示されます。

ホールド機能

全体的な注意事項

ホールド機能は以下の状況で運転者を支援します。

- 急な坂道などで発進するとき
- 急な坂道でステアリング操作を行なうとき
- 信号待ちをしているとき

ブレーキペダルを踏み続けなくても、停車した状態を維持することができます。

発進のためにアクセルペダルを踏むと、ブレーキ効果が解消しホールド機能が解除されます。

ⓘ オフロード走行時や急勾配の道路、滑りやすい路面などグリップが低い状況では、ホールド機能を使用しないでください。 このような路面では、HOLD機能で停車した状態を維持できません。

作動条件

ホールド機能は、以下のときに作動させることができます。

- 停車しているとき
- エンジンがかかっているとき、またはECOスタート/ストップ機能でエンジンを自動停止しているとき
- 運転席ドアを閉じているとき、または運転者がシートベルトを着用しているとき
- パーキングブレーキが解除されているとき

- シフトポジションが D、R、N のいずれかのとき
- ディストロニック・プラスが解除されているとき

ホールド機能を作動させる

⚠ 警告

ホールド機能が作動しているときは車両にブレーキが効いています。そのため、車両が他の方法で動かされている場合（例えば洗車機に入れる場合やけん引されるとき）にはホールド機能を解除してください。

▶ 作動条件が満たされていることを確認します。
▶ ブレーキペダルを踏んでください。
▶ マルチファンクションディスプレイに HOLD が表示されるまでブレーキペダルを素早く深く踏み込みます。
ホールド機能が作動します。 ブレーキペダルから足を放すことができます。

ⓘ ブレーキペダルを踏んでもホールド機能が作動しない場合は、少し待った後で再度ブレーキペダルを素早く踏み込みます。

ホールド機能を解除する

⚠ 警告

ホールド機能が作動しているときは車両から降りないでください。

ホールド機能は同乗者によって、または車外から操作したり解除したりしないでください。

ホールド機能は電気式パーキングブレーキの代わりになるものではありません。駐車するために使用しないでください。

以下のときには、ホールド機能のブレーキ作用が中断して、車両が動き出します。

- アクセルペダルまたはブレーキペダルを踏んでホールド機能を解除したとき
- システムに故障があるときやバッテリー故障などで電力供給が中断したとき
- エンジンルームの電気システムや、バッテリーまたはヒューズが改造されたとき
- バッテリーの接続を外したとき

車両から離れたり、駐車するときは、ホールド機能を解除し、車両が動き出さないようにしてください。

ホールド機能は以下のときに自動的に解除されます。

- シフトポジションが D または R のときにアクセルペダルを踏んだとき
- シフトポジションを P にしたとき
- マルチファンクションディスプレイの HOLD が消えるまでブレーキペダルを再度深く踏んだとき
- パーキングブレーキを効かせて確実に停車したとき
- ディストロニック・プラスを作動させたとき

ⓘ しばらくするとパーキングブレーキにより車両が固定され、サービスブレーキは低減されます。

ホールド機能が作動した状態で以下の状況になると、パーキングブレーキが自動的に車両を固定します。

- 運転席ドアが開き運転席シートベルトを着用していないとき
- ECOスタート/ストップ機能による自動停止でなく、エンジンが停止したとき
- システムに異常が発生したとき
- 電力供給が不十分なとき

急勾配の道路を走行しているときや異常が発生したときは、トランスミッションが自動的に P にシフトされることがあります。

AIRマティックサスペンションパッケージ

全体的な注意事項

AIRマティックサスペンションは、走行状況に合わせてサスペンション特性を切り替えたり、車高や減衰力を調整できるシステムです。 このシステムは2 つ以上の機構で構成されています。 それらは、ADS(アダプティブ・ダンピング・システム)(▷ 212 ページ) とレベルコントロール (▷ 213 ページ) です。 さらに、車両にはアクティブカーブシステム (▷ 212 ページ) が装備されている場合もあります。

ADS(アダプティブ・ダンピング・システム)

全体的な注意事項

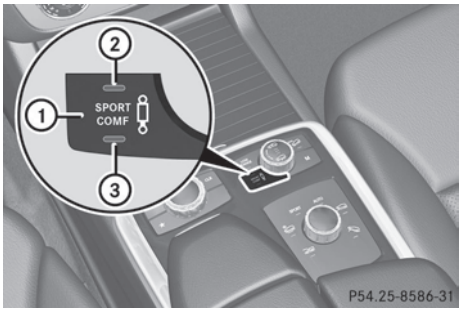
ADSは、走行状態や路面状況に応じて減衰特性を調整するシステムです。

以下の要素に応じて調整が行なわれます。

- 運転者の走行スタイル
- 路面状況
- ADSの設定
- 車高レベルの設定

選択内容は、エンジンスイッチからキーを抜いても保持されたままになります。

スポーツモード



例：オン&オフロードパッケージ装備車

▶ エンジンを始動してください。

▶ スイッチ ① を押します。

表示灯 ② が点灯します。 "スポーツモード"が選択されます。 車両が約 15 mm低くなります。

スポーツモードではサスペンション制御がより固くなり、路面追従性が向上します。 例えば曲がりくねった道などを走行するときにはこのモードを選択してください。

コンフォートモード

▶ スイッチ ① を押します。

表示灯 ③ が点灯します。 "コンフォートモード"が選択されます。 車両が約 15 mm高くなります。

コンフォートモードでは、車両の走行特性がより快適になります。 快適な乗り心地を重視するときは、このモードを選択してください。 高速道路や直線の多い道路で高速走行するときも、コンフォートモードを選択してください。

アクティブカーブシステム

アクティブカーブシステムは、可変スタビライザーにより走行快適性と車両の俊敏性の両方を最適化します。 選択されているADSモード (▷ 212 ページ) に応じ

て、アクティブカーブシステムも設定を変化させます。

ADSコンフォートモードを選択すると、以下の制御が行なわれます。

- 起伏のある路面で車体のローリング(横揺れ)を低減します。
- コーナリング時のロール角を低減します。
- 車両の俊敏性を確保します。

ADSスポーツモードを選択すると、以下の制御が行なわれます。

- ロール角を大幅に低減します。
- 車両の俊敏性がさらに向上します。

レベルコントロール

重要な安全上の注意

⚠ 警告

車高レベルを変更するときは、ホイールハウスの近くや車の下に人がいないことを確認してください。 運転者や他の人に危険がおよぶおそれがあります。

⚠ 警告

常にできるだけ低い車高レベルを選択してください。 車高が高すぎると車両の重心が上方に移動します。 そのため車両が転倒する危険性があります。

車高に合わせて運転スタイルを調整してください。 スピードを出し過ぎるなど無謀な運転をすると、ESP® は事故の危険性を低減することはできません。 ESP® が適切に作動しても、走行安全性の確保には限界があります。

! 極めて険しい地形を走行するときは、適切なタイミングで車高レベルを上げてしてください。 十分な地上高が確保されているか確認してください。 そうでないと車体を損傷するおそれがあります。

全体的な注意事項

"オフロード走行"に関するさらなる情報は、(▷ 184 ページ) をご覧ください。

レベルコントロールは、走行状態や路面状況に応じて車高を自動的に調整します。 これにより、燃料消費率と走行安定性の向上を図ります。

ADSコンフォートモード (▷ 212 ページ) を選択すると、走行速度が増すにつれて車高が高速レベルまで下がります。 減速するにつれて車高がハイウェイレベルまで再び上がります。

ADSスポーツモード (▷ 212 ページ) を選択すると、基本設定に応じて車高はハイウェイレベルを飛ばして直接高速レベルまで下がります。 (▷ 213 ページ)

車高調整は走行中に行なってください。 これにより、選択した車高レベルに素早く変更することができます。

駐車中に外気温度が変化すると、車高レベルが変化したように見えることがあります。 気温が下がると車高が下がり、気温が上がるにつれて車高も上がります。

車両を解錠するかドアを開くと、駐車している間に車両が荷重の不均衡を補正し始めます。 ただし、長期間駐車した後などに大幅な車高調整を行なうには、エンジンをかける必要があります。 安全のため、ドアが閉じているときのみ車高を下げることができます。 ドアが開くと、車高の下がる動作が中断されます。ドアを閉じると、車高調整が継続されます。

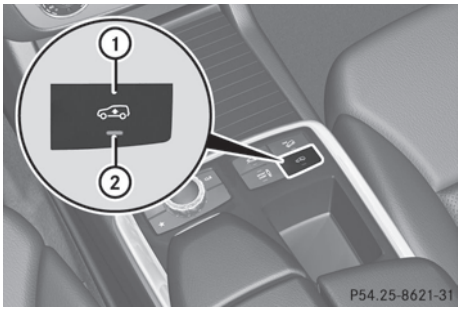
基本設定

車高調整レベルは、選択された基本設定によって異なります。 オフロード走行時は上昇レベル、通常の道路ではハイウェイレベルまたは高速レベルを選択してください。

個々の車高レベルは、ハイウェイレベルと次のように異なります。

- ハイウェイレベル：約 +/- 0 mm
- 高速レベル：約 -15 mm
- 上昇レベル：約 +60 mm

上昇レベル



例：ON&OFFROADパッケージ非装備車

上昇レベルは、路面状況に合っているときのみ選択してください。 そうしないと、燃料消費量が増加し車両操縦性が損なわれるおそれがあります。

▶ エンジンを始動してください。

表示灯 ② が点灯しないとき

▶ スイッチ ① を押します。
表示灯 ② が点滅します。 車高が上昇レベルまで上がります。



調整中は、マルチファンクションディスプレイに車高があがりますというメッセージが表示されます。

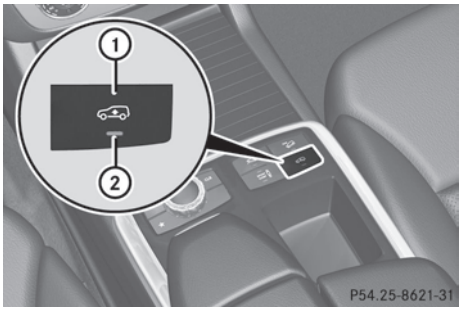
マルチファンクションステアリングの ⮌ または OK スイッチを押すと、メッセージが消えます。

車高が上昇レベルに達すると、表示灯 ② が点灯したままになります。車高が あがりますというメッセージがマルチファンクションディスプレイから消えます。

約65 km/h以上の速度で上昇レベルを選択しようすると、速度を落として運転というメッセージが表示されます。

ハイウェイ/高速レベル

❗ 車高を下げるときは、十分な地上高が確保されていることを確認してください。 そうでないと、車体が地面に当たりアンダーボディを損傷するおそれがあります。



例：オン&オフロードパッケージ非装備車
① レベルコントロールスイッチ
② レベルコントロール表示灯

▶ エンジンを始動してください。

表示灯 ② が点灯するとき

▶ スイッチ ① を押します。
表示灯 ② が点滅します。 ハイウェイ/高速レベルに車高調整中です。



調整中は、例えばマルチファンクションディスプレイに ｶｺｳﾁｭｳ というメッセージが表示されます。

マルチファンクションステアリングホイールの[⮌] または [OK] スイッチを押すと、メッセージが消えます。

ハイウェイレベルに達すると、表示灯 ② が消えます。 マルチファンクションディスプレイから ｶｺｳﾁｭｳ というメッセージが消えます。

以下のとき、車両は自動的にハイウェイレベルに調整します。

- 約80 km/h より速く走行した、または
- 約65 km/h ～ 80 km/h の速度で約 20 秒間走行した

選択されているADSモード (▷ 212 ページ) に応じて、高速時には車両が高速レベルに下がります。

AMG RIDE CONTROLスポーツサスペンション

サスペンションの制御

全体的な注意事項

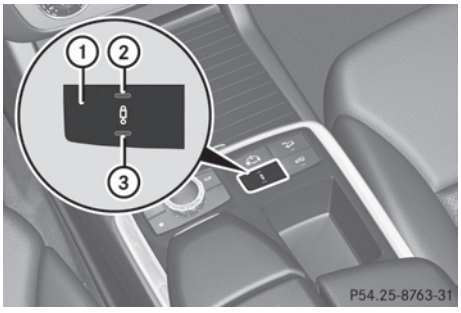
電子制御サスペンションシステムは常時作動しています。 このシステムは走行時の安全性と乗り心地の向上を図ります。

以下の状況に応じて減衰力は車輪ごとに個別に調整されます。

- 運転者の走行スタイル（スポーティな走行など）
- 路面の凸凹など状況
- スポーツモード、スポーツモード+またはコンフォートモードの設定

スポーツモードまたはスポーツモード+を選択しても、次にエンジンを始動したときはコンフォートモードに戻ります。

スポーツモード



スポーツモードではサスペンション制御が固くなり、路面追従性が向上します。 カーブの多い道路などでスポーツ走行をするときは、このモードを選択してください。

▶ スイッチ ① を1回押します。

表示灯 ② が点灯します。 これでスポーツモードが選択されます。

マルチファンクションディスプレイに AMG Ride Control SPORT というメッセージが表示されます。

スポーツ+モード

スポーツモード+では、サスペンション制御がより固くなり、最適な路面追従性を確保します。 サーキット場で走行するときにのみこのモードを選択します。

表示灯 ③ と ② が消灯しているとき：

▶ スイッチ ① を2回押します。
表示灯 ③ と ② が点灯します。 これでスポーツ+モードが選択されます。
マルチファンクションディスプレイにAMG Ride Control SPORT +というメッセージが表示されます。

表示灯 ② が点灯しているとき

▶ スイッチ ① を1回押します。
2番目の表示灯 ③ が点灯します。 これでスポーツ+モードが選択されます。
マルチファンクションディスプレイにAMG Ride Control SPORT +というメッセージが表示されます。

コンフォートモード

コンフォートモードでは、車両の走行特性がより快適になります。 快適な乗り心地を重視するときは、このモードを選択してください。 高速道路や直線の多い道路で高速走行するときも、コンフォートモードを選択してください。

▶ 表示灯 ③ と ② が消えるまでスイッチ① を繰り返し押します。
これでコンフォートモードが選択されます。
マルチファンクションディスプレイにAMG Ride Control COMFORTというメッセージが表示されます。

パークトロニック

重要な安全上の注意

⚠ 警告
パークトロニックは補助のみを行なうものであり、すべての障害物を検知するわけではありません。注意を払った運転の代わりになるものではありません。

安全に対する責任は常に運転者にあり、駐車や移動を行なうときは近辺への注意を払い続けてください。 運転者や他の人がけがをするおそれがあります。

⚠ 警告
周囲に人や動物がいないことを確認してください。 確認を怠ると、人や動物が負傷するおそれがあります。

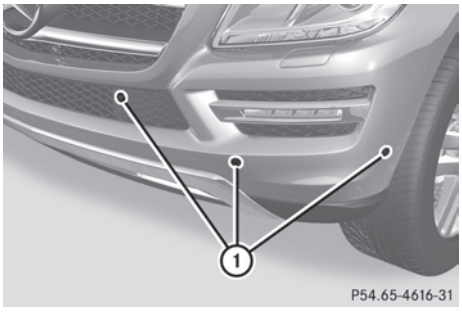
パークトロニックは超音波センサーを利用した電子駐車支援システムです。 システムは車両と障害物との距離を視覚的、聴覚的に示します。

パークトロニックは以下のときに自動的に作動します。

- エンジンスイッチをオンにしたとき
- シフトポジションがD、R、Nのいずれかのとき
- パーキングブレーキを解除したとき

パークトロニックは速度が約 18 km/h 以上になると解除されます。 速度を下げると再び作動します。

パークトロニックはフロントバンパーの6個のセンサーとリアバンパーの4個のセンサーを使用して、車両周辺のエリアをモニターします。



① 例：左側フロントバンパーのセンサー

センサーの感知範囲

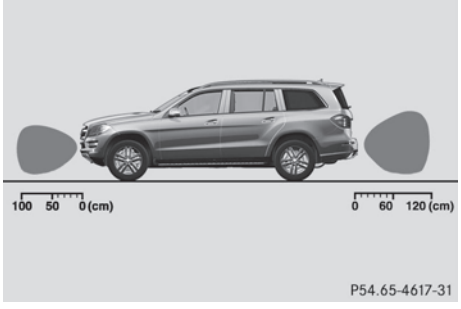
全体的な注意事項

駐車するときは、鉢植えやトレーラーけん引部などセンサーの上下にあるものに十分注意をしてください。パークトロニックはこれらが車両の至近距離にあるときは感知できません。車両や物を損傷するおそれがあります。

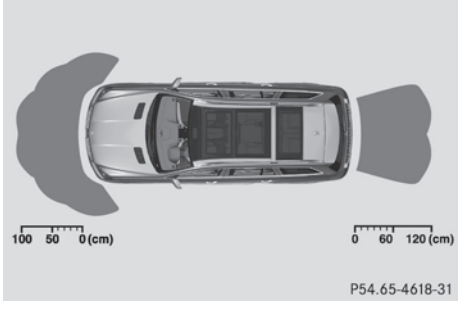
センサーは雪やその他の超音波を吸収しやすいものを感知しないことがあります。

自動洗車機やトラックの圧縮空気ブレーキ、空気ドリルなどが発生する超音波によりパークトロニックが機能しないことがあります。

不整地などではパークトロニックが正しく作動しないことがあります。



側面図



上面図

センサーに汚れ、氷、泥などが付着していない状態にしてください。 付着物があると、正しく機能しなくなることがあります。 センサーに損傷を与えないように注意して、定期的に清掃してください。 (▷ 360 ページ)

フロントセンサー

センター部	約100 cm
コーナー部	約60 cm

リアセンサー

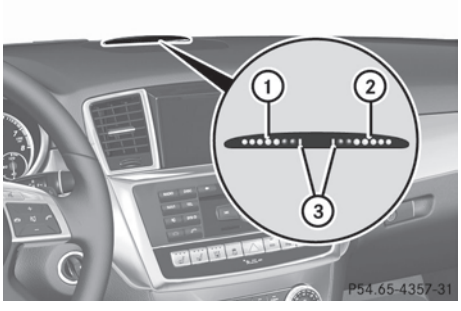
センター部	約120 cm
コーナー部	約80 cm

最短距離

センター部	約20 cm
コーナー部	約15 cm

この範囲内に障害物があるときは、対応する警告表示が点灯して警告音が鳴ります。 最短感知距離以内に入ると、障害物との距離が表示されなくなることがあります。

警告灯



フロントの警告灯

① 左側インジケーター

② 右側インジケーター

③ 作動表示灯

警告灯はセンサーと障害物との距離を示します。 フロントの警告灯は中央送風口上部のダッシュボードにあります。 リア

の警告灯は、後席のルームランプに装備されています。

車両の左右の警告灯は、黄色インジケーター5 個と赤色インジケーター2 個で構成されています。 作動準備ができていることを示す黄色インジケーター ③ が点灯すると、パークトロニックは作動可能です。

選択されたシフトポジションと車両の進行方向によって、エンジンがかかっているときに作動する警告灯が決まります。

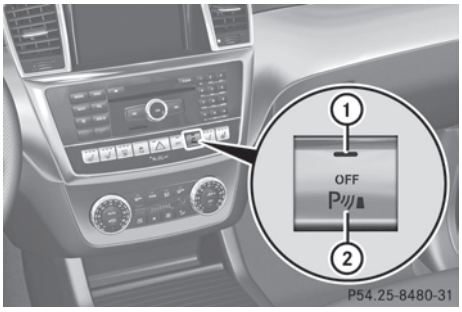
シフトポジション	警告灯
D	フロントが作動します。
R、N のとき、または車両が後退しているとき	リアとフロントが作動します。
P	いずれも作動しません。

車両が障害物に近付くにつれ、障害物との距離に応じて1個以上のインジケーターが点灯します。

障害物との距離が近くなったとき

- 6 個目のインジケーターが点灯すると、警告音が断続的に約2 秒間鳴ります。
- 7 個目のインジケーターが点灯すると、警告音が約2 秒間鳴ります。 最短感知距離まで接近していることを示します。

パークトロニックの作動および解除



① 表示灯

② パークトロニックの作動および解除

表示灯 ① が点灯しているときは、パークトロニックは解除されています。 アクティブパークアシストも解除されます。

エンジンスイッチのキーを2の位置にするとパークトロニックは自動的に作動します。

パークトロニックの不具合

トラブル	考えられる原因および影響 ▶ 解決方法
パークトロニックの赤色のインジケーターだけが点灯している。警告音も約2秒間鳴った。 パークトロニックが約5 秒後に解除され、パークトロニックスイッチの表示灯が点灯する。	パークトロニックが故障のため停止している。 ▶ 不具合が続く場合は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場でパークトロニックの点検を受けてください。
パークトロニックの赤色のインジケーターだけが点灯し、約5 秒後にパークトロニックが解除された。	パークトロニックセンサーが汚れているか、付着物がある。 ▶ パークトロニックセンサーを掃除してください(▷ 360 ページ)。 ▶ エンジンスイッチを2の位置にしてください。
	外部の電波や超音波の干渉などが原因で、機能が解除されている。 ▶ 場所を変えてパークトロニックの作動を確認してください。

360° カメラ(サラウンドビュー)

重要な安全上の注意

⚠ 警告

周囲に人や動物がいないことを確認してください。 確認を怠ると、人や動物が負傷するおそれがあります。

360° カメラはあくまでも運転を補助するための装置であり、状況によっては障害物の歪んだ映像を映し出したり、障害物が正確に映し出されなかったり、まったく映らないことがあります。 360° カメラは、運転者の代わりに周囲の安全を確認することはできません。 以下のエリアにある障害物は、カメラで映し出すことができません。

- フロントバンパーの下
- フロントバンパーの近接部
- リアバンパーのすぐ近く
- リアバンパーの下部
- トランクハンドルのすぐ上のエリア
- ドアミラーの近接部

安全に対する責任は常に運転者にあり、駐車するときや移動するときには常に周囲に注意しなければなりません。 車両の後方や前方、両側などがこれにあてはまります。 運転者や他の人がけがをするおそれがあります。

パーキングアシストリアビューカメラは、以下のときはまったく機能しなくなるか、機能が制限されます。

- ドアが開いているとき
- ドアミラーが格納されているとき
- トランクが開いているとき
- 激しい雨、雪または霧のとき
- 夜や非常に暗い場所のとき
- カメラに強い光が直接当たったとき
- エリアが蛍光灯の光、またはLEDの光で照らされているとき (ディスプレイがちらつくことがあります)
- 冬に暖められた車庫から出て、温度の急激な変化につながった場合
- カメラのレンズに汚れや付着物があるとき
- カメラ設置部の車両部品が損傷したとき このようなときは、メルセデス・ベンツ指定サービス工場でカメラの位置や設定を点検してください。

このような場合は、360°カメラを使用しないでください。 さもないと、他の人がけがをしたり、物または車両の損傷の原因になるおそれがあります。

全体的な注意事項

360°カメラは4つのカメラで構成されるシステムです。

システムは以下のカメラからの映像を判断します。

- パーキングアシストリアビューカメラ
- フロントカメラ
- ドアミラーの2つのカメラ

カメラは車両周辺の状況を映し出します。 システムは、駐車時や出口などで視界が限られているときに運転者を支援します。

360°カメラの映像は、COMANDディスプレイに全画面表示モードまたは6 種類の分割画面表示で表示することができます。 分割画面表示には車両の上面表示も含まれます。 この表示は、車載カメラにより提供されたデータから生成されます(バーチャルカメラ)。

6 種類の分割画面表示は以下のとおりです。

- 上面表示とパーキングアシストリアビューカメラの映像(130°の表示角度)
- 上面表示とフロントカメラの映像(最大ステアリング角度は非表示)
- 上面表示と拡大リア表示
- 上面表示と拡大フロント表示
- 上面表示と後面ミラーカメラの映像(後輪表示)
- 上面表示と前面ミラーカメラの映像(前輪表示)

機能が作動していて、トランスミッションを**D** または **R** の位置から **N** にシフトしたときは、COMANDディスプレイに以前の画面が表示されます。 動的なガイドラインは非表示になります。

シフトポジションを **D** または **R** に切り替えると、直前に選択されたフロントビューまたはリアビューが表示されます。

作動条件

360°カメラの映像は、以下のときに表示できます。

- 360°カメラが装備されているとき
- COMANDシステムがオンのとき。別冊のCOMANDシステム取扱説明書をご覧ください。
- 360° カメラ の機能が作動しているとき

SYSスイッチで360°カメラを作動させる

▶ SYS スイッチを約2 秒以上押し続けます。別冊のCOMANDシステム取扱説明書をご覧ください。
Dまたは Rのシフトポジションによって、以下の画面が表示されます。
- フロントカメラ映像の全画面表示
- リアカメラ映像の全画面表示

COMANDシステムで360°カメラを作動させる

▶ SYS スイッチを押します。別冊のCOMANDシステム取扱説明書をご覧ください。
▶ COMANDコントローラーをまわして 〖◎〗、システムを選択し、押して 確定します。
▶ 360° カメラを選択し、 を押して確定します。
Dまたは Rのシフトポジションによって、以下の画面が表示されます。
- 上面表示とフロントカメラ映像を含む分割画面、または
- 上面表示とパーキングアシストリアビューカメラの映像を含む分割画面

COMANDコントローラーの詳細については、別冊のCOMANDシステム取扱説明書をご読みください。

リバースギアに入れて360°カメラを作動させる

リバースギアに入れると、自動的に360°カメラの映像が映し出されます。

▶ エンジンスイッチのキーが2の位置にあることを確認します。
▶ COMANDシステムでリバース連動設定が作動していることを確認します。
別冊のCOMANDシステム取扱説明書をご覧ください。
▶ **360°カメラの映像を表示する：** リバースギアに入れます。
COMANDディスプレイは、分割画面に以下の車両後方のエリアを示します。
- ガイドラインのある車両
- 車両の上面表示

分割画面または全画面表示モードを選択する

▶ **分割画面表示を切り替える：** COMANDコントローラーをスライドして ↑◎、車両アイコン付きラインに切り替えます。
▶ COMANDコントローラーをまわして 〖◎〗、車両アイコンのいずれかを選択します。
▶ **全画面モードに切り替える：** COMANDコントローラーをまわして 〖◎〗全画面表示を選択し、押して 確定します。

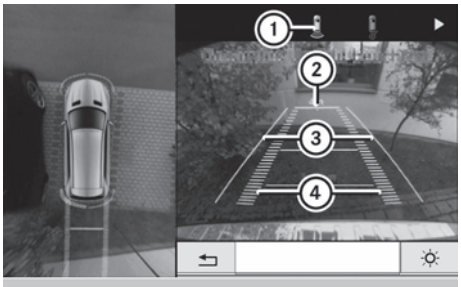
COMANDディスプレイの表示

重要な安全上の注意

! 以下のような路面に接していない障害物は、実際よりも遠くにあるように見えることがあります。
- 駐車車両のバンパー
- トレーラーのトーイングバー
- トレーラーけん引ヒッチのボールヘッドカップリング
- 大型車のリア部
- 傾いた柱

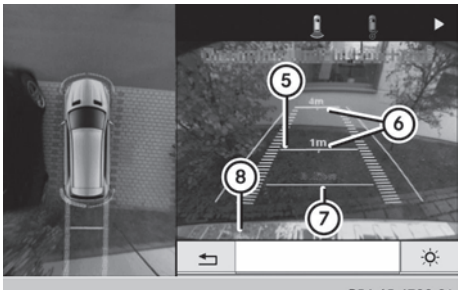
ガイドラインはあくまでも目安として利用してください。 障害物に近付くときは、障害物が一番下のガイドラインを越えないように注意してください。

上面表示とリアビューカメラの映像



P54.65-4722-31

① 上面表示とパーキングアシストリアビューカメラ映像の分割画面の設定アイコン
② 車両後部から約4.0 m の距離の黄色ガイドライン
③ 黄色のガイドライン：そのときのステアリング操舵角で車が進むときの、ドアミラーを含む車幅延長線（動的）
④ 黄色のレーンはタイヤが現在のステアリング角度（動的）で進むコースをマークします。



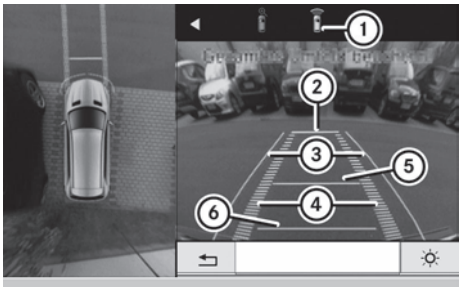
P54.65-4723-31

⑤ 車両後部から約1.0 mの距離の黄色ガイドライン
⑥ 車両中央軸(補助マーカー)
⑦ 赤色のガイドライン：車両後部から約0.30 m 先を示すライン
⑧ バンパー

トランスミッションをポジション **R** にするとガイドラインが表示されます。

距離表示は地面にある障害物にのみ適用されます。

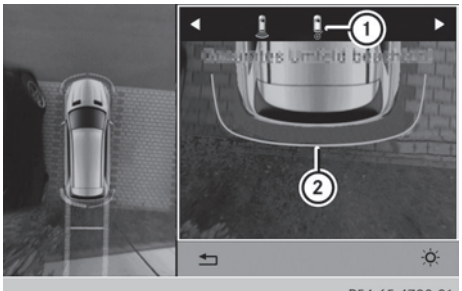
上面表示とフロントカメラの映像



P54.65-4718-31

① 上面表示とフロントカメラ映像の分割画面の設定アイコン
② 車両前部から約 4.0 mの距離の黄のガイドライン
③ 黄色のガイドライン：そのときのステアリング操舵角で車が進むときの、ドアミラーを含む車幅延長線（動的）
④ 黄色のレーンはタイヤが現在のステアリング角度（動的）で進むコースをマークします。
⑤ 車両前部から約 1.0 m の距離の黄のガイドライン
⑥ 車両前部から約 0.30 m の距離の赤のガイドライン

上面表示と拡大リア表示



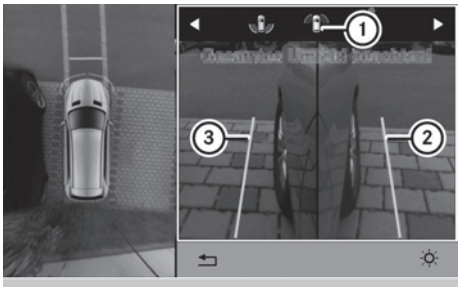
P54.65-4738-31

① 上面表示とリアビューカメラ拡大映像の分割画面の設定アイコン
② 赤色のガイドライン：車両後部から約0.30 m 先を示すライン

この表示は、車両後方からの距離を確認するときに運転者を補助します。

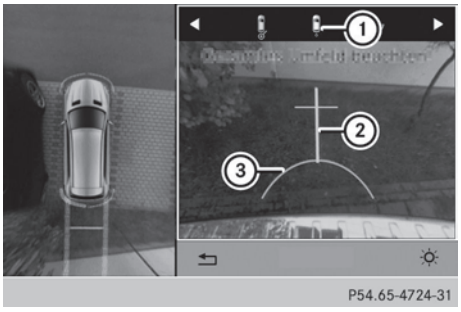
ⓘ この設定は、拡大フロント表示として選択することもできます。

上面表示とミラーカメラの映像



① 上面表示と前面ミラーカメラの設定アイコン
② 黄色のガイドライン：ドアミラーまでの車幅ライン（車両右側）
③ 黄色のガイドライン：ドアミラーまでの車幅ライン（車両左側）

上面表示とトレーラー表示



① トレーラー表示の設定アイコン
② トレーラーけん引部の補助マーク

パークトロニックディスプレイの表示



例： パークトロニック表示のある全画面表示モード
① リアビューカメラ映像の全画面表示設定アイコン

車両にパークトロニックが装備されていて、機能が作動している場合は (▷ 218 ページ)、COMANDディスプレイの警告表示 ② も作動するか、または応じて点灯します。

パークトロニックの機能は以下のように表示されます。

- 分割画面モードでは、赤色または黄色の四角い枠で囲まれた車両のアイコンを含む上面表示が表示されます。または、
- 全画面表示モードでは、画面の右下に赤色または黄色の四角い枠で囲まれた車両のアイコンが表示されます。

ⓘ 全画面表示モードは、フロント表示でも選択可能です。

360° カメラ表示モードを終了する

機能が作動していて、車両が約 30 km/h の速度を超えたときは、機能は解除されます。COMANDディスプレイは以前選択されていた画面に戻ります。 ディスプレイの ⮌ マークを選択し、COMANDコントローラーを押す ⟲ ことによってディスプレイを切り替えることもできます。

アテンションアシスト

重要な安全上の注意

⚠ 警告

アテンションアシストはあくまでも運転者の補助のみを行なうものであり、疲労や集中力低下を認識するのが遅れたり、まったく認識しないこともあります。十分な休憩を取ったり、集中力のある運転者の代わりになるものではありません。

疲労により危険な状況の認知が非常に遅れたり、また状況の判断を誤ったり反応が遅れることがあります。運転する前や運転中は疲れていないことを確認してください。特に運転時間が長くなるような場合には、適切な時間に定期的に休憩を取ってください。危険を認知することができず、事故を起こしたり、運転者や他の人が負傷するおそれがあります。

アテンションアシストは、高速道路や幹線道路などで長時間にわたり単調な運転を行なっているときに運転者を補助するシステムです。 このシステムは、走行速度が約 80 km/h ～ 180 km/h の範囲で作動します。

アテンションアシストは、運転者の疲労や集中力低下の典型的な兆候を検知して警告を行ない、休憩を促します。

アテンションアシストは、以下のような状況を考慮して運転者の疲労や集中力欠如の度合いを判断します。

- ステアリング操作などの運転スタイル
- 時刻や運転時間などの運転状況

以下のときは、アテンションアシストの機能が制限され、警告が遅れたり、警告がまったく送られないことがあります。

- でこぼこ道や穴があるなど、道路の状態が悪いとき
- 横風が強いとき
- スピードを出してカーブを曲がっているときや急加速して運転しているときなど、スポーティな走行をしているとき
- 約 80 km/h以下または約 180 km/h以上の速度で運転することが多いとき
- COMANDシステムを使用しているときやCOMANDシステムで電話を発信しているとき
- 時刻が正しく設定されていないとき
- 車線変更や走行速度の変化など活発な運転状況のとき

マルチファンクションディスプレイの警告およびディスプレイメッセージ



▶ マルチファンクションディスプレイを操作してアテンションアシストを作動させます。 (▷ 264 ページ)
マーク ① がマルチファンクションディスプレイに表示されます。

▶ **マルチファンクションディスプレイに** アテンションアシスト 休憩しませんか？ **というメッセージが表示されます。** 必要であれば、休憩を取ってください。

▶ OK または ⮌ スイッチを押して、メッセージを確認します。

アテンションアシストを設定すると、走行を開始して約 20 分経過してから警告が行なわれます。 マルチファンクションディスプレイにメッセージが表示されるとともに、断続的な警告音が2 回鳴ります。

長時間の運転では、タイミング良く定期的に休憩を取り身体を休ませてください。 休憩を取らずに運転を続けた場合、アテンションアシストが集中力欠如の増

加を検知すると、約 15 分経過以降に再度警告を行ないます。

走行を継続するときは以下のときに、アテンションアシストはリセットされ、運転者の疲労度の評価を開始します。

- エンジンを停止したとき
- 運転者を交代したり休憩を取るために、運転者がシートベルトを外して運転席ドアを開いたとき

ナイトビューアシストプラス

重要な安全上の注意

⚠ 警告

ナイトビューアシストプラスは運転者を補助するためのものであり、運転者の注意についての責任を軽減させるものではありません。ナイトビューアシストプラスに頼るのではなく、フロントウインドウを通して前方に注意してください。運転者には安全に対する責任があり、周囲の交通状況に応じて運転をしなければなりません。運転者や他の人にけがをさせるおそれがあります。

以下のときはシステムに影響を与えたり、正しく作動しないことがあります。

- 雪や雨、霧や小雨などで視界が悪いとき
- フロントウインドウが汚れていたり、曇っているとき、カメラ付近にステッカーなどが貼ってあるとき
- カーブや上り坂、下り坂を走行しているとき

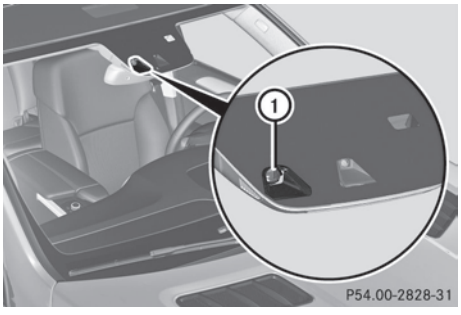
⚠ 警告

ナイトビューアシストプラスは運転者を補助するためのものであり、運転者の注意についての責任を軽減させるものではありません。ナイトビューアシストプラスに頼るのではなく、フロントウインドウを通して前方に注意してください。運転者には安全に対する責任があり、周囲の交通状況に応じて運転をしなければなりません。運転者や他の人にけがをさせるおそれがあります。

以下のときはシステムに影響を与えたり、正しく作動しないことがあります。

- 雪や雨、霧や小雨などで視界が悪いとき
- フロントウインドウが汚れていたり、曇っているとき、カメラ付近にステッカーなどが貼ってあるとき
- カーブや上り坂、下り坂を走行しているとき

全体的な注意事項



通常のヘッドライトの照明に加え、ナイトビューアシストプラスは赤外線を利用して路面を照射します。 ナイトビューアシストプラスのカメラ ① は、赤外線を検知してCOMANDディスプレイに白黒の映像として表示します。 COMANDディスプレイには、ハイビームヘッドライトで映し出される路面と同じ映像が表示されます。 進行方向の道路状況や障害物を素早く確認することができます。 歩行者検知機能が作動しているときは、システムで認識された歩行者がナイトビューアシストプラスのディスプレイに強調表示されます。

対向車のヘッドライトの光は、マルチファンクションディスプレイに表示されるナイトビューアシストプラスの映像に影響を与えることはありません。 対向車がいるために、メインビームヘッドライトをオンにできないときも同様です。

ⓘ 赤外線は人の目に見えないため、対向車を眩惑させることはありません。したがって、対向車がいる場合でもナイトビューアシストプラスを作動させることができます。

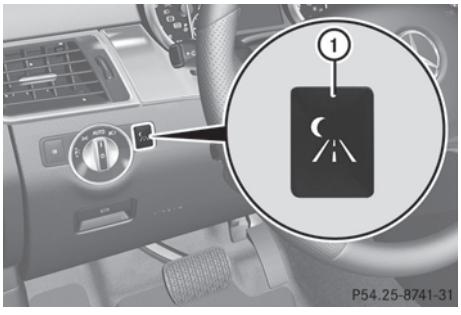
ナイトビューアシストプラスを作動させる

作動条件

ナイトビューアシストプラスは、以下のときに作動させることができます。

- エンジンスイッチが2の位置のとき
- 周囲が暗いとき
- ライトスイッチが AUTO または ≡D のとき
- リバースギアになっていないとき

ナイトビューアシストプラスの作動



▶ COMAND システムがオンになっていることを確認します。

▶ スイッチ ① を押します。

COMAND ディスプレイにナイトビューアシストプラスのディスプレイが表示されます。

COMANDディスプレイの照度の調整方法については、COMANDシステム取扱説明書をご覧ください。

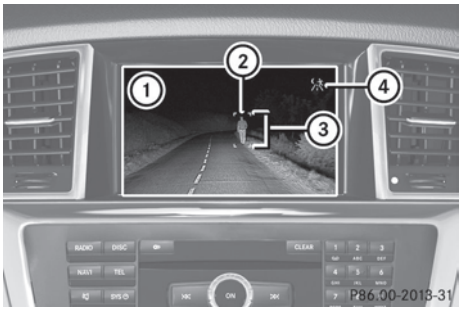
ⓘ 赤外線照射ヘッドライトは走行速度が約 10 km/h以上になると赤外線を照射します。したがって、停車中は十分な視界を確保することができません。また、ナイトビューアシストプラスが作動しているか確認することはできません。

歩行者検知機能

⚠ 警告

以下のような状況下では歩行者が正常に検知されなかったり、まったく検知されないことがあります。

- 歩行者の身体の一部または全部が駐車車両などの障害物で隠れているとき
- ナイトビューアシストプラスのディスプレイに表示される歩行者の輪郭が強い光の反射などで不完全になったり途切れているとき
- 歩行者が周囲の背景などに溶け込んでいるとき
- 座っている、かがんでいる、または横たわっているなど、歩行者が立っていない状態のとき



① ナイトビューアシストプラスの映像
② 検知された歩行者
③ フレーム
④ 歩行者検知のマーク

ⓘ 歩行者検知機能では動物を検知することはできません。

ナイトビューアシストプラスは人の輪郭などの特徴により歩行者を認識します。

歩行者検知機能は以下のときに自動的に作動します。

- ナイトビューアシストプラスが作動しているとき
- 走行速度が約 10 km/h以上になったとき
- 街路灯がない郊外を走行するときなど、周囲が暗いとき

歩行者検知機能が作動すると、マーク ④ が表示されます。 歩行者が検知されると、歩行者はフレーム ③ で囲まれ、強調されます。 歩行者検知システムが歩行者を検知したときは、フロントウインドウ越しに前方を直接確認してください。ディスプレイ表示だけでは障害物や歩行者までの距離を正確に把握することはできません。

歩行者だけでなく障害物が強調表示される場合もあります。

フロントウインドウの曇りまたは汚れ

カメラ前面のフロントウインドウの内側や外側に汚れや曇りがあると、ナイトビューアシストプラスのディスプレイに悪影響を与えます。

- ▶ **曇りを取る：** エアコンディショナーの設定を確認し (▷ 150 ページ)、カメラのカバーを開きます (▷ 361 ページ)。
- ▶ **フロントウインドウの内側の曇りを取る：** カメラのカバーを開いて (▷ 361 ページ) フロントウインドウを掃除します (▷ 358 ページ)。

ナイトビューアシストプラスの不具合

トラブル	考えられる原因および影響 ▶ 解決方法
ナイトビューアシストプラスの画質が低下している。	ワイパーの汚れがフロントウインドウに付着している。 ▶ ワイパーブレードを交換してください(▷ 137 ページ)。
	洗車場で洗車した後で、フロントウインドウに汚れが付着している。 ▶ フロントウインドウを掃除してください(▷ 358 ページ)。
	フロントウインドウのカメラ装着部分が傷付いている。 ▶ フロントウインドウを交換してください。
	フロントウインドウの内側が曇っている。 ▶ フロントウインドウの曇りを取ってください(▷ 150 ページ)。
	フロントウインドウが凍っている。 ▶ フロントウインドウを解凍してください (▷ 149 ページ)。
	フロントウインドウの内側に汚れがある。 ▶ フロントウインドウの内側を掃除してください(▷ 358 ページ)。

レーントラッキングパッケージ

全体的な注意事項

レーントラッキングパッケージはブラインドスポットアシスト (▷ 228 ページ) とレーンキーピングアシスト (▷ 231 ページ) で構成されます。

ブラインドスポットアシスト

重要な安全上の注意

⚠ 警告

ブラインドスポットアシストは、あくまでも運転操作を補助するためのシステムです。 状況によっては車両を検知できないことがあり、運転者の代わりに安全確認を行なうことはできません。

ブラインドスポットアシストは道路や交通状況を検知することはできません。オートバイや自転車など、幅の狭い車両を検知しなかったり、検知が遅れることがあります。

検知性能は、センサーに汚れや水しぶきが付着しているときや、雨、雪、霧などで視界が悪いときは低下することがあります。 このような場合は車両の検知が遅れたり、まったく検知しなくなります。

常に交通状況や周囲の状況に注意して運転してください。 お守りいただかないと、危険察知が遅れ、事故を起こしたり

運転者や他の人がけがをするおそれがあります。

⚠ 警告

ブラインドスポットアシストは、走行速度が約 30 km/h以下のときは作動しません。 ドアミラーの表示灯は黄色で表示されます。 そのときは、モニター範囲に存在する車両は表示されません。

常に交通状況や周囲の状況に注意して運転してください。 お守りいただかないと、危険察知が遅れ、事故を起こしたり運転者や他の人がけがをするおそれがあります。

全体的な注意事項

ブラインドスポットアシストは、レーダーセンサーシステムを使用して車両の両側のエリアをモニターします。 約 30 km/hからの速度で運転者を支援します。 ドアミラーの警告灯が運転者の注意をモニターエリアで検知された車両へ向けます。 運転者が車線変更しようとして対応する側の方向指示灯をオンにすると、運転者は視覚的および聴覚的な衝突警告も受け取ります。 検知のためにアクティブブラインドスポットアシストはリアバンパーのセンサーを使用します。

ブラインドスポットアシストが運転者を支援するためには、レーダーセンサーシステムが作動していなければなりません (▷ 270 ページ)。

レーダーセンサーシステムは電波望遠鏡施設の近辺では自動的に停止します (▷ 418 ページ)。

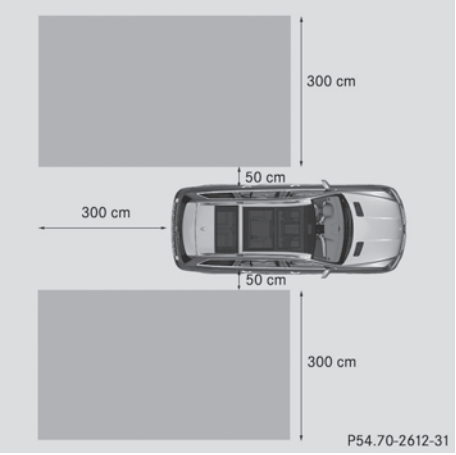
センサーの感知範囲

⚠ 警告

ブラインドスポットアシストは車両に隣接する特定のエリアをモニターします。 高速で接近し通過していく車両は検知されません。 ディスプレイ表示も警告も行なわれません。

車線の幅が極端に広いときは、隣接車線の端までモニターできないことがあります。 このため、隣接車線の車両が中央を走行していない場合などは検知されないことがあります。 これは、車両が車線の外端部を走行している場合などです。

常に交通状況や周囲の状況に注意して運転してください。 お守りいただかないと、危険察知が遅れ、事故を起こしたり運転者や他の人がけがをするおそれがあります。



ブラインドスポットアシストは図に示すように、車両の後方約 3.0 mまで、および車両のすぐ脇のエリアをモニターします。

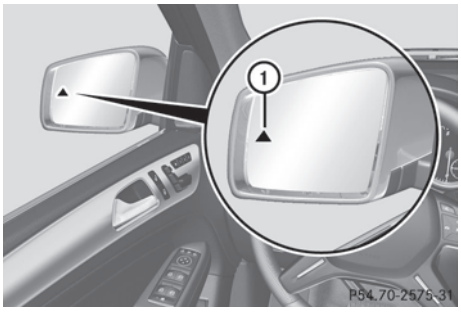
車線の幅が狭い場合、2車線横の車両が（中央を走行していない場合などに）検知されることがあります。 これは、隣接車線の端を走行している車両が存在する場合などです。

システムの性質上、以下のように作動することがあります。

- ガードレールや中央分離帯など停止物に接近すると、誤って警告を発することがあります。
- トラックなど特に長い車両が長い時間並走しているときに、警告が中断されることがあります。

ブライドスポットアシストの2個のレーダーセンサーは、リアバンパーの両側に内蔵されています。 バンパーのセンサー付近に汚れ、氷や泥が付着していないことを確認してください。 車両に装着された自転車のキャリヤや垂れ下がった荷物などでセンサー付近が覆われないようにしてください。 強い衝撃を受けたり、バンパーが損傷したときは、メルセデス・ベンツ指定サービス工場でレーダーセンサーの機能を点検してください。 これらのことをお守りいただかないと、ブラインドスポットアシストが正常に作動しなくなるおそれがあります。

表示灯および警告灯



① 黄色の表示灯/赤色の警告灯

ブラインドスポットアシストがオンになると、約 30 km/hの速度までドアミラーの表示灯 ① が黄に点灯します。 約 30 km/h 以上の速度では、表示灯が消え、ブラインドスポットアシストが作動可能になります。

約 30 km/h以上の速度でブラインドスポットアシストのモニター範囲内に車両が検知されると、対応する側の警告灯 ① が赤に点灯します。 この警告は、後方または側方から車両がブラインドスポットのモニター範囲に入ると常に行なわれます。 車両を追い越すときは、速度差が約 12 km/h以下の場合にのみ警告が行なわれます。

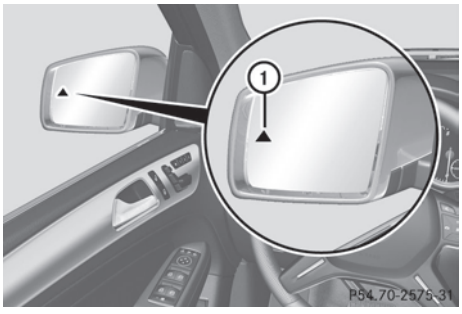
黄色の表示灯はリバースギアに入れると消灯します。 次に、ブラインドスポットアシストが解除されます。

表示灯/警告灯の照度は周囲の明るさに応じて自動的に調整されます。

衝突の警告

ブラインドスポットアシストのモニター範囲に車両が検知されている状態で検知された側の方向指示灯をオンにすると、警告音が2 回鳴ります。 赤色の警告灯 ① が点滅します。 方向指示灯を作動させたままにすると、赤色の警告灯 ① が点滅し検知された車両の存在を知らせます。 警告音はそれ以上鳴りません。

ブラインドスポットアシストの作動



- マルチファンクションディスプレイでレーダーセンサーシステム (▷ 270 ページ) とブラインドスポットアシスト (▷ 264 ページ) が作動していることを確認します。
- エンジンスイッチを 2 の位置にします。
  ドアミラーの警告灯 ① が約 1.5 秒間赤色で点灯した後、黄色に変わります。

トレーラーのけん引

トレーラーを連結するときは、電気的接続を正しく行なっていることを確認してください。 トレーラーのライトの点灯により、このことが果たされます。 次に、ブラインドスポットアシストが解除され

ます。 ドアミラーの表示灯が黄に点灯し、マルチファンクションディスプレイに ﾌﾞﾗｲﾝﾄﾞｽﾎﾟｯﾄｱｼｽﾄ 現在使用できません 取扱説明書を参照 というメッセージが表示されます。

ℹ ドアミラーの表示灯を消灯させることができます。

そのためには、以下のときにブラインドスポットアシストを解除します

- エンジンスイッチが 2 の位置のとき
- エンジンがかかっていないとき
- トレーラーとの電気的接続が確立されているとき

レーンキーピングアシスト

重要な安全上の注意

⚠ 警告

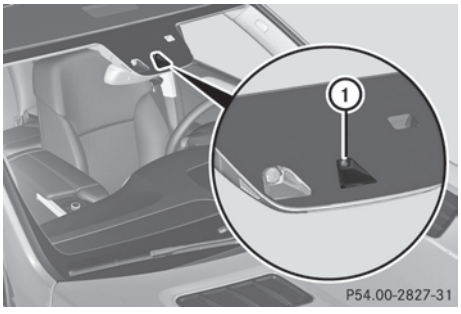
レーンキーピングアシストは車線内を自動的に走行させる機能ではありません。運転者を支援する機能であり、道路の車線を正しく検知できなかったり、全く検知できないことがあります。

以下のときはシステムの作動に影響を与えたり、正しく作動しないことがあります。

- 道路に十分な照明がなかったり、雪や雨、霧や小雨のときなど視界が悪いとき
- 対向車線の車や太陽光線、または他の車からの反射光などでまぶしいとき
- フロントウインドウが汚れていたり、曇っているとき、または、カメラ付近がステッカーなどで覆われているとき
- ひとつの車線にいくつも車線ラインがあったり、全くないとき
- 車線ラインが薄くなっているときや黒ずんでいるとき、または汚れや雪などに覆われているとき
- 先行車両との車間距離が短くて車線ラインが検知できないとき
- 工事区間など車線ラインがあいまいなとき
- 車線の分岐点や他の車線との合流地点など車線ラインが頻繁に変わるとき
- 道路が狭かったりカーブしているとき

レーンキーピングアシストは道路や交通状況は検知できません。運転者の代わりに運転操作を行なうことはできません。走行速度に注意して、的確な減速を行ない、正しいステアリング操作を行なってください。常に路面や天候の状態に合わせて運転してください。 常に交通状況や周囲の状況に注意してください。危険を認知することができず、事故を起こしたり、運転者や他の人がけがをするおそれがあります。

全体的な注意事項



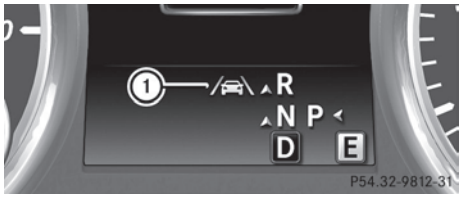
① レーンキーピングアシストカメラ

レーンキーピングアシストは、フロントウインドウ上部に装着されたカメラで車両前方をモニターします。 レーンキーピングアシストは路面の車線ラインを検知し、車線を外れそうになったときに運転者に警告を行ないます。

マルチファンクションディスプレイの表示単位 速度/距離:で機能 (▷ 265 ページ)kmを選択すると、レーンキーピングアシストが約 60 km/hの速度で作動を開始します。 miles表示が選択されているときは、走行速度が約 40 mph以上のときに作動を開始します。

前輪が車線ラインを越えたときに警告が行なわれます。 警告はステアリングホイールを約 1.5 秒間断続的に振動させることにより行なわれます。

レーンキーピングアシストの作動



▶ マルチファンクションディスプレイを操作して、アクティブレーンキーピングアシストをオンにします。そのためには、標準 または アダプティブ (▷ 265 ページ)を選択します。
マーク ① がマルチファンクションディスプレイに表示されます。
約 60 km/h以上で走行中に車線ラインが検知されると、マーク ① が緑色で表示されます。 レーンキーピングアシストが待機状態になっています。

標準

標準を選択すると、以下のときは振動による警告は行なわれません。

- 方向指示灯を作動させたとき このようなときは、警告が短時間に抑えられることがあります。
- ABSやBAS、ESP® などの走行安全装備が介入したとき

アダプティブ

アダプティブを選択すると、以下のときは振動による警告は行なわれません。

- 方向指示灯を作動させたとき このようなときは、警告が短時間に抑えられることがあります。
- ABSやBAS、ESP® などの走行安全装備が介入したとき
- キックダウンなどの急加速を行なったとき
- 急ブレーキを効かせたとき
- 障害物を避けるための進路変更や急な車線変更など、活発にステアリング操作を行なったとき
- きついカーブの内側をまたいだとき

車線ラインを越えたとき、適切な状況とタイミングでのみ警告を行なうため、システムは特定の状況を認識し、それに応じて警告を行ないます。

以下のときは、早めのタイミングで振動による警告が行なわれます。

- カーブの外側の車線ラインに近づいたとき
- 高速道路などの非常に幅の広い道路のとき
- システムが実線の車線マークを検知したとき

以下のときは、遅めのタイミングで振動による警告が行なわれます。

- 狭い車線の道路を走行しているとき
- カーブの内側をまたいだとき

アクティブドライビングアシスタンスパッケージ

全体的な注意事項

アクティブドライビングアシスタンスパッケージは、ディストロニック・プラス (▷ 196 ページ) 、アクティブブラインドスポットアシスト (▷ 233 ページ)、およびアクティブレーンキーピングアシスト (▷ 237 ページ) で構成されています。

アクティブブラインドスポットアシスト

重要な安全上の注意

⚠ 警告

アクティブブラインドスポットアシストは補助のみを行なうものであり、車両/障

害物を正しく、またはまったく検知しないことがあります。

以下のときはシステムが影響を受けたり、機能しないことがあります。

- 雪や雨、霧や小雨などで視界が悪いとき
- リアあるいはフロントセンサーが汚れているとき

アクティブブラインドスポットアシストはオートバイや自転車のような車両を検知しなかったり、非常に遅れて検知することがあります。至近距離で追い越して死角に入った車両を検知することはできません。

アクティブブラインドスポットアシストは道路や交通状況は検知できません。注意を払った運転の代わりになるものではありません。走行速度やタイミングに合ったブレーキ操作、適切なステアリング操作の責任は運転者にあります。常に、運転スタイルを実際の道路や天候状況に合わせてください。常に交通状況や周囲の状況に注意してください。適切に危険を認識することができず、事故の原因になったり、運転者や他の人がけがをするおそれがあります。

電波望遠鏡施設の近辺では、レーダーセンサーシステムが自動的に解除されます。(▷ 418 ページ)

走行中にアクティブブラインドスポットアシストを使用するには、レーダーセンサーシステムをオンにして作動可能な状態にしてください。(▷ 270 ページ)

全体的な注意事項

アクティブブラインドスポットアシストは、レーダーセンサーシステムを使用して、車両の左右に隣接する運転者後方のエリアをモニターします。 モニター範囲に車両の存在を検知すると、ドアミラーの警告灯によって運転者の注意を促します。 さらに運転者が車線変更する側の方向指示灯を作動させると、音と光による警告を発します。 側方衝突の危険性が察知されると、コース修正のためのブレーキが衝突を回避するようアシストします。 コース修正のためのブレーキの作動を支援するため、アクティブブラインドスポットアシストは前方レーダーセンサーシステムも使用します。 進行方向のスペースがモニターされます。

アクティブブラインドスポットアシストは走行速度が約 30 km/h以上のときに運転者を支援します。

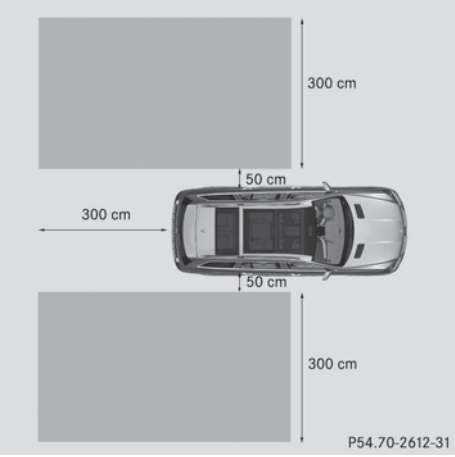
モニター範囲

⚠ **警告**

アクティブブラインドスポットアシストは車両近辺の特定の範囲をモニターします。高速で近づき通り過ぎていく車両は検知されません。視覚的、聴覚的な警告は発せられず、進路を修正するために、システムが車両にブレーキを効かせることはしません。

車線の幅が非常に広いときは、隣の車線の幅すべてをモニターしないことがあります。このため、特に車線の中央を走行していない場合は隣の車線の車両は検知されないことがあります。これは、車両が車線の外端部を走行している場合などです。

常に交通状況や周囲に注意してください。 適切に危険を認識することができず、事故の原因になったり、運転者や他の人がけがをするおそれがあります。



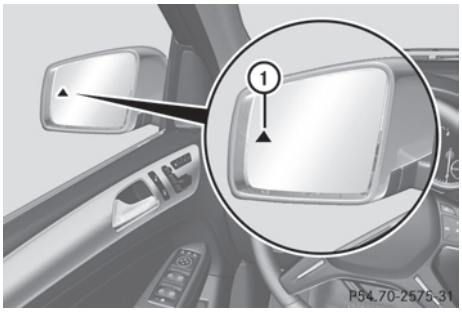
車線の幅が狭い場合、2車線横の車両が（中央を走行していない場合などに）検知されることがあります。 これは、車線の内側を走行している車両が存在する場合などです。

システムの性質上、以下のように作動することがあります。

- ガードレールや中央分離帯など停止物に接近すると、誤って警告を発することがあります。
- トラックなど特に長い車両が長い時間並走しているときに、警告が中断されることがあります。

アクティブブラインドスポットアシストのレーダーセンサーは、前後のバンパーおよびラジエターグリルのカバー裏側に内蔵されています。 バンパーとラジエーターグリルのカバーにごみや氷、泥などが付着していないことを確認してください。 リアセンサーが自転車用ラック、または突き出た荷物などによって覆われないようにしてください。 強い衝撃を受けたりバンパーが損傷したときは、メルセデス・ベンツ指定サービス工場でレーダーセンサーの機能を点検してください。 お守りいただかないと、アクティブブラインドスポットアシストが正しく作動しなくなることがあります。

表示灯と警告灯

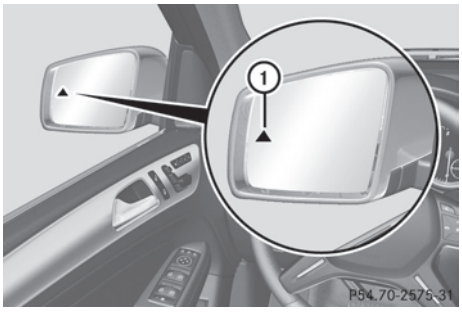


① 黄色の表示灯 / 赤色の警告灯

黄色の表示灯はリバースギアに入れると消灯します。 アクティブブラインドスポットアシストは作動しなくなります。

表示灯 / 警告灯の照度は周囲の明るさに応じて自動的に調整されます。

視覚と音による衝突警告



運転者が車線変更のために方向指示灯を作動させ、モニター範囲に車両が検知されると、視覚と音による衝突警告を発します。 その後、2重の警告音が鳴り、赤色の警告灯 ① が点滅します。 方向指示灯を作動させたままにすると、赤色の警告灯 ① が点滅して検知された車両の存在を知らせます。警告音はそれ以上鳴りません。

コース修正ブレーキの介入

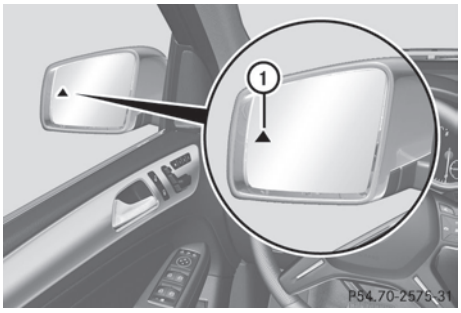
⚠ 警告

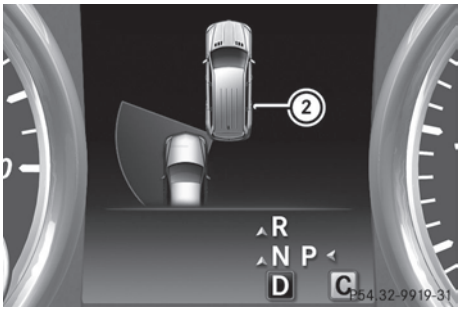
アクティブブラインドスポットアシストは、運転を補助するためだけに設計され

ています。 注意を払った運転の代わりになるものではありません。 状況によっては、車線修正ブレーキの適用は衝突を防ぐためには不十分な場合があります。そのような場合は、ステアリング操作、またはブレーキ操作、アクセル操作をする必要があります。

非常にまれな場合、システムが間違って周辺にあるガードレール、または似たような車線の境界との衝突の危険を検知し、ブレーキをかけることがあります。アクティブブラインドスポットアシストはすべての交通状況と道路使用者を検知するわけではありません。他の交通や障害物との距離が十分であることを常に確認してください。 ステアリングを反対方向に軽く操作する、または加速すると、不適切なブレーキの適用を中断できます。

車両の速度、タイミングに合ったブレーキ操作、適切なステアリング操作の責任は運転者にあります。常に、運転スタイルを実際の道路や天候状況に合わせてください。 常に交通状況や周囲に注意してください。 適切に危険を認識することができず、事故の原因になったり、運転者や他の人がけがをするおそれがあります。





アクティブブラインドスポットアシストがモニター範囲で側面衝突の危険性を察知すると、コース修正のためのブレーキが介入します。 この機能により運転者の衝突回避をアシストします。

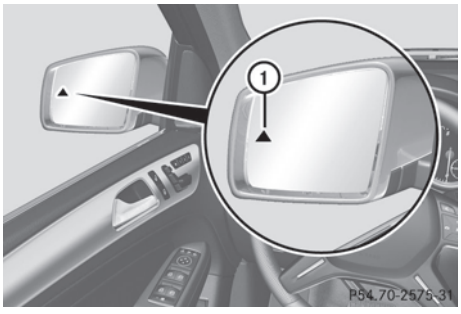
コース修正ブレーキが介入すると、ドアミラーの赤色の警告灯 ① が点滅して、2重の警告音が鳴ります。 さらにマルチファンクションディスプレイにマーク ② が表示されます。

以下のときは、ブレーキの介入がまったく行なわれないか、走行状況に合わせたコース修正ブレーキが作動します。

- 自車の両側に車両やガードレールなどの障害物があるとき
- 車両が自車の側方に接近しすぎているとき
- 速度を上げてカーブを曲がるなど、スポーティな走行をしているとき
- 明確にブレーキまたはアクセルペダルを操作したとき

- ESP® やPRE-SAFE® ブレーキなどの走行安全装備が介入しているとき
- ESP® の機能が解除されているとき
- タイヤ空気圧の低下やタイヤの不具合が検知されたとき

アクティブブラインドスポットアシストの作動



▶ マルチファンクションディスプレイでレーダーセンサーシステム (▷ 270 ページ) とアクティブブラインドスポットアシスト (▷ 264 ページ) が作動していることを確認します。

▶ エンジンスイッチを 2 の位置にします。
ドアミラーの警告灯 ① が約 1.5 秒間赤色で点灯した後、黄色に変わります。

トレーラーのけん引

トレーラーを連結するときは、電気的接続が正しく行なわれていることを確認してください。 そのためにトレーラーのライトが点灯するか確認します。 次に、アクティブブラインドスポットアシストが解除されます。 ドアミラーの黄色の表示灯が点灯し、マルチファンクションディスプレイにアクティブ ブラインドスポット 現在使用できません 取扱説明書参照というメッセージが表示されます。

アクティブレーンキーピングアシスト

重要な安全上の注意

⚠ 警告

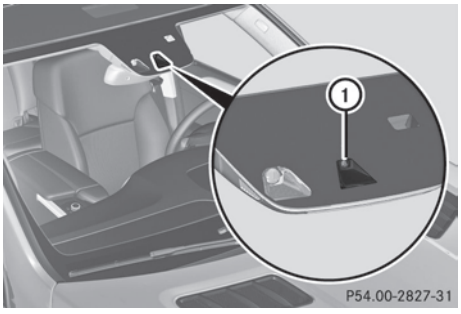
アクティブレーンキーピングアシストは車両を車線内に保つことはしません。 道路の車線マークを正しく検知できなかったり、全く検知できないことがあります。

以下のときはシステムが影響を受けたり、機能しないことがあります。

- ひとつの車線にいくつも車線ラインがあったり、全くないとき
- 道路に十分な照明がなかったり、雪や雨、霧や小雨のときなど視界が悪いとき
- 対向交通や太陽、または他の車からの反射光などでまぶしいとき
- フロントウインドウが汚れていたり、曇っているとき、または、カメラ付近がステッカーなどで覆われているとき
- 車線ラインが摩耗しているときや黒ずんでいるとき、または汚れや雪などに覆われているとき
- 先行車両との車間距離が短くて車線マークが検知できないとき
- 近くにある工事などで道路の車線マークが不鮮明なとき
- 車線の分岐や他との交差、合流などで車線マークが頻繁に変わるとき
- 道路が狭かったりカーブしているとき

アクティブレーンキーピングアシストは道路や交通状況は検知できません。 注意を払った運転の代わりになるものではありません。走行速度やタイミングに合ったブレーキ操作、適切なステアリング操作の責任は運転者にあります。常に、運転スタイルを実際の道路や天候状況に合わせてください。 常に交通状況や周囲の状況に注意してください。 適切に危険を認識することができず、事故の原因になったり、運転者や他の人がけがをするおそれがあります。

全体的な注意事項



アクティブレーンキーピングアシストはフロントウインドウ上部に装着されたカメラ ① で車両前部をモニターします。

アクティブレーンキーピングアシストは路面の車線ラインを検知し、車線を外れそうになったときに運転者に警告を行ないます。 運転者が警告に反応しない場合は、コース修正のためのブレーキ介入により車両を元の車線内に戻すことができます。

マルチファンクションディスプレイの表示単位 速度/距離:機能 (▷ 265 ページ) で kmを選択すると、アクティブレーンキーピングアシストが約 60 km/hの速度で作動を開始します。 miles 表示が選択されているとき、走行速度が約 40 mph を超えると作動します。

ステアリングの振動による警告

前輪が車線ラインを越えたときに警告が行なわれます。 警告はステアリングホイールを約 1.5 秒間断続的に振動させることにより行なわれます。

車線ラインを越えたとき、適切な状況とタイミングでのみ警告を行なうため、システムは特定の状況を認識し、それに応じて警告を行ないます。

以下のときは、早めのタイミングで振動による警告が行なわれます。

- カーブの外側の車線ラインに近づいたとき
- 高速道路などの非常に幅の広い道路のとき
- システムが実線の車線マークを検知したとき

以下のときは、遅めのタイミングで振動による警告が行なわれます。

- 狭い車線の道路を走行しているとき
- カーブの内側をまたいだとき

車線修正ブレーキの介入

⚠ 警告

アクティブレーンキーピングアシストは車線内を自動的に走行させる機能ではありません。 運転を補助するためのみに設計されたものです。注意を払った運転の代わりになるものではありません。 状況によっては、車線修正ブレーキの適用は車両を元の車線に戻すには十分ではない場合があります。このような場合は、ご自身で車両のステアリング操作を行ない、車線を外れないようにしてください。

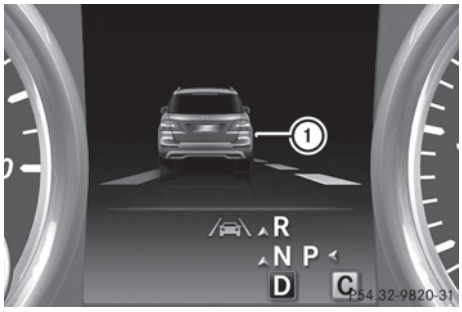
アクティブレーンキーピングアシストは道路や交通状況は検知しません。 他の交通や障害物との距離が十分であることを常に確認してください。ごくまれに、不明瞭なマーク、または道路の特定の構造物を立体的な車線マークとして認識することがあります。実線の車線マークの上を不意に走行した後などの不適切なブレーキの適用は、ステアリングを反対方向へ軽く操作することによって中断します。

アクティブレーンキーピングアシストは天候を考慮することはできません。

走行速度やタイミングに合ったブレーキ操作、適切なステアリング操作の責任は運転者にあります。常に、運転スタイルを実際の道路や天候状況に合わせてください。 常に交通状況や周囲の状況に注意してください。 適切に危険を認識するこ

▷▷

とができず、事故の原因になったり、運転者や他の人がけがをするおそれがあります。



車線修正ブレーキが介入すると、マルチファンクションディスプレイに ① が表示されます。

特定の状況で車両が走行車線から外れると、車両が片側の車輪に軽くブレーキをかけます。 これにより、運転者が車両を元の車線内に戻そうとする操作を補助します。

車線修正ブレーキの介入は、実線の認識可能な車線マークの上を走行した後のみ行なわれます。 それまでは、ステアリングの断続的な振動により警告が送られます。 さらに、両側に車線マークのある車線を認識しなくてはなりません。 ブレーキの介入により、走行速度も少し低下します。

ⓘ 車両が元の車線に戻った後にのみ、さらに車線修正ブレーキの介入が行なわれます。

以下のときは、車線修正ブレーキは介入しません。

- 明確で活発にステアリング操作やブレーキ操作、加速操作を行なったとき
- きついカーブの内側をまたいだとき
- 方向指示灯をオンにしたとき
- ESP®、PRE-SAFE® ブレーキまたはアクティブブラインドスポットアシストのような走行安全システムが介入したとき
- 速度を出してカーブを走行しているときや急加速などスポーティな運転を行なっているとき
- ESP® の機能が解除されているとき
- シフトポジションが **D**でないとき
- トレーラーけん引ヒッチ装備車で、トレーラーを正しく電気的に接続したとき
- オフロードプログラムを起動しているとき
- タイヤ空気圧の減少やタイヤの不具合が検知されて表示されたとき

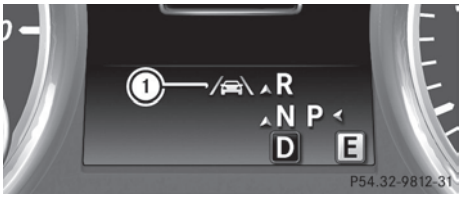
アクティブレーンキーピングアシストは道路や交通状況は検知しません。 不適切なブレーキの適用は以下のときに、いつでも中断されます。

- ステアリングを反対方向に軽く操作したとき
- 方向指示灯を作動させたとき
- 明確にブレーキ操作または加速操作を行なったとき

車線修正ブレーキの介入は以下のときに自動的に中断されます。

- ESP®、PRE-SAFE® ブレーキまたはアクティブブラインドスポットアシストのような走行安全システムが介入したとき
- 車線マークが認識できなくなったとき

アクティブレーンキーピングアシストの作動



▶ マルチファンクションディスプレイを使用して、アクティブレーンキーピングアシストをオンにします。そのためには、標準 または アダプティブ (▷ 265 ページ)を選択します。
マーク ① がマルチファンクションディスプレイに表示されます。
標準を選択すると、以下のときは振動による警告は行なわれません。
- 方向指示灯を作動させたとき このようなときは、短時間警告が抑えられることがあります。
- ABSやBAS、ESP® などの走行安全装備が介入したとき

アダプティブを選択すると、以下のときは振動による警告は行なわれません。
- 方向指示灯を作動させたとき このようなときは、短時間警告が抑えられることがあります。
- ABSやBAS、ESP® などの走行安全装備が介入したとき
- キックダウンなどの急加速を行なったとき
- 急ブレーキを効かせたとき
- 障害物を避けるための進路変更や急な車線変更など、活発にステアリング操作を行なったとき
- きついカーブの内側をまたいだとき

トレーラーのけん引

トレーラーを連結するときは、電気的接続が正しく行なわれていることを確認してください。 そのためにトレーラーのライトが点灯するか確認します。

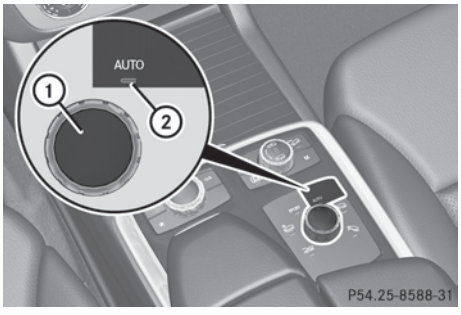
オンロードプログラム(オン&オフロードパッケージ装備車)

全体的な注意事項

オンロードプログラムは公道を走行するときに運転者を支援し、オフロードプログラムはオフロード走行時に運転者を支援します。 (▷ 244 ページ)

対応する車高レベルを設定するまで、マルチファンクションディスプレイに次のようなメッセージが表示されたままになります。 オフロードレベル 2までは、マルチファンクションステアリングホイールの ⮌ または OK スイッチを押すとメッセージを非表示にすることができます。

AUTOプログラム





通常のあらゆる走行状況で快適な乗り心地を保つには、AUTOプログラムを選択してください。

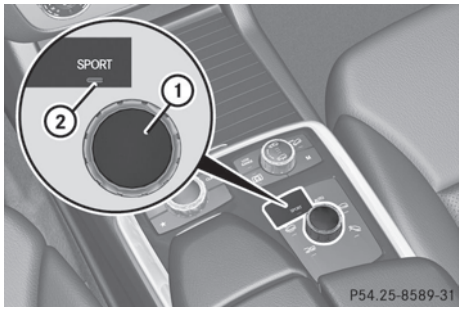
選択内容は、エンジンスイッチからキーを抜いても保持されたままになります。

▶ **選択ダイヤル① が押し込まれているとき：** 選択ダイヤル ① を軽く押します。
選択ダイヤル ① が持ち上がります。

▶ **選択する：** 選択ダイヤル ① をまわし、表示灯 ② を点灯させます。
マルチファンクションディスプレイにAUTO表示灯 ③ が表示されます。

- ハイウェイレベルが設定されます。
- ADS（アダプティブ・ダンピング・システム）は路面状況や走行状態に応じて減衰特性を自動調整し、快適性を保ちます。
- オートマチックトランスミッションは、快適で効率的な運転スタイルに適したオートマチック走行モードを選択します。

SPORTプログラム





スポーティな走行性能を重視するときは、SPORTプログラムを選択してください。
選択内容は、エンジンスイッチからキーを抜いても保持されたままになります。

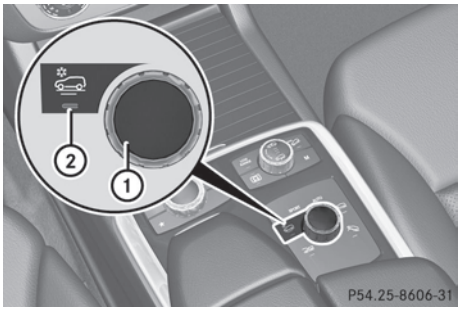
▶ **選択ダイヤル① が押し込まれているとき：** 選択ダイヤル ① を軽く押します。
選択ダイヤル ① が持ち上がります。

▶ **選択する：** 選択ダイヤル ① をまわし、表示灯 ② を点灯させます。
マルチファンクションディスプレイにSPORT表示灯 ③ が表示されます。

- ハイウェイレベルと比較して約 -15 mmに高速レベルが設定されます。
- ADS（アダプティブ・ダンピング・システム）は路面状況や走行状態に応じて減衰特性に自動調整し、スポーティな走行を可能にします。
- オートマチックトランスミッションは、スポーティな運転スタイルに適したオートマチック走行モードを選択します。
- スポーティなアクセルレスポンスが選択されます。 そのため、加速時にアクセルペダルを深く踏み込む必要はありません。
- スポーティなステアリング特性が選択されます。 そのため、ステアリング操作により大きな力が必要になります。

ⓘ LOW RANGEが選択されている場合は、SPORTプログラムを選択することはできません。 マルチファンクションディスプレイにドライブ・プログラム SPORT LOW RANGE オフというメッセージが表示されます。

スノープログラム





積雪路を走行するときやスノーチェーン装着時はスノープログラムを選択してください。

▶ **選択ダイヤル① が押し込まれているとき：** 選択ダイヤル ① を軽く押します。
選択ダイヤル ① が持ち上がります。

▶ **選択する：** 選択ダイヤル ① をまわし、表示灯 ② を点灯させます。
マルチファンクションディスプレイにスノー表示灯 ③ が表示されます。

- ハイウェイレベルが設定されます。
- ADS（アダプティブ・ダンピング・システム）は路面状況や走行状態に応じて減衰特性を自動調整し、快適性を保ちます。
- 4ETSとディファレンシャルロックは、積雪路での走行に最適化されます。
- オートマチックトランスミッションは、快適で効率的な運転スタイルに適したオートマチック走行モードを選択します。
- スムーズなアクセルレスポンスが選択されます。 そのため、加速時はアクセルペダルを深く踏み込む必要があります。
- 発進に最適なギアが選択されます。

オフロード走行装備

4MATIC(フルタイム4WD)

⚠ **警告**

4MATICは無謀な運転からの事故を防ぐものではありません。

タイヤのグリップが低く駆動輪が空転する場合:

- 発進するときは、アクセルペダルを必要な分だけ踏んでください。
- 走行時に駆動輪が空転した場合、アクセルペダルを緩めてください。
- 路面や周囲の交通状況に合わせて運転スタイルを調整してください。

! 片方のアクスルを持ち上げた状態で車両をけん引しないでください。 トランスファーケースを損傷するおそれがあります。このような損傷はメルセデス・ベンツの一般保証では保証されません。 全ての車輪が接地しているか、完全に持ち上がっていなければなりません。 車輪全てが完全に接地している状態で車両をけん引するときは、取扱説明書に従ってください。

! 機能テストや性能テストを行なうには、必ず2 軸式ダイナモメーターを使用してください。 このようなダイナモメーターで車両を作動させる前に、メルセデス・ベンツ指定サービス工場にご相談ください。 お守りいただかないと、駆動装

置やブレーキシステムを損傷するおそれがあります。

4MATICは4輪すべてが常に駆動力を維持するシステムです。 このシステムは、ESP®や4ETSと連動して、タイヤのグリップが低く駆動輪が空転する状況で車両の駆動力を高めます。

ℹ 冬季に走行するときには、ウィンタータイヤ(M+Sタイヤ)や必要に応じてスノーチェーンを装着すると4MATICの効果が最大限に発揮されます。

オフロード走行については、(▷ 184 ページ) をご覧ください。

DSR(ダウンヒル・スピード・レギュレーション)

重要な安全上の注意

⚠ 警告

DSRは下り走行時に運転者を支援する補助装置です。 下り走行時の危険回避や安全確保については運転者に全責任があります。

DSRの作動中は、DSRの介入により車両に突然ブレーキがかかることがあります。 これは下り坂の勾配や現在の車速と設定速度との差などに左右されます。 路面やタイヤの状態によってDSRは設定された速度を維持できない場合があります。 ステアリング操作ができなくなり、事故を起こすおそれがあります。

路面や交通状況に合わせて設定速度を選択し、必要であればブレーキペダルを踏んでください。

⚠ 警告

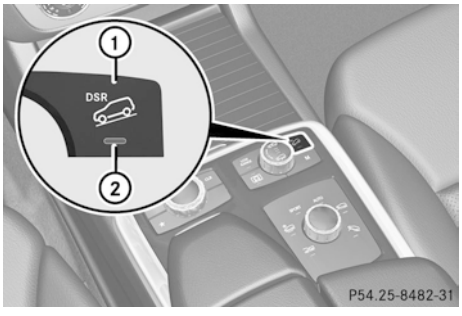
DSRの作動中にアクセルペダルを踏むと、設定された速度を超える可能性があります。 下り坂では特に慎重に運転し、アクセルペダルから足を放すとすぐにDSRが車両にブレーキをかけることに常に注意してください。 下り坂の勾配や現在の車速と設定速度の差によっては、DSRの介入により急ブレーキがかかるおそれがあります。 また、ステアリング操作ができなくなり、事故を起こすおそれがあります。

DSRは下り走行時に運転者を支援するシステムです。 このシステムを使用して、マルチファンクションディスプレイで設定した速度を保つことができます。 下り坂が急勾配になるほどDSRのブレーキ作用が増大します。 平坦な道路や上り坂を走行するときは、DSRのブレーキ作用は最小限になるか、まったく効かなくなります。

DSRは、作動可能な状態でオートマチックトランスミッションのシフトポジションが**D**、**R**または**N**のときに設定速度を制御することができます。 アクセルペダルまたはブレーキペダルを操作すれば、マルチファンクションディスプレイで設定した速度よりも高い / 低い速度で走行することができます。

"オフロード走行"に関するさらなる情報は、(▷ 184 ページ) をご覧ください。

DSRの作動



例：オン&オフロードパッケージ装備車

① DSRスイッチ

② DSR表示灯

▶ スイッチ ① を押します。

表示灯 ② が点灯します。

マルチファンクションディスプレイにDSRマーク が表示されます。

DSRは約 40 km/h以下の速度で走行しているときにのみ作動させることができます。

現在の車両速度が高すぎる場合は、最高速度 40 km/hというメッセージとともにマルチファンクションディスプレイにDSRマーク が表示されます。

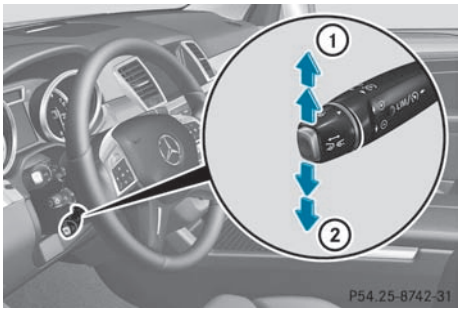
SPORTオンロードプログラムが作動しているときは、DSRを作動させることはできません。 マルチファンクションディスプレイにDSRマーク とドライブ・プログラム オフ SPORT というメッセージが表示されます。

DSRの解除

▶ スイッチ ① を押します。
表示灯 ② が消灯します。
マルチファンクションディスプレイにDSRのアイコン とともにオフというメッセージが表示されます。

約 45 km/hより速く走行する場合は、DSRは自動的にオフになります。 オフ というメッセージとともにマルチファンクションディスプレイにDSRマーク が 表示されます。 マルチファンクションディスプレイのステータスインジケーターは消灯します。 警告音も鳴ります。 オン&オフロードパッケージ装備車では、他のオンロード/オフロードプログラムを選択した場合はDSRも解除されます。

設定速度の変更



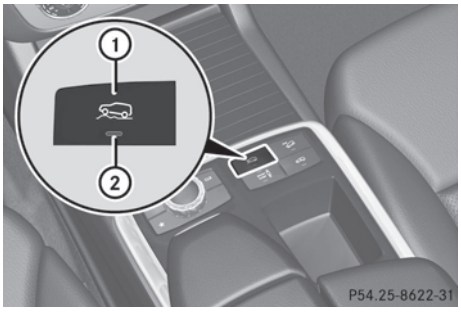


▶ **設定速度を 1 km/h単位で上げる、または下げる：** 高い設定速度には上 ① に、または低い設定速度には下 ② に軽くクルーズコントロールレバーを押します。
マルチファンクションディスプレイにDSRのアイコン とともに設定速度が表示されます。 ステータスインジケーター ③ にも表示されます。

DSRが作動しているときは、 2 km/h ～ 18 km/hの間の値に設定速度を変更することができます。

DSRの設定速度は常に約 1 km/h単位で変更されます。 クルーズコントロールレバーの押し加減に関係なく同じ単位で変更されます。

オフロードプログラム(オン&オフロードパッケージ非装備車)



① オフロードプログラムスイッチ

② オフロードプログラム表示灯

▶ **オンにする：** ① スイッチを押します。
表示灯 ② が点灯します。 マルチファンクションディスプレイのオフロード表示灯 が点灯します。

▶ **オフにする：** スイッチ ① を押します。
表示灯 ② およびマルチファンクションディスプレイのオフロード表示灯 消えます。

オフロードプログラムは、オフロード走行時に運転者を支援します。 エンジンの性能特性やオートマチックトランスミッションのギアシフト特性がオフロードの走行状況に合わせて調整されます。 オフロード走行に最適化されたABS、ESP® および4ETSのプログラムが起動します。 緩やかなアクセルレスポンスが選択されます。そのため、加速時はアクセルペダルをより深く踏み込む必要があります。

積雪路や凍結路の走行時またはスノーチェーンを装着しているときはオフロードプログラムを使用しないでください。

オフロード走行については、(▷ 184 ページ) をご覧ください。

オフロードプログラム(オン&オフロードパッケージ装備車)

全体的な注意事項

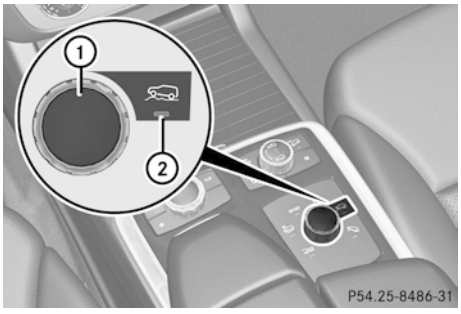
オフロードプログラムは、オフロード走行時に運転者を支援します。 エンジンの性能特性やオートマチックトランスミッションの変速特性がオフロードの走行状況に合わせて調整されます。 オフロード走行に最適化されたABS、ESP® および4ETSのプログラムが起動します。 オフロード走行に最適なアクセルレスポンスが選択されています。そのため、加速時はより深くアクセルペダルを踏む必要があります。

積雪路や凍結路の走行時またはスノーチェーンを装着しているときはオフロードプログラムを使用しないでください。

オフロード走行に関する情報は、(▷ 184 ページ) をご覧ください。

対応する車高レベルを設定するまで、マルチファンクションディスプレイに次のようなメッセージが表示されたままになります。 オフロードレベル 2までは、マルチファンクションステアリングホイールの ⮌ または OK スイッチを押すとメッセージを非表示にすることができます。

オフロードプログラム1





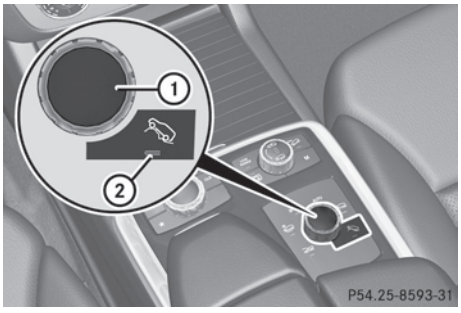
- **選択ダイヤル① が押し込まれているとき：** 選択ダイヤル ① を軽く押します。
  選択ダイヤル ① が持ち上がります。
- **選択する：** 選択ダイヤル ① をまわし、表示灯 ② を点灯させます。
  マルチファンクションディスプレイのオフロード表示灯 ③ が点灯します。
  オフロードレベル1はハイウェイレベルより約 30 mm 高く設定されます。

約 110 km/hより速く走行した場合は、オフロードプログラム1はAUTOプログラムに切り替わります。

砂利道、砂地、競技用トラックなど走行しやすい路面状況では、オフロードプログラム1を選択してください。 エンジンのトルクが制限され駆動輪が空転することがあります。 車輪が空転した場合は、エンジンの出力制御により駆動力の確保が行われます。

約 100 km/h以下の速度で走行しているときにのみオフロードプログラム1を作動させることができます。マルチファンクションディスプレイにドライブ・プログラム OFFROAD 1 最高速度 100 km/h というメッセージが表示されます。

オフロードプログラム2





- **選択ダイヤル① が押し込まれているとき：** 選択ダイヤル ① を軽く押します。
  選択ダイヤル ① が持ち上がります。
- **選択する：** 選択ダイヤル ① をまわし、表示灯 ② を点灯させます。
  マルチファンクションディスプレイのオフロード表示灯 ③ が点灯します。

- オフロードレベル 2 が設定され、車両がハイウェイレベルと比較して約 +60 mm 上がります。
- DSRが起動します。
- ディファレンシャルロックが作動します。

約 45 km/hより速く走行した場合は、オフロードプログラム2は自動的にオフロードプログラム1に切り替わります。

オフロードプログラム2は、急勾配や凹凸の多い道、岩場など悪路走行時に選択してください。

ⓘ トランスファーケースのディファレンシャルロックが自動的に作動します。これは前後アクセルのバランスを制御するシステムです。

ディファレンシャルロックは車両のトラクションを高めます。 4ETS (▷ 68 ページ) は、アクスルの両車輪の間のバランスを制御します。

約 40 km/h以下の速度で走行しているときにのみオフロードプログラム2を作動させることができます。

LOW RANGEオフロードギヤ(オン&オフロードパッケージ装備車)

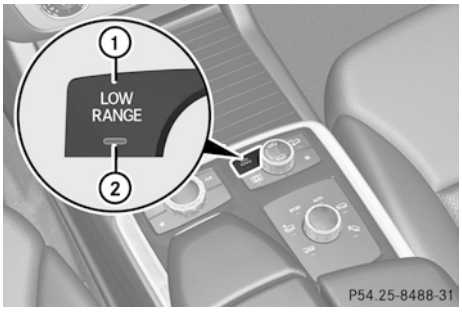
全体的な注意事項

⚠ 警告

HIGH RANGE からLOW RANGE、およびLOW RANGEからHIGH RANGEにシフトチェンジ操作が完了するまで必ずお待ちください。 シフトチェンジ中はエンジンを切らないでください。また、オートマチックトランスミッションで他のギアにシフトしないでください。

シフトチェンジ操作が完了するまで待たないと、正しく変速が行なわれないおそれがあります。 トランスファーケースがニュートラルに入り、エンジンとドライブアクスル間の接続が遮断されるおそれがあります。 その結果、ギアが締結している場合でも車両が自由に作動し、坂道などで車両が不意に動き出すことがあります。

「マルチファンクションディスプレイのメッセージ」の記載事項をお守りください。



① LOW RANGE オフロードギアスイッチ

② LOW RANGE オフロードギア表示灯

HIGH RANGE	通常のオンロードでのあらゆる走行状況に適したポジション
LOW RANGE	オフロード走行や渡河時に適したポジション エンジンとタイヤ間のトランスミッション減速比は、HIGH RANGE ポジションの1/3になります。 したがって駆動トルクはより高くなります。 以下の状況ではLOW RANGEを使用しないでください。 • ぬかるみなど滑りやすい路面 • 積雪路面や凍結路面 • 車両にスノーチェーンを装着しているとき

LOW RANGE オフロードギアは、オフロード走行時や渡河時に運転者を支援し

ます。 LOW RANGEが締結しているときは、エンジンの性能特性やオートマチックトランスミッションの変速特性がオフロードの走行状況に合わせて調整されます。

"オフロード走行"に関するさらなる情報は、(▷ 184 ページ) をご覧ください。 LOW RANGEと組み合わせた走行安全装備に関する情報は、"安全性" (▷ 61 ページ) にあります。

HIGH RANGEからLOW RANGEに切り替える

❗ LOW RANGEからHIGH RANGEへの切り替えは、必ず以下のときに行なってください。

- エンジンがかかっているとき
- シフトポジションを **N**にしたとき
- 約 40 km/h以下の速度で走行しているとき

▶ LOW RANGE スイッチ ① を押します。
表示灯 ② が点滅します。

シフトチェンジ操作が完了すると、表示灯 ② が点灯します。 マルチファンクションディスプレイとステータスインジケーターにLOW RANGE ディスプレイが表示されます。

表示灯 ② の点滅中は、LOW RANGE スイッチ ① を再度押すとシフトチェンジを中止することができます。

ℹ SPORTオンロードプログラムを起動しているときはLOW RANGEを使用することはできません。 マルチファンクションディスプレイにLOW RANGE ﾄﾞﾗｲﾌﾞ ・ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ ｵﾌ SPORTというメッセージが表示されます。

LOW RANGEからHIGH RANGEに切り替える

❗ HIGH RANGEからLOW RANGEへの切り替えは、必ず以下のときに行なってください。:

- エンジンがかかっているとき
- シフトポジションを **N**にしたとき
- 約 70 km/h以下の速度で走行しているとき

▶ LOW RANGE スイッチ ① を押します。
表示灯 ② が点滅します。

シフトチェンジが完了すると、表示灯 ② が消灯します。 マルチファンクションディスプレイにLOW RANGE オフというメッセージが表示され、ステータスインジケーター ③ が消灯します。

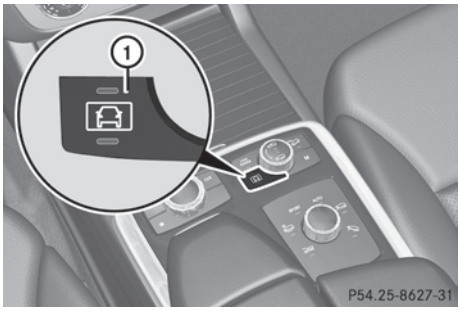
表示灯 ② の点滅中は、LOW RANGE スイッチ ① を再度押すとシフトチェンジを中止することができます。

マルチファンクションディスプレイのメッセージ

シフトチェンジ操作が正しく行なわれると、マルチファンクションディスプレイに以下のメッセージが表示される場合があります。

ディスプレイメッセージ	考えられる原因および影響 ▶ 解決方法
LOW RANGE max. speed 40 km/h	約 40 km/hより速く走行した。 加えて、センターコンソールのスイッチの表示灯も点滅した。 ▶ 速度を緩めて走行し、シフトチェンジ操作を完了してください。
LOW RANGE 短時間Nにシフト してください	トランスミッションが **D** の位置にあり、約40 km/h以下で走行している。 ▶ シフトポジションを **N** にして、シフトチェンジ操作を完了してください。
LOW RANGE シフト動作キャンセル 再起動してください	シフトチェンジ操作が行なわれていない。 ▶ シフトチェンジのすべての条件を維持して、再度変速操作を行なってください。
LOW RANGE 停車 ﾊﾟｰｷﾝｸﾞﾌﾞﾚｰｷを使用	警告音も鳴った。 シフトチェンジ操作が完了していない。 ローレンジはニュートラルポジションに入っている。 エンジンと駆動輪が接続されていない。 **!** それ以上走行しないでください。 駆動系部品が損傷するおそれがあります。 ▶ 停車してください。 そのときは路面や交通状況に注意してください。 ▶ 電気式パーキングブレーキを利かせてください (▷ 179 ページ)。 ▶ シフトチェンジ操作を繰り返してください。 シフトチェンジ操作を実行した場合は、LOW RANGE 停車 ﾊﾟｰｷﾝｸﾞﾌﾞﾚｰｷを使用というメッセージが消えます。

COMANDディスプレイのオンオフロードメニュー(オン&オフロードパッケージ装備車)



COMANDディスプレイに一部の走行装備、走行モードおよび追加情報を表示することができます。

- ▶ エンジンスイッチが**2**の位置にあることを確認します。
- ▶ COMANDシステムが起動していることを確認します。別冊のCOMANDシステム取扱説明書をご覧ください。
- ▶ 機能スイッチ ① を押します。

  対応する表示がCOMANDディスプレイに表示されます。
  - レベルコントロール
  - ステアリング角度
  - 車両の傾斜角
  - 上り坂または下り坂の勾配（%）
  - 選択されたオンロード/オフロードプログラム
  - トランスファーケースのディファレンシャルロックの状態
  - LOW RANGEオフロードギアの選択
  - LOW RANGEオフロードギアの状態
  - オンロードトレーラープログラムの選択

役に立つ情報 252
重要な安全上の注意 252
表示および操作 253
メニューおよびサブメニュー 257
ディスプレイメッセージ 276
メーターパネルの警告灯および表示灯 312

役に立つ情報

ⓘ この取扱説明書は発行時点で利用可能な、車両のすべてのモデルやシリーズ、オプション装備を記載しています。国別仕様の違いがあることもあります。お客様の車両には記載されている全ての機能が装備されていないことがあることにご留意ください。これは安全に関するシステムや機能の場合もあります。

ⓘ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で情報をご覧ください。(▷ 23 ページ)

重要な安全上の注意

⚠ 警告

道路状況および交通事情が許す限り、マルチファンクションディスプレイをご使用ください。注意力が散漫になり、運転に集中することができず、事故の原因になる可能性があります。

⚠ 警告

メーターパネルまたはマルチファンクションディスプレイが故障している場合は、メッセージが表示されません。

その結果として、速度や外気温度、警告やインジケータランプ、ディスプレイメッセージまたはシステム故障などの走行状況の情報を得ることができなくなります。 車両の操縦性が損なわれるおそれがあります。 状況に応じて、運転スタイルと車両の速度を調整してください。

ただちにメルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。

⚠ 警告

マルチファンクションディスプレイは、特定のシステムからのメッセージや警告のみを記録し、表示します。そのため、運転者は車両が安全に運転できる状態であることを常に確認する必要があります。

安全確保ができていない車両を運転することは、事故の原因になりまる可能性があります。

⚠ 警告

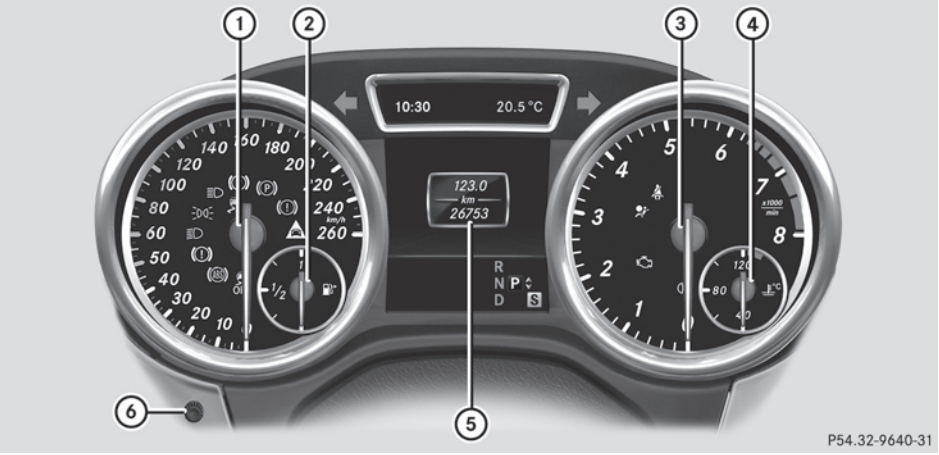
メインテナンス作業が適切に行なわれなかった場合は、車両の操作に関する安全性が損なわれている可能性があります。これにより車両がコントロールを失い、事故の原因になるおそれがあります。さらに、安全装備が運転者または他の乗員を保護できなくなるおそれがあります。

点検整備や修理などは、必ずメルセデス・ベンツ指定サービス工場にご依頼ください。

メーターパネルの図は、(▷ 28 ページ)をご覧ください。

表示および操作

メーターパネル



メーターパネル：キロメートル表示

① セグメント付きスピードメーター (▷ 254 ページ)

② 燃料計

③ タコメーター (▷ 254 ページ)

④ 冷却水温度(▷ 253 ページ)

⑤ マルチファンクションディスプレイ (▷ 256 ページ)

⑥ メーターパネル照明 (▷ 253 ページ)

メーターパネル照明

メーターパネル、ディスプレイおよび車内のコントロールの照明は、照度調整ノブを使用して調整することができます。

照度調整ノブはメーターパネルの左下にあります。

▶ 照度調整ノブを時計回りまたは反時計回りにまわします。
ランプスイッチが AUTO、≡D または ≡D の位置に設定されていると、照度は周囲の明るさに応じて変わります。

ⓘ マルチファンクションディスプレイの照度は、メーターパネルのライトセンサーによって自動的にコントロールされます。

日中はメーターパネルのディスプレイは点灯しません。

エンジン冷却水温度計

エンジン冷却水温度計は、メーターパネルの右側にあります。

通常の操作条件下で指定の冷却水量のときは、冷却水温度が約 120 ℃に上がることがあります。

暑い日や上り坂が続くときなどに、冷却水温度計の指針が上限付近を示すことが

ありますが、故障/警告メッセージが表示されない限り故障ではありません。

タコメーター

! エンジンを損傷する原因となりますので、レッドゾーンに入らないよう運転してください。

タコメーターのレッドゾーンは、エンジンの許容回転数を超えたオーバーレブレンジを示します。

エンジン回転数がレッドゾーンに達すると、エンジン保護のため、燃料供給が停止されます。

外気温度計

⚠ 警告

外気温度が氷点に近い場合は、特に森林地域や橋の上など、路面が凍結しやすくなります。横滑りの原因となりますので、運転操作は特に慎重に行なってください。凍結路を走行する場合は、常に天候状況に合わせて速度を落とし、注意して走行してください。

外気温度計はマルチファンクションディスプレイ内にあります(▷ 256 ページ)。

外気温度が変化すると、少し遅れて表示されます。

セグメント付きスピードメーター

スピードメーターの内側に表示されるセグメントは、走行可能な速度レンジを示します。

- クルーズコントロールを設定しているとき (▷ 190 ページ)

  記憶された設定速度から最高速度までのセグメントが点灯します。
- 可変スピードリミッターを設定しているとき (▷ 193 ページ)

  ゼロから設定された制限速度までのセグメントが点灯します。
- ディストロニックプラスを設定しているとき (▷ 196 ページ)

  設定速度レンジ内の1 つまたは2 つのセグメントが点灯します。
- ディストロニックプラスは前方の車両を検知します

  先行車の速度と記憶されている設定速度の間のセグメントが点灯します。

マルチファンクションディスプレイの操作

概要



① マルチファンクションディスプレイ
② 音声認識の開始：別冊の取扱説明書をご覧ください
③ 右側操作パネル
④ 左側操作パネル
⑤ リターンスイッチ

▶ **マルチファンクションディスプレイを起動する：** イグニッション位置を 1 にします。

マルチファンクションステアリングのスイッチを使用して、マルチファンクショ

ンディスプレイの操作と設定を行なうことができます。

左側操作パネル

◀ ▶	• メニューやメニューバーの呼び出し
▲ ▼	**軽く押す：** • リストのスクロール • サブメニューや機能の選択 • ｵｰﾃﾞｨｵ メニュー：保存した放送局、音楽トラックまたはビデオシーンの選択 • TEL(電話)メニュー：電話帳の表示、名前や電話番号の選択
▲ ▼	**長押しする：** • ｵｰﾃﾞｨｵ メニュー： 高速スクロールによる、前/次の放送局または音楽トラック、ビデオシーンの選択 • TEL(電話)メニュー： 電話帳を開いている場合、高速スクロールの開始
OK	• 選択項目/ディスプレイメッセージの確定 • TEL(電話)メニュー： 電話帳への切り替えと発信の開始 • ｵｰﾃﾞｨｵ メニュー： 放送局サーチ機能による希望の放送局の選局

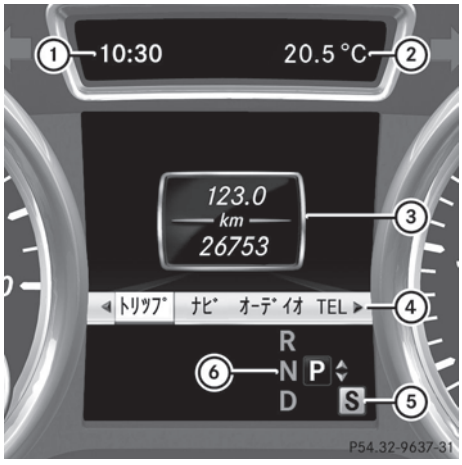
右側操作パネル

	• 通話を拒否する、または終了する • 電話帳/発信履歴を終了する
	• 発信する、または受ける • リダイアルメモリーに切り替える
+ −	• 音量の調整
	• ミュート

リターンスイッチ

	軽く押す： • 前の画面に戻る • 音声認識の終了：別冊の取扱説明書をご覧ください • ディスプレイメッセージの消去/最後に使用した ﾄﾘｯﾌﾟ メニュー機能の呼び出し • 電話帳/発信履歴の終了
	長押しする： • ﾄﾘｯﾌﾟ メニューの基本画面の呼び出し

ディスプレイ



① 時刻

② 常時表示部：外気温度または速度(▷ 266 ページ)

③ 表示フィールド

④ メニューバー

⑤ 走行モード(▷ 167 ページ)

⑥ シフトポジション(▷ 167 ページ)

▶ **メニューバー④を表示する：** ステアリングの ◀ または ▶ スイッチを押します。

数秒後にメニューバー ④ が消えます。

文字欄 ③ にはディスプレイメッセージとともに選択したメニューまたはサブメニューが表示されます。

ⓘ オーディオシステムまたはCOMANDシステムを操作して、時刻を設定することができます。別冊の取扱説明書をご覧ください。

マルチファンクションディスプレイに以下のメッセージが表示されることがあります。

	クルーズコントロール(▷ 190 ページ)
LIM	可変スピードリミッター(▷ 193 ページ)
DSR	DSR (▷ 242 ページ)
	オフロードプログラム(ON&OFFROADパッケージ非装備車)(▷ 244 ページ)
	オフロードプログラム(ON&OFFROADパッケージ装備車)(▷ 244 ページ)
LOW RANGE	LOW RANGEオフロードギア(▷ 246 ページ)
	アダプティブハイビームアシスト(▷ 129 ページ)
	アテンションアシスト(▷ 224 ページ)
ECO	ECOスタート / ストップ機能(▷ 161 ページ)
	レーンキーピングアシスト(▷ 231 ページ)
	アクティブレーンキーピングアシスト(▷ 236 ページ)
HOLD	ホールド機能(▷ 210 ページ)
	車間距離警告機能(▷ 65 ページ)
	PRE-SAFE®ブレーキ(▷ 71 ページ)

メニューおよびサブメニュー

メニュー概要

ステアリングの ◀ または ▶ スイッチを押してメニューバーを呼び出し、メニューを選択します。

マルチファンクションディスプレイの操作 (▷ 254 ページ)

車両に取り付けられている装備に応じて、以下のメニューを呼び出すことができます。

- ﾄﾘｯﾌﾟ メニュー(▷ 257 ページ)
- ﾅﾋﾞ メニュー（ナビゲーションの詳細) (▷ 258 ページ)
- ｵｰﾃﾞｨｵ メニュー(▷ 260 ページ)
- TEL メニュー（電話）(▷ 261 ページ)
- ｱｼｽﾄメニュー（支援機能）(▷ 263 ページ)
- ﾒﾝﾃﾅﾝｽメニュー(▷ 265 ページ)
- 設定メニュー(▷ 265 ページ)
- ON&OFFROAD メニュー(▷ 272 ページ)
- AMG メニュー（AMG車両）(▷ 272 ページ)

トリップメニュー

基本画面



▶ ステアリングの ⮌ スイッチを押して、ﾄﾘｯﾌﾟ メニューがトリップメーター① とオドメータ② と一緒に表示されるまで保持します。

トリップコンピューター"スタート後"または"リセット後"



例："スタート後"のトリップコンピューター

① 距離

② 時間

③ 平均速度

④ 平均燃費

▶ ステアリングの ◀ または ▶ スイッチを押して、ﾄﾘｯﾌﾟ メニューを選択します。

▶ ▲ または ▼ を押して、スタート後 または リセット後を選択します。

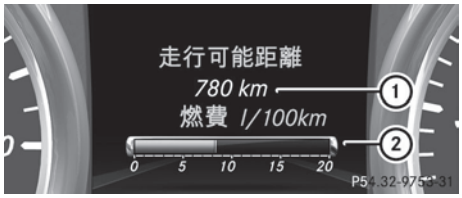
スタート後 サブメニューの数値は、走行開始から算出されるものであり、リセット後サブメニューの数値は、サブメニューが最後にリセットされたときから算出されるものです(▷ 258 ページ)。

スタート後 のトリップコンピューターは、以下のときに自動的にリセットされます。

- イグニッションがオフになってから 4 時間以上経過したとき。
- 999 時間を超えたとき
- 9,999 キロメートル を超えたとき

リセット後トリップコンピューターは、値が 9,999 時間 または 99,999キロメートルを超えると、自動的にリセットされます。

走行可能距離および燃料消費の表示



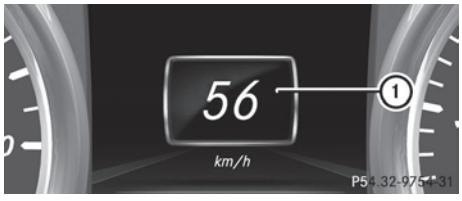
① 概算の走行可能距離

② 現在の燃費（AMG車以外）

- ステアリングの ◀ または ▶ スイッチを押して、ﾄﾘｯﾌﾟ メニューを選択します。
- ▲ または ▼ スイッチを押して、現在の燃費（AMG車以外）および概算の走行可能距離を選択します。

概算の走行可能距離は、燃料の残量やそのときの運転スタイルによって変わります。 燃料タンク内に残っている燃料の量が少ないときは、給油中の車両のマーク が、走行可能距離の代わりにディスプレイに表示されます。

デジタルスピードメーター



① デジタルスピードメーター

- ステアリングの ◀ または ▶ スイッチを押して、ﾄﾘｯﾌﾟ メニューを選択します。
- ▲ または ▼ スイッチを押して、デジタルスピードメーターを選択します。

数値のリセット



例：トリップコンピューター"スタート後"のリセット

- ステアリングの ◀ または ▶ スイッチを押して、ﾄﾘｯﾌﾟ メニューを選択します。
- ▲ または ▼ スイッチを押して、リセットしたい機能を選択します。
- OK スイッチを押す。
- ▼ スイッチを押してはい を選択し、OK スイッチを押して確定します。

以下の機能の数値をリセットできます。

- トリップメーター
- トリップコンピューター"スタート後"
- トリップコンピューター"リセット後"

ナビゲーションメニュー

ナビゲーション案内の表示

ﾅﾋﾞ メニューでは、マルチファンクションディスプレイにナビゲーション案内が表示されます。

詳しい情報については、別冊の取扱説明書をご覧ください。

- COMANDシステムをオンにします。別冊の取扱説明書をご覧ください。
- ステアリングの ◀ または ▶ スイッチを押して、 ﾅﾋﾞ メニューを選択します。

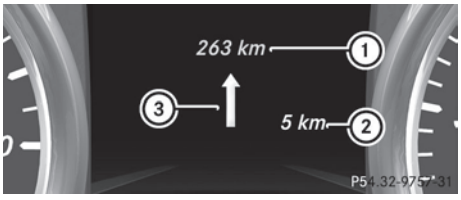
ルート案内が作動していないとき



① 進行方向

ルート案内が作動しているとき

進路変更の案内がないとき



① 目的地までの距離

② 次の進路変更までの距離

③ "案内ルートを進む"のマーク

車線変更を伴わない進路変更の案内があるとき



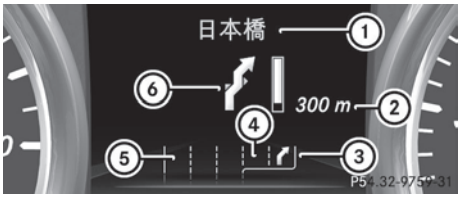
① 進路変更の目標

② 進路変更までの距離と距離ディスプレイ表示

③ 進路変更アイコン

進路変更の案内があるときは、距離ディスプレイ表示② が進路変更マーク ③の横に表示されます。案内のあった進路変更地点に近づくにつれて、表示の下から上に短くなります。

車線変更を伴なう進路変更の案内があるとき



① 進路変更の目標

② 進路変更までの距離と距離ディスプレイ表示

③ 推奨車線

④ 進路変更の間の新しい車線

⑤ 進路変更の間も続いている車線

⑥ 進路変更アイコン

多車線の道路では、次の進路変更時の推奨車線 ③ が表示されます。 進路変更の間、追加の車線が表示されることがあります。

推奨車線は、デジタル地図に関連するデータがあるときのみ表示されます。

ナビゲーションシステムの他の状況インジケーター

- ▩ : 目的地または立ち寄り地点に到着しました。
- 新ルート または ルート計算中：新ルートを計算中です。
- 案内ルート外：車両の位置が地図の範囲外（地図外の位置）にあります。
- ルートなし：選択されている目的地へのルートを計算できませんでした。

オーディオメニュー

ラジオ放送局の選択



① 周波数バンドと放送局リスト番号

② メモリーポジションのあるチャンネル周波数

ⓘ 放送局 ② が放送局周波数または放送局名とともに表示されます。 メモリーポジションは、保存されている場合には、必ず放送局 ② と一緒に表示されます。

- COMANDシステムをオンにして、ラジオを選択します（別冊の取扱説明書をご覧ください）。
- ステアリングの ◀ または ▶ スイッチを押して、ｵｰﾃﾞｨｵ メニューを選択します。
- **保存されているチャンネルを選択する：** ▲ または ▼ スイッチを軽く押します。
- **放送局リストから放送局を選択する：** ▲ または ▼ スイッチを軽く押し続けます。

放送局リストが受信されない場合：

- **放送局サーチを使って放送局を選択する：** ▲ または ▼ スイッチを軽く押し続けます。

ⓘ 周波数バンドの切換えと放送局の登録については、別冊の取扱説明書をご覧ください。

オーディオ機器またはメディアの操作



CD/DVDチェンジャーを表示する(例)

① CD/DVDチェンジャーで現在選択されているCD

② 現在のトラック

車両に装着された装備に応じて、多彩なオーディオ機器やメディアから音楽データを再生できます。

- COMANDシステムをオンにして、オーディオCD/DVDモードまたはMP3モードをオンにしてください。別冊の取扱説明書をご覧ください。
- ステアリングの ◀ または ▶ スイッチを押して、ｵｰﾃﾞｨｵ メニューを選択します。
- **次/前のトラックを選択する：** ▲ または ▼ スイッチを軽く押します。
- **トラックリストからトラックを選択する(高速スクロール)：** 希望のトラックが表示されるまで、▲ または ▼ ② スイッチを押し続けます。

  ▲ または ▼ を押して保持すると、スクロールの速度が上がります。すべてのオーディオ機器またはメディアがこの機能をサポートしているわけではありません。

オーディオ機器またはメディアにトラック情報が保存されているときは、マルチファンクションディスプレイにトラック名と番号が表示されます。 オーディオAUXモード(**外部** オーディオモード：外部のオーディオソース接続)では、現在のトラックは表示されません。

DVDビデオの操作



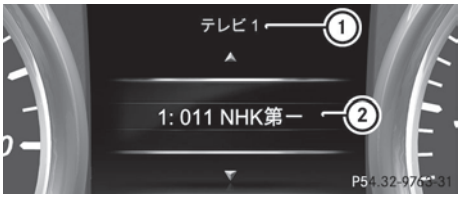
CD/DVDチェンジャーを表示する（例）

① CD/DVDチェンジャーで現在選択されているCD

② 現在のシーン

- COMANDシステムをオンにして、ビデオDVDを選択します(別冊の取扱説明書をご覧ください)。
- ステアリングの ◀ または ▶ スイッチを押して、ｵｰﾃﾞｨｵ メニューを選択します。
- **次/前のシーンを選択する：** ▲ または ▼ スイッチを軽く押します。
- **シーンリストからシーンを選択する(高速スクロール)：** 見たいシーン ② が表示されるまで ▲ または ▼ スイッチを押し続けます。

TV操作



① 機能および放送局リスト番号

② メモリーポジションのあるチャンネル周波数

ℹ メモリーポジションは、保存されている場合には、必ず放送局② と一緒に表示されます。

- COMANDシステムをオンにして、TVを選択します（別冊の取扱説明書をご覧ください）。
- ステアリングの ◀ または ▶ スイッチを押して、ｵｰﾃﾞｨｵ メニューを選択します。
- **保存されている放送局を選択する：** ▲ または ▼ スイッチを軽く押します。
- **放送局リストから放送局を選択する：** ▲ または ▼ スイッチを軽く押し続けます。

ℹ TV チャンネルの保存(別冊の取扱説明書をご覧ください)。

TELメニュー

概要

⚠ **警告**

車内での携帯電話の使用に関しては、現在走行している国の法令を遵守してください。

車両の走行中に携帯電話の使用が認められている場合は、道路状況や交通事情が許す場合にのみ、携帯電話をご使用ください。注意力が散漫になることで事故の原因になったり、お客様ご自身または同乗の方々が負傷するおそれがあります。

- 携帯電話の電源をオンにします（携帯電話の取扱説明書をご覧ください）。
- COMANDシステムをオンにします。別冊の取扱説明書をご覧ください。
- COMANDシステムのBluetooth®接続を確立してください（別冊の取扱説明書をご覧ください）。
- ステアリングの ◀ または ▶ スイッチを押して、TEL メニューを選択します。

マルチファンクションディスプレイに、以下のメッセージのいずれかが表示されます。

- 電話 待ち受けまたはネットワークプロバイダー名： 携帯電話がネットワークの探索を完了し、受信可能な状態です。
- 圏外: ネットワークに接続できない状態にあるか、携帯電話がネットワークを探索中の状態です。

着信を受ける



例：受信

TEL メニューのときに電話が着信すると、マルチファンクションディスプレイにディスプレイメッセージが表示されます。

▶ ステアリングの [✆] スイッチを押して、着信した電話を受けます。

TELメニューを表示していないときも着信した電話を受けることができます。

通話の拒否または終了

▶ ステアリングの [✆] スイッチを押します。

TELメニューでないときも、通話を終了または拒否できます。

電話帳からの発信

▶ ステアリングの [◀] または [▶] スイッチを押して、TEL メニューを選択します。

▶ [▲] [▼] または [OK] スイッチを押して、電話帳に切り替えます。

▶ [▲] または [▼] スイッチを押して、希望の名称を選択します。

または

▶ **高速スクロールを開始する：** [▲] または [▼] スイッチを約1 秒以上押し続けます。
スイッチを放すか、リストの最後まで行くと、スクロールは停止します。

▶ **名称に1 つだけ電話番号が保存されているとき：** [✆] または [OK] スイッチを押して、発信を開始します。

または

▶ **その名称に1 つ以上の番号があるとき：** [✆] または [OK] スイッチを押して、電話番号を表示させます。

▶ [▲] または [▼] スイッチを押して、発信先の番号を選択します。

▶ [✆] または [OK] スイッチを押して、発信を開始します。

または

▶ **電話帳を終了する：** [✆] または [⮌] スイッチを押します。

リダイアル

マルチファンクションディスプレイでは、最後に発信した名称と番号がリダイアルメモリーに保存されています。

▶ ステアリングの [◀] または [▶] スイッチを押して、TEL メニューを選択します。

▶ [✆] スイッチを押して、リダイアルメモリーに切り替えます。

▶ [▲] または [▼] スイッチを押して、希望の名称または番号を選択します。

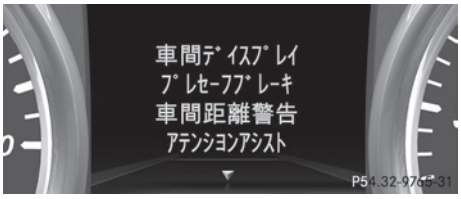
▶ [☎] または [OK] スイッチを押して、発信を開始します。

または

▶ **リダイアルメモリーを終了する：** [☎] または [↩] スイッチを押します。

アシストメニュー

概要



ｱｼｽﾄ メニューでは、以下の選択を行なうことができます。

- 距離ディスプレイの表示(▷ 263 ページ)
- 距離警告機能の作動/解除(▷ 263 ページ)
- PRE-SAFE® ブレーキの作動/解除 (▷ 264 ページ)
- アテンションアシストの作動/解除 (▷ 264 ページ)
- ブラインドスポットアシストまたはアクティブブラインドスポットアシストの作動/解除 (▷ 264 ページ)
- レーンキーピングアシストまたはアクティブレーンキーピングアシストの作動/解除 (▷ 265 ページ)

車間ディスプレイの表示

▶ ステアリングの [◀] または [▶] を押して、ｱｼｽﾄメニューを選択します。

▶ [▲] または [▼] スイッチを押して、車間ﾃﾞｨｽﾌﾟﾚｲ を選択します。

▶ [OK] スイッチを押す。

マルチファンクションディスプレイ (▷ 204 ページ) にディストロニックプラスの車間ディスプレイが表示されます。

センサー 停止しました メッセージが表示された場合は、レーダーセンサーシステムはオフになっています。

▶ レーダーセンサーシステムが作動するか点検してください。 (▷ 418 ページ)

▶ レーダーセンサーシステムの機能をオンにしてください (▷ 270 ページ)。

距離警告機能の作動および解除

▶ ステアリングの [◀] または [▶] を押して、ｱｼｽﾄメニューを選択します。

▶ [▲] または [▼] を押して、 車間距離警告 を選択します。

▶ [OK] スイッチを押す。

現在の選択が表示されます。

▶ **作動 / 解除する：** [OK] スイッチを再度押します。

車間距離警告機能を設定すると、ホールド機能を選択していなければマルチファンクションディスプレイに [!] マークが表示されます。 (▷ 210 ページ)

車間距離警告機能について、詳しくは (▷ 65 ページ) をご覧ください。

PRE-SAFE®ブレーキの設定および解除

PRE-SAFE® ブレーキは、ディストロニックプラス装備車のみで使用できます。

- ステアリングの ◀ または ▶ を押して、ｱｼｽﾄメニューを選択します。
- ▲ または ▼ スイッチを押して、ﾌﾟﾚｾｰﾌﾌﾞﾚｰｷを選択します。
- OK スイッチを押す。
  現在の選択が表示されます。
- **作動 / 解除する：** OK スイッチを再度押します。

PRE-SAFE® ブレーキが設定されている場合は、ホールド機能が設定されていない限り、マルチファンクションディスプレイに マークが表示されます。(▷ 210 ページ)

プレセーフブレーキ: センサー 停止しました メッセージが表示された場合は、レーダーセンサーシステムはオフになっています。

- レーダーセンサーシステムが作動するか点検してください。 (▷ 418 ページ)
- レーダーセンサーシステムの機能をオンにしてください(▷ 270 ページ)。

PRE-SAFE® ブレーキについて、詳しくは (▷ 71 ページ)を参照してください。

アテンションアシストの設定および解除

- ステアリングの ◀ または ▶ を押して、ｱｼｽﾄメニューを選択します。
- ▲ または ▼ スイッチを押して、ｱﾃﾝｼｮﾝｱｼｽﾄ を選択します。
- OK スイッチを押す。
  現在の選択が表示されます。
- **作動 / 解除する：** OK スイッチを再度押します。

アテンションアシストが設定されているときは、イグニッションオンのときに、マルチファンクションディスプレイに マークが表示されます。

アテンションアシストについて、詳しくは (▷ 224 ページ) をご覧ください。

ブラインドスポットアシストの作動および解除

- ステアリングの ◀ または ▶ を押して、ｱｼｽﾄメニューを選択します。
- ▲ または ▼ スイッチを押して、ﾌﾞﾗｲﾝﾄﾞｽﾎﾟｯﾄ を選択します。
- OK スイッチを押す。
  現在の選択が表示されます。
- **作動 / 解除する：** OK スイッチを再度押します。

ﾌﾞﾗｲﾝﾄﾞｽﾎﾟｯﾄｱｼｽﾄ センサー 停止しました または ｱｸﾃｨﾌﾞBｽﾎﾟｯﾄｱｼｽﾄ センサー 停止しました メッセージが表示された場合は、レーダーセンサーシステムはオフになっています。

- レーダーセンサーシステムが作動するか点検してください。 (▷ 418 ページ)
- レーダーセンサーシステムの機能をオンにしてください(▷ 270 ページ)。

ブラインドスポットアシストについて、詳しくは (▷ 228 ページ) をご覧ください。

ブラインドスポットアシストについて、詳しくは (▷ 232 ページ) をご覧ください。

レーンキーピングアシストの設定および解除

- ステアリングの ◀ または ▶ を押して、ｱｼｽﾄメニューを選択します。
- ▲ または ▼ スイッチを押して、ﾚｰﾝｷｰﾌﾟｱｼｽﾄを選択します。
- OK スイッチを押す。
  現在の選択が表示されます。
- 押して OK 確定します。
- ▼ または ▲ を押して、オフ、標準 または アダプティブ に設定します。
- OK スイッチを押して、設定を保存します。

レーンキーピングアシストまたはアクティブレーンキーピングアシストを設定しているときは、エンジンスイッチをオンにするとマルチファンクションディスプレイに のマークが表示されます。

レーンキーピングアシストについて、詳しくは (▷ 231 ページ) をご覧ください。

レーンキーピングアシストについて、詳しくは (▷ 236 ページ) をご覧ください。

メンテナンスメニュー



ﾒﾝﾃﾅﾝｽ メニューには、以下のオプションがあります。

- ディスプレイメッセージの表示 (▷ 276 ページ)
- タイヤ空気圧警告システムの初期化 (▷ 394 ページ)
- 点検整備時期の呼び出し (▷ 355 ページ)

設定メニュー

概要



設定メニューでは、以下のオプションを選択できます。

- メーターパネル設定の変更(▷ 265 ページ)
- ライト設定の変更(▷ 266 ページ)
- 車両設定の変更(▷ 269 ページ)
- コンビニエンス設定の変更(▷ 270 ページ)
- 工場出荷時の設定に復元する(▷ 271 ページ)

メーターパネルのサブメニュー

距離単位の設定

表示単位 速度/距離： 機能により、マルチファンクションディスプレイの特定のディスプレイをキロメートル表示か、あるいはマイル表示にするか、選択することができます。

マルチファンクションディスプレイに表示される距離の単位を、マイル表示またはキロメートル表示に設定できます。

▶ ステアリングの◀ または ▶ スイッチを押して、ｾｯﾃｲ メニューを選択します。
▶ ▼ または ▲ スイッチを押して、メーターサブメニューを選択します。
▶ 押して OK 確定します。
▶ ▼ または ▲ スイッチを押して、表示単位 速度/距離: 機能を選択します。
選択された設定が表示されます： km または miles
▶ OK スイッチを押して、設定を保存します。

選択された距離の表示単位は、以下の項目に適用されます。

- ﾄﾘｯﾌﾟ メニューのデジタルスピードメーター
- オドメーターとトリップメーター
- トリップコンピューター
- 現在の燃費と走行可能距離
- ﾅﾋﾞ メニューのナビゲーション案内
- クルーズコントロール
- 可変スピードリミッター
- ディストロニック・プラス
- メンテナンスインジケーター画面

サブメーター機能の選択

マルチファンクションディスプレイに速度あるいは外気温度を常時表示させるかどうかを設定することができます。

▶ ステアリングの ◀ または ▶ スイッチを押して、設定 メニューを選択します。
▶ ▼ または ▲ スイッチを押して、メーターサブメニューを選択します。
▶ 押して OK 確定します。
▶ ▼ または ▲ スイッチを押して、サブメーター: 機能を選択します。
選択されている設定が表示されます。
外気温度表示 または 速度表示[mph]
▶ OK スイッチを押して、設定を保存します。

ⓘ 速度は、mphで表示されます。

ライトサブメニュー

デイタイムドライビングライトの設定

デイタイムライト 機能は、エンジンが停止でオンにすることができます。

▶ ステアリングの◀ または ▶ スイッチを押して、ｾｯﾃｲ メニューを選択します。
▶ ▼ または ▲ スイッチを押して、ライト サブメニューを選択します。
▶ 押して OK 確定します。
▶ ▼ または ▲ を押して、デイタイムライト 機能を選択します。
デイタイムライト をオンに設定すると、マルチファンクションディスプレイにライトの円錐形と ☀ アイコンが赤色で表示されます。
▶ OK スイッチを押して、設定を保存します。

ⓘ デイタイムライト機能をオンに設定しているときは、昼間でもロービームヘッドライトが常時点灯します。 そのため、この機能をオフに設定し、ライトスイッチを操作してライトを手動で点灯させてください。

インテリジェントライトシステムのオン/オフ

- ステアリングの ◀ または ▶ スイッチを押して、設定 メニューを選択します。
- ▼ または ▲ スイッチを押して、ライト サブメニューを選択します。
- 押して OK 確定します。
- ▼ または ▲ スイッチを押して、ｲﾝﾃﾘｼﾞｪﾝﾄ ﾗｲﾄｼｽﾃﾑ 機能を選択します。ｲﾝﾃﾘｼﾞｪﾝﾄ ﾗｲﾄｼｽﾃﾑ 機能がオンのときは、ライトの円錐形とマークがマルチファンクションディスプレイに赤く表示されます。
- OK スイッチを押して、設定を保存します。

ｲﾝﾃﾘｼﾞｪﾝﾄ ﾗｲﾄｼｽﾃﾑ 機能をオンにすると、以下の機能が作動します。

- ハイウェイモード
- アクティブライトシステム
- コーナリングライト
- フォグランプ強化機能

ロービームヘッドライトを右側通行 / 左側通行用に設定しているときは、ライト サブメニューのｲﾝﾃﾘｼﾞｪﾝﾄ ﾗｲﾄｼｽﾃﾑ機能の代わりに、ｲﾝﾃﾘｼﾞｪﾝﾄﾗｲﾄｼｽﾃﾑ ｼｽﾃﾑ作動できません 左側通行設定では無効 または ｲﾝﾃﾘｼﾞｪﾝﾄﾗｲﾄｼｽﾃﾑ ｼｽﾃﾑ作動できません 右側通行設定では無効(▷ 267 ページ) というメッセージがマルチファンクションディスプレイに表示されます。

インテリジェントライトシステムのについて、詳しくは (▷ 127 ページ) をご覧ください。

ロービームヘッドライトの左側/右側通行設定

- ステアリングの ◀ または ▶ スイッチを押して、設定 メニューを選択します。
- ▼ または ▲ スイッチを押して、ライト サブメニューを選択します。
- 押して OK 確定します。
- ▼ または ▲ スイッチを押して、ﾍｯﾄﾞﾗﾝﾌﾟﾛｰﾋﾞｰﾑ設定機能を選択します。選択されている設定が表示されます：右側通行用 または 左側通行用
- OK スイッチを押して、設定を保存します。
  設定を変更すると、次に停車したときに変更が実行されます。

この機能は、インテリジェントライトシステム装備車にのみ用意されています。

この機能を使用して、ロービームヘッドライトを左右対称または左右非対称に切り替えることができます。

ロービームヘッドライトを右側通行 / 左側通行用に設定しているときは、ハイウェイモードおよびフォグランプ強化機能が解除されます。

ロービームヘッドライトを右側通行 / 左側通行に適した設定に切り替えるときは、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で作業を行なってください。

アダプティブハイビームアシストのオン/オフの切り替え

- ステアリングの ◀ または ▶ スイッチを押して、設定 メニューを選択します。
- ▼ または ▲ スイッチを押して、ライト サブメニューを選択します。
- OK を押して確定します。

- ▼ または ▲ スイッチを押して、ｱﾀﾞﾌﾟﾃｨﾌﾞ ﾊｲﾋﾞｰﾑ 機能を選択します。ｱﾀﾞﾌﾟﾃｨﾌﾞ ﾊｲﾋﾞｰﾑ 機能を作動させると、マルチファンクションディスプレイの上部に照射範囲および マークが表示されます。
- OK スイッチを押して、設定を保存します。

アダプティブハイビームアシストについて、詳しくは (▷ 129 ページ) をご覧ください。

アンビエントライトの照度の設定

- ステアリングの ◀ または ▶ スイッチを押して、設定 メニューを選択します。
- ▼ または ▲ スイッチを押して、ライト サブメニューを選択します。
- 押して OK 確定します。
- ▼ または ▲ スイッチを押して、ｱﾝﾋﾞｴﾝﾄﾗｲﾄ 明るさ 機能を選択します。選択されている設定が表示されます。
- 押して OK 確定します。
- ▼ または ▲ スイッチを押して、照度のレベルを オフ から レベル5（明るさ）まで調整します。
- OK または ↩ スイッチを押して、設定を保存します。

アンビエントライトの色彩の設定

- ステアリングの ◀ または ▶ スイッチを押して、設定 メニューを選択します。
- ▼ または ▲ スイッチを押して、ライト サブメニューを選択します。
- 押して OK 確定します。
- ▼ または ▲ スイッチを押して、ｱﾝﾋﾞｴﾝﾄﾗｲﾄ ｶﾗｰ 機能を選択します。
- 押して OK 確定します。
- ▼ または ▲ スイッチを押して、ソーラー, ニュートラル または ポーラー にカラーを設定します。
- OK または ↩ スイッチを押して、設定を保存します。

ロケイターライティング

- ステアリングの ◀ または ▶ スイッチを押して、設定 メニューを選択します。
- ▼ または ▲ スイッチを押して、ライト サブメニューを選択します。
- 押して OK 確定します。
- ▼ または ▲ を押して、ﾛｹｲﾀｰﾗｲﾃｨﾝｸﾞ 機能を選択します。ﾛｹｲﾀｰﾗｲﾃｨﾝｸﾞ 機能を設定しているときは、マルチファンクションディスプレイにライトのアイコンと車両の周辺が赤色で表示されます。
- OK スイッチを押して、設定を保存します。

車外ランプ残照機能を一時的に解除する

- 車両から離れる前に、イグニッション位置を 0 にします。
- イグニッション位置を 2 にします。車外ランプ残照機能が一時的に解除されます。

次にエンジンを始動すると、車外ランプ残照機能が再び設定されます。

ﾛｹｲﾀｰﾗｲﾃｨﾝｸﾞ 機能を設定し、ライトスイッチを AUTO の位置にすると、周囲が暗いときに以下の機能が作動します。

- **ロケイターライティング**： キーで車を解除すると、車外ランプが約40 秒間点灯し続けます。 エンジンを始動するとロケイターライティングの機能が解除され、ヘッドライト自動点灯モードに設定されます。 (▷ 122 ページ)
- **車外ランプ残照機能**： エンジンを停止した後、約60 秒間点灯し続けます。

すべてのドアとテールゲートを閉じると、約5 秒後に車外ランプが消灯します。

ⓘ ロケイターライティングおよび車外ランプ残照機能を設定すると、車両の装備に応じて以下のランプが点灯します。

- 車幅灯
- デイタイムドライビングライト
- ドアミラーのロケイターライティング

ルームライト消灯遅延機能のオン/オフ

ﾙｰﾑﾗﾝﾌﾟ消灯遅延機能がオンになっているときは、エンジンスイッチからキーを抜いた後、ルームライトが約 20秒間点灯したままになります。

- ▶ ステアリングの ◀ または ▶ スイッチを押して、設定 メニューを選択します。
- ▶ ▼ または ▲ スイッチを押して、ライト サブメニューを選択します。
- ▶ 押して OK 確定します。
- ▶ ▼ または ▲ を押して、ﾙｰﾑﾗﾝﾌﾟ消灯遅延 機能を選択します。
  ﾙｰﾑﾗﾝﾌﾟ消灯遅延 機能をオンにすると、マルチファンクションディスプレイで車内が赤く表示されます。
- ▶ OK スイッチを押して、設定を保存します。

車両サブメニュー

スノータイヤスピードリミッターを設定する

- ▶ ステアリングの ◀ または ▶ スイッチを押して、設定 メニューを選択します。
- ▶ ▼ または ▲ を押して、車両 サブメニューを選択します。
- ▶ 押して OK 確定します。
- ▶ ▼ または ▲ スイッチを押して、速度制限（冬タイヤ） 機能を選択します。
  現在の設定が表示されます。
- ▶ 押して OK 確定します。
- ▶ ▼ または ▲ スイッチを押して、10 km/h 単位 （230 km/h ～ 160 km/h）でスノータイヤスピードリミッターを調整します。 オフ 設定で、スノータイヤスピードリミッターは解除されます。
- ▶ OK スイッチを押して、入力を確定します。

スノータイヤスピードリミッターに関する詳細 (▷ 196 ページ)

車速感応ドアロック機能のオン/オフの切り替え

車速感応ドアロック 機能が設定されているときは、走行速度が約 15 km/h 以上になると自動的にすべてが施錠されます。

- ▶ ステアリングの ◀ または ▶ スイッチを押して、設定 メニューを選択します。
- ▶ ▼ または ▲ を押して、車両 サブメニューを選択します。
- ▶ 押して OK 確定します。
- ▶ ▼ または ▲ を押して、車速感応ドアロック 機能を選択します。
  車速感応ドアロック 機能を設定しているときは、マルチファンクションディスプレイにドアが赤色で表示されます。
- ▶ OK スイッチを押して、設定を保存します。

車速感応ドアロックについて、詳しくは (▷ 87 ページ) をご覧ください。

キーアンサーバックの設定および解除

キー アンサーバック機能を設定しているときは、車を施錠すると確認音が鳴ります。

- ステアリングの ◀ または ▶ スイッチを押して、設定 メニューを選択します。
- ▼ または ▲ を押して、車両 サブメニューを選択します。
- 押して OK 確定します。
- ▼ または ▲ スイッチを押して、キー アンサーバック機能を選択します。
  キー アンサーバック 機能を設定しているときは、マルチファンクションディスプレイの 🔒 表示灯が点灯します。
- OK スイッチを押して、設定を保存します。

レーダーセンサーシステムのオン/オフ

- ステアリングの ◀ または ▶ スイッチを押して、設定 メニューを選択します。
- ▼ または ▲ を押して、車両 サブメニューを選択します。
- OK を押して確定します。
- ▲ または ▼ スイッチを押して、レーダーセンサー（取扱説明書を参照） を選択します。
  選択されている設定が表示されます：オン または オフ
- OK スイッチを押して、設定を保存します。

ℹ 特定の国や近辺の電波望遠鏡施設の近辺では、レーダーセンサーシステムを解除する必要があります。 詳しい情報は、(▷ 418 ページ)をご覧ください。

電波望遠鏡施設の近くにいるときには、レーダーセンサーシステムは自動的に解除されます。

レーダーセンサーシステムが解除されると、以下のシステムはオフになります。

- ディストロニック・プラス(▷ 196 ページ)
- BASプラス（ブレーキアシストプラス） (▷ 63 ページ)
- PRE-SAFE® ブレーキ (▷ 71 ページ)
- ブラインドスポットアシスト (▷ 228 ページ)
- アクティブブラインドスポットアシスト (▷ 232 ページ)

コンフォートサブメニュー

イージーエントリー機能の作動および解除

⚠ 警告

イージーエントリー機能が作動している場合は、ステアリングが動くので、乗員が身体を挟まれるおそれがあります。イージーエントリー機能を作動させる前に、身体が挟まれるおそれがないことを確認してください。

チャイルドセーフティシートに固定している場合でも、保護者の付き添いのない子供を車内に残さないでください。 子供が運転席側ドアを開いて、予期せずにイージーエントリー機能を作動させ、身体を挟まれるおそれがあります。

- ステアリングの ◀ または ▶ スイッチを押して、設定 メニューを選択します。
- ▼ または ▲ スイッチを押して、コンフォート サブメニューを選択します。
- 押して OK 確定します。

- ▼ または ▲ スイッチを押して、イージーエントリー 機能を選択します。
  イージーエントリー 機能を設定しているときは、マルチファンクションディスプレイにステアリングのアイコンが赤色で表示されます。
- OK スイッチを押して、設定を保存します。

イージーエントリー機能に関する詳細 (▷ 115 ページ)

ベルト調整のオン/オフ

- ステアリングの ◀ または ▶ スイッチを押して、設定 メニューを選択します。
- ▼ または ▲ スイッチを押して、コンフォート サブメニューを選択します。
- 押して OK 確定します。
- ▼ または ▲ スイッチを押して、ベルト調整 機能を選択します。
  ベルト調整 機能を設定すると、マルチファンクションディスプレイに車両のシートベルトが赤で表示されます。
- OK スイッチを押して、設定を保存します。

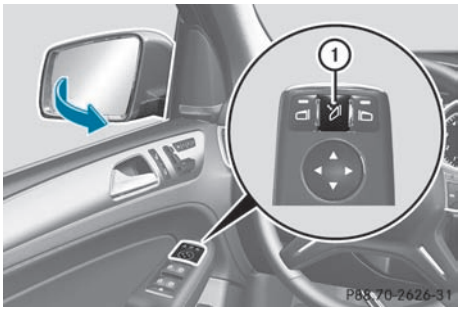
ベルト調整について、詳しくは (▷ 47 ページ)を参照してください。

施錠時のミラー格納のオン/オフ

この機能は、メモリー機能装備車でのみ使用可能です(▷ 119 ページ)。

ﾛｯｸ時のﾐﾗｰ格納 機能を設定しているときは、車を施錠するとドアミラーが自動的に格納されます。 車を解錠してドアを開くと、格納されたドアミラーが再び展開します。

- ステアリングの ◀ または ▶ スイッチを押して、ｾｯﾃｲ メニューを選択します。
- ▼ または ▲ スイッチを押して、コンフォート サブメニューを選択します。
- 押して OK 確定します。
- ▼ または ▲ を押して、ﾛｯｸ時のﾐﾗｰ格納 機能を選択します。
  ﾛｯｸ時のﾐﾗｰ格納 機能が作動すると、マルチファンクションディスプレイの車両のドアミラーが赤色に表示されます。
- OK スイッチを押して、設定を保存します。



① ドアミラー格納/展開スイッチ

ﾛｯｸ時のﾐﾗｰ格納 機能をオンにして、ドアミラーをスイッチ ① を使用して格納すると、自動で展開することができません (▷ 117 ページ)。

スイッチ ① を使用してのみドアミラーを展開することができます。

工場出荷時の設定に初期化する

- ステアリングの ◀ または ▶ スイッチを押して、設定 メニューを選択します。
- ▼ または ▲ スイッチを押して、設定サブメニューを選択します。

▶ 押して OK 確定します。
全ての設定を初期化しますか?というメッセージが表示されます。
▶ ▼ または ▲ スイッチを押して、いいえまたはをはいを選択します。
▶ OK スイッチを押して、選択を確定します。
はいを選択したときは、マルチファンクションディスプレイに確認メッセージが表示されます。

安全確保のため、すべての機能が初期化されるとは限りません。スノータイヤスピードリミッターの速度制限（冬タイヤ）機能は、車両サブメニューでのみ設定できます。 ライト サブメニューの デイタイムライト を初期化したいときは、イグニッション位置を1にしなければなりません。

オン&オフロードメニュー



例：マルチファンクションディスプレイ

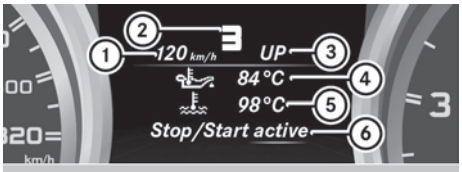
▶ ステアリングの ◀ または ▶ スイッチを押して、ON&OFFROAD メニューを選択します。

ON&OFFROAD メニューでは、以下の項目を表示/設定できます。

- オンロードプログラム(▷ 239 ページ)
- オフロードプログラム (▷ 244 ページ)

AMGメニュー（AMG車）

AMGディスプレイ



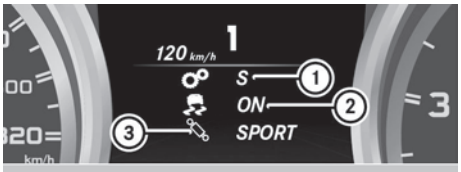
① デジタルスピードメーター
② シフトインジケーター
③ シフトアップインジケーター
④ エンジンオイル温度
⑤ 冷却水温度計
⑥ ECOスタート/ストップ機能ステータスインジケーター (▷ 161 ページ)

▶ ステアリングの ◀ または ▶ スイッチを押して、AMGメニューを選択します。

マニュアルギアシフトのときにシフトアップインジケータにUP ③ が表示されたときは、エンジンが過回転域に入っていることを示しています。 シフトアップインジケーターのUP ③ は、シフトアップ操作を行なうと他のメッセージに変わります。

エンジンオイル温度が約80 ℃よりも低いときは、油温ゲージが青色で表示されます。 この間は、エンジンを最大出力にしないでください。

セットアップ画面



① 走行モード（C/S/M）

② ESP® モード（ON/OFF）

③ サスペンションモード(COMFORT/SPORT/SPORT+)

SETUPは走行モード、ESP®（エレクトロニック・スタビリティ・プログラム）モード、およびサスペンション制御を表示します。

▶ ステアリングの ◀ または ▶ スイッチを押して、AMGメニューを選択します。

▶ SETUPが表示されるまで、 ▲ スイッチを繰り返し押します。

レースタイマー

レースタイマーの表示と開始

⚠ 警告

レースタイマー機能は高速走行が許可されている道路上で、該当する条件に合致した場合にのみ使用することを前提としています。公道でのレース走行はいかなる状況下でも許可されません。運転者は常に制限標識の速度を遵守する義務があります。



① ラップ

② レースタイマー

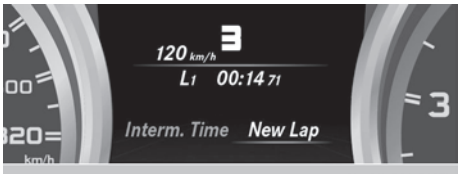
レースタイマーは、エンジンがかかっているか、またはエンジンスイッチが 2 の位置のときに開始できます。

▶ ステアリングの ◀ または ▶ スイッチを押して、AMGメニューを選択します。

▶ レースタイマーが表示されるまで、 ▲ スイッチを繰り返し押します。

▶ **開始する:** OK スイッチを押して、レースタイマーを開始します。

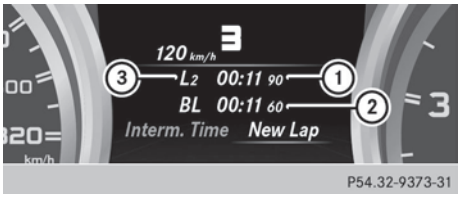
スプリットタイムの表示



▶ ◀ または ▶ スイッチを押して、Interm. Time（スプリットタイム）を選選択します。

▶ 押して OK 確定します。
5 秒間スプリットタイムが表示されます。

新しいラップの開始



① レースタイマー

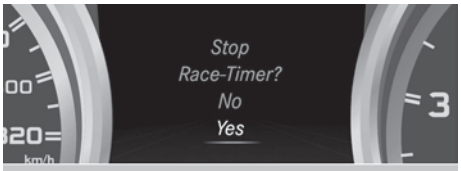
② 最速ラップタイム(ベストラップ)

③ ラップ

▶ OK を押して、New Lap（新しいラップ） を確定します。

ⓘ 最大１６ラップまで保存することができます。 ラップ16はFinish Lapでのみ停止できます。

レースタイマーの停止



P54.32-9375-31

- ステアリングの ⮌ スイッチを押します。
- OKを押して、はいを確定します。

車両を停止して、エンジンスイッチのキーを 1 の位置にしたときに、レースタイマーの計測は中断します。 キーを 2 または 3 の位置にまわして、それからOK を押してStartを確定すると、計測は継続します。

現在のラップのリセット

- レースタイマーを停止します。
- ◀ または ▶ を押して Reset Lap（ラップのリセット）を選択します。
- OK を押して、ラップタイムを"0"にリセットします。

全ラップの削除



P54.32-9377-31

エンジンを停止すると、レースタイマーが約30 秒後に"0"にリセットされます。全ラップが削除されます。

保存されたラップを個々に削除することはできません。 16ラップを停止する場合、現在のラップをリセットする必要はありません。

- 現在のラップをリセットします。
- OK を押して、Reset（リセット）を確定します。
  マルチファンクションディスプレイに Reset Race Timer? と表示されます。
- ▼ スイッチを押して、 はい を選択し、OK スイッチを押して確定します。
  全ラップが削除されます。

全ラップの計測結果を確認



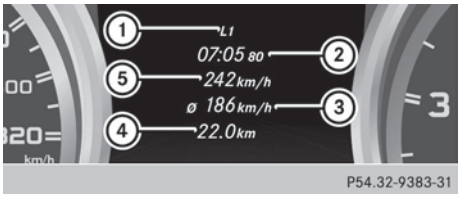
P54.32-9381-31

① レースタイマー全体の計測結果
② 全走行時間
③ 平均速度
④ 走行距離
⑤ 最高速度

この機能は、少なくとも１ラップを保存していて、レースタイマーが停止しているときに表示されます。

- ステアリングの ◀ または ▶ スイッチを押して、AMGメニューを選択します。
- 全体の計測結果が表示されるまで、▲ スイッチを繰り返し押します。

ラップごとの計測結果を確認



① ラップ
② ラップタイム
③ ラップでの平均速度
④ ラップの走行距離
⑤ ラップでの最高速度

この機能は、少なくとも2ラップが保存されていて、レースタイマーが停止しているときに使用できます。

- ステアリングの ◀ または ▶ スイッチを押して、AMGメニューを選択します。
- ラップ計測結果が表示されるまで、▲ スイッチを繰り返し押します。サブメニューごとに、それぞれのラップが表示されます。 最速ラップは、①マークが点滅して表示されます。
- ▲ または ▼ スイッチを押して、他のラップ計測結果を選択します。

ディスプレイメッセージ

概要

全体的な注意事項

ディスプレイメッセージはマルチファンクションディスプレイに表示されます。

取扱説明書では記号マークを伴うディスプレイメッセージを簡略化しているため、マルチファンクションディスプレイのマークと異なる場合があります。

ディスプレイメッセージの指示に従って対応し、この取扱説明書の追加の注意事項に従ってください。

特定のディスプレイメッセージには、警告音、または連続音が伴います。

駐停車するときは、以下に関する注意事項をお守りください。

- ホールド機能 (▷ 210 ページ)
- 駐車 (▷ 177 ページ)

ディスプレイメッセージを非表示にする

▶ ディスプレイメッセージを非表示にするには、ステアリングの OK または ⮌ スイッチを押します。
ディスプレイメッセージが消えます。

マルチファンクションディスプレイには、重要度の高いメッセージが赤色で表示されます。 一部の優先順位の高いディスプレイメッセージは、非表示にできません。これらのメッセージは、故障や異常の原因が解決するまでマルチファンクションディスプレイに常時表示されます。

メッセージメモリー

マルチファンクションディスプレイは、特定のディスプレイメッセージを **メッセージメモリー**に保存します。以下のようにしてディスプレイメッセージを呼び出すことができます。

▶ ステアリングの ◀ または ▶ スイッチを押して、ﾒﾝﾃﾅﾝｽ メニューを選択します。
メッセージがある場合は、ディスプレイに 2 メッセージ のように故障の件数が表示されます。

▶ ▲ または ▼ スイッチを押して、2 メッセージ を選択します。

▶ OK を押して確定します。

▶ ▲ または ▼ スイッチを押して、ディスプレイメッセージをスクロールします。

エンジンスイッチからキーを抜くと、重要度の高い一部のメッセージを除いて、メッセージがすべて削除されます。 故障の原因が解決すると、重要度の高いメッセージも削除されます。

安全装備

ディスプレイメッセージ	考えられる原因および影響 ▶ 解決方法
 現在使用できません 取扱説明書を参照	ABS（アンチロック・ブレーキング・システム）、ESP®（エレクトロニック・スタビリティ・プログラム）、BAS（ブレーキアシスト）、PRE-SAFE®、ホールド機能、ヒルスタートアシスト、クロスウインドドライビングアシストが一時的に作動しない状態になっている。 アダプティブブレーキライト、コリジョンプリベンションアシスト、BASプラス、PRE-SAFE® ブレーキも故障した。 メーターパネルの 、、 警告灯も点灯している。 アテンションアシストの機能は解除されている。 考えられる原因 • セルフ・ダイアグノシスがまだ完了していない。 • バッテリーの電圧が不十分な可能性がある。 **⚠ 警告** ブレーキは通常通り作動するが、上記の機能は作動しない。そのため、急ブレーキ時などにはタイヤがロックする可能性がある。 ステアリング操作やブレーキの作動が大幅に損なわれるおそれがある。 緊急ブレーキ時の制動距離が伸びる可能性がある。 ESP® が作動しない場合は、ESP® の機能で走行安全性を確保することができない。 横滑りして事故が起きる危険が増える。 ▶ 約 20 km/h 以上の速度で緩やかにステアリング操作しながら、適切な道路を選んで注意して走行してください。ディスプレイメッセージが消えると、上記の機能が再び作動します。 ディスプレイメッセージが消えないとき ▶ 注意して運転してください。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
	故障のため、ABS、ESP®、BAS、PRE-SAFE®、ホールド機能、ヒルスタートアシスト、およびクロスウインドドライビングアシストが作動しない状態になっている。

ディスプレイメッセージ	考えられる原因および影響 ▶ 解決方法
作動できません 取扱説明書を参照	アダプティブブレーキライト、コリジョンプリベンションアシスト、BASプラス、PRE-SAFE® ブレーキも故障した。 さらに、メーターパネルの [(!)] [車] 、 [車 OFF] 、 [(ABS)] 警告灯も点灯している。 アテンションアシストの機能は解除されている。 **⚠ 警告** ブレーキは通常通り作動するが、上記の機能は作動しない。そのため、急ブレーキ時などにはタイヤがロックする可能性がある。 ステアリング操作やブレーキの作動が大幅に損なわれるおそれがある。 緊急ブレーキ時の制動距離が伸びる可能性がある。 ESP® が作動しない場合は、ESP® の機能で走行安全性を確保することができない。 横滑りして事故が起きる危険が増える。 ▶ 注意して運転してください。 ▶ ただちにメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

ディスプレイメッセージ	考えられる原因および影響 ▶ 解決方法
 現在 使用できません 取扱説明書を参照	故障のため、ESP®、BAS、PRE-SAFE®、ホールド機能、ヒルスタートアシスト、およびクロスウインドドライビングアシストが作動しない状態になっている。 アダプティブブレーキライト、コリジョンプリベンションアシスト、BASプラス、PRE-SAFE® ブレーキも故障した。 さらに、メーターパネルの  と  警告灯も点灯している。 たとえば、セルフ・ダイアグノシスがまだ完了していないと考えられる。 アテンションアシストの機能は解除されている。 **⚠ 警告** ブレーキは通常通り作動するが、上記の機能は作動しない。そのため、急ブレーキ時などにはタイヤがロックする可能性がある。 これにより緊急ブレーキ時の制動距離が伸びる可能性がある。 ESP® が作動しない場合は、ESP® の機能で走行安全性を確保することができない。 横滑りして事故が起きる危険が増える。 ▶ 約 20 km/h 以上の速度で緩やかにステアリング操作しながら、適切な道路を選んで注意して走行してください。ディスプレイメッセージが消えると、上記の機能が再び作動します。 ディスプレイメッセージが消えないとき ▶ 注意して運転してください。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

ディスプレイメッセージ	考えられる原因および影響 ▶ 解決方法
 作動できません 取扱説明書を参照	故障のため、ESP®、BAS、PRE-SAFE®、ホールド機能、ヒルスタートアシスト、およびクロスウインドドライビングアシストが作動しない状態になっている。 アダプティブブレーキライト、コリジョンプリベンションアシスト、BASプラス、PRE-SAFE® ブレーキも故障した。 さらに、メーターパネルの  と  警告灯も点灯している。 アテンションアシストの機能は解除されている。 **⚠ 警告** ブレーキは通常通り作動するが、上記の機能は作動しない。そのため、急ブレーキ時などにはタイヤがロックする可能性がある。 これにより緊急ブレーキ時の制動距離が伸びる可能性がある。 ESP® が作動しない場合は、ESP® の機能で走行安全性を確保することができない。 横滑りして事故が起きる危険が増える。 ▶ 注意して運転してください。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

ディスプレイメッセージ	考えられる原因および影響 ▶ 解決方法
EBD   作動できません 取扱説明書を参照	故障のため、EBD（エレクトロニック・ブレーキパワー・ディストリビューション）、ABS、ESP®、BAS、PRE-SAFE®、ホールド機能、ヒルスタートアシストおよびクロスウインドドライビングアシストが作動しない状態になっている。 アダプティブブレーキライト、コリジョンプリベンションアシスト、BASプラス、PRE-SAFE® ブレーキも故障した。 さらに、メーターパネルの  と 、 も点灯し、警告音が鳴った。 アテンションアシストの機能は解除されている。 **⚠ 警告** ブレーキは通常通り作動するが、上記の機能は作動しない。そのため、急ブレーキ時などにはタイヤがロックする可能性がある。 ステアリング操作やブレーキの作動が大幅に損なわれるおそれがある。 緊急ブレーキ時の制動距離が伸びる可能性がある。 ESP® が作動しない場合は、ESP® の機能で走行安全性を確保することができない。 横滑りして事故が起きる危険が増える。 ▶ 注意して運転してください。 ▶ ただちにメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
 パーキングブレーキ解除してください	赤色の  警告灯が点滅し、警告灯も鳴った。 パーキングブレーキを自動解除する条件が満たされていない。 (▷ 179 ページ) パーキングブレーキをかけた状態で走行している。 ▶ パーキングブレーキを手動で解除してください。
	赤色の 警告灯が点滅し、警告灯も鳴った。 パーキングブレーキを使用して緊急停止している。 (▷ 179 ページ)

ディスプレイメッセージ	考えられる原因および影響 ▶ 解決方法
 パーキングブレーキ 取扱説明書参照	黄色の  警告灯が点灯している。 パーキングブレーキが故障している。 **作動させる** ▶ イグニッションをオフにします。 ▶ パーキングブレーキのハンドルを約10 秒以上押し続けてください。 ▶ シフトポジションを P にしてください。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場にご連絡ください。
	黄色の  警告灯と赤色の 表示灯が点灯している。 パーキングブレーキが故障している。 **解除する** ▶ エンジンスイッチをいったんオフにし、再びオンにしてください。 ▶ パーキングブレーキを手動で解除してください。 または ▶ パーキングブレーキを自動で解除してください。 (▷ 179 ページ) それでもパーキングブレーキを解除できないとき ▶ 走行を続けないでください。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場にご連絡ください。

ディスプレイメッセージ	考えられる原因および影響 ▶ 解決方法
	赤色の Ⓟ 表示灯が点滅し、黄色の Ⓟ 警告灯が点灯している。 パーキングブレーキが故障している。 **解除する** ▶ エンジンスイッチをいったんオフにし、再びオンにしてください。 ▶ パーキングブレーキを手動で解除してください。 **作動させる** ▶ エンジンスイッチをいったんオフにし、再びオンにしてください。 ▶ パーキングブレーキを手動で作動させてください。 赤色の Ⓟ 表示灯が点滅し続けるとき ▶ 走行を続けないでください。 ▶ 車両が動き出さないように固定してください。 (▷ 396 ページ) ▶ シフトポジションを P にしてください。 ▶ 前輪を縁石側に向けます。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場にご連絡ください。

ディスプレイメッセージ	考えられる原因および影響 ▶ 解決方法
	黄色の [Ⓟ] 警告灯が点灯している。 パーキングブレーキの作動 / 解除を行なった後、赤色の [Ⓟ] 表示灯が約10 秒間点滅した。 その後で消灯または常時点灯した。 パーキングブレーキが故障している。 ▶ エンジンスイッチをいったんオフにし、再びオンにしてください。 ▶ パーキングブレーキを作動させてください。 パーキングブレーキを作動させることができないとき ▶ シフトポジションを P にしてください。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。 パーキングブレーキを解除できないとき ▶ パーキングブレーキを自動で解除してください。 (▷ 179 ページ) それでもパーキングブレーキを解除できないとき ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場にご連絡ください。
	黄色の [Ⓟ] 警告灯が点灯している。 パーキングブレーキの作動 / 解除を手動で行なうと、赤色の [Ⓟ] 表示灯が点滅した。 パーキングブレーキが故障している。 手動でパーキングブレーキの作動 / 解除を行なうことができない。 ▶ シフトポジションを P にしてください。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

ディスプレイメッセージ	考えられる原因および影響 ▶ 解決方法
 ﾊﾟｰｷﾝｸﾞ ﾌﾞﾚｰｷ 作動できません	黄色の Ⓟ 警告灯が点灯している。 パーキングブレーキの作動 / 解除を行なった後、赤色の Ⓟ 表示灯が約10 秒間点滅した。 その後で消灯または常時点灯した。 過電圧や電圧不足などが原因で、パーキングブレーキが故障している。 ▶ バッテリーの充電やエンジンの再始動などを行ない、過電圧または電圧不足の原因をなくしてください。 ▶ パーキングブレーキを作動 / 解除してください。 まだパーキングブレーキの作動 / 解除ができないとき ▶ エンジンスイッチをいったんオフにし、再びオンにしてください。 ▶ パーキングブレーキを作動 / 解除してください。 それでもパーキングブレーキを解除できないとき ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場にご連絡ください。
	ディスプレイメッセージが走行中のみ表示される。 赤色の Ⓟ 表示灯が点滅し、黄色の Ⓟ 警告灯が点灯している。 手動でパーキングブレーキの作動 / 解除を行なうことができない。 ▶ シフトポジションを P にしてください。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
 ﾊﾟｰｷﾝｸﾞ ﾌﾞﾚｰｷ ｲｸﾞﾆｯｼｮﾝ ｵﾝ で 解除できます	赤色の Ⓟ 表示灯が点灯している。 エンジンスイッチがオフのときにパーキングブレーキを解除しようとした。 ▶ **キー：** イグニッション位置を 1 にしてください。 ▶ **キーレスゴー：** イグニッションをオンにしてください。

ディスプレイメッセージ	考えられる原因および影響 ▶ 解決方法
 ブレーキ液レベル 点検して ください	リザーブタンクのブレーキ液量が不足している。 さらに、メーターパネルの  警告灯が点灯し、警告音も鳴った。 **⚠ 警告** ブレーキの性能が損なわれるおそれがあります。 事故の危険性があります。 ▶ 周囲の道路や交通状況に注意しながら、すみやかに安全な場所に停車してください。 状況を問わず、走行しないでください。 ▶ 車両が動き出さないように固定してください。 (▷ 177 ページ) ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場にご連絡ください。 ▶ 絶対にブレーキ液を補給しないでください。 ブレーキ液を補給しても問題は解消しません。
 ブレーキパッド磨耗 点検して ください	ブレーキパッド / ライニングの摩耗が限界に達している。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
プレセーフ 作動できません 取扱説明書を参照	PRE-SAFE®の重要な機能に異常がある。 エアバッグなどの他の乗員保護装置はすべて機能している。 ▶ ただちにメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

ディスプレイメッセージ	考えられる原因および影響 ▶ 解決方法
プレセーフ 機能が現在 制限されています 取扱説明書を参照	アクティブドライビングアシスタンスパッケージ非装備車：アダプティブブレーキアシストが一時的に作動しない状態になっている。 考えられる原因 • 激しい雨や雪により機能が損なわれている • バンパーに装着されたセンサーが汚れている • 周囲のテレビ・ラジオ放送局などの設備から発生している電磁波などの影響により、レーダーセンサーシステムが一時的に作動しない状態になっている • AMG 車：ESP® が解除された • システムが作動温度範囲外にある • バッテリーの電圧が低下している 上記の原因が解消すると、ディスプレイメッセージが消える。 アダプティブブレーキアシストが再び作動する。 ディスプレイメッセージが消えないとき ▶ 周囲の道路や交通状況に注意しながら、すみやかに安全な場所に停車してください。 ▶ 車両が動き出さないように固定してください。 (▷ 177 ページ) ▶ バンパーを清掃してください。 (▷ 360 ページ) ▶ エンジンを再始動してください。 ▶ AMG 車：ESP® を再び作動させてください。(▷ 69 ページ)

ディスプレイメッセージ	考えられる原因および影響 ▶ 解決方法
プレセーフ 機能が現在 制限されています 取扱説明書を参照	アクティブドライビングアシスタンスパッケージ装備車：PRE-SAFE® ブレーキが一時的に作動しない状態になっている。 考えられる原因 • 激しい雨や雪により機能が損なわれている • ラジエーターグリルとバンパーに装着されたセンサーが汚れている • 周囲のテレビ・ラジオ放送局などの設備から発生している電磁波などの影響により、レーダーセンサーシステムが一時的に作動しない状態になっている • AMG 車：ESP® が解除された • システムが作動温度範囲外にある • バッテリーの電圧が低下している 上記の原因が解消すると、ディスプレイメッセージが消える。 PRE-SAFE® ブレーキが再び作動します。 ディスプレイメッセージが消えないとき ▶ 周囲の道路や交通状況に注意しながら、すみやかに安全な場所に停車してください。 ▶ 車両が動き出さないように固定してください。 (▷ 177 ページ) ▶ ラジエーターグリルとバンパーに装着されたセンサーを清掃します(▷ 360 ページ)。 ▶ エンジンを再始動してください。 ▶ AMG 車：ESP® を再び作動させてください。(▷ 69 ページ)
プレセーフ 機能が 制限されています 取扱説明書を参照	アクティブドライビングアシスタンスパッケージ非装備車：アダプティブブレーキアシストが故障している。 車間距離警告機能も故障した。 アクティブドライビングアシスタンスパッケージ装備車：PRE-SAFE® ブレーキが故障している。 BASプラスまたは車間距離警告機能も故障した。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

ディスプレイメッセージ	考えられる原因および影響 ▶ 解決方法
 SRS システム 故障 工場で点検	SRS（乗員保護補助装置）が故障している。 メーターパネルの  警告灯も点灯している。 ⚠ 警告 エアバッグやシートベルトテンショナーが不意に作動したり、事故のときに作動しなくなるおそれがある。 けがをするおそれが高まります。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。 乗員安全についての詳しい情報 (▷ 39 ページ)
 フロント左 SRSシステム故障 工場で点検 またはフロント右 SRSシステム故障 工場で点検	フロント左側またはフロント右側のSRSに異常がある。 メーターパネルの  警告灯も点灯している。 ⚠ 警告 エアバッグやシートベルトテンショナーが不意に作動したり、事故のときに作動しなくなるおそれがある。 けがをするおそれが高まります。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
 リア左 SRSシステム故障 工場で点検 または リア右 SRSシステム故障 工場で点検	リア左側またはリア右側のSRS に異常がある。 メーターパネルの  警告灯も点灯している。 ⚠ 警告 エアバッグやシートベルトテンショナーが不意に作動したり、事故のときに作動しなくなるおそれがある。 けがをするおそれが高まります。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

ディスプレイメッセージ	考えられる原因および影響 ▶ 解決方法
 リア中央 SRSシステム故障 工場で点検	リア中央の SRS に異常がある。 メーターパネルの  警告灯も点灯している。 ⚠ 警告 エアバッグやシートベルトテンショナーが不意に作動したり、事故のときに作動しなくなるおそれがある。 けがをするおそれが高まります。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
 左ウインドウバッグ故障 工場で点検 または 右ウインドウバッグ 故障 工場で点検	左側または右側のウインドウバッグに異常がある。 メーターパネルの 警告灯も点灯している。 ⚠ 警告 左側または右側のウインドウバッグが不意に作動したり、事故のときに作動しなくなるおそれがある。 けがをするおそれが高まります。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

ライト

ⓘ LEDに関するディスプレイメッセージ

以下のディスプレイメッセージは、すべてのLEDが故障したときのみ表示されます。

ディスプレイメッセージ	考えられる原因および影響 ▶ 解決方法
 左 コーナリングライトまたは右 コーナリングライト	左右どちらかのコーナリングライトの電球が切れている。 ▶ お客様自身で交換できる電球か確認してください (▷ 133 ページ)。 または ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
 左ロービームまたは右ロービーム	左右どちらかのロービームヘッドライトの電球が切れている。 ▶ お客様自身で交換できる電球か確認してください (▷ 133 ページ)。 または ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
 左リア ウインカーまたは右リア ウインカー	左右どちらかのリア方向指示灯の電球が切れている。 ▶ お客様自身で交換できる電球か確認してください。(▷ 133 ページ) または ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
 左フロント ウインカーまたは右フロント ウインカー	左右どちらかのフロント方向指示灯の電球が切れている。 ▶ お客様自身で交換できる電球か確認してください。(▷ 133 ページ) または ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
 左ドアミラー ウインカーまたは右ドアミラー ウインカー	左右どちらかのドアミラーの方向指示灯の電球が切れている。 ▶ お客様自身で交換できる電球か確認してください。(▷ 133 ページ) または ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

ディスプレイメッセージ	考えられる原因および影響 ▶ 解決方法
 ハイマウントストップランプ	ハイマウントストップランプの電球が切れている。 ▶ お客様自身で交換できる電球か確認してください。(▷ 133 ページ) または ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
 左ブレーキランプまたは右ブレーキランプ	左右どちらかのブレーキランプの電球が切れている。 ▶ お客様自身で交換できる電球か確認してください。(▷ 133 ページ) または ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
 左テールランプ / ブレーキランプまたは右テールランプ / ブレーキランプ	左右どちらかのテールランプ / ブレーキランプの電球が切れている。 ▶ お客様自身で交換できる電球か確認してください。(▷ 133 ページ) または ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
 左ハイビームまたは右ハイビーム	左右どちらかのハイビームの電球が切れている。 ▶ お客様自身で交換できる電球か確認してください。(▷ 133 ページ) または ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
 ライセンスランプ	左右どちらかのライセンスランプの電球が切れている。 ▶ お客様自身で交換できる電球か確認してください。(▷ 133 ページ) または ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

ディスプレイメッセージ	考えられる原因および影響 ▶ 解決方法
 リアフォグランプ	リアフォグランプの電球が切れている。 ▶ お客様自身で交換できる電球か確認してください。(▷ 133 ページ) または ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
 左フロント パーキングランプまたは右フロント パーキングランプ	左右どちらかのフロントパーキングランプの電球が切れている。 ▶ お客様自身で交換できる電球か確認してください。(▷ 133 ページ) または ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
 バックランプ	バックランプの電球が切れている。 ▶ お客様自身で交換できる電球か確認してください。(▷ 133 ページ) または ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
 左テールランプまたは右テールランプ	左右どちらかのテールランプの電球が切れている。 または 左右どちらかの車幅灯の電球が切れている。 ▶ お客様自身で交換できる電球か確認してください。(▷ 133 ページ) または ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

ディスプレイメッセージ	考えられる原因および影響 ▶ 解決方法
 左デイタイム ドライビングランプまたは右デイタイム ドライビングランプ	左右どちらかのデイタイムドライビングランプの電球が切れている。 ▶ お客様自身で交換できる電球か確認してください。(▷ 133 ページ) または ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
 インテリジェントライト システム 作動できません	インテリジェントライトシステムが故障している。 インテリジェントライトシステムは作動しないが、ランプは通常通り点灯する。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
 故障 取扱説明書を参照	車外ランプが故障している。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
 オートライト 作動できません	ランプセンサーが故障している。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
 ライトを 消してください	車から離れるとき、ライトがまだ点灯していた。 警告音も鳴った。 ▶ ライトスイッチを AUTO にまわします。

ディスプレイメッセージ	考えられる原因および影響 ▶ 解決方法
アダプティブ ハイビームアシスト 作動できません	アダプティブハイビームアシストが故障している。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
アダプティブ ハイビームアシスト 現在使用できません 取扱説明書を参照	アダプティブハイビームアシストの機能が解除され、一時的に作動しない状態になっている。 考えられる原因 • フロントウインドウのカメラ設置部分が汚れている • 大雨や雪、霧などにより、視界が妨げられている ▶ フロントウインドウを清掃してください。 カメラが再び正常に機能していることをシステムが認識すると、"アダプティブハイビームアシスト 再び使用可能です" というメッセージが表示されます。 アダプティブハイビームアシストが再び作動します。

エンジン

ディスプレイメッセージ	考えられる原因および影響 ▶ 解決方法
 冷却水を点検 してください 取扱説明書を参照	リザーブタンクの冷却水量がかなり不足している。 **!** エンジン冷却システムの冷却水がかなり不足している状態で長距離走行しないでください。 エンジンを損傷するおそれがあります。 ▶ 冷却水補給時の注意事項に従って、冷却水を補給してください。 (▷ 351 ページ) ▶ 冷却水の減りかたが著しい場合は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
	ラジエターの冷却ファンが故障している。 ▶ 冷却水温度が約 120 ℃以下のときは、最寄りのメルセデス・ベンツ指定サービス工場まで走行することができます。 ▶ 山道の走行などでエンジンに大きな負荷をかけたり、発進 / 停止を繰り返したりしないでください。

ディスプレイメッセージ	考えられる原因および影響 ▶ 解決方法
 冷却水が減少 停車して エンジンを停止	冷却水の温度が高すぎる。 警告音も鳴った。 ⚠ 警告 エンジンがオーバーヒートした状態では絶対に走行しないでください。 エンジンがオーバーヒートしているときに走行すると、エンジンルームに漏れた液体により火災の原因になることがあります ボンネットを開いただけで、過熱したエンジンからの蒸気で重度の火傷をするおそれがある。 けがをするおそれがあります。 ▶ 周囲の道路や交通状況に注意しながら、すみやかに停車し、エンジンを停止してください。 ▶ 車両が動き出さないように固定してください。 (▷ 177 ページ) ▶ 車から降り、エンジンが冷えるまで車から安全な距離を確保してください。 ▶ 雪やほこりなどにより、ラジエターへの送風が遮られていないか確認してください。 ▶ メッセージが消え、冷却水温度が約 120 ℃ 以下になるまではエンジンを始動しないでください。エンジンを損傷するおそれがあります。 ▶ エンジン冷却水温度計で冷却水温度を点検してください。 ▶ 冷却水温度が再び上昇する場合は、ただちにメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。 指定の冷却水を適切な混合比で使用しているときは、通常の作動条件で冷却水温度が約 120 ℃に上がるまではオーバーヒートは起こしません。

ディスプレイメッセージ	考えられる原因および影響 ▶ 解決方法
	バッテリーが充電されていない。 警告音も鳴った。 考えられる原因 • オルタネーターの故障 • Vベルトが切れている • 電気装備の故障 ▶ 周囲の道路や交通状況に注意しながら、すみやかに停車し、エンジンを停止してください。 ▶ ボンネットを開きます。 ▶ Vベルトが損傷していないか点検してください。 **Vベルトが切れているとき** **!** 走行しないでください。 エンジンがオーバーヒートするおそれがあります。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場にご連絡ください。 **Vベルトが損傷していないとき** ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
 給油の際 エンジンオイル量を 点検してください	エンジンオイル量が下限まで減っている。 警告音も鳴った。 ▶ 次回の給油時にはオイル量を点検してください。 (▷ 349 ページ) ▶ 必要であれば、エンジンオイルを補給してください。 (▷ 350 ページ) ▶ エンジンオイルの減りかたが著しい場合は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場でエンジンの点検を受けてください。
 エンジンオイルを 1qt 補充してください	AMG 車：エンジンオイル量が低すぎる。 ▶ 次回の給油時にはオイル量を点検してください。 (▷ 349 ページ) ▶ 必要であれば、エンジンオイルを補給してください。 (▷ 350 ページ) ▶ エンジンオイルの減りかたが著しい場合は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場でエンジンの点検を受けてください。

ディスプレイメッセージ	考えられる原因および影響 ▶ 解決方法
 給油してください	燃料の残量が少なくなっている。 ▶ 最寄りのガソリンスタンドで給油してください。
	燃料タンクに燃料がほとんどない。 ▶ 最寄りのガソリンスタンドで給油してください。

走行装備

ディスプレイメッセージ	考えられる原因および影響 ▶ 解決方法
 アテンションアシスト 休憩しませんか？	アテンションアシストが、一定の基準に基づいて運転者の疲労や注意力低下を検知し、注意を促している。 警告音も鳴った。 ▶ 必要であれば、休憩を取ってください。 長距離運転時には、定期的に休憩を取り、身体を十分に休ませてください。
 アテンションアシスト 作動できません	アテンションアシストが作動しない。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
 速度を落として運転	車高を変更できない場合 考えられる原因 • 設定した車高レベルに対し速度が速すぎる ▶ 速度を落として、希望の車高レベルに再度設定してください。 • ON&OFFROAD パッケージ装備車(▷ 206 ページ) • AIRマティックサスペンションパッケージ装備車(▷ 213 ページ)

ディスプレイメッセージ	考えられる原因および影響 ▶ 解決方法
 コンプレッサ 冷却中	より高い車高レベルを設定した。 車高レベルが頻繁に変化するため、コンプレッサーを冷却する必要がある。 ▶ 現在の車高レベルに適した運転をしてください。 ▶ 十分なロードクリアランスが確保されているか確認してください。 ▶ コンプレッサーが冷却されるまで待ちます。 コンプレッサーが冷却されるとディスプレイメッセージが消えます。 車高が設定したレベルまで上がります。
 故障	AIRマティックサスペンションに異常がある。 ▶ 現在の車高レベルに適した運転をしてください。ただし、約80 km/hを超えないように走行してください。 ▶ 十分なロードクリアランスが確保されているか確認してください。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
 最高速度 20 km/h	設定したオフロードレベルでの許容速度を超過している。 また、車両のアイコンとディスプレイメッセージの間に車高レベルが表示される。警告音も鳴った。 ⚠ 警告 車両が傾いたり、横転することがあります。 事故の危険性があります。 ▶ 車両操縦性の変化に合わせて運転スタイルを調整してください。 ▶ ステアリングを大きくまわさないでください。また、急なステアリング操作を避けてください。 ▶ オフロードレベル 2に達するまでは、約20 km/hを超えないように走行してください。
ACTIVE CURVE SYSTEM 故障	アクティブカーブシステムに異常がある。 車両の操縦安定性を損なうおそれがあります。 ▶ 80 km/h 以上の速度で走行しないでください。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

ディスプレイメッセージ	考えられる原因および影響 ▶ 解決方法
ACTIVE CURVE SYSTEM 故障 取扱説明書 参照	アクティブカーブシステムに異常がある。 車両の操縦安定性が著しく損なわれる。 警告音も鳴った。 ⚠ 警告 事故の危険性があります。 ▶ 注意して運転してください。 ▶ 車両操縦性の変化に合わせて運転スタイルを調整してください。 ▶ 急カーブでの急加速や急なステアリング操作を避けてください。 ▶ 80 km/h 以上の速度で走行しないでください。 ▶ ただちにメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
 下降 最高速度 20 km/h	システムがオフロードレベル3からレベル2に調整している。ディスプレイメッセージにより、オフロードレベル3での最高許容速度が表示される。 ▶ オフロードレベル 2に達するまでは、約20 km/hを超えないように走行してください。
 デフロックシステム 故障	ディファレンシャルロックが故障している。 ▶ 80 km/h 以上の速度で走行しないでください。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
 デフロックシステム 冷却中 少しおまちください	ディファレンシャルロックが高温になり過ぎたため、作動を解除している。 ▶ 注意して運転してください。 ▶ ディファレンシャルロックが冷却されるまで待ちます。ディファレンシャルロックは、冷却されるとすぐに再作動します。

ディスプレイメッセージ	考えられる原因および影響 ▶ 解決方法
LOW RANGE 停車 ﾊﾟｰｷﾝｸﾞﾌﾞﾚｰｷを使用	ギアシフト操作がキャンセルされた。 ローレンジはニュートラルポジションに入っている。 エンジンと駆動輪が接続されていない。 ▶ 周囲の道路や交通状況に注意しながら、すみやかに安全な場所に停車してください。 ▶ パーキングブレーキを作動させてください。 状況を問わず、走行しないでください。 ▶ ギアシフト操作を繰り返します。
LOW RANGE 故障 ブレーキ操作 で停車	ローレンジが故障している。 ▶ 80 km/h 以上の速度で走行しないでください。 ▶ 駐車時は、車両が動き出さないよう確実に固定してください。 (▷ 177 ページ) ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
LOW RANGE 最高速度 40 km/h で走行	ギアシフト操作に対する最高速度を超えている。 ▶ もっとゆっくり走行します。 シフトチェンジが行なわれます。
LOW RANGE 最高速度 70 km/h で走行	ギアシフト操作に対する最高速度を超えている。 ▶ もっとゆっくり走行します。 シフトチェンジが行なわれます。
LOW RANGE 短時間Nにシフト してください	減速したが、オートマチックトランスミッションは N ポジションに入っていない。 ▶ オートマチックトランスミッションのシフトポジションを短時間 N にします。
LOW RANGE シフト動作キャンセル 再起動してください	ギアシフト操作がキャンセルされた。 ▶ ギアシフト操作を繰り返します。
 ｺｼｮｳ	DSR（ダウンヒル・スピード・レギュレーション）の機能が、異常のため解除されている。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場でDSRの点検を受けてください。

ディスプレイメッセージ	考えられる原因および影響 ▶ 解決方法
HOLD オフ	ホールド機能が解除されている。 車が横滑りしている。 警告音も鳴った。 ▶ 再度ホールド機能を作動させてください。 (▷ 210 ページ)
レーダーセンサー 停止しました 取扱説明書を参照	レーダーセンサーシステムの機能が解除されている。 ▶ レーダーセンサーシステムが作動するか点検してください。 (▷ 418 ページ) ▶ レーダーセンサーシステムの機能をオンにしてください。 (▷ 270 ページ)
レーダーセンサー 自動的に 停止しました 取扱説明書を参照	ナビゲーションシステム装備車： 車両が電波望遠鏡設備の近辺にあるため、レーダー信号の送信が妨げられている。 レーダーセンサーシステムが自動的に解除された状態になっている。 (▷ 418 ページ) ディストロニックプラスが作動していた場合、使用できなくなる。 警告音も鳴った。 ブラインドスポットアシストまたはアクティブブラインドスポットアシストが作動していた場合、使用できなくなる。 ドアミラーの黄色の ▲ 表示灯も点灯する。 BASプラス（ブレーキアシストプラス）とPRE-SAFE® ブレーキも同様に機能しなくなった。 ▶ 走行を続けてください。 車が電波望遠鏡設備から遠ざかると、上記の機能は再び作動します。

ディスプレイメッセージ	考えられる原因および影響 ▶ 解決方法
レーンキープ アシスト 現在 使用できません 取扱説明書を参照 アクティブ レーンキープアシスト 現在 使用不可 取扱説明書参照	レーンキーピングアシストまたはアクティブレーンキーピングアシストの機能が解除され、一時的に作動しない状態になっている。 考えられる原因 • フロントウインドウのカメラ設置部分が汚れている • 大雨や雪、霧などにより、視界が妨げられている • 車線ラインがない道路を長時間走行している • 車線ラインが汚れや雪などに覆われ、薄くなったり黒ずんだりしている 上記の原因が解消すると、ディスプレイメッセージが消える。 レーンキーピングアシストまたはアクティブレーンキーピングアシストが再び作動します。 ディスプレイメッセージが消えないとき ▶ 周囲の道路や交通状況に注意しながら、すみやかに安全な場所に停車してください。 ▶ 車両が動き出さないように固定してください。 (▷ 177 ページ) ▶ フロントウインドウを清掃してください。
レーンキープ アシスト 作動できません アクティブ レーンキープアシスト 作動できません	レーンキーピングアシストまたはアクティブレーンキーピングアシストが故障している。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

ディスプレイメッセージ	考えられる原因および影響 ▶ 解決方法
ﾌﾞﾗｲﾝﾄﾞｽﾎﾟｯﾄｱｼｽﾄ 現在使用できません 取扱説明書を参照 アクティブ ブラインドスポット 現在使用できません 取扱説明書参照	ブラインドスポットアシストまたはアクティブブラインドスポットアシストが一時的に作動しない状態になっている。 考えられる原因 • センサーが汚れている • 激しい雨や雪により機能が損なわれている • レーダーセンサーシステムが作動温度範囲外にある • 周囲のテレビ・ラジオ放送局などの設備から発生している電磁波などの影響により、レーダーセンサーシステムが一時的に作動しない状態になっている ドアミラーの黄色の [▲] 表示灯も点灯する。 上記の原因が解消すると、ディスプレイメッセージが消える。 ブラインドスポットアシストまたはアクティブブラインドスポットアシストが再び作動します。 ディスプレイメッセージが消えないとき ▶ 周囲の道路や交通状況に注意しながら、すみやかに安全な場所に停車してください。 ▶ 車両が動き出さないように固定してください。 (▷ 177 ページ) ▶ センサーを清掃してください。 (▷ 360 ページ) ▶ エンジンを再始動してください。
ﾌﾞﾗｲﾝﾄﾞｽﾎﾟｯﾄｱｼｽﾄ 作動できません アクティブ ブラインドスポット 作動できません	ブラインドスポットアシストまたはアクティブブラインドスポットアシストが故障している。 ドアミラーの黄色の [▲] 表示灯も点灯する。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
ディストロニックプラス オフ	ディストロニックプラスの機能が解除されている。 (▷ 196 ページ) 自動的に解除されたときは、警告音も鳴った。
ディストロニックプラス 再び使用できます	一時的に使用できなくなった後、ディストロニックプラスが再び使用できる状態になった。 ディストロニックプラスを再び作動させることができる。(▷ 196 ページ)

ディスプレイメッセージ	考えられる原因および影響 ▶ 解決方法
ディストロニックプラス 現在使用できません 取扱説明書を参照	ディストロニック・プラスが一時的に作動しない状態になっている。 考えられる原因 • 激しい雨や雪により機能が損なわれている • ラジエーターグリルとバンパーに装着されたセンサーが汚れている • 周囲のテレビ・ラジオ放送局などの設備から発生している電磁波などの影響により、レーダーセンサーシステムが一時的に作動しない状態になっている • システムが作動温度範囲外にある • バッテリーの電圧が低下している 警告音も鳴った。 上記の原因が解消すると、ディスプレイメッセージが消える。 ディストロニックが再び作動します。 ディスプレイメッセージが消えないとき ▶ 周囲の道路や交通状況に注意しながら、すみやかに安全な場所に停車してください。 ▶ 車両が動き出さないように固定してください。 (▷ 177 ページ) ▶ ラジエーターグリルとバンパーに装着されたセンサーを清掃します(▷ 360 ページ)。 ▶ エンジンを再始動してください。
ディストロニックプラス 作動できません	ディストロニックプラスが故障している。 BASプラス（ブレーキアシストプラス）とPRE-SAFE® ブレーキも故障した。 警告音も鳴った。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
ﾃﾞｨｽﾄﾛﾆｯｸﾌﾟﾗｽ 制御待機中	アクセルペダルを踏んだ。 ディストロニックプラスは車両の速度を制御しなくなっている。 ▶ アクセルペダルから足を放してください。
ディストロニックプラス --- km/h	ディストロニックプラスの作動条件を満たしていない。 ▶ ディストロニックプラスの作動条件を確認してください。(▷ 196 ページ)

ディスプレイメッセージ	考えられる原因および影響 ▶ 解決方法
ディストロニックプラスと可変ｽﾋﾟｰﾄﾞﾘﾐｯﾀｰ 作動できません	ディストロニックプラスと可変スピードリミッターが故障している。 警告音も鳴った。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
クルーズコントロールと 可変スピードリミッター 作動できません	可変スピードリミッターとクルーズコントロールに異常がある。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
制限速度 --- km/h	アクセルペダルをいっぱいまで踏み込んでも（キックダウン）可変スピードリミッターが作動しない。
クルーズコントロール - - - km/h	クルーズコントロールの作動条件を満たしていない。 たとえば、約 30 km/h 以下の速度でクルーズコントロールを作動させようとした。 ▶ 設定可能な状況であれば、約 30 km/h 以上で走行し、クルーズコントロールを設定してください。 ▶ クルーズコントロールの作動条件を確認してください。 (▷ 190 ページ)

タイヤ	
ディスプレイメッセージ	**考えられる原因および影響 ▶ 解決方法**
タイヤ空気圧 タイヤを点検してください	タイヤ空気圧警告システムがタイヤからの急激な空気の漏れを検知した。 警告音も鳴った。 **⚠ 警告** タイヤ空気圧が低すぎると、以下の危険が生じるおそれがあります。 • 荷重が大きく車両速度が高い場合は特に、タイヤが破裂するおそれがある。 • タイヤが過度に、また不均一に摩耗し、それによってタイヤの駆動力が損なわれるおそれがある。 • ステアリング操作やブレーキ操作などの車両操縦性が大幅に損なわれるおそれがあります。 事故の危険性があります。 ▶ 急ハンドルや急ブレーキを避けて停車してください。 周囲の状況に注意しながら操作してください。 ▶ 車両が動き出さないように固定してください。 (▷ 177 ページ) ▶ パンクしているタイヤがある場合は、タイヤの点検を行なってください。(▷ 368 ページ) ▶ タイヤ空気圧を点検し、必要であれば適正な空気圧に調整してください。 ▶ 適正なタイヤ空気圧に調整した後に、タイヤ空気圧警告システムを再起動してください。 (▷ 394 ページ)
空気圧点検後 タイヤ空気圧 警告システム 再始動	タイヤ空気圧警告システムのディスプレイメッセージが送られた。その後は再始動していない。 ▶ すべてのタイヤの空気圧を適正に調整してください。 ▶ タイヤ空気圧警告システムを再起動してください。 (▷ 394 ページ)
タイヤ空気圧 警告システム 作動できません	タイヤ空気圧警告システムに異常がある。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

車両

ディスプレイメッセージ	考えられる原因および影響 ▶ 解決方法
エンジン始動 PまたはNにシフト	シフトポジションが R または D のときにエンジンを始動しようとした。 ▶ シフトポジションを P または N にしてください。
バックアップバッテリー 故障	オートマチックトランスミッションの補助バッテリーが充電されていない。 ▶ すみやかにメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。 ▶ それまでは、エンジンを始動する前にシフトポジションを P にしてください。 ▶ 車両から離れる前に、パーキングブレーキを作動させてください。 ▶ 車両が動き出さないように固定してください。 (▷ 177 ページ)
ブレーキを踏んで Pレンジからシフト	ブレーキを踏まずにセレクターレバーを D、R、N に操作しようとした。 ▶ ブレーキペダルを踏んでください。
ｼﾌﾄﾎﾟｼﾞｼｮﾝが Pではないため 車が動く恐れが あります	シフトポジションが R、N、D のいずれかのときに運転席ドアを開いた。 警告音も鳴った。 ▶ トランスミッションをポジション P にシフトします。 ▶ 車両が動き出さないように固定してください。 (▷ 177 ページ)
シフトチェンジせず工場で点検	故障のため、シフトポジションを変更することができない。 警告音も鳴った。 シフトポジションが D のとき ▶ シフトポジションを D から変更しないで、メルセデス・ベンツ指定サービス工場まで走行してください。 シフトポジションが R、 N、 P のいずれかのとき： ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場にご連絡ください。

ディスプレイメッセージ	考えられる原因および影響 ▶ 解決方法
停車中のみ P レンジにシフト できます	車が完全に停車していない。 ▶ 周囲の道路や交通状況に注意しながら、すみやかに安全な場所に停車してください。 ▶ トランスミッションをポジション P にシフトします。
	テールゲートが開いている。 ⚠ 警告 エンジンをかけた状態でテールゲートが開いたままになっていると、排気ガスが車内に入る可能性がある。 中毒を起こすおそれがある。 ▶ テールゲートを閉じます。
	ボンネットが開いている。 警告音も鳴った。 ⚠ 警告 ボンネットが開いた状態で走行すると視界が遮られるおそれがあります。 事故の危険性があります。 ▶ 周囲の道路や交通状況に注意しながら、すみやかに安全な場所に停車してください。 ▶ 車両が動き出さないように固定してください。 (▷ 177 ページ) ▶ ボンネットを確実に閉じてください。
	いずれかのドアが開いている。 警告音も鳴った。 ▶ すべてのドアを閉じます。
 2列目シート、左側 ロックされていませんまたは2列目シート、右側 ロックされていません	2列目シートの左側または右側が後部に確実にロックされていない。 ▶ 2列目シートがロックされるまで後方に倒します。

ディスプレイメッセージ	考えられる原因および影響 ▶ 解決方法
 3列目シート、左側 ロックされていませんまたは3列目シート、右側 ロックされていません	3列目シートの左側または右側がロックされていません。 ▶ 3列目シートがロックされるまで後方に倒します。
 パワーステアリング 故障 取扱説明書を参照	ステアリングのパワーアシストが故障している。 警告音も鳴った。 ⚠ **警告** ステアリング操作に大きな力が必要になる。 事故の危険性があります。 ▶ 大きな力を加えればステアリングが操作できるか確認してください。 ▶ **安全にステアリング操作ができるときは、**注意しながら、メルセデス・ベンツ指定サービス工場まで走行してください。 ▶ **安全にステアリング操作ができないときは、**走行しないでください。 最寄りのメルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。
圏外	車がネットワークプロバイダーの電波を送受信できない場所にある。 ▶ マルチファンクションディスプレイに携帯電話の作動マークが表示されるまで待ってください。
 ウォッシャ液を 補充してください	リザーブタンクのウォッシャー液量が最低レベルまで減っている。 ▶ ウォッシャー液を補給してください。 (▷ 352 ページ)
ﾜｲﾊﾟｰ 故障	ワイパーが故障している。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
非常点滅灯 故障	非常点滅灯が故障している。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

キー	
ディスプレイメッセージ	**考えられる原因および影響 ▶ 解決方法**
 キーがちがいます	エンジンスイッチに別の車両のキーを差し込んでいる。 ▶ 正しいキーを使用してください。
 キーを交換 してください	キーを交換する必要がある。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
 キーの電池を 交換してください	キーの電池が消耗している。 ▶ 電池を交換してください。 (▷ 82 ページ)
 キーを認識できません （赤色のメッセージ）	キーが車内にない。 警告音も鳴った。 エンジンを停止すると、車の施錠やエンジン始動ができなくなる。 ▶ 周囲の道路や交通状況に注意しながら、すみやかに安全な場所に停車してください。 ▶ 車両が動き出さないように固定してください。 (▷ 177 ページ) ▶ キーを探してください。
	電磁波などの影響により、エンジンがかかっているときにシステムがキーを認識できない。 警告音も鳴った。 ▶ 周囲の道路や交通状況に注意しながら、すみやかに安全な場所に停車してください。 ▶ 車両が動き出さないように固定してください。 (▷ 177 ページ) ▶ エンジンスイッチにキーを差し込んで操作を行ってください。

ディスプレイメッセージ	考えられる原因および影響 ▶ 解決方法
 キーを認識 できません （白色のメッセージ）	システムがキーを認識できない。 ▶ キーレスゴースイッチ操作ができる位置にキーを移動してください。 それでもキーがシステムに認識されないとき ▶ エンジンスイッチにキーを差し込んで操作を行ってください。
 キーが車内にあります	施錠時にシステムが車内にキーがあると判断している。 ▶ キーを車から遠ざけてください。
 スタートボタンを外しｷｰを入れてください	キーレスゴー機能が一時的に故障しているか異常がある。警告音も鳴った。 ▶ エンジンスイッチにキーを差し込んで操作を行なってください。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
 ドアを閉めてからロックしてください	いずれかのドアが開いている。 警告音も鳴った。 ▶ すべてのドアを閉じてから、再度施錠操作を行ってください。

メーターパネルの警告灯および表示灯

警告灯および表示灯の概要

- ロービームヘッドライト（▷ 123 ページ）
- 車幅灯（▷ 122 ページ）
- ハイビームヘッドライト（▷ 125 ページ）
- 方向指示灯（▷ 125 ページ）
- リアフォグランプ（▷ 124 ページ）
- シートベルト（▷ 314 ページ）
- ブレーキ警告灯（▷ 315 ページ）
- ABS（▷ 317 ページ）
- ESP®（▷ 320 ページ）
- ESP® オフ（▷ 320 ページ）
- 電気式パーキングブレーキ（赤）（▷ 323 ページ）
- 電気式パーキングブレーキ（黄）（▷ 323 ページ）
- SRS（▷ 323 ページ）
- エンジン警告灯（▷ 324 ページ）
- 燃料残量（▷ 324 ページ）

 冷却水(▷ 324 ページ)

 距離警告機能(▷ 327 ページ)

安全装備

シートベルト

トラブル	考えられる原因および影響 ▶ 解決方法
 フロントドアを閉じてエンジンを始動すると、赤色のシートベルト警告灯が点灯する。	運転席または助手席の乗員がシートベルトを着用していない。 ▶ シートベルトを着用してください。 (▷ 46 ページ) 警告灯が消灯します。
	助手席シートの上に荷物を置いている。 ▶ 助手席シートに置いてある荷物を、別の安全な場所に収納してください。 警告灯が消灯します。
 赤色のシートベルト警告灯が点滅し、断続的な警告音も鳴った。	運転席または助手席の乗員がシートベルトを着用していない。 その状態で、約 25 km/h 以上の速度で走行している。または速度が一時的に約 25 km/h を超えた。 ▶ シートベルトを着用してください。 (▷ 46 ページ) 警告灯が消灯し、警告音も鳴り止みます。
	助手席シートの上に荷物を置いている。 その状態で、約 25 km/h 以上の速度で走行している。または速度が一時的に約 25 km/h を超えた。 ▶ 助手席シートに置いてある荷物を、別の安全な場所に収納してください。 警告灯が消灯し、警告音も鳴り止みます。

安全装備

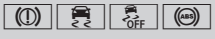
トラブル	考えられる原因および影響 ▶ 解決方法
(!) エンジンがかかっているときに黄色のブレーキ警告灯が点灯する。	⚠ 警告 ブレーキシステムが故障しているため、ブレーキの作動に影響を与えるおそれがある。 事故の危険性があります。 ▶ マルチファンクションディスプレイにメッセージが表示されているときは、そのメッセージに従ってください。 ▶ 注意して運転してください。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
(!) エンジンがかかっているときに赤色のブレーキ警告灯が点灯する。 警告音も鳴った。	⚠ 警告 ブレーキのブースト機能が故障しているため、ブレーキの作動に影響を与えるおそれがある。 事故の危険性があります。 ▶ 周囲の道路や交通状況に注意しながら、すみやかに安全な場所に停車してください。 状況を問わず、走行しないでください。 ▶ 車両が動き出さないように固定してください。 (▷ 177ページ) ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場にご連絡ください。 ▶ マルチファンクションディスプレイのメッセージに従ってください。

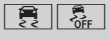
トラブル	考えられる原因および影響 ▶ 解決方法
(!) エンジンがかかっているときに赤色のブレーキ警告灯が点灯する。 警告音も鳴った。	リザーブタンクのブレーキ液量が不足している。 ⚠ 警告 ブレーキの性能が損なわれるおそれがあります。 事故の危険性があります。 ▶ 周囲の道路や交通状況に注意しながら、すみやかに安全な場所に停車してください。 状況を問わず、走行しないでください。 ▶ 車両が動き出さないように固定してください。 (▷ 177ページ) ▶ 絶対にブレーキ液を補給しないでください。 補給しても異常は解消しません。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場にご連絡ください。 ▶ マルチファンクションディスプレイのメッセージに従ってください。

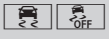
トラブル	考えられる原因および影響 ▶ 解決方法
 エンジンがかかっているときに黄色のABS警告灯が点灯する。	ABS（アンチロック・ブレーキング・システム）に異常があるため機能が解除されている。 そのため、BAS（ブレーキアシスト）、BASプラス、ESP®（エレクトロニック・スタビリティ・プログラム）、PRE-SAFE®、PRE-SAFE® ブレーキ、コリジョンプリベンションアシスト、ホールド機能、ヒルスタートアシスト、クロスウインドドライビングアシスト、アダプティブブレーキライトなどの機能も解除されている。 アテンションアシストの機能は解除されている。 **⚠ 警告** ブレーキは通常通り作動するが、上記の機能は作動しない。そのため、急ブレーキ時などにはタイヤがロックする可能性がある。 ステアリング操作やブレーキの作動が大幅に損なわれるおそれがある。 緊急ブレーキ時の制動距離が伸びる可能性がある。 ESP® が作動しない場合は、ESP® の機能で走行安全性を確保することができない。 横滑りして事故が起きる危険が増える。 ▶ マルチファンクションディスプレイのメッセージに従ってください。 ▶ 注意して運転してください。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。 ABS コントロールユニットが故障すると、ナビゲーションシステム、オートマチックトランスミッションなど、他のシステムも作動しなくなる可能性がある。

トラブル	考えられる原因および影響 ▶ 解決方法
 エンジンがかかっているときに黄色のABS警告灯が点灯する。	ABSが一時的に作動しない状態になっている。 そのため、BAS、BASプラス、ESP®、EBD（エレクトロニック・ブレーキフォース・ディストリビューション）、PRE-SAFE®、PRE-SAFE® ブレーキ、コリジョンプリベンションアシスト、ホールド機能、ヒルスタートアシスト、クロスウインドドライビングアシスト、アダプティブブレーキライトなどの機能も解除されている。 アテンションアシストの機能は解除されている。 考えられる原因 • セルフ・ダイアグノシスがまだ完了していない。 • バッテリーの電圧が不十分な可能性がある。 ⚠ 警告 ブレーキは通常通り作動するが、上記の機能は作動しない。そのため、急ブレーキ時などには前輪および後輪がロックする可能性がある。 ステアリング操作やブレーキの作動が大幅に損なわれるおそれがある。 緊急ブレーキ時の制動距離が伸びる可能性がある。 ESP® が作動しない場合は、ESP® の機能で走行安全性を確保することができない。 事故の危険性があります。 ▶ 約 20 km/h 以上の速度で緩やかにステアリング操作しながら、適切な道路を選んで注意して走行してください。警告灯が消灯すると、上記の機能が再び作動します。 警告灯がまだ点灯したままのとき ▶ マルチファンクションディスプレイのメッセージに従ってください。 ▶ 注意して運転してください。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

トラブル	考えられる原因および影響 ▶ 解決方法
 エンジンがかかっているときに黄色のABS警告灯が点灯する。 警告音も鳴った。	EBDが故障している。 従って、例えば、ABS、BAS、BASプラス、ESP®、PRE-SAFE®、PRE-SAFE® ブレーキ、CPA（コリジョンプリベンションアシスト）、ホールド機能、ヒルスタートアシスト、クロスウインドドライビングアシストおよびアダプティブブレーキライトも使用できない。 アテンションアシストの機能は解除されている。 ⚠ 警告 ブレーキは通常通り作動するが、上記の機能は作動しない。そのため、急ブレーキ時などには前輪および後輪がロックする可能性がある。 ステアリング操作やブレーキの作動が大幅に損なわれるおそれがある。 緊急ブレーキ時の制動距離が伸びる可能性がある。 ESP® が作動しない場合は、ESP® の機能で走行安全性を確保することができない。 横滑りして事故が起きる危険が増える。 ▶ マルチファンクションディスプレイのメッセージに従ってください。 ▶ 注意して運転してください。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

トラブル	考えられる原因および影響 ▶ 解決方法
 エンジンがかかっているときに赤色のブレーキ警告灯、黄色のESP® 表示灯、ESP® オフ表示灯、黄色のABS警告灯が点灯する。	ABSとESP® が故障している。 この理由のため、例えば、BAS、BASプラス、PRE-SAFE®、PRE-SAFE® ブレーキ、CPA（コリジョンプリベンションアシスト）、ホールド機能、ヒルスタートアシスト、クロスウインドドライビングアシストおよびアダプティブブレーキライトも使用できない。 アテンションアシストの機能は解除されている。 ⚠ 警告 ブレーキは通常通り作動するが、上記の機能は作動しない。そのため、急ブレーキ時などには前輪および後輪がロックする可能性がある。 ステアリング操作やブレーキの作動が大幅に損なわれるおそれがある。 緊急ブレーキ時の制動距離が伸びる可能性がある。 ESP® が作動しない場合は、ESP® の機能で走行安全性を確保することができない。 横滑りして事故が起きる危険が増える。 ▶ マルチファンクションディスプレイのメッセージに従ってください。 ▶ 注意して運転してください。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
 走行中に黄色のESP® 表示灯が点滅する。	車が横滑りをするおそれがあるか、少なくとも1 つの車輪が空転し始めているため、ESP® やトラクションコントロールが作動している。 クルーズコントロールやディストロニックプラスは解除されている。 ▶ 発進するときは、アクセルペダルを必要以上に踏み込まないでください。 ▶ 走行中はアクセルペダルを緩めてください。 ▶ 路面と天候の状態に合わせて運転してください。 ▶ ESP® の機能を解除しないでください。 例外事項： (▷ 67 ページ)

トラブル	考えられる原因および影響 ▶ 解決方法
 エンジンがかかっているときに黄色のESP® オフ表示灯が点灯する。	ESP® の機能が解除されているとき ⚠ 警告 ESP® がオフになっている場合は、ESP® の機能で走行安全性を確保することができない。 横滑りして事故が起きる危険が増える。 ▶ ESP® を通常作動モードにしてください。 例外事項： (▷ 67 ページ) ▶ 路面と天候の状態に合わせて運転してください。 ESP® が作動しないとき ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場でESP® の点検を受けてください。
 エンジンがかかっているときに黄色のESP® 表示灯と黄色のESP® オフ表示灯が点灯する。	故障のため、ESP®、BAS、BASプラス、PRE-SAFE®、PRE-SAFE® ブレーキ、コリジョンプリベンションアシスト、ホールド機能、ヒルスタートアシスト、クロスウインドドライビングアシスト、アダプティブブレーキライトが作動しない状態になっている。 アテンションアシストの機能は解除されている。 ⚠ 警告 ブレーキは通常通り作動するが、上記の機能は作動しない。 これにより緊急ブレーキ時の制動距離が伸びる可能性がある。 ESP® が作動しない場合は、ESP® の機能で走行安全性を確保することができない。 横滑りして事故が起きる危険が増える。 ▶ マルチファンクションディスプレイのメッセージに従ってください。 ▶ 注意して運転してください。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

トラブル	考えられる原因および影響 ▶ 解決方法
 エンジンがかかっているときに黄色のESP® 表示灯と黄色のESP® オフ表示灯が点灯する。	故障のため、ESP®、BAS、PRE-SAFE®、ホールド機能、ヒルスタートアシスト、およびクロスウインドドライビングアシストが一時的に作動しない状態になっている。 アダプティブブレーキライト、コリジョンプリベンションアシスト、BASプラス、PRE-SAFE® ブレーキも故障した。 アテンションアシストの機能は解除されている。 セルフ・ダイアグノシスがまだ完了していない。 ⚠ 警告 ブレーキは通常通り作動するが、上記の機能は作動しない。 これにより緊急ブレーキ時の制動距離が伸びる可能性がある。 ESP® が作動しない場合は、ESP® の機能で走行安全性を確保することができない。 横滑りして事故が起きる危険が増える。 ▶ 約 20 km/h 以上の速度で緩やかにステアリング操作しながら、適切な道路を選んで注意して走行してください。警告灯が消灯すると、上記の機能が再び作動します。 警告灯がまだ点灯したままのとき ▶ マルチファンクションディスプレイのメッセージに従ってください。 ▶ 注意して運転してください。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

トラブル	考えられる原因および影響 ▶ 解決方法
 パーキングブレーキの赤色の表示灯が点滅する。または、パーキングブレーキの黄色の警告灯が点灯する。	▶ マルチファンクションディスプレイのメッセージに従ってください。
 エンジンがかかっているときに赤色のSRS 警告灯が点灯する。	SRS（乗員保護補助装置）が故障している。 ⚠ 警告 エアバッグやシートベルトテンショナーが不意に作動したり、事故のときに作動しなくなるおそれがある。 けがをするおそれが高まります。 ▶ 注意して運転してください。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場でSRSの点検を受けてください。 乗員保護補助装置に関する詳しい情報 は、以下を参照してください。(▷ 39 ページ)

エンジン

トラブル	考えられる原因および影響 ▶ 解決方法
 エンジンがかかっているときに黄色のエンジン警告灯が点灯する。	以下のシステムが故障している可能性がある。 • エンジン制御システム • 燃料噴射システム • 排気システム • イグニッションシステム（ガソリンエンジン車） • フューエルシステム 排出ガス中の成分が基準値を超えたため、エンジンがエマージェンシーモードになっている可能性がある。 ▶ すみやかにメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
 エンジンがかかっているときに黄色の燃料残量警告灯が点灯する。	燃料の残量が少なくなっている。 ▶ 最寄りのガソリンスタンドで給油してください。
 エンジンがかかっているときに赤色の冷却水警告灯が点灯する。エンジン冷却水温度計の指針が下限にある。	冷却水温度計の温度センサーが故障している。 冷却水温度を確認することができない。 冷却水の温度が高すぎる場合は、エンジンが損傷するおそれがある。 ▶ 周囲の道路や交通状況に注意しながら、すみやかに停車し、エンジンを停止してください。 状況を問わず、走行しないでください。 ▶ 車両が動き出さないように固定してください。 (▷ 177 ページ) ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場にご連絡ください。

トラブル	考えられる原因および影響 ▶ 解決方法
エンジンがかかっているときに赤色の冷却水警告灯が点灯する。	リザーブタンクの冷却水量がかなり不足している。 冷却水量が正常なときは、ラジエターへの送風が遮られているか、ラジエターの冷却ファンが故障しているおそれがある。 冷却水の温度が高すぎて、エンジンが十分に冷却されていない。 ▶ マルチファンクションディスプレイのメッセージに従ってください。 ▶ 周囲の道路や交通状況に注意しながら、すみやかに停車し、エンジンを停止してください。 ▶ 車両が動き出さないように固定してください。 (▷ 177 ページ) ▶ 車から降り、エンジンが冷えるまで車から安全な距離を確保してください。 ▶ 冷却水の点検・補給時の注意事項 (▷ 351 ページ) に従って、冷却水量を点検のうえ冷却水を補給してください。 ▶ 冷却水の減りかたが著しい場合は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場でエンジン冷却システムの点検を受けてください。 ▶ 雪やほこりなどにより、ラジエターへの送風が遮られていないか確認してください。 ▶ 冷却水温度が約 120 ℃ 以下に下がるまではエンジンを再び始動しないでください。エンジンを損傷するおそれがあります。 ▶ 最寄りのメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。 ▶ 山道の走行などでエンジンに大きな負荷をかけたり、発進 / 停止を繰り返したりしないでください。
エンジンがかかっているときに赤色の冷却水警告灯が点灯する。 警告音も鳴った。	冷却水温度が約 120 ℃を超えている。ラジエターへの送風が遮られているか、冷却水量がかなり不足している可能性がある。 ⚠ 警告 エンジンが十分に冷却されないため、エンジンが損傷するおそれがある。

トラブル	考えられる原因および影響 ▶ 解決方法
	エンジンが過熱した状態では絶対に走行しないでください。エンジンが過熱した状態で走行すると、エンジンルームに漏れたフルード類に引火するおそれがあります。 ボンネットを開いただけで、過熱したエンジンからの蒸気で重度の火傷をするおそれがあります。 けがをするおそれがあります。 ▶ マルチファンクションディスプレイのメッセージに従ってください。 ▶ 周囲の道路や交通状況に注意しながら、すみやかに停車し、エンジンを停止してください。 ▶ 車両が動き出さないように固定してください。 (▷ 177 ページ) ▶ 車から降り、エンジンが冷えるまで車から安全な距離を確保してください。 ▶ 冷却水の点検・補給時の注意事項 (▷ 351 ページ) に従って、冷却水量を点検のうえ冷却水を補給してください。 ▶ 冷却水の減りかたが著しい場合は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場でエンジン冷却システムの点検を受けてください。 ▶ 雪やほこりなどにより、ラジエターへの送風が遮られていないか確認してください。 ▶ 冷却水温度が約 120 ℃以下のときは、最寄りのメルセデス・ベンツ指定サービス工場まで走行することができます。 ▶ 山道の走行などでエンジンに大きな負荷をかけたり、発進 / 停止を繰り返したりしないでください。

走行装備

トラブル	考えられる原因および影響 ▶ 解決方法
 走行中に赤色の車間距離警告灯が点灯する。	設定された速度に対し、先行車との車間距離が近すぎる。 ▶ 車間距離を広げてください。
 走行中に赤色の車間距離警告灯が点灯する。 警告音も鳴った。	同じ走行車線にいる前車または固定障害物に急速に近付いている。 ▶ ただちにブレーキをかける準備をしてください。 ▶ 交通状況に注意して運転してください。 ブレーキ操作や危険回避の操作が必要となる可能性があります。 ディストロニックプラスについて詳しくは、(▷ 196 ページ)をご覧ください。 PRE-SAFE® ブレーキについて詳しくは、(▷ 71 ページ)をご覧ください。 車間距離警告機能について、詳しくは (▷ 65 ページ)をご覧ください。

役に立つ情報 330
ラゲッジルーム 330
室内装備 338

役に立つ情報

ⓘ この取扱説明書は発行時点で利用可能な、車両のすべてのモデルやシリーズ、オプション装備を記載しています。国別仕様の違いがあることもあります。お客様の車両には記載されている全ての機能が装備されていないことがあることにご留意ください。これは安全に関するシステムや機能の場合もあります。

ⓘ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で情報をご覧ください。(▷ 23 ページ)

ラゲッジルーム

荷物の積み方

⚠ 警告

荷物を積むときは、以降に記載されている注意点を守り、確実に固定してください。

急ブレーキ時や急な進路変更時、事故のときなどに荷物が車内に放り出されて、乗員がけがをするおそれがあります。

荷物の積み方については、"荷物の固定"にも詳しく説明されています。

また、荷物を積むときの注意点を守ったとしても、荷物を積むことにより、事故のときなどに乗員がけがをする可能性は高まります。

⚠ 警告

エンジンをかけた状態でテールゲートを開いたままにしないでください。 排気ガスが車内に侵入し、一酸化炭素中毒になるおそれがあります。

荷物の積み方は車両の走行安定性に大きく影響します。 荷物を積むときは、以下の点に注意してください。

- 荷物を積むときは、(乗員を含めて)最大車両総重量および許容軸重を超えないようにしてください。
- 重い物はできるだけラゲッジルームの前方の低い位置に積んでください。
- 荷物を車内に積むときは、シートのバックレストよりも高く積み上げないでください。
- トランクに荷物を積むときは、必ずリアシートまたはフロントシートのバックレストに接するように積んでください。 シートバックレストがしっかりと固定されていることを確認してください。
- 荷物を積むときはセーフティネット内に引っ掛けてください。
- なるべく乗員のいない席の後方に荷物を積んでください。
- 強度のある耐摩耗性の荷物固定用ストラップなどを使用して、荷物を確実に固定してください。 鋭い角のある荷物は、角の部分にカバーをしてください。

ⓘ 荷物固定用のアクセサリーは、メルセデス・ベンツ指定サービス工場でお買い求めください。

小物入れ

重要な安全上の注意

⚠ 警告

小物入れに収納物があるときは、確実に閉じてください。 ラゲッジネットは、バッグなどの重い物を固定するためのものではありません。

以下の場合に、荷物が放り出されて乗員がけがをするおそれがあります。

• 急ブレーキ時
• 急な進路変更時
• 事故のとき

ラゲッジネットには、鋭利な形状の物や割れやすい物を入れないでください。

グローブボックス

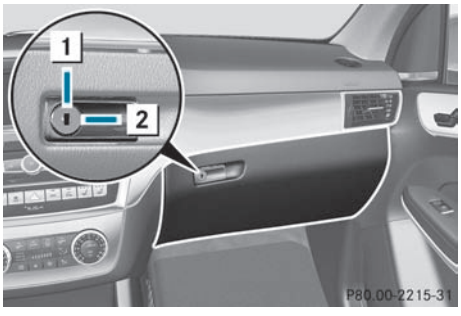


▶ **開く**：ハンドル ① を引き、グローブボックスのカバー ②を開きます。

▶ **閉じる**：グローブボックスのカバー ② を押してロックします。

ⓘ グローブボックス内を冷房および換気することができます (▷ 153 ページ)。

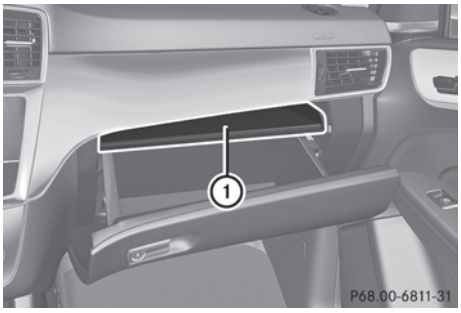
ETCのカードリーダーも、グローブボックス内に配置されています。



[1] グローブボックスのロック解除

[2] グローブボックスのロック

エマージェンシーキーでグローブボックスを施錠/解錠できます。

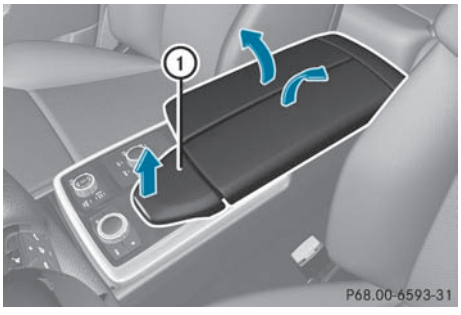


グローブボックス上部には、平らなものを収納するための仕切り ① があります。これを取り外してグローブボックス内の収納空間を大きくすることができます。

▶ **取り外す**：仕切り ① を手前に引いて取り出します。

▶ **取り付ける**：仕切り ① を差し込んで元の位置まで押し込みます。

アームレスト下の小物入れ



▶ **開く**：ハンドル ① を上に引きます。アームレストカバーが左右に開きます。

小物入れには収納トレイがあります。

ⓘ 車両装備に応じて、USBポート、AUX-INジャックまたはメディアインターフェースが小物入れに取り付けられています。

メディアインターフェースは、iPod® またはMP3 プレーヤー などの、携帯オーディオ機器のための汎用インターフェースです。

ⓘ 小物入れの中には、iPod® などを収容できる取り外し可能なトレイがあります。

メガネケース

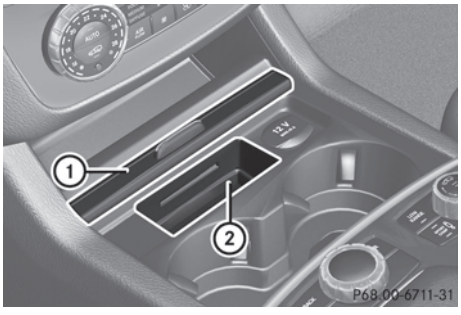


▶ **開く**： マーク ① を押します。
メガネケースが下に開きます。

▶ **閉じる**： マーク ① を再度押し、メガネケースが上方に戻り固定されます。

車両が動いている間はメガネケースが閉じていることを確認してください。

フロントセンターコンソールの小物入れ



▶ **開く**： カバー ① を前方に引きます。
小物入れ ② が現れます。

▶ **閉じる**：カバー ① を引いて元の位置に戻します。

センターコンソール(後席)の小物入れ



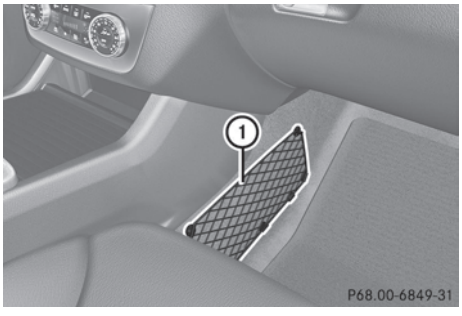
▶ **開く**：小物入れのマークを軽く押します。
小物入れが開きます。

ⓘ 車両の装備によって、小物入れの上と下に収納用の空間ができます。

ラゲッジネット

⚠ 警告

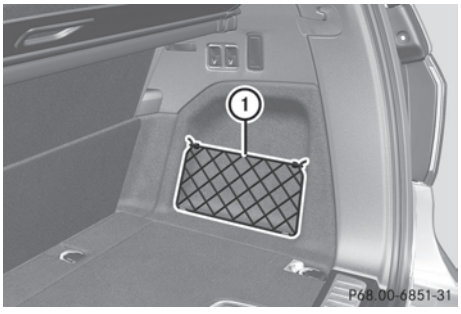
ラゲッジネットには軽い物のみを収納してください。 重くてかさばる物やかたい物、鋭利な形状の物や割れやすい物はラゲッジネットに入れないでください。 事故のときなどに、収納物が飛び出して乗員がけがをするおそれがあります。



① 助手席足元のラゲッジネット

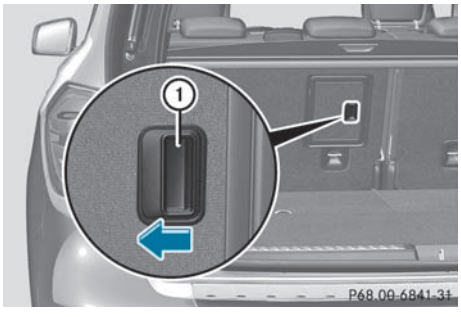


① フロントシート後部のラゲッジネット



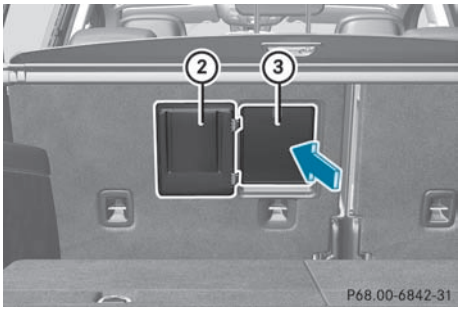
① ラゲッジルームのラゲッジネット

後席のスルーローディング



スルーローディングはラゲッジルームから開きます。

- 2列目シートのシートバックレストをロック解除して、カーゴ/ロード位置に傾けます(▷ 108 ページ)。
- リアシートのアームレストを引き出します。
- リアシートのセンターヘッドレストを最大位置に引き上げます。 (▷ 106 ページ)
- リリースキャッチ ① を左にスライドさせ、フラップ ② を左に開いてリアシートの後側につけます。



- カバー ③ を前方に押して、リアシートのアームレストの上に倒します。

ラゲッジルームの拡大

重要な安全上の注意

⚠ 警告

車内やラゲッジルームに重い荷物やかたい荷物を積載するときは、確実に固定してください。

急ブレーキ時や急な進路変更時、事故のときなどに荷物が車内に放り出されて、乗員がけがをするおそれがあります。

ラゲッジルームを拡大して使用するときは、セーフティネットがある場合必ず取り付けてください。

⚠ 警告

テールゲートは必ず閉じてから走行してください。 排気ガスが車内に侵入し、一酸化炭素中毒になるおそれがあります。

⚠ 警告

倒したシートクッションの上にバックレストを倒してはいけません。 シートクッションが倒れている場合、急ブレーキ時

▷▷

や急な進路変更時、事故のときなどに荷物がバックレストを超えて車内に放り出されることがあります。 これにより、事故や乗員がけがをするおそれがあります。

! リアシートを前方に倒す前にシートクッションのロックを解除して折りたたんでください。 バックレストが損傷するおそれがあります。

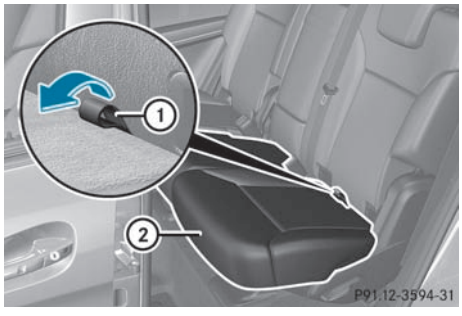
バックレストを前方に倒しているときは、フロントシートを最後方位置に動かすことはできません。 フロントシートおよびリアシートが破損するおそれがあります。

ラゲッジルーム容量を拡大するため、2列目シートの左右バックレストは別々に倒すことができます。

3列シート装備車では、ラゲッジルームを最大に拡大するため、あらかじめ (▷ 109 ページ) 3列目シートを折りたたんでおく必要があります。

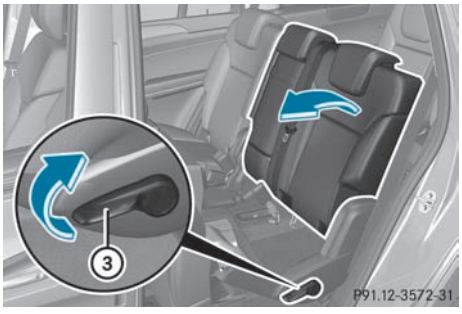
リアシートを前に倒す

! バックレストは重いです。 したがって、倒すときには特に注意が必要です。 バックレストおよびシートクッションを損傷させないために、ヘッドレストがいっぱいまで押し下げられていることを確認してください。

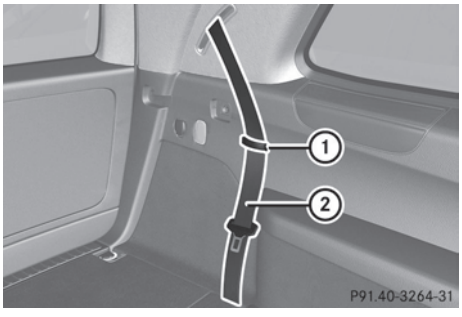


i 運転席または助手席シートが大柄の人用に設定されている場合、リアシートを前に倒すことができない場合があります。 この場合には、フロントシートをできるだけ前に動かしてください。

- ▶ ヘッドレストを最も低い位置に動かします(▷ 107 ページ)。
- ▶ シートクッション ② のリリースループ ① を引きます。
- ▶ シートクッション ② を上にたたみます。



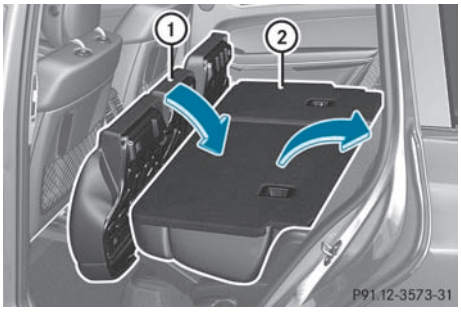
- ▶ リリースハンドル ③ を矢印の方向に引きます。
  バックレストがロック解除されました。
- ▶ ラゲッジルーム位置に達するまで、バックレストを前方に倒します。



- ▶ シートベルト ② をそれぞれのクリップ ① の下に導きます。

リアシートを後ろに倒す

⚠ 警告
シートバックレストおよびシートクッションが所定の位置に適切にロックされていることを確認してください。



- ▶ シートバックレスト ② を起こしてロックします。 その間にシートベルトが引っかかっていないか確認してください。
- ▶ シートクッション ① を元に戻します。
- ▶ 必要であれば、ヘッドレストを引き上げて高さを調整します。 (▷ 107 ページ)

荷物の固定

荷物固定用リング

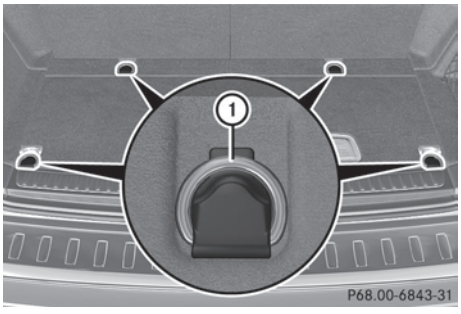
全体的な注意事項

⚠ 警告
荷物固定用リングには均等に力がかかるようにしてください。
以下の場合に、荷物が放り出されて乗員がけがをするおそれがあります。
- 急ブレーキ時
- 急な進路変更時
- 事故のとき

荷物を積むときの注意点を守ってください。

荷物を固定するときは、以下の点に注意してください。
- 荷物固定用リングを使用して、荷物を固定してください。
- 伸縮性のあるストラップやネットは軽い荷物のずれを防ぐためのものです。これらを使用して荷物を固定しないでください。
- 固定用具が荷物のとがった部分や角に当たらないようにしてください。
- 鋭い角のある荷物は、角の部分にカバーをしてください。

ラゲッジルーム

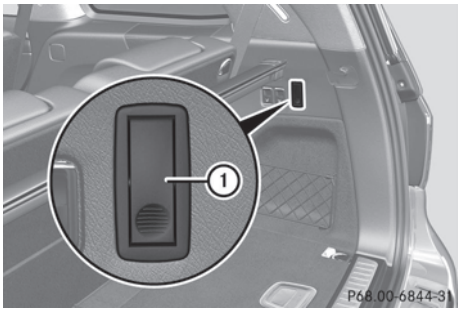


ラゲッジルーム内に4個の荷物固定用リング ① があります。

バッグフック

⚠ 警告
バッグフックには軽い荷物のみをかけてください。 重い物、鋭い角のある物やこわれやすい物には使用しないでください。 急ブレーキ時や急な進路変更時、事故のときなど、バッグフックでは荷物を確実に固定できない場合があります。 荷物が放り出されて、乗員がけがをするおそれがあります。

! バッグフックには、約3 kg以上の荷物をかけないでください。 バッグフックは、荷物を固定する目的で使用しないでください。



バッグフックはラゲッジルームの右側にあります。

- ▶ バッグフック ① のマークを押します。
- ▶ バッグフック ① が回り、フックが使用できます。

ラゲッジルームカバー

重要な安全上の注意

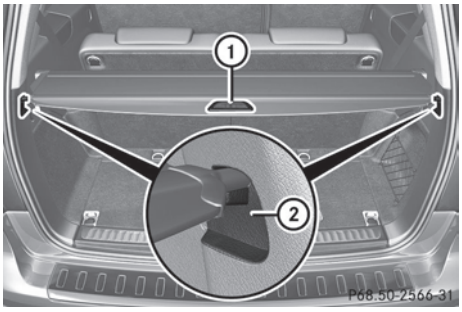
⚠ 警告

ラゲッジルームカバーは、乗員保護装置ではありません。 ラゲッジルームカバー下の荷物は、適切な方法で固定してください。 ラゲッジルームカバーが確実にロックされていることを確認してください。 荷物が確実に固定されていないと、急ブレーキ時や急な進路変更時、事故のときなどに荷物がバックレストを超えて車内に放り出されることがあります。 これにより、事故や乗員がけがをするおそれがあります。

❗ 荷物を車内に積むときは、ラゲッジルーム内の荷物をサイドウインドウ下端より高く積み上げないでください。 ラゲッジルームカバーの上に重い物を載せないでください。

ラゲッジルームカバーは2列目または3列目シート後方に取り付けることができます。

ラゲッジルームカバーの展開および収納



- ▶ **展開する：** グリップハンドル ① を持って、ラゲッジルームカバー を後方に引き、左右のフック ② に固定します。
- ▶ **格納する：**左右のフック ② からラゲッジルームカバーを外します。
- ▶ グリップハンドル ① でラゲッジルームカバーを前方に導き、完全に巻き取ります。

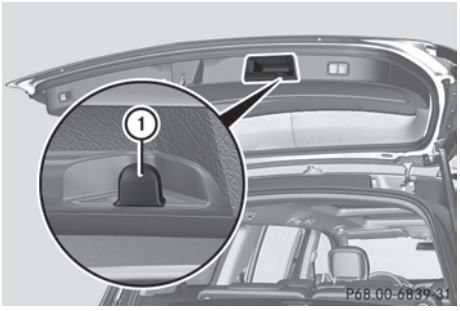
テールゲートのコートフック

⚠ 警告

コートフックに過度の力がかかると、テールゲートが閉じることがあります。

乗員が手などを挟まれ、けがをするおそれがあります。

コートフックには、軽い衣服以外の物をかけないでください。 身体や手などを挟まれないように注意してください。



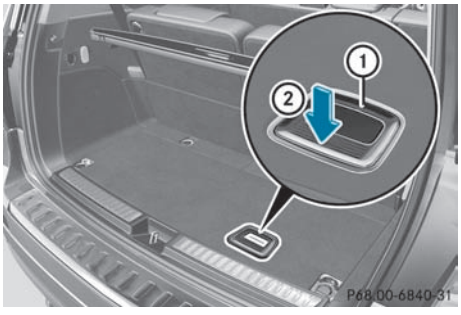
① コートフック

ラゲッジルームフロア下の収納スペース

⚠ 警告

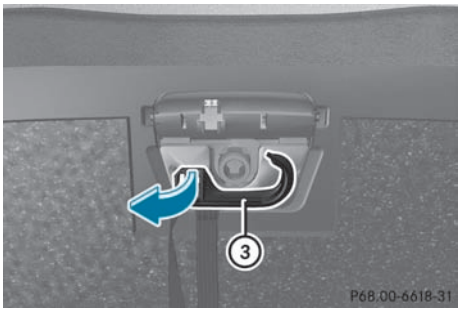
ラゲッジルームフロアを開けたまま走行しないでください。

急ブレーキ時や急な進路変更時、事故のときなどに荷物が車内に放り出されて、乗員がけがをするおそれがあります。

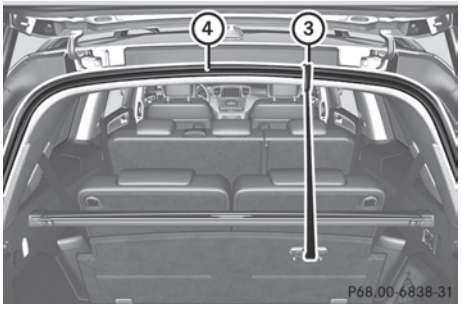


タイヤ交換ツールキットは収納スペース内にあります。

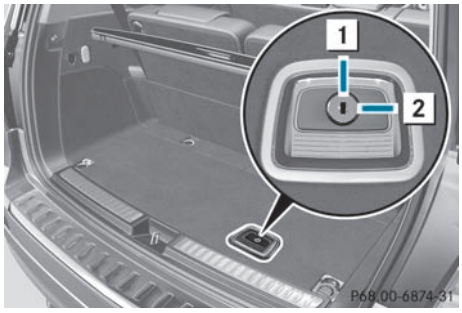
- ▶ **開く**：フレームを押さえながら、ハンドル ① を下方 ② に押します。
  ハンドル ① が浮き上がります。
- ▶ ハンドル ① を使ってラゲッジルームフロアを、ラゲッジルームカバーに当たるまで持ち上げます。



- ▶ ラゲッジルームフロアの底面にあるフック ③ を矢印の方向に引き出します。



- ▶ フック ③ をラゲッジルームの上側ウェザーストリップ ④ にかけます。
- ▶ **閉じる**：フック ③ をラゲッジルームの上側ウェザーストリップ ④ から外します。
- ▶ ラゲッジルームフロアボードの底面にあるブラケットにフック ③ を固定します。
- ▶ ラゲッジルームフロアを下ろします。
- ▶ ラゲッジルームフロアをロックするまで押し込みます ②。



1 ラゲッジルームフロアのロック解除

2 ラゲッジルームフロアのロック

ラゲッジルームフロアはエマージェンシーキーでロック/ロック解除できます。

ルーフラック

重要な安全上の注意

⚠ 警告

ルーフラックやスキーキャリアおよび荷物の固定方法を誤ると、車両から脱落する場合があります。 キャリアや荷物が放り出されて、乗員がけがをしたり、事故が起こるおそれがあります。 ルーフラック/スキーキャリアの取り扱いについては、製品に添付の取扱説明書をお読みください。

ルーフに荷物を積んでいると、車両の重心位置が変化し走行安定性に影響を与えます。 ルーフに積む荷物は、最大積載量100 kg を超えないように注意してください。 ルーフに荷物を積んでいるときは、道路状況や天候状態に合わせて運転スタイルを変えて、十分に注意して運転してください。

! ルーフラックは、メルセデス・ベンツ車用に認定された推奨品の使用をお勧めします。 推奨品以外の製品を取り付けると車両を損傷するおそれがあります。

ルーフラックに荷物を積むときは、走行中に車両を損傷しないように確実に固定してください。

車両の装備に応じて、ルーフラックを取り付けたときに、以下の操作ができることを確認してください。

- スライディングサンルーフをいっぱいに上げる
- パノラミックスライディングルーフをいっぱいに開ける
- テールゲートをいっぱいに開く

ルーフラックの取り付け



▶ ルーフラックをルーフレール ① に固定します。この作業はメーカーの取付説明書を遵守してください。

室内装備

カップホルダー

重要な安全上の注意

⚠ 警告

走行中はカップホルダーのカバーを閉じてください。 以下のような状況で、容器が飛び出して、乗員がけがをするおそれがあります。

- 急ブレーキ時
- 急な進路変更時
- 事故のとき

カップホルダーのサイズに合ったフタ付きの容器をお使いください。 飲み物がこぼれるおそれがあります。

カップホルダーには、熱い飲み物を置かないでください。 火傷をするおそれがあります。

⚠ 警告

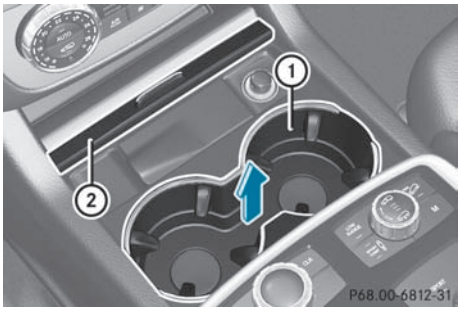
小物入れには、鋭利な形状や割れやすい容器、重いボトルなどを収納しないでください。

事故のときに、小物入れがボトルなどを適切に固定できなくなるおそれがあります。 そのため、運転者や乗員がけがをするおそれがあります。

ドアの小物入れには1.0 Lまでの容量のボトルのスペースがあります。

ボトルは固定も転倒防止もされていません。 そのため、栓をしていない飲料容器は小物入れに置かないようにしてください。

セーターコンソール前部のカップホルダー



① カップホルダー

② カバー

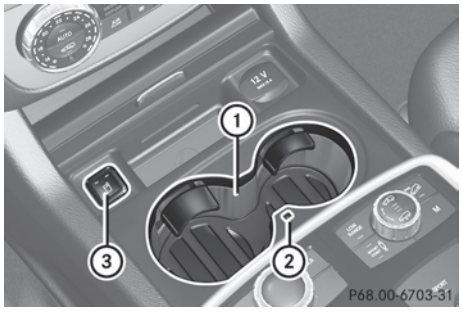
- **開く**：カバー ② を最大位置までスライドします。
- **閉じる**：カバー ② を引いて元の位置に戻します。

カップホルダーは取り外して清掃することができます。 清掃にはきれいなぬるま湯だけを使用してください。

前席センターコンソールの温度制御式カップホルダー

⚠ 警告

ヒーター機能を使用すると、カップホルダーの金属インサートが加熱されます。 このため、カップホルダーインサートには触らないでください。 やけどをするおそれがあります。



① カップホルダー

② 余熱表示灯

③ スイッチ

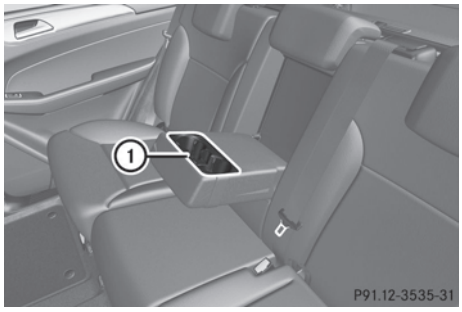
温度制御式カップホルダーは、冷たい飲み物を冷たく、温かい飲み物を温かく保つことに使用できます。

- イグニッション位置を **2** にします。
- **クーラー機能をオンにする**：青い表示灯が点灯するまでスイッチ ③ を押し続けます。
- **ヒーター機能をオンにする**：赤い表示灯が点灯するまでスイッチ ③ を押し続けます。
- **機能をオフにする**：表示灯が消えるまでスイッチ ③ を押し続けます。

ヒーター機能を使用しているときは、一定の温度から余熱表示灯 ② が点灯します。 これは、カップホルダーの金属インサートが熱くなっていることを示しています。

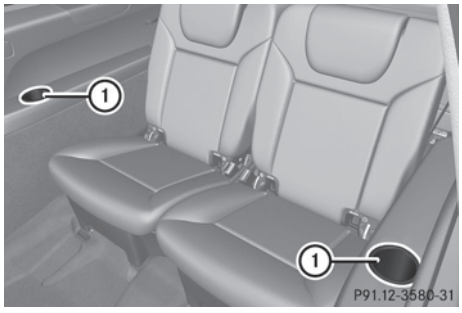
カップホルダー(リアアームレスト)

❗ リアアームレストを倒しているときに、アームレストに腰をかける、体重を支えるなど無理な力を加えないでください。アームレストが損傷する原因になります。



▶ リアシートのアームレストを引き出します。
カップホルダー ① は後席アームレスト内に取り付けられています。

3列目シートのカップホルダー



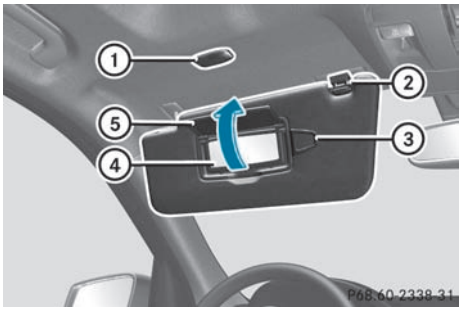
① カップホルダー

カップホルダーは右側と左側のパネルに取り付けられています。

サンバイザー

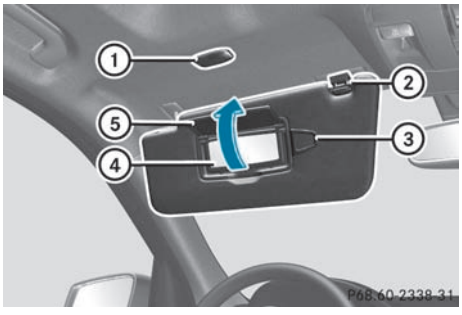
概要

⚠ 警告
走行中はサンバイザーのバニティミラーのカバーを閉じてください。 眩惑により視界を確保できなくなり、思わぬ事故につながるおそれがあります。



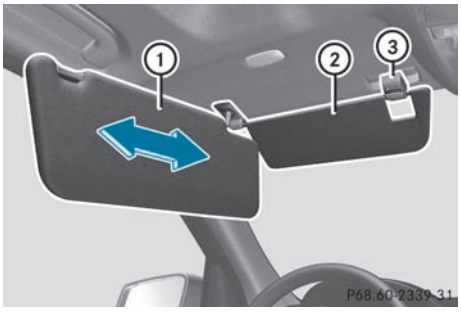
① ミラーライト
② フック
③ クリップ
④ バニティミラー
⑤ バニティミラーカバー

サンバイザーのバニティミラー



ミラーライト ① は、サンバイザーがフック ② で固定されている状態で、ミラーカバー ⑤ が開いているときにだけ点灯します。

横方向からの眩しさを防ぐ

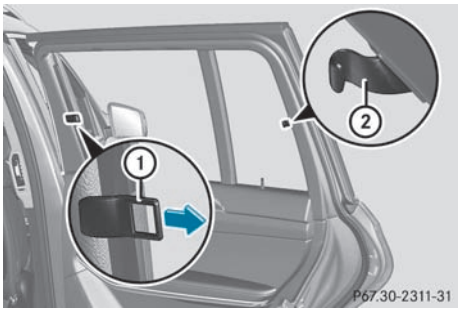


- サンバイザー ①を下げます。
- サンバイザー ① をフック ③から外します。
- サンバイザー ① を横にまわします。
- サンバイザー ① を必要なだけ水平にスライドさせます。
- 補助サンバイザー ② をフロントウインドウに下げます。

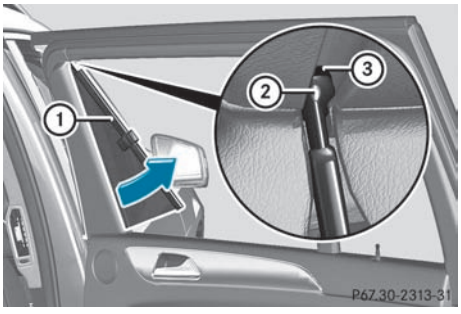
リアドアウインドウのブラインド

! ブラインドを格納するときは、必ず手で保持しながらゆっくり格納してください。 タブから手を放して急激に格納すると、ブラインドや格納機構が損傷するおそれがあります。

! リアサイドウインドウを開いた状態で走行しているときは、ブラインドを格納してください。 高速道路などで走行速度が上がると、走行風によりブラインドがフックから外れて急激に格納されるおそれがあり危険です。 また、ブラインドや格納機構が損傷する原因になります。 そのため、高速で走行するときは、事前にリアサイドウインドウを閉じるか、電動ブラインドを格納してください。



- **展開する：** タブ ① を持ってブラインドを引き出し、ウインドウ後部にあるフック ② にかけます。



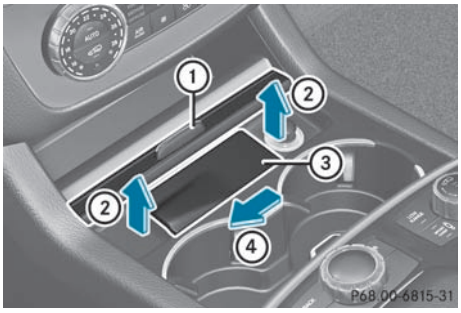
ガイドレール上端から外れても、ブラインドを元の位置に戻すことができます。

- 図示のように抜け出したプロファイル ① を傾けます。
- ガイドブッシュ ② をガイドレール ③ の空いた場所に滑り込ませます。
- 抜け出したプロファイル ① を再びまっすぐにします。

灰皿

前席灰皿

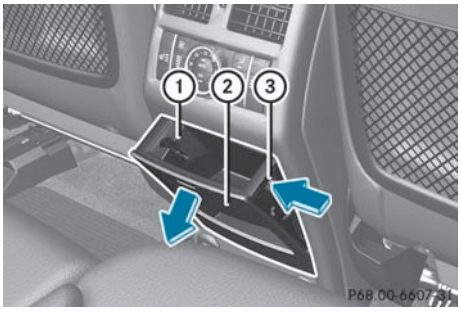
! 灰皿の下のホルダーは耐熱性ではありません。 火のついたタバコを灰皿に置くときは、灰皿が確実に固定されていることを確認してください。 ホルダーが損傷するおそれがあります。



- **開く**：カバー ① を最大位置までスライドします。
- 灰皿カバー ③ を引き上げます。
- **灰皿を取り外す**：灰皿 ③ を左 ④ に押します。
  灰皿 ③ が右に少しスライドして出てきます。
- 灰皿 ③ を持ち上げて ② 外します。
- **灰皿を取り付ける**：灰皿 ③ を元の位置に合わせ、右側を押し込みます。
- **閉じる**：カバー ① を引いて元の位置に戻します。

後席灰皿

! 使用しないとき、およびリアシートを前方に倒す前には、灰皿を閉じておいてください。 灰皿を損傷するおそれがあります。



- **開く**： カバー ② の上部を押してから手を放します。
  灰皿が開きます。
- **灰皿を取り外す**：凹部 ③ を右から押します。
  灰皿 ① が右に少しスライドして出てきます。
- 灰皿 ① を持ち上げて外します。
- **灰皿を取り付ける**：灰皿 ① を元の位置に合わせ、右側を押し込みます。

リアエンターテイメントシステム非装着車では、後席のセンターコンソールに灰皿が1つあります。

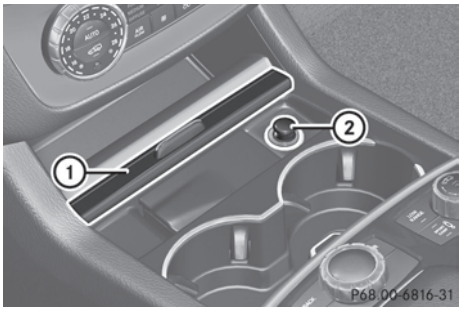
ライター

⚠ 警告

ライターは必ずノブの部分を持ってください。 火傷をするおそれがあります。

お子さまが同乗する場合は、ライターにさわらせないよう注意してください。火傷をしたり、火災が発生する原因になります。

! 前席センターコンソールのライターは電動エアポンプの作動用には設計されていません。



- イグニッション位置を 2 にします。
- **開く**：カバー ① を最大位置までスライドします。

▶ ライター ②を押し込みます。
ヒーター部が熱せられると、ライター ② は自動的に元の位置に戻ります。
▶ **閉じる**：カバー ① を引いて元の位置に戻します。

12 V電源ソケット

全体的な注意事項

▶ イグニッション位置を 1 にします。

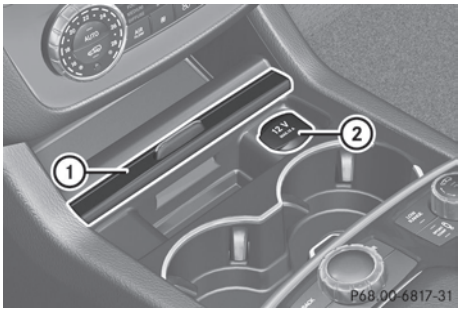
フロントセンターコンソールの電源ソケットを除き、すべての電源ソケットで最大消費電力240 W(20 A)のアクセサリーを使用できます。 フロントセンターコンソールの電源ソケットは最大消費電力180 W(15 A)のアクセサリーを使用できます。 アクセサリーにはランプや携帯電話の充電器のようなアイテムも含まれます。

エンジンがかかっていない状態で長時間使用しないでください。バッテリーあがりの原因になります。

ⓘ 緊急カットオフにより、バッテリーの電圧が過度に降下するのを防ぎます。バッテリーの電圧が低すぎる場合、ソケットの電源は自動的に停止します。 これは、エンジンを始動するのに十分な電力を確保するためです。

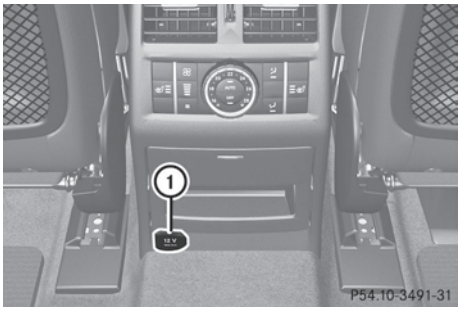
フロントセンターコンソールの電源ソケット

❗ この電源ソケットは電動エアポンプの作動には適していません。



▶ **開く**：カバー ① を最大位置までスライドします。
▶ 12 V電源ソケットのカバー ② を開きます。
▶ **閉じる**：カバー ① を引いて元の位置に戻します。

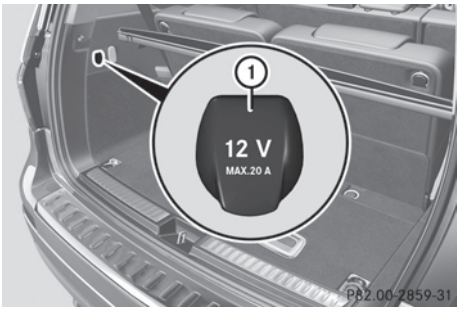
後席センターコンソールの電源ソケット



▶ 12 V電源ソケットのカバー ① を開きます。

リアエンターテインメントシステム装着車には、後席センターコンソールに2つの電源ソケットが装備されています。

ラゲッジルームの電源ソケット



▶ 12 V電源ソケットのカバー ① を開きます。

フロアマット

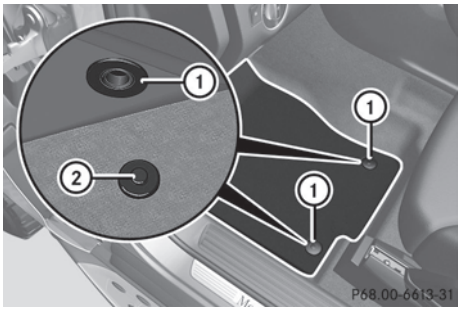
⚠ 警告

フロアマットを使用するときは、ペダルとの間に十分な空間があり、確実に固定されていることを確認してください。

フロアマットは、固定用ノブと凸部を使用して、確実に固定してください。

走行前にフロアマットを点検し、必要に応じて適切に調整してください。確実に固定されていないと、フロアマットが滑ってペダルに引っかかり、ペダル操作を妨げるおそれがあります。

運転席のフロアマットは重ねて使用しないでください。



例：運転席側フロアマット

▶ **運転席および助手席**：対応するシートを後方にスライドします。

▶ **後席**：対応する前席を前方にスライドします。

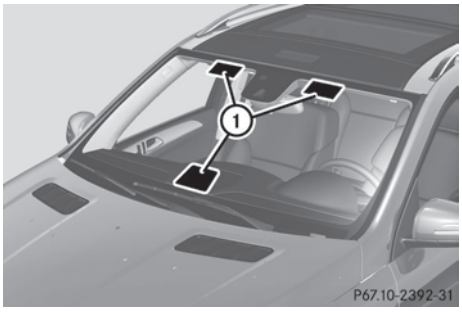
▶ **取り付ける**：フロアマットを足元に敷きます。

▶ フロアマットの凹部 ① を押し、フロアの凸部 ② にはめ込みます。

▶ **取り外す**：フロアの凸部 ② からフロアマットを引いて外します。

▶ フロアマットを取り外します。

赤外線反射フロントウインドウ



赤外線反射ガラスは車内が高温になることを防止します。 また、電波がギガヘルツ領域に入ることも防止します。

ETCなど、無線制御式機器を作動可能にするために、フロントウインドウ上のエリアは電波を通します ①。これらのエリア内に無線制御システムを取り付けできます。

これらのエリアは、フロントウインドウの反射光を観察することによって車外から最もよく見える場所です。

後装備の遮光フィルム

ウインドウの内側に遮光フィルムなどを貼り付けると、携帯電話やラジオなどの電波受信に影響を与えるおそれがありま

す。導電性フィルムや金属コーティングが施されたフィルムを貼り付けた場合は、特に電波受信への影響が懸念されます。遮光フィルムについて、詳しくはメルセデス・ベンツ指定サービス工場にお尋ねください。

役に立つ情報 348
エンジンルーム 348
エンジンルームの概要 354
サービス 354
日常の手入れ 355

役に立つ情報

ⓘ この取扱説明書は発行時点で利用可能な、車両のすべてのモデルやシリーズ、オプション装備を記載しています。国別仕様の違いがあることもあります。お客様の車両には記載されている全ての機能が装備されていないことがあることにご留意ください。これは安全に関するシステムや機能の場合もあります。

ⓘ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で情報をご覧ください。(▷ 23 ページ)

エンジンルーム

ボンネット

ボンネットオープナー

⚠ 警告

走行中はボンネットロック解除レバーを絶対に引かないでください。ボンネットが開いて視界が妨げられ、事故を起こすおそれがあります。

⚠ 警告

エンジンが停止している状態でも、ボンネットが開いていると火傷をするおそれがあります。

エンジン部品は非常に高温になっている可能性があります。

火傷を防ぐため、ボンネットを下降させる場合は、取扱説明書に記載されている箇所のみに触れるようにし、必ず注意事項を守ってください。

⚠ 警告

エンジンスイッチからキーを抜き取ってからも、ラジエーターとエンジンの間のラジエーターファンが自動的に回転することがあるので、ファンなどの回転部には、絶対に身体を近づけないでください。負傷するおそれがあります。

電子制御イグニッションシステムには高電圧が発生しています。以下の場合は、イグニッションシステムの部品(イグニッションコイル、イグニッションケーブル、スパークプラグのコネクター、ソケットなど)に決して手を触れないでください。

- エンジンが作動している
- エンジンを始動する
- イグニッションをオンにして、始動操作を行う

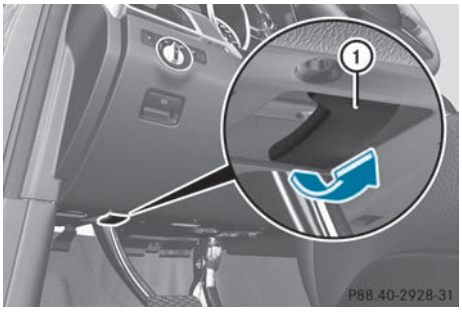
⚠ 警告

ワイパーが作動状態に設定されている可能性があります。

ボンネットが開いている場合にワイパーが作動すると、ワイパーリンケージに触れて負傷するおそれがあります。

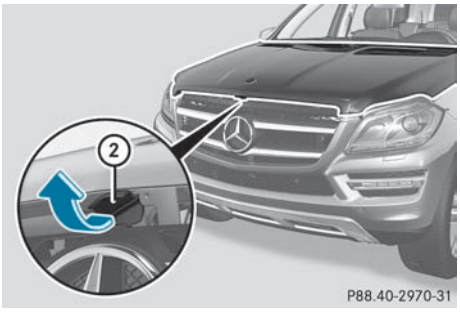
ワイパーのスイッチが停止の位置になっていることを確認してください。エンジンスイッチからキーを抜き取るか、あるいはキーレスゴースイッテチを押しイグニッション位置が選択されていないことを確認してください。メーターパネル内のすべての表示灯が消灯 します。

❗ ワイパーアームを起こしたままでボンネットを開かないでください。ボンネットとワイパーが接触して、損傷するおそれがあります。



▶ フロントワイパーが停止していることを確認します。

▶ ボンネットの解除レバー ① を引きます。
ボンネットが解除されます。



▶ 隙間に手を入れ、ボンネット固定ハンドル ② を引き上げながらボンネットを持ち上げます。
ボンネットを約40 cm持ち上げると、ガス封入式の支柱によりボンネットは自動的に開き、開いたまま保持されます。

ボンネットを閉じる

⚠ 警告
ボンネットを閉じるときは、身体や物を挟まないように注意してください。

⚠ 警告
ボンネットがロックされていないと、走行中に開くことがあります。 これにより視界が遮られたり、事故の原因になるおそれがあります。そのため、走行する前にボンネットがロックされていることを確認してください。
ボンネットを閉じるときは、身体が挟まれないことを確認してください。

▶ ボンネットを下げ、約 20 cmの高さから下ろします。
▶ ボンネットが確実に固定されていることを確認します。
ボンネットがわずかに持ち上がる場合は、確実に固定されていません。 再度開き、少し力を入れて閉じます。

エンジンオイル

全体的な注意事項

! エンジンオイルに添加剤を使用しないでください。エンジンを損傷するおそれがあります。

! エンジンオイルは使用している間に汚れたり劣化するだけでなく、消費され減少します。定期的にエンジンオイル量を点検し、必要に応じて補給または交換してください。

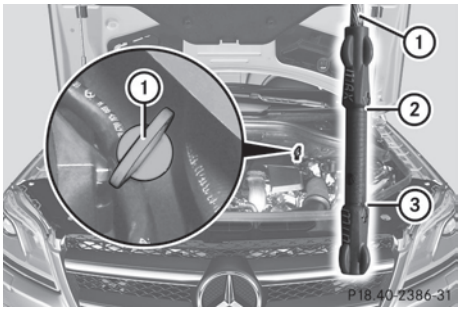
運転スタイルによって、車は1000 km当たり最大で約0.8 Lのオイルを消費します。 新車のときや頻繁にエンジン回転数を上げて走行する場合は、オイル消費量はこれより増加します。

エンジンによって、エンジンオイルレベルゲージの取り付け位置が異なる場合があります。

オイルレベルを点検する場合は、以下を確認してください。

- 車を水平な場所に停めます。
- エンジンが温まっている場合は、エンジンを停止してから約5 分以上お待ちください。
- エンジンが始動直後など、エンジンが温まっていない場合は、測定を開始する前に約 30 分お待ちください。

エンジンオイルレベルゲージでエンジンオイル量を点検する



- ▶ オイルレベルゲージ ① をオイルレベルゲージチューブから引き抜きます。
- ▶ オイルレベルゲージ ①を拭きます。
- ▶ オイルレベルゲージ ① をガイドチューブにいっぱいまでゆっくり差し込んで、再び引き抜きます。
  量がMIN マーク ③ とMAX マーク ② の間にあるときは、オイル量は適正です。
- ▶ オイルレベルがMINマーク ③ にまで減っている、またはそれより下回っている場合、エンジンオイルを約1.0 L追加してください。

エンジンオイルの補給

⚠ 警告

エンジンオイルが高温のエンジン部品に付着すると、発火して火傷をするおそれがあります。 エンジンオイルを高温のエンジンルーム内にこぼさないよう注意してください。

環境

エンジンオイルを補給するときは、こぼさないように注意してください。 エンジンオイルが地面や排水溝に流れると、環境に悪影響を与えます。

! サービスシステム装備車両のために承認されているエンジンオイルとオイルフィルターのみを使用してください。 サービスプロダクトに関するメルセデス・ベンツの仕様に適合するためにテストされ、承認されたエンジンオイルとオイルフィルターのリストはメルセデス・ベンツ指定サービス工場で入手できます。

エンジンまたは排気システムの損傷は以下のことに起因します。

- サービスシステムで承認されていない仕様のエンジンオイルやオイルフィルターの使用
- サービスシステムで要求される交換期間を過ぎた後のエンジンオイルやオイルフィルターの交換
- エンジンオイル添加剤の使用

! オイルを過剰に補給しないでください。 エンジンオイルを過剰に補給すると、エンジンまたは触媒が損傷する可能性があります。 余分なエンジンオイルを抜き取ってください。



例：エンジンオイルキャップ

- ▶ キャップ ① を反時計回りにまわして取り外します。
- ▶ エンジンオイルの補給
  オイルレベルがオイルレベルゲージのMINマーク上またはMINマークより下にある場合、エンジンオイルを1.0 L追加してください。
- ▶ キャップ ① を補給口に合わせ、時計回りに回します。
  キャップが元の場所に固定されていることを確認します。
- ▶ もう一度オイルレベルをオイルレベルゲージで点検します。 (▷ 349 ページ)

エンジンオイルについての詳しい情報は、(▷ 414 ページ) をご覧ください。

エンジンオイルの交換時期

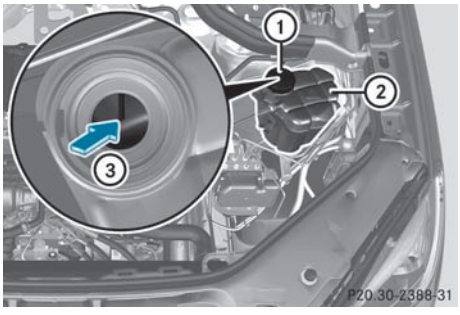
エンジンオイルおよびエンジンオイルフィルターは定期的に交換することをお勧めします。 メンテナンスインジケーター表示により、標準的な交換時期が定められています。 ただし、交換時期は使用状況に左右されます。 詳細は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場にお問い合わせください。

冷却水

冷却水量の点検

⚠ 警告

冷却システムには圧力がかかっているので、必ずエンジンが冷えてから、キャップを緩めてください。冷却水温度表示が約70 ℃以下にならないと、高温の冷却水が噴き出して火傷をするおそれがあります。



- 車を水平な場所に停めます。
  車両が水平な場所にあり、エンジンが冷えているときにのみ冷却水の量を点検します。
- エンジンスイッチのキーを **2** の位置にします。(▷ 157 ページ)
  キーレスゴー装備車は、キーレスゴースイッチを2 回押します。 (▷ 158 ページ)
- マルチファンクションディスプレイの冷却水温度計を点検します。
  冷却水温度は約 70 ℃以下でなくてはなりません。
- エンジンスイッチのキーを **0** (▷ 157 ページ) の位置にします。
- キャップ ① を反時計回りにゆっくり半回転まわして、余分な圧力を逃します。
- キャップ ① をさらに反時計回りにまわして取り外します。
  冷えているときに、冷却水が補給口内のマーカーバー ③ の高さにあれば、リザーバータンク ② 内の冷却水は十分にあります。
  温かいときに、冷却水が補給口内のマーカーバー ③から約1.5 cmのところにあれば、リザーバータンク②内の冷却水は十分にあります。
- キャップ ① を合わせ、時計回りにいっぱいまでまわします。

冷却水についての詳しい情報は、(▷ 415 ページ)をご覧ください。

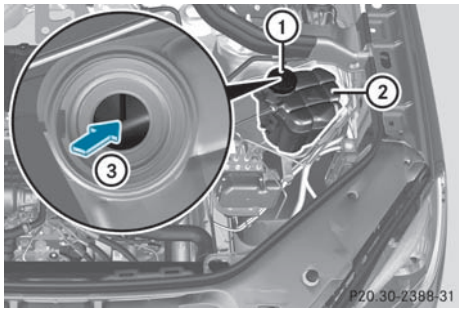
冷却水の補給

⚠ 警告

不凍液は可燃性の強い液体です。不凍液を取り扱う場合は、火気や裸火を近づけたり、近くで喫煙しないでください。

不凍液が高温のエンジン部品に付着すると、発火して火傷をするおそれがあります。不凍液をエンジンルームにこぼさないよう注意してください。

! 冷却水が塗装面に付着しないように注意してください。塗装面が損傷するおそれがあります。



例

冷却水リザーブタンク ② 内の液量が非常に低い場合は、車両が水平な場所にあり、エンジンが冷えているときに冷却水を補給してください。

- ▶ キャップ ① を反時計回りにゆっくり半回転まわして、余分な圧力を抜きます。
- ▶ キャップ ① をさらに反時計回りにまわして取り外します。
- ▶ 冷却水をマーカーバー ③ まで補給してください。
  使用状況 (▷ 415 ページ) に合わせた水道水と防錆不凍液の濃度で使用します。
- ▶ キャップ ① を合わせ、時計回りにいっぱいまでまわします。
- ▶ エンジンを始動し、約5 分後に再度停止して冷やします。
- ▶ 冷却水の量 (▷ 351 ページ) を点検し、必要であれば補給します。

冷却水の交換時

冷却水の品質は時間とともに劣化します。 整備手帳の指示に従い、定期的に冷却水を交換してください。 詳細は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場にお問い合わせください。

オーバーヒートしたとき

⚠ 警告

エンジンが停止している状態でも、ボンネットが開いていると火傷をするおそれがあります。

エンジン部品は非常に高温になっている可能性があります。

火傷を防ぐため、ボンネットを下降させる場合は、取扱説明書に記載されている箇所のみに触れるようにし、必ず注意事項を守ってください。

⚠ 警告

冷却システムには圧力がかかっているので、必ずエンジンが冷えてから、キャップを緩めてください。冷却水温度表示が約70 ℃以下にならないと、高温の冷却水が噴き出して火傷をするおそれがあります。

オーバーヒートしたときは：

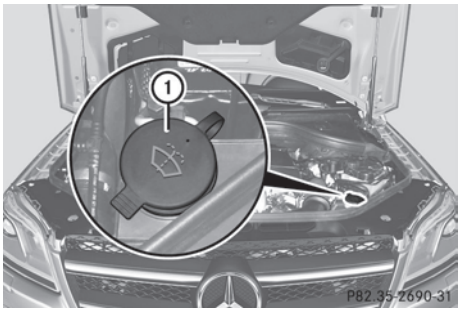
- メーターパネルに約 120 ℃ 以上の冷却水温度が表示されている。
- マルチファンクションディスプレイに 冷却水が減少 停車してエンジンを停止 というメッセージが表示されている。
- エンジンがかかっているときに、メーターパネルに赤色の [冷却水] 冷却水警告灯が表示される。
- エンジンルームから蒸気が出ている。

その他のサービスプロダクト

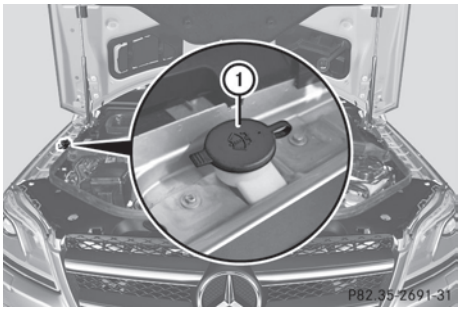
ウインドウウォッシャーおよびヘッドライトウォッシャーの補給

⚠ 警告

ウォッシャー液または不凍液は可燃性です。発火して燃えるおそれがありますので、熱くなったエンジン部品の上に、ウォッシャー液または不凍液をこぼさないようにしてください。重度の火傷を負うおそれがあります。



例：ウォッシャー液リザーブタンク



例：AMG車のウォッシャー液リザーブタンク

- **開く：** タブを持ってキャップ ① を引き上げます。
- 混合しておいたウォッシャー液を補給します。
- **閉じる：** キャップ ① を補給口に押し付けて、固定します。

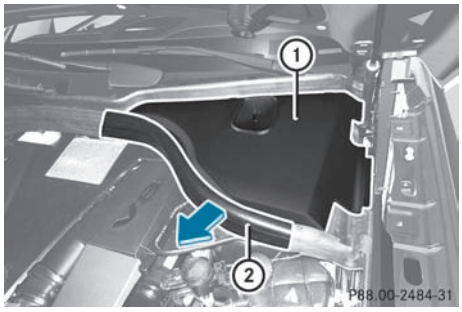
ウインドウウォッシャーおよびヘッドライトウォッシャーのウォッシャー液リザーブタンクは共用です。

ウインドウウォッシャー液および不凍液に関する詳細は (▷ 415 ページ) をご覧ください。

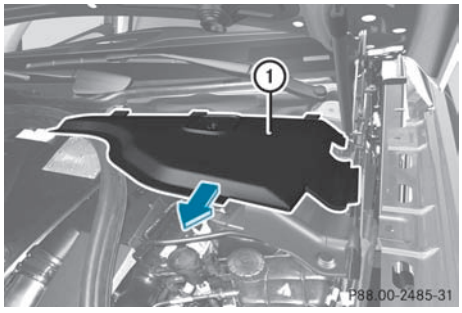
ブレーキ液量

! ブレーキ液リザーブタンクのブレーキ液レベルがMINマークに下がった、あるいは下回ったことに気がついた場合は、ただちにブレーキシステムの漏れを点検してください。 ブレーキパッド / ライニングの厚さも点検してください。 ただちにメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

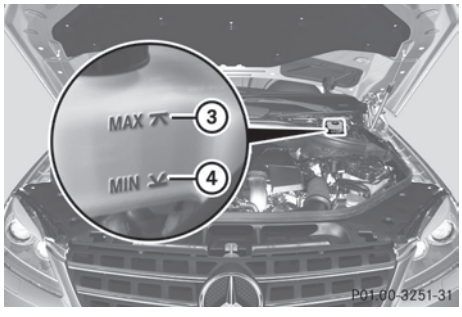
絶対にブレーキ液を補給しないでください。 ブレーキ液を補給しても問題は解消しません。



- シール ② をカバー部分 ① から矢印の方向に引っ張ってください。



- カバー ① を前方向に持ち上げます。
- カバー ① を矢印の方向に引き出します。

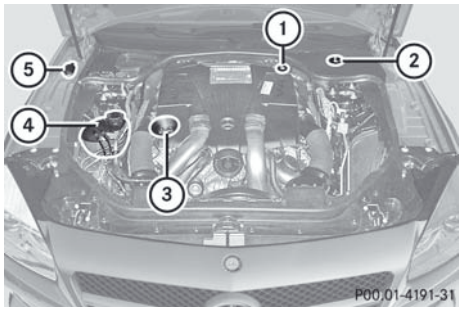


例

ブレーキ液レベルがブレーキ液リザーブタンクのMINマーク④とMAXマーク ③のあいだにある場合、ブレーキ液レベルは正常です。

カバー ① は手順と逆の順序で交換します。 この作業中には、カバーのガイド ① がバルクヘッドの切り欠き部に確実にかみ合っていることを確認してください。

エンジンルームの概要



例

① オイルレベルゲージ
② ブレーキ液リザーブタンク
③ エンジンオイルキャップ
④ 冷却水リザーブタンク
⑤ ウォッシャー液リザーブタンク

サービス

メンテナンスインジケーター

メンテナンスメッセージ

定期点検には以下のものがあります。

- 日常点検で異常を発見した場合は、できるだけ早くメルセデス・ベンツ指定サービス工場で車両の点検を受けてください。 メルセデス・ベンツではメルセデス・ベンツ指定サービス工場をご利用いただくことをお勧めします。 日常点検に関する情報（別冊の整備手帳をご覧ください）
- 1年毎の法定点検
- 2年毎の法定点検

法定点検の次回期日を記したステッカーは、フロントウインドウに貼付してあります。

ℹ メンテナンスインジケーターには、法定点検の期日は考慮されません。

メンテナンスインジケーターは、次回の点検期日をお知らせします。

点検の種類と点検時期に関する情報（別冊の整備手帳をご覧ください）

詳細な情報は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

ℹ メンテナンスインジケーターは、エンジンオイル量に関する情報を表示しません。 エンジンオイル量に関する注意事項を確認してください。(▷ 349 ページ)

マルチファンクションディスプレイに以下のようなメンテナンスメッセージが数秒間表示されます。

次のメンテナンスAあと .. 日です
メンテナンスA期限が切れます
メンテナンスA ...日 超過しました

文字 "A" あるいは "B" は、メンテナンスのタイプを表す数字あるいは他の文字と結びついてます。 A は小規模なメンテナンス、B は大規模なメンテナンスを示しています。

詳細な情報は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

メンテナンスインジケーターは、バッテリーの接続を外している間の期日を考慮していません。

年毎のメンテナンススケジュールは、以下のように管理してください。。

▶ バッテリーの接続を外す前に、マルチファンクションディスプレイに表示さ

れるメンテナンス予定期日をメモしてください。

または

▶ バッテリーを再度接続した後に、ディスプレイに表示されているメンテナンス予定期日からバッテリーの接続を外していた期間を引いてください。

メンテナンスメッセージを表示しない

▶ ステアリングの ⮌ または OK スイッチを押します。

メンテナンスメッセージを表示する

▶ イグニッションをオンにします。

▶ ステアリングの ◀ または ▶ スイッチを押して、マルチファンクションディスプレイのメニューから メンテナンス を選択します。

▶ ▲ または ▼ スイッチを押して、メンテナンス サブメニューを選択し、 OK スイッチを押して確定します。
マルチファンクションディスプレイにメンテナンス予定期日が表示されます。

メンテナンスに関する情報

メンテナンスインジケーターのリセット

! 不注意でメンテナンスインジケーターをリセットしたときでも、この設定はメルセデス・ベンツ指定サービス工場で修整することができます。

整備手帳に記載されているように点検作業を実施してください。 さもなければ、主要部品や車両の摩耗が進んだり、損傷するおそれがあります。

点検作業の実施後、メルセデス・ベンツ指定サービス工場はメンテナンスインジケーターのリセットを行います。 メンテナンス作業などに関する詳細もメルセデス・ベンツ指定サービス工場にお問い合わせください。

特別な点検が必要なとき

過酷な使用条件や、車両に高い負荷がかかるときには、車両を通常で使用するときよりも頻繁に各種の点検作業が必要になります。 こうした過酷な条件には、通常の市街地走行であっても頻繁に停止を繰り返す場合や、山間地や路面の悪いところで車両を使用している場合も含まれます。

過酷な条件で使用する車両の場合、たとえばエアフィルター、エンジンオイルやオイルフィルターなどを短い周期で交換し、タイヤを頻繁に点検することが必要になります。 詳細は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場にお問い合わせください。

日常の手入れ

全体的な注意事項

環境

空の容器や使用済みのクリーニングクロスは、環境に配慮した方法で廃棄してください。

! お車の手入れをされる場合は、次のものは絶対に使用しないでください。

- 乾いた布や目の粗い布、硬めの布など
- 研磨剤を含む洗剤
- 溶剤
- 溶剤を含む洗剤

強く擦らないでください。

リングやスクレーパーなどのかたい物が、塗装面や保護膜に触れないようにしてください。塗装面や保護膜が損傷するおそれがあります。

! 特にホイールクリーナーでホイールを清掃した後は、清掃したままで車両を長い間駐車しないでください。ホイールクリーナーが、ブレーキディスクやブレーキパッド/ライニングの錆を増加さ

せる原因になるおそれがあります。このため、清掃した後は数分間走行してください。ブレーキディスクやブレーキパッド/ライニングを、ブレーキ制動により加熱して乾燥させます。その後で駐車してください。

定期的な車の手入れにより、長い期間品質を保つことができます。

メルセデス・ベンツが推奨し、承認した手入れ用品およびクリーナーを使用してください。

洗車および塗装の手入れ

自動洗車機の使用

⚠ 警告

自動洗車機で洗車した直後は、ブレーキの効きが悪くなることがあります。そのまま運転すると、思わぬ事故につながるおそれがあります。ブレーキが乾くまで、洗車後しばらくは慎重に運転してください。

⚠ 警告

ホールド機能またはディストロニックプラスが作動しているときは、車両にブレーキが効いています。車両を自動洗車機で洗車する前に、ホールド機能とディストロニックプラスを解除してください。

! 注意：

- サイドウインドウおよびスライディングルーフが完全に閉じていること
- ベンチレーション / ヒーターの送風が停止していること（OFFスイッチが押されていること）
- ワイパースイッチが **0** の位置になっていること

車両を損傷するおそれがあります。

! けん引装置付きの洗車機では、オートマチック車の場合シフトポジションを **N**にしてください。車両が損傷するおそれがあります。

- キーレスゴー非装備車：

  エンジンスイッチからキーを抜かないでください。エンジンを停止しているときは、運転席ドアまたは助手席ドアを開かないでください。オートマチックトランスミッションが自動的に **P**にシフトされ、ホイールがロックします。オートマチックトランスミッションをシフトポジション **N** にすることにより、ホイールのロックを防ぐことができます。
- キーレスゴー装備車：

  エンジンを停止しているときは、運転席ドアまたは助手席ドアを開かないでください。オートマチックトランスミッションが自動的に **P** にシフトされ、ホイールがロックします。

以下の注意を遵守して、オートマチックトランスミッションが **N** の位置に入っていることを確認してください。

- ▶ 車両が停止中でエンジンスイッチがオフになっていることを確認してください。
- ▶ エンジンスイッチを **2** (▷ 157 ページ)の位置にします。
  キーレスゴー装備車の場合は、エンジンスイッチではなくキーレスゴースイッチを操作します。
- ▶ ブレーキペダルを踏んだまま保持します。
- ▶ シフトポジションを **N** にします。
- ▶ ブレーキペダルを徐々に戻します。
- ▶ パーキングブレーキを解除します。
- ▶ イグニッションをオフにして、エンジンスイッチにキーを残したままにします。

最初から自動洗車機で洗車することができます。

汚れがひどいときは、自動洗車機で洗車する前に水洗いしてください。

自動洗車機で洗車した後は、フロントウインドウやワイパーブレードに付着したワックスなどを拭き取ってください。フロントウインドウに汚れが付くのを防ぎ、付着物によるワイパーの異音を低減します。

手洗い

国によっては、洗車は専用の洗車場でのみ許可されている場合があります。各国で定められている法規を遵守してください。

- ▶ 熱いお湯は使用せず、直射日光の下で洗車しないでください。
- ▶ 柔らかいスポンジを使用して清掃してください。
- ▶ メルセデス・ベンツにより承認されたカーシャンプーなどの中性洗剤を使用してください。
- ▶ 低圧の水流で車両全体に水をかけてください。
- ▶ 吸気口に直接水流を向けないでください。
- ▶ スポンジをこまめにすすぎながら、十分な量の水を使用します。
- ▶ 車両をきれいな水で洗い流した後、セーム皮で全体を拭きます。
- ▶ 塗装面で洗浄液を乾燥させないでください。

冬に車両を使用したときは、注意しながら道路の塩分堆積物のすべての跡をできるだけ早く除去してください。

高圧式スプレーガン

⚠ 警告

高圧式スプレーガンを使用して洗車しないでください。特に、タイヤなどはこのスプレーガンを使用しないでください。

タイヤが損傷して、思わぬ事故につながるおそれがあります。

! 車両と高圧式スプレーガンのノズルの間には、常に最低でも約30 cm以上の距離を空けてください。適正な距離については、製品のメーカーにご確認ください。

車両を清掃するときは、高圧式スプレーガンのノズルを円を描くように動かしてください。

以下のものには直接向けないでください。

- タイヤ
- ドアの隙間、ルーフの隙間、継ぎ目など
- 電気装備
- バッテリー
- コネクター
- ライト
- シール
- トリム部品
- 換気用の隙間

シールや電気装備が損傷して、水漏れや故障につながります。

塗装面の清掃

! ボディの表面には、次のものを貼り付けないでください。

- ステッカー
- フィルム
- マグネット

塗装面が損傷するおそれがあります。

誤って傷を付けたり、誤った手入れにより錆などが発生したときは、補修が困難になる場合もあります。このような場合は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

- 可能であれば、不純物は強くこすらないようにしてただちに取り除いてください。
- 虫の死がいは、インセクトリムーバーをしみこませ、その後で手入れを行なった範囲を洗い流してください。
- 鳥のふんは、水をしみこませ、その後で手入れを行なった範囲を洗い流してください。
- 冷却水、ブレーキ液、樹液、オイル、燃料、グリースなどは、エーテルやライターオイルを染み込ませた布で軽く拭いて、取り除いてください。
- タールの汚れは、タール除去剤を使用して取り除いてください。
- ワックスは、シリコン除去剤を使用して取り除いてください。

マットペイント塗装車の取り扱い

車両や軽合金ホイールを磨かないでください。磨くと光沢がある仕上がりの原因になります。

以下により塗装に艶が出て、マット効果が減少することがあります。

- 不適切な素材での力強い研磨
- 洗車機の頻繁な使用
- 直射日光の下での洗車

塗装クリーナーや研磨・艶出し用品、ワックスのような光沢復活剤を使用しないでください。 これらの製品は、高い艶がある表面のみに適したものです。 これらの製品をマット仕上げ車両に使用すると、表面の著しい損傷（光沢のあるシミ部分）につながります。

塗装面の補修は、常にメルセデス・ベンツ指定サービス工場に依頼してください。

ホットワックス仕上げによる洗車サービスは絶対に利用しないでください。

車両がクリアマット仕上げの場合はこれらの注意に従ってください。 適切でない取り扱いにより塗装に損傷を与えるのを防ぐのに役立ちます。

これらの注意はクリアマット仕上げの軽合金ホイールにも当てはまります。

車両は、柔らかいスポンジやカーシャンプー、たくさんの水を使用して手で洗うようにしてください。

インセクトリムーバーおよびカーシャンプーは、メルセデス・ベンツが推奨し、承認した中からのみお選びください。

車両部品の清掃

ホイールの清掃

ホイールには酸性ホイールクリーナーを絶対に使用しないでください。ホイールボルトやブレーキ部品が損傷するおそれがあります。

特にホイールクリーナーでホイールを清掃した後は、清掃したままで車両を長い間駐車しないでください。ホイールクリーナーが、ブレーキディスクやブレーキパッド/ライニングの錆を増加させる原因になるおそれがあります。このため、清掃した後は数分間走行してください。ブレーキディスクやブレーキパッド/ライニングを、ブレーキ制動により加熱して乾燥させます。その後で駐車してください。

ウインドウの清掃

⚠ 警告

ワイパーやワイパーブレードの清掃を行なう前に、必ずワイパーのスイッチをオフにして、さらにイグニッションスイッチからキーを抜き取ってください。キーレスゴー装備車の場合は、キーレスゴースイッチを繰り返し押して、メーターパ

ネルのすべての表示灯を消灯させます。ワイパーが作動すると、負傷するおそれがあります。

! ウインドウの内側を清掃する場合は、乾いた布や、研磨剤、有機溶剤や有機溶剤を含むクリーナーを使用しないでください。アイススクレーパーや指輪などの硬質のものがウインドウの内側に触れないようにしてください。ウインドウを損傷する危険性があります。

! フロントウインドウおよびリアウインドウの排水口を定期的に清掃してください。特定の状況では、葉、花びら、花粉などの堆積物により排水されなくなり、腐食による損傷や電子部品の損傷につながるおそれがあります。

▶ 湿らせた布とメルセデス・ベンツが推奨し、承認したクリーナーでウインドウの内側と外側を清掃してください。

ワイパーブレードの清掃

⚠ 警告

ワイパーやワイパーブレードの清掃を行なう前に、必ずワイパーのスイッチをオフにして、さらにイグニッションスイッチからキーを抜き取ってください。キーレスゴー装備車の場合は、キーレスゴースイッチを繰り返し押して、メーターパネルのすべての表示灯を消灯させます。ワイパーが作動すると、負傷するおそれがあります。

! ワイパーブレードを持って引っ張らないでください。ワイパーブレードが損傷するおそれがあります。

! ワイパーブレードを頻繁に清掃したり、強く擦ったりしないでください。グラファイトコーティングが損傷するおそれがあります。ワイパーからノイズが発生する原因になります。

! ワイパーアームを元の位置に確実に固定します。ワイパーアームが不意に当たると、フロントウインドウに傷が付くおそれがあります。

▶ ワイパーアームをフロントウインドウから起こします。

▶ 湿らせた布を使用して、注意してワイパーブレードを清掃します。

▶ イグニッションをオンにする前に、ワイパーを再度元に戻します。

ライトの清掃

! 必ずプラスチック製レンズに適した洗剤やクリーニングクロスのみを使用してください。 適切でない洗剤やクリーニングクロスは、車外ライトのプラスチック製レンズを傷つけたり、損傷するおそれがあります。

▶ メルセデス・ベンツ純正シャンプーやクリーニングクロスなど、湿らせたスポンジと中性洗剤を使用して車外ライトのプラスチック製レンズを清掃してください。

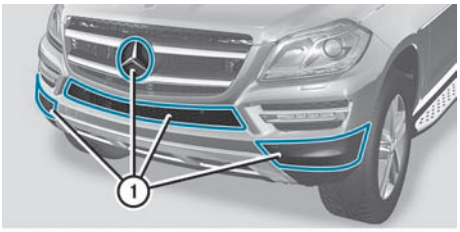
ドアミラー方向指示灯

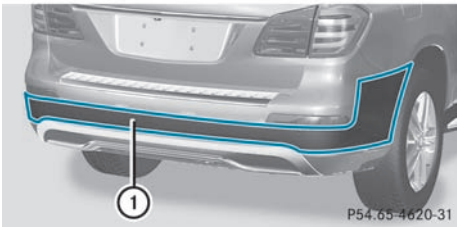
! 必ずプラスチック製レンズに適した洗剤やクリーニングクロスのみを使用してください。 適切でない洗剤やクリーニングクロスは、ドアミラー方向指示灯のプラスチック製レンズを傷つけたり、損傷するおそれがあります。

▶ メルセデス・ベンツ純正シャンプーやクリーニングクロスなど、湿らせたスポンジと中性洗剤を使用してドアミラーユニットにあるドアミラー方向指示灯のプラスチック製レンズを清掃してください。

センサーの清掃

! 高圧式スプレーガンを使用してセンサーを清掃するときは、スプレーガンのノズルと車体の距離を約30 cm以上離してください。適正な距離については、製品のメーカーにご確認ください。

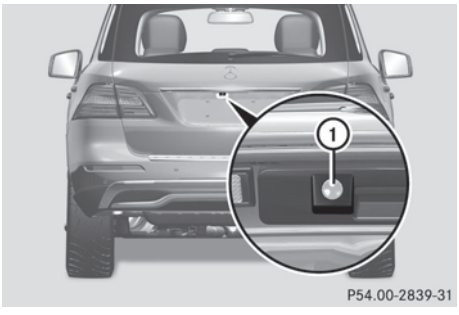




▶ 水とカーシャンプーおよび柔らかい布で走行装備のセンサー ① を清掃します。

360° カメラの清掃

! 高圧クリーナーを使用してカメラのレンズや360° カメラの周囲を清掃しないでください。



▶ 停車していることを確認し、エンジンスイッチを **2** の位置にします。

▶ **360° カメラのカバーを開く：** COMANDシステムを起動して、SYS スイッチを押します。

▶ COMANDコントローラをまわして "システム"を選択し、押して、確定します。

▶ "360° カメラ" を選択し、押して、確定します。

▶ "カメラのカバーを開けてください" を選択し、押して、確定します。360° カメラのカバーが開きます。

▶ **360° カメラを清掃する：** きれいな水でレンズ ① の汚れを落とし、柔らかい布で拭き取ってください。

i 約 30 km/h 以上で走行中またはエンジンスイッチのキーが **0** または **1** の位置のときは、360° カメラのカバーが自動的に閉じます。

マフラーの清掃

! サニタリークリーナーやホイールクリーナーなど、酸性のクリーナーでマフラーを清掃しないでください。

路面の小石や腐食性の環境物質などが混ざった不純物が、マフラーの表面に発生する錆の原因になることがあります。 特に、冬の間や洗車後など、定期的に清掃することにより、マフラーの元来の輝きを取り戻すことができます。

▶ メルセデス・ベンツによりテストされ、承認されたクロームケア製品でマフラーを清掃してください。

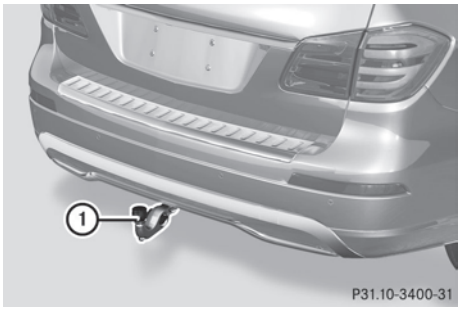
トレーラーけん引ヒッチの清掃

環境に関する注意

オイルやグリースが染み込んだ布は環境に配慮した方法で廃棄してください。

! 高圧洗浄機を使用してボールヘッドカップリングを清掃しないでください。有機溶剤を使用しないでください。

! トレーラーのメーカーによって提供された、手入れに関する注意事項を遵守してください。



ボールヘッドカップリングが汚れたり、腐食し始めた場合は清掃してください。

- ワイヤーブラシなどを使用してボールヘッドカップリングのボール部に付着した錆を落とします。
- 泥は清潔で毛羽立たない布かブラシを使用して取り除きます。
- 清掃後、ボールヘッドカップリング ① にオイルまたはグリースを軽く塗布します。
- 車両のトレーラーけん引ヒッチが正常に作動するか点検します。

i ボールヘッドカップリングとトレーラーけん引ヒッチのメンテナンス作業はメルセデス・ベンツ指定サービス工場に依頼することもできます。

車内の手入れ

ディスプレイの清掃

! ディスプレイの手入れには、以下のものは絶対に使用しないでください。

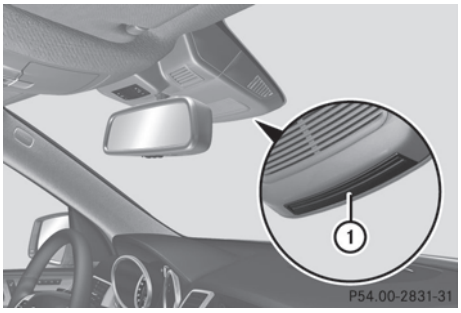
- アルコールやシンナー、ガソリン
- 研磨剤を含む洗剤
- 市販の家庭用洗剤

これらを使用すると、ディスプレイ表面のコーティングを傷付けるおそれがあります。ディスプレイ表面を強くこすらないでください。ディスプレイが損傷して修理できなくなるおそれがあります。

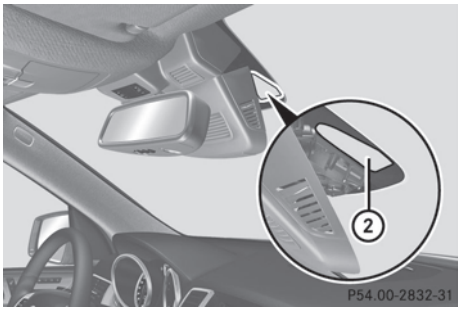
- ディスプレイを清掃する前に、オフになっていて、冷めていることを確認します。
- 市販のマイクロファイバークロスとTFT液晶ディスプレイクリーナーを使用して、ディスプレイ表面を清掃します。
- 乾いたマイクロファイバークロスを使用してディスプレイ表面を拭きます。

ナイトビューアシストプラスの清掃

! カメラのレンズを拭かないでください。ナイトビューアシストプラスカメラ前方のフロントウインドウを清掃するときは、スプレー式のウインドウクリーナーがカメラのレンズに付着しないように注意してください。カメラレンズが汚れている場合は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。



▶ カバーの凹部 ①に指を入れて下に開きます。



▶ 柔らかい布で、カメラ ②前方のフロントウインドウを清掃します。

樹脂製トリムの清掃

⚠ 警告

ステアリングやインストルメントパネルの手入れには、内装用スプレー式クリーナーや溶剤を含む洗剤を使用しないでください。溶剤を含む洗剤を使用すると、樹脂部品にひび割れや塗膜はがれなどが生じてもろくなり、エアバッグが展開したときに飛び散り、乗員が重傷を負うおそれがあります。

! プラスチックの表面には、以下のものを貼り付けないでください。

- ステッカー
- フィルム
- 芳香ボトルや類似のもの

プラスチックを損傷するおそれがあります。

! 化粧品、殺虫剤、日焼け止めなどが樹脂製トリムに付着しないようにしてください。表面の光沢や質感が損なわれるおそれがあります。

▶ 湿らせたマイクロファイバークロスなどの柔らかい布でプラスチックトリムを拭きます。

▶ **汚れがひどいとき：** メルセデス・ベンツにより推奨され、承認されたカーケア用品および清掃用品を使用してください。
表面が一時的に変色することがあります。 表面が再度乾くまでお待ちください。

ステアリング、ギアレバーおよびセレクターレバーの清掃

▶ 湿らせた布、またはメルセデスベンツによって推奨され承認された手入れ用品を使用して全体を拭いてください。

ウッドトリムおよびトリムパーツの清掃

! タール除去剤、ホイールクリーナー、光沢剤、ワックスなどの有機溶剤を絶対に使用しないでください。トリム表面を傷つけるおそれがあります。

▶ ウッドトリムやトリムパーツは、湿らせたマイクロファイバークロスなどの柔らかい布で拭いてください。

▶ **汚れがひどいとき：** メルセデス・ベンツにより推奨され、承認されたカーケア用品および清掃用品を使用してください。

シートカバーの清掃

! 清掃するときは、以下のことに注意してください。

- 純正本革の表皮は、湿らせた布で注意して清掃し、その後に乾いた布で表皮を拭きます。 革が濡れないように注意してください。 硬化やひび割れにつながります。 メルセデス・ベンツがテストし、承認したレザーケア用品のみを使用してください。 詳細はメルセデス・ベンツ指定サービス工場にお問い合わせください。
- 人工皮革の表皮は、1 %の洗剤（洗濯液など）を含む溶液で湿らせた布で清掃します。
- 布の表皮は、1 %の洗剤（洗濯液など）を含む溶液で湿らせたマイクロファイバークロスで清掃します。 目に見える線が残らないように、注意深くこすり、シート全体をまんべんなく拭きます。 その後、シートを乾燥させます。 清掃の効果は、汚れの種類およびどの程度の期間汚れていたかによります。
- DINAMICAの表皮は、湿らせた布で清掃します。 目に見える線が残らないように、シート全体をまんべんなく拭きます。

! 純正本革、人工皮革またはDINAMICAの表皮の清掃には、マイクロファイバークロスを使用しないでください。 頻繁に使用すると、表皮を損傷するおそれがあります。

i 表皮の外観と快適さをいつまでも保つためには、定期的な手入れが必要です。

シートベルトの清掃

! シートベルトの手入れには、ケミカル洗剤を使用しないでください。 シートベルトを乾燥させるときは、約80 ℃ 以上の高温や直射日光にさらさないでください。

▶ ぬるま湯と中性洗剤を使用します。

ルーフライニングおよびカーペットの清掃

▶ **ルーフライニング**：非常に汚れている場合は、柔らかいブラシ、またはドライシャンプーを使用します。

▶ **カーペット**： メルセデス・ベンツによって推奨および承認されてるカーペットや布用のクリーナーを使用します。

役に立つ情報 366
車載品の収納場所 366
タイヤのパンク 368
バッテリー(車両) 373
ジャンプスタート 377
けん引およびけん引による始動 .. 380
ヒューズ 383

役に立つ情報

ⓘ この取扱説明書は発行時点で利用可能な、車両のすべてのモデルやシリーズ、オプション装備を記載しています。国別仕様の違いがあることもあります。お客様の車両には記載されている全ての機能が装備されていないことがあることにご留意ください。これは安全に関するシステムや機能の場合もあります。

ⓘ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で情報をご覧ください。(▷ 23 ページ)

車載品の収納場所

懐中電灯

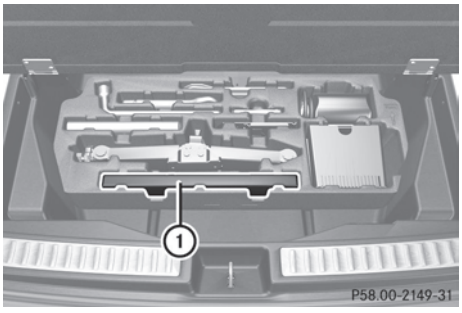
車内には懐中電灯が装備されています。運転席ドアまたは助手席ドアのいずれかの小物入れに収納されています。

ⓘ 新品の懐中電灯には電池の自然放電を防ぐため、電池の間に紙片が挟まれています。 初めて使用する前に、紙片を取り除きます。

ⓘ 懐中電灯が十分な明るさで点灯することを定期的に点検してください。 電池が切れたら交換してください。

停止表示板

停止表示板の取り外し



停止表示板の収納場所（例：タイヤフィットキット装備車）

停止表示板 ① はラゲッジルームフロア下の収納スペースにあります。

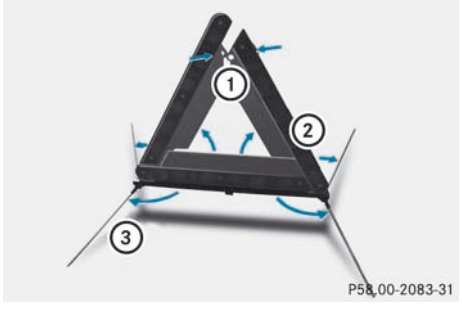
▶ テールゲートを開きます。

▶ ラゲッジルームフロアを持ち上げます (▷ 337 ページ)。

ⓘ 車両の装備によって、停止表示板 ① はラゲッジルームフロア下以外の場所にあることもあります。

▶ 停止表示板 ①を取り外します。

停止表示板の組み立て



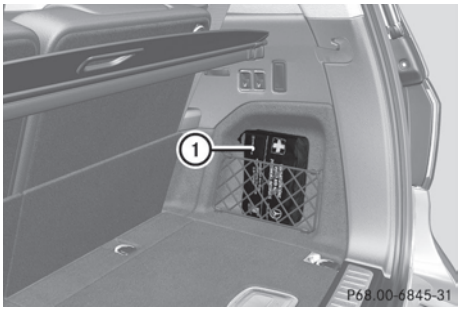
① フック

② 反射板

③ スタンド

▶ 脚 ③ を下および、側方外側に出します。
▶ 側方の反射板 ② を引き上げて三角形を作り、上部の押し込み式ビス ① を使用して上部で固定します。

救急セット



▶ テールゲートを開きます。
▶ 救急セット ① をラゲッジネットから取り出します。

ℹ 最低1年に1回、救急セットの使用期限が切れていないか確認してください。中身が揃っているか確認し、なくなりかけたものは補充してください。

車載工具

全体的な注意事項

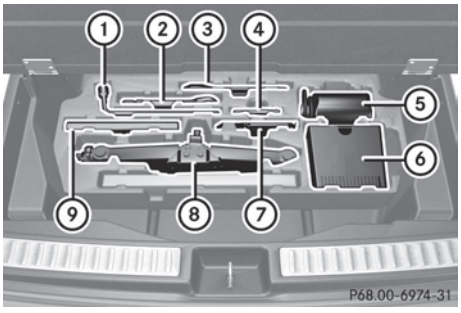
車載工具はラゲッジルームフロアボードの下に収納されています。

ℹ 国による仕様の違いとは別に、車両にはタイヤ交換工具キットは装備されていません。 タイヤ交換用ツールの中にはその車両専用のものも含まれています。車両の車輪交換を行なうために必要な工具についてのさらなる情報は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場にお問い合わせください。

必要な車輪交換用工具としては、例えば以下が含まれることがあります。

- ジャッキ
- 輪止め
- ホイールレンチ
- ラチェットレンチ
- ガイドボルト

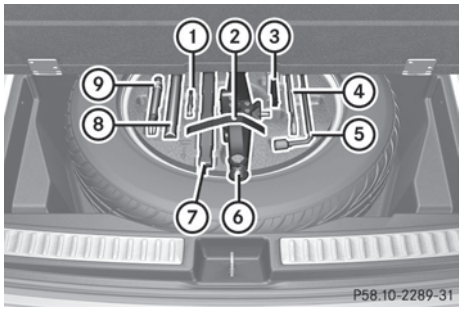
タイヤフィット装備車



① ホイールレンチ
② けん引フック
③ ラチェットレンチ
④ ガイドボルト
⑤ タイヤフィットのボトル
⑥ 電動エアポンプ
⑦ 折りたたみ式輪止め
⑧ ジャッキ
⑨ ホイールボルト

▶ ラゲッジルームフロアボードを引き上げます。(▷ 337 ページ)

応急用ミニスペアタイヤ装備車



① ガイドボルト
② ベルクロファスナー
③ 折りたたみ式輪止め
④ ラチェットレンチ
⑤ ホイールレンチ
⑥ ジャッキ
⑦ 停止表示板
⑧ ホイールボルト
⑨ けん引フック

▶ ラゲッジルームフロアボードを引き上げます。(▷ 337 ページ)

タイヤのパンク

車両の準備

車両によって、以下の装備があります。

- MOExtendedタイヤ（ランフラット特性を持つタイヤ）(▷ 369 ページ)
- タイヤフィットキット(▷ 370 ページ)
- 応急用スペアタイヤ（一部の国のみ）(▷ 403 ページ)

車輪の交換/装着に関する情報 (▷ 395 ページ)

MOExtendedタイヤ装備車の場合、車両の準備作業は必要ありません。

▶ 交通からできるだけ離れた、硬い、滑らない水平な地面に車両を停止します。
▶ 非常点滅灯を点滅させます。
▶ パーキングブレーキを手動で作動させてください。
▶ ステアリングを操作して、前輪を直進位置にします。
▶ DIRECT SELECT（ダイレクトセレクト）レバーを**P**にします。
▶ **オン＆オフロード パッケージ装備車両：** ハイウェイレベルが選択されていることを確認してください(▷ 206 ページ)。
▶ エンジンを停止します。
▶ **キーレスゴー非装備車：** エンジンスイッチからキーを抜きます。
▶ **キーレスゴー装備車：** 運転席ドアを開きます。
マルチファンクションディスプレイには、キーを抜いたときと同様に、**0**が表示されています。
▶ **キーレスゴー装備車両：** エンジンスイッチからキーレスゴースイッチを取り外します (▷ 158 ページ)。
▶ すべての乗員は車両から離れなければなりません。そうするときは、彼らが危険にさらされないことを確認してください。
▶ 車輪が交換されている間は、危険な場所の近くに誰もいないことを確認してください。 作業者以外は、フェンスなどで区切られた安全な場所に避難してください。
▶ 運転者も車から降ります。 降車時は周囲の交通状況に注意してください。
▶ 運転席ドアを閉じます。
▶ 適切な距離を離して停止表示板を置きます (▷ 366 ページ)。 法規を遵守してください。
▶ 重い荷物を降ろします。

ⓘ 高速道路や自動車専用道路で駐停車する場合は、周囲に注意を促すため、停止表示板を置くことが法律で義務付けられています。

ⓘ イグニッションがオフになっていても、12V電源ソケットのみを使用して、タイヤ充填コンプレッサーを操作します(▷ 343 ページ)。

緊急カットオフにより、バッテリーの電圧が過度に降下するのを防ぎます。 バッテリーの電圧が低すぎる場合、ソケットの電源は自動的に停止します。 これは、エンジンを始動するのに十分な電力を確保するためです。

MOExtendedタイヤ(ランフラット特性を持つタイヤ)

⚠ 警告

エマージェンシーモードで運転すると、コーナリングや急加速、ブレーキ時などに走行特性が低下します。事故の危険性があります。

規定の最高速度を超えないでください。急激なステアリング操作、運転操作、障害物(縁石、穴、オフロード)を超える運転を避けてください。これは特に荷物積載時にあてはまります。

以下の場合は、エマージェンシーモードでの運転は中止してください。

- 大きい異音が聞こえるとき
- 車に振動が発生するとき
- 煙やタイヤの焦げる臭いが発生するとき
- ESP®が常時作動するとき
- タイヤのサイドウォールに裂け目があるとき

エマージェンシーモードでの運転のあとは、さらに使用できるかの確認のためにホイールリムをメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検してください。不具合のあるタイヤは新品と交換してください。

MOExtendedタイヤ（ランフラット特性を持つタイヤ）で、1本または複数のタイヤの空気圧がすべて喪失しても、車両の走行を続けることができます。

MOExtendedタイヤは、作動しているタイヤ空気圧警告システム、または作動しているタイヤ空気圧モニターとの組み合わせでのみ使用してください。

最長走行距離は、車両に部分的に積載しているときは約 80 km、車両に最大の積載をしているときは約 30 km です。

車両の荷物に加えて、走行可能な距離は以下によって異なります。

- 走行速度
- 道路状況
- 外気温度

ランフラットモードで走行可能な距離は、極端な走行状況/操作によって短くなったり、穏やかな運転スタイルによって長くなることがあります。

走行可能な距離は、タイヤ空気圧警告システムの警告メッセージが、マルチファンクションディスプレイに表示されたときが起点になります。

必ず約 80 km/h以下の速度で走行してください。

ⓘ 1つまたはすべてのタイヤを交換するときは、"MOExtended"マークのあるタイヤのみを使用していることを確認してください。 車両指定のサイズのタイヤのみを使用してください。

ⓘ MOExtendedタイヤ装備車には、タイヤフィットを標準装備していません。ウィンタータイヤなど、ランフラットタイヤ以外のタイヤを装着するときは、タイヤフィットを追加で装備することをお勧めします。 タイヤフィットはメルセデス・ベンツ指定サービス工場でお買い求めください。

タイヤフィット

タイヤフィットの使用

タイヤフィットはタイヤシーラント剤です。

タイヤフィットを使用して、4 mm以下のパンク、特にタイヤのトレッドのものをふさぐことができます。タイヤフィットは、外気温度が約 - 20 ℃に下がるまで使用できます。

⚠ 警告

以下の状況の場合は、タイヤフィットが十分に機能しないため、タイヤを適切に修理することはできません。

- 上記に記した以上のタイヤの裂け目や穴
- ホイールリムが損傷している場合
- タイヤ空気圧が非常に低い状態や、完全にパンクした状態で走行した場合

事故の危険性があります。

それ以上走行を続けないで、メルセデス・ベンツ指定サービス工場にご連絡ください。

⚠ 警告

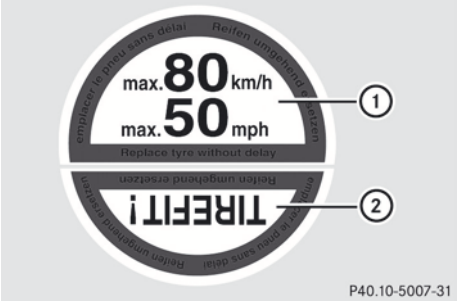
タイヤフィットは有害で、炎症を起こす原因となります。皮膚、眼、服に付着させたり、吸い込んだりしないようにしてください。タイヤフィットの臭気を吸い込まないでください。タイヤフィットは子供の手の届かないところに保管してください。負傷するおそれがあります。

タイヤフィットが付着した場合は、以下の指示にしたがってください。

- タイヤフィットをただちに水道水で皮膚から洗い流してください。
- タイヤフィットが眼に付着した場合は、ただちに水道水で十分に洗い流してください。
- 万一、タイヤフィットを飲み込んだ場合は、ただちに水道水で口を十分すすぎ、水道水を大量に飲ませてください。無理に吐かせないでください。ただちに専門医の診断を受けてください。
- タイヤフィットが付着した衣類は、ただちに着替えてください。
- アレルギー反応が生じた場合は、ただちに専門医の診断を受けてください。

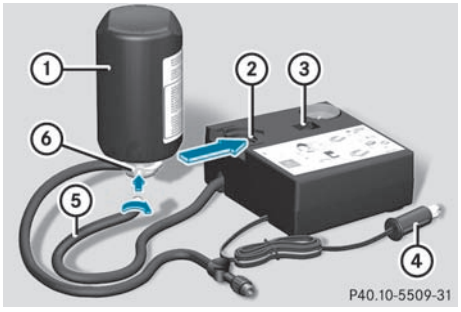
! 電動エアポンプは、一度に約8 分以上連続して作動させると、ポンプがオーバーヒートするおそれがあります。

電動エアポンプが冷えたら、再び作動させることができます。

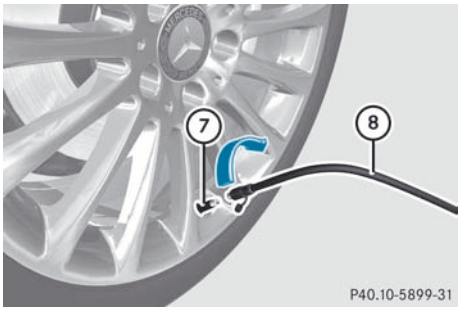


タイヤフィットステッカー、2部分

- ▶ タイヤに刺さったクギやネジなどは取り除かないでください。
- ▶ ラゲッジルームフロア下の収納スペースからタイヤフィットのボトル、付属のタイヤフィットステッカー、およびタイヤ充填コンプレッサーを取り出します(▷ 367 ページ)。
- ▶ タイヤフィットステッカーの部分 ① を運転者の視界内に貼ります。
- ▶ タイヤフィットステッカーの部分 ② を不具合のあるタイヤのホイールのバルブ付近に貼ります。



- ケーブル付き電源プラグ④およびホース⑤をハウジングから取り出します。
- ホース⑤をタイヤフィットのボトル①のフランジ⑥にしっかり取り付けます。
- タイヤフィットのボトル①を頭を下にして電動エアポンプのリセス②にはめます。



- パンクしたタイヤのバルブ⑦からキャップを取り外します。
- タイヤフィットのホース⑧をパンクしたタイヤのバルブ⑦にねじ込みます。
- 車両内の12V電源ソケットにコネクター④を差し込みます。
  ソケットの注意事項を遵守してください(▷ 343 ページ)。
- エンジンスイッチのキーを**1**の位置にまわします (▷ 157 ページ)。
- 電動エアポンプの電源スイッチ③を**I**の位置にします。
  電動エアポンプが作動し始めます。応急用スペアタイヤに空気が送り込まれます。

ℹ 最初に、パンクしたタイヤにタイヤフィットが送り込まれます。空気圧が一時的に約500 kPa (5 bar/73 psi) まで上がることがあります。

この間は、電動エアポンプの電源スイッチをオフにしないでください。

- 電動エアポンプを約5 分間作動させます。その後にタイヤは約 180 kPa (1.8 bar/26 psi) 以上の圧力になっていなければなりません。

約5 分後、タイヤ空気圧が約180 kPa (1.8bar/26 psi) に達している場合：(▷ 372 ページ)

約5 分後、タイヤ空気圧が約180 kPa (1.8bar/26 psi) に達していない場合：(▷ 371 ページ)

ℹ タイヤフィットが漏れ出た場合は、そのまま乾燥させてください。 フィルム状になり、剥がすことができます。

衣類にタイヤフィットが付着した場合は、できるだけ早くパークロロエチレンでクリーニングしてください。

適正でないタイヤ空気圧

5分後に空気圧が約 180 kPa (1.8 bar/26 psi) に達しない場合

- 電動エアポンプを停止します。
- パンクしたタイヤのバルブから充填ホースを外します。
- ごく低速で車を約 10 m前進または後退させます。
- 再度、タイヤに空気を注入します。
  最大で5分後にタイヤ空気圧が180 kPa (1.8 bar/26 psi) 以上に達していなければなりません。

⚠ 警告

規定の時間が経過したのに、必要十分なタイヤ空気圧に達しない場合は、タイヤは致命的に損傷しており、 タイヤフィットによる タイヤ修理はできません。損傷したタイヤや非常に低下したタイヤ空気圧により、車両のブレーキや走行特性が著しく損なわれることがあります。事故の危険性があります。

それ以上走行を続けないで、メルセデス・ベンツ指定サービス工場にご連絡ください。

適正なタイヤ空気圧

⚠ 警告

タイヤフィットで一時的に修理したタイヤは車両操縦性が損なわれてしまい、高速走行には適しません。事故の危険性があります。

そのため、状況に応じて運転スタイルを調整し慎重に走行してください。タイヤフィットで修理したタイヤで走行する場合は、 指定された最高速度を超過しないでください。

❗ 使用後は、ホースから余分なタイヤフィットが漏れ出ることがあります。タイヤフィットが付着すると、シミの原因になります。

したがって、ホースはタイヤフィットが収納されていた専用袋に収納してください。

環境保護に関する注意

使用済みのタイヤフィットのボトルを廃棄処分する場合は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場にご依頼ください。

約5分後、タイヤ空気圧が約180 kPa (1.8 bar/26 psi)に達している場合：

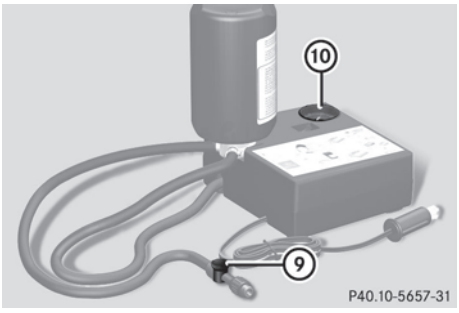
- 電動エアポンプを停止します。
- パンクしたタイヤのバルブから充填ホースを外します。
- タイヤフィットのボトル、電動エアポンプおよび停止表示板を収納します。
- **ただちに発進します。**
  タイヤフィットで修理したタイヤの最高速度は 80 km/h です。 タイヤフィットステッカーの上部を、メーターパネルの運転者の視界内に貼ってください。
- 約10 分間走行した後で車を停め、電動エアポンプを取り付けてタイヤ空気圧を点検してください。
  タイヤ空気圧は 130 kPa（1.3 bar/19 psi）以上である必要があります。

⚠ 警告

短時間の走行後に規定タイヤ空気圧に達しない場合は、タイヤがひどく損傷しています。この場合は、タイヤフィットでタイヤを修理することができません。タイヤの損傷およびタイヤ空気圧が低すぎることにより、車両のブレーキ操作や操縦性が著しく損なわれるおそれがあります。事故発生の危険性があります。

それ以上走行を続けずに、メルセデス・ベンツ指定サービス工場にご連絡ください。

- タイヤ空気圧がまだ130 kPa (1.3 bar/19 psi)以上の場合は調整します（値は燃料給油口をご覧ください）。
- **タイヤ空気圧を上げる：** 電動エアポンプのスイッチを入れます。



⑨ 空気圧解放スイッチ

⑩ 空気圧ゲージ

▶ **タイヤ空気圧を下げる：** 充填ホースの空気圧解放スイッチ ⑨ を押します。

▶ タイヤフィットのボトル、電動エアポンプおよび停止表示板を収納します。

▶ 最寄りのメルセデス・ベンツ指定サービス工場まで走行し、そこでタイヤを交換してください。

▶ できるだけ早くメルセデス・ベンツ指定サービス工場でタイヤフィットのボトルを交換してください。

▶ タイヤフィットのボトルは4年ごとにメルセデス・ベンツ指定サービス工場で交換してください。

バッテリー(車両)

重要な安全上の注意

取り外し、または取り付けなどのバッテリーに関する作業は、専門的な知識と特別な工具の使用が必要です。 したがって、バッテリーに関する作業は、必ずメルセデス・ベンツ指定サービス工場で行なってください。

⚠ 警告

バッテリーに不適切な作業を行なうと、例えばショートにつながり、車両の電子部品を損傷します。ABS(アンチロックブレーキング・システム)またはESP®(エレクトロニック・スタビリティ・プログラム)のような走行安全装備の故障の原因になります。

- ABSが故障している場合は、ブレーキ時に車輪がロックすることがあります。ブレーキ時のステアリング操縦性が制限され制動距離が長くなるおそれがあります。 事故発生の危険性があります。
- ESP®が故障している場合は、横滑りしたとき、または車輪が空転したときに車両を安定させることができないので、事故発生の危険性があります。

したがって、バッテリーに関する作業は、必ずメルセデス・ベンツ指定サービス工場で行なってください。

⚠ 警告

静電気を帯びていると、火花が発生してバッテリーから発生する高可燃性のガスに引火することがあります。 爆発の危険性があります。

バッテリーを取り扱う前に、車体に触れて身体の静電気を放電させてください。

バッテリーを充電するとき、ならびにジャンプスタート時に高い可燃性の混合ガスが発生します。

お客様もバッテリーも静電気に帯電していないことを常に確認してください。例えば以下のような場合に静電気帯電の蓄積があります。

- 合成繊維で出来た衣服を着用することにより
- 衣服とシートのあいだの摩擦のため
- カーペットまたは他の合成物質を横切ってバッテリーを押す、または引く場合
- バッテリーを布で拭く場合

⚠ 警告

充電中はバッテリーから水素ガスが発生します。 バッテリーのショートや火花の発生により、水素ガスに引火するおそれがあります。 爆発の危険性があります。

▷▷

- 接続されたバッテリーのプラス端子が車両部品と接触していないことを確認してください。
- 金属製の工具などをバッテリーの上に置かないでください。
- バッテリーの接続および切り離しを行なうときは、記載された手順通りにバッテリー端子を接続することが重要です。
- ジャンプスタートを行なうときは、同じ極のバッテリー端子を接続していることを確認してください。
- ブースターケーブルの接続、切り離しを行なうときは、記載された手順に従うことが特に重要です。
- エンジン作動中は、決してバッテリー端子の接続または切り離しを行なわないでください。

⚠ 警告

バッテリー液は腐食性があります。 けがをするおそれがあります。

皮膚や眼、衣服に付着しないように注意してください。 バッテリーから発生するガスを吸い込まないでください。 バッテリーをのぞき込まないでください。 バッテリーは子供の手が届かない場所に保管してください。 バッテリー液が付着したときはただちに水洗いし、医師の診察を受けてください。

環境保護に関する注意



電池には環境汚染物質が含まれています。 電池を家庭用ゴミとして廃棄することは法律で禁じられています。 使用済みの電池は個別に回収し、環境に適合するリサイクル方法で処分してください。



電池は環境に配慮した方法で廃棄してください。 使用済みの電池は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場にお持ちいただくか、ボタン電池専用の回収箱に廃棄してください。

! メルセデス・ベンツ指定サービス工場でバッテリーの点検を定期的に受けてください。

整備手帳のメンテナンスインターバルを確認するか、詳しくはメルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

! バッテリーに関する作業は、必ずメルセデス・ベンツ指定サービス工場で行なってください。 万が一、例外的な状況では、必ずご自身でバッテリーの接続を外す必要があり、以下のことを遵守してください。

- エンジンを切って、キーを外します。 キーレスゴー装備車の場合は、必ずイグニッションがオフになっていることを確認します。 メーターパネルのすべての表示灯が消灯していることを確認します。 たとえば、オルタネーターのような電子部品を損傷するおそれがあります。
- まずマイナス端子をはずして、次にプラス端子をはずします。 端子を入れ替えないでください。 車両の電子部品を損傷するおそれがあります。
- バッテリーの接続を切った後、トランスミッションは P の位置でロックされます。車両は走り出さないように固定されます。 車両を動かすことができなくなります。

運転中はバッテリーおよびプラス端子のカバーをしっかり取り付けてください。

バッテリーを取り扱うときは、安全上の注意事項および防護措置を守ってください。



警告



バッテリーを取り扱うときは、火気や直火、タバコなどを近づけないでください。 火花が発生しないように注意してください。



バッテリー液は腐食性があります。 皮膚や眼、衣服に付着しないように注意してください。

手袋やエプロン、マスクなど、適切な保護衣を着用してください。

バッテリー液が付着したときは、すぐに清潔な水で十分に洗い流してください。 応急処置の後、医師の診察を受けてください。



保護眼鏡を着用してください。



子供を近づけないでください。



取扱説明書の指示に従ってください。

安全のため、バッテリーは必ず純正品を使用してください。 これらのバッテリーは衝撃保護性能に優れており、事故などでバッテリーが損傷した際に乗員が酸で火傷をする危険性を低減します。

バッテリーの性能を長期にわたって最大限に発揮させるためには、バッテリーが常に十分に充電されていることが必要です。

車両のバッテリーは他のバッテリーと同様に、車両を使用しないと、徐々に放電する可能性があります。 そのような場合は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場でバッテリーの接続を外す作業を依頼してください。 純正バッテリー充電器を使用してバッテリーを充電することもできます。 詳しい情報は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

車を長期間使用しないときや、短距離、短時間の走行が多い場合は、通常よりも頻繁にバッテリー液量や充電状態を点検してください。 車を長期間使用しないときの保管方法については、メルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

ⓘ 駐車時に電気装備を必要としないときは、キーを抜いてください。 エンジンスイッチにキーが差し込まれているときは、電力をわずかに消費します。

ⓘ 電力供給が中断した場合、例えば、バッテリーが放電した場合は、以下を実行する必要があります。

- 時計の設定をします。 時計の設定に関する情報は、別冊の取扱説明書にあります。

  COMANDシステムおよびナビゲーションシステム装備車は、時計は自動的に設定されます。
- ミラーを一度展開して、ドアミラーの自動展開 / 格納機能をリセットします。 (▷ 117 ページ)

バッテリーの充電

⚠ 警告

バッテリーの充電やジャンプスタートを行なうときは、可燃性のガスがバッテリーから発生することがあります。 爆発の危険性があります。

バッテリーを取り扱うときは、特に火気や裸火、火花、タバコなどを近付けないでください。 バッテリーの充電やジャンプスタートを行なうときは、十分な換気を確保してください。 バッテリーをのぞき込まないでください。

⚠ 警告

バッテリー液は腐食性があります。 けがをするおそれがあります。

皮膚や眼、衣服に付着しないように注意してください。 バッテリーから発生するガスを吸い込まないでください。 バッテリーをのぞき込まないでください。 バッテリーは子供の手が届かない場所に保管してください。 バッテリー液が付着したときはただちに水洗いし、医師の診察を受けてください。

⚠ 警告

放電したバッテリーは、気温が氷点下になると凍結するおそれがあります。 ジャンプスタートやバッテリーの充電を行なうときは、バッテリーからガスが発生することがあります。 爆発の危険性があります。

バッテリーの充電やジャンプスタートを行なう前に、凍結したバッテリー液を解凍してください。

! 必ず最大充電電圧が約14.8 Vのバッテリー充電器を使用してください。

! バッテリーを充電する場合は、必ずジャンプスタートターミナルを使用してください。

メルセデス・ベンツが承認しているバッテリー充電器以外では、車両に装着されたままのバッテリーを決して充電しないでください。 メルセデス・ベンツ車両用に特別に適合し、メルセデス・ベンツによりテストおよび承認されたバッテリー充電器ユニットはアクセサリーとして入手できます。装着された位置にあるバッテリーの充電が許可されています。 情報および入手については、メルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。 バッテリー充電器の別冊の取扱説明書に従ってバッテリーを充電してください。

ジャンプスタートターミナルは、エンジンルーム (▷ 377 ページ)内にあります。

バッテリーを充電する前に、バッテリー充電器の取扱説明書をお読みください。

- ボンネットを開きます。 (▷ 348 ページ)
- ジャンプスタートにより救援車のバッテリーを接続したときと同じ順序で、バッテリー充電器をプラス端子とアース端子に接続してください。 (▷ 377 ページ)

ジャンプスタート

⚠ 警告

バッテリー液は腐食性があります。 けがをするおそれがあります。

皮膚や眼、衣服に付着しないように注意してください。 バッテリーから発生するガスを吸い込まないでください。 バッテリーをのぞき込まないでください。 バッテリーは子供の手が届かない場所に保管してください。 バッテリー液が付着したときはただちに水洗いし、医師の診察を受けてください。

⚠ 警告

バッテリーの充電やジャンプスタートを行なうときは、可燃性のガスがバッテリーから発生することがあります。 爆発の危険性があります。

バッテリーを取り扱うときは、特に火気や裸火、火花、タバコなどを近付けないでください。 バッテリーの充電やジャンプスタートを行なうときは、十分な換気を確保してください。 バッテリーをのぞき込まないでください。

⚠ 警告

充電中はバッテリーから水素ガスが発生します。 バッテリーのショートや火花の発生により、水素ガスに引火するおそれがあります。 爆発の危険性があります。

- 接続されたバッテリーのプラス端子が車両部品と接触していないことを確認してください。
- 金属製の工具などをバッテリーの上に置かないでください。
- バッテリーの接続および切り離しを行なうときは、記載された手順通りにバッテリー端子を接続することが重要です。
- ジャンプスタートを行なうときは、同じ極のバッテリー端子を接続していることを確認してください。
- ブースターケーブルの接続、切り離しを行なうときは、記載された手順に従うことが特に重要です。
- エンジン作動中は、決してバッテリー端子の接続または切り離しを行なわないでください。

⚠ 警告

放電したバッテリーは、気温が氷点下になると凍結するおそれがあります。 ジャンプスタートやバッテリーの充電を行なうときは、バッテリーからガスが発生することがあります。 爆発の危険性があります。

バッテリーの充電やジャンプスタートを行なう前に、凍結したバッテリー液を解凍してください。

⚠ 警告

未燃焼燃料が排気システムに充満して発火するおそれがあります。 火災のおそれがあります。 エンジン始動操作を長時間繰り返して行なわないでください。

! エンジン始動操作を長時間繰り返して行なわないでください。 未燃焼燃料によって触媒が損傷するおそれがあります。

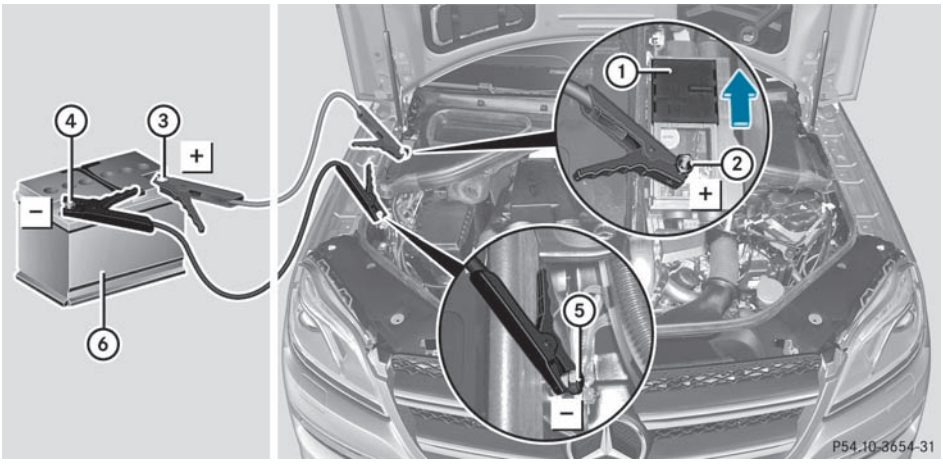
急速充電器によるエンジン始動を行なわないでください。 バッテリーがあがったときは、ブースターケーブルを使用して他車のバッテリーや補助バッテリーを電源としてエンジンを始動することができます。 以下の点に注意して、慎重に作業を行なってください。

- すべての車両でバッテリーに手が届くわけではありません。 他車のバッテリーが手の届きにくい位置にある場合は、補助バッテリーまたはジャンプスタート装置の電源を使用してエンジンを始動してください。
- エンジンと排気システムが冷えていない場合は、車両のジャンプスタートは実行できません。
- バッテリーが凍結しているときはエンジンを始動しないでください。 バッテリー液を解凍してから行なってください。
- ジャンプスタートは、公称電圧12 Vのバッテリーからのみ実行できます。
- 十分な容量と太さがあり、絶縁されたクランプを持つブースターケーブルを使用してください。
- バッテリーが完全に放電した場合は、ケーブルの接続を完了してすぐにエンジン始動を試みるのでなく、数分置いてから始動操作を行なってください。 その間、バッテリーは十分な電力を溜めることができます。
- 自車と救援車が接触していないことを確認します。

以下のことを確認してください。

- ブースターケーブルが損傷していないこと。
- ブースターケーブルをバッテリーに接続している間に、ターミナルクランプの絶縁されていない部分が他の金属部品と接触しないこと。
- ブースターケーブルがVベルトプーリーやファンなどの部品に巻き込まれないようにすること。 エンジンが始動し回転し始めると、これらの部品は動きます。

▶ パーキングブレーキをかけ、車両を停止します。
▶ シフトポジションを **P** にしてください。
▶ キーをまわしてイグニッション位置を **0** にした後、キーを抜き取ります。(▷ 157 ページ) キーレスゴー装備車の場合は、必ずイグニッションをオフにします。(▷ 158 ページ) メーターパネル内のすべての表示灯が消灯します。
▶ 電気装備（ラジオ、エアコンディショナーなど）をすべて停止します。
▶ ボンネットを開きます。 (▷ 348 ページ)



バッテリー ⑥ は、救援車のバッテリーまたはジャンプスタート装置を示します。

- ▶ プラス端子 ② のカバー ① を矢印の方向に動かして開きます。
- ▶ ブースターケーブルを使用して、車両のプラス端子 ② を救援車のバッテリー ⑥ のプラス端子 ③ に接続します。 常にまず自車のプラス端子 ② から始めます。
- ▶ 救援車のエンジンを始動し、アイドリング状態にします。
- ▶ ブースターケーブルを救援車のバッテリー ⑥ に接続します。次に、救援車のバッテリー ⑥ のマイナス端子 ④ を自車のバッテリーのアース端子 ⑤ に接続します。
- ▶ エンジンを始動してください。
- ▶ ブースターケーブルを外す前に、エンジンを数分間作動させてください。
- ▶ 最初にブースターケーブルをアースポイント ⑤ とマイナス端子 ④から、次にプラス端子 ② とプラス端子 ③から取り外します。その際、いずれも自車の端子から作業を開始してください。
- ▶ ブースターケーブルを取り外した後に、プラス端子 ② のカバー ① を閉じます。
- ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場でバッテリーの点検を受けてください。

ⓘ ジャンプスタートは正常な作動状態とはみなされません。

ⓘ ジャンプブースターケーブルおよびジャンプスタートについて、詳しくはメルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

けん引およびけん引による始動

重要な安全上の注意

⚠ 警告

安全性に関連する機能は以下の場合に制限されるか、または使用できなくなります。

- エンジンが作動しないとき
- ブレーキシステムまたはパワーステアリングに不具合がある
- 電圧供給または車両の電気システムに不具合がある

車両をけん引する場合は、ステアリング操作、またはブレーキ操作により大きな力が必要になることがあります。事故の危険性があります。

そのような場合は、けん引バーを使用してください。けん引する前に、ステアリングが自由に動くことを確認してください。

⚠ 警告

自車の許容総重量より重い車をけん引またはけん引始動しようとすると、以下の状態が発生するおそれがあります。

- けん引フックが外れる。
- トレーラーを連結した車両が横転する。

事故が起こるおそれがあります。

他車をけん引またはけん引始動するときは、自車の許容総重量より軽い車でなければなりません。

⚠ 警告

ホールド機能が作動しているときは、車にブレーキがかけられています。けん引で車を動かすときは、ホールド機能を解除してください。

! パーキングブレーキが解除されていることを確認してください。パーキングブレーキが故障している場合は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場をおたずねください。

! けん引ロープやロッドは、けん引フック以外にはかけないでください。車体が損傷するおそれがあります。

! けん引ロープを使用してけん引を行なう場合は、必ず以下の点に注意してください。

- ロープは、両車とも同じ側につないでください。
- けん引ロープの長さは5m以内である必要があります。その中間に白い布(30x30cm)を付けて、けん引中であることが周囲から明確にわかるようにしてください。
- けん引フック以外にはロープをかけないでください。
- 走行中は、けん引する車のブレーキランプに注意してください。常に車間距離を維持しつつ、ロープをたるませないように走行してください。
- ワイヤーロープや金属製のチェーンは使用しないでください。車体に傷が付くおそれがあります。

! 車体の損傷を防ぐために、車両を運搬する際は、けん引フックを使用しないでください。可能であれば、クレーンを使用して、車両を回収してください。

! けん引する時は、ゆっくりとスムーズにけん引します。けん引力が大きすぎると、車両が損傷するおそれがあります。

! キーレスゴー装備車のけん引を行なう時は、エンジンスイッチを使用せずにキーを操作します。オートマチック車の場合は、運転席ドアまたは助手席ドアを開くとシフトポジションが P になり、トランスミッションを損傷するおそれがあります。

! ディファレンシャルロック装備車両：ディファレンシャルロックがオートマチックモードであることを確認します。

けん引するときは、ディファレンシャルロックがオンになっていてはいけません。さもないと、トランスミッションが損傷することがあります。

! 車両は最長で約50 kmまでけん引できます。 けん引する際の速度は、約30 km/hを超えないようにしてください。

距離が約50 kmを超える場合は、必ず車両全体をリフトアップして、車両運搬車を利用してください。

! お客様の車両より重い車両のけん引またはけん引始動は絶対に避けてください。

車両総重量値に関する情報はビークルプレート (▷ 410 ページ) をご覧ください。

けん引を行なうときは、各国の法規制を遵守してください。

けん引はできるだけ避け、移送することをお勧めします。

車両がトランスミッションに損傷を受けた場合は、運搬車またはトレーラーで運搬してください。

オートマチック車をけん引してもらうときは、シフトポジションを N にします。

バッテリーが接続されていて、十分に充電されていることを確認してください。そうしないと、以下の問題が起こります。

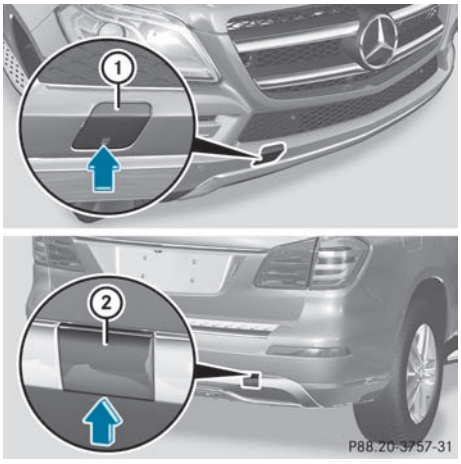
- イグニッション位置を 2 にすることができなくなる
- パーキングブレーキを解除できない
- オートマチック車の場合、シフトポジションを N にすることができなくなる

i 車速感応ドアロック (▷ 269 ページ) を解除してください。 車輪が回転すると車が自動的に施錠され、車外に閉め出されるおそれがあります。

車両をけん引する前に、けん引防止機能 (▷ 74 ページ) を解除してください。

けん引フックの取り付けおよび取り外し

けん引フックの取り付け



例：けん引フック取り付け部のカバー
① 前部カバー
② 後部カバー

けん引フックのブラケットは、バンパーに付いています。 前後のバンパーのカバーの下にあります。

▶ 車載工具キットからけん引フックを取り出します。 (▷ 367 ページ)
▶ **フロントのカバーを開く**：カバー①のマークを矢印の方向に内側に押します。
▶ **リアのカバーを開く**：平らでとがっていないものを切り口に挿入し、カバー②をバンパーから引き出します。
▶ カバー①または②を開口部から取り外します。
▶ 内部のネジ穴にけん引フックをねじ込み、時計回りに止まるまで締め込みます。

けん引フックの取り外し

- ▶ けん引フックを緩めて取り外します。
- ▶ カバー①または②をバンパーに取り付け、固定するまで押します。
- ▶ けん引フックを車載工具に収納します。

4輪接地状態でけん引する

けん引を行なうときは、以下の安全注意事項を守ってください。 (▷ 380 ページ)

運転席ドアか助手席ドアを開く、またはエンジンスイッチからキーを抜き取ると、オートマチックトランスミッションは自動的に P にシフトします。

けん引時にオートマチックトランスミッションのシフトポジションをNに保つため、以下の点に注意してください。

- ▶ 停車していることを確認し、イグニッション位置を 0 にします。
- ▶ エンジンスイッチのキーを 2 の位置にまわします。
  キーレスゴー装備車の場合は、エンジンスイッチ (▷ 158 ページ)ではなくキーレスゴースイッチを操作します。
- ▶ ブレーキペダルを踏んだまま保持します。
- ▶ オートマチックトランスミッションのシフトポジションをNにします。
- ▶ ブレーキペダルを徐々に戻します。
- ▶ パーキングブレーキを解除します。
- ▶ イグニッション位置を 2 にします。
- ▶ 非常点滅灯スイッチを押します。 (▷ 126 ページ)

ℹ 非常点滅灯を点滅させてけん引してもらうときは、方向指示を行なうために、通常通りコンビネーションスイッチを使用してください。 このときは、操作した側の方向指示灯が点滅します。 コンビネーションスイッチを元に戻すと、非常点滅灯が再度点滅し始めます。

車両を運搬する

❗ 車両運搬車に積載して固定するときは、固定ロープをアクスルやステアリング部品などにかけずに、ホイールやホイールリムにかけてください。 車体が損傷するおそれがあります。

けん引フックやトレーラーヒッチは、車両運搬車に車両を積載して運ぶときにも使用できます。

- ▶ イグニッション位置を 2 にします。
- ▶ オートマチックトランスミッションのシフトポジションを Nにします。

車両を積載したら、以下の点に注意してください。

- ▶ 車両が動き出すのを防止するため、パーキングブレーキを効かせてください。
- ▶ オートマチックトランスミッショのシフトポジションを P にします。
- ▶ キーをまわしてイグニッションをポジション0 にした後、キーを抜き取ります。
- ▶ 車両を固定します。

4MATIC車に関する情報

❗ 4MATIC装備車は、フロントまたはリアアクスルを持ち上げてけん引しないでください。トランスミッションが損傷するおそれがあります。

車両のトランスミッションが損傷したり、フロントまたはリアアクスルが損傷した場合は、運搬車またはトレーラーで運搬してください。

電気装備が損傷したとき

バッテリーに不具合がある場合は、オートマチックトランスミッションは P の位置でロックされます。オートマチックトランスミッションを N の位置にシフトするには、ジャンプスタート時と同じ方法で 車両の電気装備に電力を供給しなければなりません(▷ 377 ページ)。

運搬車またはトレーラーで車両を運搬してください。

動けなくなった車両の回収

! はまった車両を復帰させるときは、車両を急に引いたり、角度をつけて引いたりしないでください。けん引力が大きすぎると、車両が損傷するおそれがあります。

柔らかい、または泥の地面に駆動輪がはまった場合、車両に荷物を積んでいる場合は特に、細心の注意で車両を引っ張り出してください。

トレーラーを取り付けたままの車両を引っ張らないでください。

立ち往生したときは、可能であれば自分で作ったわだちを使用して、車両を後方から引っ張ってください。

けん引による始動(エンジンエマージェンシースタート)

! オートマチック車はけん引始動しないでください。 オートマチックトランスミッションを損傷するおそれがあります。

"ジャンプスタート"に関する情報は(▷ 377 ページ) にあります。

ヒューズ

重要な安全上の注意

⚠ 警告

ヒューズは必ずメルセデス・ベンツの車両に適合し、該当する電気装備と同じ規定容量を満たすものを使用してください。 切れているヒューズを修理したり、つなごうとしたりしないでください。 適合しないヒューズを使用したり、切れたヒューズを修理したりつなごうとすると、ヒューズに過負荷がかかり、火災の原因になります。 ヒューズ切れの原因の特定や修理は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場に作業を依頼してください。

! エンジンルーム内およびリアシート下のヒューズボックスには、"S"マークのあるヒューズのみを使用してください。さもなければ、部品またはシステムを損傷するおそれがあります。

車両に装備されているヒューズは、異常のある回路への接続を切断します。ヒューズが切れると、回路上のすべての構成部品とそれらの機能は作動しなくなります。

切れたヒューズを交換するときは、ヒューズの色と数字で確認し、必ず同じ規定容量のヒューズと交換してください。 ヒューズの電流値は、ヒューズ一覧に記載されています。

新しいヒューズに交換してもすぐに切れる場合は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で原因をたどり、修理を行なってください。

ヒューズを交換する前に

- 車両が動き出さないように固定してください。 (▷ 177 ページ)
- すべての電気装備を停止します。
- エンジンスイッチのキーを0 の位置にまわして、キーを抜き取ります。

(▷ 157 ページ) キーレスゴー装備車では、イグニッションがオフであることを確認します(▷ 158 ページ)。メーターパネル内のすべての表示灯が消灯します。

ヒューズは、以下のヒューズボックス内にあります。

- ダッシュボードの助手席側のヒューズボックス
- エンジンルーム内右側（進行方向）のヒューズボックス
- リアシート下のヒューズボックス

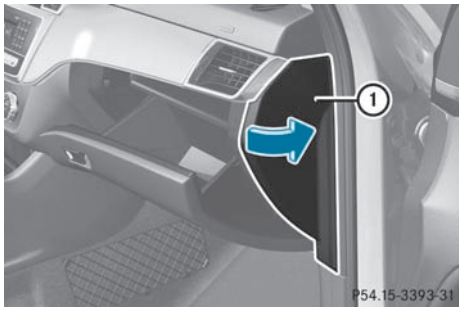
ヒューズ配置表は、リアシート下のヒューズボックスにあります(▷ 385 ページ)。

ダッシュボードのヒューズボックス

! ドライバーなどの鋭利な物を使用して、ダッシュボードのカバーを開かないでください。 ダッシュボードやカバーを損傷するおそれがあります。

! カバーを開く際に、ヒューズボックス内部に浸水しないように注意してください。

! カバーを閉じる時は、ヒューズボックスに確実にはまっていることを確認してください。 ヒューズボックスの中に水分や異物が浸入すると、ヒューズの機能に障害が発生するおそれがあります。

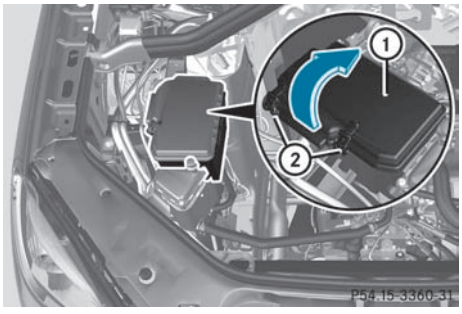


- **開く：** カバー ① を矢印の方向に外側に引いて、取り外します。
- **閉じる：** カバー ① をダッシュボードの前面に差し込みます。
- 固定されるまで、カバー ① を内側に押します。

エンジンルーム内のヒューズボックス

! カバーを開く際に、ヒューズボックス内部に浸水しないように注意してください。

! カバーを閉じる時は、ヒューズボックスに確実にはまっていることを確認してください。 ヒューズボックスの中に水分や異物が浸入すると、ヒューズの機能に障害が発生するおそれがあります。



- ボンネットを開きます。
- 乾布で、カバーに付着した水分を拭きとります。
- **開く：** クランプ ② を開きます。
- カバー ① を矢印の方向に上方に起し、取り外します。
- **閉じる：** シールがカバー ① の正しい位置にあるかどうかを点検してください。
- カバー ① をヒューズボックスの側方で固定部に差し込みます。

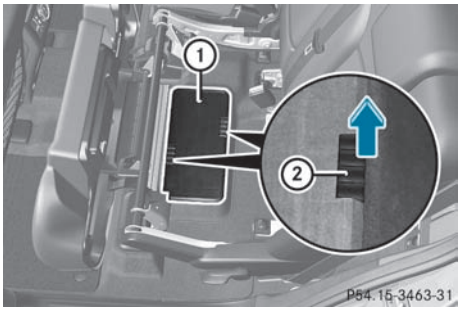
▶ カバー ① を下方に倒し、クランプ ② を閉じます。
▶ ボンネットを確実に閉じてください。

リアシート下のヒューズボックス

! カバーを開く際に、ヒューズボックス内部に浸水しないように注意してください。

! カバーを閉じるときは、ヒューズボックスに確実にはまっていることを確認してください。 ヒューズボックス内に水分やゴミが入るとヒューズの作動に障害が生じたり、カバーがリアシートで損傷するおそれがあります。

▶ 左側リアシートを前方に倒します。 (▷ 333 ページ)



▶ **開く**：ヒューズボックスカバー①の両側にある凹部②に手を伸ばします。
▶ カバー①を矢印の方向に開き、ヒューズボックスから取り外します。

i ヒューズ配置表はヒューズボックス側面の凹部にあります。

▶ **閉じる**：カバー①をヒューズボックスにはめ込みます。
▶ クランプがカチッとはまるまでカバー①を押し下げます。
▶ 左側リアシートを後方に倒します。 (▷ 333 ページ)

役に立つ情報 388
重要な安全上の注意 388
操作 388
寒冷時の取り扱い 390
タイヤ空気圧 392
タイヤの交換 395
ホイールおよびタイヤの組み合わせ 400
応急用スペアタイヤ 403

役に立つ情報

ⓘ この取扱説明書は発行時点で利用可能な、車両のすべてのモデルやシリーズ、オプション装備を記載しています。国別仕様の違いがあることもあります。お客様の車両には記載されている全ての機能が装備されていないことがあることにご留意ください。これは安全に関するシステムや機能の場合もあります。

ⓘ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で情報をご覧ください。(▷ 23 ページ)

重要な安全上の注意

⚠ 警告

誤ったサイズのホイールやタイヤを使用すると、車輪ブレーキまたはサスペンションの部品を損傷することがあります。事故の危険性があります。

純正部品（型式、メーカー、モデル）の仕様を満たすホイールやタイヤと必ず交換してください。

⚠ 警告

パンクは車両の走行、ステアリング、ブレーキ特性を著しく損なうことがあります。 事故の危険性があります。

ランフラット特性のないタイヤ：

- パンクしたタイヤで走行しないでください。
- ただちにパンクしたタイヤを応急用スペアタイヤまたはスペアタイヤと交換するか、メルセデス・ベンツ指定サービス工場でご相談ください。

ランフラットタイヤ：

- MOExtendedタイヤ (ランフラットタイヤ)に関する情報と警告注意に注意してください。

メルセデス・ベンツによりお客様の車両に承認されていない、または正しく使用されていないアクセサリーは操作安全性を損なうことがあります。

承認されていないアクセサリーを購入し、ご使用になる前に、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で、以下のことをご質問ください。

- 適合性
- 合法性
- 推奨品

車両のホイール/タイヤのサイズおよび種類に関する情報は"ホイールおよびタイヤの組み合わせ"(▷ 400 ページ) にあります。

車両のタイヤの空気圧に関する情報は以下をご覧ください。

- 燃料給油口にあるタイヤ空気圧ラベル (▷ 176 ページ)
- "タイヤ空気圧"
- "タイヤ空気圧"(▷ 392 ページ)

ブレーキシステムおよびホイールの改造は許可されていません。 ホイールスペーサブラケットまたはブレーキダストシールドの使用は許可されていません。 このような改造を行なった場合は、不具合が生じても保証の適用外になります。

ⓘ ホイールおよびタイヤに関する詳しい情報は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場にお問い合わせください。

操作

走行に関する情報

車両に重い荷物を積んでいるときは、タイヤ空気圧を点検し、必要に応じて調整してください。

走行中は、振動や騒音が発生したり、ステアリングが片側に取られるなど、車両操縦性に変化が現れていないか注意してください。 このような症状の原因には、タイヤやホイールの損傷が考えられま

す。 タイヤに異常を感じたら、速度を落として慎重に運転してください。 すみやかに安全な場所に停車して、ホイールおよびタイヤに損傷がないか点検してください。 タイヤが損傷すると、車両操縦性が損なわれる原因になります。 損傷が何も認められない場合、メルセデス・ベンツ指定サービス工場でタイヤおよびホイールの点検を受けてください。

駐車時は、タイヤが縁石や障害物に接触して変形しないように注意してください。 また、縁石や路面の段差などを乗り越える必要がある場合は、速度を落とし、縁石や段差に対してタイヤをできるだけ直角にして乗り越えてください。 そうしないと、特にタイヤのサイドウォールなどが損傷するおそれがあります。

ホイールおよびタイヤの定期点検

⚠ 警告

タイヤが損傷すると、タイヤ空気圧が低下する原因になります。その結果として、車両のコントロールを失うおそれがあります。 事故発生の危険性があります。

タイヤに損傷がないか定期的に点検を行ない、損傷したタイヤはただちに新品と交換してください。

ホイールおよびタイヤの点検は、運転前、また悪路や凸凹路の走行後にも行ない、タイヤに損傷がないか確認してください。 ホイールが損傷すると、タイヤ空気圧が低下する原因になります。 特に、以下のような損傷にご注意ください。

- タイヤの傷
- 刺し傷などの穴
- タイヤの亀裂
- タイヤの突起
- ホイールの変形や腐食

トレッド面全体の状態やタイヤの溝の深さを運転前に点検してください。 (▷ 389 ページ) 必要であれば、ステアリングを操作して前輪をフルロック位置までまわし、タイヤの内側も点検してください。

ほこりや水分の侵入を防ぎバルブを保護するため、すべてのホイールにバルブキャップを必ず装着してください。 純正品または承認された製品以外のバルブキャップをバルブに装着しないでください。 純正品以外のバルブキャップまたはタイヤ空気圧モニターシステムなどのシステムを装着しないでください。

長距離走行の前は特に、定期的にすべてのタイヤの空気圧を点検してください。 必要に応じて、適正なタイヤ空気圧に調整してください。 (▷ 392 ページ)

応急用スペアタイヤに関する注意事項を守ってください。 (▷ 403 ページ)

タイヤの耐用年数は、以下を含むさまざまな要因に左右されます。

- 走行スタイル
- タイヤ空気圧
- タイヤ総走行距離

タイヤのトレッド

⚠ 警告

タイヤのトレッドが不十分であると、タイヤのグリップが低下します。 このようなタイヤは水を排出することができなくなり、 濡れた路面で、特に走行状況に適していない速度で走行すると、ハイドロプレーニング現象が生じる危険性が高くなります。事故発生の危険性があります。

タイヤ空気圧が高すぎたり低すぎたりすると、トレッド面の位置によって偏摩耗が生じることがあります。タイヤの定期点検を行なう時は、タイヤの溝の深さだけでなく、タイヤの内側の摩耗状態も点検してください。

▷▷

タイヤの溝の深さの最小値：
- サマータイヤ：3mm
- ウィンタータイヤ：4mm

安全保持のために、タイヤの溝の深さが法律で定められた最小値に達する前に、該当するタイヤを新品と交換してください。

タイヤの選択、装着および交換

- ホイールおよびタイヤは、4輪とも同一種類、同一銘柄のものを装着してください。
- 適正なサイズのタイヤをホイールに装着してください。
- 新品のタイヤでは最初の約100 kmの間は適度な速度で走行してください。この距離を走行することでタイヤはその性能をフルに発揮します。
- 残り溝の深さが不足したタイヤで走行しないでください。 濡れた路面ではタイヤのグリップが著しく低下します（ハイドロプレーニング現象）。
- 摩耗の程度に関わらず、6年以上経過したタイヤは新品と交換してください。

応急用スペアタイヤに関する注意事項を守ってください。 (▷ 403 ページ)

MOExtendedタイヤ（ランフラットタイヤ）

MOExtendedタイヤ（ランフラットタイヤ）装備車は、1本または複数のタイヤが完全にパンクした状態でも走行を続けることができます。

MOExtendedタイヤは、作動しているタイヤ空気圧警告システム、または作動しているタイヤ空気圧モニター、およびメルセデス・ベンツで特別にテストしたホイールとの組み合わせでのみ使用してください。

パンクしたMOExtendedタイヤで走行する時の注意事項 (▷ 369 ページ)

ⓘ MOExtendedタイヤ装備車には、タイヤフィットを標準装備していません。ウィンタータイヤなど、ランフラットタイヤ以外のタイヤを装着するときは、タイヤフィットを追加で装備することをお勧めします。 タイヤフィットはメルセデス・ベンツ指定サービス工場でお買い求めください。

寒冷時の取り扱い

全体的な注意事項

冬になる前にメルセデス・ベンツ指定サービス工場で車両の寒冷時対応を実施してください。

"タイヤ交換" に記載されている注意事項を守ってください。 (▷ 395 ページ)

サマータイヤでの走行

約7 ℃以下の温度では、サマータイヤは弾力性を失い、接地性と制動力が低下します。 車両のタイヤをウィンタータイヤと交換します。 寒冷時にサマータイヤを装着したまま走行すると、タイヤ側面に亀裂が生じ、破損する原因になります。このようなタイヤの損傷は、保証の対象外になります。

ウインタータイヤ

⚠ 警告

ウィンタータイヤの溝の深さが約 4 mm以下になったときは、冬季用のタイヤとして不適切になり、十分な接地性を確保できなくなります。 事故につながるおそれがあります。

ウィンタータイヤの溝の深さが約4 mm以下になったときは、必ず新品と交換してください。

温度が約7 ℃以下の場合は、ウィンタータイヤまたはオールシーズンタイヤを使用してください。 どちらの種類のタイヤにもM+Sマークが付いています。

冬場の道路では、M+Sマークに加えて雪の結晶マーク が付いたウィンタータイヤが最も優れたグリップ力を発揮します。

ABSおよびESP® などの走行安全装備が冬季に適切に機能できるようにするのは、これらのタイヤだけです。 これらのタイヤは、特に雪道走行用に開発されました。

走行安全性を確保するため、ウィンタータイヤは、指定されたサイズで4 輪とも同じ銘柄のものを装着してください。

装着された ウィンタータイヤ の指定された許容最高速度を常に守って走行してください。

ウィンタータイヤの装着時は、以下の手順に従ってください。

- ▶ タイヤ空気圧を点検します。 (▷ 392 ページ)
- ▶ タイヤ空気圧警告システムを再起動してください。 (▷ 394 ページ)

ℹ ウィンタータイヤのサイズはDaimler AGが指定するものです。 場合によっては、日本で販売されているウィンタータイヤ（スタッドレス）は、指定された寸法がないことがあります。

応急用スペアタイヤでの走行に関する詳細は、(▷ 403 ページ)をご覧ください。

スノーチェーン

⚠ 警告

スノーチェーンが前輪に装着されている場合は、車体またはシャーシの部品に引き込まれることがあります。これにより、車両またはタイヤが損傷するおそれがあります。事故の危険性があります。

危険な状態を避けるために

- スノーチェーンを前輪に装着しないでください
- スノーチェーンは必ずペアで後輪に装着してください。

❗ スノーチェーンを装着した場合は車高を上げて走行しなければなりません。さもなければ、車両を損傷するおそれがあります。 "AIRマティックパッケージ"の注意事項を遵守してください。

❗ スノーチェーンを装着した場合は、アダプティブダンピングシステム（ADS）のスポーツモードを使用しないでください。車両を損傷するおそれがあります。

❗ タイヤサイズによっては、スノーチェーンを取り付けるための十分なスペースがありません。車両またはタイヤへの損傷を防ぐため、"ホイールとタイヤ"の章にある "ホイールとタイヤの組み合わせ"のセクションを確認してください。

安全な走行のため、メルセデス・ベンツによりお客様の車両に特別に承認したスノーチェーン、または対応する品質基準のもののみを使用することを、メルセデスベンツは推奨します

スノーチェーンを装着するときは、以下のポイントに注意してください。

- 路面が完全に冠雪しているときは、必ずスノーチェーンを使用してください。 冠雪していない路面を走行しようとするときは、できるだけ早くスノーチェーンを取り外してください。
- 最大許容速度の約 50 km/hを超えないようにしてください。
- 法令でスノーチェーンの使用が制限されている地域があります。 スノー

チェーンを取り付けようとする場合は、法令を遵守してください。

- スノーチェーンはすべてのホイールとタイヤの組み合わせに装着できるわけではありません。 許容されるホイールとタイヤの組み合わせ(▷ 400 ページ)。

ⓘ スノーチェーン装着中は、ESP® の機能を解除したほうが走行しやすい場合があります。(▷ 69 ページ) 車輪の空転を制御し、駆動力を向上させることができます。

応急用スペアタイヤでの走行に関する詳細は、(▷ 403 ページ)をご覧ください。

タイヤ空気圧

タイヤ空気圧基準値

⚠ 警告

タイヤ空気圧が不足または過剰な場合、以下の危険があります。

- 荷重が大きく車両速度が高い場合は特に、タイヤが破裂するおそれがあります。
- タイヤが過度に、また不均一に摩耗し、それによってタイヤの駆動力が損なわれるおそれがあります。
- ステアリング操作やブレーキ操作などの車両操縦性が大幅に損なわれるおそれがあります。

事故の危険性があります。

指定のタイヤ空気圧を遵守し、以下の場合はスペアタイヤを含むすべてのタイヤの空気圧を点検してください。

- 少なくとも2週間に1回
- 荷重が変化した時
- 長距離走行を開始する前
- オフロード走行など、使用条件が変わった時

必要に応じて、適正なタイヤ空気圧に調整してください。

⚠ 警告

適切でないアクセサリーをバルブに取り付けると、バルブに過負荷がかかって誤作動し、タイヤ空気圧が不足する原因となります。設計上、タイヤ空気圧モニターシステムを後装着すると、バルブが開いたままになり、タイヤ空気圧が不足するおそれもあります。事故発生の危険性があります。

標準仕様のバルブキャップまたはメルセデス・ベンツ純正の車両専用バルブキャップのみをバルブに取り付けてください。

⚠ 警告

タイヤ空気圧が何度も低下する場合は、ホイール、バルブまたはタイヤが損傷している可能性があります。タイヤ空気圧が不十分であると、タイヤが破裂するおそれがあります。事故発生の危険性があります。

- タイヤに異物がないか点検します。
- ホイールやバルブからの空気漏れがないか点検します。

損傷を修理できない場合は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場にお問い合わせください。

環境保護に関する注意

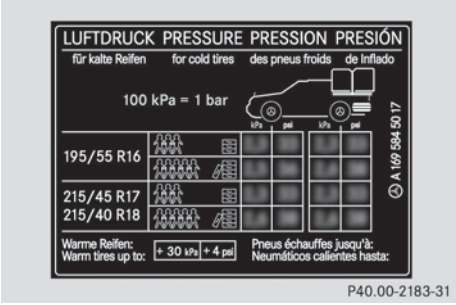
少なくとも2週間に1度、タイヤ空気圧の点検を行なってください。

燃料給油口裏側には、走行状況に応じた空気圧が記載されたタイヤ空気圧ラベルが貼られています。

応急用スペアタイヤでの操作(▷ 403 ページ).

燃料給油口の裏側の表には、さまざまな積載状態でのタイヤ空気圧が記載されていることがあります。 これらは、さまざまな乗員数および積載量として表に定義されています。 実際の座席数は異なる場合があります。詳しくは、車両の登録書類を参照してください。

タイヤサイズの指定がない場合、タイヤ空気圧ラベルに記載されているタイヤ空気圧は車両に承認されているすべてのタイヤに適用されます。



タイヤのサイズに応じて空気圧を調整する場合は、以下の空気圧に関する情報は、そのタイヤサイズのみに有効となります。

タイヤ空気圧を点検するには、適切な空気圧ゲージを使用してください。 タイヤの外観を点検しても空気圧を正しく判断することはできません。

タイヤ空気圧の調整は、できるだけタイヤが冷えているときに行なってください。

以下のときは、タイヤの温度が低い状態です。

- 車両に直射日光が当たらない状態で最低約3時間駐車した場合、および
- 約1.6 km以上、走行しなかった場合

周辺温度、走行速度およびタイヤにかかる荷重に応じて、タイヤ温度およびタイヤ空気圧は 10 ℃ ごとに、約 10 kPa (0.1 bar/1.5 psi) 変化します。 温まっているタイヤの空気圧を点検する際には、このことを考慮に入れてください。 そのときの使用条件に比べてタイヤ空気圧が非常に低すぎるときだけ空気圧を修正してください。

空気圧が適正でないタイヤで走行すると、以下のような状態になります。

- タイヤの寿命が短くなります。
- タイヤが損傷を受けやすくなります。
- 車両操縦性や走行安全性に悪影響をおよぼします（ハイドロプレーニング現象など）。

ℹ 低負荷時の空気圧は、快適な乗り心地を得るために必要な空気圧の下限値を示しています。

ただし、高負荷時の空気圧に調整することもできます。 これらは空気圧許容値であり、車両の走行安全性に悪影響を与えることはありません。

タイヤ空気圧警告システム

重要な安全上の注意

タイヤ空気圧警告システムは、走行中に4輪すべてのホイール回転速度を感知することによりタイヤ空気圧をモニターします。 システムは、タイヤ空気圧の著しい低下を感知することができます。 タイヤ空気圧の低下にともないホイールの回転速度が変化すると、マルチファンクションディスプレイに警告メッセージを表示します。

タイヤ空気圧警告システムは、タイヤ空気圧の設定の誤りは警告しません。 推奨タイヤ空気圧に関する注意事項を遵守してください (▷ 392 ページ)。

タイヤ空気圧警告システムは、複数のタイヤから同量の空気が漏れた場合などは検知できません。また、タイヤ空気圧の点検を行なうシステムではありません。

タイヤ空気圧モニターは、タイヤに異物が刺さった場合など急激に空気圧が低下した場合は、警告を行なうことができません。 空気圧が突然低下した場合、ブレーキを慎重にかけて車両を停止しま

す。 急激なステアリング操作をしないようにしてください。

タイヤ空気圧警告システムは、以下の状況では正常に作動しなくなったり、反応が遅れることがあります。

- スノーチェーンを装着しているとき
- 積雪路や凍結路を走行しているとき
- 砂地や砂利道を走行しているとき
- スポーティ走行時（高速コーナリング、急加速など）
- 大型または超重量級のトレーラーをけん引しているとき
- 重い荷物を車内やルーフに積載しているとき

タイヤ空気圧警告システムを再起動する

以下のような作業を行ったときは、タイヤ空気圧警告システムを再起動してください。

- タイヤ空気圧を調整したとき
- タイヤやホイールを交換したとき
- 新しいタイヤやホイールを装着したとき

▶ 再始動する前に、タイヤ空気圧が作動状況に対応して、4本のタイヤすべてで適正に設定されていることを確認してください。 指定タイヤ空気圧は燃料給油口のラベルに記載されています。

タイヤ空気圧警告システムは、タイヤが適正な空気圧に調整されているときだけ信頼性のある警告を表示することができます。 タイヤ空気圧が不適切な場合は、この不適切な値がモニターされます。

▶ タイヤ空気圧の項の注意事項も遵守してください (▷ 392 ページ)。

▶ エンジンスイッチのキーが 2 の位置 (▷ 157 ページ) にあることを確認します。

▶ ステアリングの ◀ または ▶ スイッチを押して、メンテナンス メニューを選択します。

▶ ▲ または ▼ スイッチを押して、空気圧 を選択します。

▶ OK スイッチを押す。

マルチファンクションディスプレイに タイヤ空気圧 警告システム オン OK ボタンで再始動 と表示されます。

再起動を確定するには、以下の操作を行なってください。

▶ OK スイッチを押します。

タイヤ空気圧 正常ですか? というメッセージがマルチファンクションディスプレイに表示されます。

▶ ▲ または ▼ スイッチを押して、はいを選択します。

▶ OK スイッチを押す。

マルチファンクションディスプレイに タイヤ空気圧 警告システム 再始動しました と表示されます。

測定プロセスが終了すると、タイヤ空気圧警告システムが4輪すべてのタイヤ空気圧のモニターします。

再起動をキャンセルするには、以下の操作を行なってください。

▶ ⮌ スイッチを押します。

または

▶ タイヤ空気圧 正常ですか? というメッセージが表示されたら、▲ または ▼ スイッチを使用して キャンセル を選択します。

▶ OK スイッチを押す。

前回の再起動時に保存されたタイヤ空気圧の値が引き続きモニターされます。

タイヤの交換

タイヤのパンク

"万一のとき"のタイヤがパンクしたとき (▷ 368 ページ) には、タイヤがパンクした場合の対処方法に関する情報が記載されています。パンクしたときのMOExtendedタイヤでの走行に関する情報もあります。

応急用スペアタイヤ装備車： タイヤがパンクした場合は、"タイヤの取り付け" (▷ 396 ページ)の記載にしたがって応急用スペアタイヤを装着してください。

タイヤローテーション

⚠ 警告

ホイールまたはタイヤのサイズが異なる場合に、フロントとリアの車輪を入れ替えると、走行特性が著しく損なわれることがあります。車輪のブレーキまたはサスペンションの部品も損傷することがあります。 事故の危険性があります。

ホイールとタイヤが同じサイズの場合にのみ、フロントとリアの車輪を入れ替えてください。

異なるサイズのフロントおよびリアのホイールを入れ替えると、一般道での使用許可が無効になることがあります。

"タイヤの取り付け"(▷ 396 ページ)の説明および安全上の注意を遵守してください。

タイヤは、走行状況によって前輪と後輪で摩耗具合に差が生じ、偏摩耗を起こします。 これを防止するため、タイヤが摩耗し始めたら早めにタイヤローテーションをしてください。 一般的に、前輪はショルダー部の摩耗が起こりやすく、後輪ではセンター部の摩耗が起こりやすい傾向があります。

フロントとリアの車輪が同じサイズの車両は、タイヤの摩耗具合に応じて約5000 ～ 10,000 km毎に車輪を入れ替えてください。 タイヤの回転方向は変えないでください。

タイヤを入れ替えるときは、ホイールの接触面およびブレーキディスクを十分に清掃してください。 必要であれば空気圧を点検し、タイヤ空気圧警告システムを再起動します。

タイヤの回転方向

タイヤの回転方向が指定されているタイヤは、例えばハイドロプレーニング現象のおそれがある状況などで補助的な効果を発揮します。 回転方向が指定されているタイヤは、指定された回転方向になるように装着することで性能を十分発揮できます。

タイヤのサイドウォールにある矢印は、正しい回転方向を示しています。

タイヤの保管

タイヤは、乾燥した冷暗所に保管してください。また、 タイヤにオイルやグリース、ガソリン、軽油などが付着しないように保護してください。

ホイールの清掃

⚠ 警告

円形ジェットノズル（粉塵グラインダー）の水流は、タイヤまたはシャーシの部品に外見からは目に見えない損傷を引き起こすおそれがあります。このようにして損傷した部品は予期せず故障するおそれがあります。事故の危険性があります。

車両の清掃をするときに円形ジェットノズル付きの高圧式スプレーガンを使用しないでください。損傷したタイヤまたは

▷▷

シャーシの部品はすぐに交換してください。

タイヤの取り付け

車両の準備

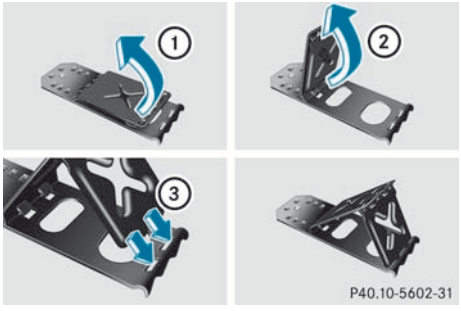
- **応急用スペアタイヤ装備車**：パンクした際に応急用スペアタイヤを装着するときは、"タイヤのパンク" (▷ 368 ページ) の車両の準備にある追加の注意事項を遵守してください。
- 固く、滑らない水平な地面に車両を停車します。
- 重い荷物を降ろします。
- パーキングブレーキを手動で作動させてください。
- ステアリングを操作して、前輪を直進位置にします。
- シフトポジションを **P** にします。
- エンジンを停止します。
- **キーレスゴー非装備車**：エンジンスイッチからキーを抜きます。
- **キーレスゴー装備車**：運転席ドアを開きます。
  マルチファンクションディスプレイには、キーを抜いたときと同様に、**0**が表示されています。
- **キーレスゴー装備車**： エンジンスイッチからスタート/ストップボタンを取り外します。 (▷ 158 ページ)
- 車両装備に含まれている場合は、車両からタイヤ交換工具キットを取り出します。
- 作業中に車が動き出すのを防ぐため、車を固定します。

ⓘ 国による仕様の違いとは別に、車両にはタイヤ交換工具は装備されていません。車両の車輪交換を行なうために必要な工具についての詳しい情報は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場にお問い合わせください。

必要な車輪交換用工具としては、例えば以下が含まれることがあります。

- ジャッキ
- 輪止め
- ホイールレンチ

車両が動き出さないように固定する



車両に輪止めが装備されている場合、輪止めはタイヤ交換工具キットの中に収納されています。 (▷ 367 ページ)

折りたたみ式の輪止めは、タイヤ交換時などに車が動き出すのを防止するための補助的な固定手段です。

- 両側のプレートを上方に起こします ①。
- 下側のプレートを引き出します ②。
- 下側のプレートの凸部をベースプレートの開口部に差し込みます③。



水平な場所で車両に輪止めをする

▶ **水平な場所：** 交換するタイヤの対角線上にあるタイヤの前後に、輪止めまたは適切な物を挟みます。



緩い下り坂で車両に輪止めをする

▶ **緩い下り坂：** 前輪と後輪の前方に輪止めまたは適切な物を挟みます。

車高を上げる

⚠ 警告

車両の適切なジャッキポイントに正しくジャッキを設置しないと、車両をジャッキアップした時にジャッキが倒れるおそれがあります。 負傷するおそれがあります。

必ず車両の適切なジャッキポイントにジャッキを設置してください。ジャッキの底面は車両のジャッキポイントの真下に来るように設置してください。

❗ **"ミニスペア"応急用スペアタイヤ 装備のAMG車：** "ミニスペア"応急用スペアタイヤは**リアアクスル** にのみ使用してください。"ミニスペア"応急用スペアタイヤ をフロントアクスルに装着すると、ブレーキシステムが損傷するおそれがあります。

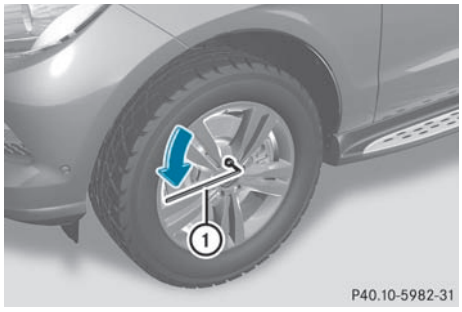
フロントアクスルのタイヤに不具合がある場合は、まずリアアクスルの損傷していない車輪を"ミニスペア"応急用スペアタイヤ と交換しなければなりません。フロントアクスルの不具合のある車輪はリアアクスルの損傷していない車輪と交換することができます。

"ミニスペア"応急用スペアタイヤ の使用説明ラベルを遵守してください。

車両をジャッキアップするときは、以下のことを必ずお守りください。

- 車両をジャッキアップするときは、メルセデス・ベンツ純正の車両専用ジャッキを必ず使用してください。ジャッキを正しく使用しないと、車両をジャッキアップしている間に倒れることがあります。
- ジャッキは、この車のタイヤ交換で一時的に車両をジャッキアップするためだけに設計されています。 車両の下回りのメンテナンス作業を行なう目的には適していません。
- 上り坂や下り坂でのタイヤ交換は行なわないでください。
- 車両をジャッキアップする前にパーキングブレーキをかけて輪止めをし、車両が動き出さないように固定してください。 車両をジャッキアップしている間は絶対にパーキングブレーキを解除しないでください。
- ジャッキは、固く平らで滑らない地面の上に設置してください。 柔らかい地面の上では、大型の耐荷重マットを使用してください。 滑りやすい地面の上では、ラバーマットなどの滑り止めマットを敷いてください。
- ジャッキの下に木片などを置いてジャッキアップしないでください。ジャッキの高さ制限による耐荷重性能を得られない可能性があります。
- タイヤの下面と地面との距離が 3 cm を超えていないことを確認してください。
- ジャッキアップした車両の下には絶対に手または足を入れないでください。
- ジャッキアップした車両の下には絶対に横たわらないでください。
- ジャッキアップした状態では絶対にエンジンを始動しないでください。

- ジャッキアップしたときは絶対にドアやテールゲートを開閉しないでください。
- ジャッキアップした状態で車両に人が乗っていないことを確認してください。

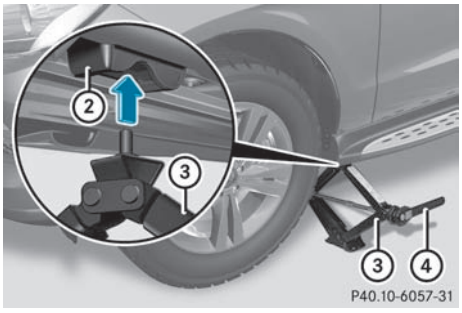


▶ ホイールレンチ ① を使用して、交換するタイヤのホイールボルトを約 1 回転緩めます。 この時点では、ホイールボルトを完全に緩めません。



ジャッキポイントは、前輪のすぐ後ろと、後輪のすぐ前にあります（矢印）。

▶ 車載工具からラチェットレンチを取り出して、**AUF** の文字が見えるようにジャッキの六角ナットの上に置きます。

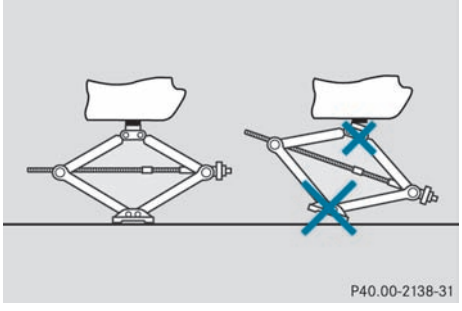


② ジャッキポイント

③ ジャッキ

④ ジャッキハンドル

▶ ジャッキ ③ をジャッキポイント ② の位置に合わせます。
ジャッキの中央部分が対象となるジャッキポイントの開口部に挿入されていなければなりません。



例

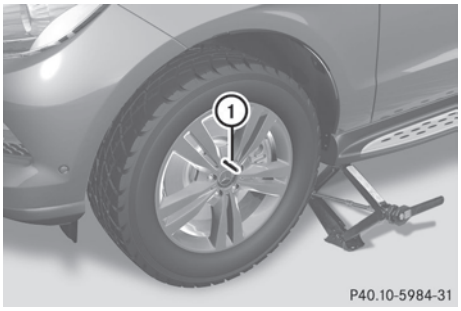
▶ ジャッキの底面がジャッキポイントの真下にくるように設置してください。

▶ ジャッキ ③ がジャッキポイント ② に完全にはまり、ジャッキの底面が地面に均一に接地するまでラチェットレンチ ④ をまわします。

▶ タイヤが地面から最大3cm上がるまでラチェットレンチ ④ をまわします。

タイヤの取り外し

❗ 砂などの異物が付着しないように注意してください。ホイールボルトをねじ込む時に、ボルトやハブのネジ山が損傷するおそれがあります。



- ▶ 上側のホイールボルトを1 本外します。
- ▶ ホイールボルトのかわりにネジ山にガイドボルト ① をねじ込みます。
- ▶ 残りのホイールボルトを完全に外します。
- ▶ タイヤを取り外します。

新しいタイヤの取り付け

⚠ 警告

オイルやグリースが付着したホイールボルトまたは損傷したホイールボルト/ハブのネジ山は、ホイールボルトが緩む原因になります。その結果として、走行中にホイールが緩むおそれがあります。事故発生の危険性があります。

ホイールボルトには、絶対にオイルやグリースを塗布しないでください。ネジ山が損傷している場合は、ただちにメルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。損傷したホイールボルトまたはハブのネジ山を切り直してください。 それ以上は走行を続けないでください。

⚠ 警告

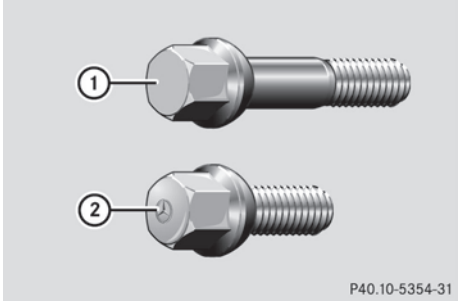
車両をジャッキアップしている時にホイールボルトまたはホイールナットを締め付けると、ジャッキが倒れることがあります。負傷の危険性があります。

車両が接地している場合にのみ、ホイールボルトまたはホイールナットを締め付けてください。

"タイヤ交換" (▷ 395 ページ) にある説明や安全上の注意に常に注意を払ってください。

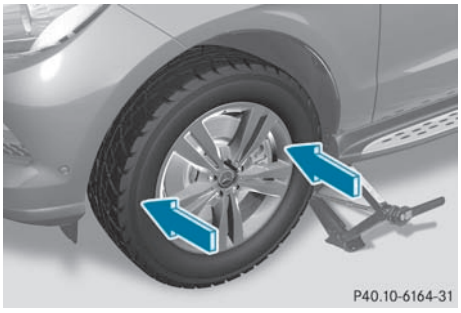
ホイールボルトは、必ずホイールと車両に適合した製品を使用してください。 安全のため、ホイールボルトは純正品または承認されている製品を使用することをお勧めします。

❗ "ミニスペア"応急用スペアタイヤ を装着するときは、必ずホイールボルト ② を使用してください。"ミニスペア"応急用スペアタイヤを装着するときに他のホイールボルトを使用すると、ブレーキシステムを損傷するおそれがあります。



① 出荷時に供給されているすべてのホイール用のホイールボルト

② "ミニスペア"応急用スペアタイヤ 用のホイールボルト



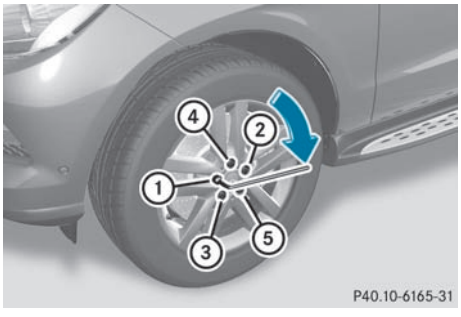
- ホイールおよびハブの接合面の汚れを拭き取ります。
- 装着するホイールをガイドボルトにスライドさせて押し込みます。
- 4 本のホイールボルトを取り付けて、手で締めます。
- ガイドボルトを取り外します。
- 最後のホイールボルトを取り付けて、手で締めます。

車高を下げる

⚠ 警告

ホイールナットやボルトが規定の締め付けトルクで締め付けられていないと、ホイールが緩むおそれがあります。 事故発生の危険性があります。

タイヤを交換した後で、直ちにメルセデス・ベンツ指定サービス工場で、締め付けトルクの点検を受けてください。



- AB の文字が見えるようにジャッキの六角ナットにラチェットレンチを置きます。
- 車両が再度しっかりと接地するまでラチェットレンチをまわします。
- ジャッキを横に置きます。
- 示されている順番（① ～ ⑤）のように対角に、ホイールボルトを均一に締め付けます。 締め付けトルクは **150 Nm**でなければなりません。
- ジャッキをまわして元の状態に戻します。
- ジャッキと残りのタイヤ交換工具をラゲッジルームフロアの下の収納スペースに収納します。
- 新しく取り付けたタイヤの空気圧を点検し、点検結果に応じて調整します。

  推奨タイヤ空気圧を遵守してください (▷ 392 ページ)。

ホイールおよびタイヤの組み合わせ

全体的な注意事項

! 安全に走行するため、タイヤとホイールは必ず純正品および承認されている製品を使用してください。

それらのタイヤは、ABSやESP® などのコントロールシステムに適応しており、以下のマークが付いています。

- MO = Mercedes-Benz Original
- MOE = Mercedes-Benz Original Extended(ランフラットタイヤ)
- MO1 = Mercedes-Benz Original(特定のAMGタイヤ)

ランフラットタイヤ(MOExtended)は、純正品および承認されたホイールだけに装着できます。

純正品および承認された製品以外のタイヤやホイール、アクセサリーを使用しないでください。車両操縦性や騒音、排出

ガス、燃料消費などに悪影響を与えるおそれがあります。また、乗車人数や荷物が増えた場合などには、タイヤやホイールが車体やサスペンションに接触するおそれがあり、タイヤや車両の損傷につながるおそれがあります。

純正品および承認された製品以外のタイヤやホイール、アクセサリーを装着した場合は、損傷が生じても保証の対象外になります。

タイヤやホイール、指定された組み合わせなどに関して、詳しくはメルセデス・ベンツ指定サービス工場にお尋ねください。

! 再生タイヤは、元の損傷状態を確認することが難しいため、使用をお勧めできません。 再生タイヤを装着した場合、安全性の保証はできなくなります。 中古タイヤは、過去の使用状況が確認できない場合は装着しないでください。

! 大径ホイール：特定のホイールサイズの断面幅が減少すると、悪路での乗り心地が低下します。 走行快適性および安定性が低下し、さらに路面の障害物を乗り越える際にホイールやタイヤへの損傷リスクが高くなります。

下記のタイヤ一覧表にある略号

- BA：前後の車輪
- FA：前輪
- RA：後輪

さまざまな使用条件での推奨タイヤ空気圧の表は、車両の燃料給油フラップの内側にあります。 タイヤ空気圧に関してのさらなる情報は (▷ 392 ページ)をご覧ください。 定期的に、かつタイヤが冷えているときのみにタイヤ空気圧を点検してください。

タイヤとホイールは、以下の点を確認して正しく装着してください。

- 左右には必ず同サイズのタイヤを装着してください。
- サマータイヤ、ウィンタータイヤ、ランフラットタイヤ（MOExtended）など、異なる種類のタイヤを同時に装着しないでください。

MOExtendedタイヤ装備車には、出荷時はタイヤフィットキットは装備されていません。 ウィンタータイヤなど、ランフラットタイヤ以外のタイヤを装着するときは、タイヤフィットを追加で装備することをお勧めします。 タイヤフィットはメルセデス・ベンツ指定サービス工場でお買い求めください。

i すべてのホイール/タイヤの組み合わせが、すべての国の工場で装着できるわけではありません。

タイヤ	

GL 550 4MATIC BlueEFFICIENCY

サマータイヤ

R 19

タイヤ	軽量アルミホイール
BA : 275/55 R 19 111 V[1]	BA : 8.5 J x 19 H2 ET 62

R 20

タイヤ	軽量アルミホイール
BA : 275/50 R 20 109 W[1]	BA : 8.5 J x 20 H2 ET 62

オールシーズンタイヤ

R 20

タイヤ	軽量アルミホイール
BA : 275/50 R20 109 H M+SMOExtended[1, 2]	BA : 8.5 J x 20 H2 ET 62

R 21

タイヤ	軽量アルミホイール
BA : 295/40 R 21 111 W XL M+S[1]	BA : 10.0 J x 21 H2 ET 46

全地形タイヤ

R 19

タイヤ	軽量アルミホイール
BA : 275/55 R 19 111 H M+S[1]	BA : 8.5 J x 19 H2 ET 62

ウィンタータイヤ

R 19

タイヤ	軽量アルミホイール
BA : 265/55 R 19 109 H M+S	BA : 8.5 J x 19 H2 ET 62

1 スノーチェーンの使用は許可されていません。 "スノーチェーン"の指示を遵守してください。
2 MOExtended タイヤ (ランフラット特性を持つタイヤ) は作動しているタイヤ空気圧警告システムとの組み合わせのみ。

GL 63 AMG

サマータイヤ
R 21

タイヤ	軽量アルミホイール
BA： 295/40 ZR 21 111 Y XL[1]	BA：10.0 J x 21 H2 ET 46

ウィンタータイヤ
R 20

タイヤ	軽量アルミホイール
BA： 275/45 R 20 110 V XL M+S	BA：9.0 J x 20 H2 ET 41

応急用スペアタイヤ

重要な安全上の注意

⚠ 警告

スペアタイヤまたは応急用スペアタイヤと、交換した車輪のホイールまたはタイヤのサイズやタイヤの種類は異なることがあります。スペアタイヤ/応急用スペアタイヤを装着すると、走行特性が著しく損なわれることがあります。事故の危険性があります。

危険な状態を避けるために

- 適宜運転スタイルを合わせ、慎重に運転してください
- サイズの異なる応急用スペアタイヤまたはスペアタイヤを1つ以上装着しないでください
- サイズの異なる応急用スペアタイヤまたはスペアタイヤは一時的にのみ使用してください
- ESP® をオフにしないでください
- サイズの異なる応急用スペアタイヤまたはスペアタイヤは最寄りのメルセデス・ベンツ指定サービス工場で交換してください。ホイールとタイヤのサイズがタイヤの種類とともに正しいことに注意してください。

! "ミニスペア"応急用スペアタイヤ 装備のAMG車： "ミニスペア"応急用スペアタイヤは**リアアクスル** にのみ使用してください。"ミニスペア"応急用スペアタイヤ をフロントアクスルに装着すると、ブレーキシステムが損傷するおそれがあります。

フロントアクスルのタイヤに不具合がある場合は、まずリアアクスルの損傷していない車輪を"ミニスペア"応急用スペアタイヤ と交換しなければなりません。フロントアクスルの不具合のある車輪はリアアクスルの損傷していない車輪と交換することができます。

"ミニスペア"応急用スペアタイヤ の使用説明ラベルを遵守してください。

サイズの異なる応急用スペアタイヤまたはスペアタイヤを使用するときは、最高速度 80 km/h を超えないようにしてください。

スノーチェーンは応急用スペアタイヤには装着しないでください。

1 スノーチェーンの使用は許可されていません。 "スノーチェーン"の指示を遵守してください。

全体的な注意事項

応急用スペアタイヤの装着については"タイヤの取り付け" (▷ 396 ページ)に記載されています。

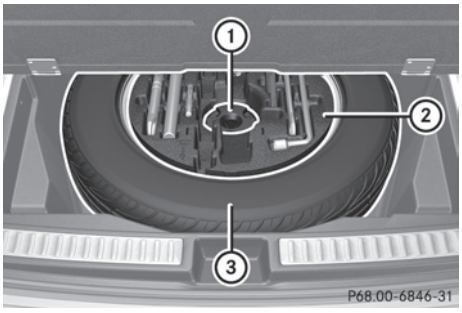
長距離走行の前は特に、定期的に応急用スペアタイヤの空気圧を点検し、必要であれば空気圧を調整してください(▷ 392 ページ)。 適切な値はホイールまたは"サービスデータ" (▷ 406 ページ) をご覧ください。

ただし、応急用スペアタイヤは回転方向とは逆に装着することができます。 応急用スペアタイヤに記載されている使用制限時間と制限速度を守って正しく使用してください。

摩耗の程度に関わらず、6年以上経過したタイヤは新品と交換してください。 これは応急用スペアタイヤにも該当します。

ⓘ 応急用スペアタイヤを装着して走行するときは、タイヤ空気圧警告システムは正常に作動しません。 パンクしたタイヤを新品と交換してから、タイヤ空気圧警告システムを再起動してください。

応急用スペアタイヤの取り外し



応急用スペアタイヤ（例：ロック可能なラゲッジルームフロア非装備車）

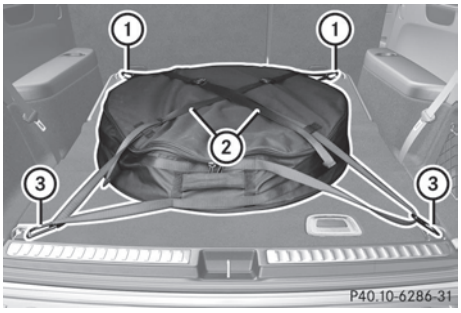
① 応急用スペアタイヤ固定具

② 収納トレイ

③ "ミニスペア"応急用スペアタイヤ

"ミニスペア"応急用スペアタイヤはラゲッジルームフロア下の収納スペースにあります。

- ラゲッジルームフロアボードを引き上げます。(▷ 337 ページ)
- **ロック可能なラゲッジルームフロア装備車：** 収納トレイを取り外します。
- ベルクロファスナーを外します(▷ 367 ページ)。
- 停止表示板とジャッキを取り外します。
- 応急用スペアタイヤ固定具 ① を反時計回りにまわし、取り外します。
- 収納スペース ② を取り外します。
- "ミニスペア"応急用スペアタイヤを取り外します ③。



Bang & Olufsenサウンドシステム装備車では、"ミニスペア" 応急用スペアタイヤはバッグの中に保管されています。バッグはトラックの固定用リングに固定されています。

"ミニスペア"応急用スペアタイヤを収納するには、3列目リアシートを格納しなければなりません(▷ 109 ページ)。

- **応急用スペアタイヤを取り外す：** テールゲートを開きます。
- 両側のテンショニングストラップ ② を緩めます。
- テンショニングストラップ ② の固定用スプリングフック ① および ③ を固定用リングから外します。
- "ミニスペア"応急用スペアタイヤのバッグを取り外します。
- バッグを開き、"ミニスペア"応急用スペアタイヤを取り外します。
- **応急用スペアタイヤを収納する：** "ミニスペア" 応急用スペアタイヤをバッグに入れ、バッグを閉じます。
- "ミニスペア" 応急用スペアタイヤのバッグをトラックに置きます。
- テンショニングストラップ ② の固定用スプリングフック ① および ③ を固定用リングに掛けます。
- 両側のテンショニングストラップ ② を締めます。

車輪の交換と取り付けに関するさらなる情報は、(▷ 396 ページ) をご覧ください。

サービスデータ

"ミニスペア"応急用スペアタイヤ

タイヤ	軽量アルミホイール
T 165/90 R19 119 M タイヤ空気圧：420 kPa(4.2 bar/61 psi)	4.5 B x 19 H2 ET 40

役に立つ情報 408
メルセデス・ベンツ純正部品 408
車両の電子制御部品 408
ビークルプレート 410
サービスプロダクトおよび容量 .. 411
車両データ 416
24 GHzレーダーセンサーシステム 418

役に立つ情報

ⓘ この取扱説明書は発行時点で利用可能な、車両のすべてのモデルやシリーズ、オプション装備を記載しています。国別仕様の違いがあることもあります。お客様の車両には記載されている全ての機能が装備されていないことがあることにご留意ください。これは安全に関するシステムや機能の場合もあります。

ⓘ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で情報をご覧ください。(▷ 23 ページ)

メルセデス・ベンツ純正部品

⚠ 警告

承認されていない部品やタイヤおよびホイールまたは安全関連装備を使用すると、車両の走行安全性が損なわれるおそれがあります。

ブレーキシステムなどの安全装置が誤作動するおそれがあります。車両のコントロールを失い、事故の原因になります。

このため、メルセデス・ベンツは、純正部品または同等の品質を保証する部品の使用をお勧めします。タイヤやホイール、アクセサリーなどは必ず、車両に明確に適合する製品だけを使用してください。

環境

Daimler AGでは、新品同様の品質を持つ、リサイクルしたアッセンブリーやパーツも供給しています。新品と同様の保証が適用されます。

❗ 以下の部位の周辺には、エアバッグやシートベルトテンショナー、また乗員保護装置のコントロールユニットやセンサー類が取り付けられています。

- ドア
- ドアピラー
- サイドシル
- シート
- ダッシュボード
- メーターパネル
- センターコンソール

これらの部位にオーディオなどのアクセサリーを取り付けないでください。 修理や板金作業を行なわないでください。 乗員保護装置の作動効果が損なわれるおそれがあります。

アクセサリーを装着するときは、メルセデス・ベンツ指定サービス工場に作業を依頼してください。

メルセデス・ベンツでは、純正部品や変換部品、アクセサリーに対して、それらの信頼性や安全性、適合性が明確に車両に適しているかをテストしています。 メルセデス・ベンツでは、継続的に市場調査を行なっていますが、純正でない部品の使用を認めていません。 個別または公式に承認された部品を使用した場合は、メルセデス・ベンツは一切の責任を負いません。

メルセデス・ベンツ純正部品を注文するときは、常に車台番号（VIN）(▷ 410 ページ) およびエンジン番号(▷ 410 ページ) を確認する必要があります。

車両の電子制御部品

電子制御部品の不正改造

⚠ 警告

電子制御部品およびその関連部品に関わる整備作業は、必ずメルセデス・ベンツ指定サービス工場で行なってください。不適切な作業を行なうと、車両の走行安全性が損なわれるおそれがあります。

❗ コントロールユニット、センサー、コネクターケーブルなど、電子制御部品およびその関連部品に関わる点検整備や修理などの作業は、必ずメルセデス・ベンツ指定サービス工場に依頼してくださ

い。 車両の構成部品が通常より早く摩耗したり、車両の使用許可が無効になることがあります。

無線機および携帯電話の改造(RF送信機)

⚠ 警告

無線機を不適切に装着すると、車両の電子制御部品が誤作動する原因になり、車両および乗員の安全性が損なわれるおそれがあります。

市販の無線機を装着する場合は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場に作業をご依頼ください。

⚠ 警告

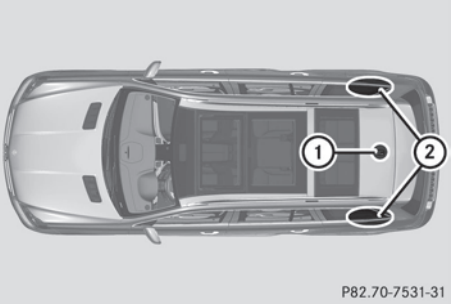
無線機を不適切に装着すると、車内に放射される電磁波が増大するおそれがあります。外部アンテナを使用する場合は、電磁波が及ぼす健康危害に関する科学的分析を考慮する必要があります。

市販の無線機を装着する場合は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場に作業をご依頼ください。

! 無線機の装着および取り扱い時に、取扱説明書にしたがわなかった場合は、機器の使用許可が無効になるおそれがあります。

特に、以下の条件にしたがう必要があります。

- 認可された周波数帯のみを利用すること
- この周波数帯における最大許容出力にしたがうこと
- 認可されたアンテナ装着位置にしたがうこと



承認されたアンテナの位置

① ルーフ後方

② リアフェンダー

i リアウイングでは、アンテナを道路中央に最も近い車両側面に配置することをお勧めします。

RF (無線周波数) 送信機を装着するときは、技術仕様書 ISO/TS 21609 (道路車両 – "購入後の無線周波数の送信機装備装着のためのEMCガイドライン") を使用してください。増設部品の法的要件を遵守してください。

車両に無線機用の取り付け具が装備されている場合は、基本配線用の電源またはアンテナコネクタを使用してください。取り付けるときは、必ず製品に添付されている取扱説明書に従ってください。

周波数バンド、最大許容出力、またはアンテナ装着位置に関する条件を満たしていない場合は、必ずメルセデス・ベンツ日本株式会社の承認を得る必要があります。

アンテナ基底部の最大送信出力 (PEAK) は、以下の値を超えてはいけません。

周波数バンド	最大送信出力
短波 (f <54 MHz)	約100 W
4 m周波	約30 W
2 m周波	約50 W
基幹無線/Tetra	約35 W

周波数バンド	最大送信出力
70 cm短波	約35 W
GSM/DCS/PCS 850/900/1800/1900	約10 W
UMTS/LTE	約10 W

以下の機器は制限なく車内で使用できます。

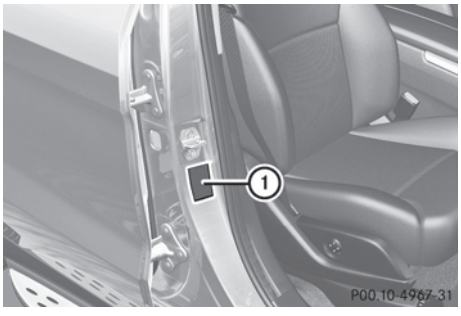
- 最大送信出力が約100 mW以下の無線機
- 携帯電話 (GSM/DCS/PCS/UMTS/LTE)

以下の周波数バンドでは車外にアンテナを配置するときの制限はありません。

- 基幹無線/Tetra
- 70 cm短波
- GSM/DCS/PCS
- UMTS/LTE

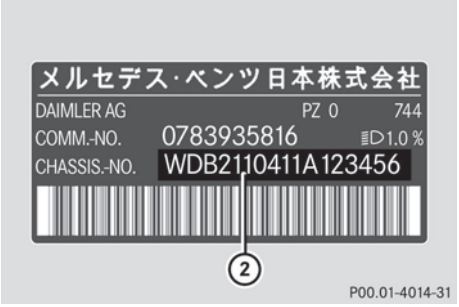
ビークルプレート

ビークルプレートの車台番号



例：ビークルプレート（右ハンドル車）

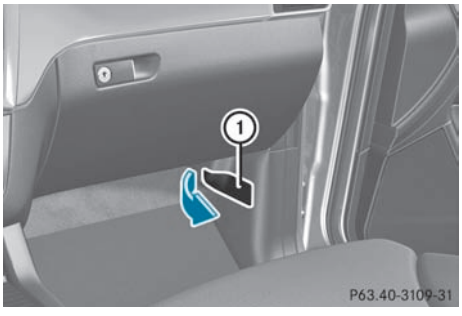
▶ 運転席側のドアを開きます。
ビークルプレート ① が確認できます。



例： ビークルプレート
② VIN

ℹ 車両の識別プレートに記されたデータは一例です。 このデータは車両ごとに異なりますので、ここに示すデータとは異なることがあります。 お客様の車両に該当するデータは、車両の識別プレートで確認できます。

VIN



▶ フロント右側のドアを開きます。
▶ カバー ① を矢印の方向に開いて取り外します。
車台番号が確認できます。

車台番号はビークルプレートでも確認できます。 (▷ 410 ページ)

エンジン番号

エンジン番号は、エンジンブロックに打刻されています。 詳細はメルセデス・ベ

ンツ指定サービス工場にお尋ねください。

サービスプロダクトおよび容量

重要な安全上の注意

⚠ 警告

燃料および油脂の取り扱い、保管、廃棄については、負傷するおそれがあるので、法令を遵守して取り扱ってください。

燃料および油脂は子供の手の届かない場所に保管してください。

燃料および油脂が目や粘膜、傷に触れないようにしてください。万一目に入ったり、皮膚に付着した場合は、直ぐに水道水で洗い流し、医師の診断を受けてください。

環境

燃料および油脂は、環境汚染を配慮して、廃棄処分してください。

サービスプロダクトには以下のものが含まれます。

- 燃料
- 潤滑剤 (エンジンオイル、オートマチックトランスミッションオイルなど)
- 冷却水
- ブレーキ液
- ウォッシャー液
- エアコンディショナーの冷媒

構成部品およびサービスプロダクトは適合していなければなりません。Daimler AGまたはメルセデス・ベンツ日本株式会社の指定品のみを使用することをお勧めします。 これらの製品は、本書の該当するセクションに記載されています。

Daimler AGまたはメルセデス・ベンツ日本株式会社の指定するサービスプロダクトは、容器に以下のようなマークが付いています。

- MB Freigabe (MB 純正) (MB Freigabe 229.51など)
- MB Approval (MB 純正) (MB Approval 229.51など)

これ以外のマークや推奨は、MBシート番号(MB 229.5など)に準拠した品質レベルまたは仕様を示しています。 これらは、メルセデス・ベンツによる承認は必要としません。

詳しい情報はメルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

燃料

重要な安全上の注意

⚠ 警告

燃料は可燃性の高いものです。 燃料を不適切に扱った場合は、火災および爆発の危険性があります。

火気、裸火、火花の発生および喫煙は避けてください。給油の前にはエンジン、当てはまる場合は補助ヒーターを停止します。

⚠ 警告

燃料は健康に有毒で危険です。けがの危険性があります。

燃料は決して飲まないこと、また目や衣服に付着させないでください。燃料の気体を吸い込まないでください。燃料は子供から離してください。

お客様または他の方が燃料に触れた場合は、以下に従ってください。

- 石鹸および水道水を使用して、ただちに肌から燃料を洗い流してください。
- 燃料が目に入った場合は、ただちに清潔な水で十分にすすいでください。ただちに医師の診察を受けてください。

▷▷

- 燃料を飲み込んだ場合は、ただちに医師の診察を受けてください。吐かせないでください。
- 燃料が付着した衣服はただちに替えてください。

燃料タンク容量

車種	全容量
全車種	約 100.0 L

車種	予備タンク容量
GL 550 4MATIC BlueEFFICIENCY	約12.0 L
GL 63 AMG	約 14.0 L

ガソリン

燃料のグレード

! ガソリンエンジン車両に給油するために軽油を使用しないでください。 誤って異なる燃料を給油した場合は、イグニッションをオンにしないでください。 さもないと、燃料が燃料システムに入ります。 少量の誤った燃料でも、燃料システムやエンジンの損傷につながるおそれがあります。 修理費用が高くなります。 メルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡して、燃料タンクや燃料系統から完全に抜き取ってください。

! 触媒コンバーターの損傷を防ぐために、必ず無鉛プレミアムガソリンを給油してください。

エンジンの作動に問題がある場合は、直ちに点検および修理を受けてください。 余分な未燃焼燃料が触媒コンバーターに流入すると、触媒コンバーターが過熱し火災の原因になります。

! 燃料を給油するときは、最低96 RONの無鉛プレミアムガソリンを使用してください。

指定以外の燃料を給油すると、エンジンの出力が低下したり、エンジンが損傷するおそれがあります。

! 必ず指定の燃料を使用してください。 高濃度アルコール含有燃料などの指定以外の燃料を使用すると、燃料系部品が腐食したり、エンジンを損傷するおそれがあります。

通常、燃料のグレードは給油ポンプに記載されています。 燃料ポンプにラベルが見当たらないときは、ガソリンスタンドのスタッフにおたずねください。

i 推奨燃料が入手できないときに限り、一時的な手段として91 RONの無鉛ガソリンも使用できることがあります。 これにより、エンジンの性能が低下したり、燃料消費が増加することがあります。 フルスロットルでの走行は避けてください。

i 特定の国では入手できる燃料が十分に低い硫黄でないことがあります。 短い走行では特に、燃料が一時的に不快な臭いを発することがあります。 給油の際に硫黄のない燃料 (硫黄含有量約<10 ppm) を使用すると、臭いが減少します。

給油に関する情報 (▷ 176 ページ)

AMG車

! 燃料を給油するときは、最低98 RONの無鉛プレミアムガソリンを使用してください。

指定以外の燃料を給油すると、エンジンの出力が低下したり、エンジンが損傷するおそれがあります。

! 緊急時で指定燃料が入手できないときに限り、91 RON無鉛レギュラーガソリンも使用できます。

その結果燃料消費量が著しく増大し、エンジン出力は著しく低下します。 アクセルをいっぱいに踏み込んで運転するのは避けてください。

91 RONあるいはそれ以下のグレードのガソリン以外の燃料しか入手できない場合は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場でその燃料で走行するために必要な車両の調整を受けてください。

添加剤

! 燃料添加剤とともにエンジンを作動すると、高圧燃料ポンプの磨耗および燃料システム全体の汚染の原因になることがあります。修理費用が高くなります。これには、生成される堆積物除去および防止のための添加剤は含まれません。 ガソリンにはメルセデス・ベンツにより承認された添加物のみを混合してください。 推奨添加剤に関するさらなる情報はメルセデス・ベンツ指定サービス工場で取得できます。

低等級の燃料による主な問題の一つに、燃料燃焼過程の間でのカーボン堆積物の生成があります。 メルセデス・ベンツは、添加剤がある燃料ブランドの使用を推奨します。

添加剤を含まない燃料を長期間使用すると、スラッジが生成されるおそれがあります。 スラッジは主に吸気バルブや燃焼室に付着します。

その結果、次のようなエンジン不調を起こすおそれがあります。

- 始動性能の低下
- アイドリング不良
- エンジン騒音
- ミスファイヤ
- 出力の低下

規定の添加剤を含むガソリンが市販されていない地域では、カーボン堆積物が発生することがあります。 メルセデス・ベンツは、メルセデス・ベンツ車のために承認された添加剤の使用をお勧めします。

一部の国で市販されている燃料の中には、品質の劣るものがあります。 このような燃料を使用すると、エンジン内部にスラッジが生成されるおそれがあります。 その場合は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場にご相談のうえ、純正の添加剤をガソリンに注入してください。 (部品番号 A000989254510) 製品の容器に記載された注意事項と配合率をお守りください。

純正品に関する情報は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。 製品の容器に記載の使用上の注意をお守りください。

純正以外の添加剤を燃料に注入しないでください。 無駄な費用が発生し、エンジンを損傷する原因になります。

燃料消費情報

環境保護に関する注意

CO_2(二酸化炭素)の排出は、地球温暖化の主な原因となります。車両のCO_2排出量は、燃料消費率と直接関係があり、以下の条件によって変化します。

- エンジンの燃焼効率
- 走行スタイル
- 環境の影響や道路状況など、外的な要因

緩やかな運転を心がけ、定期的に点検整備を行なうことにより、CO_2排出量を最小限に抑えることができます。

以下のような状況では、燃料消費量が増加します。

- 外気温が非常に低いとき
- 市街地を走行するとき
- 短距離を走行するとき
- 山道や坂道を走行しているとき

エンジンオイル

全体的な注意事項

エンジンオイルの性質は、エンジンの性能や使用寿命に大きな影響を与えます。広範囲に渡る試験の末、メルセデス・ベンツでは最新の技術基準に適合するエンジンオイルのみを指定しています。

そのため、メルセデス・ベンツ車のエンジンには必ず指定品のエンジンオイルを使用してください。

品質が実証された指定のエンジンオイルに関する詳細は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。 エンジンオイルの交換は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で行なうことをお勧めします。

AMG車には、SAE 0W-40 あるいは SAE 5W-40 エンジンオイルのみを使用してください。

容量

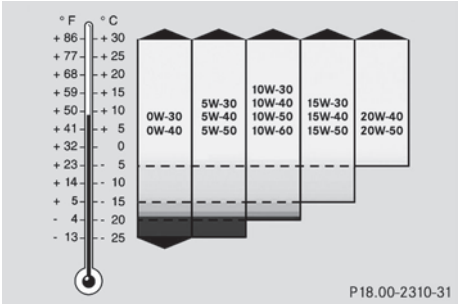
以下の容量は、オイルフィルター分を含むオイル交換時の参考数値です。

車種	交換時の容量
GL 550 4MATIC BlueEFFICIENCY	約8.5 L
GL 63 AMG	外部オイルクーラーあり：約9.5 L

添加剤

❗ エンジンオイルに添加剤を使用しないでください。エンジンを損傷するおそれがあります。

エンジンオイルの粘度



粘度は、液体の流動性を示します。 粘度が高いエンジンオイルはゆっくりと流れます。粘度が低いほど流れる速度が速くなります。

エンジンオイルは、外気温度に応じて適切なSAEグレード（粘度）のものを選択してください。 上の表は、外気温度に適したエンジンオイルのSAEグレードを示しています。 低温の環境では、使用に伴う劣化や煤、添加剤などによりエンジンオイルの特性が著しく損なわれます。 そのため、適切なSAEグレードで指定品のエンジンオイルを使用して、定期的にオイル交換を行なってください。

ブレーキ液

⚠ 警告

ブレーキ液は、使用している間に大気中の湿気を吸収して劣化します。 ブレーキ液が劣化すると、沸点が低下します。

ブレーキ液の沸点が低すぎる場合、長い下り坂や急な下り坂などでブレーキペダルを踏み続けると、ブレーキ液が沸騰して気泡が発生します。 ブレーキ液が劣化しベーパーロックが起こると、ブレーキの性能が損なわれます。

ブレーキ液は、定期的にメルセデス・ベンツ指定サービス工場で交換してください。 ブレーキ液の交換時期は、整備手帳で確認してください。

MB認証331.0に従って、メルセデス・ベンツによって承認されたブレーキ液のみ使用してください。

承認されたブレーキ液に関する情報はメルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

ℹ ブレーキ液はメルセデス・ベンツ指定サービス工場で定期的に交換して下さい。

冷却水

重要な安全上の注意

⚠ 警告

不凍液は可燃性の強い液体です。不凍液を取り扱う場合は、火気や裸火を近づけたり、近くで喫煙しないでください。

不凍液が高温のエンジン部品に付着すると、発火して火傷をするおそれがあります。不凍液をエンジンルームにこぼさないよう注意してください。

❗ 冷却水は、必ず弊社指定の不凍液を混合したものを補給してください。エンジンを損傷するおそれがあります。

冷却水についての詳細は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場にお尋ねください。

❗ たとえ熱帯地域であっても、必ず適切な冷却水を使用してください。

不適切な冷却水を使用すると、エンジン冷却システムの腐食やオーバーヒートを防ぐことができなくなります。

冷却水は水道水および防錆不凍液の混合液です。 冷却水は、以下の効果を発揮します。

- 防錆保護
- 凍結防止
- 沸点の上昇

防錆不凍液を適正な濃度で混合すると、作動時の冷却水の沸点は約 130 ℃ になります。

エンジン冷却システム内の防錆不凍液の濃度は、

- 約50 %以上にしてください。約 - 37 ℃ までエンジン冷却システムが凍結するのを防ぎます。
- 約55 % (約 - 45 ℃ での凍結防止) 以上にすると、冷却能力が低下します。

冷却水が不足している場合は、水道水および防錆不凍液を同量混合した冷却水を補充してください。

冷却水は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場での定期整備時に点検が行なわれます。

ℹ 車両の納車時には、指定の防錆不凍液を適正な濃度で混合した冷却水がリザーブタンクに充填されています。

フロントウインドウウォッシャーおよびヘッドライトウォッシャー

重要な安全上の注意

⚠ 警告

ウインドウウォッシャー液の濃縮液は高い可燃性です。 熱いエンジン部品または排気システムに触れると、発火することがあります。火災およびけがの危険性があります。

ウインドウウォッシャー液の濃縮液が補充口の脇に飛散していないことを確認してください。

❗ 夏季用や冬季用など、ヘッドライトの樹脂製レンズに適したウォッシャー液のみを使用してください。不適切なウォッシャー液を使用すると、ヘッドライトの樹脂製レンズを損傷するおそれがあります。

! 蒸留水や脱イオン水をウォッシャー液リザーブタンクに入れないでください。レベルセンサーを損傷するおそれがあります。

! 夏季用および冬季用の純正ウォッシャー液を混合して使用します。純正品以外のウォッシャー液を使用すると、噴射ノズルが詰まるおそれがあります。

気温が氷点より高いとき

▶ 夏季用のウォッシャー濃縮液および水道水を混ぜて、ウォッシャー液リザーブタンクに補充します。

夏季用のウォッシャー濃縮液および水道水を1：100の割合で混合します。

気温が氷点下のとき

▶ 冬季用のウォッシャー濃縮液および水道水を混合して、ウォッシャー液リザーブタンクに補給します。

外気温度に応じて混合比を調整してください。

- 約- 10 ℃に下がるまで：水道水の量2に対して冬季用ウォッシャー濃縮液の量1を混合します。
- 約- 20 ℃に下がるまで：水道水の量1に対して冬季用ウォッシャー濃縮液の量1を混合します。
- 約- 29 ℃に下がるまで：水道水の量1に対して冬季用ウォッシャー濃縮液の量2を混合します。

i 1 年を通して、夏季用または冬季用などのウォッシャー濃縮液を水道水で薄めたウォッシャー液を使用してください。

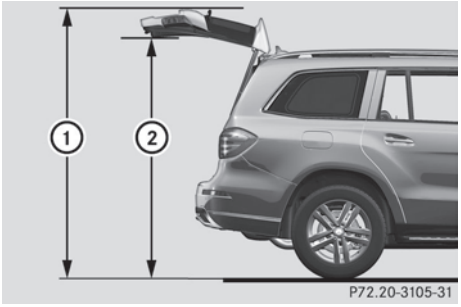
車両データ

全体的な注意事項

記載の車両データについては、以下の点にご注意ください。

- 記載の車高は、以下の条件に応じて異なります。
  - タイヤ
  - 積載条件
  - サスペンションの状態
  - オプション装備品

寸法および重量



	① 開いたときの高さ	② 開いたときの高さ（内側）
GL 550 4MATIC BlueEFFICIENCY	約 2132 mm ～ 2237 mm	約 1934 mm ～ 2039 mm
AMG車	約 2146 mm ～ 2200 mm	1949 mm ～ 2002 mm

ルーフの制限重量	
全車種	
ルーフの制限重量	約100 kg

バッテリー	
全車種	
バッテリー電圧	12 V
バッテリー容量	95 Ah

24 GHzレーダーセンサーシステム

24 GHz レーダーセンサーシステムは、国ごとに個別に認可を得る必要があります。レーダーセンサーシステムの使用が認可されていない国で運転するときは、マルチファンクションディスプレイ (▷ 270 ページ) でシステムを解除する必要があります。

最新の国別概要については、メルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

ナビゲーションシステム装備車： レーダーセンサーシステムは、電波望遠鏡施設に近付くと自動的に解除されます。 マルチファンクションディスプレイにメッセージが表示され、レーダーセンサーシステムが解除されていることを知らせます。(▷ 302 ページ)

以下のシステムが作動中の場合は、自動的に解除されます。

- アクティブブラインドスポットアシスト (▷ 232 ページ)
- BASプラス（ブレーキアシストプラス） (▷ 63 ページ)
- PRE-SAFE® ブレーキ (▷ 71 ページ)

自動的に解除されないときは、マルチファンクションディスプレイ (▷ 270 ページ) で個別にレーダーセンサーシステムを解除する必要があります。

ナビゲーションシステム非装備車およびオーストラリア仕様車： 電波望遠鏡施設に近付いたら、マルチファンクションディスプレイでレーダーセンサーシステムを解除する必要があります。 (▷ 270 ページ)

発行物の詳細

インターネット

メルセデス・ベンツ車やDaimler AGについての詳細情報については、以下のウェブサイトに記載されています。

http://www.mercedes-benz.co.jp

編集オフィス

この取扱説明書に関してお問い合わせやご提案がございましたら、以下のアドレスの技術文献チームまでお気軽にお尋ねください。

Daimler AG, HPC: CAC, Customer Service, 70546 Stuttgart, Deutschland

Daimler AGの書面による許可なく、本書のすべてまたは一部を複写、翻訳または複製することはできません。

編集終了 13.01.2012

HLI0000000716

Order no. 6515 0435 20 Part no. HLI 000 00 00 716 Edition NA 2012-11b